

人体構造

著書

- 1) 水嶋崇一郎 (山田康弘 編) . Q 3 顔と身体について教えてください Q & A で読む縄文時代入門 2024;:10-13.

学術論文[和文]

① その他

- 1) 宮宗秀伸, 高篠智, 星野敬吾, 五十嵐由里子, 小島龍平, 児玉淳, 澤田純明, 鳥海拓, 奈良貴史, 三島弘幸, 三浦真弘, 矢野航, 久保晃祐, TRUONG HUY CONG, MYAGMARDORJ YANJINKHAM, WONGSO MICHEAL, 影山幾男. 第 34 回全国学術集会における人類形態科学研究会初のワークショップ開催の試み. 形態科学, 2024;27(2) : 37-40.
- 2) 佐宗亜衣子, 久保大輔, 水嶋崇一郎, 諏訪元, 設楽博己, 小林圭一. 人骨と共伴遺物. 東京大学総合研究博物館研究報告 : 岩手県大船渡市大洞貝塚出土遺物の研究, 2025;(50) : 201-218.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yousuke Kaifu, Iwan Kurniawan, Soichiro Mizushima, Junmei Sawada, Michael Lague, Ruly Setiawan, Indra Sutisna, Unggul P. Wibowo, Gen Suwa, Reiko T. Kono, Tomohiko Sasaki, Adam Brumm & Gerrit D. van den Bergh. Early evolution of small body size in *Homo floresiensis*. Nature Communications, 2024;15(1) : DOI-10.1038/s41467-024-50649-7.
- 2) Nakamura Kenshin, Kono T. Reiko, Kondo Osamu. Preauricular grooves on Japanese female skeletal remains in Edo as a bioarchaeological indicator in population studies. Anthropological Science, 2025;133(1) : 1-15.

学会発表

① 国内学会

- 1) 皆川真莉母, 中村謙伸, 平野力也, Katherine Hampson, 中村凱, 高木蔵之助, 増山禎之, 山田康弘, 近藤修, 海部陽介. 保美貝塚 1 号集積の再検討ー埋葬時の人骨配置と人骨情報についてー. 第 78 回日本人類学会大会, 2024.
- 2) 中村謙伸, 近藤修, 森菜緒子, 小野有紀, 安達登, 河野礼子, 寺田幸弘. 幾何学的形態測定学を用いた現代人女性骨盤における妊娠出産痕形成要因の検討. 第 78 回日本人類学会大会, 2024.
- 3) 佐宗亜衣子, 水嶋崇一郎, 水野文月. 廃屋墓の多個体埋葬例から考える縄文時代の“家族”. 第 78 回日本人類学会大会, 2024.
- 4) 水嶋崇一郎. 縄文時代人の寿命について考える. 聖マリアンナ医科大学医学会第 86 回学術集会, 2024.
- 5) 海部 陽介, Iwan Kurniawan, 水嶋 崇一郎, 澤田 純明, Michael Lague, Ruly Setiawan, Indra Sutisna, Unggul P. Wibowo, 諏訪 元, 河野 礼子, 佐々木 智彦, Adam Brumm, Gerrit D. van den Bergh. ソア盆地マタメンゲにて発見されたフローレス原人の化石について. 第 78 回日本人類学会大会, 2024.
- 6) 河野礼子, 中村謙伸. 進化史から見た人類の性と生殖. 第 29 回日本生殖内分泌学会学術集会, 2024.

② その他

- 1) 水嶋崇一郎. 人体構造に関する近年の新発見. 第 94 回聖マリアンナ医科大学内科合同勉強会, 2024.
- 2) 水嶋崇一郎. なぜわれわれの教育は学生評価の前に敗北するのか?. 第 107 回 Marianna Research Council, 2024.
- 3) 水嶋崇一郎. あなたの知らない人体の器官ー解剖学的なモノの見方ー. 令和 6 年度聖マリアンナ医科大学公開講座, 2024.

- 4) 大橋充代. 聖マリアンナ医科大学解剖学講座 お仕事紹介. 川崎市立中野島小学校 総合的な学習の時間 ～未来の自分探しの旅～, 2025.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他	2	
学会発表	国内学会	6	
	国際学会		
	その他	4	

機能組織

著書

- 1) 池森敦子、菅谷健、木村健二郎. 尿中 L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) 臨床検査データブック 2025-2026
2025;(1):777-778.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 池森(上條)敦子、木村健二郎. 尿細管マーカーの見方. 臨床検査, 2024;68(4 増大号): 418-422.
- 2) 小幡由美, 井上莊一郎, 池森敦子. 周術期腎障害と腎傷害バイオマーカー. 臨床麻酔, 2025;49(臨時増刊): 299-311.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Mikie Nakabayashi, Jun Tanabe, Yuji Ogura, Masashi Ichinose, Yugo Shibagaki, Atsuko Kamiyo-Ikemori, and Yumie Ono. Correlation of diabetic renal hypoperfusion with microvascular responses of the skeletal muscle: a rat model study using diffuse correlation spectroscopy. Biomedical Optics Express, 2024;15(6): 3900-3913.

学会発表

① 国内学会

- 1) ○井上一步, 中村俊浩, 小倉裕司, 星野誠子, 片山きみえ, 浅野純子, 渡邊詩香, 永井義夫, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 2 型糖尿病における SGLT2 阻害薬 Empagliflozin と習慣的走運動の併用によるサルコペニア抑制効果の検討. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024.
- 2) ○井上 一步, 星野 誠子, 大畑 敬一, 菅谷 健, 木村 健二郎, 池森 敦子. 横紋筋融解症に伴う急性腎障害におけるヒト L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) の腎保護作用の検討. 第 67 回日本腎臓学会学術集会, 2024.
- 3) ○井上 一步, 星野 誠子, 片山 きみえ, 浅野 純子, 大畑 敬一, 菅谷 健, 木村 健二郎, 柴垣 有吾, 池森 敦子. 加齢腎に対する習慣的走運動の効果. 第 67 回日本腎臓学会学術集会, 2024.
- 4) 池森敦子. 慢性腎臓病における尿細管マーカーの臨床的有用性. 第 64 回日本臨床化学学会年次学術集会, 2024.
- 5) 井上一步, 星野誠子, 片山きみえ, 浅野純子, 大畑敬一, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 老化促進モデルマウスを用いた加齢腎に対する習慣的走運動の効果. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 6) 井上 一步, 星野 誠子, 片山 きみえ, 浅野 純子, 赤木 崇将, 大畑 敬一, 菅谷 健, 木村 健二郎, 柴垣 有吾, 池森 敦子. 老化促進モデルマウスを用いた加齢腎に対する習慣的走運動の効果. 第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会, 2025.

② 国際学会

- 1) ©Hiroi J, Nilsen TO. Functional classification of gill ionocytes in Pacific salmonids. International Symposium of Aquatic Animal Physiology 2024, 2024.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		1
	解説又は総説	2	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	6	
	国際学会		1
	その他		

生物学

学会発表

① 国内学会

- 1) ○三輪敬蔵、望月篤、東郷建、黄世捷、松澤瞳、佐野政子、星野紀子、信岡祐彦、伊野美幸. 全教職員向け多職種研修の充実に向けた取組について. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 2) ○望月篤、東郷建、黄世捷、高橋政樹、松本伸行、田嶋ティナ宏子、信岡祐彦、伊野美幸. 改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した新カリキュラム構築への取り組み. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.

② その他

- 1) 東郷建. 遺伝子とは何か. 令和6年度聖マリアンナ医科大学公開講座（秋期）, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	
	国際学会		
	その他	1	

細胞・器官生理

学術論文[和文]

① その他

- 1) 萩原裕子. 痛み行動の性差発現における分界条床核外側部 CRH ニューロンの役割. Medical Science Digest, 2024;50(8) : 37(441)-39(443).

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会		
	国際学会		
	その他		

統合生理

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Cuhadar U, Calzado-Reyes L, Pascual-Caro C, Aberra AS, Ritzau-Jost A, Aggarwal A, Ibata K, Podgorski K, Yuzaki M, Geis C, Hallerman S, Hoppa MB, de Juan-Sanz J. Activity-driven synaptic translocation of LGI1 controls excitatory neurotransmission. Cell Reports, 2024;43(5) : 114186.

学会発表

① 国内学会

- 1) 黒坂光寿. 筋芽細胞融合のメカニズムを紐解く. 第 176 回日本体力医学会関東地方会, 2024.
- 2) 藤原清悦, 船瀬新王, 深山理. 頭蓋冠内面の立体構造によるインピーダンスの差異. 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2024.
- 3) 船曳陸斗, 横田和幸, 船瀬新王, 藤原清悦. 一人称視点迷路課題中の分岐形状の認知形式と経路選択の関係. 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2024.

② 国際学会

- 1) 中嶋竜也, 藤原清悦, 平田豊, 船瀬新王. 9 種類の周波数による点滅視覚刺激の呈示時における金魚の視蓋神経細胞の単一 unit の反応特性と SSVEP の発生メカニズムの検討. 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		1
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会	1	
	その他		

物理学

著書

- 1) 木下順二, 大森理恵, 小林義彦, 庄司善彦, 高須雄一, 野村和泉, 松本みどり. 8章 電気回路, 9章 静電気力と電場 やさしい基礎物理学 2025;(1):154-200.
- 2) 安藤秀俊, 池田浩輔, 石井俊行, 小原美枝, 金児正史, 久保良宏, 高阪将人, 高須雄一, 太刀川祥平, 橋本美彦, 福田博人, 森田大輔, 渡邊耕二. 大学生の理解度調査から見た「理数教育」, 大学1年生対象の統計教育 理数教育の充実に向けて ―理科と数学の関連はどうあるべきか 2025;(1):46-48, 85-96, 222-230, 256-257.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 高須 雄一. 医科大学第1学年のための物理実習と統計教育. 日本科学教育学会年会論文集 48, 2024;48:161-164.

② 総説又は症例解説

- 1) 高須 雄一. 創刊 30 周年特集にあたって. 大学の物理教育, 2024;30(3):117-118.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Hiroki Kusano, Hiroshi Nagaoka, Teruaki Enoto, Naoyuki Yamashita, Yuzuru Karouji, Takeshi Hoshino, Munetaka Ueno, Makoto Hareyama. Sensitivity of leakage neutrons to the abundance and depth distribution of lunar subsurface water. Planetary and Space Science, 2024;251:105968.

学会発表

① 国内学会

- 1) 高須雄一. 医科大学第1学年のための物理実習と統計教育. 日本科学教育学会第48回年会, 2024.
- 2) 辻直希, 榎戸輝揚, 長岡央, 前田涼太, 小俣雄矢, 中山和哉, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 上野宗孝, 尾崎直哉, 中澤知洋, 高橋弘充, 木坂将大, 仏坂健太. MoMoTarO 計画 - ISS での宇宙実証に向けた設計と準備状況. 日本物理学会 第79回年次大会 (2024年), 2024.
- 3) 中山和哉, 辻直希, 榎戸輝揚, 長岡央, 前田涼太, 小俣雄矢, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 上野宗孝, 尾崎直哉, 中澤知洋, 高橋弘充, 木坂将大, 仏坂健太. MoMoTarO 計画—ISS 暴露部でのサイエンス観測の検討. 日本物理学会 第79回年次大会 (2024年), 2024.
- 4) 前田涼太, 榎戸輝揚, 辻直希, 長岡央, 小俣雄矢, 中山和哉, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 岩本ちひろ, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 上野宗孝, 尾崎直哉, 中澤知洋, 高橋弘充, 木坂将大, 仏坂健太. MoMoTarO 計画 - ISS 上でのバックグラウンドの見積もり. 日本物理学会 第79回年次大会 (2024年), 2024.
- 5) 小俣雄矢, 辻直希, 榎戸輝揚, 長岡央, 前田涼太, 中山和哉, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 岩本ちひろ, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 上野宗孝, 尾崎直哉, 中澤知洋, 高橋弘充, 木坂将大, 仏坂健太. MoMoTarO 計画 - 中性子検出能力の評価. 日本物理学会 第79回年次大会 (2024年), 2024.

② 国際学会

- 1) Naoki Tsuji, Teruaki Enoto, Hiroshi Nagaoka, Yo Kato, Kentaro Taniguchi, Makoto Hareyama, Yoshie Otake, Yasuo Wakabayashi, Takaoki Takanashi, Chihiro Iwamoto, Taizo Kobayashi, Taichi Ikenaga, Yuuki Nakano, Yushi Tsukamoto, Hiroki Kusano, Toru Tamagawa, Takeshi Hoshino, Munetaka Ueno, Hiromitsu Takahashi, Kazuhiro Nakazawa, Kenta Hotokezaka, Shota Kisaka, Naoya Ozaki. Moon Moisture Targeting Observatory (MoMoTar0) for water resource exploration and basic science application. SPIE Astronomical Telescopes + Instrumentation, 2024.
- 2) Naoki Tsuji, Teruaki Enoto, Hiroshi Nagaoka, Ryota Maeda, Yo Kato, Kentaro Taniguchi, Makoto Hareyama, Yoshie Otake, Yasuo Wakabayashi, Takaoki Takanashi, Chihiro Iwamoto, Taizo Kobayashi, Taichi Ikenaga, Yuuki Nakano, Yushi Tsukamoto, Hiroki Kusano, Toru Tamagawa, Takeshi Hoshino, Munetaka Ueno, Naoya Ozaki, Kazuhiro Nakazawa, Hiromitsu Takahashi, Shota Kisaka
Kenta Hotokezaka. Moon Moisture Targeting Observatory (MoMoTar0) for water resource exploration and basic science application. COSPAR 2024 45th Scientific Assembly, 2024.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著	1	1
	解説又は総説	1	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	5	
	国際学会		2
	その他		

生化学（分野）

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Arito Mitsusmi, Tsutiya Atsuhiro, Sato Masaaki, Omoteyama Kazuki, Sato Toshiyuki, Motonaga Yusei, Suematsu Naoya, Kurokawa S Manae, Kato Tomohiro.. Role of layilin in regulating mitochondria-mediated apoptosis: a study on B cell lymphoma (BCL)-2 family proteins. BMC Molecular and Cell Biology, 2024;25(1) : 24.
- 2) Sato Masaaki, Nagai Kohei, Sato Toshiyuki, Yoshimoto Ryo, Shibano Yuto, Shibahara Minori, Satokawa Haruka, Anzai Masayuki, Uchida Teisuke, Tsutiya Atsuhiro, Takakuwa Yukiko, Omoteyama Kazuki, Arito Mitsumi, Suematsu Naoya, Ooka Seido, Kawahata Kimito, Kato Tomohiro, Kurokawa S Manae.. Aberrant oxidative modifications of neutrophil myeloperoxidase in anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. Journal of Proteomics, 2025;315 : 105412.

学会発表

① 国際学会

- 1) Kurokawa Manae S, Sato Masaaki, Nagai Kohei, Sato Toshiyuki, Uchida Teisuke, Tsutiya Atsuhiro, Takakuwa Yukiko, Arito Mitsumi, Omoteyama Kazuki, Suematsu Naoya, Ooka Seido, Kawahata Kimito, Kato Tomohiro.. Aberrant oxidation of neutrophil myeloperoxidase in ANCA-associated vasculitis possibly relates to production of MPO-ANCA. 21st International Vasculitis Workshop, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会		
	国際学会		1
	その他		

化 学

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Arito Mitsusmi, Tsutiya Atsuhiro, Sato Masaaki, Omoteyama Kazuki, Sato Toshiyuki, Motonaga Yusei, Suematsu Naoya, Kurokawa S Manae, Kato Tomohiro.. Role of layilin in regulating mitochondria-mediated apoptosis: a study on B cell lymphoma (BCL)-2 family proteins. BMC Molecular and Cell Biology, 2024;25(1) : 24.
- 2) Sato Masaaki, Nagai Kohei, Sato Toshiyuki, Yoshimoto Ryo, Shibano Yuto, Shibahara Minoru, Satokawa Haruka, Anzai Masayuki, Uchida Teisuke, Tsutiya Atsuhiro, Takakuwa Yukiko, Omoteyama Kazuki, Arito Mitsumi, Suematsu Naoya, Ooka Seido, Kawahata Kimito, Kato Tomohiro, Kurokawa S Manae.. Aberrant oxidative modifications of neutrophil myeloperoxidase in anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. Journal of Proteomics, 2025;315 : 105412.

学会発表

① 国際学会

- 1) Kurokawa Manae S, Sato Masaaki, Nagai Kohei, Sato Toshiyuki, Uchida Teisuke, Tsutiya Atsuhiro, Takakuwa Yukiko, Arito Mitsumi, Omoteyama Kazuki, Suematsu Naoya, Ooka Seido, Kawahata Kimito, Kato Tomohiro.. Aberrant oxidation of neutrophil myeloperoxidase in ANCA-associated vasculitis possibly relates to production of MPO-ANCA. 21st International Vasculitis Workshop, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会		
	国際学会		1
	その他		

微生物学

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 坂上 宏, 斎田 圭子, 三間 修, 越川 拓郎, 浅井 大輔, 竹村 弘, 金本 大成. 斎田イヌトウキ® (日本山人参) の瞬間的 HIV 不活化作用. *New Food Industry*, 2024;66(12) : 747-750.
- 2) 坂上 宏, 越川 拓郎, 浅井 大輔, 竹村 弘, 金本 大成. 五葉松松かさ煎じ液の瞬間的 HIV 不活化作用と抗老化作用. *New Food Industry*, 2025;67(2) : 76-82.
- 3) 魚田 慎, 坂上 宏, 越川 拓郎, 浅井 大輔, 竹村 弘, 金本 大成, 吉原 正晶. 松の実の殻エキスの瞬間的 HIV 不活化作用. *New Food Industry*, 2025;67(3) : 152-158.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Masahiro Abe, Yuki Kinjo, Takuro Koshikawa, Yoshitsugu Miyazaki.. Basic Research on *Candida* Species: Disease Mechanism, Virulence, and Relationship with Environmental Factors. *Medical Mycology Journal*, 2024;65(3) : 67-74.
- 2) Tomonori Takano, Yoshiko Nakatani, Akihiro Nagai, Natsuki Izumoto, Yuta Ono, Atsushi Inoue, Hiromu Takemura, Hiroyuki Kunishima.. Analysis of COVID-19 nosocomial clusters in an Omicron strain epidemic: importance of patient education on infection control measures. *Infection Prevention in Practice*, 2024;6(4) : 100410-100413.
- 3) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Ishibashi Yuki, Kawahata Kimito, Kunishima Hiroyuki, Tsuchida Tomoya, Takemura Hiromu, Minoura Ayu, Takita Mumon, Fujitani Shigeki. 90-Day outcomes in patients with severe COVID-19 pneumonia treated with invasive mechanical ventilation. *Journal of Infection Chemotherapy*, 2025;31(2) : 102529.

学会発表

① 国内学会

- 1) 越川 拓郎, 阿部 雅広, 名木 稔, 篠原 孝幸, 定本 聡太, 小泉 亜未, 竹村 弘, 宮崎 義継. 酸素濃度および糖濃度が *Candida* 属に与える影響. 第 43 回関東医真菌懇話会, 2024.
- 2) 越川 拓郎, 大神田 敬, 竹村 弘. *Trichophyton mentagrophytes* およびテルビナフィン低感受性遺伝子の検出. 第 98 回日本感染症学会学術講演会・第 72 回日本化学療法学会総会合同学会, 2024.
- 3) 竹村 弘, 越川 拓郎, 大神田 敬, 高野 知憲, 國島 広之. 抗菌薬刺激でバイオフィルムを過剰産生する大腸菌変異株の分離とその機序. 第 98 回日本感染症学会学術講演会・第 72 回日本化学療法学会総会合同学会, 2024.
- 4) 永井 彰大, 中谷 佳子, 伊豆元 なつき, 小野 裕太, 高野 知憲, 國島 広之, 竹村 弘. 動物介在療法における感染制御部の支援. 第 39 回日本環境感染学会総会, 2024.
- 5) 竹村 弘, 長島 梧郎. 川崎市の地域連携における多施設 JANIS 還元情報分析の試み(第 3 報). 第 39 回日本環境感染学会総会, 2024.
- 6) 奥脇瑠根, 加納麻弓子, 中川朋子, 長坂智裕, 中村祐太, 小柳壮史, 横田健一, 竹村弘, 曾根正勝. Hypervirulent *Klebsiella pneumoniae* (hvKP) による肝膿瘍・内因性眼内炎を来した 2 型糖尿病の 1 例. 第 698 回日本内科学会関東地方会, 2024.

- 7) 大神田 敬, 越川 拓郎, 竹村 弘. カルバペネマーゼ産生肺炎桿菌に対するミノサイクリンとピアペネム併用の可能性. 第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 2024.
- 8) 竹村 弘, 越川拓郎, 大神田敬, 高野知憲, 國島広之, 賀来満夫. パイオフィルム中で抗菌薬により伸長化した大腸菌は生きている. 第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 2024.
- 9) 林 桃花, 浅井 大輔, 大神田 敬, 竹村 弘, 金本 大成, 藤生 朱音, 千阪 太聖, 中島 二如, 梶川 瑞穂. 細菌の分泌型プロテアーゼに応じた徐放性製剤の開発. 第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 2024.
- 10) 篠原 孝幸, 和田 章, 阿部 雅広, 大谷 天人, 小泉 亜未, 老木 紗予子, 越川 拓郎, 宮崎 義継. 新規クラス抗真菌薬の臨床開発を目指した金属捕捉性化合物の研究. 第68回日本医真菌学会総会・学術集会, 2024.
- 11) 越川 拓郎, 大神田 敬, 竹村 弘. HRM 解析を利用したテルビナフィン低感受性株検出法の臨床応用. 第92回神奈川県感染症医学会, 2024.
- 12) 廣富匡志, 淀谷雄亮, 池田史朗, 丸山絢, 細田智弘, 坂本光男, 中島由紀子, 長島梧郎, 國島広之, 竹村弘, 三崎貴子. 川崎市における過粘稠性肺炎桿菌(hvKP)感染症の発生状況と肝臓瘍の発症にかかわるリスク因子に関する研究. 第92回神奈川県感染症医学会, 2024.
- 13) 大神田 敬, 中島 二如, 大柳 忠智, 越川 拓郎, 竹村 弘. 当院で分離されたカルバペネム耐性菌のセフィデロコル感受性. 第92回神奈川県感染症医学会, 2024.
- 14) 中谷 佳子, 高野 知憲, 永井 彰大, 伊豆元 なつき, 井上 篤, 小野 裕太, 國島 広之, 竹村 弘. 動物介在療法を安全に実施するために感染制御部が支援した実際. 第92回神奈川県感染症医学会, 2024.
- 15) 高野 知憲, 相葉 裕幸, 大柳 忠智, 永田 恵理, 黒沢 未希, 竹内 萌, 小野 裕太, 賀来 満夫, 竹村 弘, 國島 広之. *Mycobacterium colombiense*による腋窩リンパ節炎を生じたT細胞性リンパ腫患者の一例. 第36回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2025.

② その他

- 1) 竹村弘. 病院内感染対策上重要な感染症とその対策—with コロナ時代の COVID-19 対策を中心に—. 第86回聖マリアンナ医科大学医学会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	3	3
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	15	
	国際学会		
	その他	1	

薬理学

著書

- 1) 木田圭亮. 序文
II 心肺運動負荷試験の結果の活用
A. 各種パラメータの見方・評価法
1 9 パネルとは？

B. 運動処方
1 トレーニングの原則
2 運動強度、時間、頻度
3 運動の種類と注意点 世界一わかりやすい心肺運動負荷試験 2024;:90-91-115-136.
- 2) 宮原大輔, 木田圭亮. 2 章 診断・評価の歩き方
2 慢性期の診断・評価の歩き方 心不全診療の歩き方 2025;:32-34.

学術論文[和文]

- ① 総説又は症例解説
1) 木田圭亮, 吉田俊哉, 宮原大輔. 【高齢者心不全治療のアップデート】高齢者心不全と栄養. 日本老年医学会雑誌, 2024;61(2):134-138.
2) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【腫瘍循環器学-新しい学際領域の最新知見-】外来診療, がんサバイバーシップ 腫瘍循環器リハビリテーション. 日本臨床, 2024;82(増刊2):442-448.
3) 木田圭亮. 病態・治療を押さえてケアの根拠に自信をプラス！
Update！循環器の病気図鑑
7 章 心膜疾患
1. 心膜炎
2. 心膜液貯留・新タンポナーデ
3. 収縮性心膜炎. ハートナーシング 2024 年夏季増刊, 2024;(502):146-158.
4) 木田圭亮, 吉田俊哉, 宮原大輔, 明石嘉浩. 循環器病予防総説(シリーズ 43) 記述疫学編 わが国における心不全の疫学. 日本循環器病予防学会誌, 2024;59(3):198-208.
5) 伊藤伸悟, 木田圭亮. 【いま身につけたい CKD 患者を診るチカラ腎機能を診るチカラ 病態評価、薬剤選択、合併症管理、腎代替療法など身近な症例で学ぶ 31 テーマ】(第 3 章)CKD 患者を救急外来で診るときに知っておきたいこと CKD 患者のトロポニン上昇. レジデントノート, 2024;26(14):2535-2542.
6) 笠川彰, 木田圭亮. 【不整脈管理 Q & A ー研修医からの質問 110ー】薬物療法 徐脈性不整脈. 救急・集中治療, 2025;36(5):941-947.
7) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【がん学際領域とリハビリテーション医学・医療-多学際領域との協働で奏でる臨床腫瘍学の未来】Cardio-Oncology Rehabilitation(腫瘍循環器リハビリテーション). Journal of Clinical Rehabilitation, 2025;34(2):141-147.
8) 木田圭亮. たこつぼ症候群. 日本医事新報, 2025;5264:44-45.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Okuno Taishi, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko, Kuwata Shingo, Ishibashi Yuki, Sato Yukio, Koga Masashi, Okuyama Kazuaki, Suzuki Norio, Kida Keisuke, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro J. Impact of the MitraClip G4 system on routine practice and outcomes in patients with secondary mitral regurgitation. *Circulation Journal*, 2024;88(4) : 531-538.
- 2) Manaka Katsunori, Sato Junichiro, Hikima Yusuke, Horikoshi Hirofumi, Taguchi Maho, Morita Akimichi, Suga Hiraku, Boki Hikari, Fujimura Taku, Hirai Yoji, Shimauchi Takatoshi, Tateishi Chiharu, Kiyohara Eiji, Muto Ikko, Nakajima Hideki, Abe Riichiro, Fujii Kazuyasu, Nishigori Chikako, Nakano Eiji, Yonekura Kentaro, Funakoshi Takeru, Amono Masahiro, Miyagaki Tomomitsu, Yamashita Reiko, Sugaya Makoto, Hamada Toshihisa, Nangaku Masaomi, Iiri Taroh, Makita Noriko. Bexarotene-induced hypothyroidism and dyslipidemia: a nation-wide study. *Endocr J.*, 2024;71(8) : 777-787.
- 3) Matsumoto Shingo, John J V McMurray, Nasu Takahito, Ishii Shunsuke, Kagiya Nobuyuki, Kida Keisuke, Fujimoto Wataru, Kikuchi Atsushi, Ijichi Takeshi, Shibata Tatsuhiko, Ikeda Takanori, Kanaoka Koshiro. Relevant adverse events and drug discontinuation of sacubitril/valsartan in a real-world Japanese cohort: REVIEW-HF registry. *J Cardiol*, 2024;84(2) : 133-140.
- 4) Kashiwakura Daisaku, Hiyama Akiko, Muramatsu Masumi, Hinotsu Atsuko, Takeda Michiko, Suzuki Norio, Akiyama Sachie, Kurihara Sayuri, Kida Keisuke. A Self-Administered Eating Behavior Scale for Patients With Heart Failure Living at Home: Protocol for a Mixed Methods Scale Development Study. *JMIR Res Protoc*, 2024;13 : e60719.
- 5) Kanaoka Koshiro, Nasu Takahito, Kikuchi Atsushi, Ijichi Takeshi, Shibata Tatsuhiko, Kida Keisuke, Kagiya Nobuyuki, Fujimoto Wataru, Ishii Shunsuke, Iwanaga Yoshitaka, Miyamoto Yoshihiro, Matsumoto Shingo. Risk stratification by renal function and NYHA class in patients with hypotension initiated on sacubitril/valsartan: a retrospective cohort study from 17 centres in Japan. *Open Heart*, 2024;11(2) : e002764.
- 6) Tanaka Atsushi, Kida Keisuke, Matsue Yuya, Imai Takumi, Suwa Satoru, Taguchi Isao, Hisauchi Itaru, Teragawa Hiroki, Yazaki Yoshiyuki, Moroi Masao, Ohashi Koichi, Nagatomo Daisuke, Kubota Toru, Ijichi Takeshi, Ikari Yuji, Yonezu Keisuke, Takahashi Naohiko, Toyoda Shigeru, Toshida Tsutomu, Suzuki Hiroshi, Minamino Tohru, Nogi Kazutaka, Shiina Kazuki, Horiuchi Yu, Tanabe Kengo, Hachinohe Daisuke, Kiuchi Shunsuke, Kusunose Kenya, Shimabukuro Michio, Node Koichi. In-hospital initiation of angiotensin receptor-neprilysin inhibition in acute heart failure: the PREMIER trial. *Eur Heart J*, 2024;45(42) : 4482-4493.
- 7) Doi Shunichi, Kida Keisuke, Nasu Takahito, Ishii Shunsuke, Kagiya Nobuyuki, Fujimoto Wataru, Kikuchi Atsushi, Ijichi Takeshi, Shibata Tatsuhiko, Kanaoka Koshiro, Matsumoto Shingo, Akashi Yoshihiro J. Uptitration of sacubitril/valsartan and outcomes in patients with heart failure - Insight from the REVIEW-HF registry. *Circulation Journal*, 2024;89(1) : 93-100.

- 8) Clara Saldarriaga, Sydney Stephanie Goldfeder de Gracia, Maria Isabel Palacio Mejia, Anastasia Shchendrygina, Kida Keisuke, Charles Fauvel, Marta Zaleska-Kociecka, Massimo Mapelli, Hafsteinn Einarsson, Federica Guidetti , Gina Gonzalez Robledo, Ivan Milinkovic, Guillermina Esperon, Alberto Tejero, Anja Zupan Meznar, Yasmin Rustamova, Julie Vishram-Nielsen, Dania Mohty, Shelley Zieroth, Anders Barasa, Inga Jóna Ingimarsdóttir, Han Naung Tun, Novi Tham, Rolland Rakotonoel, Giuseppe M C Rosano, Frank Ruschitzka, Nathan Mewton. Diagnostic and therapeutic practice for Heart Failure with preserved ejection fraction around the world: An international survey. *Curr Probl Cardiol*, 2024;49(12) : 102799.
- 9) Tanaka Atsushi, Imai Takumi, Kida Keisuke, Matsue Yuya, Node Koichi. Angiotensin receptor-neprilysin inhibition and combination use of guideline-directed medical therapies in acute heart failure. *Eur J Heart Fail*, 2025;27(1) : 110-112.
- 10) Watanabe Yukihiro, Kubota Yoshiaki, Nishino Takuya, Nasu Takahito, Ishii Shunsuke, Kagiya Nobuyuki, Kida Keisuke, Fujimoto Wataru, Kanaoka Koshiro, Matsumoto Shingo. Temporal changes in HbA1c levels after sacubitril/valsartan initiation in a real-world Japanese cohort: REVIEW-HF registry. *JMA J*, 2025;8(1) : 281-285.
- 11) Anastasia Shchendrygina, Nathan Mewton, David Niederseer, Kida Keisuke, Federica Guidetti, Antoine Jobbe Duval, Ivan Milinkovic, Marish I F J Oerlemans, Marta Zaleska-Kociecka, Sydney Goldfeder de Gracia, Maria Isabel Palacio, Ilya Giverts, Irina Komarova, Yasmin Rustamova, Fadel Bahouth, Anja Zupan Meznar, Massimo Mapelli, Alexandr Suvorov, Irina Dyachuk, Michail Shutov, Violetta Sitnikova, Antoine Garnier-Crussard, Anders Barasa, Goran Loncar, Mariya Tokmakova, Hadi Skouri, Frank Ruschitzka, Clara Saldarriaga. Cardiac Amyloidosis Screening and Management in Patients With Heart Failure With Preserved Ejection Fraction: An International Survey. *The American Journal of Cardiology*, 2025;236 : 42-48.
- 12) Inga J. Ingimarsdóttir, Julie K.K. Vishram-Nielsen, Hafsteinn Einarsson, Sidney Goldfeder, Nathan Mewton, Anders Barasa, Carmen Basic, Marish I.F.J. Oerlemans, David Niederseer, Anastasia Shchendrygina, Finn Gustafsson, Frank Ruschitzka, Kida Keisuke, Dania Mohty, Rolland R. Rakotonoel, Han Naung Tun, Thórdís J. Hrafnkelsdóttir, Clara Saldarriaga. Diagnostic and therapeutic practice for HFpEF across continents and regions: An international survey. *ESC Heart Fail*, 2025;12(1) : 487-496.
- 13) Federica Guidetti , Clara Inés Saldarriaga Giraldo, Anastasia Shchendrygina, Keisuke Kida, David Niederseer, Carmen Basic, Peter P. Rainer, Marta Zaleska-Kociecka, Elijah Ogola, Dania Mohty, Giuseppina Lanfranchi, Novi Yanti Sari, Hafsteinn Einarsson, Marzena Zurek, Frank Ruschitzka, Gianluigi Savarese, Nathan Mewton. Differences in heart failure with preserved ejection fraction management between care providers: an international survey. *European Journal of Heart Failure*, 2025;27(2) : 198-208.
- 14) Misumi Kayo, Matsue Yuya, Nogi Kazutaka, Fujimoto Yudai, Kagiya Nobuyuki, Kasai Takatoshi, Kitai Takeshi, Oishi Shogo, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Yamamoto Masayoshi, Kida Keisuke, Okumura Takahiro, Nogi Maki, Ishihara Satomi, Ueda Tomoya, Kawakami Rika, Saito Yoshihiko, Minamino Tohru. Usefulness of hypochloremia at the time of discharge to predict prognosis in patients with chronic heart failure after hospitalization. *J Cardiol*, 2025;85(3) : 235-240.

- 15) Sato Junichiro, Manaka Katsunori, Horikoshi Hirofumi, Taguchi Maho, Harada Kazuki, Tsuboi Takashi, Nangaku Masaomi, Iiri Taroh, Makita Noriko. Insights into GLP-1 and insulin secretion mechanisms in pasireotide-induced hyperglycemia highlight effectiveness of Gs-targeting diabetes treatment. Sci Rep, 2025;15(1) : 9494.

② 総説又は症例解説

- 1) Kida Keisuke, Toki Shinji, Kanamitsu Yoko, Okuno Taishi. Hospice in heart failure is visible, yet still out of reach for many. Journal of Cardiac Failure, 2024;30(6) : 800-802.

学会発表

① 国内学会

- 1) 熊谷雄治, 植田真一郎, 木田圭亮, 松下武藤明子. シンポジウム3 JSVF/JSCPT ジョイントシンポジウム「血管不全とは何だろう?～血管不全の臨床薬理～. 第9回日本血管不全学会学術集会, 2024.
- 2) 木田圭亮. 運動と食事、適切な栄養補給のタイミングとは?. 第272回 日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 3) 堀越博文, 佐藤潤一郎, 田口真帆, 間中勝則, 南学正臣, 飯利太朗, 榎田紀子. グルコース反応性 β 細胞株 MIN-6 を用いた GLP-1 刺激に対する細胞内シグナル応答の解析と糖毒性の新たなメカニズムへの示唆. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 4) 木田圭亮. シンポジウム2 循環器疾患の栄養療法の実践と今後 心不全の栄養療法～既知と未知～. 第10回日本臨床栄養代謝学会 関越支部学術集会, 2024.
- 5) 木田圭亮. シンポジウム3 がん薬物療法に合併する臓器障害に如何に取り組むか. 第8回日本臨床薬理学会関東・甲信越地方会, 2024.
- 6) 古小高純章, 赤尾圭吾, 渡辺敏, 笠原西介, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 根本慎司, 桑村雄偉, 山崎太輝, 坂井健太, 木田圭亮, 足利光平, 佐々木信幸, 水越慶, 長田尚彦, 鈴木規雄, 明石嘉浩. 高齢心不全患者における退院後の日常生活困難感は, 退院後の快適歩行速度低下と関連する. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 7) 根本慎司, 笠原西介, 木田圭亮, 明石嘉浩. 心疾患患者に対する予測式を用いた至適心拍数の設定と運動中に必要なモニタリングについて. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 8) 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太輝, 笠原西介, 渡辺敏, 根本慎司, 栗田真吾, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 経皮的僧帽弁クリップ修復術後の運動耐容能の変化に関連する因子. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 9) 鈴木規雄, 木田圭亮, 明石嘉浩. 高齢心不全に対する心臓リハビリテーションと栄養管理. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 10) 木田圭亮. 慢性腎臓病と心不全患者における栄養の既知と未知. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 11) 横山美帆, 島田和典, 代田浩之, 井澤英夫, 加藤祐子, 三浦伸一郎, 牛島明子, 木田圭亮, 坂田康彦, 長山雅俊, 古川裕, 三浦正暢, 伊藤秀崇, 大堀克彦, 門上俊明, 網谷英介, 福本義弘, 佐々木健一郎, 伊藤春樹, 後藤葉一, 牧田茂. The Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Registry (J-CARRY Study). 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 12) 鈴木規雄, 木田圭亮, 明石嘉浩. 心疾患における早期栄養介入管理加算の臨床的効果. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.

- 13) 坂井健太, 吉沢和也, 笠原西介, 武市尚也, 渡邊紗都, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太暉, 古小高純章, 渡辺敏, 鈴木規雄, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 心不全患者における入院前の日常生活動作の困難感が入院関連能力障害に与える影響. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 14) 木田圭亮. ネットワーク構築の原点は、海外留学にあり ～ワンクラブマンの生き方・働き方～. 第273回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 15) 高木佳子, 浅田隆太, 一村昌彦, 岩田香苗, 太田有紀, 菊地佳代子, 今野浩一, 寺田智子, 萩森奈央子, 堀部恵梨佳, 丸本芳雄. つながり対話会～アカデミアのプロジェクトマネジャー (PM) /スタディーマネジャー (StM) のネットワーク構築～. ARO 協議会第11回学術集会, 2024.
- 16) 木田圭亮. 心不全療養指導士が5W1Hで知っておくべき漢方薬. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 17) 宮原大輔, 木田圭亮, 鍋田健, 吉岡賢二, 成瀬代士久, 谷口達典, 田中秀和, 奥村貴裕, 馬場裕一, 北井豪, 末永祐哉, 明石嘉浩. 心サルコイドーシスにおける臨床病型による予後の検討. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 18) 山崎太暉, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 桑村雄偉, 吉沢和也, 赤尾圭吾, 渡邊紗都, 鈴木規雄, 長田尚彦, 木田圭亮, 足利光平, 水越慶, 明石嘉浩. カヘキシアを有する心不全患者において歩行速度は心不全再入院に関連する. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 19) 笠原西介, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 渡辺敏, 鈴木規雄, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 心不全患者における退院時連続歩行距離の制限は退院後 QOL 低下の規定因子である. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
- 20) 木田圭亮. チームで取り組む心不全診療の最新のトピックス. 不整脈心不全学術講演会 【日本医師会生涯教育講座】, 2024.
- 21) 木田圭亮. サルコペニア・フレイル、心不全を合併した2型糖尿病治療～心臓リハビリテーションを踏まえて～. 第78回神奈川循環器講演会, 2024.
- 22) 太田有紀, 酒井麻未, 木田圭亮, 武半優子, 大滝正訓, 小林司, 飯利太郎, 松本直樹. 臨床研究企画・運営の負担に関するアンケート -第2報-. 第45回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 23) 武半優子, 大滝正訓, 太田有紀, 木田圭亮, 小林司, 飯利太郎, 松本直樹. 出生前母体グルココイド投与による胎児心臓の発達に関する研究 -早産モデルラット胎仔心筋細胞の発達とエネルギー代謝への影響-. 第45回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 24) 木田圭亮. 臨床薬理学会のこれから ～新しい理念の共有と実践、そのための情報発信～ これからの広報活動. 第45回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 25) 小林司, 大滝正訓, 武半優子, 菅谷紘一, 太田有紀, 木田圭亮, 渡辺実, 飯利太郎, 小野瀬淳一, 阿部尚樹, 松本直樹. ペントバルビタール代替薬による薬物相互作用の薬理学実習の検討. 第45回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 26) 大滝正訓, 武半優子, 太田有紀, 小林司, 渡辺実, 木田圭亮, 飯利太郎, 松本直樹. 生成 AI を用いたレポート採点の自動化の試み. 第45回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 27) 廣井朋子, 金子英恵, 大滝正訓, 那和雪乃, 坪野谷真朗, 立浪 忍, 松本直樹, 佐藤知雄. 培養細胞におけるハウスキーピング遺伝子発現量に対する RI 標識化合物の影響(2). 第5回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会 日本放射線安全管理学会第23回学術大会 日本保健物理学会第57回研究発表会, 2024.
- 28) 大滝正訓, 廣井朋子, 立浪忍, 小林司, 太田有紀, 武半優子, 木田圭亮, 飯利太郎, 佐藤知雄, 松本直樹. 標識化合物の放射線が遺伝子発現量測定の実験系に寄与する割合(2). 第5回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会 日本放射線安全管理学会第23回学術大会 日本保健物理学会第57回研究発表会, 2024.

- 29) 木田圭亮. 心リハと心不全とエンパグリフロジン. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会, 2025.
- 30) 木田圭亮. CKD患者に対する腎リハ～最新エビデンスと今後の課題
透析患者における腎臓リハビリテーションの実態把握のためのレジストリ研究: REVEAL-D研究. 第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 31) 木田圭亮. Prevention and Disease Awareness to the Public in Japan. 第89回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 32) 渡邊 将央, 久保田 芳明, 金岡 幸嗣朗, 那須 崇人, 石井 俊輔, 鍵山 暢之, 木田 圭亮, 藤本 恒, 菊池 篤志, 伊地知 健, 柴田 龍宏, 石原 里美, 齋藤 秀輝, 新井 陸, 南淵 美玲, 西崎 公貴, 矢崎 義行, 堀内 優, 浅井 邦也, 松本 新吾. Relevant Adverse Events and Drug Discontinuation of Sacubitril/Valsartan in Patients with Transthyretin Cardiac Amyloidosis: Insights from the REVIEW-HF Registry. 第89回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 33) 赤垣 大樹, 柴田 龍宏, 芝尾 昂大, 金岡 幸嗣朗, 那須 崇人, 石井 俊輔, 鍵山 暢之, 木田 圭亮, 藤本 恒, 菊池 篤志, 伊地知 健, 福本 義弘, 松本 新吾. The MAGGIC Risk Score and Relevant Adverse Events of Sacubitril/Valsartan: Insights from REVIEW-HF Registry. 第89回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 34) Yamasaki Taiki, Nemoto Shinji, Kasahara Yusuke, Watanabe Satoshi, Takeichi Naoya, Kuwamura Yuui, Sakai Kenta, Yoshizawa Kazuya, Akao Keigo, Kootaka Yoshifumi, Watanabe Sato, Mizukoshi Kei, Suzuki Norio, Ashikaga Kohei, Kida Keisuke, Osada Naohiko, Akashi Yoshihiro. Association between handgrip strength and prognosis in patients with heart failure complicated by atrial fibrillation. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 35) Htet Aung Kaung, Sugimura Koichiro, Terui Yousuke, Toyoda Shigeru, Shimojima Masaya, Izumiya Yasuhiro, Kodama Yusuke, Kitai Takeshi, Iwabuchi Kaoru, Suzuki Shu, Kitano Daisuke, Kida Keisuke, Shibuya Kiyotaka, Yano Toshiyuki, Nabeta Takeru, Iwano Hiroyuki, Oikawa Takuya, Tada Hiroshi, Ota Hideki, Yasuda Satoshi. Evaluating the HFA-ICOS Risk Model for Predicting Cancer Therapeutics-Related Cardiac Dysfunction in Breast Cancer Patients Receiving Chemotherapy. 第89回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 36) Fujimoto Yudai, Shiraishi Yasuyuki, Nogi Kazutaka, Ueda Tomoya, Ishihara Satomi, Nakada Yasuki, Kawakami Rika, Kitai Takeshi, Ohishi Shogo, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Yamamoto Masayoshi, Kida Keisuke, Okumura Takahiro, Nagatomo Yuji, Kohno Takashi, Nakano Shintaro, Kohsaka Shun, Yoshikawa Tsutomu, Saito Yoshihiko, Matsue Yuya. Prognostic Implications of Mineralocorticoid Receptor Antagonist Use with Creatinine Elevation in Patients with Acute Heart Failure and Reduced Ejection Fraction. 第89回日本循環器学会学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) Wada Ryo, Nakanishi Rine, Ikeda Takanori, Nasu Takahito, Ishii Shunsuke, Kagiya Nobuyuki, Kida Keisuke, Fujimoto Wataru, Kikuchi Atsushi, Ijichi Takeshi, Shibata Tatsuhiro, Kanaoka Koshiro, Matsumoto Shingo. ADVERSE EVENTS RELATED TO SACUBITRIL/VALSARTAN IN ELDERLY PATIENTS: INSIGHTS FROM REVIEW-HF REGISTRY. American College of Cardiology 73rd Annual Scientific Session & Expo, 2024.
- 2) Ingimarsdottir IJ, Vishram-Nielsen JKK, Einarsson H, Goldfeder S, Mewton N, Barasa A, Basic C, Oerlemans MIFJ, Niederseer D, Gustafsson, Kida K, Mohty D, Rakotonolain RR, Naung Tun H, Saldarriaga C.. Diagnostic and therapeutic practice for heart failure with preserved ejection fraction around the world: an international

survey. Heart Failure 2024, 2024.

- 3) Guidetti F, Shchendrygina A, Mewton N, Niederseer D, Duval AJ, Oerlemans M, Kida K, Giverts I, Zaleska-Kociecka M, Ruschitzka F, Skouri H, Saldarriaga C.. Cardiac amyloidosis awareness comparison between HF-cardiologists, non-HF-cardiologists and other specialties around the World: insights from international survey. Heart Failure 2024, 2024.
- 4) Shchendrygina A, Mewton N, Niederseer D, Guidetti F, Jobbe Duval A, Goidfeder De Gracia S, Milincovic I, Oerlemans MIJF, Kida K, Giverts I, Zaleska-Kociecka M, Tokmakova M, Skouri H, Ruschitzka F, Giraldo CIS.. Cardiac amyloidosis awareness among physicians around the world: insights from an international survey. Heart Failure 2024, 2024.
- 5) Guidetti F, Saldarriaga C, Shchendrygina, K Kida, Niederseer D, basic C, Rainer P, Zaleska-Kociecka M, Ogola E, Zurek M, Ruschitzka, Savarese G, Mewton N.. HFrEF management comparison between HF-cardiologists, non-HF-cardiologists and other specialties: an international survey. Heart Failure 2024, 2024.
- 6) Shchendrygina A, Duval AJ, Mewton N, Niederseer, Guidetti F, Milincovic I, Oerlemans MIFJ, Kida K, Goldfeder De Gracia, Giverts I, Zaleska-Kociecka, Loncar G, Skouri H, Ruschitzka F, Saldarriaga Giraldo C I.. Accesses to anti-amyloid disease-modifying therapy impact awareness about cardiac amyloidosis and clinical practice: insights from an international survey. Heart Failure 2024, 2024.
- 7) Saldarriaga CI, Goldfeder S, Palacio MI, Shchendrygina A, Guidetti F, Vishram-Nielsen J, Ingimarsdottir I, Einarsson H, Kida K, Zaleska M, Mewton N.. Diagnostic and therapeutic practices for Heart Failure with preserved ejection fraction around the world: an international survey. Heart Failure 2024, 2024.
- 8) Yoshida Toshiya, Okuno Taishi, Kuwata Shingo, Miyahara Daisuke, Kai Takahiko, Sato Yukio, Koga Masashi, Kida Keisuke, Ishibashi Yuki, Tanabe Yasuhiro, Izumo Masaki, Akashi Yoshihiro J. Impact of atrial fibrillation on progression of tricuspid regurgitation in patients undergoing transcatheter aortic valve replacement. European Society of Cardiology (ESC) Congress 2024, 2024.
- 9) Kida Keisuke. Heart failure research in Japan and the potential for application of pharmacogenomics. PHARMACOLOGY2024, 2024.

③ その他

- 1) 木田圭亮. 最新の心不全診療に必要な3つのこと. 第9回かながわ心不全ネットワーク, 2024.
- 2) 木田圭亮. 心不全の薬物治療を考える上で、大事な3つのこと. Prevention of HFrEF~Multiple Therapy の新たなステージ~, 2024.
- 3) 木田圭亮. 最新の心不全診療に必要な3つのこと. 地域の薬剤師で心不全診療を考える会, 2024.
- 4) 木田圭亮. 併存症を考慮した心不全診療~なぜCOPDに注目するのか?~. 第21回日本循環器看護学会学術集会, 2024.
- 5) 木田圭亮. 超高齢社会における併存症を意識した心不全診療. Cardiopulmonary SEM in Ibaraki, 2024.
- 6) 鈴木秀典, 笠師久美子, 木田圭亮, 渡部厚一. ケーススタディを通じた実践的ワークショップ. 第2回臨床スポーツ薬理学研究会, 2024.
- 7) 木田圭亮. 心不全におけるおすすめ漢方薬. 第5回神奈川次世代心不全医による漢方ミーティング, 2024.
- 8) 木田圭亮. 心房細動を合併した心不全患者の管理に大切な3つのこと. 第33回頻拍症カンファレンス 「今後の心房細動の管理のあり方」, 2025.

- 9) 木田圭亮. 循環器領域で漢方薬を使う3つのポイント. Gunma Cadiology × Kampo Web Meeting, 2025.
- 10) 木田圭亮. 慢性心不全の薬物治療. 日本心臓病学会 教育セミナー 第63回 ファンダメンタル・コース, 2025.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著		15
	解説又は総説	8	1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	33	3
	国際学会		9
	その他	10	

免疫学・病害動物学

著書

- 1) 清水潤, 宮部斉重. 各論 (世界最新のガイドライン、リコメンデーション)
再発性多発軟骨炎 日本臨牀 2024;82:1292-1298.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ando F, Kashiwada T, Kuroda S, Fujii T, Takano R, Miyabe Y, Kunugi S, Sakatani T, Miyanaga A, Asatsuma-Okumura T, Hashiguchi M, Kanazawa Y, Ohashi R, Yoshida H, Seike M, Gemma A, Iwai Y.. Combination of plasma MMPs and PD-1-binding soluble PD-L1 predicts recurrence in gastric cancer and the efficacy of immune checkpoint inhibitors in non-small cell lung cancer. *Frontiers in Pharmacology*, 2024;7(15) : 1384731.
- 2) Kashiwada T, Takano R, Ando F, Kuroda S, Miyabe Y, Owada R, Miyanaga A, Asatsuma-Okumura T, Hashiguchi M, Kanazawa Y, Yoshida H, Seike M. Lysosomal degradation of PD-L1 is associated with immune-related adverse events during anti-PD-L1 immunotherapy in NSCLC patients. *Frontiers in Pharmacology*, 2024;10(15) : 1384733.
- 3) Fumihiro Mochizuki , Manabu Komori , Jun Shimizu , Yoshiyuki Sasano , Yusuke Ito , Michael E Hoffer , Yoshishige Miyabe , Izumi Koizuka. Microbial alpha diversity in the intestine negatively correlated with disease duration in patients with Meniere's disease. *Scientific Reports*, 2024;30(14) : :31893.
- 4) Ueno H, Hattori T, Chi HH, Miyabe Y, Murayama MA. Clodronate liposome treatment contributes to the nerve regeneration in corneal nerve involvement of diabetic mice. *Experimental Animals*, 2025;74 : 58-65.

② 総説又は症例解説

- 1) Arimitsu NN, Witkowska A, Ohashi A, Miyabe C, Miyabe Y. Chemokines as therapeutic targets for multiple sclerosis: a spatial and chronological perspective. *Front Immunolgy*, 2025;16 : 1547256.

学会発表

① 国内学会

- 1) 宮田龍臣、宮部千恵、宮部斉重、遊道和雄、石黒直子. 血管炎における血清と皮膚の微生物叢の変化. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 2) 仲星 霖, 柴原晴香, 陸シセン, 鈴木 来, 宮部斉重, 中田(有光)なぎさ, 相澤 守. 水酸アパタイトセラミックスを用いたマウス神経芽株化細胞の培養およびその評価. 無機マテリアル学術講演会, 2024.
- 3) 上村 悠, 西尾美和子, 下牧瑠那, 吉森真由美, 大橋彩香, 伏屋愛加, 宮部斉重, 新井文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病の診断と治療効果判定における CXCL10 の意義. 日本血液学会学術集会, 2024.
- 4) 清水 潤, 宮部千恵, 宮部斉重. マイクロバイオーーム研究から明らかになったベーチェット病の病態. 日本皮膚科学会東京支部学術集会, 2024.
- 5) 清水潤, 宮部千恵, 宮部斉重. マイクロバイオーーム研究から明らかになったベーチェット病の病態. 第 88 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2024.

② 国際学会

- 1) Yoshishige Miyabe, Chie Miyabe, Ayaka Ohashi, Nagisa Arimitsu-Nakata. In vivo imaging of Colon Reveals Leukocyte Migratory Behavior in Inflammatory Bowel Diseases. *Gordon Research Conferences*, 2024.

- 2) X. ZHONG, H. Shibahara, Z. Lu, K. Suzuki, N. Arimitsu Nakata, Y. Miyabe, M. Aizawa. Preliminary study for three-dimensional tissue regeneration of nerve tissue using porous apatite-fiber scaffold. Bioceramics34, 2024.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		4
	解説又は総説		1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	5	
	国際学会		2
	その他		

分子病理

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 谷藤暁, 小川高史, 野呂瀬朋子, 和田あかね, 下山英明, 上田康雄, 楯玄秀, 佐々木春明, 矢持淑子. ハイパースペクトルイメージを使用した前立腺の腺癌と神経内分泌腫瘍の新たな識別方法の検討. 昭和医学会雑誌, 2024;84(4) : 296-304.

② 総説又は症例解説

- 1) 中原一有, 大池信之, 松田浩二. 特集 十二指腸・小腸疾患アトラス
I. 腫瘍, 腫瘍様病変
化生や上皮性腫瘍
乳頭部腫瘍 (FAP 以外) : 腺腫. 消化器内視鏡, 2024;36(4) : 462-463.
- 2) 大池信之, 野呂瀬朋子, 角田優子, 杉野隆, 久保秀正, 影山優美子, 蘆田良, 大木克久, 杉浦禎一, 小林慎二郎, 中原一有, 立石敬介. 膵腫瘍の分子多様性～病態の不均一性を紐解く
分子病理からみた膵神経内分泌腫瘍の多様性. 胆と膵, 2024;45(7) : 741-748.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yasuni Nakanuma, Yasunori Sato, Yuko Kakuda, Yoshiki Naito, Yuki Fukumura, Mana Fukushima, Hiroshi Minato, Shinichi Aishima, Nobuyuki Ohike, Toru Furukawa. Interobserver agreement of pathologic classification and grading of tumoral intraductal pre-invasive neoplasms of the bile duct. Annals of diagnostic pathology, 2024;69 : 152247.
- 2) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5) : 571-581.
- 3) Norose Tomoko, Ohike Nobuyuki, Nakaya Daiki, Kamiya Kentaro, Sugiura Yoshiya, Takatsuki Misato, Koizumi Hirotaka, Okawa Chie, Ohya Aya, Sasaki Miyu, Aoki Ruka, Nakahara Kazunari, Kobayashi Shinjiro, Tateishi Keisuke, Junki Koike. Investigation of the usefulness of a bile duct biopsy and bile cytology using a hyperspectral camera and machine learning. Pathology International, 2024;74(6) : 337-345.
- 4) Yoshiya Sugiura, Rikuo Machinami, Seichi Matsumoto, Keisuke Ae, Yu Takahashi, Nobuyuki Hiruta, Kengo Takeuchi. The association between CD34 expression status and the clinicopathological behavior of dedifferentiated liposarcoma. Pathology, research and practice, 2024;260 : e155376.
- 5) Miura Y, Ohike N, Ashida R, Yamada M, Otsuka S, Kato Y, Norose T, Sigino T, Uesaka K, Sugiura T. Clinical Implications of the Degree of Pancreatic Invasion in Ampulla of Vater Carcinoma. Annals of Surgical Oncology, 2024;31(12) : 8308-8316.
- 6) Miura Y, Ohgi K, Ohike N, Ashida R, Yamada M, Otsuka S, Kato Y, Norose T, Uesaka K, Sugiura T. ASO Author Reflections: Ampulla of Vater Carcinoma with Advanced Pancreatic Invasion Imply Advanced Tumor Progression to Systemic Disease. Annals of Surgical Oncology, 2024;31(13) : 9221-9222.

② 症例報告

- 1) Matsubara Keisuke, Hayakawa Nozomi, Kubota Yohei, Ohike Nobuyuki, Sunakawa Yu, Koike Junki, Kikuchi Eiji. A case of multiple bone metastases during the course of non-invasive bladder and prostate cancer. IJU Case Reports, 2025;8(2) : 158-161.
- 2) Yuuko Tohmatsu, Mihoko Yamada, Nobuyuki Ohike, Tomoko Norose, Hidemasa Kubo, Ryo Ashida, Katsuhisa Ohgi, Shimpei Otsuka, Yoshiyasu Kato, Hideyuki Dei, Katsuhiko Uesaka, Takashi Sugino, Teiichi Sugiura. Successful Conversion Surgery for Locally Advanced Pancreatic Neuroendocrine Carcinoma: A Case Report. Surgical Case Reports, 2025;11(1) : 24-0064.

学会発表

① 国内学会

- 1) 青木瑠伽, 佐々木美友, 大谷絢, 大川千絵, 野呂瀬朋子, 大池信之, 小池淳樹. 消化器膵 EUS-FNA. 第 65 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）, 2024.
- 2) 野呂瀬朋子. 胆管癌に対する生検診断の実際. 第 102 回日本病理学会関東支部学術集会, 2024.
- 3) 斧研洋幸, 岡村隆徳, 久保木想太, 齊藤祐貴, 大池信之. 超音波検査で鑑別が困難であった両側結核性精巣上体炎の 1 例. 日本超音波医学会第 97 回学術集会, 2024.
- 4) ○土井拓矢, 石渡裕俊, 佐藤純也, 坂本拓基, 山村昌大, 大池信之, 野呂瀬朋子, 角田優子, 松林宏行, 小野裕之. 子パネル検査の解析成功に関わる病理学的因子の検討. 第 140 回日本消化器病学会東海支部例会, 2024.
- 5) 刀根亀代志, 本田勝丈, 田代千穂, 仲田佐和子, 遠藤誠, 大石琢磨, 野呂瀬朋子, 大池信之. 膵癌手術に対する腹腔細胞診における免疫細胞化学併用の意義. 第 65 回日本臨床細胞学会春期大会, 2024.
- 6) 田中晴祥, 平林健一, 藤井努, 深澤美奈, 渋谷和人, 大池信之, 古川徹, 里井壯平, 海野倫明, 竹山宜典. 腹腔細胞診陽性膵癌を制す法—外科医の立場から—. 第 65 回日本臨床細胞学会春期大会, 2024.
- 7) 早川 智絵, 稲山 久美子, 干川 晶弘, 井村 穰二, 荻野 正宗, 沖津 駿介, 宇杉 美由紀, 土居 正知, 野呂瀬 朋子, 大池 信之. 胆汁細胞診における良性異型細胞と悪性細胞の鑑別. 第 65 回日本臨床細胞学会春期大会, 2024.
- 8) 土井拓矢, 石渡裕俊, 佐藤純也, 坂本拓基, 山村昌大, 大池信之, 野呂瀬朋子, 角田優子, 松林宏行, 小野裕. 遺伝子パネル検査の解析成功に関わる病理学的因子の検討. 第 140 回日本消化器病学会東海支部例会, 2024.
- 9) 松原圭輔, 早川望, 久保田洋平, 大池信之, 砂川優, 小池淳樹, 菊地栄次. A case of multiple bone metastases during the course of non-invasive bladder and prostate cancer. 第 33 回日本がん転移学会学術集会・総会, 2024.
- 10) ◎仁木凜太郎, 秋山唯, 三井寛之, 小野瀬喜道, 軽辺朋子, 市川翔太, 橘川薫, 野呂瀬朋子, 大池信之, 仁木久照. 足舟状骨に発生した骨巨細胞腫の 1 例. 第 57 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024.
- 11) 柴田真知, 小林慎二郎, 澤田真裕, 西澤一, 野呂瀬朋子, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大池信之, 大坪毅人. 自己免疫性膵炎の自然経過観察し得た示唆に富む胆嚢癌の 1 例. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 12) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 五十嵐洋介, 野呂瀬朋子, 大池信之, 大坪毅人. 当院で経験した膵上皮癌 5 例についての臨床病理学的検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 13) 野呂瀬朋子 ほか. Needle tract seeding について—切除検体の観察から—. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 14) 小林慎二郎, 中原一有, 梅本久美子, 野呂瀬朋子, 中村祐太, 佐々木信幸, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 大池信之, 砂川優, 立石敬介, 大坪毅人. 当院における”胆道・膵臓病センター”の設置から現在までのと今後の課題. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.

- 15) 木村紗衣, 小林慎二郎, 野呂瀬朋子, 中原一有, 井田圭亮, 関根章裕, 五十嵐洋介, 土橋篤仁, 小泉哲, 大池信之, 立石敬介, 大坪毅人. 術前診断に至らなかった膵 Epidermoide c y s t の1例. 第55回日本膵臓学会大会, 2024.
- 16) 有福厚孝, 小林慎二郎, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 野呂瀬朋子, 大池信之, 中原一有, 大坪毅人. SPACEにて adenocarcinoma が同定され、膵全摘で多彩な病理像が得られた IPMC(Tis) の1例. 第28回日本外科病理学会学術集会, 2024.
- 17) 藤塚航陽, 久恒靖人, 木村紗衣, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 小林慎二郎, 民上真也, 野呂瀬朋子, 渡邊麗子, 大池信之, 大坪毅人. Rindi I 型の胃 Neuroendocrine tumor に対する治療戦略. 第28回日本外科病理学会学術集会, 2024.
- 18) 早川 智絵, 稲山 久美子, 西郷 千恵, 干川 晶弘, 井村 稔二, 荻野 正宗, 長宗我部 基弘, 土居 正知, 野呂瀬 朋子, 大池 信之. 肉眼型分類からみた胆管癌の細胞学的アプローチ. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会, 2024.
- 19) 工藤公介, 田中邦英, 大林樹真, 北川博昭, 野呂瀬朋子, 大池信之, 古田繁行. 複数回の手術で経時的な組織学的変化を観察しえた難治性 nesidioblastosis の一例. 第66回日本小児血液・がん学会学術集会, 2024.
- 20) 三原豊, 宮原大輔, 鈴木規雄, 金木真理, 齊藤亜美, 奥野泰史, 栗田真吾, 石橋祐記, 出雲昌樹, 田邊康宏, 明石嘉浩, 野呂瀬朋子. うっ血性心不全を契機に診断し得た卵巣がん術後の肺腫瘍血栓性微小血管症の1例. 第274回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 21) 瀧上真希, 西尾美佐子, 森本毅, 藤川あつ子, 三村秀文, 近藤春裕, 大原樹, 渡邊麗子, 小泉宏隆. 卵巣子宮内膜症性嚢胞とS状結腸深部子宮内膜症との瘻孔により膿瘍を形成した一例. 第462回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 2024.
- 22) 塚田美里, 野呂瀬朋子, 柳澤信之, 杉浦善弥, 小泉宏隆, 小池淳樹, 大池信之. リキッドバイオプシーのがん遺伝子パネル検査により分子標的治療が行われた膵腺房細胞癌の2例. 第120回神奈川県病理医会, 2025.
- 23) 野呂瀬朋子. 膵腫瘍の組織診及び細胞診の実際. 第39回長野県臨床細胞学会総会, 2025.
- 24) 野呂瀬朋子. 膵腫瘍の組織診及び細胞診の実際. 第29回神奈川県細胞検査士会学術研修会, 2025.

② 国際学会

- 1) Shibata Machi, Kobayashi Shinjiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Norose Tomoko, Oike Nobuyuki, Otsubo Takehito. A case of BR-A pancreatic head cancer that responded well to chemotherapy. The International College of Surgeons The 69th Annual Congresss of the Japan Section, 2024.
- 2) Kimura Sae, Hisatsune Yasuhito, Umezawa Saori, Hiwatari Masaki, Tsukamoto Yoshitsugu, Yanagisawa Nobuyuki, Mikami Shinya, Ohike Nobuyuki, Otsubo Takehito. A case of giant splenic hemangioma resected under laparoscopy. The International College of Surgeons The 69th Annual Congresss of the Japan Section, 2024.
- 3) 大池信之. Appropriate Methods for Dissecting and Sectioning Surgically Resected Specimens of Groove Pancreatic Cancer and Duodenal Papilla of Vater Cancer. The 76th Annual Fall Meeting of the Korean Society of Pathologists, 2024.

③ その他

- 1) 梅本 久美子, 中原 一有, 大池 信之, 五十嵐 洋介, 薩田 祐輔, 関根 章裕, 野呂瀬 朋子, 小池 淳樹, 久保田 洋平, 永田 祐介, 武田 弘幸, 堀江 良樹, 新井 裕之, 伊澤 直樹, 立石 敬介, 砂川 優. 膵癌患者における細胞診検体の ddPCR 解析を用いた KRAS 変異測定. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	1	6
	解説又は総説	2	
	症例報告		2
	その他		
学会発表	国内学会	24	
	国際学会		3
	その他	1	

診断病理

著書

- 1) 土居正知. 各論 45 Neurofibroma, Perineurioma, Hybrid nerve sheath tumors 脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 2024; (5):123-125.
- 2) 土居正知. 各論 46 Malignant peripheral nerve sheath tumor, Malignant melanotic nerve sheath tumor 脳腫瘍臨床病理カラーアトラス 2024; (5):126-128.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 小池淳樹, 三浦健一郎. 【病理からせまる腎疾患の病因・病態解明】総論 移植腎 拒絶反応の病理診断と鑑別. 腎と透析, 2024;97(3):409-415.
- 2) 土居正知. 検査データと血液像から疾患を推測する 一白血球編 [基礎講座] 脳外科領域の細胞診 (術中迅速診断). Medical Technology, 2024;52(10):1040-1045.
- 3) 渡邊麗子. 【泌尿器病理医からのメッセージ-泌尿器癌病理の基本から最新情報まで-】精巣癌. 泌尿器外科, 2024;37(10):1113-1120.

② 症例報告

- 1) 長井 (瀧下) 茉莉子, 小池淳樹, 吉江玲子, 津川浩一郎. 乳房原発の Solitary fibrous tumor (SFT) の1例. 診断病理, 2025;42(1):84-90.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5):571-581.
- 2) Nakamura Hisao, Doi Masatomo, Matsushita Shouichirou, Ode So, Kadoi Takahiro, Tagawa Hiroko, Ucida Masashi, Mimura Hidefumi. Comparison of thallium-201 uptake and retention indices for the evaluation of glioma grading. Journal of St. Marianna University, 2024;15(1):1-8.
- 3) Norose Tomoko, Ohike Nobuyuki, Nakaya Daiki, Kamiya Kentaro, Sugiura Yoshiya, Takatsuki Misato, Koizumi Hirotaka, Okawa Chie, Ohya Aya, Sasaki Miyu, Aoki Ruka, Nakahara Kazunari, Kobayashi Shinjiro, Tateishi Keisuke, Junki Koike. Investigation of the usefulness of a bile duct biopsy and bile cytology using a hyperspectral camera and machine learning. Pathology International, 2024;74(6):337-345.
- 4) Chie Hayakawa, Masahiro Hoshikawa, Johji Imura, Takahiko Ueno, Junki Koike. Verifying a novel bile cytology scoring system. Diagnostic Cytopathology, 2024;52(9):485-498.
- 5) Kita Yohei, Shirai Sayuri, Koyama Teppei, Makinouchi Ryuichiro, Machida Shinji, Matsui Katsuomi, Koike Junki, Imai Naohiko. Correction to: Fanconi syndrome with karyomegalic interstitial nephritis after ifosfamide treatment for osteosarcoma: a case report. CEN case reports, 2025;14(1):71.

② 症例報告

- 1) Matsubara Keisuke, Hayakawa Nozomi, Aida Koichiro, Koike Junki, Kikuchi Eiji. Renal pelvic plasmacytoid subtype urothelial carcinoma accompanied with solitary mammary metastasis. International Cancer Conference Journal, 2024;13(3) : 296-300.
 - 2) Enomoto Takeharu, Mikami Shinya, Otsubo Takehito, Tsuda Takashi, Chosokabe Motohiro. Ten-Year Follow-Up After Chemotherapy and Conversion Surgery for Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Positive Stage IV Esophagogastric Junction Cancer With a Pathological Complete Response : A Case Report. Cureus, 2024;16(5) : e60178.
 - 3) Ayaka Shimo, Koichiro Tsugawa, Kaori Sakamaki, Mina Kitajima, Mariko Takishita, Mizuho Tazo, Mari Nakano, Takako Kuroda, Ai Motoyoshi, Makiko Tsuzuki, Toru Nishikawa, Hisanori Kawamoto, Masatomo Doi. The rare case of synchronous bilateral breast metastasis from a lung neuroendocrine tumor (small cell lung carcinoma): a case report and literature review. Surgical case reports, 2024;10(1) : 218-225.
 - 4) Tsukada Hikaru, Hayakawa Nozomi, Aida Koichiro, Wada Shinji, Morimoto Tsuyoshi, Doi Masatomo, Mimura Hidefumi, Koike Junki, Kikuchi Eiji. Small renal cell carcinoma accompanied by extensive inferior vena cava tumor thrombus diagnosed by percutaneous transvenous biopsy. IJU Case Reports, 2024;7(2) : 91-94.
 - 5) Kita Yohei, Shirai Sayuri, Koyama Teppei, Makinouchi Ryuichiro, Machida Shinji, Matsui Katsuomi, Koike Junki, Imai Naohiko. Fanconi syndrome with karyomegalic interstitial nephritis after ifosfamide treatment for osteosarcoma: a case report. CEN case reports, 2025;14(1) : 65-70.
 - 6) Matsubara Keisuke, Hayakawa Nozomi, Kubota Yohei, Ohike Nobuyuki, Sunakawa Yu, Koike Junki, Kikuchi Eiji. A case of multiple bone metastases during the course of non-invasive bladder and prostate cancer. IJU Case Reports, 2025;8(2) : 158-161.
- ③ その他
- 1) Wada Shinji, Osawa Reo, Dote Minoru, Hayakawa Nozomi, Maruki Saeko, Mimura Hidefumi. Percutaneous core needle biopsy of a renal pelvic mass via nephrostomy access. Journal of Vascular and Interventional Radiology, 2024;35(11) : 1723-1725.

学会発表

① 国内学会

- 1) 青木瑠伽, 佐々木美友, 大谷絢, 大川千絵, 野呂瀬朋子, 大池信之, 小池淳樹. 消化器腫瘍 EUS-FNA. 第 65 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2024.
- 2) 早川望, 松原圭輔, 小池淳樹, 菊地栄次. トリプルネガティブ乳癌との鑑別を要した腎盂癌の孤立乳房転移の一例. 第 36 回日本内分泌外科学会総会, 2024.
- 3) 和田慎司, 大澤怜央, 土手季, 早川望, 成木佐瑛子, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文. 腎臓経由で腎盂病変の針生検を施行した 1 例. 第 53 回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 4) 田中邦英, 関保二, 大林樹真, 川口拓哉, 新開純子, 脇坂宗親, 小池淳樹, 古田繁行, Pringle KC, 北川博昭. 下部尿路閉塞に対する経尿膜管治療を目指した羊胎仔尿膜管開存モデルの作成. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 5) ◎酒井寛貴, 畠山高亨, 大坪莞爾, 木村祐之, 宮澤知行, 本間崇浩, 丸島秀樹, 小島宏司, 小池淳樹, 佐治久. Stage III B 左下葉扁平上皮癌に対し、Checkmate816 レジメン導入後、胸腔鏡下左下葉切除にて根治切除し得た 1 例. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.

- 6) ◎宮澤知行, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 本間崇浩, 杉浦善弥, 丸島秀樹, 小島宏司, 小池宏隆, 佐治久
・抗 NMDA 抗体陽性傍腫瘍性辺縁系脳炎を契機に発見された mixed germ cell tumor. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会
, 2024.
- 7) 鈴木和臣, 増田哲之, 泉家匠, 片山真史, 石井将光, 谷口清章, 四万村司, 朝倉武士, 栗原毅, 吉岡まき, 土居正知, 大
坪毅人. 術前診断に難渋した鼠径部脂肪肉腫の 1 切除例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 8) 早川 智絵, 稲山 久美子, 干川 晶弘, 井村 穰二, 荻野 正宗, 沖津 駿介, 宇杉 美由紀, 土居 正知, 野呂瀬 朋子
,
大池 信之. 胆汁細胞診における良性異型細胞と悪性細胞の鑑別. 第 65 回日本臨床細胞学会春期大会, 2024.
- 9) 喜多島美奈, 本吉愛, 齋藤采奈, 伊藤一希, 山田都, 杉山瑠菜, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂
, 中野万理, 黒田貴子, 柳澤信之, 都築麻紀子, 白英, 西川徹, 川本久紀, 小池淳樹, 津川浩一郎. 乳癌術後経過中に発
症し、早期診断治療により救命できた Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy の 1 例. 第 32 回日本乳癌学会学術総会
, 2024.
- 10) 永澤慧, 岩谷胤生, 本吉愛, 瀧下茉莉子, 垣本紗代子, 山内稚佐子, 横江隆道, 綿貫瑠莉奈, 小池淳樹, 長宗我部基弘,
小島康幸, 前田一郎, 大西達也, 太田智彦, 津川浩一郎, 鈴木穰. 多細胞間遺伝子ネットワーク解析による非浸潤性乳管
がんの進展過程の原理解明に基づいたリスク層別化の取り組み (～非浸潤性乳管がんの治療精密化を目指して～). 第 32
回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 11) 長井 (瀧下) 茉莉子, 小池淳樹, 伊藤一希, 在原卓, 酒巻香織, 喜多島美奈, 垣本紗代子, 中野万理, 田雑瑞穂, 金山益
佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 乳癌における c-myc と細胞周期制御タンパク発現の検
討. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 12) 竹内淳, 長宗我部基弘, 大原樹, 劉環壬, 石井雅人, 飯田瀬里香, 今井悠, 金森玲, 細沼信示, 近藤春裕, 大熊克彰, 久
慈志保, 戸澤晃子, 小池淳樹, 鈴木直. 当院における子宮体癌 FIGO2023 病期分類 IA3 期の妥当性に関する検証. 第 66 回日本
婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 13) 渡邊麗子, 久慈志保, 成木佐瑛子, 瀬尾夏美, 島田直樹, 石井雅人, 今井悠, 竹内淳, 大原樹, 戸澤晃子, 鈴木直, 小池
淳樹. 非典型的な経過を辿る難治性子宮体癌の 1 例. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 14) 豊田名津美 ほか. 胸腺原発 MALT リンパ腫と考えられた 1 例. 第 119 回神奈川県病理医会例会, 2024.
- 15) 中村晃成, 石田光, 和田慎司, 藤川あつ子, 松岡伸, 三村秀文, 本間崇浩, 渡邊麗子. 大量胸水を伴った巨大な神経鞘腫
の手術にて、mesothelial proliferative tumor の併発が発覚した一例. 神奈川県放射線医会 第 64 回例会, 2024.
- 16) 大串健一郎, 安藏慎, 曾根田瞬, 大坪毅人, 小池淳樹, 古田繁行. 膝神経内分泌腫瘍を合併した Turner 症候群. 第 57 回日
本小児内分泌学会学術集会, 2024.
- 17) 中山夏音, 瀬川愛実, 宮澤千夏, 石井雅人, 今井悠, 金森玲, 竹内淳, 西尾美佐子, 和田慎司, 久慈志保, 大原樹, 渡邊
麗子, 三村秀文, 小池淳樹, 鈴木直. 当院で経験した診断に苦慮する性索間質性卵巢腫瘍の 2 例. JSAWI 2024, 2024.
- 18) 渡邊麗子. PART1 国際標準としての WHO 分類と ICCR Datasets. JSAWI 第 25 回シンポジウム, 2024.
- 19) 渡邊麗子. 病理レポートのあり方. JSAWI 第 25 回シンポジウム, 2024.
- 20) 石田光, 和田慎司, 藤川あつ子, 松岡伸, 三村秀文, 本間崇浩, 渡邊麗子. 大量胸水を伴った巨大な神経鞘腫の手術にて
, mesothelial tumor の併発が発覚した一例. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.
- 21) 酒巻香織, 小池淳樹, 津川浩一郎, 福田護, 川本久紀, 西川徹, 本吉愛, 黒田貴子, 田雑瑞穂, 中野万理. 乳腺粘液癌の
神経内分泌分化の判定における INSM1 の有用性についての検討. 第 70 回日本病理学会秋期特別総会, 2024.
- 22) 藤塚航陽, 久恒靖人, 木村紗衣, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 小林慎二郎, 民上真也, 野呂瀬朋子, 渡邊麗子, 大池信之, 大坪

穀人. Rindi I 型の胃 Neuroendocrine tumor に対する治療戦略. 第 28 回日本外科病理学会学術集会, 2024.

- 23) 早川 智絵, 稲山 久美子, 西郷 千恵, 干川 晶弘, 井村 穰二, 荻野 正宗, 長宗我部 基弘, 土居 正知, 野呂瀬 朋子, 大池 信之. 肉眼型分類からみた胆管癌の細胞学的アプローチ. 第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会, 2024.
- 24) 洲上真希, 西尾美佐子, 森本毅, 藤川あつ子, 三村秀文, 近藤春裕, 大原樹, 渡邊麗子, 小泉宏隆. 卵巣子宮内膜症性嚢胞と S 状結腸深部子宮内膜症との瘻孔により膿瘍を形成した一例. 第 462 回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 2024.
- 25) 塚田美里, 野呂瀬朋子, 柳澤信之, 杉浦善弥, 小泉宏隆, 小池淳樹, 大池信之. リキッドバイオプシーのがん遺伝子パネル検査により分子標的治療が行われた膵腺房細胞癌の 2 例. 第 120 回神奈川県病理医会, 2025.
- 26) 安井 寛, 大島久美, 佐野文明, 伏屋愛加, 上村 悠, 大西威一郎, 山本浩平, 小池淳樹, 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病に対する同種造血幹細胞移植後に発症した EBV 陽性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫. 第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.
- 27) 神垣佑, 稲葉彩, 内村暢, 灘大志, 小池淳樹, 松岡健太郎, 伊藤 秀一. 膜性ループス腎炎が疑われた一女児例. 第 90 回関東小児腎臓研究会, 2025.

② 国際学会

- 1) Tanaka Kunihide, Obayashi Juma, Kawaguchi Takuya, Seki Yasuji, Berry Max, Koike Junki, Furuta Shigeyuki, Pringle KC, Kitagawa Hiroaki. Creating a urachal cyst in the fetal lamb. The Pacific Association of Pediatric Surgeons 57th Annual Meeting, 2024.
- 2) 渡邊麗子. Diagnosis of grade 2/3 gliomas by immunohistochemistry: Reliability and limitations. The 2024 XXXV Congress of the International Academy of Pathology, 2024.

③ その他

- 1) 北野史也, 白井小百合, 小山哲平, 町田慎治, 今井直彦, 市川大介, 長宗我部基弘, 小池淳樹. 胸部大動脈瘤術後に発症したびまん性結節性病変を伴う FSGS の一例. 第 115 回東京腎生検カンファレンス, 2024.
- 2) 梅本 久美子, 中原 一有, 大池 信之, 五十嵐 洋介, 薩田 祐輔, 関根 章裕, 野呂瀬 朋子, 小池 淳樹, 久保田 洋平, 永田 祐介, 武田 弘幸, 堀江 良樹, 新井 裕之, 伊澤 直樹, 立石 敬介, 砂川 優. 膵癌患者における細胞診検体の ddPCR 解析を用いた KRAS 変異測定. 聖マリアンナ医科大学医学会 第 86 回学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著		5
	解説又は総説	3	
	症例報告	1	6
	その他		1
学会発表	国内学会	27	
	国際学会		2
	その他	2	

予防医学

著書

- 1) 山内博. ヒ素による慢性毒性. 今日の治療指針 2025;(67):1083-1083.
- 2) 高田礼子, 河原邦光, 廣島健三. 石綿ばく露評価 中皮腫瘍取扱い規約 2025;(2):147-153.
- 3) 高田礼子. 医学, 衛生・公衆衛生の歴史と概念 新 建築物の環境衛生管理 2025;上(2):5-19.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yoshida Nao, Lyu Zhaoqing, Kim Sungmin, Park Nayoun, Hitomi Toshiaki, Fujii Yukiko, Kho Younglim, Choi Kyungho, Harada H Kouji. Temporal trends in exposure to parabens, benzophenones, triclosan, and triclocarban in adult females in Kyoto, Japan, from 1993 to 2016. Environmental Science and Pollution Research International, 2024;31 : 37050-37059.
- 2) Takata Ayako, Yamauchi Hiroshi, Yamashita Kiyotsugu, Aminaka Masahito, Hitomi Toshiaki, Toya Tadao, Kohyama Norihiko. Mesothelioma carcinogenesis of chrysotile and forsterite compared and validated by intraperitoneal injection in rat. Industrial Health, 2024;63 : 14-28.
- 3) Noguchi Atsuko, Tezuka Tohru, Okuda Hiroko, Kobayashi Hatasu, Harada H Kouji, Yoshida Takeshi, Akioka Shinji, Wada Keiko, Takeya Aya, Kabata-Murasawa Risako, Kondo Daiki, Ishikawa Ken, Asano Takeshi, Fujiwara Michimasa, Hishikawa Nozomi, Mizukami Tomoyuki, Hitomi Toshiaki, Youssefian Shohab, Nagai Yoshihiro, Tanaka Manabu, Eto Kaoru, Shiraishi Hideaki, Amaya Fumimasa, Koizumi Akio, Takahashi Tsutomu. Genetic Analysis of SCN11A, SCN10A, and SCN9A in Familial Episodic Pain Syndrome (FEPS) in Japan and Proposal of Clinical Diagnostic Criteria. International Journal of Molecular Sciences, 2024;25(13) : 6832.

学会発表

① 国内学会

- 1) 山内博, 高田礼子. 埋設ヒ素化学兵器由来の土壌ヒ素から発生する健康影響とその対策. 日本学会議・安全工学シンポジウム 2024, 2024.
- 2) 鎌田貴彦, 峰晴陽平, 松井恭澄, 手塚徹, 尾市雄輝, 森本貴昭, 丹治正大, 佐野徳隆, 高田茂樹, 山本悦子, 牧野恭秀, 小林果, 奥田裕子, 原田浩二, 小泉昭夫, 荒川芳輝. RNF213 欠損は GAS6 を介して髄芽腫の飢餓抵抗性を誘発する. 第 83 回脳神経外科総会, 2024.
- 3) 佐藤蓮, 加藤啓史, 相田潤, 甲田勝康, 小松雅代, 高田礼子, 馬場幸子, 村木功, 小久保喜弘, 岡村智教, 磯博康, 山岸良匡. わが国における公衆衛生学的観点からの健康診査の評価. 第 83 回日本公衆衛生学会総会, 2024.

② その他

- 1) 衛藤薫, 奥田裕子, 吉田健司, 手塚徹, 秋岡親司, 天谷文昌, 白石秀明, 和田恵子, ユーセフィアン・ショハブ, 永井義浩, 原田浩二, 小泉昭夫, 小林果, 人見敏明, 水上智之, 浅野健, 田中学, 藤原倫昌, 菱川望, 高橋勉, 野口篤子. 厚生労働省補助金【高橋勉 24FC1004】
第一回 「小児四肢疼痛発作症の就学・就労支援マニュアルの作成のための調査研究」について. 第 1 回、研究班会議, 2024.

		和 文	英 文
著 書		3	
論 文	原著		3
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		
	その他	1	

法医学

学会発表

① 国内学会

- 1) 伊藤誠敏, 鷺盛久, 景山則正, 大出透乃, 井川亨, 一場一江, 呂彩子. LC-MS/MS を用いた血中 HbA_{1c} 値測定法の構築 (第 1 報). 第 108 次日本法医学会学術全国集会, 2024.
- 2) 呂彩子, 伊藤誠敏, 景山則正, 鷺盛久, 大出透乃, 井川亨, 一場一江. 身体拘束との関係が問題となった若年者脳出血の 1 剖検例. 第 93 回日本法医学会学術関東地方集会, 2024.
- 3) 山口智美, 滝口百合, 呂彩子, 青木洋子, 古庄知己. 血管型エーラス・ダンロス症候群における死後遺伝学的検査. 第 5 回日本エーラス・ダンロス症候群研究会, 2024.

② その他

- 1) 呂彩子. 窒息・虐待. 横浜地方検察庁 「法医学勉強会」, 2024.
- 2) 渡邊廉, 佐々木海渡, 新屋敷直木, 澁谷優我, 伊藤誠敏, 小口真一, 永田栄一郎, 喜多理王. 温度勾配下におけるイノシトールリン酸の物質拡散現象. 東海大学共同研究会 2024, 2025.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		
	その他	2	

スポーツ医学

著書

- 1) 藤谷博人. 第1章 筋肉・骨について知る
 - ・筋肉と骨の役割
 - ・加齢による筋肉の変化
 - ・筋肉と筋力 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:13-29.
- 2) 井上留美子. コラム6 マリアンナヨガ教室 転倒予防のヨガ 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:131-132.
- 3) 藤谷博人. 第4章 筋活・骨活の効果を上げる食事学
 - ・筋肉の回復のために気をつけたいこと
 - ・筋肉とタンパク質の関係 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:133-139.
- 4) 井上留美子. 第4章 筋活・骨活の効果を上げる食事学
 - ・骨を守る食事法
 - ・筋肉や骨により栄養素のおすすめのとり方 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:140-153.
- 5) 井上留美子. コラム7 実は怖い骨粗鬆症 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:154-155.
- 6) 藤谷博人. 第1章 筋肉・骨について知る
 - ・加齢による骨の変化 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:32-35.
- 7) 藤谷博人. コラム2 変形性膝関節症には大腿四頭筋の筋トレが有効 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:49-50.
- 8) 室井良太. 第2章 100歳まで歩ける必要最小限の筋トレ
 - ・脚を鍛えて転倒予防
 - ・ストレッチの効果 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:51-57.
- 9) 室井良太, 藤谷博人. 第2章 100歳まで歩ける必要最小限の筋トレ
 - ・筋トレ①②③④ 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:66-73.
- 10) 藤谷博人. コラム4 「マリアンナ筋力アップ教室」の試み 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:96-98.
- 11) 井上留美子. 第3章 ヨガで筋活・骨活の効果を高める
 - ・筋活・骨活+ヨガ
 - ・呼吸でお腹を強くして体の軸を安定させる＝腹活
 - ・しなやかな背骨をつくる
 - ・背骨を安定させる
 - ・ヨガの心理的効果 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:99-120.
- 12) 室井良太, 藤谷博人. 第2章 100歳まで歩ける必要最小限の筋トレ
 - ・ストレッチ①②③ 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:58-63.
- 13) 藤谷博人. 第2章 100歳まで歩ける必要最小限の筋トレ
 - ・筋トレを行うスピード 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:64-65.
- 14) 室井良太. 第2章 100歳まで歩ける必要最小限の筋トレ
 - ・筋活のためのトレーニングは骨活にも有効 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:74-75.

- 15) 室井良太. 第2章 100歳まで歩ける必要最小限の筋トレ
・長く続けるためには 整形外科医が教える 一生歩ける！ 筋活・骨活 2024;:92-94.
- 16) 谷田部かなか. コラム5 少しずつ意欲を高める活動を増やしていく 整形外科医が教える 一生歩ける！筋活・骨活 2024;:121-121.
- 17) 谷田部かなか. 第3章 ヨガで筋活・骨活の効果を高める
・筋活・骨活で、ここにも活気を！
・運動がここにもたらすさまざまな効果 整形外科医が教える 一生歩ける！筋活・骨活 2024;:122-130.
- 18) 谷田部かなか. コラム1 健康寿命とフレイル 整形外科医が教える 一生歩ける！筋活・骨活 2024;:30-31.
- 19) 足利光平, 藤谷博人. 第1章 筋肉・骨について知る
・骨粗鬆症の要因と予防・治療 整形外科医が教える 一生歩ける！筋活・骨活 2024;:36-39.
- 20) 室井良太. 第1章 筋肉・骨について知る
・転倒の原因はどこにある？
・日常生活動作を行うために必要なバランス能力 整形外科医が教える 一生歩ける！筋活・骨活 2024;:40-48.
- 21) 室井良太, 藤谷博人. 第2章 100歳まで歩ける必要最小限の筋トレ
・プラスアルファ①②③④⑤⑥⑦⑧ 整形外科医が教える 一生歩ける！筋活・骨活 2024;:76-91.
- 22) 谷田部かなか. コラム3 屋外で行う運動の方がより幸福感を得やすい 整形外科医が教える 一生歩ける！筋活・骨活 2024;:95-95.
- 23) 足利光平. なるほど知っ得！
スポーツ × 心臓 COCORO VOICE 2024; (8):4-5.
- 24) 井上留美子. 一生スタスタ歩ける体になる整形外科ヨガ 2024;:1-128.
- 25) 染村 嵩, 遊道 和雄, 杉下 陽堂, 鈴木 由妃, 藤谷 博人, 熊井 隆智, 寺内 昂, 仁木 久照. 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と骨形成の制御 BIO Clinica 2024;13(39):58-61.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 谷田部かなか, 藤谷博人, 小野寺英孝, 室井良太, 内田将司, 日高岳, 橋本知明, 染村嵩, 井上留美子, 寺脇史子, 足利光平. アンケートを利用した小児における脳振盪および脳振盪様症状に関する調査. 日本臨床スポーツ医学会誌, 2024;32(2):255-263.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yamamoto Shuhei, Okamura Masatsugu, Akashi Yoshihiro J, Tanaka Shinya, Shimizu Masashi, Tsuchikawa Yohei, Ashikaga Kohei, Kamiya Kentaro, Kato Yuko, Nakayama Atsuko, Makita Shigeru, Isobe Mitsuaki. Impact of long-term exercise-based cardiac rehabilitation in patients with chronic heart failure - A systematic review and meta-analysis. Circulation Journal, 2024;88(9):1360-1371.
- 2) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Shu Somemura, Masahiro Takemoto, Kazuo Yudoh, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya.. Pain Candidate Genes 5-HTTLPR and COMT Affect Anxiety and Mood in Japanese Ballet Dancers: A Cross-Sectional and Longitudinal Study. Sports, 2024;12(11):293; e1-e12.

- 3) Ashikaga Kohei, Yoneyama Kihei, Hirayama Kuniaki, Monobe Yoshiro, Nose-Ogura Sayaka, Nakase Junsuke, Kobatake Naoyuki, Takemata Toshiro, Nakajima Kohei. Effects of the COVID-19 pandemic on Japanese young elite weightlifting competitive athletes. The Journal of sports medicine and physical fitness, 2025; : doi-10.23736/S0022-4707.24.15949-X.
- 4) Kato Yudai, Watanabe Hiroyuki, Kawabata Masashi, Mamorita Noritaka, Muroi Ryota, Tsuda Yukiyasu, Uchida Yuto, Tsuihiji Yusuke, Mogi Koharu, Watanabe Yuto, Sano Yuto. The effects of rhythm jump training on the rhythmic reproduction ability in jumping and agility in elementary school soccer players. children, 2025; : doi.org/10.3390/children12020133.

学会発表

① 国内学会

- 1) 古小高純章, 赤尾圭吾, 渡辺敏, 笠原西介, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 根本慎司, 桑村雄偉, 山崎太輝, 坂井健太, 木田圭亮, 足利光平, 佐々木信幸, 水越慶, 長田尚彦, 鈴木規雄, 明石嘉浩. 高齢心不全患者における退院後の日常生活困難感は, 退院後の快適歩行速度低下と関連する. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 2) 坂井健太, 吉沢和也, 笠原西介, 武市尚也, 渡邊紗都, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太輝, 古小高純章, 渡辺敏, 鈴木規雄, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 心不全患者における入院前の日常生活動作の困難感が入院関連能力障害に与える影響. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 3) 寺脇史子, 室井良太, 谷田部かなか, 井上留美子, 足利光平, 藤谷博人. マリアンナ筋力アップ教室におけるサルコペニアへの対応の試み(第6報)-3か月間のトレーニングによるSMI変化の実態-. 第78回日本体力医学会大会, 2024.
- 4) 藤谷博人. スポーツにおける脳振盪～最近の話題～医療安全の観点から. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会 第207耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会, 2024.
- 5) 山崎太輝, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 桑村雄偉, 吉沢和也, 赤尾圭吾, 渡邊紗都, 鈴木規雄, 長田尚彦, 木田圭亮, 足利光平, 水越慶, 明石嘉浩. カヘキシアを有する心不全患者において歩行速度は心不全再入院に関連する. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 6) 反町 武史, 藤谷 博人, 川原 貴, 月村 泰, 立石 智彦, 中山 晴雄, 植原 健二, 齋藤 良彦, 小松 太一, 山田 慎, 金子博徳, 森達郎. 関東高等学校アメリカンフットボールにおける過去5年間(2019-2023)の公式戦での外傷報告調査. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2024.
- 7) 谷田部かなか, 藤谷博人, 内田将司, 日高岳, 橋本知明, 室井良太, 染村嵩, 竹本昌紘, 井上留美子, 寺脇史子, 小野寺英孝, 足利光平. アンケートを利用した小児における脳振盪様症状の実態に関する調査～親の知識と小児の学習能力、脳振盪経験有無比較～. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2024.
- 8) 藤谷博人. 医学部におけるスポーツ医学教育の実態. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2024.
- 9) 永春 克磨, 土谷 雄介, 納富 充雄, 藤谷 博人. 二次元頭部モデルを用いた脳内部のひずみ計測. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2024.
- 10) 足利光平, 谷田部かなか, 室井良太, 寺脇史子, 藤谷博人. COVID-19流行下での大規模スポーツイベント開催における感染防護策と感染状況の実際調査. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2024.
- 11) 志村 優太, 納富 充雄, 藤谷 博人. ガーディアンキャップで用いられている衝撃吸収素材の静的力学試験. 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2024.
- 12) 井上留美子, 藤谷博人, 谷田部かなか, 足利光平, 室井良太. 痛覚変調性疼痛への挑戦 ～ヨガポーズ・腹式呼吸で身体を整える～. 第17回日本運動器疼痛学会, 2024.

- 13) 加藤雄大, 渡邊裕之, 河端将司, 守田憲崇, 室井良太, 津田幸保, 高平尚伸. 小学生サッカー選手におけるリズムジャンプトレーニングがリズム能力に与える影響. 第 11 回日本スポーツ理学療法学会, 2025.
 - 14) Yamasaki Taiki, Nemoto Shinji, Kasahara Yusuke, Watanabe Satoshi, Takeichi Naoya, Kuwamura Yuui, Sakai Kenta, Yoshizawa Kazuya, Akao Keigo, Kootaka Yoshifumi, Watanabe Sato, Mizukoshi Kei, Suzuki Norio, Ashikaga Kohei, Kida Keisuke, Osada Naohiko, Akashi Yoshihiro. Association between handgrip strength and prognosis in patients with heart failure complicated by atrial fibrillation. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- ② 国際学会
- 1) Ashikaga Kohei. Differences of left ventricular morphology by gender and sports discipline in Japanese elite athletes. ESC Preventiv Cardiology 2024, 2024.
- ③ その他
- 1) 藤谷 博人. スポーツにおける頭部外傷. 第 41 回日本臨床内科医会総合学術集会、スポーツ医講習会, 2024.
 - 2) 藤谷博人. 我が国のアメリカンフットボールにおける外傷および重大事故の実態. 2024 年度公認日本アメリカンフットボール協会指導員講習会(東京会場), 2024.
 - 3) 藤谷博人. 2023 年度の重大事故. 2024 年度関東学生アメリカンフットボール連盟指導者安全対策クリニック, 2024.
 - 4) 藤谷博人. 2023 年度の重大事故. 2024 年度関東高等学校アメリカンフットボール連盟安全対策クリニック, 2024.
 - 5) 藤谷博人. アメリカンフットボールにおける重症頭・頸部外傷とその予防. 北陸学生アメリカンフットボール連盟安全対策講習会, 2024.
 - 6) 谷田部かなか. 小児脳振盪の繰り返し経験による学習能力への影響. 令和 6 年度大山人間科学研究会第 1 回例会, 2024.
 - 7) 寺脇史子. 「フレイル予防のための家庭でできる筋力トレーニング」. 東京純心大学看護学部看護学科 10 周年記念講演会, 2024.
 - 8) 藤谷博人. 我が国のアメリカンフットボールにおける外傷および重大事故の実態. 2024 年度公認日本アメリカンフットボール協会指導員講習会(九州会場), 2025.
 - 9) 藤谷博人. 仕事場で役立つ運動指導 1) 頸部痛、腰痛、転倒について. 認定産業医研修会, 2025.
 - 10) 足利光平. オリンピックアスリートの運動耐容能・心血管リスク管理
～日本とイタリアのデータによる検討～. 第 18 回運動循環器病研究会, 2025.
 - 11) 藤谷博人. ヘルメットの進化と外傷の変化. 第 27 回日本アメリカンフットボール 医・科学研究会, 2025.
 - 12) 藤谷博人. スポーツドクター(帯同ドクター・チームドクター)の業務委託契約について. 令和 6 年度日本スポーツ協会加盟団体スポーツドクター代表者会協議会, 2025.
 - 13) 藤谷博人. 微弱電流(マイクロカレント)による組織修復促進効果. 第 51 回日本生体電気・物理刺激研究会, 2025.
 - 14) 藤谷博人. 頭頸部の外傷とその予防. 2024 年度関東学生アメリカンフットボール連盟医務担当者講習会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		25	
論 文	原著	1	4
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	13	1
	国際学会		1
	その他	14	

臨床検査医学

著書

- 1) 久道三佳子. これで心配ない電解質異常 若手医師/腎臓内科医が市中病院で困らないために 2024;:1-195.

学術論文[和文]

① その他

- 1) 久道三佳子, 右田王介, 信岡祐彦, 柴垣有吾. かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討-尿比重の有用性. 日本腎臓学会誌, 2024;66(4):603.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5):571-581.
- 2) Taniguchi K, Hasegawa F, Okazaki Y, Hori A, Ogata-Kawata H, Aoto S, Migita O, Kawai T, Nakabayashi K, Okamura K, Fukui K, Wada S, Ozawa K, Ito Y, Sago H, Hata K. Approaches to Evaluate Whole Exome Sequencing Data That Incorporate Genetic Intolerance Scores for Congenital Anomalies, Including Intronic Regions Adjacent to Exons. Molecular Genetics & Genomic Medicine, 2025;*:.*.

学会発表

① 国内学会

- 1) 久道三佳子. かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討-尿比重の有用性. 第67回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 2) 吉高 高士、佐治 正太、古谷 菜摘、中村 健太郎、西岡 喜美子、西村 陽子、鈴木 真波、近藤 春裕、岩淵 秀之、伊東 祐順、高江 正道、右田 王介、北東 功、鈴木 直. 胎児先天異常の精査で羊水核型異常を認め、両親の染色体検査により児の不均衡型転座が明らかとなった例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 3) 荻原 真帆、小澤 南、堀 秀之、右田 王介. ムコ多糖症Ⅱ型の児を対象とした在宅酸素補充療法に向けての体制構築の経験. 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2024.
- 4) 〇三輪 敬蔵、望月 篤、東郷 建、黄世 捷、松澤 瞳、佐野 政子、星野 紀子、信岡 祐彦、伊野 美幸. 全教職員向け多職種研修の充実に向けた取組について. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 5) 〇望月 篤、東郷 建、黄世 捷、高橋 政樹、松本 伸行、田嶋 ティナ 宏子、信岡 祐彦、伊野 美幸. 改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した新カリキュラム構築への取り組み. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 6) 右田 王介. 新生児スクリーニングの早期診断と治療における課題. 第51回日本マスキニング学会学術集会, 2024.
- 7) 原口 優海、松永 綾子、鹿野 直樹、小澤 南、荻原 真帆、田中 美砂、大星 渡、奥山 虎之、右田 王介. 新生児スクリーニング要精査のムコ多糖症Ⅰ型新生児に濾紙血でデルマタン硫酸とヘパミン硫酸測定した一例. 第51回日本マスキニング学会, 2024.
- 8) 小澤 南、右田 王介、鹿野 直樹、松永 綾子. 拡大新生児スクリーニングで要精査となった症例における遺伝カウンセリング

の困難さ。第51回日本マスキング学会，2024。

- 9) 小山亮，小波津香織，麻生芽亜，高山卓，田邊淳，渡邊詩香，久道三佳子，市川大介，柴垣有吾。肝細胞癌の化学療法中に発症した Pauci-immune 型 ANCA 陰性半月体形成性腎炎の一例。第54回日本腎臓学会東部学術大会，2024。
- 10) 若松俊樹，市川滉介，韓蔚，久道三佳子，柴垣有吾，吉田圭佑。VExUS が診断に有用であった僧帽弁置換術後心タンポナーデによる鬱血腎の1例。第54回日本腎臓学会東部学術大会，2024。
- 11) 河合智子，木下詩織，大西英理子，嘉村浩美，寺尾美穂，菅原享，右田王介，鏡雅代，磯島豪，山口有，涌井敬子，大橋博文，清水健司，水野誠司，岡本伸彦，福嶋義光，高田史男，小崎健次郎，高田修治，阿久津英憲，中林一彦，秦健一郎。Episignature caused by loss of function of NSD2. 日本人類遺伝学会第69回大会，2024。
- 12) 荻原真帆，小野結佳，小澤南，松永綾子，尾堀佐知子，宮本雄策，清水直樹，右田王介。The feelings of the family of a child diagnosed with SMA following extended NBS and the limitations of genetic analysis. 日本人類遺伝学会第69回大会，2024。
- 13) 尾堀佐知子，小野結佳，荻原真帆，朱丞華，小澤南，三橋里美，三宅紀子，右田王介，山野嘉久。A case of CDKL5 deficiency disorder diagnosed by whole genome sequencing. 日本人類遺伝学会第69回大会，2024。
- 14) 小町詩織，松永綾子，荻原真帆，小野結佳，齋藤祐貴，藤川あつ子，右田王介。A Case of Metaphyseal Chondromatosis with D-2-Hydroxyglutaric aciduria in which bone X-ray assisted the diagnosis. 日本人類遺伝学会第69回大会，2024。
- 15) 本吉愛，荻原真帆，小野結佳，小澤南，鈴木由妃，杉下陽堂，吉岡耕平，尾堀佐知子，右田王介，津川浩一郎。Pathological Evaluation Methods in Contralateral Risk-reduction Mastectomy in Patients with BRCA Positive Breast Cancer. 日本人類遺伝学会第69回大会，2024。
- 16) 松永綾子，小町詩織，荻原真帆，右田王介。D-2-ヒドロキシグルタル酸尿症とL-2-ヒドロキシグルタル酸尿症における臨床症状の違いについて。第65回日本先天代謝異常学会学術集会，2024。
- 17) ○久道三佳子，信岡祐彦，柴垣有吾，右田王介。かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討。第71回日本臨床検査医学会学術集会，2024。
- 18) 小澤南，右田王介，荻原真帆，山野嘉久，三宅紀子，清水直樹。A case with neurodorsaloid lipofuscinosis type 8 that was difficult to diagnose despite multiple genetic tests. 日本人類遺伝学会第69回大会，2024。

② 国際学会

- 1) 右田王介。Ethical issues with Newborn Screening. 第33回 World Congress of WASPPaL2024，2024。

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会	17	1
	国際学会		1
	その他		

総合診療内科学

著書

- 1) 片山皓太. 徹底深堀！蜂窩織炎ジェネラリストのための皮膚軟部組織感染症診療ガイド 2024; (1):129-130.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 佐々木 信幸, 山徳 雅人, 土田 知也, 佐藤 寛之, 山口 慶一郎. [二次出版] 倦怠感と認知機能障害を伴う新型コロナウイルス感染後遺症に対する反復性経頭蓋磁気刺激の効果. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2024;61(9) : 887-895.

② 総説又は症例解説

- 1) 大平善之. みんなの「知りたい！」低血圧の悩み. NHK テキスト きょうの健康, 2024; (12) : 36-39.
- 2) 大平善之. 低血圧 起立性低血圧に要注意！. NHK テキスト きょうの健康, 2024; (12) : 32-35.

③ その他

- 1) 石井大太. 収録音とケースで学ぶ、全身の聴診術. 兵庫保険医新聞, 2024; (2067) : 6-6.
- 2) 浅香真衣子, 松本浩, 廣瀬雅宣, 小形厚貴, 藤重瑤子, 平間千絵, アニン祥子, 隈元亜依, 宮本豊一, 長島梧郎, 高野知憲, 國島広之. 血液培養陽性症例を対象とした抗菌薬適正使用支援チームによる介入内容および臨床アウトカウの評価. 日本環境感染症学会誌, 2024;39(4) : 117-125.
- 3) 大平善之. 総合診療医の役割と医療機関への上手なかかり方. はいから Est, 2024; (148) : 2-2.
- 4) 山田亨, 片山皓太. II型呼吸不全のASL患者に非侵襲的陽圧換気(NPPV)を開始・調整後、その評価のために「直接動脈穿刺法による採血」を行った事例. 特定行為看護, 2025;1(3) : 40-47.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Katayama K, Nishizaki Y, Takada T, Kataoka K, Houchens N, Shimizu T, Yamamoto Y, Watari T, Tokuda Y, Ohira Y. The relation between resident mentorship and in-training examination scores: A nation-wide, cross-sectional study in Japan. Journal of General and Family Medicine, 2024; : DOI-10.1002/jgf2.703.
- 2) Kataoka K, Nishizaki Y, Shimizu T, Yamamoto Y, Shikino K, Nojima M, Nagasaki, K, Fukui S, Nishiguchi S, Katayama K, Kurihara M, Ueda R, Kobayashi H, Tokuda Y. Hospital Use of a Web-Based Clinical Knowledge Support System and In-Training Examination Performance Among Postgraduate Resident Physicians in Japan: Nationwide Observational Study. JMIR MEDICAL EDUCATION, 2024; : DOI-10.2196/52207.
- 3) Takeshima M, Sakurai H, Inada K, Aoki Y, Ie K, Kise M, Yoshida E, Matsui K, Utsumi T, Shimura A, Okajima I, Kotorii N, Yamashita H, Suzuki M, Kuriyama K, Shimizu E, Mishima K, Watanabe K, Takaesu Y.. Treatment strategies for insomnia in Japanese primary care physicians' practice: A Web-based questionnaire survey. BMC Primary Care, 2024; : DOI-10.1186/s12875-024-02449-7..
- 4) Yokokawa D, Uehara T, Ohira Y, Noda K, Higuchi N, Kikuchi E, Enatsu K, Ikusaka M. A Cross-Sectional Study on Whether Comprehensively Gathering Information From Medical Records Is Useful for the Collection of Operational Characteristics. Cureus ., 2024; : DOI-10.7759/cureus.61641.

- 5) Katayama K, Suzuki T, Numata K, Adachi-Katayama M, Watari T, Tokuda Y, Patel PK, Ohira Y. Infection is the Most Frequent Disease Category of Autopsy-detected Diagnostic Errors in Japan. JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE, 2024; : DOI-https://doi.org/10.60227/jhgmeibun.6.2_17.
- 6) Tsuchida T, Hirose M, Fujii H, Hisatomi R, Ishizuka K, Inoue Y, Katayama K, Nakagama Y, Kido Y, Matsuda T, Ohira Y. Evaluation of diseases complicating long COVID:A retrospective chart review. Journal of General and Family Medicine, 2024; : DOI-10.1002/jgf2.716.
- 7) Ie K, Hirose M, Sakai T, Motohashi I, Aihara M, Otsuki T, Tsuboya A, Matsumoto H, Hashi H, Inoue E, Takahashi M, Komiya E, Itoh Y, Machino R, Tsuchida T, Albert SM, Ohira Y, Okuse C.. Medication Optimization Protocol Efficacy for Geriatric Inpatients A Randomized Clinical Trial. JAMA Network Open, 2024; : DOI-10.1001/jamanetworkopen.2024.23544.
- 8) Harada T, Watari T, Watanuki S, Kushiro S, Miyagami T, Syusa S, Suzuki S, Hiyoshi T, Hasegawa S, Nabeshima S, Aihara H, Yamashita S, Tago M, Yoshimura F, Kunitomo K, Tsuji T, Hirose M, Tsuchida T, Shimizu T.. Preventable diagnostic errors of lower gastrointestinal perforation: a secondary analysis of a large-scale multicenter retrospective study. International Journal of Emergency Medicine, 2024; : DOI-10.1186/s12245-024-00781-4..
- 9) Katayama K, Takada T, Nishizaki Y, Nagasaki K, Shimizu T, Yamamoto Y, Watari T, Tokuda Y, Chopra V, Ohira Y. Self-Reported Time-at-Bedside and Its Association with In-Training Examination Scores of Residents in Japan. Journal of General Internal Medicine, 2024; : DOI-10.1007/s11606-024-09244-1.
- 10) Nakada Y, Arai M, Yamato I, Nogami T, Odaguchi H, Taniguchi D, Tomita J, Ishigami T. The effectiveness of a Kampo e-learning course incorporated into the medical education curriculum: a possible solution to instructor shortages and time constraints. BMC Medical Education, 2025; : 25-299.
- 11) Ishizuka K, Ohira Y, Ohta M. Toothache after Drinking: Alcohol-Induced Vasospastic Angina. Eur J Case Rep Intern Med, 2025; : DOI-10.12890/2025_005170.
- 12) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Ishibashi Yuki, Kawahata Kimito, Kunishima Hiroyuki, Tsuchida Tomoya, Takemura Hiromu, Minoura Ayu, Takita Mumon, Fujitani Shigeki. 90-Day outcomes in patients with severe COVID-19 pneumonia treated with invasive mechanical ventilation. Journal of Infection Chemotherapy, 2025;31(2) : 102529.

② 症例報告

- 1) Kakisako J, Otsuki T, Asakura T, Sasaki D, Ie K, Ishizuka K.. Quadruple (1440 degrees) intestinal volvulus. Clinical case reports, 2024; : DOI-10.1002/ccr3.9022.
- 2) Jun Nishinarita, Tomoya Tsuchida, Hirotoshi Fujii, Yoshiyuki Ohira. Pseudogout Localized to the Pubic Symphysis. Intern Med Advance Publication, 2024; : DOI-10.2169/internalmedicine.3825-24.
- 3) Masuyama T, Branch J, Ishizuka K, Uchida R, Otsuki T, Ie K, Okuse C. Minocycline-Induced Blue Nails. THE AMERICAN JOURNAL of MEDICINE, 2024; : DOI-10.1016/j.amjmed.2024.06.003.
- 4) Yokoi A, Ishizuka K, Motohashi I, Hiwatari M, Asakura T, Ie K.. Giant Hepatic Cyst. The American Journal of Medicine, 2024; : DOI-10.1016/j.amjmed.2024.03.002.
- 5) Otsuki T, Ishizuka K, Eto H, Nakano H, Kato Y, Sudo H, Motohashi I, Ie K, Ohira Y, Okuse C. Anti-TIF1- γ Antibody-Positive Dermatomyositis Leading to Identification of Diffuse Large B-Cell Lymphoma. Journal of

General Internal Medicine, 2024; : DOI-10.1007/s11606-024-08794-8.

- 6) Ishizuka K, Ohira Y, Ohta M. Fitz-Hugh-Curtis Syndrome. THE AMERICAN JOURNAL of MEDICINE, 2024; : DOI-10.1016/j.amjmed.2024.10.008.
- 7) Ishizuka K, Ohira Y, Ohta M. Paroxysmal toothache after drinking: Alcohol-induced vasospastic angina. European Journal of Case Reports, 2025; : DOI-10.12890/2025_005170.
- 8) Azuma Y, Otsuki T, Ishizuka K, Ie K. Summer-type hypersensitivity pneumonitis in an early adolescent Japanese male. BMJ Case Rep, 2025; : DOI-10.1136/bcr-2025-265047.
- 9) Ishizuka K, Yamamoto M, Ohira Y, Ohta M. Summer-type hypersensitivity pneumonitis. Internal and emergency medicine, 2025; : DOI-10.1007/s11739-025-03913-7.

学会発表

① 国内学会

- 1) 丑丸秀, 麻生芽亜, 藤島理恵, 角浩史, 奥瀬千晃, 富永直人. HB ワクチン接種後に HBs 抗原が陽性となった維持血液透析患者の一例. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 2) 家研也. シンポジウム 8「認知行動療法の医学教育パスウェイ: 行動科学から専門医育成まで」2024. 2024 年度日本不安症学会/日本認知療法・認知行動療法学会合同開催, 2024.
- 3) 家研也. シンポジウム 15「多職種・多領域で取り組む不安症の啓発と治療～実際に認知行動療法は普及しているか?」. 2024 年度日本不安症学会/日本認知療法・認知行動療法学会合同開催, 2024.
- 4) ◎家研也, 高橋政樹, 奥瀬千晃. 患者の減薬への積極性に関する因子の検討: 横断研究. 日本病院総合診療医学会学術総会 2024, 2024.
- 5) 後藤美春, 角浩史, 奥山恵美子, 佐藤菜摘美, 丑丸秀, 富永直人. 高アンモニア血症による意識障害を契機に血液透析を開始した症例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.

② 国際学会

- 1) Arai M, Nakada Y, Nogami T, Kinoue T, Ishigami T. Introduction of a new traditional Japanese (Kampo) medicine e-learning course into medical education curriculums. 欧州医学教育学会, 2024.

③ その他

- 1) 家研也. 他併存疾患時代のポリファーマシー対策. 第 8 回便秘ゼミ, 2024, 2024.
- 2) 家研也. 他併存疾患時代のポリファーマシー対策. 日本プライマリケア連合学会認定薬剤師研究会 2024, 2024.
- 3) ◎桑折令子, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司, 原正壽, 佐治久. 看護師による最適な禁煙指導法の検討と確立 - 当院での経験より. 第 13 回日本小児禁煙研究会学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	1	12
	解説又は総説	2	
	症例報告		9
	その他	4	
学会発表	国内学会	5	
	国際学会		1
	その他	3	

呼吸器内科学

著書

- 1) 森川慶, 石田敦子. 悪性胸膜中皮腫 研修医が知りたい対応をチャートで整理! 呼吸器診療エッセンシャル 2024;:116-122.
- 2) 半田寛. III 押さえておきたい手技・対応・治療薬 2. 気管支鏡検査 研修医が知りたい対応をチャートで整理! 呼吸器診療エッセンシャル 2024;:210-214.
- 3) 森川慶. 肺がんコンパクトパネル、肺がん遺伝子変異に対するマルチプレックス検査の変遷 気管支鏡ベストテクニック 改定3版 2024;:50-53.
- 4) 森川慶. EBUSのコツ 気管支鏡ベストテクニック 改訂3版 2024;:177-181.
- 5) 木田博隆. 異物除去 気管支鏡ベストテクニック 改訂3版 2024;:258-269.
- 6) 半田寛, 宮澤輝臣. 気管・気管支ステント治療 (Dumon, AERO) 気管支鏡ベストテクニック 改訂3版 2024;:326-340.
- 7) 峯下昌道. 気腫型 COPD に対する気管支バルブによる肺容量減量術 気管支鏡ベストテクニック 改訂3版 2024;:367-374.
- 8) 粒来崇博. 7-1 N-ERD (NSAIDs 過敏喘息、AERD、アスピリン喘息) 喘息予防・管理ガイドライン 2024 2024;:176-179.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 大嶋佑紀, 松嶋真哉, 相川駿, 小林孝至, 駒瀬裕子, 粒来崇博, 吉田美紀, 清水朋子. 軽度慢性閉塞性肺疾患患者への栄養食事指導の介入による摂取栄養量と身体組成の変化. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 2024;32(2): 239-244.
- 2) 上野純子, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 村岡弘海, 松島彩, 峯下昌道, 井上健男. アストグラフを用いた気道過敏性検査の指標とモストグラフ指標の関連. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;52(1): 7-14.
- 3) 村岡弘海, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 田中洋輔, 田中智士, 鶴岡一, 上野純子, 松島彩, 檜田直也, 峯下昌道, 井上健男. 横浜市西部病院で検出したノカルジア感染症 25 例の特徴. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;52(2): 19-26.
- 4) 加藤美奈, 檜田直也, 駒瀬裕子, 大山バク, 粒来崇博, 井上健男. 汎下垂体機能不全を呈した神経サルコイドーシスの 1 例. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌, 2024;44(1_2): 85-89.
- 5) 村岡弘海, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 金子省太郎, 田中智士, 西田真, 上野純子, 松島彩, 篠崎勇輔, 西山和宏, 西由紘, 沼田雄, 鶴岡一, 大山バク, 檜田直也, 峯下昌道, 井上健男. 横浜市西部地域における双方向病診連携システムを用いた COPD 管理の実態. 日本呼吸器学会誌, 2025;14(2): 49-56.

② 総説又は症例解説

- 1) 粒来崇博. 解熱鎮痛薬過敏喘息 (アスピリン喘息). Medicina, 2024;61(13): 2299-2302.

③ 症例報告

- 1) 牧野有花, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 松島彩, 上野純子, 村岡弘海, 森本耕三, 土方美奈子, 慶長直人, 井上健男. カルタゲナー症候群の 1 例. 日本内科学会雑誌, 2024;113(6): 988-993.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Tsuburai Takahiro, Tanaka Satoshi, Komase Yuko, Oyama Baku, Muraoka Hiromi, Shinozaki Yusuke, Nishiyama Kazuhiro, Ueno Shibuya Junko, Nishi Yoshihiro, Numata Yu, Hida Naoya, Mineshita Masamichi, Inoue Takeo. Changes in fractional exhaled nitric oxide, forced expiratory volume in one second, and forced oscillation technique parameters over three years in adults with bronchial asthma managed under Yokohama Seibu Hospital's coordinated care system. *BMC pulmonary medicine*, 2024;24(1) : 214.
- 2) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. *International journal of clinical oncology*, 2024;29(5) : 571-581.
- 3) Kamata Hirofumi, Takamatsu Kazufumi, Fukunaga Koichi, Chubachi Shotaro, Nakagawara Kensuke, Namkoong Ho, Terai Hideki, Tanaka Katsushi, Sato Susumu, Hagiwara Eri, Takei Reoto, Kondoh Yasuhiro, Takazono Takahiro, Hashimoto Midori, Tasaka Sadatomo, Ohruki Takashi, Tanino Yoshinori, Mineshita Masamichi, Komase Yuko, Miyazaki Kazuhito, Nishikawa Masanori, Ando Akira, Kita Hideo, Ichihara Eiki, Ohshimo Shinichiro, Murata Yoriyuki, Ishida Masayuki, Kobayashi Seiichi Uchida Takahiro, Tateno Hiroki y, Ikari Jun, Terashima Takeshi, Kozu Yutaka, TateishiTomoya, Shinkai Masaharu, Sagara Hironori, To Yasuo, Ito Yoko, Yamamoto Masaki, Yamamoto Yoshihiro, Kita Toshiyuki, Ito Yutaka, Tomii Keisuke, Fujita Yukio, Funaki Yoshihiro, Yatera Kazuhiro, Yamasue Mari, Komiya Kosaku, Kozawa Satoko, Manabe Hideaki, Hozumi Hironao, Horiguchi Tomoya, Kitajima Takamasa, Nakano Yasushi, Nagaoka Tetsutaro, Hojo Masayuki, Ebihara Akinori, Kobayashi Masayoshi, Takayama Koji, Jinta Torahiko, ...Yokoyama Akihito. Pulmonary function and chest CT abnormalities 3 months after discharge from COVID-19, 2020-2021: A nation-wide multicenter prospective cohort study from the Japanese respiratory society. *Respiratory Investigation*, 2024;62(4) : 572-579.
- 4) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Kida Hirotaka, Inoue Takeo. A Quantitative Computed Tomography Analysis of Fissure Integrity and Emphysema Destruction in Japanese Patients with Severe Chronic Obstructive Pulmonary Disease. *Internal medicine*, 2024;63(16) : 2269-2275.
- 5) Nishiyama Kazuhiro, Morikawa Kei, Kaneko Shotaro, Nishida Makoto, Matsushima Aya, Nishi Yoshihiro, Numata Yu, Shinozaki Yusuke, Tsuruoka Hajime, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Shimada Naoki, Okawa Chie, Ohike Nobuyuki, Koike Junki, Mineshita Masamichi. Clinical utility of rapid on-site evaluation of brush cytology during bronchoscopy using endobronchial ultrasound with a guide sheath. *Scientific Reports*, 2024;14(1) : 21334.
- 6) Shinozaki Yusuke, Morikawa Kei, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Saji Hisashi, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Ueda Yumi, Suzuki Fumihiko, Matoba Ryo, Mineshita Masamichi. A Prospective Observational Study on Analyzing Lung Cancer Gene Mutation Variant Allele Frequency (VAF) and Its Correlation with Treatment Efficacy. *International Journal of Molecular Sciences*, 2024;25(21) : 11694.
- 7) Miura Keita, Shukuya Takehito, Furuya Naoki, Morita Ryo, Kisohara Akira, Mouri Atsuto, Watanabe Satoshi, Tanaka Hisashi, Hirata Aya, Hakozaiki Taiki, Hamai Kosuke, Matsumoto Naoko, Watanabe Kana, Ashinuma Hironori, Miyauchi Eisaku, Sugano Koji, Hosokawa Shinobu, Amano Koji, Morita Satoshi, Kobayashi Kunihiro, Maemonodo Makoto, Takahashi Kazuhisa. Impact of Cachexia and First-Line Systemic Therapy for Previously Untreated Advanced Non-Small Cell Lung Cancer: NEJ050A. *Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle*, 2024; : DOI-<https://doi.org/10.1002/jcsm.13606>.

- 8) Shinozaki Yusuke, Morikawa Kei, Kida Hirotaka, Nishiyama Kazuhiro, Tanaka Satoshi, Tsuruoka Hajime, Matsuzawa Shin, Handa Hiroshi, Nishine Hiroki, Mineshita Masamichi. A prospective observation study of the dynamic monitoring of transcutaneous arterial blood oxygen saturation and carbon dioxide during bronchoscopy. *Respiratory research*, 2024;25(361) : DOI-<https://doi.org/10.1186/s12931-024-02990-0>.
- 9) Takahashi Hidenori, Morikawa Miwa, Satake Yugo, Nagamatsu Hiroki, Hirose Ryutaro, Yamada Yuka, Toba Naoya, Toyama-Kousaka Mio, Ota Shinichiro, Shinoda Masahiro, Mineshita Masamichi, Shinkai Masaharu.. Diagnostic utility of pharyngeal follicular structures in COVID-19: A large-scale cross-sectional study. *International journal of infectious diseases*, 2024;149(107244) : DOI-10.1016/j.ijid.2024.107244. .
- 10) Yoshihito Kogure, Hiroya Hashimoto, Haruko Daga, Yasushi Fukuda, Akihiro Bessho, Tadaaki Yamada, Yukihiro Toi, Tomoki Kimura, Hiroshige Yoshioka, Koichi Azuma, Naoki Furuya, Yasutaka Fukui, Akiko M Saito, Nobuyuki Yamamoto, Hideo Saka, Masashi Kondo. Pembrolizumab and Pemetrexed for Older Patients With Nonsquamous NSCLC and Programmed Cell Death-Ligand 1 Tumor Proportion Scores of Less Than 50. *JTO Clinical and Research Reports*, 2024;6(3) : 100784.
- 11) Naoki Furuya, Yukari Tsubata, Takamasa Hotta, Toshihide Yokoyama, Masahiro Yamasaki, Nobuhisa Ishikawa, Kazunori Fujitaka, Tetsuya Kubota, Kunihiro Kobayashi, Takeshi Isobe. Arterial Thromboembolism in Patients With Advanced Lung Cancer: Secondary Analyses of the Rising-VTE/NEJ037 Study. *Cancer Medicine*, 2025;14(1) : e70568.
- 12) Mitsuya Masaru, Kirimoto Tetsuo, Nishine Hiroki, Sato Shohei, Handa Hiroshi, Matsui Takemi, Mineshita Masamichi, Guanghao Sun. Spatiotemporal chest wall movement analysis using depth sensor imaging for detecting respiratory asynchrony. *Informatics in Medicine Unlocked*, 2025;53 : DOI-<https://doi.org/10.1016/j.imu.2025.10161>.
- 13) Daichi Fujimoto, Ryota Shibaki, Keiichi Kimura, Koji Haratani, Motohiro Tamiya, Takashi Kijima, Yuki Sato, Akito Hata, Toshihide Yokoyama, Yoshihiko Taniguchi, Junji Uchida, Hisashi Tanaka, Naoki Furuya, Satoru Miura, Mihoko Imaji Onishi, Shinya Sakata, Eisaku Miyauchi, Nobuyuki Yamamoto, Yasuhiro Koh, Hiroaki Akamatsu. Identification of key gene signatures for predicting chemo-immunotherapy efficacy in extensive-stage small-cell lung cancer using machine learning. *Lung Cancer*, 2025;199 : 108079.
- 14) Jun Sugisaka, Daichi Fujimoto, Motohiro Tamiya, Akito Hata, Hirotaka Matsumoto, Toshihide Yokoyama, Yoshihiko Taniguchi, Junji Uchida, Yuki Sato, Takashi Kijima, Hisashi Tanaka, Naoki Furuya, Takeshi Masuda, Yoshihiko Sakata , Eisaku Miyauchi, Go Saito, Satoru Miura, Teppei Yamaguchi, Haruko Daga, Shinya Sakata, Nobuyuki Yamamoto, Hiroaki Akamatsu. Long-term outcome of chemioimmunotherapy for extensive-stage small-cell lung cancer according to key clinical trial eligibility: 3-year outcomes from a prospective cohort study. *Lung Cancer*, 2025;199 : 108056.
- 15) Takaaki Tokito, Kazuhiko Yamada, Hidenobu Ishii, Yuichi Takiguchi, Go Saito, Koichi Minato, Hisao Imai, Hiroshi Tanaka, Satoru Miura, Kageaki Watanabe, Yoshifusa Koreeda, Akira Ono, Naoki Furuya, Toshihiro Misumi, Kazushige Hayakawa, Etsuyo Ogo, Hiroaki Okamoto. Single-arm multicenter phase II study on aggressive local consolidative therapy in combination with systemic chemotherapy for stage IV non-small cell lung carcinoma with oligometastases: CURE-OLIGO (TORG1529). *Radiation Oncology*, 2025;20(1) : 2.

- 16) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Ishibashi Yuki, Kawahata Kimito, Kunishima Hiroyuki, Tsuchida Tomoya, Takemura Hiromu, Minoura Ayu, Takita Mumon, Fujitani Shigeki. 90-Day outcomes in patients with severe COVID-19 pneumonia treated with invasive mechanical ventilation. *Journal of Infection Chemotherapy*, 2025;31(2) : 102529.
- 17) Fukui Tomoya, Mamesaya Nobuaki, Takahashi Toshiaki, Kishi Kazuma, Yoshizawa Takahiro, Tokito Takaaki, Azuma Koichi, Morikawa Kei, Igawa Satoshi, Okuma Yusuke, Yamanaka Yuta, Hosokawa Shinobu, Kasai Takashi, Masubuchi Ken, Nakamichi Shinji, Aga Masaharu, Sasaki Jiichiro, Kada Akiko, Saito-M Akiko, Naoki Katsuhiko, Okamoto Hiroaki; Thoracic Oncology Research Group (TORG). A Prospective Phase II Trial of First-Line Osimertinib for Patients With EGFR Mutation-Positive NSCLC and Poor Performance Status (OPEN/TORG2040). *Journal of Thoracic Oncology*, 2025; : DOI-<https://doi.org/10.1016/j.jtho.2024.12.027>.
- 18) Tae Hata, Tadaaki Yamada, Yasuhiro Goto, Akihiko Amano, Yoshiki Negi, Satoshi Watanabe, Naoki Furuya, Tomohiro Oba, Tatsuki Ikoma, Akira Nakao, Keiko Tanimura, Hirokazu Taniguchi, Akihiro Yoshimura, Tomoya Fukui, Daiki Murata, Kyoichi Kaira, Shinsuke Shiotsu, Makoto Hibino, Asuka Okada, Yusuke Chihara, Hayato Kawachi, Takashi Kijima, Koichi Takayama. Comparative analysis of first-line treatment in NSCLC including unresectable stage III (IIIB/IIIC) and stage IV with low PD-L1 expression: Clinical trial eligible versus ineligible patients. *Lung Cancer*, 2025;200 : 108104.
- 19) Yuki Katayama, Tadaaki Yamada, Keiko Tanimura, Hayato Kawachi, Masaki Ishida, Yohei Matsui, Soichi Hirai, Ryota Nakamura, Kenji Morimoto, Naoki Furuya, Sachiko Arai, Yasuhiro Goto, Yoshihiko Sakata, Kazumi Nishino, Michiko Tsuchiya, Akihiro Tamiya, Go Saito, Satoshi Muto, Takayuki Takeda, Koji Date, Yasuhiro Fujisaka, Satoshi Watanabe, Daichi Fujimoto, Hisanori Uehara, Mano Horinaka, Toshiyuki Sakai, Seiji Yano, Shinsaku Tokuda, Koichi Takayama. YAP Regulates HER3 Signaling-Driven Adaptive Resistance to RET Inhibitors in RET-Aberrant Cancers. *Clinical Cancer Research*, 2025;31(6) : 1127-1141.
- 20) Kenji Morimoto, Tadaaki Yamada, Naoki Furuya, Hisashi Tanaka, Akihiro Yoshimura, Tomohiro Oba, Makoto Hibino, Takahito Fukuda, Yasuhiro Goto, Akira Nakao, Shinsuke Ogusu, Yuta Okazaki, Taishi Harada, Takayo Ota, Ken Masubuchi, Koji Mikami, Tae Hata, Shoki Matsumoto, Ryoichi Honda, Koji Date, Yusuke Chihara, Koichi Takayama. Exploration of clinical Biomarkers for guiding treatment selection between chemotherapy and combination therapy with Atezolizumab, Bevacizumab, Carboplatin, and Paclitaxel in EGFR-Mutant NSCLC patients after EGFR-TKI Therapy: The SPIRAL-STEP study. *Lung Cancer*, 2025;201 : 108447.
- 21) Ishida Atsuko, Miyazawa Teruomi, Handa Hiroshi, Tsuruoka Hajime, Nishine Hiroki, Kida Hirotaka, Furuya Naoki, Inoue Takeo, Mineshita Masamichi. Therapeutic Bronchoscopy for Central Airway Obstruction: A Long-Term, Single-Center Review. *Respiratory Endoscopy*, 2025;3(1) : 12-17.

② 総説又は症例解説

- 1) Furuya Naoki, Homma Takahiro, Saji Hisashi. Neoadjuvant dual immuno-combination therapy with anti-PD-1 antibodies is feasible and safe for resectable non-small cell lung cancer. *Journal of Thoracic Disease*, 2025;17(2) : 528-530.
- 2) Mineshita Masamichi, Kida Hirotaka, Morikawa Kei, Handa Hiroshi, Nishine Hiroki. Bronchoscopic Lung Volume Reduction with One-way Valves: A Review of Clinical Outcomes and Future Directions. *Respiratory Endoscopy*, 2025;3(1) : 1-11.

③ 症例報告

- 1) Ebisuda Rikako, Furuya Naoki, Inoue Takeo, Kaneko Shotaro, Numata Yu, Shinozaki Yusuke, Mineshita Masamichi. Repeating late-phase pseudo-progression in a patient with non-small cell lung cancer treated with long-term nivolumab monotherapy; a case report. *Frontiers in Oncology*, 2024;14(1353698) : DOI-10.3389/fonc.2024.1353698.

学会発表

① 国内学会

- 1) 西根広樹, 宇都宮賢太郎, 田中智士, 佐藤正平, 松井岳巳, 峯下昌道. Depth camera を用いた COPD における呼吸機能の評価. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 2) 峯下昌道, 西根広樹, 半田寛, 木田博隆, 古屋直樹, 森川慶, 石田敦子, 松澤慎, 鶴岡一. 人工呼吸管理を要した重症コロナウイルス肺炎の診断 90 日後の予後調査. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 3) 高橋秀徳, 永松寛基, 山田有佳, 廣瀬龍太郎, 鳥羽直弥, 高坂美央, 太田真一郎, 森川美羽, 篠田雅宏, 峯下昌道, 新海正晴. 抗 MAC 抗体陽性, 非結核性抗酸菌未検出例の臨床的検討. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 4) 森川慶. 多様化する遺伝子パネル検査～検体採取の原則と運用の変化～. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 5) 西山和宏, 森川慶, 金子省太郎, 松島彩, 西田真, 西由紘, 沼田雄, 鶴岡一, 半田寛, 西根広樹, 島田直樹, 大川千絵, 大池 信之, 小池淳樹, 峯下昌道. 経気管支生検の迅速細胞診の有用性. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 6) 森川慶. 多様化する肺がん遺伝子パネル検査の現状と展望. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 7) 半田寛. 重症喘息患者 6 例における気管支サーモプラスティの長期有効性と安全性. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 8) 峯下昌道. 気管支バルブによる気管支鏡的肺容量減量術～当施設での取り組みも含めて～. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 9) 村岡弘海, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 田中智士, 鶴岡一, 上野純子, 松島彩, 檜田直也, 井上健男. 横浜市西部病院で検出したノカルジア感染症 25 例の検討. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 10) 上野純子, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 松島彩, 村岡弘海, 田中智士, 大山バク, 檜田直也, 峯下昌道, 井上健男. 横浜市西部地域の喘息病診連携症例におけるアレルギー感作の経年変化. 第 121 回日本内科学会講演会, 2024.
- 11) 松島彩, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 上野純子, 村岡弘海, 田中智士, 大山バク, 檜田直也, 井上健男, 峯下昌道. 横浜市西部地域の喘息病診連携症例におけるアレルギー感作の実態. 第 121 回日本内科学会講演会, 2024.
- 12) 吉村薫子, 鶴岡一, 西山和宏, 國島広之, 峯下昌道. 遷延するリツキシマブ投与後 COVID-19 肺炎に対してレムデシビルとエンシトレビルを併用した一例. 第 259 回日本呼吸器学会関東地方会, 2024.
- 13) 高橋樹乃, 西根広樹, 西田真, 金子省太郎, 西由紘, 西山和宏, 田中智士, 篠崎勇輔, 鶴岡一, 石田敦子, 森川慶, 古屋直樹, 木田博隆, 半田寛, 粒来崇博, 峯下昌道. 外来通院中の慢性閉塞性肺疾患患者における治療についての検討. 第 259 回日本呼吸器学会関東地方会, 2024.
- 14) 島田直樹, 小堺彩加, 情野響, 篠原祐香里, 佐藤由佳, 花山直美, 大川千絵, 森川慶, 渡邊麗子, 小池淳樹. 当院における呼吸器細胞診新報告様式導入の問題点抽出と今後の展望. 第 65 回日本臨床細胞学会総会 (春季大会) 多様性が育む細胞診の未来, 2024.
- 15) 花山直美, 小堺彩加, 情野響, 篠原祐香里, 佐藤由佳, 島田直樹, 大川千絵, 森川慶, 渡邊麗子, 小池淳樹. ROSE 時に行う肺がんコンパクトパネル検査の運用と工夫. 第 65 回日本臨床細胞学会総会 (春季大会) 多様性が育む細胞診の未来, 2024.

- 16) 大岡正道, 老沼大輔, 峯下昌道. 距離を中心とした紹介状マスのデータの分析～covid19 の影響～. 第 26 回日本医療マネジメント学会学術集会, 2024.
- 17) 半田寛. 第 36 回気管支鏡セミナー 治療. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 18) 森川慶. 教育講演 良性疾患の気管支鏡所見. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 19) 西山和宏, 鶴岡一, 半田寛, 金子省太郎, 西田真, 西由紘, 沼田雄, 田中智士, 篠崎勇輔, 松澤慎, 森川慶, 古屋直樹, 木田博隆, 西根広樹, 石田敦子, 粒来崇博, 峯下昌道. 悪性気道狭窄に対する初回気道ステント留置の予後に関する検討. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 20) 木田博隆. EWS にて治癒し得た, 仰臥位にてリーク停止する続発性難治性気胸 3 例の検討. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 21) 高橋秀徳, 永松寛基, 山田有佳, 廣瀬龍太郎, 鳥羽直弥, 高坂美央, 太田真一郎, 森川美羽, 篠田雅宏, 峯下昌道, 新海正晴. FIM スコアに基づく COVID-19 の予後予測. 第 72 回日本化学療法学会総会, 2024.
- 22) 森川慶. 寺子屋式症例検討セミナー クライオ生検. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 23) 木田博隆. 教育講演 重症 COPD への気管支バルブ. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 24) 森川慶. 細胞検体を用いた肺がんコンパクトパネル検査 (LCCP) の多施設前向き試験 (c PANEL) ～ペア細胞検体の解析～. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 25) 森川慶, 西山和宏, 鶴岡一, 木田博隆, 半田寛, 峯下昌道. ハイビジョン気管支鏡による粘液線毛輸送系 (外層粘液) の直視下動的観察. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 26) 関口翔斗, 楠野宏明, 小林和也, 倉科佑太, 田川義之, 森川慶. 遺伝子変異の検出に十分量の細胞検体を採取する BAL～流体力学に基づく検体採取に効果的な「気泡流れ」～. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 27) 森川慶. 肺がん個別化医療による最適なアプローチ～気管支鏡検査から薬物治療まで～. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 ランチョンセミナー 8, 2024.
- 28) 高橋 秀徳. COVID-19 の論文を書いていた Academic book への寄稿を依頼されました～Accepted Paper Session 発表の後日談～. 第 98 回 日本感染症学会学術講演会, 2024.
- 29) 森川慶. 非小細胞肺癌の診断と治療の進歩
～扁平上皮癌の臨床的特徴～. 第 260 回日本呼吸器学会関東地方会, 2024.
- 30) 西田皓平, 松澤慎, 伏屋愛加, 玉井勇人, 國島広之, 棚橋淳子, 峯下昌道. リツキシマブ使用歴がある SARS-CoV-2 抗原定量高値持続例にレムデシビルに他の治療薬を併用した一例. 第 260 回日本呼吸器学会関東地方会, 2024.
- 31) 古屋直樹. A Review of NSCLC Treatment
～使い慣れてきた Checkmate レジメン～. 第 199 回日本肺癌学会関東支部学術集会 コーヒーブレイクセミナー, 2024.
- 32) 森川慶. 非小細胞肺癌における EGFR uncommon 変異の検出とアンメットニーズ
「適時・適材な検体採取法」. 第 199 回日本肺癌学会関東支部学術集会 コーヒーブレイクセミナー 2, 2024.
- 33) 粒来崇博, 田中智士, 駒瀬裕子, 大山バク, 村岡弘海, 篠崎勇輔, 西山和宏, 上野純子, 西由紘, 沼田雄, 檜田直也, 峯下昌道, 井上健男. 気管支喘息病診連携における FENO、FEV1、モストグラフの 3 年間の変化. 第 90 回臨床アレルギー研究会, 2024.
- 34) 半田寛. 第 63 回 (2024 年) ACCP 日本部会賞受賞講演
再発性多発軟骨炎の気道病変に対する呼吸器内視鏡治療の up to date. 第 116 回 ACCP 日本部会定期教育講演会, 2024.
- 35) 峯下昌道. 重症気腫型 COPD の新しい治療選択肢～気管支バルブによる Bronchoscopic Lung Volume Reduction (BLVR) ～. 第 93 回日本呼吸器学会、日本結核 非結核性抗酸菌症学会、日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会、九州支部秋季学術

講演会, 2024.

- 36) 鶴岡一, 粒来崇博, 田中智士, 西山和宏, 松見文晶, 峯下昌道. 呼吸器疾患における簡易的な臭い紙を用いた副鼻腔炎疾患スクリーニングの有用性. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 2024.
- 37) 金子省太郎, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 松島彩, 上野純子, 村岡弘海, 田中智士, 峯下昌道, 井上健男. 横浜市西部地域の喘息病診連携症例におけるアレルギー感作の経年変化とIgG4値の関連. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 2024.
- 38) 田中智士, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 松島彩, 金子省太郎, 上野純子, 村岡弘海, 大山バク, 檜田直也, 峯下昌道, 井上健男. 当院の喘息病診連携症例中の気道過敏性評価. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 2024.
- 39) 佐々木浩昭, 山口裕礼, 山口奈央, 薄場彩乃, 石田明, 粒来崇博. 重症アレルギー性疾患治療における生物学的製剤の使用実態と医療費制度利用の分析. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 2024.
- 40) 森川慶, 田中寿志, 高田佐織, 渡部聡, 岸一馬, 副島研造, 解良恭一, 各務博, 吉村健一, 松谷哲行, 関順彦. EGFR変異陽性肺癌に対するafatinibまたはosimertinibを一次治療とした第2相試験(Heat on Beat): 安全性続報. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024.
- 41) 村上修司, 森川慶, 高島雄太, 沖昌英, 都竹晃文, 南大輔, 藤井慎嗣, 中村誠二, 佐藤慶治, 上田由美, 鈴木史彦, 横瀬智之, 峯下昌道. ドライバー変異アレル頻度と腫瘍含有率の関係: cPANEL探究的解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024.
- 42) 森川慶. LCCP (Lung Cancer Compact Panel) の最新の知見と展望. 第65回日本肺癌学会学術集会 ランチョンセミナー14, 2024.
- 43) 島居厚志, 沖昌英, 森川慶, 高島雄太, 都竹晃文, 村上修司, 南大輔, 藤井慎嗣, 品川尚文, 浅野文祐, 中村誠二, 佐藤慶治, 上田由美, 鈴木史彦, 横瀬智之, 峯下昌道. 細胞検体を用いた肺がんコンパクトパネル検査の多施設前向き試験(cPANEL): ペア細胞検体の解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024.
- 44) 森川慶, 峯下昌道, 佐藤慶治, 中村誠二, 上田由美, 鈴木史彦, 佐治久, 大池信之, 小池淳樹. EGFR遺伝子変異のアレル頻度と分子標的薬の治療効果: コンパクトパネル第2相試験解析. 第65回日本肺癌学会学術集会, 2024.
- 45) 西根広樹. 難治性の非結核性抗酸菌症に対して多職種で連携して吸入抗菌薬治療を導入した1例. 第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 46) 島田直樹, 花山直美, 佐藤由佳, 篠原佑香里, 情野響, 小堺彩加, 大川千絵, 森川慶, 杉浦善弥, 渡邊麗子, 小池淳樹. 細胞検体を用いた肺がんコンパクトパネルの有用性と運用. 第63回日本臨床細胞学会秋期大会, 2024.
- 47) 半田寛, 西山和宏, 鶴岡一, 森川慶, 峯下昌道. 当院における再発性多発軟骨炎に対する内視鏡治療. 第28回呼吸器インターベンションセミナー, 2024.
- 48) 西由紘, 森川慶, 半田寛, 木田博隆, 鶴岡一, 峯下昌道. 胸腔鏡検査で狭帯域光観察(narrow band imaging: NBI)が有用と考えられた2例. 第28回呼吸器インターベンションセミナー, 2024.
- 49) 鶴岡一, 西山和宏, 半田寛, 峯下昌道. 呼吸器専門医不在地域において呼吸器インターベンション治療を行うための工夫. 第28回呼吸器インターベンションセミナー, 2024.
- 50) 松島彩, 鶴岡一, 蛭田ゆり野, 西由紘, 沼田雄, 西山和宏, 森内麻美, 森川慶, 半田寛, 峯下昌道. 気管支脂肪腫診断に対する内視鏡的アプローチにおける2症例の検討. 第191回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2024.
- 51) 森川慶. 凍結生検の基本と手技の多様化. 第32回日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医大会, 2025.
- 52) 峯下昌道. 気管支バルブ治療の現状と今後の展望. 第32回日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医大会, 2025.
- 53) 石井嵩也, 森川慶, 沼田雄, 中村誠二, 佐藤慶治, 峯下昌道. オンコマインおよびコバス陰性、コンパクトパネルでEGFR

Ex20 insertion 陽性で PAPILLON レジメンが奏効した 1 例. 第 201 回 日本肺癌学会関東支部学術集会, 2025.

- 54) 蛭田ゆり野, 森川慶, 沼田雄, 篠崎勇輔, 古屋直樹, 木田博隆, 半田寛, 西根広樹, 粒来崇博, 小島宏司, 峯下昌道. キシロカインアレルギーに対応した気管支鏡検査の 2 例. 第 192 回 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2025.
- 55) Takahashi Hidenori, Nagamatsu Hiroki, Yamada Yuka, Hirose Ryutarou, Toba Naoya, Kousaka Mio, Ota Shinichiro, Morikawa Miwa, Shinoda Masahiro, Mineshita Masamichi, Shinkai Masaharu. Clinical Presentation of Cytomegalovirus Infections During the Coronavirus Disease 2019 Pandemic. 第 64 回 日本呼吸器学会学術講演会, 2024.
- 56) 古屋直樹. PD-L1 低発現進行非小細胞肺癌における治験適格基準をふまえた複合免疫療法の検討. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) Saito Go, Ko Ryo, Shiko Yuki, Nagai Yoshiaki, Ebina-Shibuya Risa, Isobe Kazutoshi, Nishiyama Kazuhiro, Wakui, Hiroshi, Takashima Yuta, Sonehara Kei, Shimamura Shoko, Kaira Kyoichi, Nakahara Yoshiro, Ashinuma Hironori, Nagashima Hiromi, Suzuki Yohei, Chubachi Kei, Maemondo Makoto, Kobayashi Kunihiro, Shukuya Takehito. A retrospective study of 157 patients comparing platinum-anthracycline to other platinum-combination for untreated unresectable thymoma: NEJ023B. ASCO 2024 Annual Meeting, 2024.
- 2) Akamatsu H, Fujimoto D, Nakatochi M, Tamiya M, Kijima T, Sato Y, Matsumoto H, Hata A, Hara S, Taniguchi Y, Yokoyama T, Uchida J, Miura A, Furuya Naoki, Sugisaka J, Miyauchi E, Sakata S, Tanaka H, Yamamoto N, Koh Y. Multi-Omics Analysis of Patients with Extended-Disease Small Cell Lung Cancer Who Received Chemoimmunotherapy: APOLLO-Bio Study. 2024 World Conference on Lung Cancer, 2024.
- 3) Morikawa Kei, Takashima Yuta, Oki Masahide, Tsuzuku Akifumi, Murakami Shuji, Minami Daisuke, Fujii Shinji, Shinagawa Naofumi, Asano Fumihiko, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Ueda Yumi, Suzuki Fumihiko, Yokose Tomoyuki, Tanabe Kenichiro, Mineshita Masamichi. A phase 3 multicenter study to evaluate the accuracy and clinical usefulness of the high-sensitivity next-generation sequencing panel using cytological specimens for lung cancer (cPANEL). ERS Congress 2024, 2024.
- 4) Kida G., Fujisaki T., Miyauchi E., Kikuchi H., Hommura F., Yokoo K., Tanaka H., Kikuchi T., Jingu D., Sugisaka J., Watanabe K., Yoshimura N., Nakagawa T., Nogawa H., Sato M., Nakazawa K, Soda S., Takigami A., Arai D., Masubuchi K., Miura Y., Miura Y., Nagai Y., Matsumoto N., Oba T, Namba Y., Ashinuma H., Saito G., Kamimura M., Takahashi S., Isobe K., Miyawaki T., Nishiyama K., Sakashita H., Nozaki K., Inomata M., Umeda Y., Tateishi K., Tetsumoto S., Tamiya M., Tsubata Y., Masuda K., Matsumoto N., Obata H., Yamaji Y., Harada M., Ohnishi H., Nakao A., Morita S., Maemondo M. The Efficacy of Durvalumab after Concurrent Chemoradiotherapy for EGFR-Mutated Stage III Non-Small Cell Lung Cancer (NEJ063). World Conference on Lung Cancer 2024, 2024.
- 5) Handa Hiroshi, Tanaka Satoshi, Morikawa Kei, Nishine Hiroki, Mineshita Masamichi. Interventional bronchoscopy in patients with endobronchial tuberculosis - a single center review. ERS Congress 2024, 2024.
- 6) Tanaka Satoshi, Nishine Hiroki, Utsunomiya Kentaro, Sato Shohei, Masui Takemi, Handa Hiroshi, Mineshita Masamichi. Assessment of pulmonary function using an infrared Time-of-Flight depth image sensor in patients with COPD. ERS Congress 2024, 2024.

- 7) Morikawa Kei. Convex EBUS. The 23rd World Congress of Bronchology and Interventional Pulmonology/World Congress for Bronchoesophagology, 2024.
- 8) Morikawa Kei. Endobronchial Ultrasound - guided Transbronchial Cryo - nodal Biopsy. The 23rd World Congress of Bronchology and Interventional Pulmonology/World Congress for Bronchoesophagology, 2024.
- 9) Morikawa Kei. EBUS Mini Probe for Peripheral Lung Lesion. The 23rd World Congress of Bronchology and Interventional Pulmonology/World Congress for Bronchoesophagology, 2024.
- 10) Nishine Hiroki. Recent Developments in the Management of Tracheobronchomalacia. The 23rd World Congress of Bronchology and Interventional Pulmonology/World Congress for Bronchoesophagology, 2024.
- 11) Nishiyama Kazuhiro, Tsuruoka Hajime, Handa Hiroshi, Kaneko Syotaro, Nishida Makoto, Matsushima Aya, Nishi Yoshihiro, Numata Yu, Tanaka Satoshi, Shinozaki Yusuke, Morikawa Kei, Furuya Naoki, Kida Hirotaka, Nishine Hiroki, Ishida Atsuko, Tsuburai Takahiro, Mineshita Masamichi. Prognostic factors for initial airway stenting for malignant airway obstruction. The 23rd World Congress of Bronchology and Interventional Pulmonology/World Congress for Bronchoesophagology, 2024.
- 12) Tanahashi Junko, Morita Katsuhiko. Assessing the safety of saline injection during bronchoscopy in patients with COPD. The 23rd World Congress of Bronchology and Interventional Pulmonology/World Congress for Bronchoesophagology, 2024.
- 13) Mineshita Masamichi. The Role of Interventional Pulmonology in Chronic Lung Disease. The 23rd World Congress of Bronchology and Interventional Pulmonology/World Congress for Bronchoesophagology, 2024.
- 14) Tanahashi Junko, Yamamoto Ryo, Nishida Kohei, Tsunoda Akihito, Mineshita Masamichi. A case of acupuncture-related pneumothorax. The 28th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology, 2024.
- 15) Takahashi Hidenori, Ota Shinichiro, Satake Yugo, Nagamatsu Hiroki, Hirose Ryutaro, Toba Naoya, Toyama-Kousaka Mio, Morikawa Miwa, Mineshita Masamichi, Shinkai Masaharu. Epidemiological study of cytomegalovirus disease in a single institution before and after the onset of COVID-19 pandemic. APSR 2024, 2024.
- 16) Tsuruoka Hajime. The Impact of Driver Gene Alteration Type on the Efficacy of Immune Checkpoint Inhibitors. ESMO Asia Congress 2024, 2024.

③ その他

- 1) 森川慶. 安全・低侵襲・高精度な気管支鏡検査を目指して. 手技も踏まえて、明日から実践！Lung Cancer Web Seminar in 山口, 2024.
- 2) 森川慶. 非小細胞肺癌における個別化医療の現在地と RETEVM0 適正使用のポイント. Lilly Lung Cancer Symposium 2024, 2024.
- 3) 森川慶. 遺伝子パネル検査の最大化～遺伝子変異をいかに検出するか～. NSCLC Expert Cross Talk～明日から実践！肺癌の検査から治療まで～, 2024.
- 4) 森川慶. 個別化医療の現在地～遺伝子パネル検査の課題と RET 肺癌～. Lilly Lung Cancer Web Seminar, 2024.
- 5) 森川慶. EGFR 遺伝子検査の重要性・最新の Knowhow について. Lung cancer seminar in Obihiro, 2024.
- 6) 森川慶. EBUS 画像を読む. Hands on Seminar in SAGA, 2024.
- 7) 鶴岡一. 呼吸器疾患における簡易的な匂い紙を用いた副鼻腔炎の評価. Severe Asthma Management Forum, 2024.
- 8) 森川慶. 遺伝子パネル検査の性能と適切な EGFR 変異陽性 NSCLC 治療. Lung Cancer Web Conference, 2024.
- 9) 鶴岡一. COPD 治療における吸入療法を考える～臨床でよく遭遇する患者像を含めて～. - AZ COPD - 吸入療法セミナー

, 2024.

- 10) 森川慶. 変わりゆく臨床ニーズに対応した気管支鏡検査. Chugai BronCHOnnection ～5th Season～, 2024.
- 11) 森川慶. 肺癌診断の重要性: KRAS って稀少!?. LUMAKRAS Web Seminar, 2024.
- 12) 峯下昌道. 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) について
～新たな治療「気管支鏡的肺容量減量術」も含めて～. 社内レクチャー, 2024.
- 13) 鶴岡一. 食道がん治療における気道インターベンションと IV 期肺癌の現状. Lung Cancer Seminar with Esophageal Cancer, 2024.
- 14) 峯下昌道. COPD 治療における気管支鏡的肺容量減量術～COPD 治療と BLVR 術前・術後管理について～. Respiratory Specialist Seminar, 2024.
- 15) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ③, 2024.
- 16) 西山和宏. 当院における呼吸器インターベンションの現状と未来. Respiratory Meeting 未来への 81 歩, 2024.
- 17) 森川慶. 肺がんコンパクトパネルの新たな展開. NSCLC 個別化医療の現在と未来, 2024.
- 18) 鶴岡一. 実臨床におけるテブミトコ錠の使用経験. NSCLC 個別化医療の現在と未来, 2024.
- 19) 森川慶. 臨床試験の結果をひも解く～統計的視点～. 第 24 回 KTORG 講演会, 2024.
- 20) 西山和宏. 悪性気道狭窄に対する初回気道ステント留置術の予後に関する検討. 第 48 回 KRC 神奈川呼吸コンgres
, 2024.
- 21) 森川慶. 細胞検体を対象とした肺がんコンパクトパネル活用のメリット. DNA チップ研究所主催 Web セミナー, 2024.
- 22) 鶴岡一. ①当院における LCNEC の診断と治療について
②ICI を用いた肺癌周術期治療について. 第 2 回呼吸器臨床病理カンファレンス, 2024.
- 23) 森川慶. 高齢者肺癌の治療戦略. PLUS CHUGAI Web 講演会, 2024.
- 24) 森川慶. 分子標的薬へ繋げるための気管支鏡検査の最新トピックス. Respiratory Endoscopy Seminar in 京滋, 2024.
- 25) 鶴岡一. COPD 治療に対する薬物療法と重症患者における気管支鏡的肺容量減量術. 第 3 回 呼吸器疾患研究会, 2024.
- 26) 森川慶. irAE チーム連携「MIST」の取り組み. NSCLC Hybrid WEB Seminar, 2024.
- 27) 鶴岡一. 重症 COPD 患者における気管支鏡的肺容量減量術. 多摩川呼吸器ミーティング 2024, 2024.
- 28) 半田寛. 気管支内視鏡の診断、気管支病変を有する真菌症について. 社内教育講演会, 2024.
- 29) 鶴岡一. 呼吸器疾患と真菌症について. 社内教育講演会, 2024.
- 30) 井上健男. 間質性肺炎について. 間質性肺炎 地域医療連携セミナー, 2024.
- 31) 棚橋淳子. 間質性肺疾患の病態及び診療のポイント. 間質性肺炎 地域医療連携セミナー, 2024.
- 32) 鶴岡一. コンパクトパネルによる肺癌遺伝子変異の検出と治療選択. Lung Cancer Symposium, 2024.
- 33) 古屋直樹. ①PD-L1 陰性でヤーボイが必要な患者像とは?
②PD-L1 陰性で 2 2 7 レジメンを IC する際のポイントは?. NSCLC WEB Live Seminar -Y 併用の意義-, 2024.
- 34) 森川慶. 個別化医療の現在地～遺伝子パネル検査の課題と RET 肺癌～. Lung Cancer Live Seminar, 2024.
- 35) 森川慶. EGFR 遺伝子変異陽性肺癌の治療戦略. Lilly Lung Cancer Seminar, 2024.
- 36) 古屋直樹. 化学療法選択可能な患者さんの一次治療において、化学療法の要・不要をどう判断すべきか. NSCLC Live in Kanagawa, 2024.
- 37) 森川慶. EGFR 遺伝子変異陽性肺癌～患者さんへの最適な治療～. Think About Treatment Strategy for Stage IV NSCLC in Kanagawa, 2024.

- 38) 古屋直樹. 化学療法選択可能な患者さんの一次治療において、化学療法の要・不要をどう判断すべきか. NSCLC Collabo Web Seminar 0919, 2024.
- 39) 森川慶. 検体採取のコツと EGFR 陽性肺癌におけるシーケンス治療. 肺がん 診断・検査・治療 講演会 ～大切な時間を1秒でも長く、つなぐ～, 2024.
- 40) 森川慶. 個別化医療の現在地～遺伝子パネル検査の課題と EGFR 遺伝子変異陽性肺癌～. 宮崎肺癌診療セミナー, 2024.
- 41) 森川慶. 肺癌のマルチ遺伝子検査の運用のポイントと遺伝子変異陽性肺癌における薬物療法について. Lilly NSCLC Web 講演会～肺癌の遺伝子検査と薬物療法について考える～, 2024.
- 42) 半田寛. 実臨床における重症喘息に対する Mepolizumab の使用を考える. GSK 重症喘息セミナー in 川崎, 2024.
- 43) 古屋直樹. 複合免疫療法への期待と副作用対策. 肺がん最新情報セミナー, 2024.
- 44) 古屋直樹. 劇的な進歩を遂げた新後期肺癌治療と腎障害. Onco-Nephrology Web Seminar in kawasaki, 2024.
- 45) 森川慶. EBUS-TBNA & GS のコツ～良質な検体を採取するために～. 第 37 回 Respiratory Endoscopy Technical Seminar, 2024.
- 46) 森川慶. 多様化する EGFR 陽性肺癌の治療～本邦での長期生存を考える～. 第 10 回これからの肺癌治療を考える会, 2024.
- 47) 古屋直樹. ASCO ガイドラインの改定ポイント～Pembrolizumab の臨床データを紐解きながら～. Expert から学ぶ! 肺がん免疫療法セミナー, 2024.
- 48) 森川慶. EGFR 遺伝子変異肺癌～手技・検査のコツから治療まで～. 肺癌 診断・検査・治療 勉強会, 2024.
- 49) 鶴岡一. 呼吸器疾患における簡易的な匂い紙を用いた副鼻腔炎の評価. CRS Up To Date Forum～最新の治療と病診・他科連携～, 2024.
- 50) 棚橋淳子. 咳について. 杏林製薬社内勉強会, 2024.
- 51) 蛭田ゆり野. 気管支鏡直視下所見での鑑別診断. 第 9 回 Respiratory Endoscopy Technical Web Seminar ～肺癌個別化医療のための手技～, 2024.
- 52) 森川慶. NBI のニッチな有用性について. 第 9 回 Respiratory Endoscopy Technical Web Seminar ～肺癌個別化医療のための手技～, 2024.
- 53) 西山和宏. POSEIDON レジメンから学ぶ症例ディスカッション. Lung Cancer Expert Meeting with POSEIDON - IV 期 NSCLC 治療を考える -, 2024.
- 54) 棚橋淳子. 連続パルスオキシメーター検査の外来での活用. 在宅呼吸管理研究会, 2024.
- 55) 棚橋淳子. 連続パルスオキシメトリー検査の外来での活用. 第 33 回 神奈川在宅呼吸管理研究会, 2024.
- 56) 森川慶. 肺癌コンパクトパネルの実運用と展望. Lung Cancer Related Seminar, 2024.
- 57) 森川慶. 肺がんコンパクトパネルの実運用と展望. 第 2 回 Lung Cancer Focus on Pathology Meeting, 2024.
- 58) 森川慶. 肺がん免疫治療の最新戦略. Lung Cancer Seminar, 2024.
- 59) 森川慶. 多様化する肺がん複合免疫治療. お昼の Lung Cancer Seminar, 2024.
- 60) 森川慶. 肺癌コンパクトパネルのポイントと本邦での EGFR 遺伝子変異陽性肺癌のシーケンス戦略. Lilly NSCLC Web 講演会, 2025.
- 61) 棚橋淳子. 気管支喘息の基礎知識と患者指導のポイント. 令和 6 年度公害健康被害被認定者家庭療養指導事業研修会, 2025.
- 62) 森川慶. RELAY で”つなぐ”日本人のシーケンス戦略～2024 年のアップデートから再考する～. Lilly Lung Cancer Webinar 遺伝子変異陽性肺癌のアップデート, 2025.
- 63) 古屋直樹. ASCO ガイドラインの改定ポイント～Pembrolizumab の臨床データを紐解きながら～. 肺癌治療セミナー2025～周

術期から進行再発まで～，2025.

- 64) 棚橋淳子. 成人ぜん息の最新知識. 川崎市アレルギー疾患対策市民向け講演会および個別相談, 2025.
- 65) 森川慶. EGFR 遺伝子変異肺癌～気管支鏡インターベンションと肺癌治療の未来～
気管支鏡手技で治療できる特殊症例 患者さんの紹介基準. 最新気管支鏡手技と肺癌治療の未来, 2025.
- 66) 森川慶. 日常診療におけるビットフォール～ココだけの話～. KANAGAWA Next Generation Network, 2025.
- 67) 森川慶. 肺癌マルチプレックス検査の最新情報. Lung Cancer Web Seminar, 2025.
- 68) 森川慶. EBUS Convex Probe for Mediastinal Lesion. 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ①, 2025.
- 69) 森川慶. 肺癌遺伝子パネル検査の諸問題. Lung Cancer Expert Web Seminar, 2025.
- 70) 鶴岡一. 知っておきたい特発性間質性肺炎について. 間質性肺炎 地域医療連携セミナー, 2025.
- 71) 森川慶. 肺癌マルチプレックス検査の最新情報. 臨床と病理を結ぶカンファレンス 2025, 2025.

		和 文	英 文
著 書		8	
論 文	原著	5	21
	解説又は総説	1	2
	症例報告	1	1
	その他		
学会発表	国内学会	54	2
	国際学会		16
	その他	71	

循環器内科学

著書

- 1) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器疾患/慢性心不全 疾患概要と治療の基本方針 健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 2024; (1):55-58.
- 2) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器疾患/慢性心不全 心機能低下を伴う、あるいは心機能が保たれている心不全に対するジギタリス使用の適否および用いる場合の使い方は? 健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 2024; (1):59-63.
- 3) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器疾患/慢性心不全 心機能低下を伴う、あるいは心機能が保たれている心不全に対する β 遮断薬の適否および用いる場合の使い方は? 健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 2024; (1):64-68.
- 4) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器疾患/慢性心不全 心機能低下を伴う、あるいは心機能が保たれている心不全に対するACE阻害薬・ARBの適否および用いる場合の使い方は? 健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 2024; (1):69-73.
- 5) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器疾患/慢性心不全 心機能低下を伴う、あるいは心機能が保たれている心不全に対する利尿薬の適否および用いる場合の使い方は? 健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 2024; (1):74-77.
- 6) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器疾患/慢性心不全 心機能低下を伴う、あるいは心機能が保たれている心不全に対する抗アルドステロン薬の適否および用いる場合の使い方は? 健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 2024; (1):78-81.
- 7) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器疾患/慢性心不全 心機能低下を伴う、あるいは心機能が保たれている心不全に対するアンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬の適否および用いる場合の使い方は? 健康寿命を考えた日常頻用薬の選び方・使い方 2024; (1):82-85.
- 8) 出雲昌樹. 基本的な手技と描出 中部食道アプローチ 循環器内科医のための経食道心エコー 基本的な手技から術中・術前の評価までよくわかる! 治療方針の決定に役立つ実践マニュアル 2024; (1):25-33.
- 9) 出雲昌樹. 基本的な手技と描出 深部食道アプローチ 循環器内科医のための経食道心エコー 基本的な手技から術中・術前の評価までよくわかる! 治療方針の決定に役立つ実践マニュアル 2024; (1):34-35.
- 10) 出雲昌樹. 基本的な手技と描出 経胃アプローチ 循環器内科医のための経食道心エコー 基本的な手技から術中・術前の評価までよくわかる! 治療方針の決定に役立つ実践マニュアル 2024; (1):36-39.
- 11) 出雲昌樹. 疾患別評価の実際 大動脈弁狭窄症 循環器内科医のための経食道心エコー 基本的な手技から術中・術前の評価までよくわかる! 治療方針の決定に役立つ実践マニュアル 2024; (1):79-87.
- 12) 佐藤如雄. 疾患別評価の実際 僧帽弁狭窄症 循環器内科医のための経食道心エコー 基本的な手技から術中・術前の評価までよくわかる! 治療方針の決定に役立つ実践マニュアル 2024; (1):97-106.
- 13) 出雲昌樹. 大動脈弁膜疾患 今日の治療指針 2025年版 2025;:404-406.
- 14) 栗田真吾. I 弁膜症 3. 僧帽弁閉鎖不全(MR) Cardioband™, Intrepid™ SHD インターベンションコンプリートガイド 2025; (2):151-157.
- 15) 出雲昌樹. I 弁膜症 5. 三尖弁閉鎖不全(TR) 病態とマネジメント SHD インターベンションコンプリートガイド 2025; (2):208-218.
- 16) 栗田真吾. I 弁膜症 5. 三尖弁閉鎖不全(TR) カテーテル治療 SHD インターベンションコンプリートガイド 2025; (2):226-233.
- 17) 宮原大輔, 木田圭亮. 2章 診断・評価の歩き方
2 慢性期の診断・評価の歩き方 心不全診療の歩き方 2025;:32-34.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 松田迪, 佐藤如雄, 宮原大輔, 奥野泰史, 鈴木規雄, 栗田真吾, 古賀将史, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩
・ V-A ECMO を要した心原性ショック症例における予後予測因子の検討. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;52(3) : 51-60.

② 総説又は症例解説

- 1) 鈴木規雄. 【急性期のリハビリテーション栄養】内科 急性心不全. リハビリテーション栄養, 2024;8(1) : 33-39.
- 2) 木田圭亮, 吉田俊哉, 宮原大輔. 【高齢者心不全治療のアップデート】高齢者心不全と栄養. 日本老年医学会雑誌, 2024;61(2) : 134-138.
- 3) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【腫瘍循環器学-新しい学際領域の最新知見-】外来診療, がんサバイバーシップ 腫瘍循環器リハビリテーション. 日本臨床, 2024;82(増刊 2) : 442-448.
- 4) 長田尚彦, 竹村美歩. 東横病院感染管理班としての COVID-19 対応の歴史について. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;51(特集増刊) : 273-278.
- 5) 石橋祐記, 明石嘉浩. 循環器内科が取り組んだ感染症後外来(後遺症)の診療・治療・取組. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;51(特集増刊) : 193-196.
- 6) 塩川則子, 出雲昌樹. 【AI 時代における超音波医学の展望と課題】日常検査における AI アプリケーションの使用経験. 超音波 TECHNO, 2024;36(2) : 16-19.
- 7) 鈴木規雄. 【ホスピタリストのための栄養療法】(Part 3)入院編:急性期からの栄養療法各論 心不全における栄養療法 急性心不全と慢性心不全, 入院から外来まで ステージの進行で求められるギアチェンジ. Hospitalist, 2024;11(3) : 683-691.
- 8) 塩川則子, 出雲昌樹. 今月の!検査室への質問に答えます MitraClip 前後の心エコー検査の評価方法を教えてください. 臨床検査, 2024;68(5) : 658-661.
- 9) 宮原大輔, 佐藤如雄. 【負荷心エコーで疾患の何がみえる?】治す 負荷心エコーを大動脈弁狭窄症の治療に活かす!. Heart View, 2024;28(6) : 589-597.
- 10) 栗田真吾. 【改めて押さえない、SHD 治療の今】治す 三尖弁閉鎖不全症に対する治療を再考する. Heart View, 2024;28(7) : 680-685.
- 11) 古賀将史, 栗田真吾, 田邊康宏. 【スキルアップ心不全治療-診断からフォローまで】逆紹介後の適切な心不全治療 TAVI, MitraClip, ASD 閉鎖栓. 診断と治療, 2024;112(7) : 873-878.
- 12) 栗田真吾. 【構造的疾患 Structural Heart Disease (SHD) 心不全パンデミック時代の最先端治療】進歩する SHD の低侵襲カテーテル治療. Medical Practice, 2024;41(10) : 1530-1532.
- 13) 木田圭亮, 吉田俊哉, 宮原大輔, 明石嘉浩. 循環器病予防総説(シリーズ 43) 記述疫学編 わが国における心不全の疫学. 日本循環器病予防学会誌, 2024;59(3) : 198-208.
- 14) 出雲昌樹. 【構造心疾患のカテーテル治療-修理やパーツ交換ができる臓器:心臓】Key words AS マネジメントにおける心エコー医の役割. カレントセラピー, 2024;42(11) : 955.
- 15) 伊藤伸悟, 木田圭亮. 【いま身につけたい CKD 患者を診るチカラ腎機能を診るチカラ 病態評価、薬剤選択、合併症管理、腎代替療法など身近な症例で学ぶ 31 テーマ】(第 3 章)CKD 患者を救急外来で診るときに知っておきたいこと CKD 患者のトロポニン上昇. レジデントノート, 2024;26(14) : 2535-2542.
- 16) 佐藤如雄. 【負荷心エコーのキホンとステップアップ】6 分間歩行試験を用いた負荷心エコー. 心エコー, 2024;25(12) : 1211-1217.

- 17) 鈴木規雄. 心不全の栄養療法. 日本臨床生理学会雑誌, 2024;54(5) : 177-185.
- 18) 古賀将史. 【12 誘導心電図徹底攻略治療はもう始まっている!】 治す TAVI 時代到来, 古くて新しい左室肥大のエコー&心電図. Heart View, 2025;29(1) : 64-69.
- 19) 笠川彰, 木田圭亮. 【不整脈管理 Q & A - 研修医からの質問 110 -】 薬物療法 徐脈性不整脈. 救急・集中治療, 2025;36(5) : 941-947.
- 20) 明石嘉浩. 【胸痛-見逃さない、間違えない診断と専門医紹介のタイミング】 緊急を要する胸痛: 救急車で転送が必要な場合 たこつば症候群. 診断と治療, 2025;113(1) : 57-61.
- 21) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【がん学際領域とリハビリテーション医学・医療-多学際領域との協働で奏でる臨床腫瘍学の未来】 Cardio-Oncology Rehabilitation(腫瘍循環器リハビリテーション). Journal of Clinical Rehabilitation, 2025;34(2) : 141-147.
- 22) 田邊康宏. 【集中治療における血管疾患・合併症の管理】 急性静脈血栓塞栓症. ICU と CCU, 2025;49(3) : 137-143.

③ 症例報告

- 1) 尾崎さなみ, 佐藤如雄, 山家充起, 金光陽子, 石橋祐記, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 原田智雄, 明石嘉浩. 劇症型心筋炎による難治性両心不全に対し長期的に両心補助管理を行った 1 例. Therapeutic Research, 2024;45(7) : 429-433.
- 2) 寺内佳梨, 宮原大輔, 村田理沙子, 小田隆太郎, 奥野泰史, 佐藤如雄, 桑田真吾, 石橋祐記, 出雲昌樹, 田邊康宏, 明石嘉浩. 高度大動脈弁閉鎖不全症を背景に有する高度の機能性僧帽弁閉鎖不全症に対して経皮的僧帽弁クリップ修復術を行った 1 例. Therapeutic Research, 2024;45(7) : 423-428.
- 3) 伊藤伸悟, 御手洗敬信, 田邊康宏, 明石嘉浩. 右房内に脱落した下大静脈フィルターの回収に難渋した 1 例. 心臓, 2024;56(7) : 729-733.
- 4) 松田迪, 佐藤如雄, 鈴木規雄, 石橋祐記, 明石嘉浩. 著明な心筋石灰化を来した劇症型心筋炎の一例. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;52(3) : 61-67.
- 5) 山本雄太郎, 方波見卓行, 池田七海, 中西 亨, 松田央郎, 本田美紗, 志村和浩, 本間桂子, 曾根正勝, 長谷川奉延. 急性心筋梗塞による心肺停止を契機に発見された 17α 水酸化酵素欠損症 (17α -OHD) の一例. ACTH RELATED PEPTIDES, 2025;35 : 10-12.

④ その他

- 1) 長田尚彦. 成田論文に対する Editorial comment TAVI 前後における 6MWD の改善群と低下群の比較検討. 心臓リハビリテーション, 2024;30(3-4) : 285.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Okuno Taishi, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko, Kuwata Shingo, Ishibashi Yuki, Sato Yukio, Koga Masashi, Okuyama Kazuaki, Suzuki Norio, Kida Keisuke, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro J. Impact of the MitraClip G4 system on routine practice and outcomes in patients with secondary mitral regurgitation. Circulation Journal, 2024;88(4) : 531-538.
- 2) Chatani Ryuki, Yamashita Yugo, Morimoto Takeshi, Muraoka Nao, Umetsu Michihisa, Nishimoto Yuji, Takada Takuma, Ogihara Yoshito, Nishikawa Tatsuya, Ikeda Nobutaka, Otsui Kazunori, Sueta Daisuke, Tsubata Yukari, Shoji Masaaki, Shikama Ayumi, Hosoi Yutaka, Tanabe Yasuhiro, Tsukahara Kengo, Nakanishi Naohiko, Kim Kitae, Ikeda Satoshi, Mushiake Kazunori, Kadota Kazushige, Ono Koh, Kimura Takeshi. Edoxaban for 12 vs. 3 months in cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis according to different doses: nsights from the ONCO

- DVT study. *European Heart Journal Cardiovascular Pharmacotherapy*, 2024;10(5) : 422-431.
- 3) Tanaka Tetsu, Sugiura Atsushi, Kavsir Refik, Öztürk Can, Wilde Nihal, Zimmer Sebastian, Nickenig Georg, Weber Marcel, Vogelhuber Johanna. Changes in right ventricular function and clinical outcomes following tricuspid transcatheter edge-to-edge repair. *European Journal of Heart Failure*, 2024;26(4) : 1015-1024.
 - 4) Kotoku Nozomi, Ninomiya Kai, Masuda Shinichiro, Tsai Tsung Ying, Revaiah Pruthvi C, Garg Scot, Kageyama Shigetaka, Tu Shengxian, Kozuma Ken, Kawashima Hideyuki, Ishibashi Yuki, Nakazawa Gaku, Takahashi Kuniaki, Okamura Takayuki, Miyazaki Yosuke, Tateishi Hiroki, Nakamura Masato, Kogame Norihiro, Asano Taku, Nakatani Shimpei, Morino Yoshihiro, Ishida Masaru, Katagiri Yuki, De Martino Fernando, Tinoco João, Guimarães Patricia O, Tanabe Kengo, Ozaki Yukio, Muramatsu Takashi, Lemos Pedro A, Onuma Yoshinobu, Serruys Patrick W. Geographic disparity of pathophysiological coronary artery disease characteristics: Insights from ASET trials. *International Journal of Cardiology*, 2024;400 : 131805-doi: 10.1016/j.ijcard.2024. .
 - 5) Saito Tetsuya, Inohara Taku, Tsuruta Hikaru, Yashima Fumiaki, Shimizu Hideyuki, Fukuda Keiichi, Ohno Yohei, Nishina Hidetaka, Izumo Masaki, Asami Masahiko, Naganuma Toru, Mizutani Kazuki, Yamawaki Masahiro, Tada Norio, Yamanaka Futoshi, Shirai Shinichi, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Watanabe Yusuke, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Pre-existing left bundle branch block and clinical outcomes after transcatheter aortic valve replacement. *JACC Asia*, 2024;4(4) : 306-319.
 - 6) Shiokawa Noriko, Izumo Masaki, Shimamura Toshio, Kurosaka Yui, Sato Yukio, Okamura Takanori, Akashi Yoshihiro. J. Accuracy and efficacy of artificial intelligence-derived automatic measurements of transthoracic echocardiography in routine clinical practice. *Journal of Clinical Medicine*, 2024;13(7) : 1861-doi: 10.3390/jcm13071861.
 - 7) Ninomiya Kai, Serruys Patrick W, Garg Scot, Kageyama Shigetaka, Kotoku Nozomi, Masuda Shinichiro, Revaiah Pruthvi C, O'leary Neil, Kappetein Arie Pieter, Mack Michael J, Holmes David R, Davierwala Piroze M, Mohr Friedrich W, Thuijs Daniel JFM, Onuma Yoshinobu. γ -glutamyl transferase and long-term survival in the SYNTAXES trial: Is it just the liver?. *Journal of the American Heart Association*, 2024;13(8) : e032276-doi: 10.1161/JAHA.123.032276. .
 - 8) Yamamoto Masanori, Yashima Fumiaki, Shirai Shinichi, Tada Norio, Naganuma Toru, Yamawaki Masahiro, Yamanaka Futoshi, Mizutani Kazuki, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Ohno Yohei, Izumo Masaki, Nishina Hidetaka, Suzuyama Hiroto, Yamasaki Kazumasa, Nishioka Kenji, Hachinohe Daisuke, Fuku Yasushi, Otsuka Toshiaki, Asami Masahiko, Watanabe Yusuke, Hayashida Kentaro. Performance and outcomes of the SAPIEN 3 Ultra RESILIA transcatheter heart valve in the OCEAN-TAVI registry. *EuroIntervention*, 2024;20(9) : 579-590.
 - 9) Serruys Patrick W, Kageyama Shigetaka, Pompilio Giulio, Andreini Daniele, Pontone Gianluca, Mushtaq Saima, La Meir Mark, De Mey Johan, Tanaka Kaoru, Doenst Torsten, Teichgräber Ulf, Schneider Ulrich, Puskas Johan D, Narula Jagat, Gupta Himanshu, Agarwal Vikram, Leipsic Jonathon, Masuda Shinichiro, Kotoku Nozomi, Tsai Tsung-Ying, Garg Scot, Morel Marie-Angele, Onuma Yoshinobu. Coronary bypass surgery guided by computed tomography in a low-risk population. *European Heart Journal*, 2024;45(20) : 1804-1815.

- 10) Miyahara Daisuke, Izumo Masaki, Sato Yukio, Shoji Tatsuro, Yamaga Mitsuki, Kobayashi Yoshikuni, Kai Takahiko, Okuno Taishi, Kuwata Shingo, Koga Masaki, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro J. Cardiac power output is associated with adverse outcomes in patients with preserved ejection fraction after transcatheter aortic valve implantation. *European Heart Journal Imaging Methods and Practice*, 2024;2(2) : qyae048-doi: 10.1093/ehjimp/qyae048.
- 11) Russo Giulio, d'Aiello Alessia, Pedicino Daniela, Kuwata Shingo, Sangiorgi Giuseppe Massimo, Taramasso Maurizio, Maisano Francesco. Understanding transcatheter edge-to-edge repair "knobology": Advanced catheter steering for different scenarios of transseptal puncture. *Catheterization and Cardiovascular Interventions*, 2024;103(7) : 1138-1144.
- 12) Sugiura Atsushi, Yamamoto Masanori, Saji Mike, Asami Masahiko, Enta Yusuke, Nakashima Masaki, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Junichi, Nakajima Yoshifumi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Adachi Yuya, Otsuka Toshiaki, Kubo Shunsuke, Nickenig Georg, Hayashida Kentaro. Cardiac damage in degenerative mitral regurgitation treated with transcatheter mitral edge-to-edge Repair. *Circulation Cardiovascular Interventions*, 2024;17(6) : e013794-doi: 10.1161/CIRCINTERVENTIONS.123.013794. .
- 13) Vogelhuber Johanna, Tanaka Tetsu, Kavsur Refik, Goto Tadahiro, Öztürk Can, Silaschi Miriam, Nickenig Georg, Zimmer Sebastian, Weber Marcel, Sugiura Atsushi. Outcomes of transcatheter tricuspid edge-to-edge repair in patients with right ventricular dysfunction. *Circulation Cardiovascular Interventions*, 2024;17(6) : e013156-doi: 10.1161/CIRCINTERVENTIONS.123.013156. .
- 14) Kasagawa Akira, Nakajima Ikutaro, Nakayama Yui, Togashi Daisuke, Sasaki Kenichi, Matsuda Hisao, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro J. Preoperative prediction of shock impedance for subcutaneous implantable cardioverter defibrillator using chest computed tomography. *Circulation Journal*, 2024;88(7) : 1147-1154.
- 15) Higuma Takumi, Akashi Yoshihiro J, Fukumoto Yoshihiro, Obara Hitoshi, Kakuma Tatsuyuki, Asaumi Yasuhide, Yasuda Satoshi, Sakuma Ichiro, Daida Hiroyuki, Shimokawa Hiroaki, Kimura Takeshi, Iimuro Satoshi, Nagai Ryoza. Residual coronary risk factors associated with long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with high- vs. low-dose statin therapy - REAL- CAD substudy. *Circulation Journal*, 2024;88(6) : 995-1003.
- 16) Sano Madoka, Takegami Misa, Amano Masashi, Tanaka Hidekazu, Ando Kenji, Kitai Takeshi, Miyake Makoto, Komiya Tatsuhiko, Izumo Masaki, Kawai Hiroya, Eishi Kiyoyuki, Yoshida Kiyoshi, Kimura Takeshi, Nawada Ryuzo, Sakamoto Tomohiro, Shibata Yoshisato, Fukui Toshihiro, Minatoya Kenji, Tsujita Kenichi, Sakata Yasushi, Sugio Kumiko, Koyama Tadaaki, Fujita Tomoyuki, Nishimura Kunihiro, Izumi Chisato, Furukawa Yutaka. R₂-CHA₂DS₂-VASc score for cardiovascular event prediction after bioprosthetic valve replacement - Subanalysis from the BPV-AF registry. *Circulation Reports*, 2024;6(8) : 341-348.

- 17) Nonaka Hideaki, Asami Masahiko, Horiuchi Yu, Tanaka Jun, Yoshiura Daiki, Komiyama Kota, Yuzawa Hitomi, Tanabe Kengo, Sago Mitsuru, Tanaka Shuhei, Chatani Ryuki, Hachinohe Daisuke, Naganuma Toru, Ohno Yohei, Tani Tomoyuki, Okamatsu Hideharu, Mizutani Kazuki, Watanabe Yusuke, Izumo Masaki, Saji Mike, Mizuno Shingo, Ueno Hiroshi, Kubo Shunsuke, Shirai Shinichi, Nakashima Masaki, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Prognostic impact of increase in left atrial volume following left atrial appendage closure: Insights from the OCEAN-LAAC registry. *International Journal of Cardiology Heart and Vasculature*, 2024;53 : 101449-doi: 10.1016/j.ijcha.2024.101449.
- 18) Shirai Shinichi, Yamamoto Masanori, Yashima Fumiaki, Hioki Hirofumi, Ryuzaki Toshinobu, Morofuji Toru, Naganuma Toru, Yamanaka Futoshi, Mizutani Kazuki, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Ohno Yohei, Izumo Masaki, Nishina Hidetaka, Suzuyama Hiroto, Yamasaki Kazumasa, Hachinohe Daisuke, Fuku Yasushi, Otsuka Toshiaki, Asami Masahiko, Watanabe Yusuke, Hayashida Kentaro. Initial results of intra-annular self-expandable valves: Insights from the OCEAN-TAVI registry. *JACC Asia*, 2024;4(7) : 536-544.
- 19) Hioki Hirofumi, Yamamoto Masanori, Watanabe Yusuke, Ohno Yohei, Yashima Fumiaki, Naganuma Toru, Tada Norio, Shirai Shinichi, Yamanaka Futoshi, Mizutani Kazuki, Noguchi Masahiko, Izumo Masaki, Takagi Kensuke, Asami Masahiko, Ueno Hiroshi, Nishina Hidetaka, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Size of self-expandable transcatheter heart valve and mid-term adverse events after transcatheter aortic valve replacement. *The American Journal of Cardiology*, 2024;223 : 156-164.
- 20) Warisawa Takayuki, Cook Christopher M, Ahmad Yousif, Howard James P, Seligman Henry, Rajkumar Christopher, Toya Takumi, Doi Shunichi, Nakajima Akihiro, Nakayama Masafumi, Vera-Urquiza Rafael, Yuasa Sonoka, Sato Takao, Kikuta Yuetsu, Kawase Yoshiaki, Nishina Hidetaka, Al-Lamee Rasha, Sen Sayan, Lerman Amir, Matsuo Hitoshi, Akashi Yoshihiro J, Escaned Javier, Davies Justin E. Physiological assessment with iFR prior to FFR measurement in left Main disease. *Cardiovascular Intervention and Therapeutics*, 2024;39(3) : 241-251.
- 21) Nakashima Masaki, Yamamoto Masanori, Sago Mitsuru, Tanaka Shuhei, Chatani Ryuki, Asami Masahiko, Hachinohe Daisuke, Naganuma Toru, Ohno Yohei, Tani Tomoyuki, Okamatsu Hideharu, Mizutani Kazuki, Watanabe Yusuke, Izumo Masaki, Saji Mike, Mizuno Shingo, Ueno Hiroshi, Kubo Shunsuke, Shirai Shinichi, Hayashida Kentaro. Comparative data of procedural and midterm outcomes in patients who underwent percutaneous left atrial appendage closure between the WATCHMAN FLX and WATCHMAN 2.5 devices - Insight from the OCEAN-LAAC registry. *Circulation Journal*, 2024;88(7) : 1187-1197.
- 22) Harada Tomonari, Naser Jwan A, Tada Atsushi, Doi Shunichi, Ibe Tatsuro, Pislaru Sorin V, Eleid Mackram F, Sorimachi Hidemi, Obokata Masaru, Reddy Yogesh N V, Borlaug Barry A. Cardiac function, haemodynamics, and valve competence with exercise in patients with heart failure with preserved ejection fraction and mild to moderate secondary mitral regurgitation. *European Journal of Heart Failure*, 2024;26(7) : 1616-1627.
- 23) Ludwig Sebastian, Koell Benedikt, Weimann Jessica, Donal Erwan, Patel Dhairya, Stolz Lukas, Tanaka Tetsu, Scotti Andrea, Trenkwalder Teresa, Rudolph Felix, Samim Daryoush, von Stein Philipp, Giannini Christina, Dreyfus Julien, Paradis Jean-Michel, Adamo Marianna, Karam Nicole, Bohbot Yohann, Bernard Anne, Melica Bruno, Quagliana Angelo, Lavie Badie Yoan, Kessler Mirjam, Chehab Omar, Redwood Simon, Lubos Edith, Søndergaard Lars, Metra Marco, Primerano Chiara, Iliadis Christos, Praz Fabien, Gerçek Muhammed, Xhepa Erion, Nickenig Georg, Latib Azeem, Schofer Niklas, Makkar Raj, Granada Juan F, Modine Thomas, Hausleiter Jorg, Kalbacher

- Daniel, Coisne Augustin. Impact of intraprocedural mitral regurgitation and gradient following transcatheter edge-to-edge repair for primary mitral regurgitation. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2024;17(13) : 1559-1573.
- 24) Tada Atsushi, Doi Shunichi, Harada Tomonari, Ibe Tatsuro, Naser Jwan A, Amdahl Matthew, Reddy Yogesh N V, Borlaug Barry A. Autoimmune disorders in heart failure with preserved ejection fraction. *JACC Heart Failure*, 2024;12(7) : 1257-1269.
 - 25) von Stein Philipp, Wienemann Hendrik, von Stein Jennifer, Sugiura Atsushi, Tanaka Tetsu, Kavsar Refik, Öztürk Can, Weber Marcel, Haurand Jean Marc, Horn Patrick, Kister Tobias, Mahabadi Amir Abbas, Boeder Niklas, Ruf Tobias, Gerçek Muhammed, Mues Christoph, Grothusen Christina, Novotny Julia, Weckbach Ludwig, Guthoff Henning, Rudolph Felix, Polzin Amin, Baldus Stephan, Rassaf Tienush, Thiele Holger, Möllmann Helge, Kelm Malte, Rudolph Volker, von Bardeleben Ralph Stephan, Nef Holger, Luedike Peter, Lurz Philipp, Hausleiter Jorg, Pfister Roman, Mauri Victor. Early outcomes of two large mitral valve transcatheter edge-to-edge repair devices-A propensity score matched multicenter comparison. *Journal of Clinical Medicine*, 2024;13(14) : 4187-doi: 10.3390/jcm13144187..
 - 26) Kagiya Nobuyuki, Abe Yukio, Kusunose Kenya, Kato Nahoko, Kaneko Tomohiro, Murata Azusa, Ota Mitsuhiro, Shibayama Kentaro, Izumo Masaki, Watanabe Hiroyuki. Multicenter validation study for automated left ventricular ejection fraction assessment using a handheld ultrasound with artificial intelligence. *Scientific Reports*, 2024;14(1) : 15359-doi: 10.1038/s41598-024-65557-5..
 - 27) Onishi Hirokazu, Izumo Masaki, Watanabe Yusuke, Okutsu Masaaki, Hozawa Koji, Shoji Tatsuro, Sato Yukio, Kuwata Shingo, Akashi Yoshihiro J. Prognostic value of extraaortic-valvular cardiac damage in patients with moderate aortic stenosis and reduced left ventricular ejection fraction. *Echocardiography*, 2024;41(8) : e15892-doi: 10.1111/echo.15892..
 - 28) Murakami Tsutomu, Watanabe Yusuke, Nakamura Norihito, Natsumeda Makoto, Ohno Yohei, Nakazawa Gaku, Ikari Yuji, Kataoka Akihisa, Nishihata Yosuke, Hayashida Kentaro, Yamamoto Masanori, Tanaka Jun, Jujo Kentaro, Izumo Masaki, Mizutani Kazuki, Kozuma Ken. Clinical efficacy of tolvaptan in acute decompensated heart failure patients with severe aortic stenosis and atrial fibrillation: a sub-analysis from the LOHAS registry. *Heart and Vessels*, 2024;39(8) : 687-695.
 - 29) Kagiya Nobuyuki, Kaneko Tomohiro, Amano Masashi, Sato Yukio, Ohno Yohei, Obokata Masaru, Sato Kimi, Okada Taiji, Hoshino Naoki, Yamashita Kentaro, Katsuta Yuko, Izumi Yuki, Ota Mitsuhiro, Mochizuki Yasuhide, Sengoku Kaoruko, Sasaki Shunsuke, Nagura Fukuko, Nomura Nanaka, Nishikawa Ryo, Kato Nahoko, Sakamoto Takahiro, Eguchi Noriko, Senoo Maiko, Kitano Mariko, Takaya Yoichi, Saijo Yoshihito, Tanaka Hidekazu, Nochioka Kotaro, Omori Nami, Tabata Minoru, Minamino Tooru, Hirose Naoki, Morita Kojiro, Machino-Ohtsuka Tomoko, Delgado Victoria, Abe Yukio. Clinical outcomes of mitral valve surgery in atrial functional mitral regurgitation in the REVEAL-AFMR registry. *JAMA Network Open*, 2024;7(8) : e2428032-doi: 10.1001/jamanetworkopen.2024.28032..
 - 30) Onishi Hirokazu, Izumo Masaki, Naganuma Toru, Akashi Yoshihiro J, Nakamura Sunao.. Usefulness of vena contracta for identifying severe secondary mitral regurgitation: A three-dimensional transesophageal echocardiography study. *Reviews in Cardiovascular Medicine*, 2024;24(8) : 233-doi: 10.31083/j.rcm2408233..

- 31) Kato Shingo, Kitai Takeshi, Utsunomiya Daisuke, Azuma Mai, Fukui Kazuki, Hagiwara Eri, Ogura Takaashi, Ishibashi Yuki, Okada Taiji, Kitakata Hiroki, Shiraishi Yasuyuki, Torii Shunsuke, Ohashi Koichi, Takamatsu Kazufumi, Yokoyama Akihitso, Hirata Ken-Ichi, Matsue Yuya, Node Koichi. Myocardial injury by COVID-19 infection assessed by cardiovascular magnetic resonance imaging – A prospective multicenter study. *Circulation Journal*, 2024;88(9) : 1450–1458.
- 32) Yamamoto Shuhei, Okamura Masatsugu, Akashi Yoshihiro J, Tanaka Shinya, Shimizu Masashi, Tsuchikawa Yohei, Ashikaga Kohei, Kamiya Kentaro, Kato Yuko, Nakayama Atsuko, Makita Shigeru, Isobe Mitsuki. Impact of long-term exercise-based cardiac rehabilitation in patients with chronic heart failure – A systematic review and meta-analysis. *Circulation Journal*, 2024;88(9) : 1360–1371.
- 33) Onishi Kyohei, Mizutani Kazuki, Fujita Kosuke, Ueno Masafumi, Sakaguchi Genichi, Nakazawa Gaku, Ohno Yohei, Yashima Fumiaki, Naganuma Toru, Tada Norio, Shirai Shinichi, Yamanaka Futoshi, Noguchi Masahiko, Izumo Masaki, Takagi Kensuke, Asami Masahiko, Ueno Hiroshi, Nishina Hidetaka, Otsuka Toshiaki, Watanabe Yusuke, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Transcatheter aortic valve implantation in Japanese patients with large annulus: The OCEAN-TAVI registry. *JACC Asia*, 2024;4(9) : 686–694.
- 34) Shibahashi Eiji, Yamaguchi Junichi, Kawamoto Takanori, Yoshikawa Masafumi, Kogure Tomohito, Inagaki Yusuke, Koyanagi Chihiro, Otsuki Hosap, Yamamoto Masanori, Saji Mike, Kubo Shunsuke, Asami Masahiko, Nakashima Masaki, Enta Yusuke, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Nakajima Yoshifumi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Mismatch between residual mitral regurgitation and left atrial pressure predicts prognosis after transcatheter edge-to-edge repair. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2024;17(18) : 2126–2137.
- 35) Yamaga Mitsuki, Izumo Masaki, Sato Yukio, Shoji Tatsuro, Miyahara Daisuke, Kobayashi Yoshikuni, Kai Takahiko, Okuno Taishi, Kuwata Shingo, Koga Masaki, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro J. Predictors and clinical outcomes of true mitral stenosis in patients undergoing transcatheter aortic valve implantation. *European Heart Journal Imaging Methods and Practice*, 2024;2(3) : qyae109–doi: 10.1093/ehjimp/qyae109..
- 36) Amano Masashi, Takegami Misa, Miyake Makoto, Kitai Takeshi, Fujita Tomoyuki, Koyama Tadaaki, Tanaka Hidekazu, Ando Kenji, Komiya Tatsuhiko, Izumo Masaki, Kawai Hiroya, Eishi Kiyoyuki, Yoshida Kiyoshi, Kimura Takeshi, Nawada Ryuzo, Sakamoto Tomohiro, Shibata Yoshisato, Fukui Toshihiro, Minatoya Kenji, Tsujita Kenichi, Sakata Yasushi, Sugio Kumiko, Nishimura Kunihiro, Furukawa Yutaka, Izumi Chisato. Clinical effects of direct oral anticoagulants in elderly patients with a bioprosthetic valve and atrial fibrillation. *International Journal of Cardiology*, 2024;413 : 132375.
- 37) Imamura Teruhiko, Kataoka Naoya, Tanaka Shuhei, Ueno Hiroshi, Kinugawa Koichiro, Nakashima Masaki, Yamamoto Masanori, Sago Mitsuru, Chatani Ryuki, Asami Masahiko, Hachinohe Daisuke, Naganuma Toru, Ohno Yohei, Tani Tomoyuki, Okamatsu Hideharu, Mizutani Kazuki, Watanabe Yusuke, Izumo Masaki, Saji Mike, Mizuno Shingo, Kubo Shunsuke, Shirai Shinichi, Hayashida Kentaro. Correlations between plasma BNP level and risk of thrombotic-hemorrhagic events after left atrial appendage closure. *Journal of Clinical Medicine*, 2024;13(20) : 6232–doi: 10.3390/jcm13206232..

- 38) Xu Linqi, Tong Qian, Zhang Xin, Yu Tianzhuo, Lian Xiaoqian, Yu Tianyue, Falter Maarten, Scherrenberg Martijn, Kaihara Toshiaki, Kizilkilic Sevdal Ece, Kindermans Hanne, Dendale Paul, Li Feng. Smartphone-based gamification intervention to increase physical activity participation among patients with coronary heart disease: A randomized controlled trial. *Journal of Telemedicine and Telecare*, 2024;30(9) : 1425-1436.
- 39) Sugiyama Tomoyo, Kakuta Tsunekazu, Hoshino Masahiro, Hada Masahiro, Yonetsu Taishi, Usui Eisuke, Hanyu Yoshihiro, Nagamine Tatsuhiko, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Matsuda Kazuki, Sayama Kodai, Sakamoto Tatsuya, Kobayashi Nobuaki, Takano Masamichi, Kondo Seita, Wakabayashi Kohei, Suwa Satoru, Dohi Tomotaka, Mori Hiroyoshi, Kimura Shigeki, Mitomo Satoru, Nakamura Sunao, Higuma Takumi, Yamaguchi Junichi, Natsumeda Makoto, Ikari Yuji, Yamashita Jun, Sambe Takehiko, Yasuhara Sakiko, Mizukami Takuya, Yamamoto Myong Hwa, Sasano Tetsuo, Shinke Toshiro. Predictors of optical coherence tomography-defined calcified nodules in patients with acute coronary syndrome - A substudy from the TACTICS registry. *Circulation Journal*, 2024;88(11) : 1853-1861.
- 40) Obayashi Yuki, Miyake Makoto, Takegami Misa, Amano Masashi, Kitai Takeshi, Fujita Tomoyuki, Koyama Tadaaki, Tanaka Hidekazu, Ando Kenji, Komiya Tatsuhiko, Izumo Masaki, Kawai Hiroya, Eishi Kiyoyuki, Yoshida Kiyoshi, Kimura Takeshi, Nawada Ryuzo, Sakamoto Tomohiro, Shibata Yoshisato, Fukui Toshihiro, Minatoya Kenji, Tsujita Kenichi, Sakata Yasushi, Fukuzawa Masayuki, Uehara Kyokun, Tamura Toshihiro, Nishimura Kunihiro, Furukawa Yutaka, Izumi Chisato. Bioprosthetic valve positions in patients with atrial fibrillation - Insights from the BPV-AF registry. *Circulation Reports*, 2024;6(11) : 521-528.
- 41) Ono Sachiyo, Kubo Shunsuke, Maruo Takeshi, Nishiura Naoki, Mushiaki Kazunori, Osakada Kohei, Kadota Kazushige, Yamamoto Masanori, Saji Mike, Asami Masahiko, Enta Yusuke, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Junichi, Nakajima Yoshifumi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Predictors and clinical impact of worsening left ventricular ejection fraction after mitral transcatheter edge-to-edge repair. *EuroIntervention*, 2024;20(22) : 1430-1441.
- 42) Ishizu Kenichi, Kitano Kazuki, Yamamoto Ko, Hayashi Masaomi, Shirai Shinichi, Ohno Nobuhisa, Kakumoto Shinichi, Ando Kenji, Yashima Fumiaki, Nishina Hidetaka, Izumo Masaki, Asami Masahiko, Tada Norio, Yamawaki Masahiro, Naganuma Toru, Yamanaka Futoshi, Ohno Yohei, Ueno Hiroshi, Noguchi Masahiko, Mizutani Kazuki, Takagi Kensuke, Watanabe Yusuke, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Update on prosthesis-patient mismatch following transcatheter aortic valve replacement in Asian patients. *JACC Asia*, 2024;4(11) : 793-806.
- 43) Hioki Hirofumi, Yamamoto Masanori, Shirai Shinichi, Ohno Yohei, Yashima Fumiaki, Naganuma Toru, Yamawaki Masahiro, Watanabe Yusuke, Yamanaka Futoshi, Mizutani Kazuki, Ryuzaki Toshinobu, Noguchi Masahiko, Izumo Masaki, Takagi Kensuke, Asami Masahiko, Ueno Hiroshi, Nishina Hidetaka, Otsuka Toshiaki, Suzuyama Hiroto, Yamasaki Kazumasa, Nishioka Kenji, Hachinohe Daisuke, Fuku Yasushi, Hayashida Kentaro. Valve performance between latest-generation balloon-expandable and self-expandable transcatheter heart valves in a small aortic annulus. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2024;17(22) : 2612-2622.

- 44) Harano Yoshihiro, Yamamoto Masanori, Shimura Tetsuro, Okubo Munenori, Koyama Yutaka, Yamaguchi Ryo, Kagase Ai, Tokuda Takahiro, Yashima Fumiaki, Shirai Shinichi, Tada Norio, Naganuma Toru, Yamawaki Masahiro, Yamanaka Futoshi, Mizutani Kazuki, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Ohno Yohei, Izumo Masaki, Nishina Hidetaka, Asami Masahiko, Otsuka Toshiaki, Watanabe Yusuke, Hayashida Kentaro. Association between direct oral anticoagulant score and bleeding events in patients with atrial fibrillation following transcatheter aortic valve replacement: A retrospective multicenter cohort study. *Journal of the American Heart Association*, 2024;13(22) : e036417-doi: 10.1161/JAHA.124.036417..
- 45) Tokuda Takahiro, Yamamoto Masanori, Kagase Ai, Shimura Tetsuro, Yamaguchi Ryo, Saji Mike, Asami Masahiko, Enta Yusuke, Nakashima Masaki, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Junichi, Nakajima Yoshifumi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Otsuka Toshiaki, Kubo Shunsuke, Hayashida Kentaro. Clinical impact of baseline frailty status and residual mitral regurgitation after transcatheter edge-to-edge repair: Insights from the OCEAN-mitral registry. *Journal of the American Heart Association*, 2024;13(21) : e035109-doi: 10.1161/JAHA.124.035109..
- 46) Tomii Daijiro, Okuno Taishi, Nakase Masaaki, Praz Fabien, Stortecky Stefan, Reineke David, Windecker Stepan, Lanz Jonas, Pilgrim Thomas. Renin-angiotensin system inhibition and cardiac damage in patients undergoing transcatheter aortic valve replacement. *Canadian Journal of Cardiology*, 2024;40(12) : 2592-2602.
- 47) Mushiake Kazunori, Kubo Shunsuke, Ono Sachiyo, Maruo Takeshi, Nishiura Naoki, Osakada Kohei, Kadota Kazushige, Yamamoto Masanori, Saji Mike, Asami Masahiko, Enta Yusuke, Nakashima Masaki, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Junichi, Izumi Yuki, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Association of baseline mitral valve area with procedural and clinical outcomes of mitral transcatheter edge-to-edge repair: Insights from the OCEAN-mitral registry. *Circulation Cardiovascular Interventions*, 2024;17(12) : e014420-doi: 10.1161/CIRCINTERVENTIONS.124.014420..
- 48) Doi Shunichi, Kida Keisuke, Nasu Takahito, Ishii Shunsuke, Kagiya Nobuyuki, Fujimoto Wataru, Kikuchi Atsushi, Ijichi Takeshi, Shibata Tatsuhiro, Kanaoka Koshiro, Matsumoto Shingo, Akashi Yoshihiro J. Uptitration of sacubitril/valsartan and outcomes in patients with heart failure - Insight from the REVIEW-HF registry. *Circulation Journal*, 2024;89(1) : 93-100.
- 49) Kato Nahoko, Tabata Minoru, Noguchi Masahiko, Ito Joji, Obunai Kotaro, Watanabe Hiroyuki, Yashima Fumiaki, Shirai Shinichi, Tada Norio, Naganuma Toru, Yamawaki Masahiro, Yamanaka Futoshi, Ueno Hiroshi, Ohno Yohei, Izumo Masaki, Nishina Hidetaka, Asami Masahiko, Watanabe Yusuke, Yamamoto Masanori, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Transcatheter aortic valve implantation for combined aortic and mitral stenoses: Insights from the OCEAN-TAVI Registry. *ESC Heart Failure*, 2024;11(6) : 4257-4266.
- 50) Yokoyama Hiroaki, Yamanaka Futoshi, Shishido Koki, Moriyama Noriaki, Ochiai Tomoki, Miyashita Hirokazu, Sugiyama Yoichi, Yashima Fumiaki, Ohno Yohei, Nishina Hidetaka, Izumo Masaki, Asami Masahiko, Naganuma Toru, Mizutani Kazuki, Yamawaki Masahiro, Tada Norio, Shirai Shinichi, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Watanabe Yusuke, Yamamoto Masanori, Saito Shigeru, Hayashida Kentaro. Difference in cardiac response after transcatheter aortic valve implantation according to flow and gradient pattern. *European Heart Journal*

- 51) Yap Jonathan, Hayashida Kentaro, Lee Michael Kamg Yin, Stub Dion, Hon Jimmy Kim Fatt, Ho Kay Woon, Lo Sidney, Seth Ashok, Kim Hyo-Soo, Wongpraparut Nattawut, Nguyen Quang Ngoc, Dy Timothy C, Chandavimol Mann, Ewe See Hooi, Yin Wei Hsian, Lee Yung-Tsai, Tay Edgar L, Poon Karl, Chen Mao, Chui Angus, Lam Simon Cheung-Chi, Rao Ravinder Singh, Izumo Masaki, Nair Rajesh, Tang Gilbert Hl, Tabata Minoru, Yahaya Shaifu Azmi, Sin Kenny Yk, Park Duk-Woo, Wang Jianan, Chieh Jack Tan Weo. Asian pacific society of cardiology position statement on the use of transcatheter aortic valve implantation in the management of aortic stenosis. JACC Asia, 2024;4(12) : 885-897.
- 52) Naser Jwan A, Harada Tomonari, Tada Atsushi, Doi Shunichi, Tsaban Gal, Pislaru Sorin V, Nkomo Vuyisile T, Scott Christopher G, Kennedy Austin M, Eleid Mackram F, Reddy Yogesh N V, Lin Grace, Pellikka Patricia A, Borlaug Barry A. Prevalence, incidence, and outcomes of diastolic dysfunction in isolated tricuspid regurgitation: Perhaps not really "Isolated"? JACC Cardiovascular Imaging, 2024;17(12) : 1411-1424.
- 53) Tanaka Tetsu, Vogelhuber Johanna, Öztürk Can, Silaschi Miriam, Bakhtiary Farhad, Zimmer Sebastian, Nickenig Georg, Weber Marcel, Sugiura Atsushi. Eligibility for transcatheter tricuspid valve interventions in patients with tricuspid regurgitation. JACC Cardiovascular Interventions, 2024;17(23) : 2732-2744.
- 54) Xiong Wei, Yamashita Yugo, Morimoto Takeshi, Muraoka Nao, Umetsu Michihisa, Nishimoto Yuji, Takada Takumi, Ogiwara Yoshito, Nishikawa Tatsuya, Ikeda Nobutaka, Otsui Kazunori, Sueta Daisuke, Tsubata Yukari, Shoji Masaaki, Shikama Ayumi, Hosoi Yutaka, Tanabe Yasuhiro, Chatani Ryuki, Tsukahara Kengo, Nakanishi Naohiko, Kim Kitae, Ikeda Satoshi, Ono Koh, Kimura Takeshi. Utility of the modified Ottawa score for identification of more preferable candidates of extended anticoagulation therapy in cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis: insight from the ONCO DVT Study. Journal of Thrombosis and Haemostasis, 2024;22(12) : 3542-3551.
- 55) Yashima Fumiaki, Yamamoto Masanori, Shirai Shinichi, Tada Norio, Naganuma Toru, Yamawaki Masahiro, Yamanaka Futoshi, Mizutani Kazuki, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Ohno Yohei, Izumo Masaki, Nishina Hidetaka, Suzuyama Hiroto, Yamasaki Kazumasa, Nishioka Kenji, Hachinohe Daisuke, Fuku Yasushi, Otsuka Toshiaki, Asami Masahiko, Watanabe Yusuke, Hayashida Kentaro. Initial findings concerning the latest self-expandable evolut FX valve: A report using OCEAN-TAVI registry data. The American Journal of Cardiology, 2025;235 : 59-66.
- 56) Murata Azusa, Kaneko Tomohiro, Amano Masashi, Sato Yukio, Ohno Yohei, Obokata Masaru, Sato Kimi, Okada Taiji, Sakamoto Akira, Hirose Naoki, Morita Kojiro, Machino-Ohtsuka Tomoko, Abe Yukio, Minamino Tohru, Delgado Victoria, Kagiya Npbuiilo. Qualitative and quantitative assessment of atrial functional mitral regurgitation: analysis from the REVEAL-AFMR registry. European Heart Journal Cardiovascular Imaging, 2025;26(2) : 299-306.
- 57) Revaiah Pruthvi C, Miyashita Kotaro, Tsai Tsung-Ying, Bajaj Retesh, Kotoku Nozomi, Tobe Akihiro, Muramatsu Takashi, Tanabe Kengo, Kozuma Ken, Ozaki Yukio, Garg Scot, Tu Shengxian, Dijkstra Jouke, Bourantas Christos V, Onuma Yoshinobu, Serruys Patrick W. Segmental post-percutaneous coronary intervention physiological gradients using ultrasonic or optical flow ratio: insights from ASET JAPAN study. European Heart Journal Imaging Methods and Practice, 2025;3(1) : qyaf017-doi: 10.1093/ehjimp/qyaf017..

- 58) Saito Tetsuya, Tsuruta Hikaru, Iwata Juri, Kajino Akiyoshi, Sakata Shingo, Ryuzaki Toshinobu, Saji Mike, Asami Masahiko, Enta Yusuke, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Kubo Shunsuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Junichi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Nakashima Masaki, Otsuka Toshiaki, Yamamoto Masanori, Ieda Masaki, Hayashida Kentaro. Impact of beta-blocker up-titration on patients after transcatheter edge-to-edge mitral valve repair for secondary mitral regurgitation: The OCEAN-mitral registry. *International Journal of Cardiology*, 2025;418 : 13259-doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132595..
- 59) Tanaka Shuhei, Imamura Teruhiko, Fukuda Nobuyuki, Ueno Hiroshi, Kinugawa Koichiro, Sago Mitsuru, Chatani Ryuki, Hachinohe Daisuke, Naganuma Toru, Ohno Yohei, Tani Tomoyuki, Okamoto Hideharu, Mizutani Kazuki, Watanabe Yusuke, Izumo Masaki, Saji Mike, Mizuno Shingo, Kubo Shunsuke, Shirai Shinichi, Nakashima Masaki, Asami Masahiko, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Outcomes of left atrial appendage closure in hemodialysis patients with atrial fibrillation: The OCEAN-LAAC registry. *JACC Asia*, 2025;5(1) : 174-186.
- 60) Kaihara Toshiki, Hansen Dominique, Sankaran Supraja, Scherrenberg Martijn, Falter Maarten, Xu Linqi, Coninx Karin, Dendale Paul. Do we need to rethink the determination of exercise-related energy expenditure in cardiac telerehabilitation interventions?. *Journal of Telemedicine and Telecare*, 2025;31(1) : 90-96.
- 61) Kaihara Toshiki, Hansen Dominique, Sankaran Supraja, Scherrenberg Martijn, Falter Maarten, Xu Linqi, Coninx Karin, Dendale Paul. Do we need to rethink the determination of exercise-related energy expenditure in cardiac telerehabilitation interventions?. *Journal of Telemedicine and Telecare*, 2025;31(1) : 90-96.
- 62) Nakase Masaaki, Tomii Daijiro, Maznyczka Annette, Heg Dik, Okuno Taishi, Samim Daryoush, Stortecky Stefan, Lanz Jonas, Reineke David, Windecker Stephan, Pilgrim Thomas. Five-year outcomes with self-expanding versus balloon-expandable TAVI in patients with left ventricular systolic dysfunction. *American Heart Journal*, 2025;280 : 18-29.
- 63) Higuchi Ryosuke, Izumo Masaki, Izumi Yuki, Saji Mike, Isobe Mitsuaki, Akashi Yoshihiro, Yamamoto Masanori, Asami Masahiko, Enta Yusuke, Nakashima Masaki, Shirai Shinichi, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Junichi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Kubo Shunsuke, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Prognostic impact of being underweight in patients undergoing mitral TEER: The OCEAN-Mitral registry. *ESC Heart Failure*, 2025;12(1) : 408-417.
- 64) Yamamoto Ko, Natsuaki Masahiro, Watanabe Hirotooshi, Morimoto Takeshi, Obayashi Yuki, Nishikawa Ryusuke, Ando Kenji, Suwa Satoru, Isawa Tsuyoshi, Takenaka Hiroyuki, Ishikawa Tetsuya, Ikari Yuji, Kurita Tairo, Kaitani Kazuaki, Sugimoto Atsuhiko, Ogata Nobuhiko, Ikuta Akihiro, Hashimoto Katsushi, Ishibashi Yuki, Masuda Kazunori, Miyabe Tomonori, Ono Koh, Kimura Takeshi. An aspirin-free strategy for percutaneous coronary intervention in patients with diabetes: a pre-specified subgroup analysis of the STOPDAPT-3 trial. *European Heart Journal Cardiovascular Pharmacotherapy*, 2025;11(1) : 34-44.
- 65) Saji Mike, Nanasato Mamoru, Takamisawa Itaru, Higuchi Ryosuke, Izumi Yuki, Iwakura Tomohiro, Isobe Mitsuaki, Ikeda Takanori, Yamamoto Masanori, Kubo Shunsuke, Asami Masahiko, Enta Yusuke, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Junichi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Hachinohe Daisuke, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Handgrip strength as a marker of frailty in patients with transcatheter edge-to-edge repair:

Insights from the OCEAN-mitral registry. *International Journal of Cardiology*, 2025;420 : 132743-doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132743..

- 66) Tanaka Kazuki, Yamaguchi Junichi, Yoshikawa Masafumi, Shibahashi Eiji, Otsuki Hisao, Kawamoto Takanori, Koyanagi Chihiro, Inagaki Yusuke, Kogure Tomohito, Yamamoto Masanori, Saji Mike, Asami Masahiko, Nakashima Masaki, Enta Yusuke, Shirai Shinichi, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Watanabe Yusuke, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Kubo Shunsuke, Nakajima Yoshifumi, Naganuma Toru, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Otsuka Toshiaki, Hayashida Kentaro. Effect of renal impairment on clinical outcomes after mitral valve transcatheter edge-to-edge repair. *JACC Asia*, 2025;5(2) : 273-282.
- 67) Okuno Taishi, Izumo Masaki, Kai Takahiko, Kuwata Shingo, Koga Masashi, Akashi Yoshihiro J, Shirai Shinichi, Watanabe Yusuke, Naganuma Toru, Tada Norio, Yamanaka Futoshi, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Ohno Yohei, Nishina Hidetaka, Takagi Kensuke, Asami Masahiko, Mizutani Kazuki, Yashima Fumiaki, Otsuka Toshiaki, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Extremely small 20-mm versus standard-size balloon-expandable transcatheter heart valves: Propensity-matched analysis from the OCEAN-TAVI registry. *JACC Asia*, 2025;5(2) : 245-254.
- 68) Yamanaka Futoshi, Shishido Koki, Moriyama Noriaki, Ochiai Tomoki, Miyashita Hirokazu, Yokoyama Hiroaki, Sugiyama Yoichi, Yashima Fumiaki, Ohno Yohei, Nishina Hidetaka, Izumo Masaki, Asami Masahiko, Naganuma Toru, Mizutani Kazuki, Yamawaki Masahiro, Tada Norio, Shirai Shinichi, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Watanabe Yusuke, Yamamoto Masanori, Saito Shigeru, Hayashida Kentaro. Incidence and prognosis of prosthesis-patient mismatch after transcatheter aortic valve replacement for bicuspid aortic stenosis. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2025;18(4) : 492-502.
- 69) Kirigaya Jin, Matsuzawa Yasushi, Ebina Toshiaki, Abe Takeru, Iwahashi Noriaki, Fukui Kazuki, Maeda Atsuo, Akashi Yoshihiro, Ako Junya, Ikari Yuji, Namiki Atsuo, Michishita Ichiro, Sugano Teruyasu, Tamura Kouichi, Hibi Kiyoshi, Kimura Kazuo, Suzuki Hiroshi. Benefit of prehospital electrocardiogram on door-to-device time in ST-segment elevation myocardial infarction with cardiogenic shock: Data from the Kanagawa Acute Cardiovascular Registry. *Journal of Cardiology*, 2025;85(2) : 108-114.
- 70) Chatani Ryuki, Kubo Shunsuke, Nishiura Naoki, Mushiaki Kazunori, Ono Sachiyo, Maruo Takeshi, Kadota Kazushige, Sago Mitsuru, Tanaka Shuhei, Asami Masahiko, Hachinohe Daisuke, Naganuma Toru, Ohno Yohei, Tani Tomoyuki, Okamatsu Hideharu, Mizutani Kazuki, Watanabe Yusuke, Izumo Masaki, Saji Mike, Mizuno Shingo, Ueno Hiroshi, Shirai Shinichi, Nakashima Masaki, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Impact of angiographically detected residual trabeculation after left atrial appendage closure using the WATCHMAN device: Insight from the OCEAN-LAAC registry. *Journal of Cardiovascular Electrophysiology*, 2025;36(2) : 347-358.
- 71) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Ishibashi Yuki, Kawahata Kimito, Kunishima Hiroyuki, Tsuchida Tomoya, Takemura Hiromu, Minoura Ayu, Takita Mumon, Fujitani Shigeki. 90-Day outcomes in patients with severe COVID-19 pneumonia treated with invasive mechanical ventilation. *Journal of Infection Chemotherapy*, 2025;31(2) : 102529.

- 72) Yamashita Yugo, Morimoto Takeshi, Muraoka Nao, Shioyama Wataru, Chatani Ryuki, Shibata Tatsuhiro, Nishimoto Yuji, Ogihara Yoshito, Doi Kosuke, Oi Maki, Shiga Taro, Sueta Daisuke, Kim Kitae, Tanabe Yasuhiro, Koitabashi Norimichi, Takada Takuma, Ikeda Satoshi, Nakagawa Hitoshi, Tsukahara Kengo, Shoji Masaaki, Sakamoto Jiro, Hisatake Shinji, Ogino Yutaka, Fujita Masashi, Nakanishi Naohiko, Dohke Tomohiro, Hiramori Seiichi, Nawada Ryuzo, Kaneda Kazuhisa, Ono Koh, Kimura Takeshi. Rivaroxaban for 18 months versus 6 months in patients with cancer and acute low-risk pulmonary embolism: An open-label, multicenter, randomized clinical trial (ONCO PE Trial). *Circulation*, 2025;151(9) : 589-600.
- 73) Warisawa Takayuki, Cook Christophera M, Ahmad Yousif, Howard James P, Seligman Henry, Rajkumar Chrisstopher, Doi Shunichi, Yuasa Sonoka, Nakajima Akihiro, Toya Takumi, Nakayama Masafumi, Kikuta Yuetsu, Kawase Yoshiaki, Nishina Hidetaka, Al-Lamee Rasha, Lerman Amir, Matsuo Hitoshi, Akashi Yoshihiro J, Escaned Javier, Davies Justin E. Difference in strategy and clinical outcomes of left main disease in Japan and non-Japanese countries. *International Heart Journal*, 2025;66(2) : 202-212.
- 74) Kagami Kazuki, Kagiya Nobuyuki, Kaneko Tomohiro, Harada Tomonari, Sato Kimi, Amano Masashi, Okada Taiji, Sato Yukio, Ohno Yohei, Morita Kojiro, Machino-Ohtsuka Tomoko, Abe Yukio, Ishii Hideki, Obokata Masaru. Heart failure with preserved ejection fraction in atrial functional mitral regurgitation -Insight from the REVEAL-AFMR. *International Journal of Cardiology*, 2025;422 : 132958-doi: 10.1016/j.ijcard.2025.132958..
- 75) Aboud Asad A, Abraham Robert L, Adeola Oluwaseun, Nakajima Ikutaro, Narui Ryohsuke, Nakamura Tomofumi, Kanagasundram Arvinth N, Richardson Travis, Stevenson William G. Site-specific ventricular tachycardia inducibility. *JACC Clinical Electrophysiology*, 2025;11(3) : 509-517.
- 76) Sugimoto Tadafumi, Kawada Yu, Kikuchi Shohei, Kitada Shuichi, Daimon Masao, Hirano Yutaka, Izumo Masaki, Onishi Toshinari, Obokata Masaru, Utsunomiya Hiroto, Seo Yoshihiro. The multicenter study on a precise algorithm for diagnosis of heart failure with preserved ejection fraction, STOP-HFPEF study: study protocol and design. *Journal of Echocardiography*, 2025;23(1) : 19-23.
- 77) Ogihara Yoshito, Yamashita Yugo, Morimoto Takeshi, Muraoka Nao, Umetsu Michihisa, Nishimoto Yuji, Takada Takuma, Nishikawa Tatsuya, Ikeda Nobutaka, Otsui Kazunori, Sueta Daisuke, Tsubata Yukari, Shoji Masaaki, Shikama Ayumi, Hosoi Yutaka, Tanabe Yasuhiro, Chatani Ryuki, Tsukahara Kengo, Nakanishi Naohiko, Kim Kitae, Ikeda Satoshi, Sato Toru, Kimura Takeshi, Dohi Kaoru. Clinical outcomes of cancer-associated isolated distal deep vein thrombosis: a comparison between asymptomatic and symptomatic thrombosis-findings from the ONCO DVT Study. *Research and Practice in Thrombosis and Haemostasis*, 2025;9(2) : 102722-doi: 10.1016/j.rpth.2025.102722..

② 総説又は症例解説

- 1) Kida Keisuke, Toki Shinji, Kanamitsu Yoko, Okuno Taishi. Hospice in heart failure is visible, yet still out of reach for many. *Journal of Cardiac Failure*, 2024;30(6) : 800-802.
- 2) Kotoku Nozomi. Clinical research at the CORRIB core lab at the university of galway aimed at improving outcomes in patients with coronary artery disease. *Journal of St. Marianna University*, 2024;15(1) : 27-30.
- 3) Miyashita Kotaro, Ninomiya Kai, Tobe Akihiro, Masuda Shinichiro, Kotoku Nozomi, Kageyama Shigetaka, Revaiah Pruthvi C, Tsai Tsung-Ying, Wang Bo, Garg Scot, Serruys Patrick W, Onuma Yoshinobu. Long-term outcomes following bioresorbable vascular scaffolds. *Expert Review of Cardiovascular Therapy*, 2024;22(8) : 391-407.

- 4) Madanat Luai, Jabri Ahmad, Hanson Ivan D, Khalili Houman, Rodés-Cabau Josep, Pilgrim Thomas, Okuno Taishi, Elmariah Sammy, Pibarot Philippe, Villablanca Pedro, Abbas Amr E. Obesity paradox in transcatheter aortic valve replacement. *Current Cardiology Reports*, 2024;26(9) : 1005-1009.
- 5) Doi Shunichi, Borlaug Barry A. Pericardiotomy as a novel treatment for heart failure with preserved ejection fraction. *Heart Failure Reviews*, 2025;30(1) : 137-142.
- 6) tanaka Tetsu. Leaflet tethering in mitral transcatheter edge-to-edge repair: No longer a barrier. *International Journal of Cardiology*, 2025;423 : 133025-doi: 10.1016/j.ijcard.2025.133025..

③ 症例報告

- 1) Koga Masashi, Izumo Masaki, Akashi Yoshihiro J. Three-dimensional echocardiography-fluoroscopy fusion imaging-guided zero-contrast transcatheter aortic valve implantation. *European Heart Journal Case Reports*, 2024;8(5) : ytae195-doi: 10.1093/ehjcr/ytae195.
- 2) Sasaki Kenichi, Nakajima Ikutaro, Kasagawa Akira, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro J. Helix-fixation leadless pacemaker as a potential alternative to conventional transvenous pacemaker in post-Mustard baffle stenosis. *Journal of Arrhythmia*, 2024;40(4) : 1041-1044.
- 3) Honda Kei, Takagi Sohei, Suzuki Tomomi, Kotoku Nozomi, Miyazaki Hidekazu, Higuma Takumi. Aortic cavity masquerading as right coronary artery occlusion. *Coronary Artery Disease*, 2024;35(7) : 625.
- 4) Shoji Tatsuro, Izumo Masaki, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro. Transoesophageal echocardiography in diagnosing pulmonary arteriovenous malformation. *BMJ Case Reports*, 2025;18(2) : e264180-doi: 10.1136/bcr-2024-264180..
- 5) Tanaka Tetsu, Kuwata Shingo, Okuno Taishi, Shoji Tatsuro, Miyahara Daisuke, Kai Takahiko, Sato Yukio, Koga Masashi, Izumo Masaki, Akashi Yoshihiro J. "Diamond Capture" Technique for degenerative mitral regurgitation with large flail gap using the PASCAL system. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2025;18(3) : 391-392.
- 6) Kasagawa Akira, Koga Masashi, Nakajima Ikutaro, Sasaki Kenichi, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro J. Embolization to hepatic vein during retrieval of a leadless pacemaker with acute pacing failure. *HeartRhythm Case Reports*, 2025;11(3) : 219-222.

④ その他

- 1) Tanaka Tetsu, Sugiura Atsushi, Kavsur Refik, Vogelhuber Johanna, Öztürk Can, Zimmer Sebastian, Nickenig Georg, Weber Marcel. Pulmonary artery pulsatility index and clinical outcomes in patients undergoing transcatheter tricuspid valve interventions. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2024;17(7) : 952-954.
- 2) Kasai Takatoshi, Kohno Takashi, Shimizu Wataru, Ando Shinichi, Joho Shuji, Osada Naohiko, Kato Masahiko, Kario Kazuomi, Shiina Kazuki, Tamura Akira, Yoshihisa Akiomi, Fukumoto Yoshihiro, Takata Yoshifumi, Yamauchi Motoo, Shiota Satomi, Chiba Shintaro, Terada Jiro, Tonogi Morio, Suzuki Keisuke, Adachi Taro, Iwasaki Yuki, Naruse Yoshihisa, Suda Shoko, Misaka Tomofumi, Tomita Yasuhiro, Naito Ryo, Goda Ayumi, Tokunou Tomotaka, Sata Makoto, Minamino Tohru, Ide Tomomi, Chin Kazuo, Hagiwara Nobuhisa, Momomura Shinichi. JCS 2023 guideline on diagnosis and treatment of sleep disordered breathing in cardiovascular disease. *Circulation Journal*, 2024;88(11) : 1865-1935

- 3) Hada Masahiro, Kakuta Tsunekazu, Sugiyama Tomoyo, Hoshino Masahiro, Yonetsu Taishi, Usui Eisuke, Hanyu Yoshihiro, Nagamine Tatsuhiko, Nogami Kai, Ueno Hiroki, Matsuda Kazuki, Sayama Kodai, Setoguchi Mirei, Tahara Tomohiro, Sakamoto Tatsuya, Mineo Takashi, Kobayashi Nobuaki, Takano Masamichi, Kondo Seita, Wakabayashi Kohei, Suwa Satoru, Dohi Tomotaka, Mori Hiroyoshi, Kimura Shigeki, Mitomo Satoru, Nakamura Sunao, Higuma Takumi, Yamaguchi Junichi, Natsumeda Makoto, Ikari Yuji, Yamashita Jun, Mizukami Takuya, Yamamoto Myong Hwa, Sasano Tetsuo, Shinke Toshiro. Prognostic impact of culprit lesion calcified nodule after emergency coronary intervention: A TACTICS registry Subanalysis. JACC Cardiovascular Imaging, 2024;17(11) : 1384-1386.

学会発表

① 国内学会

- 1) 山家充起, 佐藤如雄, 小田隆太郎, 村田理沙子, 庄司達朗, 宮原大輔, 栗田真吾, 出雲昌樹, 明石嘉浩. 労作時呼吸困難の鑑別に運動負荷心エコーが有用だった一例. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 2) 出雲昌樹. Case report が変えた!?その後の人生. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 3) 出雲昌樹. 負荷心エコー図検査実施のための手引き 実践. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 4) 出雲昌樹. 弁膜症で負荷心エコー図はいつ?誰に?何を選択する?. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 5) 小田隆太郎, 宮原大輔, 山家充起, 村田理沙子, 庄司達朗, 奥野泰史, 佐藤如雄, 栗田真吾, 出雲昌樹, 明石嘉浩. 心エコーを契機に動脈管の疣腫による塞栓を指摘しえた感染性心内膜炎の一例. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 6) 小林芳邦, 水越慶, 野田和里, 村松和樹, 古藤弾, 山崎浩史, 松田央郎, 水野幸一, 明石嘉浩. 低左心機能により巨大左室血栓を認め心エコー図検査にて合併症なく経過することができた一例. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 7) 庄司達朗, 出雲昌樹, 鈴木知美, 佐藤如雄, 栗田真吾, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. 経食道心エコー図が診断に有用であった肺動静脈瘻の 1 例. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 8) 出雲昌樹. TEER を意識した一次性 MR の心エコー図診断. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 9) 栗田真吾. 三尖弁カテーテル治療 Step-by-step procedure. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 10) 宮原大輔, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 庄司達朗, 村田理沙子, 小田隆太郎, 奥野泰史, 甲斐貴彦, 栗田真吾, 古賀将史, 明石嘉浩. 経皮的動脈弁置換術後症例における cardiac power output の動的変化の意義. 一般社団法人日本心エコー図学会第 35 回学術集会, 2024.
- 11) 甲斐貴彦. AS 患者の余病について考える～TAVI 後の非心臓手術について～. 第 63 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2024.
- 12) 出雲昌樹. SHD 診療心エコー図の最前線. 第 272 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 13) 仁科英彬, 蔵本虎之介, 貝原俊樹, 明石嘉浩. わが国の循環器病患者における「デジタルヘルス準備状況」. 第 272 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 14) 宮原大輔, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 村田理沙子, 庄司達朗, 小田隆太郎, 栗田真吾, 明石嘉浩. 弁膜症カテーテル治療時代における負荷心エコー図検査の意義と課題. 日本超音波医学会第 97 回学術集会, 2024.
- 15) 田邊康宏. 急性肺塞栓症に対するインターベンションの手法とその成績. 第 44 回日本静脈学会総会, 2024.
- 16) 中西亨. ステンットの構造と使い分け、分岐部ステント留置方法について. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference (TOPIC 2024), 2024.

- 17) 出雲昌樹. 僧帽弁疾患合併 AS における診断と治療戦略. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference (TOPIC 2024), 2024.
- 18) 山崎浩史. 偽腔留置された総腸骨動脈入口部からのステント内閉塞に対し EVT を施行し良好な血流を確保できた 1 例. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference (TOPIC 2024), 2024.
- 19) 田邊康宏. PFO デバイスと内皮化、薬剤選択について. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference (TOPIC 2024), 2024.
- 20) 田邊康宏. 下大静脈フィルターの適応・種類・合併症. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention Conference (TOPIC 2024), 2024.
- 21) 明石嘉浩. 働き方改革後のマネジメント. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 22) 根本慎司, 笠原西介, 木田圭亮, 明石嘉浩. 心疾患患者に対する予測式を用いた至適心拍数の設定と運動中に必要なモニタリングについて. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 23) 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎大輝, 笠原西介, 渡辺敏, 根本慎司, 栗田真吾, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 経皮的僧帽弁クリップ修復術後の運動耐容能の変化に関連する因子. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 24) 古小高純章, 赤尾圭吾, 渡辺敏, 笠原西介, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 根本慎司, 桑村雄偉, 山崎太輝, 坂井健太, 木田圭亮, 足利光平, 佐々木信幸, 水越慶, 長田尚彦, 鈴木規雄, 明石嘉浩. 高齢心不全患における退院後の日常生活困難感, 退院後の快適歩行速度低下と関連する. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 25) 貝原俊樹, 明石嘉浩. 海外での遠隔心リハ ―ベルギー留学体験を踏まえて―. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 26) 吉沢和也, 武市尚也, 笠原西介, 渡邊紗都, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太輝, 坂井健太, 古小高純章, 渡辺敏, 水越慶, 鈴木規雄, 松田央郎, 佐々木信幸, 明石嘉浩, 小林俊也. 待機的心臓外科手術患者における入院関連機能低下の有無と身体機能の推移についての検討. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 27) 坂井健太, 吉沢和也, 笠原西介, 武市尚也, 渡邊紗都, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太輝, 古小高純章, 渡辺敏, 鈴木規雄, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 心不全患者における入院前の日常生活動作の困難感が入院関連能力障害に与える影響. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 28) 貝原俊樹, 尾崎さなみ, 藏本 虎之介, 仁科 英彬, フォルター マールテン, シュケルンベルヒ マルティン, シュー リン ツィー, ダンデーレ ポール, 明石 嘉浩. わが国の循環器病患者における「デジタルヘルス準備状況」. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 29) 鈴木規雄, 木田圭亮, 明石嘉浩. 高齢心不全に対する心臓リハビリテーションと栄養管理. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 30) 鈴木規雄, 木田圭亮, 明石嘉浩. 心疾患における早期栄養介入管理加算の臨床的効果. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 31) 中島育太郎. VT アブレーションに役立つ心電図波形の読み方と EPS. 第 70 回日本不整脈心電学会学術大会, 2024.
- 32) 中島育太郎. Re-Think AV Optimize: AdaptiveCRT™ はなぜ優れるのか?. 第 70 回日本不整脈心電学会学術大会, 2024.
- 33) 原島祐貴, 古賀将史, 吉田俊哉, 関口将大, 庄司達朗, 小田隆太郎, 奥野泰史, 甲斐貴彦, 佐藤如雄, 栗田真吾, 出雲昌樹, 明石嘉浩. 医師の働き方改革を見据えた TAVI 診療における診療看護師の実践報告. 第 32 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.

- 34) 尾崎さなみ, 古賀将史, 関口将大, 庄司達朗, 甲斐貴彦, 奥野泰史, 佐藤如雄, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. Sapien 3 Ultra Rseilia 留置後の早期生体弁機能不全の一例. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 35) 中山雅文, 川瀬世史明, 土井駿一, 栗田真吾, 貝原俊樹, 古賀将史, 石橋祐記, 樋熊拓未, 田邊康宏, 舟山直宏, 堀中遼, 土方伸浩, 松尾仁司, Rasha K Al-Lamee, 割澤高行. インターベンション医の冠動脈造影による虚血重症度予測判断の再現性、精度、及び治療への影響 — ORBITA 研究の分析. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 36) 古賀将史, 関口将大, 瀧澤菜, 中西亨, 川越康仁, 甲斐貴彦, 奥野泰史, 御手洗敬信, 桑田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. 重症大動脈弁狭窄症、低心機能を合併した透析患者に対する IVL を使用した CHIP インターベンションの一例. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 37) 中西亨. ガイドカテーテル先端にスリットを作成し、入口部直下から分岐する同側側副血行路を利用した右冠動脈慢性完全閉塞病変への治療. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 38) 栗田真吾. 日本人の特徴に合わせた PASCAL の有用性. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 39) 栗田真吾. 狭小弁輪に Navitor バルブで立ち向かう. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 40) 佐藤如雄. 心原性ショック患者の予後改善を目指したハートリカバリーネットワーク構築. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 41) 田邊康宏. 血栓吸引デバイス(indigo)の登場で本邦の APE 治療でどう変わるか?. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 42) 瀧澤菜, 古賀将史, 御手洗敬信, 栗田真吾, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. 中枢型深部静脈血栓症患者におけるカテーテル血栓溶解療法の単一施設での経験. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 43) 田邊康宏. PTE 急性期. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 2024.
- 44) 石橋祐記, 渡部秀憲, 中島香緒里, 望月俊彦, 川越康仁, 田邊康宏, 明石嘉浩, 門野岳史. 生物学的製剤による全身療法中の乾癬患者における冠動脈 CT を用いた精密診断(FFRct)の有用性. 第39回日本乾癬学会学術大会, 2024.
- 45) 伊藤伸悟, 古賀将史, 瀧澤菜, 川越康仁, 甲斐貴彦, 栗田真吾, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. 急性心筋梗塞と脳梗塞の同時発症で治療順序の決定に苦慮した1例. 第273回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 46) 田中徹, Johanna Vogelhuber, Sebastian Zimmer, Marcel Weber, Georg Nickenig, 杉浦淳史. 実臨床における三尖弁カテーテルインターベンションでの治療可能性. 第72回日本心臓病学会学術集会, 2024.
- 47) 田島亮, 小山亮, 鈴木幹広, 高山卓, 吉田俊哉, 甲斐貴彦, 古賀将史, 谷澤雅彦. 経カテーテル的大動脈弁置換術後に Stanford B 型急性大動脈解離を発症し急性腎障害となった1例. 第54回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 48) 出雲昌樹. TEER を活かした DMR 治療戦略. 第72回日本心臓病学会学術集会, 2024.
- 49) 明石嘉浩. ステートメントの概要. 第72回日本心臓病学会学術集会, 2024.
- 50) 寺内佳梨, 古賀将史, 関口将大, 庄司達朗, 甲斐貴彦, 奥野泰史, 佐藤如雄, 栗田真吾, 石橋祐記, 田邊康宏, 出雲昌樹, 明石嘉浩. 慢性腎臓病を有する大動脈弁狭窄症患者に EchoNavigator を用いた Zero-contrast TAVI を施行した一例. 第72回日本心臓病学会学術集会, 2024.
- 51) 明石嘉浩. 循環器診療医における働き方改革. 第72回日本心臓病学会学術集会, 2024.
- 52) 宮原大輔, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 庄司達朗, 山家充起, 小林芳邦, 奥野泰史, 甲斐貴彦, 栗田真吾, 古賀将史, 明石嘉浩. 左室駆出率の保たれた経皮的大動脈弁留置術後大動脈弁狭窄症における cardiac power output の意義. 第72回日本心臓病学会学術集会, 2024.
- 53) 宮原大輔, 木田圭亮, 鍋田健, 吉岡賢二, 成瀬代士久, 谷口達典, 田中秀和, 奥村貴裕, 馬場裕一, 北井豪, 末永祐哉,

- 明石嘉浩. 心サルコイドーシスにおける臨床病型による予後の検討. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 54) 佐藤如雄. M-TEERを見据えたMRの術前エコー評価. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 55) 鈴木規雄. 急性心不全の栄養管理～循環器内科の立場から～. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 56) 山崎太輝, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 桑村雄偉, 吉沢和也, 赤尾圭吾, 渡邊紗都, 鈴木規雄, 長田尚彦, 木田圭亮, 足利光平, 水越慶, 明石嘉浩. カヘキシアを有する心不全患者において歩行速度は心不全再入院に関連する. 第28回日本心不全学会学術集会, 2024.
- 57) 笠原西介, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 渡辺敏, 鈴木規雄, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 心不全患者における退院時連続歩行距離の制限は退院後QOL低下の規定因子である. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
- 58) 川越康仁, 西森誠, 伊藤伸悟, 瀧澤栞, 古賀将史, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩, 田原良雄. 院外心停止における人工知能に基づく緊急冠動脈造影適応判断支援の有益性の検証. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
- 59) 貝原俊樹. スマートフォンのゲーミフィケーションアプリケーションを用いた在宅心臓リハビリテーション研究. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
- 60) 伊藤伸悟, 田邊康宏. 血管内視鏡下腫瘍生検. 第37回日本心臓血管内視鏡学会総会, 2024.
- 61) 田邊康宏, 村松和樹, 小田隆太郎, 宮原大輔, 奥野泰史, 佐藤如雄, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. 至適抗血栓療法決定における経皮的卵円孔閉鎖術12か月後のデバイスの内皮化と残存シャントの評価. 第37回日本心臓血管内視鏡学会総会, 2024.
- 62) 瀧澤栞. EVUSを初めて見たけど～初心者への壁～. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2024, 2024.
- 63) 田邊康宏. 下大静脈フィルターの適切な使用法. 第65回日本脈管学会学術総会, 2024.
- 64) 田邊康宏. 本邦への導入が望まれる静脈血栓塞栓症に対するカテーテル治療. 第65回日本脈管学会学術総会, 2024.
- 65) 貝原俊樹. 非同期下心リハ 今後の課題. 日本心臓リハビリテーション学会第9回関東甲信越支部地方会, 2024.
- 66) 田邊康宏, 貝原俊樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. 経皮的卵円孔閉鎖術後の閉鎖栓の内皮化と残存シャントの評価. 第61回日本臨床生理学会総会, 2024.
- 67) 金木真理, 宮原大輔, 三原豊, 齊藤亜美, 鈴木規雄, 石橋祐記, 出雲昌樹, 明石嘉浩. 既往のない若年男性における三尖弁単独の感染性心内膜炎の1例. 日本内科学会第700回関東地方会, 2024.
- 68) 田中徹. 脳塞栓予防デバイスの展望. ストラクチャークラブ・ジャパンライブデモンストレーション2024, 2024.
- 69) 奥野泰史. Lifetime ManagementにおけるProsthesis-Mismatchの意義を再考する. ストラクチャークラブ・ジャパンライブデモンストレーション2024, 2024.
- 70) 有木宏宗, 榎本武治, 大館知佳, 本鍋田由美子, 福澤知子, 内川隆子, 坂上逸孝, 長田尚孝, 安田宏, 明石嘉浩. 転倒・転落と使用薬剤の因果関係の検討. 第19回医療の質・安全学会学術集会, 2024.
- 71) 榎本武治, 有木宏宗, 大館知佳, 本鍋田由美子, 福澤知子, 内川隆子, 長田直彦, 安田宏, 明石嘉浩, 大坪毅人. 当院におけるDo not attempt resuscitation(DNAR)の取得並びに多職種での共有について. 第19回医療の質・安全学会学術集会, 2024.
- 72) 出雲昌樹. 僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療の今. 第274回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 73) 福村健太, 清川篤, 西尾祥郎, 工藤侃, 原果里奈, 田仲明史, 秋元耕, 福島琢, 高橋良英, 櫻井馨, 齋藤正博, 前場寛. 心タンポナーデを契機に胸腺腫と診断され心嚢ドレナージチューブ抜去による心房穿孔を合併した一例. 第274回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.

- 74) 三原豊, 宮原大輔, 鈴木規雄, 金木真理, 齊藤亜美, 奥野泰史, 栗田真吾, 石橋祐記, 出雲昌樹, 田邊康宏, 明石嘉浩, 野呂瀬朋子. うっ血性心不全を契機に診断し得た卵巣がん術後の肺腫瘍血栓性微小血管症の1例. 第274回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2024.
- 75) 鈴木規雄. What's 心リハ栄養?. 第10回日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会, 2024.
- 76) 寺松寛明, 百崎良, 佐藤宏樹, 佐藤慎也, 小蔵要司, 鈴木規雄. 心不全患者における強化型栄養療法の効果: ランダム化比較試験のシステマティックレビュー. 第10回日本心臓リハビリテーション学会九州支部地方会, 2024.
- 77) 出雲昌樹. 三尖弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療. 第14回日本心臓弁膜症学会, 2024.
- 78) 奥野泰史, 麻生健太郎, 長田洋資, 佐々木憲一. 大血管転位症 Mustard 術後のペースメーカー (PM) 不全にリードレス PM を留置した一例. 第26回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会, 2025.
- 79) 小徳のぞみ. 安静時指標 (NHPR) の原理と応用. 第35回日本心血管画像動態学会 FRIENDS Live 2025 合同開催, 2025.
- 80) 石橋祐記. Optimal management of early detection and management of chronic coronary syndrome in patients with severe psoriasis. 第35回日本心血管画像動態学会 FRIENDS Live 2025 合同開催, 2025.
- 81) 石橋祐記. IVUS guide PCI の基本. 第35回日本心血管画像動態学会 FRIENDS Live 2025 合同開催, 2025.
- 82) 出雲昌樹. Mitral transcatheter edge-to-edge repair. 第35回日本心血管画像動態学会 FRIENDS Live 2025 合同開催, 2025.
- 83) 鈴木規雄. 常識を超えるリハビリテーション栄養. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会, 2025.
- 84) 鈴木規雄. 心不全診療の地域連携における栄養療法と薬物療法の可能性. 第275回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2025.
- 85) 李英麗, 貝原俊樹, 瀧澤栞, 庄司達朗, 小田隆太郎, 宮原大輔, 佐藤如雄, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. 卵円孔開存閉鎖デバイスの内膜被覆後における残存シャント発生例の検討. 第275回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2025.
- 86) 中島育太郎. ペースメーカー不全の実例と心電図波形. 第17回植込みデバイス関連冬季大会, 2025.
- 87) 中島育太郎. リードレスペースメーカーの課題と今後の展望. 第17回植込みデバイス関連冬季大会, 2025.
- 88) 三原豊, 笠川彰, 尾崎さなみ, 中島育太郎, 佐々木憲一, 原田智雄, 明石嘉浩. 皮下植込み型除細動器 (SICD) 術後にデバイスポケット内のエア貯留により不適切作動が生じたと考えられた1例. 第17回植込みデバイス関連冬季大会, 2025.
- 89) 秋山久尚, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 清水高弘, 山野嘉久, 田邊康宏, 栗田真吾, 明石嘉浩. 血管内視鏡を用いた経皮的卵円孔開存閉鎖術の有効性と術後抗血栓薬の中止時期の検討. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 90) 三原豊, 檜山駿輝, 井上謙, 永井航, 川上歩, 加藤太治, 向田拓人, 田邊真樹, 水谷真之, 杉山和宏. 持続脳波管理により救命し得た Cryptogenic New Onset Refractory State Epilepticus (C-NORSE) の一例. 第52回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 91) 高橋怜史, 明石嘉浩, 田邊康宏, 出雲昌樹, 栗田真吾, 奥野泰史, 宮原大輔, 田中徹, 村田理沙子, 齊藤亜実. 肺腫瘍血栓性微小血管症: Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy-見逃さない肺高血圧症の一因-. 第87回神奈川内科学学会学術集談会, 2025.
- 92) 原島祐貴, 奥野泰史, 寺内佳梨, 吉田俊哉, 関口将大, 庄司達朗, 田中徹, 甲斐貴彦, 佐藤如雄, 古賀将史, 栗田真吾, 石橋祐記, 田邊康宏, 出雲昌樹, 明石嘉浩. 日本の介護保険認定患者における経カテーテル大動脈弁置換術の有効性. 第89回日本循環器学会学術集会, 2025.

- 93) 小山内悠介, 細川雄亮, 浅井邦也, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊苺裕二, 海老名俊明, 田村功一, 並木淳郎, 日比潔, 福井和樹, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. Shock index is a simple Index to predict in-hospital mortality in patients with acute myocardial infarction: data from K-ACTIVE registry. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 94) 明石嘉浩. 後期回復期での外来心リハの試みークリニックレベルでの地域的心臓リハ普及にむけて. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 95) 飯野綾香, 小林芳邦, 村松和樹, 野田和里, 山崎浩史, 水越慶, 松田央郎, 水野幸一, 明石嘉浩. Impact of sacubitril/valsartan on elderly patients with heart failure. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 96) 宮原大輔, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 庄司達朗, 山家充起, 関口将大, 田中徹, 小林芳邦, 甲斐貴彦, 奥野泰史, 栗田真吾, 古賀将史, 田邊康宏, 明石嘉浩. Calcium channel blocker use and outcomes following transcatheter aortic valve intervention for aortic stenosis. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 97) 工藤侃, 櫻井馨, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊苺裕二, 海老名俊明, 田村功一, 並木淳郎, 福井和樹, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. Clinical impact of malnutrition in ST-elevation myocardial infarction without standard modifiable cardiovascular risk factors: From the Kanagawa acute cardiovascular registry(K-ACTIVE). 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 98) 宮原大輔, 佐藤如雄, 奥野泰史, 栗田真吾, 古賀将史, 金子智洋, 天野雅史, 大野洋平, 小保方優, 佐藤希美, 岡田大司, 町野智子, 阿部幸雄, 鍵山暢之, 明石嘉浩. The prognostic value of B-type natriuretic peptide in patients with atrial functional mitral regurgitation: Insights from REVEAL-AFMR. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 99) 甲斐貴彦, 出雲昌樹, 関口将大, 庄司達朗, 宮原大輔, 田中徹, 奥野泰史, 佐藤如雄, 栗田真吾, 古賀将史, 田邊康宏, 明石嘉浩. Prevalence and clinical outcomes of permanent conduction disturbances after TAVR. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 100) Yamasaki Taiki, Nemoto Shinji, Kasahara Yusuke, Watanabe Satoshi, Takeichi Naoya, Kuwamura Yuui, Sakai Kenta, Yoshizawa Kazuya, Akao Keigo, Kootaka Yoshifumi, Watanabe Sato, Mizukoshi Kei, Suzuki Norio, Ashikaga Kohei, Kida Keisuke, Osada Naohiko, Akashi Yoshihiro. Association between handgrip strength and prognosis in patients with heart failure complicated by atrial fibrillation. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 101) Kaihara Toshiki. Towards the implementation of cardiac (tele)rehabilitation in Japan - the example of Kawasaki City with a population of 1.5 million. 第 30 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 102) Nakanishi Toru. Emergent rotational atherectomy for a severe calcified LM bifurcation and LAD in a patient with STEMI-CS. 第 32 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 103) Sekiguchi Masahiro, Koga Masashi, Shoji Tatsuro, Kai Takahiko, Okuno Taishi, Sato Yukio, Kuwata Shingo, Izumo Masaki, Ishibashi Yuki, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro. Acute heart failure with severe aortic valve stenosis in acute phase of cerebral hemorrhage: a case report. 第 32 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 104) Tanaka Tetsu, Sugiura Atsushi, Zimmer Sebastian, Nickenig Georg, Weber Marcel. Outcomes of transcatheter edge-to-edge repair for atrial functional mitral regurgitation. 第 32 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2024.
- 105) Kotoku Nozomi. Preprocedural physiological assessment of coronary disease patterns to predict haemodynamic outcomes post-PCI. 第 35 回日本心血管画像動態学会 FRIENDS Live 2025 合同開催, 2025.

- 106) Okuno Taishi. Prosthesis-patient mismatch: Current evidence, pitfalls, and future directions. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 107) Kataoka Akihisa, Izumo Masaki, Kito Kento, Katayama Taiga, Arakawa Masataka, Amano Masashi, Mochizuki Yasuhide, Iwano Hiroyuki, Nakaoka Yoko, Yamashita Eiji, Uno Kiyoko, Yamada Hirotsugu, Kohzuma Ken. Impact of party balloon inflation manoeuvre during saline contrast transthoracic echocardiography for patent foramen ovale detection: INFLATE-PFO registry. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 108) Kotoku Nozomi, Ninomiya Kai, Kohzuma Ken, Kawashima Hideyuki, Ishibashi Yuki, Nakazawa Gaku, Takahashi Kuniaki, Okamura Takayuki, Miyazaki Yosuke, Nakamura Masato, Kogame Norihiro, Asano Taku, Nakatani Shimpie, Morino Yoshihiro, Katagiri Yuuki, Tanabe Kengo, Ozaki Yukio, Muramatsu Takashi, Onuma Yoshinobu, Serruys Patrick. Preprocedural physiological assessment of coronary artery disease pattern to predict haemodynamic outcomes post-PCI. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 109) Higuchi Ryosuke, Izumo Masaki. Prognostic impact of being underweight in patients undergoing mitral TEER: Insights from the OCEAN-mitral registry. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 110) Okuno Taishi, Izumo Masaki, Kuwata Shingo, Akashi Yoshihiro, Hayashida Kentaro. Comparison of MitraClip G4 versus G2 in the evolving landscape of transcatheter edge-to-edge repair in Japan: The OCEAN-mitral registry. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 111) Kaihara Toshiki, Nakajima Ikutaro, Sasaki Kenichi, Kasagawa Akira, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro. Clinical utility of the HeartInsight “HI Score” in predicting NT-proBNP trends for early detection of heart failure: Insights from “HeartInsight”. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.
- 112) Mabuchi Kei, Tanabe Yasuhiro, Sato Yukio, Izumo Masaki, Ishibashi Yuki, Nawata Kan, Akashi Yoshihiro. Prognostic factors for cardiogenic shock cases requiring two or more IMPELLAs, result from the J-PVAD registry. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) Ozaki Sanami, Kaihara Toshiki, Kuramoto Toranosuke, Nishina Hideaki, Falter Maarten, Scherrenberg Martijn, Xu Linqi, Dendale Paul, Akashi Yoshihiro. Digital health readiness for Japanese patients with cardiovascular disease. ESC Preventive Cardiology 2024, 2024.
- 2) Arima Yusaku, Kaihara Toshiki, Nakamura Megumi, Sone Keita, Yoshida Toshiya, Utsugi Yui, Takizawa Shiori, Doi Shunichi, Honda Kei, Kobayashi Yoshikuni, Kasagawa Akira, Kawagoe Yasuhito, Suzuki Tomomi, Kai Takahiko, Koga Masashi, Mitarai Takanobu, Higuma Takumi, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro. Home-based cardiac rehabilitation with a smartwatch and a smartphone gamification application: a pilot study. ESC Preventive Cardiology 2024, 2024.
- 3) Yoshida Toshiya, Okuno Taishi, Kuwata Shingo, Miyahara Daisuke, Kai Takahiko, Sato Yukio, Koga Masashi, Kida Keisuke, Ishibashi Yuki, Tanabe Yasuhiro, Izumo Masaki, Akashi Yoshihiro J. Impact of atrial fibrillation on progression of tricuspid regurgitation in patients undergoing transcatheter aortic valve replacement. European Society of Cardiology (ESC) Congress 2024, 2024.
- 4) Tanaka Tetsu, Sugiura A, Vogelhuber J, Oeztuerk C, Zimmer S, Nickenig G, Weber M. Ventricular interaction and clinical outcomes in patients undergoing transcatheter tricuspid valve repair. European Society of Cardiology (ESC) Congress 2024, 2024.

- 5) Izumo Masaki. Transcatheter aortic valve replacement (TAVR): What's new?. PSE and ECHO ASIA 2024 30th Annual Convention, 2024.
- 6) Kasagawa Akira, Harada Tomoo, Ozaki Sanami, Nakajima Ikutaro, Sasaki Kenichi, Akashi Yoshihiro J. Disappearance of the late and pivoting activation around Koch's triangle after successful ablation for typical atrioventricular nodal reentrant tachycardia. 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs) 2024, 2024.
- 7) Ozaki Sanami, Kasagawa Akira, Nakajima Ikutaro, Sasaki Kenichi, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro J. Safety and efficacy of helix-fixation leadless pacemaker: a comparison with time based leadless pacemaker. 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRs) 2024, 2024.
- 8) Muramatsu Kazuki, Tanabe Yasuhiro, Yoshida Toshiya, Doi Shunichi, Shoji Tatsuro, Oda Ryutaro, Miyahara Daisuke, Okuno Taishi, Sato Yukio, Izumo Masaki, Ishibashi Yuki, Akashi Yoshihiro J.. The association between residual shunt and the endothelialization of the closure devices for patent foramen ovale (PFO) 12 months after implantation evaluated by angioscopy. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics (TCT) 2024, 2024.
- 9) Kaihara Toshiki. Integrating dietary therapy and digital healthcare in cardiac rehabilitation. 10th Asian Preventive Cardiology & Cardiac Rehabilitation Conference, 2024.
- 10) Kaihara Toshiki. Can digital healthcare be used for psychosocial management of cardiac rehabilitation?. 10th Asian Preventive Cardiology & Cardiac Rehabilitation Conference, 2024.
- 11) Oda Ryutaro, Izumo Masaki, Yamaga Mitsuki, Murata Risako, Shoji Tatsuro, Miyahara Daisuke, Okuno Taishi, Sato Yukio, Kuwata Shingo, Akashi Yoshihiro J. Diastolic stress test using six-minute walk test in asymptomatic patients with aortic stenosis. PCR London Valves 2024, 2024.

③ その他

- 1) 田邊康宏. 静脈血栓塞栓症における血栓消失を目指した治療戦略～薬剤とカテーテル治療～. イグザレトウェブカンファレンス, 2024.
- 2) 鈴木規雄. 心不全と呼吸サルコペニア. 第11回日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会, 2024.
- 3) 石橋祐記. 当院における心アミロイドーシスの早期発見・早期治療介入への取り組み. 神奈川県4大学における心アミロイドーシス診療プラクティス～心筋症治療に到来した Game Change に向き合う～, 2024.
- 4) 明石嘉浩. 慢性心不全に対する多職種心臓リハビリテーション～当院における SHD 診療の現状～. 京都心不全ネットワークミーティング, 2024.
- 5) 石橋祐記. 病棟における ARNI の使用法と適正患者像. ARNI Web Symposium～ARNI の使用法を再考する～, 2024.
- 6) 出雲昌樹. 日本人にとっての PPM の意義. 徹底議論!! 最新データから考える日本人に必要な TAVI の Valve Performance, 2024.
- 7) 伊藤伸悟. ECPella 管理中に低酸素血症きたした症例の検討. 神奈川循環器研究会, 2024.
- 8) 田邊康宏. ONCO DVT Study より考える日本人がん合併 DVT に対する抗凝固療法及び新たに導入されるカテーテル治療への期待. VTE Web セミナー in Kanagawa -がん合併 VTE に対する最適な抗凝固療法-, 2024.
- 9) 瀧澤栄, 田邊康宏. 経皮的卵円孔閉鎖術 12 か月後の閉鎖栓内膜被覆度と残存シャントの関係～2 例報告～. 17th Trans Catheter Imaging Forum (TCIF 2024), 2024.
- 10) 伊藤伸悟, 田邊康宏. 血管内視鏡下腫瘍生検. 17th Trans Catheter Imaging Forum (TCIF 2024), 2024.
- 11) 出雲昌樹. PFO 心エコー診断の概要と PFO 診断フロー. 心エコーによる PFO 診断方法と実践, 2024.

- 12) 田邊康宏. PFO 内視鏡. 第 7 回ストラクチャークラブ・ジャパン focus ASD & PFO, 2024.
- 13) 中島育太郎, 笠川彰, 中山由衣, 富樫大輔, 佐々木憲一, 松田央郎, 宮崎秀和, 原田智雄. 頻拍回路近傍の pacing で描出された Line of conduction block の伝導性が基本調律と頻拍中で異なる陳旧性心筋梗塞の 1 例. 第 54 回臨床心臓電気生理研究会, 2024.
- 14) 出雲昌樹. 心不全パンデミックに ARNI で挑む. 地域で考える心不全治療, 2024.
- 15) 貝原俊樹. 川崎市 外来心リハ戦略. 第 49 回ハートケアネットワーク懇話会, 2024.
- 16) 出雲昌樹. OCEAN から考えるこれからの TAVI ストラテジー. 弁膜症チームで考えよう! AS 治療の最適化, 2024.
- 17) 奥野泰史. 当院の肺高血圧診療のこれから～当院での取り組み～. 川崎 PH 診療連携セミナー, 2024.
- 18) 小徳のぞみ. Physiological assessment は PCI 後の outcome を予測し得るか?. 第 23 回神奈川循環器フォーラム, 2024.
- 19) 甲斐貴彦. 大動脈弁狭窄症の治療と術後フォロー. 増加する心臓病について考える会, 2024.
- 20) 出雲昌樹. 急増する人工弁機能評価の実際. 川崎北部 SHD 心エコーセミナー2024～弁膜症の発見と術後フォロー～, 2024.
- 21) 栗田真吾. 右にも目を傾ける時代の到来. 第 11 回信州先進循環器セミナー, 2024.
- 22) 明石嘉浩. SHD 治療後の心臓リハビリテーション～抗凝固療法の話題も含めて～. ハートクラブカンファレンス, 2024.
- 23) 奥野泰史. 当院の肺高血圧症診療について. 地域で取り組む肺高血圧症～その症状診たら相談しませんか～, 2024.
- 24) 貝原俊樹. 外来心リハ実装に向けて～運動・栄養療法へのいざない～. Cardiac Rehabilitation Conference In Kawasaki Ward, 2024.
- 25) 出雲昌樹. エコー医からの SAPIEN 3 Ultra RESILIA Performance. TOKAI TAVI Conference -RESILIA Valve Performance-, 2024.
- 26) 古賀将史. 二尖弁症例. TAVI Conference～二尖弁への TAVI～, 2024.
- 27) 出雲昌樹. OCEAN TAVI Registry から見るサピエン. TAVI up to Date～サピエンの進化を深掘りする～, 2024.
- 28) 石橋祐記. 心血管イベントのリスクマネジメントを考える. 第 2 回神奈川脂質・循環器研究会学術集会 (第 41 回神奈川脂質研究会学術集会), 2024.
- 29) 出雲昌樹. 心不全パンデミック時代の地域連携. 心不全 Web Conference, 2024.
- 30) 貝原俊樹. 心不全に対する非侵襲的アプローチ ～心リハ 運動療法～. Focus on Quintuple Therapy ～心不全治療の非侵襲的アプローチ～, 2024.
- 31) 出雲昌樹. 人工弁機能評価 up to date. Edwards SAPIEN Implanters Meeting, 2024.
- 32) 石橋祐記. 急性冠症候群の至適なインターベンション. 第 10 回 Pan-Pacific Primary Angioplasty Conference 2024 (PAC24), 2024.
- 33) 三原豊. 各施設における糖尿病とサルコペニアの現状. 第 78 回神奈川循環器講演会, 2024.
- 34) 小徳のぞみ. 現代も残る PCI の課題: Physiological diffuse disease をどう評価し治療するのか?. Lipid Management Seminar, 2024.
- 35) 鈴木規雄. 循環器内科専門医が診る高尿酸血症治療. 各診療科で考える高尿酸血症 WEB セミナー, 2024.
- 36) 中島育太郎. 最新 ABL2024～PFA 時代到来・3D の活用方法～. 第 12 回わかりやすい不整脈最新治療勉強会～温故知新～, 2024.
- 37) 奥野泰史. 陰キャがゆく スイス留学&データで見る Self-expanding Valve. 第 3 回東北 7 大学強盗 YAVI update WEB Conference, 2024.
- 38) 出雲昌樹. ACE or P10 -これまでの経験と今考える戦略-. PASCAL Imaging & Implanting Forum, 2024.
- 39) 栗田真吾. Possibilities of PASCAL. PASCAL Imaging & Implanting Forum, 2024.

- 40) 出雲昌樹. 地域で取り組む塞栓症と出血の予防～新たな治療選択肢～. Thrombus Management を極める～出血ハイリスク患者への対応を考える～, 2024.
- 41) 明石嘉浩. 心不全治療と心臓リハビリ. 病病連携を考える会～地域で心不全パンデミックを予防する～, 2024.
- 42) 出雲昌樹. 心不全パンデミック時代の地域連携を考える: 新しい DOAC は福音となれるか?. 循環器診療の最前線 in 高知, 2024.
- 43) 石橋祐記. The importance of intervention in patients suspected "Pre-Heart Failure" without symptoms. KAMAKURA Live 2024 (Reborn 1st), 2024.
- 44) 古賀将史. 石灰化結節に対して Wolverine を使用した症例. Wolverine 倶楽部@St.Marianna～刃を極める～, 2024.
- 45) 伊藤伸悟. 冠動脈起始異常の石灰化病変に対する Wolverine. Wolverine 倶楽部@St.Marianna～刃を極める～, 2024.
- 46) 出雲昌樹. 弁膜症合併心不全に対するカテーテル治療と薬物療法を考える. 脳・心血管障害カンファレンス, 2025.
- 47) 出雲昌樹. 地域で取り組む塞栓症及び出血予防. Brain Heart Conference～出血ハイリスク患者への対応を考える～, 2025.
- 48) 鈴木規雄. 心不全診療における心拍管理～GDMTを目指した治療と再考する～. How To Use 「Ivabradine」? ～病棟医のための心不全治療講座～, 2025.
- 49) 金木真理. 既往のない若年男性の三尖弁 IE の 1 例. 第 95 回内科合同勉強会, 2025.
- 50) 石橋祐記. 当院循環器内科の病診連携、現状と未来. 第 51 回ハートケアネットワーク懇話会, 2025.
- 51) 出雲昌樹. TAVI に関わる全ての人に知ってほしい! 人工弁機能評価 Update. Now On TAVI～血行動態を深掘り～ in 阪和, 2025.
- 52) 佐波稜太, 鈴木規雄, 三原豊, 齊藤亜実, 宮原大輔, 笠川彰, 中島育太郎, 石橋祐記, 出雲昌樹, 原田智雄, 明石嘉浩. 左室駆出率の保たれた心サルコイドーシスに心室中隔起源の持続性心室頻拍が発症した一例. 第 36 回神奈川心不全研究会, 2025.
- 53) 飯野綾香, 村松和樹, 野田和里, 小林芳邦, 古藤弾, 山崎浩史, 水越慶, 松田央郎, 水野幸一. 上室性頻脈性不整脈を伴う HFrEF の診断・治療に難渋した一例. 第 36 回神奈川心不全研究会, 2025.
- 54) 出雲昌樹. SHD 時代における TEE の役割. New Horizon for Cardiology, 2025.
- 55) 鈴木規雄. 自覚症状からアプローチする循環器疾患と漢方薬. Kanagawa Cardiology Seminar 循環器診療の+αに漢方を, 2025.

		和	英
		文	文
著 書		17	
論 文	原著	1	77
	解説又は総説	22	6
	症例報告	5	6
	その他	1	3
学会発表	国内学会	99	13
	国際学会		11
	その他	55	

消化器内科学

著書

- 1) 中野弘康. 肝機能障害でコンサルトされたら?. 8 章 他科からコンサルトされたら? 消化器内科診療の掟—地図をもって山頂を目指そう!— 2024;:316-325.
- 2) 中原一有, 大池信之, 松田浩二. 乳頭部腫瘍 (FAP 以外): 腺腫. 化生や上皮性腫瘍. 腫瘍, 腫瘍様病変. 消化器内視鏡. 十二指腸・小腸疾患アトラス 2024;36:462-463.
- 3) 中野弘康. 消化器 5. 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) 教えて! 専門医の先生 疾患軌道図で学ぶ継続外来 悩みドコロを聞いておきました 2024;:52-69.
- 4) 松田浩二. JED Project の歩みとこれから. 内視鏡ビッグデータと ICT を活用する (第 5 回) 消化器内視鏡 2024;36:1080-1088.
- 5) 立石敬介. NAFLD/NASH の最新エビデンス. エビデンスでみる糖尿病・内分泌疾患 糖尿病・内分泌プラクティス Web 2024;2:0072.
- 6) 立石敬介. IPMN のニッチ環境 肝胆膵 2024;88:573-577.
- 7) 中野弘康. 救急外来での実際: Case study. 第 2 章 救急・一般外来で遭遇する common disease の診かた これだけ! 急性腹症 診療に直結する病歴聴取・身体診察・疾患のエッセンス 2025;:169-177.
- 8) 中野弘康. 身体診察のポイント. 第 1 章 病歴聴取・身体診察のポイント これだけ! 急性腹症 診療に直結する病歴聴取・身体診察・疾患のエッセンス 2025;:33-52.
- 9) 中野弘康. 集中講義! おなかの身体診察. フィジカル&腹診で腹部症状に立ち向かえ。 2025;:1-240.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 中原一有, 大池信之, 松田浩二. 特集 十二指腸・小腸疾患アトラス
I. 腫瘍, 腫瘍様病変
化生や上皮性腫瘍
乳頭部腫瘍 (FAP 以外): 腺腫. 消化器内視鏡, 2024;36(4):462-463.
- 2) 大池信之, 野呂瀬朋子, 角田優子, 杉野隆, 久保秀正, 影山優美子, 蘆田良, 大木克久, 杉浦禎一, 小林慎二郎, 中原一有, 立石敬介. 膵腫瘍の分子多様性～病態の不均一性を紐解く
分子病理からみた膵神経内分泌腫瘍の多様性. 胆と膵, 2024;45(7):741-748.
- 3) 入澤篤志, 蘆田玲子, 伊佐山浩通, 石田和之, 岩崎栄典, 岩下拓司, 潟沼朗生, 菅野 敦, 塩見英之, 竹中 完, 中井陽介, 引地拓人, 安田一朗, 植木敏晴, 赤星和也, 糸井隆夫, 松田浩二, 良沢昭銘, 能登原憲司, 藤城光弘, 五十嵐良典, 田中 信治. EUS-FNA ガイドライン. 日本消化器内視鏡学会雑誌, 2024;66(9):1739-1806.
- 4) 中野弘康. 腹痛を診る 第 4 回: 家族性地中海熱. 消化器クリニカルアップデート, 2024;6(1):99-105.
- 5) 斎藤 豊, 松田浩二, 藤城光弘, 田中聖人. JED を活用した臨床研究の経験①. ビッグデータからみた大腸内視鏡診療の現状. 内視鏡ビッグデータと ICT を活用する (第 7 回). 消化器内視鏡, 2024;36(9):1340-1344.
- 6) 森 悠一, 石原 立, 緒方晴彦, 久津見 弘, 斎藤 豊, 炭山和毅, 関口正字, 田尻久雄, 藤城光弘, 松田浩二, 矢野友規, 青木利佳, 石山美咲, 今川 敦, 大前雅実, 尾田 恭, 加藤元彦, 坂本 琢, 笹部真亜沙, 塩谷昭子, 鈴木志保, 玉井尚人, 引地拓人, 平澤俊明, 牧口茉衣, 三澤将史, 蘆内洋平, 山口太輔, 山田真善, 五十嵐良典, 田中 信治. 内視鏡 AI に関するポジションステートメント. 日本消化器内視鏡学会雑誌, 2024;66(10):2499-2508.

- 7) 中野弘康. 下痢に隠れた見逃せない疾患の診かた・考えかた. スッキリ解決!便秘・下痢診療の悩みどころ. レジデントノート, 2024;26(13):2359-2365.
- 8) 中野 弘康. 消化器医にちょっと役立つ豆知識 困っていませんか機能性消化管障害 今日から使える診察のコツと漢方の実際
第1回機能性消化管疾患への誘い. 消化器クリニカルアップデート, 2025;6(2):224-228.

② 症例報告

- 1) 関根章裕, 中原一有, 路川陽介, 五十嵐洋介, 薩田祐輔, 岸 洋祐, 角田樹生, 飯島良彦, 増田有亮, 立石敬介. ERCP 時のスコープ挿入法の工夫により胆管結石を除去しえた完全内臓逆位の1例. 日本消化器内視鏡学会雑誌, 2024;66(5):1242-1249.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura Kiminori, Tanuma Junko, Kimura Masamichi, Imamura Jun, Yanase Mikio, Ieiri Ichiro, Kurosaki Masayuki, Watanabe Tsunamasa, Endo Tomoyuki, Yotsuyanagi Hiroshi, Gatanaga Hiroyuki. Safety and tolerability of OP-724 in patients with haemophilia and liver cirrhosis due to HIV/HCV coinfection: an investigator-initiated, open-label, non-randomised, single-centre, phase I study. *BMJ Open Gastroenterology*, 2024;11(1):e001341.
- 2) Aoki Tomonori, Sadashima Eiji, Kobayashi Katsumasa, Yamauchi Atsushi, Yamada Atsuo, Omori Jun, Ikeya Takashi, Aoyama Taiki, Tominaga Naoyuki, Sato Yoshinori, Kishino Takaaki, Ishii Naoki, Sawada Tsunaki, Murata Masaki, Takao Akinari, Mizukami Kazuhiro, Kinjo Ken, Fujimori Shunji, Uotani Takahiro, Fujita Minoru, Sato Hiroki, Hayakawa Yoku, Fujishiro Mitsuhiro, Kaise Mitsuru, Nagata Naoyoshi, CODE BLUE-J Study collaborators. High risk stigmata and treatment strategy for acute lower gastrointestinal bleeding: a nationwide study in Japan. *Endoscopy*, 2024;56(4):291-301.
- 3) Tsuda M, Watanabe Y, Oikawa R, Watanabe R, Higashino M, Kubo K, Yamamoto H, Itoh F, Kato M.. Impact of mixed-infection rate of clarithromycin-susceptible and clarithromycin-resistant *Helicobacter pylori* strains on the success rate of clarithromycin-based eradication treatment. *Helicobacter*, 2024;29(2):e13062.
- 4) Kobayashi Shinjiro, Nakahara Kazunari, Umezawa Saori, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Sato Junya, Tateishi Keisuke, Otsubo Takehito. Elective Cholecystectomy After Endoscopic Gallbladder Stenting for Acute Cholecystitis: A Propensity Score Matching Analysis. *Surgical laparoscopy, endoscopy & percutaneous techniques*, 2024;34(2):171-177.
- 5) Kikuchi Yoshinori, Shimada Hideaki, Yamasaki Fumiyuki, Yamashita Taku, Araki Koji, Horimoto Kohei, Yajima, Satoshi, Yashiro Masakazu, Yokoi Keigo, Cho Haruhiko, Ehira Takuya, Nakahara Kazunari, Yasuda Hiroshi, Isobe Kazutoshi, Hayashida Tetsu, Hatakeyama Shingo, Akakura Koichiro, Aoki Daisuke, Nomura Hiroyuki, Tada Yuji, Yoshimatsu Yuki, Miyachi Hayato, Takebayashi Chiaki, Hanamura Ichiro, Takahashi Hiroyuki. Clinical practice guidelines for molecular tumor marker, 2nd edition review part 2. *International Journal of Clinical Oncology*, 2024;29(5):512-534.

- 6) Toyoda Hidenori, Tada Toshifumi, Uojima Haruki, Nozaki Akito, Chuma Makoto, Takaguchi Koichi, Hiraoka Atsushi, Abe Hiroshi, Itobayashi Ei, Matsuura Kentaro, Atsukawa Masanori, Watanabe Tsunamasa, Shimada Noritomo, Nakamuta Makoto, Kojima Motoyuki, Tsuji Kunihiko, Mikami Shigeru, Ishikawa Toru, Yasuda Satoshi, Tsutsui Akemi, Arai Taeang, Kumada Takashi, Tanaka Yasuhito, Tanaka Junko, Chayama Kazuaki. Comparison of six hepatocellular carcinoma prediction models in Japanese patients after sustained virologic response undergoing rigorous surveillance for hepatocellular carcinoma. *Journal of Gastroenterology and Hepatology*, 2024;39(5) : 949-954.
- 7) Yamamoto H, Arai H, Oikawa R, Umemoto K, Takeda H, Mizukami T, Kubota Y, Doi A, Horie Y, Ogura T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y.. The molecular landscape of gastric cancers for novel targeted therapies from real-world genomic profiling. *Targeted Oncology*, 2024;19(3) : 459-471.
- 8) Fanpu Ji, Sally Tran, Eiichi Ogawa, Chung-Feng Huang, Takanori Suzuki, Yu Jun Wong, Hidenori Toyoda, Dae Won Jun, Liu Li, Haruki Uojima, Akito Nozaki, Makoto Chuma, Cheng-Hao Tseng, Yao-Chun Hsu, Masatoshi Ishigami, Takashi Honda, Masanori Atsukawa, Hiroaki Haga, Masaru Enomoto, Huy Trinh, Carmen Monica Preda, Phillip Vutien, Charles Landis, Dong Hyun Lee, Tsunamasa Watanabe, Hirokazu Takahashi, Hiroshi Abe, Akira. Real-world Effectiveness and Tolerability of Interferon-free Direct-acting Antiviral for 15,849 Patients with Chronic Hepatitis C: A Multinational Cohort Study. *Journal of Clinical and Translational Hepatology*, 2024; : Doi: 10.14218.
- 9) Tyng-Yuan Jang, Po-Cheng Liang, Dae Won Jun, Jang Han Jung, Toyoda Hidenori, Chih-Wen Wang, Man-Fung Yuen, Ka Shing Cheung, Yasuda Satoshi, Sung Eun Kim, Eileen L. Yoon, Jihyun An, Enomoto Masaru, Kozuka Ritsuzo, Chuma Makoto, Nozaki Akito, Ishikawa Toru, Watanabe Tsunamasa, Atsukawa Masanori, Arai Taeang, Hayama Korenobu, Ishigami Masatoshi, Yong Kyun Cho, Ogawa Eiichi, Hyoung Su Kim, Jae-Jun Shim, Uojima Haruki, Soung Won Jeong, Sang Bong Ahn, Takaguchi Koichi, Senoh Tomonori, Maria Buti, Elena Vargas-Accarino, Abe Hiroshi, Takahashi Hirokazu, Inoue Kaori, Ming-Lun Yeh, Chia-Yen Dai, Jee-Fu Huang, Chung-Feng Huang, Wan-Long Chuang, Mindie H. Nguyen, Ming-Lung Yu.. Mortality in patients with chronic hepatitis B treated with tenofovir or entecavir: A multinational study. *Journal of Gastroenterology and Hepatology*, 2024;39(6) : 1190-1197.
- 10) Kobayashi Satoshi, Fukushima Taito, Ueno Makoto, Chuma Makoto, Numata Kazushi, Tsuruya Kota, Arase Yoshitaka, Hirose Shunji, Kagawa Tatehiro, Hattori Nobuhiro, Watanabe Tsunamasa, Matsunaga Kotaro, Uojima Haruki, Hidaka Hisashi, Kusano Chika, Morimoto Manabu, Maeda Shin. Progression pattern and post-progression survival following atezolizumab and bevacizumab treatment in advanced hepatocellular carcinoma. *Liver International*, 2024;44(6) : 1343-1350.
- 11) Norose Tomoko, Ohike Nobuyuki, Nakaya Daiki, Kamiya Kentaro, Sugiura Yoshiya, Takatsuki Misato, Koizumi Hirotaka, Okawa Chie, Ohya Aya, Sasaki Miyu, Aoki Ruka, Nakahara Kazunari, Kobayashi Shinjiro, Tateishi Keisuke, Junki Koike. Investigation of the usefulness of a bile duct biopsy and bile cytology using a hyperspectral camera and machine learning. *Pathology International*, 2024;74(6) : 337-345.
- 12) Zhang Ying, Numata Kazushi, Imajo Kento, Uojima Haruki, Funaoka Akihiro, Komiyama Satoshi, Ogushi Katsuaki, Chuma Makoto, Irie Kuniyasu, Kokubu Shigehiro, Yoneda Masato, Kobayashi Takashi, Hidaka Hisashi, Fukushima Taito, Kobayashi Satoshi, Morimoto Manabu, Kagawa Tatehiro, Hattori Nobuhiro, Watanabe Tsunamasa, Iwase Shigeru, Maeda Shin. Lenvatinib radiofrequency ablation sequential therapy offers survival benefits for

- patients with unresectable hepatocellular carcinoma at intermediate stage and the liver reserve of Child-Pugh A category: A multicenter study. *Hepatology Research*, 2024; : DOI-10.1111/hepr.14089.
- 13) Ji Fanpu Tran Sally, Ogawa Eiichi, Huang Chung-Feng, Suzuki Takanori, Watanabe Tsunamasa, ...Nguyen Mindie H 他 94 名. Real-world Effectiveness and Tolerability of Interferon-free Direct-acting Antiviral for 15,849 Patients with Chronic Hepatitis C: A Multinational Cohort Study. *Journal of Clinical and Translational Hepatology*, 2024;12(7) : 646-658.
 - 14) Kudaravalli Sahith, Huang Daniel Q, Yeh Ming-Lun, Trinh Lindsey, Tsai P.C, Hsu Yao-Chun, Kam Leslie Y, Nguyen Vy H, Ogawa Eiichi, Lee Dong Hyun, Ito Takanori, Watanabe Tsunamasa, Enomoto Masaru, Preda Carmen Monica, Ko Michael K.L, Hui Rex Wan-Hin, Atsukawa Masanori, Suzuki Takanori, Marciano Sebastian, Barreira Ana, Do Son, Uojima Haruki, Takahashi Hirokazu, Quek Sabrina X.Z, .Toe Wai Khine Htet Htet, Ishigami Masatoshi, Itokawa Norio, Go Min Seok, Kozuka Ritsuzo, Marin Raluca Ioana, Sandra Irina, Li Jiayi, Jian Q. Zhang Jian Q, Wong Christopher, Yoshimaru Yoko, Vo Dang K.H, Tseng Cheng-Hao, Lee Chul-jin, Inoue Kaori, Maeda Mayumi, Hoang Joseph K, Chau Angela, Chuang Wan-Long, Dai Chia-Yen, Huang Jee-Fu, Huang Chung-Feng, Buti Maria, Tanaka Yasuhito, Gadano Adrian Carlos, Yuen Man-Fung, Cheung Ramsey, Lim Seng Gee, Trinh Huy N, .Toyoda Hidenori, Yu Ming-Lung, Nguyen Mindie H. Sex and ethnic disparities in hepatitis B evaluation and treatment across the world. *Journal of Hepatology*, 2024;81(1) : 33-41.
 - 15) Sanyal Arun J, Bedossa Pierre, Fraessdorf Mandy, Neff Guy W, Lawitz Eric, Bugianesi Elisabetta, Anstee Quentin M, Hussain Samina Ajaz, Newsome Philip N, Ratziu Vlad, Hosseini-Tabatabaei Azadeh, Schattenberg Jörn M, Nouredin Mazen, Alkhouri Naim, Younes Ramy. A Phase 2 Randomized Trial of Survodutide in MASH and Fibrosis. *NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE*, 2024;391(4) : 311-319.
 - 16) Kobayashi Shinjiro, Nakahara Kazunari, Umezawa Saori, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Sato Junya, Tateishi Keisuke, Otsubo Takehito. Benign hepaticojejunostomy strictures after pancreatoduodenectomy. *BMC Gastroenterology*, 2024;24(1) : 293-293.
 - 17) Atsukawa Masanori, Tsubota Akihito, Kondo Chisa, Toyoda Hidenori, Takaguchi Koichi, Nakamuta Makoto, Watanabe Tsunamasa, Morishita Asahiro, Tani Joji, Okubo Hironao, Hiraoka Atsushi, Nozaki Akito, Chuma Makoto, Kawata Kazuhito, Uojima Haruki, Ogawa Chikara, Asano Toru, Mikami Shigeru, Kato Keizo, Matsuura Kentaro, Ikegami Tadashi, Ishikawa Toru, Tsuji Kunihiro, Tada Toshifumi, Tsutsui Akemi, Senoh Tomonori, Kitamura Michika, Okubo Tomomi, Arai Taeang, Kohjima Motoyuk, Morita Kiyoshi, Akahane Takehiro, Nishikawa Hiroki, Iwasa Motoh, Tanaka Yasuhito, Iwakiri Katsuhiko. ALBI score predicts morphological changes in esophageal varices following direct-acting antiviral-induced sustained virological response in patients with liver cirrhosis. *Journal of Gastroenterology*, 2024;59(8) : 709-718.
 - 18) Sakurai Ryuse, Iwata Hanae, Gotoh Masaki, Ogino Hiroyuki, Takeuchi Issei, Makino Kimiko, Itoh Fumio, Saitoh Akiyoshi. Application of PLGA-PEG-PLGA Nanoparticles to Percutaneous Immunotherapy for Food Allergy. *Molecules*, 2024;29(17) : 4123-4136.
 - 19) Fujiwara Hiroaki, Furudate Shiho, Takahara Naminatsu, Nakai Yousuke, Kodama Yuki, Arai Junya, Nakagawa Hayato, Ikenoue Tsuneo, Tateishi Keisuke, Kasuga Masato, Fujishiro Mitsuhiro. Probe-guided endoscopic system for 5-aminolevulinic acid-based photodynamic diagnosis in cholangiocarcinoma. *Photodiagnosis and Photodynamic Therapy*, 2024;48(104268) : DOI-10.1016/j.pdpdt.2024.104268. .

- 20) Saito Tomotaka, Takenaka Mamoru, Kuwatani Masaki, Doi Shinpei, Ohyama Hiroshi, Fujisawa Toshio, Masuda Atsuhiko, Iwashita Takuji, Shiomi Hideyuki, Hayashi Nobuhiko, Iwata Keisuke, Maruta Akinori, Mukai Tsuyoshi, Matsubara Saburo, Hamada Tsuyoshi, Inoue Tadahisa, Matsumoto Kazuyuki, Hirose Sumio, Fujimori Nao, Kashiwabara Kosuke, Kamada Hideki, Hashimoto Shinichi, Shiratori Toshiyasu, Yamada Reiko, Kogure Hirofumi, Nakahara Kazunari, Ogura Takeshi, Kitano Masayuki, Yasuda Ichiro, Isayama Hiroyuki, Nakai Yousuke,..
WONDER-02: plastic stent vs. lumen-apposing metal stent for endoscopic ultrasound-guided drainage of pancreatic pseudocysts-study protocol for a multicentre randomised non-inferiority trial. *Trials*, 2024;25(1) : 559-573.
- 21) Komatsu Takumi, SatoYoshinori, Tanabe Kenichiro, Ishida Jun, Nakamoto Yusuke, Kato Masaki, Kiyokawa Hirofumi, Yoshida Yoshihito, Kuroki Yuichiro, Maehata Tadateru, Yasuda Hiroshi, Matsumoto Nobuyuki, Tateishi Keisuke.
Trends and Changes in Endoscopic Management and Clinical Outcomes of Colonic Diverticular Bleeding during the Coronavirus Disease-2019 Pandemic. *Journal of the Anus, Rectum and Colon*, 2024;8(4) : 403-410.
- 22) Itokawa Norio, Atsukawa Masanori, Tsubota Akihito, Ishikawa Toru, Toyoda Hidenori, Takaguchi Koichi, Watanabe Tsunamasa, Ogawa Chikara, Hiraoka Atsushi, Okubo Hironao, Uojima Haruki, Chuma Makoto, Nozaki Akito, Kato Keizo, Mikami Shigeru, Tani Joji, Morishita Asahiro, Tada Toshifumi, Asano Toru, Senoh Tomonori, Oikawa Tsunekazu, Okubo Tomomi, Kumada Takashi, Iwakiri Katsuhiko. Kinetics of the hepatitis B core-related antigen and treatment responses in chronic hepatitis B patients treated with tenofovir alafenamide. *Hepatology Research*, 2024;54(11) : 993-1003.
- 23) Watanabe Y, Yamamoto H, Oda I, Torii K, Futagami S, Miftahussurur M, Gwee K-A, Tsuda M, Kato M, Tateishi K.
Evaluating collection time of intragastric fluid during endoscopy for point-of-care test-based *Helicobacter pylori* polymerase chain reaction. *Internal Medicine*, 2024; : 10.2169/internalmedicine.4320-24.
- 24) Ying Zhang, Kazushi Numata, Kento Imajo, Haruki Uojima, Akihiro Funaoka, Satoshi Komiyama, Katsuaki Ogushi, Makoto Chuma, Kuniyasu Irie, Shigehiro Kokubu, Masato Yoneda, Takashi Kobayashi, Hisashi Hidaka, Taito Fukushima, Satoshi Kobayashi, Manabu Morimoto, Tatehiro Kagawa, Nobuhiro Hattori, Tsunamasa Watanabe, Shigeru Iwase, Shin Maeda. Lenvatinib radiofrequency ablation sequential therapy offers survival benefits for patients with unresectable hepatocellular carcinoma at intermediate stage and the liver reserve of Child-Pugh A category: A multicenter study. *Hepatology Research*, 2024; : 1174-1192.
- 25) Kawamura Takuji, Oda Yasushi, Toyoizumi Hirobumi, Kato Masayuki, Sekiguchi Masau, Takamaru Hiroyuki, Mizuguchi Yasuhiko, Horiguchi Go, Kobayashi Kiyonori, Sada Miwa, Yokoyama Akira, Utsumi Takahiro, Tsuji Yosuke, Ohki Daisuke, Takeuchi Yoji, Shichijo Satoki, Ikematsu Hiroaki, Matsuda Koji, Teramukai Satoshi, Kobayashi Nozomu, Matsuda Takahisa, Saito Yutaka, Tanaka Kiyohito. Risk of colorectal cancer among fecal immunochemical test-positive individuals by timing of previous colonoscopy: A multicenter analysis. *Journal of Gastroenterology and Hepatology*, 2025;40(1) : 153-158.
- 26) Sekiguchi Masau, Kawamura Takuji, Horiguchi Go, Mizuguchi Yasuhiko, Takamaru Hiroyuki, Toyoizumi Hirobumi, Kato Masayuki, Kobayashi Kiyonori, Sada Miwa, Oda Yasushi, Yokoyama Akira, Utsumi Takahiro, Tsuji Yosuke, Ohki Daisuke, Takeuchi Yoji, Shichijo Satoki, Ikematsu Hiroaki, Matsuda Koji, Teramukai Satoshi, Kobayashi Nozomu, Matsuda Takahisa, Saito Yutaka, Tanaka Kiyohito. Colorectal Neuroendocrine Neoplasm Detection Rate During Colonoscopy: Results From Large-Scale Data of Colonoscopies in Japan. *The American Journal of*

Gastroenterology, 2025;120(2) : 473-477.

- 27) Kusano Chika , Tsutsumi Koshiro , Horii Toshiki, Suzuki Sho, Kiyokawa Hirofumi, Maehata Tadateru, Hirayama Itsuko, Minami Shinya, Sumiyoshi Tetsuya, Nagahama Ryuji. Is the Helicobacter pylori stool antigen test with bioluminescent enzyme immunoassay affected by proton pump inhibitors?. Digestion, 2025; : DOI-10.1159/000545347.

② 総説又は症例解説

- 1) Yamamoto Hiroyuki, Watanabe Yoshiyuki, Arai, Hiroyuki Umemoto Kumiko, Tateishi Keisuke, Sunakawa Yu. Microsatellite instability: A 2024 update. Cancer Science, 2024;115(6) : 1738-1748.
- 2) Isayama Hiroyuki, Nakai Yousuke, Matsuda Koji, Kanno Yoshihide, Hara Kazuo, Ogura Takeshi, Abe Nobutsugu, Katanuma Akio, Kitano Masayuki, Yasuda Ichiro, Okano Naoki, Tsuchiya Takayoshi, Fujita Naotaka, Inui Kazuo, Ueki Toshiharu, Irisawa Atsushi, Yamano Hiro-o. The Subcommittee for Terminology of Interventional EUS of Japan Gastroenterological Endoscopy Society.. Proposal of classification and terminology of interventional endoscopic ultrasonography/endosonography. Digestive Endoscopy, 2025;37(1) : 5-17.

③ 症例報告

- 1) Sekine Akihiro, Nakahara Kazunari, Tateishi Keisuke. Double novel integrated outside biliary stent and nasobiliary drainage catheter system placement for hilar biliary stricture. Digestive Endoscopy, 2024;36(6) : 740-741.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎飛弾一樹, 清川博史, 荒木建一, 小松拓実, 中本悠輔, 加藤正樹, 佐藤義典, 前畑忠輝, 安田 宏, 立石敬介.. 臨床医が知っておくべき急性腹症の一例. 第121回日本内科学会総会・講演会, 2024.
- 2) ◎中谷健二郎, 黒木優一郎, 見原雄貴, 得平卓也, 吉田良仁, 高橋秀明, 松本伸行, 長宗我部基弘, 有泉 泰, 立石敬介. 腺腫を合併した直腸粘膜脱症候群に内視鏡切除を施行した一例. 日本消化器病学会関東支部第379回例会, 2024.
- 3) ◎佐藤雄太郎, 加藤正樹, 荒木建一, 小松拓実, 中本悠輔, 清川博史, 今野真己, 佐藤義典, 前畑忠輝, 安田 宏, 立石敬介, 菱田吉明. 糖尿病性ケトアシドーシスに合併した急性壊死性食道炎の一例. 日本消化器病学会関東支部第379回例会, 2024.
- 4) ◎草野 央, 住吉徹哉, 南 伸弥, 堤康志郎, 前畑忠輝, 清川博史, 長浜隆司, 平山慈子, 堀井敏喜, 鈴木 翔, 後藤田卓志.. BLEIA法を用いた高感度便中H.pylori抗原検査における酸分泌抑制剤の影響. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会, 2024.
- 5) 中村祐太, 小林慎二郎, 中原一有, 菱田吉明, 曽根正勝. 膵疾患における血糖マネジメント指標の変化と術後の推移についての検討. 第97回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 6) 金澤実, 高橋秀明, 見原雄貴, 得平卓也, 吉田良仁, 黒木優一郎, 松本伸行, 立石敬介. 胃静脈瘤に対するバルーン下逆行性経静脈的塞栓術(BRTO)が肝機能に及ぼす影響. 第60回日本肝臓学会総会, 2024.
- 7) 井田圭亮, 小林慎二郎, 薩田祐介, 関根章裕, 五十嵐洋介, 土橋篤仁, 中原一有, 小泉哲, 大坪毅人. Endoscopic Gallbladder Stenting(EGBS)留置から胆嚢摘出までの期間の関する検討. 第79回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 8) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 五十嵐洋介, 野呂瀬朋子, 大池信之, 大坪毅人. 当院で経験した腓上皮癌5例についての臨床病理学的検討. 第79回日本消化器外科学会総会, 2024.

- 9) 小林慎二郎, 中原一有, 梅澤早織, 井田圭亮, 五十嵐洋介, 関根章裕, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 外科と内科の肝臓チーム連携による深在性膵損傷に対する治療戦略. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 10) 井田圭亮, 小林慎二郎, 木村紗衣, 梅澤早織, 関根章裕, 五十嵐洋介, 土橋篤仁, 中原一有, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 尾側膵切除における膵切除位置と術後糖尿病に関する検討. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 11) 小林慎二郎, 中原一有, 梅本久美子, 野呂瀬朋子, 中村祐太, 佐々木信幸, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 大池信之, 砂川優, 立石敬介, 大坪毅人. 当院における”胆道・膵臓病センター”の設置から現在までのと今後の課題. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 12) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術における早期回復のための術前栄養・運動療法必要性. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 13) 中村祐太, 小林慎二郎, 中原一有, 菱田吉明, 曾根正勝. 代謝・内分泌領域からみた膵切除の留意点ー糖尿病とビタミン D を中心にー. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 14) 木村紗衣, 小林慎二郎, 野呂瀬朋子, 中原一有, 井田圭亮, 関根章裕, 五十嵐洋介, 土橋篤仁, 小泉哲, 大池信之, 立石敬介, 大坪毅人. 術前診断に至らなかった膵 Epidermoide c y s t の 1 例. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 15) ◎橋本英篤, 渡邊綱正, 鈴木達也, 井田圭亮, 小泉哲, 立石敬介. ABCconversion 肝切除した進行肝細胞癌の 3 例. 日本消化器病学会関東支部第 380 回例会, 2024.
- 16) ○望月篤, 東郷建, 黄世捷, 高橋政樹, 松本伸行, 田嶋ティナ宏子, 信岡祐彦, 伊野美幸. 改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した新カリキュラム構築への取り組み. 第 56 回日本医学教育学会大会, 2024.
- 17) 中原一有, 丹羽はるか, 薩田祐輔, 関根章裕, 五十嵐洋介, 小林慎二郎, 小泉哲, 大坪毅人, 立石敬介. 術後胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療. 第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2024.
- 18) 鹿野直樹, 松永綾子, 加藤正樹, 千葉清, 森美佳, 長江千愛, 山崎和子, 豊福悦史, 清水直樹. 両側肺血栓塞栓症による心肺停止を契機に診断されたクローン病の一例. 第 51 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会, 2024.
- 19) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 立石敬介, 大坪毅人. 高齢者胆道癌に対する膵頭十二指腸切除のリスクマネージメント. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024.
- 20) 金澤実, 立石敬介, 高橋秀明. 肝臓・消化器領域における新興・再興感染症 当院における過去 27 年間の A 型肝炎症例の疫学的検討. JDDW2024, 2024.
- 21) ◎石田 潤, 黒木優一郎, 寺師和真, 見原雄貴, 得平卓也, 高橋秀明, 松本伸行, 立石敬介. 入院加療した中高年潰瘍性大腸炎における臨床的特徴と治療方針に与える影響の検討. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 2024.
- 22) 鹿野直樹, 松永綾子, 加藤正樹, 清水直樹. 潰瘍性大腸炎が疑われたが異なる診断を得た小児期発症炎症性腸疾患の 3 例. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 2024.
- 23) 有福厚孝, 小林慎二郎, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 野呂瀬朋子, 大池信之, 中原一有, 大坪毅人. SPACE にて adenocarcinoma が同定され、膵全摘で多彩な病理像が得られた IPMC(Tis) の 1 例. 第 28 回日本外科病理学会学術集会, 2024.
- 24) 榎本武治, 有木宏宗, 大舘知佳, 本鍋田由美子, 福澤知子, 内川隆子, 長田直彦, 安田宏, 明石嘉浩, 大坪毅人. 当院における Do not attempt resuscitation (DNAR) の取得並びに多職種での共有について. 第 19 回医療の質・安全学会学術集会, 2024.
- 25) 有木宏宗, 榎本武治, 大舘知佳, 本鍋田由美子, 福澤知子, 内川隆子, 坂上逸孝, 長田尚孝, 安田宏, 明石嘉浩. 転倒・転落と使用薬剤の因果関係の検討. 第 19 回医療の質・安全学会学術集会, 2024.

- 26) 鳥居美鈴, 中野万理, 黒田貴子, 富成智子, 伊藤一希, 山田都, 在原卓, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田維瑞穂, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 鈴木達也, 津川浩一郎. 術後補助療法におけるアベマシクリブによる肝障害を呈した乳癌の一例 ～副作用マネージメントについて～. 第20回日本乳癌学会関東地方会, 2024.
- 27) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術における早期回復のための多臓腫による術前栄養・運動療法の必要性. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会, 2025.
- 28) ◎尚原 弘和, 加藤 正樹, 塚本 京子, 荒木 健一, 石田 潤, 小松 拓実, 中本 悠輔, 今野 真己, 清川 博史, 佐藤 義典, 前 畑 忠輝, 安田 宏, 立石 敬介. 小腸大腸型クローン病に伴う慢性偽性腸閉塞症に対して経胃瘻的空腸瘻が有効であった一例. 日本消化器病学会関東支部第383回例会, 2025.
- 29) ◎今野 真己, 前畑 忠輝, 飛弾 一樹, 佐藤雄太郎, 小松 拓実, 中本 悠輔, 加藤 正樹, 清川 博史, 佐藤 義典, 安田 宏, 立石 敬介. AI 診断機能を用い、検査クオリティー向上を目的とした上部消化管内視鏡検査初学者のトレーニングの試み. 第21回日本消化管学会総会学術集会, 2025.
- 30) ◎小松拓実, 佐藤義典, 中野弘康, 加藤正樹, 清川博史, 今野真己, 黒木優一郎, 落合康利, 前畑忠輝, 安田 宏, 立石敬介. 医師の働き方改革による上部消化管出血に対する緊急内視鏡への影響. 第21回日本消化管学会総会学術集会, 2025.
- 31) ◎清川博史, 草野 央, 住吉徹哉, 南 伸弥, 堤康志郎, 前畑忠輝, 長浜隆司, 平山慈子, 堀井敏喜, 鈴木 翔, 後藤田卓志. 酸分泌抑制剤内服下における BLEIA 法を用いた便中 H. pylori 抗原検査の性能評価. 第21回日本消化管学会総会学術集会, 2025.
- 32) 佐波 稜太, 清川 博史, 塚本 京子, 小松 拓実, 中本 悠輔, 加藤 正樹, 今野 真己, 佐藤 義典, 前畑 忠輝, 安田 宏, 立石 敬介. 臨床医が知っておくべき急性腹症の1例. 聖マリアンナ医科大学医学会第87回学術集会, 2025.
- 33) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 薩田祐輔, 関根章裕, 五十嵐洋介, 立石敬介, 大坪毅人. ERCP 後後腹膜穿孔例における対応. 第61回日本腹部救急医学会総会, 2025.
- 34) 井田圭亮, 小林慎二郎, 中原一有, 小川敦博, 梅澤早織, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 急性胆嚢炎の治療戦略: 夜間緊急手術の是非に関する検討. 第61回日本腹部救急医学会総会, 2025.
- 35) ◎松田浩二. 知る・学ぶ・実践する-内視鏡洗浄から評価. 日本消化器内視鏡技師会第1回ブラッシュアップセミナー, 2024.

② 国際学会

- 1) ◎Matsuda Koji. Colorectal stent as a bridge-to-surgery (BTS) option: BTS stenting should be the last option. ENDO2024 (Connecting the World of Endoscopy), 2024.
- 2) ◎Matsuda Koji. Pancreatic cystic neoplasm: See and resect policy. ENDO2024 (Connecting the World of Endoscopy), 2024.

③ その他

- 1) ◎清川博史. 咽頭・食道癌に対する最新の内視鏡治療 ～PDT/ESD～. 神奈川消化器フォーラム, 2024.
- 2) ◎渡邊綱正. 肝炎ウイルス治療のいま ～HBV と HCV の残された課題～. 第2回肝疾患 WEB セミナー, 2024.
- 3) ◎清川博史. 高齢化社会における消化管障害のリスクマネジメント. GI Collaboration Seminar, 2024.
- 4) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. 浜松慢性便秘症セミナー, 2024.
- 5) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. Constipation Treatment Seminar, 2024.
- 6) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. Women's health seminar, 2024.

- 7) ◎渡邊綱正. B型慢性肝疾患のUp To Date ～発がんリスクの最新の知見～. HBV Forum 2024, 2024.
- 8) 山本博幸. 慢性便秘症の診療A to Z ～便通異常症診療ガイドライン2023を踏まえて～. 高知県病院薬剤師会7月例会, 2024.
- 9) ◎山本博幸. 慢性便秘症の診療A to Z ～便通異常症診療ガイドライン2023を踏まえて～. シン・ベんぴシリーズ ～全科で語り合う便秘症診療～, 2024.
- 10) ◎加藤正樹. UC治療におけるゴリムマブのリアルワールドデータ ～特定使用成績調査の結果から～. Ulcerative Colitis Web Seminar ～病理学より紐解く潰瘍性大腸炎治療～, 2024.
- 11) ◎渡邊綱正. Borderline resectable HCCに対する内科と外科の考え方: ” 神奈川内科-外科HCC治療連携meeting”アンケート結果より. 肝細胞癌における肝切除の適応を内科・外科で考える会, 2024.
- 12) ◎前畑忠輝. 最近の消化管腫瘍に対する内視鏡治療 ～排便管理含めて～. 消化器疾患フォーラム, 2024.
- 13) ◎橋本英篤. 2023年度に当院で経験したACLFの報告. 第48回 神奈川ウイルス肝炎セミナー, 2024.
- 14) 梅本 久美子, 中原 一有, 大池 信之, 五十嵐 洋介, 薩田 祐輔, 関根 章裕, 野呂瀬 朋子, 小池 淳樹, 久保田 洋平, 永田 祐介, 武田 弘幸, 堀江 良樹, 新井 裕之, 伊澤 直樹, 立石 敬介, 砂川 優. 膵癌患者における細胞診検体の ddPCR 解析を用いた KRAS 変異測定. 聖マリアンナ医科大学医学部 第86回学術集会, 2024.
- 15) 山本博幸. 慢性便秘症の診療A to Z ～便通異常症診療ガイドライン2023を踏まえて～. 慢性便秘症Webセミナー～各診療科の垣根を超えた便秘症診療～, 2024.
- 16) 山本博幸. 慢性便秘症の診療A to Z ～便通異常症診療ガイドライン2023を踏まえて～. 慢性便秘症フォーラム in ふくしま, 2024.
- 17) ◎佐藤義典. 抗血小板薬療法に対する消化管粘膜障害予防. 県央 Medical Collaboration Seminar ～循環器領域～, 2024.
- 18) 山本博幸. 慢性便秘症の診療A to Z ～便通異常症診療ガイドライン2023を踏まえて～. 在宅療養者の慢性便秘症勉強会, 2024.
- 19) ◎渡邊綱正. B型肝炎ウイルス診療の現状. 神奈川肝疾患診療フォーラム2024, 2024.
- 20) 山本博幸. 消化器内科専門医が診る高尿酸血症治療. 各診療科で考える高尿酸血症WEBセミナー, 2024.
- 21) ◎渡邊綱正. 今できるB型肝炎治療 ～母子感染予防、Grey Zone 対策含めた私の治療戦略～. WEBセミナー B型肝炎治療について考える, 2024.
- 22) ◎前畑忠輝. 消化管出血のマネジメント～WatchManへの期待～. Thrombus Management を極める ～出血ハイリスク患者への対応を考える～, 2024.
- 23) ◎石田 潤. 軽症UCにおける薬剤選択. UC治療を考える会, 2025.
- 24) ◎渡邊綱正. 肝炎ウイルス治療の現状. 肝疾患診療の最近の試み～地域連携の強化を見据えて～, 2025.
- 25) ◎落合康利. 大腸腫瘍に対する内視鏡治療の最前線. 便秘治療セミナー inKAWASAKI, 2025.

		和 文	英 文
著 書		9	
論 文	原著		27
	解説又は総説	8	2
	症例報告	1	1
	その他		
学会発表	国内学会	34	1
	国際学会		2
	その他	25	

バイオインフォマティクス学

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Tsuda M, Watanabe Y, Oikawa R, Watanabe R, Higashino M, Kubo K, Yamamoto H, Itoh F, Kato M.. Impact of mixed-infection rate of clarithromycin-susceptible and clarithromycin-resistant *Helicobacter pylori* strains on the success rate of clarithromycin-based eradication treatment. *Helicobacter*, 2024;29(2) : e13062.
- 2) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. *International journal of clinical oncology*, 2024;29(5) : 571-581.
- 3) Yamamoto H, Arai H, Oikawa R, Umemoto K, Takeda H, Mizukami T, Kubota Y, Doi A, Horie Y, Ogura T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y.. The molecular landscape of gastric cancers for novel targeted therapies from real-world genomic profiling. *Targeted Oncology*, 2024;19(3) : 459-471.
- 4) Takeda H, Yamamoto H, Oikawa R, Umemoto K, Arai H, Mizukami T, Ogawa K, Uchida Y, Nagata Y, Kubota Y, Doi A, Horie Y, Ogura T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y. Genomic Profiling of Small Intestine Cancers From a Real-World Data Set Identifies Subgroups With Actionable Alterations. *JCO Precision Oncology*, 2024; : e2300425..
- 5) Watanabe Y, Yamamoto H, Oda I, Torii K, Futagami S, Miftahussurur M, Gwee K-A, Tsuda M, Kato M, Tateishi K. Evaluating collection time of intragastric fluid during endoscopy for point-of-care test-based *Helicobacter pylori* polymerase chain reaction. *Internal Medicine*, 2024; : 10.2169/internalmedicine.4320-24.

② 総説又は症例解説

- 1) Yamamoto Hiroyuki, Watanabe Yoshiyuki, Arai, Hiroyuki Umemoto Kumiko, Tateishi Keisuke, Sunakawa Yu. Microsatellite instability: A 2024 update. *Cancer Science*, 2024;115(6) : 1738-1748.

学会発表

① その他

- 1) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. Post-Stroke Care Meeting, 2024.
- 2) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. 浜松慢性便秘症セミナー, 2024.
- 3) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. Constipation Treatment Seminar, 2024.
- 4) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. Women's health seminar, 2024.
- 5) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. 高知県病院薬剤師会 7 月例会, 2024.
- 6) ◎山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. シン・べんぴシリーズ ～全科で語り合う便秘症診療～, 2024.
- 7) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. シン・ベンピ シリーズ ～全科で語り合う便秘症診療～, 2024.

- 8) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. 慢性便秘症 Web セミナー～各診療科の垣根を超えた便秘症診療～, 2024.
- 9) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. 慢性便秘症フォーラム in ふくしま, 2024.
- 10) 山本博幸. 慢性便秘症の診療 A to Z ～便通異常症診療ガイドライン 2023 を踏まえて～. 在宅療養者の慢性便秘症勉強会, 2024.
- 11) 山本博幸. 消化器内科専門医が診る高尿酸血症治療. 各診療科で考える高尿酸血症 WEB セミナー, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		5
	解説又は総説		1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会		
	国際学会		
	その他	11	

腎臓・高血圧内科学

著書

- 1) 織原悟, 櫻田勉. 第3章慢性腎臓病の各病期にみられる症例 4 週末期の Case Case28 がんも慢性腎臓病(CKD)も終末期で予後予測が困難な事例 サイコネフロロジー診療ガイド 腎臓病・透析患者の心理的アセスメント&ケア 30 Cases 多職種がチーム医療に係るためのヒント 2024;:196-200.
- 2) 町田慎治, 喜多洋平. 第3章慢性腎臓病の各病期にみられる症例 1 保存期の Case Case5 薬剤(ベンゾジアゼピン系薬)によるせん妄をきたした患者 サイコネフロロジー診療ガイド 腎臓病・透析患者の心理的アセスメント&ケア 30 Cases 多職種がチーム医療に係るためのヒント 2024;:95-99.
- 3) 小波津香織, 櫻田勉, 正木崇生. 第1章慢性腎不全および合併症の重症化予防と対策 25 ファブリー病 腎不全合併症重症化の予防と対策ハンドブック 2024;:86-88.
- 4) 町田慎治. 【ホスピタリストのための栄養療法】(Part 3)入院編:急性期からの栄養療法各論 腎不全における栄養療法 急性腎不全から慢性腎臓病,入院中から外来まで “腎保護”と“ADL 保護”の両立へ Hospitalist(ホスピタリスト) 2024;3(11):693-701.
- 5) Ponticelli, C. (Claudio). 腎炎・ネフローゼ 診療大全 2024;:1-508.
- 6) 吉田圭佑, 小島茂樹, 櫻田勉. 画像でみるみるわかる!透析患者の重要検査 腹部エックス線撮影/腹部超音波(エコー)検査 透析ケア 2024 年夏季増刊 ぱっと見てわかる!説明できる!透析患者の検査値&画像 2024;:174-183.
- 7) 久道三佳子. これで心配ない電解質異常 若手医師/腎臓内科医が市中病院で困らないために 2024;:1-195.
- 8) 高山卓, 富永直人. いま身につけたい CKD 患者を診るチカラ 腎機能を診るチカラ 第5章 CKD 患者の電解質異常を診るときに知っておきたいこと 1.CKD 患者の低ナトリウム血症 レジデントノート増刊 2024;14(26):168-177.
- 9) 酒井雅史, 谷澤雅彦. 第3章 CKD 患者を救急外来で診るときに知っておきたいこと 2.CKD 患者のうっ血性心不全 腎臓内科の立場から レジデントノート増刊 2024;14(26):91-100.
- 10) 白井小百合. 検査・処置, 症候, 全身性疾患に伴う腎障害 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 2024;8(4):16-43, 44-48, 190.
- 11) 柴垣有吾. 腎臓の機能, 体液と浸透圧, 水・ナトリウム代謝, カリウム代謝, Ca・P・Mg 代謝, 酸塩基平衡, 輸液療法 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 2024;8(4):50-71, 72-77, 78-88, 90-95, 96-101, 102-113, 114-119.
- 12) 池森敦子, 菅谷健, 木村健二郎. 尿中 L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) 臨床検査データブック 2025-2026 2025;(1):777-778.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 湯浅千晶, 山田将平, 森久保悟, 小波津香織, 小島茂樹, 柴垣有吾, 櫻田勉. 当院における HD first 患者と PD first 患者の生命予後の比較-単一施設での蛍光スコアマッチングを用いた後ろ向きコホート研究. 腎と透析, 2024;97(別冊 腹膜透析 2024): 55-57.
- 2) 村井志帆, 小島茂樹, 小波津香織, 永山聖光, 森久保悟, 柴垣有吾, 櫻田勉. PD 導入前の残存腎機能低下速度と PD 継続期間との関連. 腎と透析, 2024;97(別冊 腹膜透析 2024): 52-54.
- 3) 宮本雅仁, 大石彩乃, 根本一, 平野宏之介, 末木志奈, 佐藤和宏, 笹川成. ステンントグラフト留置後の再狭窄部位の調査. 透析 VAIIVT, 2024;6: 99-101.

- 4) 小林綾子, 櫻井裕子, 前田幹広, 有木宏宗, 柴垣有吾, 篠田和伸, 坂上逸孝. 腎移植レシピエントにおけるタクロリムス
トラフ血中濃度と AUC の関係性に与えるプロトンポンプ阻害薬の影響. 医療薬学, 2025;51(2) : 55-64.
- 5) 小島茂樹, 小波津香織, 吉田圭佑, 友杉直久, 櫻田勉. PD 患者における鉄含有リン吸着薬と赤血球数増加の関連. 第 35 回
神奈川県 CAPD 研究会誌, 2025; : 8-9.

② 総説又は症例解説

- 1) 奥山恵美子, 小波津香織, 市川大介. 【腎機能を考慮した内科疾患の診療】腎機能が病態・治療に関係する疾患 腎疾患
良性腎硬化症. Medicina, 2024;61(5) : 678-682.
- 2) 櫻田勉, 小島茂樹, 櫻井絵里香, 田中明子, 柴垣有吾. 新型コロナウイルス感染症に罹患した血液透析患者および腹膜透
析患者への対応. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;51(特集増刊) : 123-128.
- 3) 池森(上條)敦子, 木村健二郎. 尿細管マーカーの見方. 臨床検査, 2024;68(4 増大号) : 418-422.
- 4) 田島亮, 渡邊詩香, 柴垣有吾. 急性腎障害 (AKI) . 臨床泌尿器科, 2024;78(4) : 144-149.
- 5) 小山哲平, 今井直彦. 酸塩基平衡異常, 代謝性アシドーシス, 代謝性アルカローシス. 薬事, 2024;66(5) : 885-889.
- 6) 麻生芽亜, 富永直人. 【最適な治療・管理がわかる 水・電解質・酸塩基平衡異常】代表的な電解質異常へのアプローチ
水代謝異常. 薬事, 2024;66(5) : 856-864.
- 7) 伊藤万理子, 大迫希代美, 谷澤雅彦. 腎移植-近年の進歩・日本の現状と課題について-. 診断と治療, 2024;112(5) :
603-607.
- 8) 柴垣有吾, 平木幸治, 音部雄平. 第 4 章 腎臓リハビリテーションの運営 2 運営の実際 ① 大学病院. 臨床透析
, 2024;40(7) : 238-245.
- 9) 櫻田勉, 山田将平. 第 3 章腎臓リハビリテーションの要素と実際 1 運動療法 ③腹膜透析患者の運動療法. 臨床透析
, 2024;40(7) : 128-133.
- 10) 野田竜之介, 市川大介, 柴垣有吾. 腎臓内科における人工知能の現状と展望. 日本腎臓学会誌, 2024;66(5) : 773-783.
- 11) 柴垣有吾. 高齢透析患者の well-being をどう捉えるか?. 臨床透析, 2024;40(9) : 100-107.
- 12) 平木幸治, 柴垣有吾. 【慢性腎臓病の食事・運動療法】保存期 CKD 患者における運動療法の有効性. 日本腎臓学会誌
, 2024;66(7) : 1163-1166.
- 13) 大山友香子, 市川大介, 菊池正雄, 山崎友紀, 石井裕士, 小野寺舞, 藤山知史, 向出悠一, 高橋和男. IgA 腎症における補
体の役割. 新薬と臨床, 2024;73(11) : 1163-1174.
- 14) 吉田圭佑, 酒井雅史, 白井佳那, 北野史也, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 腎臓内科領域での超音波検査-Point of care
ultrasound(POCUS)を中心に:VExUS-. 日本腎臓学会誌, 2024;66(8) : 1270-1280.
- 15) 吉田圭佑, 酒井雅史, 白井佳那, 北野史也, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 腎臓内科領域での超音波検査 Point of care
ultrasound(POCUS)を中心に VExUS. 日本腎臓学会誌, 2024;66(8) : 1270-1280.
- 16) 湯浅千晶, 小島茂樹, 櫻田勉. 腹膜透析患者における食と栄養の現況と課題. 臨床透析, 2024;40(12) : 1479-1486.
- 17) 山田将平, 櫻田勉. 腹膜透析患者におけるサルコペニアの現状と運動療法. 日本腎臓リハビリテーション学会誌
, 2024;3(2) : 111-122.
- 18) 寺下真帆, 緒方聖友, 大迫希代美, 谷澤雅彦. 心機能低下のある腎不全患者にも腎移植のチャンスを-移植内科医の視点-.
日本臨床腎移植学会雑誌, 2024;12(2) : 144-150.
- 19) 吉田圭佑, 谷澤雅彦. 明日から実践できる! 臨床医のための腎臓領域超音波 (Nephro POCUS) ① NephroPOCUS 概要
. Medicina, 2025;62(1) : 158-160.
- 20) 小山哲平, 山田将平, 櫻田勉. 各論 腹膜透析 腹膜機能評価法-PET の有用性と課題. 腎と透析, 2025;98(1) : 78-82.

- 21) 吉田圭佑, 白井佳那, 谷澤雅彦. 明日から実践できる! 臨床医のための腎臓領域超音波(Nephro POCUS)(第2回) IVC・VExUS AKI 時の NephroPOCUS(その1)(前編). *Medicina*, 2025;62(2):355-357.
- 22) 吉田圭佑, 北野史也, 谷澤雅彦. 明日から実践できる! 臨床医のための腎臓領域超音波(Nephro POCUS)(第3回) IVC・VExUS AKI 時の NephroPOCUS(その1)(後編). *Medicina*, 2025;62(3):541-545.

③ 症例報告

- 1) 井崎裕都, 緒方聖友, 大迫希代美, 櫻井裕子, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 生体腎移植後早期に再発したループス腎炎に対し Belimumab を投与した1例. *日本臨床腎移植学会雑誌*, 2024;12(2):238-241.
- 2) 山田英行, 鯉渕清人, 古川智士, 湯浅千晶, 嶋田友紀, 二瓶大, 宮城盛淳, 酒井謙. PD 排液混濁を契機に診断した悪性リンパ腫の一例. *腎と透析*, 2024;97(別冊 腹膜透析 2024):64-65.
- 3) 安藤涼太, 林滉一郎, 志村隼, 大川修, 東山恵, 小波津香織, 小島茂樹, 櫻田勉. 高齢腹膜透析患者に対して臨床工学技士が介入した2例. *第35回神奈川県 CAPD 研究会誌*, 2025;:5-7.

④ その他

- 1) 久道三佳子, 右田王介, 信岡祐彦, 柴垣有吾. かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討—尿比重の有用性. *日本腎臓学会誌*, 2024;66(4):603.
- 2) 林麻美, 竹内知恵, 古川智士, 湯浅千晶, 嶋田友紀, 山田英行, 二瓶大, 鯉渕清人, 宮城盛淳. PD における教育の理想像を追求する—各現場における PD 教育の問題点と改善点—外来スタッフ教育の問題点と改善点. *腎と透析*, 2024;97(別冊 腹膜透析 2024):36-37.
- 3) 東山恵, 白須智子, 倉田麻衣子, 田中真純, 田中明子, 櫻田勉. 高齢腹膜透析患者・家族の支援—訪問診療・看護との病診連携—. *腎と透析*, 2024;97(別冊 腹膜透析 2024):172-173.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Barbour S-J, Coppo Rosanna, Er Lee, Pillebout Evangeline, Russo M-L, Alpers C-E, Fogo A-B, Ferrario Franco, Jennette J-C, Roberts I-S-D, Cook H-T, Ding Jie, Su Baige, Zhong Xuhui, Fervenza F-C, Zand Ladan, Peruzzi Licia, Lucchetti Laura, Katafuchi Ritsuko, Shima Yuko, Yoshikawa Norishige, Ichikawa Daisuke, Suzuki Yusuke, Murer Luisa, Wyatt R-J, Park Catherine, Nelson R-D, Narus J-H, Wenderfer Scott, Geetha Duvuru, Daugas Eric, Monteiro R-C, Nakatani Shinya, Mastrangelo Antonio, Nuutinen Matti, Koskela Mikael, Weber L-T, Hackl Agnes, Pohl Martin, Pecoraro Carmine, Tsuboi Nobuo, Yokoo Takashi, Takafumi Ito, Fujimoto Shouichi, Conti Giovanni, Santoro Domenico, Materassi Marco, Zhang Hong, Shi Sufang, Liu Zhi-Hong, Tesar Vladimir, Maixnerova Dita, Avila-Casado Carmen, Bajema Ingeborg, Barreca Antonella, Becker J-U, Comstock J-M, Cornea Virgilius, Eldin Karen, Hernandez L-H, Hou Jean, Joh Kensuke, Lin Mercury, Messias Nidia, Muda A-O, Fabi Pagni, Diomedi-Camassei Francesca, 他9名. Histologic and clinical factors associated with kidney outcomes in IgA vasculitis nephritis. *Clinical journal of the American Society of Nephrology : CJASN.*, 2024;19(4):438-451.
- 2) Tamaki Hiroyuki, Eriguchi Masahiro, Yoshida Hisako, Uemura Takayuki, Tasaki Hikari, Nishimoto Masatoshi, Kosugi Takaaki, Samejima Ken-Ichi, Iseki Kunitoshi, Fujimoto Shouichi, Konta Tsuneo, Moriyama Toshiki, Yamagata Kunihiro, Narita Ichiei, Kasahara Masato, Shibagaki Yugo, Kondo Masahide, Asahi Koichi, Watanabe Tsuyoshi, Tsuruya Kazuhiko. Pulse pressure modifies the association between diastolic blood pressure and decrease in kidney function: the Japan Specific Health Checkups Study. *Clinical Kidney Journal*, 2024;17(6):sfaf152.

- 3) Noda Ryunosuke, Izaki Yuto, Kitano Fumiya, Komatsu Jun, Ichikawa Daisuke, Shibagaki Yugo. Performance of ChatGPT and Bard in self-assessment questions for nephrology board renewal. *Clinical and experimental nephrology*, 2024;28(5) : 465-469.
- 4) Noda Ryunosuke, Ichikawa Daisuke, Shibagaki Yugo. Machine learning-based diagnostic prediction of IgA nephropathy: model development and validation study. *Scientific Reports*, 2024;14(1) : 12426.
- 5) Mikie Nakabayashi, Jun Tanabe, Yuji Ogura, Masashi Ichinose, Yugo Shibagaki, Atsuko Kamijo-Ikemori, and Yumie Ono. Correlation of diabetic renal hypoperfusion with microvascular responses of the skeletal muscle: a rat model study using diffuse correlation spectroscopy. *Biomedical Optics Express*, 2024;15(6) : 3900-3913.
- 6) Tsujimoto Yasushi, Aoki Takuya, Shimizu Sayaka, Kawarazaki Hiroo, Kohatsu Kaori, Nakata Takeshi, O'Hare A-M, Shibagaki Yugo, Yamamoto Yosuke, Miyashita Jun. Perspectives on the optimal timing of advance care planning among Japanese patients undergoing dialysis and clinicians: a cross-sectional study. *Clinical and experimental nephrology*, 2024;28(6) : 571-580.
- 7) Ogawa Kyohei, Ikeda Masato, Shirai Izumi, Ohshiro Kentaro, Maruyama Yukio, Yokoo Takashi, Tanno Yudo, Terawaki Hiroyuki, Sakurada Tsutomu, Yoshikawa Kazuhiro, Inoue Hironobu, Higuchi Chieko, Kaneko Tomohiro, Nogaki Fumiaki, Ueda Atsushi, Maeda Yoshitaka. Upward-directed exit-site of the swan-neck catheter and "Easy-to-disinfect the backside area of exit-site" may prevent PD complications. *Clinical and experimental nephrology*, 2024;28(6) : 547-556.
- 8) Ogata Masatomo, Osako Kiyomi, Terashita Maho, Miyauchi Takamasa, Sakurai Yuko, Shinoda Kazunobu, Sasaki Hideo, Shibagaki Yugo, Yazawa Masahiko. Consequences of kidney donation by age in Japanese living kidney donors: a single-center study. *Clinical and Experimental Nephrology*, 2024;28(7) : 664-673.
- 9) Matsumoto Ayako, Nagasawa Yasuyuki, Yamamoto Ryouhei, Shinzawa Maki, Yamazaki Hiromitsu, Shojima Kensaku, Shinmura Ken, Isaka Yoshitaka, Iseki Kunitoshi, Yamagata Kunihiro, Narita Ichiei, Konta Tsuneo, Kondo Masahide, Tsuruya Kazuhiko, Kasahara Masato, Shibagaki Yugo, Fujimoto Shouichi, Asahi Koichi, Watanabe Tsuyoshi, Moriyama Toshiki. Cigarette smoking and progression of kidney dysfunction: a longitudinal cohort study. *Clinical and experimental nephrology*, 2024;28(8) : 793-802.
- 10) Aoki Ryosuke, Nihei Yoshihito, Matsuzaki Keiichi, Suzuki Hitoshi, Kihara Masao, Ogawa Asa, Nishino Tomoya, Sanada Satoru, Yokote Shinya, Okabe Masahiro, Shirai Sayuri, Fukuda Akihiro, Hoshino Junichi, Kondo Daisuke, Yokoo Takashi, Kashihara Naoki, Narita Ichiei, Suzuki Yusuke. Gross hematuria after the COVID-19 mRNA vaccination: Nationwide multicenter prospective cohort study in Japan. *Kidney360*, 2024;5(9) : 1322-1332.
- 11) Nakatani Shinya, Kawano Haruna, Sato Mai, Hoshino Junichi, Nishio Saori, Miura Kenichiro, Sekine Akinari, Suwabe Tatsuya, Hidaka Sumi, Kataoka Hiroshi, Ishikawa Eiji, Shimazu Keiji, Uchiyama Kiyotaka, Fujimaru Takuya, Moriyama Tomofumi, Kurashige Mahiro, Shimabukuro Wataru, Hattanda Fumihiko, Kimura Tomoki, Ushio Yusuke, Manabe Shun, Watanabe Hirofumi, Mitobe Michihiro, Seta Koichi, Shimada Yosuke, Kai Hirayasu, Katayama Kan, Ichikawa Daisuke, Hayashi Hiroki, Hanaoka Kazushige, Mochizuki Toshio, Nakanishi Koichi, Tsuchiya Ken, Horie Shigeo, Isaka Yoshitaka, Muto Satoru; JRP collaborators. Protocol for the nationwide registry of patients with polycystic kidney disease: japanese national registry of PKD (JRP). *Clinical and experimental nephrology*, 2024;28(10) : 1004-1015.
- 12) Noda Ryunosuke, Ichikawa Daisuke, Shibagaki Yugo. Machine learning-based diagnostic prediction of minimal

change disease: model development study. Scientific Reports, 2024;14(1) : 23460.

- 13) Maruyama Shoichi, Ikeda Yoichiro, Kaname Shinya, Kato Noritoshi, Matsumoto Masanori, Ishikawa Yumiko, Shimono Akihiko, Miyakawa Yoshitaka, Nangaku Masaomi, Shibagaki Yugo, Okada Hirokazu. Eculizumab for adult patients with atypical haemolytic-uraemic syndrome: full dataset analysis of Japanese post-marketing surveillance. Journal of nephrology, 2024;37(8) : 2181-2190.
- 14) Otaki Yoichiro, Watanabe Tetsu, Konta Tsuneo, Watanabe Masafumi, Asahi Koichi, Yamagata Kunihiro, Fujimoto Shouichi, Tsuruya Kazuhiko, Narita Ichiei, Kasahara Masato, Shibagaki Yugo, Iseki Kunitoshi, Moriyama Toshiki, Kondo Masahide, Watanabe Tsuyoshi. Macrocytic anemia, kidney dysfunction, and mortality in general population: Japan specific health checkup study. Scientific Reports, 2024;14(1) : 32005.
- 15) Sakurada Tsutomu, Zhao Junhui, Tu Charlotte, Bieber Brian, Cheetham Melissa, Pisoni R-L, Perl Jeffrey, Tsuchiya Ken, Kawanishi Hideki, Minakuchi Jun. Effects of initial peritoneal dialysis prescription on clinical outcomes in Japanese peritoneal dialysis patients: a cohort study. Scientific Reports, 2024;14(1) : 30109.
- 16) Nakamura Yoshihiro, Sasaki Sho, Imaizumi Takahiro, Nishiwaki Hiroki, Murakami Minoru, Yazawa Masahiko, Raita Yoshihiko, Kawarazaki Hiroo, Shimizu Hideaki, Saka Yosuke, Takizawa Naoho, Fujita Yoshiro; Japanese investigators with Innovative Network for Kidney Disease: JOINT-KD. Recipients of public assistance with advanced chronic kidney disease: insights into receiving a presentation of kidney replacement therapy options and polypharmacy from Japanese investigators with innovative network about kidney disease study. Clinical and experimental nephrology, 2025;29(1) : 67-74.
- 17) Kojima Shigeki, Murai Shiho, Nagayama Kiyomitsu, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu. Relationship between the rate of kidney function decline before peritoneal dialysis initiation and technique survival of peritoneal dialysis. Nephrology (Carlton, Vic.), 2025;30(1) : e14412.
- 18) Kita Yohei, Shirai Sayuri, Koyama Teppei, Makinouchi Ryuichiro, Machida Shinji, Matsui Katsuomi, Koike Junki, Imai Naohiko. Correction to: Fanconi syndrome with karyomegalic interstitial nephritis after ifosfamide treatment for osteosarcoma: a case report. CEN case reports, 2025;14(1) : 71.
- 19) Kohatsu Kaori, Kojima Shigeki, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu. Shared decision-making in selecting modality of renal replacement therapy confers better patient prognosis after the initiation of dialysis. Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy, 2025;29(1) : 34-41.
- 20) Abe Masanori, Hatta Tsuguru, Imamura Yoshihiko, Sakurada Tsutomu, Kaname Shinya. Examine the optimal multidisciplinary care teams for patients with chronic kidney disease from a nationwide cohort study. Kidney Research and Clinical Practice, 2025;44(2) : 249-264.

② 総説又は症例解説

- 1) Sakurada Tsutomu, Miyazaki Masanobu, Nakayama Masaaki, Ito Yasuhiko. Peritoneal dialysis-related infections in elderly patients. Clinical and experimental nephrology, 2024;28(11) : 1065-1074.
- 2) Ushimaru Shu, Tominaga Naoto. Acute kidney injury with Fanconi syndrome following intake of a red yeast rice supplement. Kidney International Reports, 2024;10 : 269-270.

- 3) Sumi Hirofumi, Tominaga Naoto, Fujita Yoshiro, Verbalis J-G, the Electrolyte Winter Seminar, Collaborative Group. Pathophysiology, Symptoms, Outcomes, and Evaluation of hyponatremia: comprehension and best clinical practice. *Clinical and experimental nephrology*, 2025;29(2) : 134-148.
- 4) Sumi Hirofumi, Tominaga Naoto, Fujita Yoshiro, Verbalis J-G, the Electrolyte Winter Seminar Collaborative Group. Treatment of hyponatremia: comprehension and best clinical practice. *Clinical and Experimental Nephrology*, 2025;29(3) : 249-258.

③ 症例報告

- 1) Ushimaru Shu, Sumi Hirofumi, Aso Mea, Fujishima Rie, Shiizaki Kazuhiro, Tominaga Naoto. Attenuation of bone mineral density decline during anemia treatment with methenolone acetate in myelodysplastic syndrome. *JCEM Case Reports*, 2024;2(4) : 1uae055.
- 2) Fujita Yoko, Watts Andrew-J B, Ichikawa Daisuke, Shibagaki Yugo, Suzuki Tomo, Keller Keith-H, Weins Astrid, Murakami Naoka. Clinical characteristics of nephrin autoantibody-positive minimal change disease in older adults. *Kidney International Reports*, 2024;9(8) : 2563-2566.
- 3) Masaki Mamoru, Yazawa Masahiko. Partial recovery of kidney function in a patient with sepsis-associated oliguric AKI. *Kidney360*, 2024;5(5) : 785-786.
- 4) Kitano Fumiya, Marui Yuhji, Sakurai Kenzo, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu, Kojima Shigeki. Use of the superficialized brachial artery as vascular access for a patient with myasthenia gravis with a frequent need for plasmapheresis: a case report. *Internal Medicine*, 2024;63(16) : 2307-2310.
- 5) Sakai Masafumi, Yoshida Keisuke, Ogata Masatomo, Okuyama Emiko, Kitano Fumiya, Shibagaki Yugo, Yazawa Masahiko. Point-of-care ultrasound differentiated the cause of proteinuria in a patient with lung cancer. *Sonography*, 2024;12(2) : 243-247.
- 6) Kita Yohei, Shirai Sayuri, Koyama Teppei, Makinouchi Ryuichiro, Machida Shinji, Matsui Katsuomi, Koike Junki, Imai Naohiko. Fanconi syndrome with karyomegalic interstitial nephritis after ifosfamide treatment for osteosarcoma: a case report. *CEN case reports*, 2025;14(1) : 65-70.
- 7) Takaki Ryo, Kohatsu Kaori, Kuwano Katsuhisa, Yazawa Masahiko. Hyperkalemia presentation at a clinic during the cold season. *CEN case reports*, 2025;14(1) : 34-38.

④ その他

- 1) Oikawa Megumi, Nishiwaki Hiroki, Hasegawa Takeshi, Sasaki Sho, Yazawa Masahiko, Miyazato Hitoshi, Saka Yosuke, Shimizu Hideaki, Fujita Yoshiro, Murakami Minoru, Uchida Daisuke, Kawarazaki Hiroo, Omiya Shinya, Sasai Fumihiko, Koiwa Fumihiko; JOINT-KD Investigators. The association between high-dose allopurinol and erythropoietin hyporesponsiveness in advanced chronic kidney disease. *JOINT-KD study. Nephron*, 2024;148(7) : 448-456.
- 2) Oliver M-J, Abra Graham, Béchade Clémence, Brown E-A, Sanchez-Escuredo Ana, Johnson D-W, Guedes A-M Graham, Janet, Fernandes Natalia, Jha Vivekanand, Kabbali Nadia, Knananjubach Talerngsak, Li P-K-T, Lundström U-H, Salenger Page, Lobbedez Thierry, Sakurada Tsutomu. Assisted peritoneal dialysis: position paper for the ISPD. *Peritoneal dialysis international : journal of the International Society for Peritoneal Dialysis*, 2024;44(3) : 160-170.
- 3) Koyama Teppei, Kita Yohei, Makinouchi Ryuichiro, Machida Shinji, Shirai Sayuri, Imai Naohiko. Frailty and

dialysis initiation in the super-elderly. Clinical and experimental nephrology, 2024;28(6) : 596-597.

- 4) Koyama Teppei, Youhei Kita, Makinouchi Ryuichiro, Machida Shinji, Imai Naohiko. Prevalence and prognosis of severe hyperkalemia in the emergency department. Clinical and experimental nephrology, 2024;28(7) : 707-708.
- 5) Kurita Noriaki, Wakita Takafumi, Fujimoto Shino, Yanagi Mai, Koitabashi Kenichiro, Yazawa Masahiko, Suzuki Tomo, Kawarazaki Hiroo, Ishibashi Yoshitaka, Shibagaki Yugo. Association between health-related hope and distress from restrictions in chronic kidney disease and dialysis. BMC nephrology, 2024;25(1) : 362.
- 6) Nishizawa Hajime, Izawa K-P, Sakurada Tsutomu. Phase angle is related to chronic kidney disease (CKD) stage and physical function in patients with pre-dialysis CKD. Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy, 2024;28(5) : 818-819.
- 7) Kita Yohei, Koyama Teppei, Machida Shinji, Imai Naohiko. Do Not Overlook Dependent Edema. Internal medicine (Tokyo, Japan), 2024;63(21) : 3007.
- 8) Ichikawa Daisuke, Kawarazaki Wakako, Saka Sanae, Kanaoka Tomohiko, Ohnishi Hirofumi, Arima Hisatomi, Shibata Shigeru. Efficacy of renin-angiotensin system inhibitors, calcium channel blockers, and diuretics in hypertensive patients with diabetes: subgroup analysis based on albuminuria in a systematic review and meta-analysis. Hypertension research : official journal of the Japanese Society of Hypertension, 2025;48(6) : 1880-1890.
- 9) Kosugi Takaaki, Eriguchi Masahiro, Yoshida Hisako, Tamaki Hiroyuki, Uemura Takayuki, Tasaki Hikari, Furuyama Riri, Nishimoto Masatoshi, Matsui Masaru, Samejima Ken-Ichi, Iseki Kunitoshi, Fujimoto Shouichi, Kondo Tsuneo, Moriyama Toshiki, Yamagata Kunihiro, Narita Ichiei, Kasahara Masato, Shibagaki Yugo, Kondo Masahide, Asahi Koichi, Watanabe Tsuyoshi, Tsuruya Kazuhiko. Association of body indices with mortality in older population: Japan Specific Health Checkups (J-SHC) Study. Journal of the American Geriatrics Society, 2025;73(1) : 150-161.

学会発表

① 国内学会

- 1) 矢田哲康, 平山隆浩, 大場次郎, 土田善之, 富永直人. 災害時の圧挫症候群に対する医療供給体制の実態調査 (厚生労働省科研費補助金研究). 第34回日本臨床工学会, 2024.
- 2) 〇井上一步, 中村俊浩, 小倉裕司, 星野誠子, 片山さきみえ, 浅野純子, 渡邊詩香, 永井義夫, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 2型糖尿病におけるSGLT2阻害薬Empagliflozinと習慣的走運動の併用によるサルコペニア抑制効果の検討. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024.
- 3) 依田詢平, 矢田哲康, 齋藤充央, 土田善之, 富永直人. 呼吸ポートの違いが人工呼吸器トリロジーEvoの換気に与える影響. 第34回日本臨床工学会, 2024.
- 4) 矢田哲康, 湯浅浩太郎, 齋藤充央, 土田善之, 富永直人. 医療機器リモート監視システムとその有用性～MD Linkageの導入経験から～. 第34回日本臨床工学会, 2024.
- 5) 北野史也, 小松純, 松田拓也, 吉田圭佑, 緒方聖友, 小島茂樹, 柴垣有吾, 櫻田勉, 杵渕聡志, 千葉清, 西巻博. 上大静脈内に遺残したカフ型カテーテルの断片を経皮的血管内インターベンションで回収をし得た一例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.

- 6) 副島彩加, 高木亮, 松田拓也, 韓蔚, 渡邊詩香, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 抗癌薬投与後の低Na血症と体液量過剰を伴う急性腎障害に対して限外濾過ではなく血液透析を選択した1例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 7) 白須智子, 東山恵, 田中真純, 田中明子, 小島茂樹, 櫻田勉. 在宅血液透析患者の介助者への支援における看護師の役割と現状と展望. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 8) 櫻田勉. 質の高い目標指向型の腹膜透析に求められる課題. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 9) 櫻田勉, 小島茂樹, 櫻井絵里香, 田中明子, 柴垣有吾. クロラミンによる集団的な溶血性貧血の発生. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 10) 間崎護, 高木亮, 松田拓也, 渡邊詩歌, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 透析離脱が可能であった敗血症に伴う腎皮質壊死の一例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 11) 柴垣有吾. 高齢CKD患者の身体・認知機能を護る透析と共に良い余生を送るために. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 12) 鈴木幹広, 市川大介, 小島茂樹, 吉田圭佑, 小松純, 櫻田勉, 柴垣有吾. ステロイド投与中のRPGN患者におけるアクセスの検討. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 13) 浦手進吾, 星野絵理奈, 佐藤智輝, 寸村玲奈, 山田将平, 柳麻衣, 衣笠哲史, 石橋由孝. 急性前骨髄性白血病の治療初期に血液浄化療法をおこなった2例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 14) 川崎天太, 大森翔太, 志村準, 櫻井絵里香, 水田祥江, 大川修, 田中真純, 田中明子, 小波津香織, 小島茂樹, 櫻田勉. 臨床工学技士の穿刺業務開始による業務負担の変化. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 15) 丑丸秀, 麻生芽亜, 藤島理恵, 角浩史, 奥瀬千晃, 富永直人. HBワクチン接種後にHBs抗原が陽性となった維持血液透析患者の一例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 16) 櫻田勉, 柴垣有吾. 医師の働き方改革の中でサイコネフロジーをどのように学ぶべきか?. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 17) 大森眞由美, 田篠佳世, 吉田美香, 樋代理景, 樋口愛, 福岡嘉恵, 中尾裕美子, 石渡希恵, 菊地初実, 角浩史, 富永直人. エコーガイド下穿刺トレーニングの取り組みと課題. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 18) 櫻田勉. 若手医師に対する腹膜透析の教育について再考する. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 19) 寸村玲奈, 山田将平, 星野絵理奈, 佐藤智輝, 浦手進吾, 柳麻衣, 衣笠哲史, 石橋由孝. 当院でパラプロテイン血症により腹膜透析を導入した7例の転機. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 20) 矢尾淳, 由井叔子, 岡田悟, 小川千恵, 宇田川崇, 緒方浩頭, 今井直彦, 但木太, 鎌田貢寿, 高橋浩雄, 田中啓之, 森下将充, 櫻井健治, 櫻田勉, 平和伸仁, 金井厳太, 竹内康雄, 石岡邦啓, 衣笠えり子, 宍戸寛治. 災害時の広域連携近郊の受け手側として. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 21) 町田慎治, 喜多洋平, 滝沢祥太, 今井直彦, 櫻田勉. Virtual Realityを用いた透析中運動療法に関するアンケート調査報告. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 22) 喜多洋平, 小山哲平, 牧野内龍一郎, 町田慎治, 白井小百合, 今井直彦. 当院でのバイアパーステントグラフト使用後の成績. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 23) 河原崎宏雄, 石垣泰則, 石高拓也, 片岡今日子, 雁瀬美佐, 楠本拓生, 櫻田勉, 中釜祥吾, 原正樹, 正木浩哉, 宮崎正信, 森清. 在宅の現場での腎不全診療と連携日本在宅医療連合学会腎不全WG活動報告. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 24) 松田拓也, 北野史也, 櫻田勉, 柴垣有吾, 小島茂樹. 陰部膿瘍に後天性凝固第V因子インヒビター出現を合併した血液透析患者の一例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.

- 25) 深沢稔, 岡本翔, 町田慎治, 三橋祥二, 白井小百合, 今井直彦. 顆粒球除去療法における生体インピーダンス法による身体成分分析の有効性の検討. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 26) 野田竜之介. 医師の意思決定支援における GPT-4 の性能検証. 第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会, 2024.
- 27) 小山哲平, 喜多洋平, 牧野内龍一郎, 町田慎治, 白井小百合, 今井直彦. 当院の救急外来において低クロール血症を呈した患者についての検討. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 28) 緒方聖友, 谷澤雅彦. 腎移植患者の電解質・酸塩基平衡異常. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 29) 牧野内龍一郎, 白井小百合, 小山哲平, 喜多洋平, 町田慎治, 今井直彦. IgA 腎症における保存的加療例の寛解, 腎予後の検討. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 30) 牧野内龍一郎, 小山哲平, 喜多洋平, 町田慎治, 白井小百合, 今井直彦. 救急外来における静脈血乳酸値と予後についての検討. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 31) 藤田陽子, 野田竜之介, 韓蔚, 渡邊詩香, 市川大介, 柴垣有吾. 蛍光免疫染色で IgG 線状沈着を認めた症例の IgG サブクラス解析. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 32) ○井上 一步, 星野 誠子, 片山 きみえ, 浅野 純子, 大畑 敬一, 菅谷 健, 木村 健二郎, 柴垣 有吾, 池森 敦子. 加齢腎に対する習慣的走運動の効果. 第 67 回日本腎臓学会学術集会, 2024.
- 33) ○井上 一步, 星野 誠子, 大畑 敬一, 菅谷 健, 木村 健二郎, 池森 敦子. 横紋筋融解症に伴う急性腎障害におけるヒト L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) の腎保護作用の検討. 第 67 回日本腎臓学会学術集会, 2024.
- 34) 野田竜之介, 市川大介, 柴垣有吾. ChatGPT による腎臓内科学設問の回答支援性能の評価. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 35) 今井直彦. 尿路結石再発予防における腎臓内科医の役割. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 36) 谷澤雅彦, 小口英世, 辻田誠, 祖父江理, 升谷耕介. 「CKD 診療における腎移植の位置付け」-CKD 診療ガイドライン 2023 を踏まえて-. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 37) 白井佳那, 市川大介, 吉留愛, 高山卓, 韓蔚, 大迫希代美, 渡邊詩香, 柴垣有吾. ANCA 関連血管炎におけるアパコパン併用治療の検討. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 38) 松田拓也. 難治性後天性 TTP に対してカプラシズマブ・リツキシマブ投与が奏功した一例. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 39) 河原崎宏雄, 石垣泰則, 石高拓也, 片岡今日子, 雁瀬美佐, 楠本拓生, 櫻田勉, 中釜祥吾, 原正樹, 正木浩哉, 宮崎正信, 森清. 在宅の現場での腎臓病診療・ケアと連携 日本在宅医療連合学会腎不全 WG 活動報告. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 40) 後藤洋康, 石切山拓也, 佐藤博基, 福永継実, 森和真, 田之上桂子, 山城葵, 松原秀史, 水口斉, 今給黎敏彦, 菅谷健, 大島直紀. 熱中症臓器障害の早期発見における Liver Fatty Acid-binding Protein (L-FABP) 迅速検査キット有用性. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 41) 中村嘉宏, 佐々木彰, 今泉貴広, 西脇宏樹, 村上穰, 谷澤雅彦, 末田善彦, 河原崎宏雄, 志水英明, 坂洋祐, 藤田芳郎. 進行した CKD における生活保護受給と不適切な医療との関連: JOINT-KD study. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 42) 吉留愛, 櫻田勉, 大原希代美, 高木蔚, 柴垣有吾, 西野友哉. 慢性腎臓病教育入院における体重減少と体組成変化に関連する因子の検討. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 43) 緒方聖友, 寺下真帆, 大原希代美, 今井直彦, 宮内隆政, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 生体腎ドナーの術前腎体積および術後腎肥大と新規蛋白尿出現の関連. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.

- 44) 河原崎宏雄, 石垣泰則, 石高拓也, 片岡今日子, 雁瀬美佐, 楠本拓生, 櫻田勉, 中釜祥吾, 原正樹, 正木浩哉, 宮崎正信, 森清. 在宅の現場での腎臓病診療と連携~日本在宅医療連合学会腎不全 WG 活動報告~. 第 6 回日本在宅医療連合学会大会, 2024.
- 45) 櫻田勉, 山田将平, 吉田圭佑, 小波津香織, 小島茂樹. 腹膜透析導入病院の試み~様々な形の腹膜透析~. 第 6 回日本在宅医療連合学会大会, 2024.
- 46) 東山恵, 白須智子, 倉田麻衣子, 溪村麻希, 櫻田勉. 『もう一度、腹膜透析やれないかしら?』~療法選択に終わりなし。その時の最良を考える~. 第 35 回日本サイコネフロロジー学会学術集会・総会, 2024.
- 47) 小山亮, 小波津香織, 麻生芽亜, 高山卓, 田邊淳, 渡邊詩香, 久道三佳子, 市川大介, 柴垣有吾. 肝細胞癌の化学療法中に発症した Pauci-immune 型 ANCA 陰性半月体形成性腎炎の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 48) 後藤美春, 角浩史, 奥山恵美子, 佐藤菜摘美, 丑丸秀, 富永直人. 高アンモニア血症による意識障害を契機に血液透析を開始した症例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 49) 佐藤歩, 田邊淳, 北野史也, 市川滉介, 高山卓, 市川大介, 柴垣有吾. 妊娠初期にネフローゼ症候群と急性腎障害を発症し, 腎生検にて微小変化型と診断し, 治療が奏功した一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 50) 北野史也, 市川大介, 奥山恵美子, 渡邊詩香, 小波津香織, 今井直彦, 友廣忠寿, 槇田紀子, 柴垣有吾. ロキサデュスタットによる中枢性甲状腺機能低下が原因とみられる透析困難症の一症例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 51) 副島彩加, 市川大介, 柴垣有吾. 紅麹による腎障害の中止による自然経過の症例報告. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 52) 齋藤大暉, 松田拓也, 高山卓, 柴垣有吾. 難治性後天性 TTP に対してカプラシズマブ・リツキシマブ投与が奏功した一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 53) 田島亮, 小山亮, 鈴木幹広, 高山卓, 吉田俊哉, 甲斐貴彦, 古賀将史, 谷澤雅彦. 経カテーテル的大動脈弁置換術後に Stanford B 型急性大動脈解離を発症し急性腎障害となった 1 例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 54) 加藤美奈, 渡邊詩香, 柴垣有吾, 櫻田勉, 市川大介, 藤田陽子. collapsing FSGS を合併した非活動性 HIV の一例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 55) 柴垣有吾, 戸井田達典, 河原崎宏雄, 祖父江理, 栗田宜明. 腎代替療法の選択 Shared Decision Making. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 56) 若松俊樹, 市川滉介, 韓蔚, 久道三佳子, 柴垣有吾, 吉田圭佑. VExUS が診断に有用であった僧帽弁置換術後心タンポナーデによる鬱血腎の 1 例. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 57) 町田慎治. システム作りから考える CKD 栄養療法/透析療法部から腎臓ケア・サポートセンターへ. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 58) 谷澤雅彦. 血栓性微小血管症(TMA)の病態と最新治療. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会, 2024.
- 59) 市川大介. MPGN の臨床. 第 54 回日本腎臓学会西部学術大会, 2024.
- 60) 角浩史, 末木志奈, 富永直人, 笹川成. 生検鉗子による血栓除去にて血管内治療のみで血栓を伴う慢性完全閉塞を加療し得た一例. 第 28 回日本透析アクセス医学会学術集会・総会, 2024.
- 61) 丑丸秀, 麻生芽亜, 藤島理恵, 角浩史, 椎崎和弘, 富永直人. メテノロン酢酸エステルによる貧血治療中に骨密度低下抑制を認めた骨髓異形成症候群患者の一例. 第 26 回日本骨粗鬆症学会, 2024.
- 62) 志村隼, 櫻井絵里香, 水田祥江, 大川修, 田中真純, 小島茂樹, 櫻田勉, 柴垣有吾. 透析装置及び個人用 R0 装置の変更に伴う再指導を経験して. 第 26 回日本在宅血液透析学会, 2024.
- 63) 小島茂樹, 小波津香織, 吉田圭佑, 柴垣有吾, 友杉直久, 櫻田勉. 腹膜透析患者において鉄含有リン吸着薬が鉄動態や赤

血球造血に与える影響は薬剤により異なるか?。第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会，2024。

- 64) 星野絵理奈，山田将平，浦手進吾，和田朱香，寸村玲奈，柳麻衣，衣笠哲史，石橋由孝。傍腹膜透析カテーテルに異所性石灰化を呈した二次性副甲状腺機能亢進症の一例。第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会，2024。
- 65) 安藤涼太，林滉一郎，志村隼，櫻井絵里香，大川修，東山恵，田中真純，小波津香織，小島茂樹，櫻田勉。高齢腹膜透析患者に対して臨床工学技士が介入した2例。第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会，2024。
- 66) 櫻田勉。腹膜透析患者の導入期管理。第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会，2024。
- 67) 東山恵，白須智子，杉山彩，林滉一郎，安藤涼太，小波津香織，吉田圭佑，小島茂樹，櫻田勉，溪村麻希。高齢腹膜透析患者が血液透析へ完全移行に至るまでの外来スタッフの関わり。第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会，2024。
- 68) 湯浅千晶，重水恒太，平野宏之助，吉田圭佑，山田将平，小島茂樹，柴垣有吾，櫻田勉，高木暢，大橋博樹。超高齢末期腎不全患者の腹膜透析導入を支える包括的多職種・病診連携の重要性。第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会，2024。
- 69) 高橋雅子，阿部由美子，小澤美津子，細川聖子，小山哲平，今井直彦，櫻田勉。入退院を繰り返す患者に退院時訪問看護を実施してPD患者への訪問看護利用が有意義であったこと。第30回日本腹膜透析医学会学術集会・総会，2024。
- 70) 野田竜之介。腎臓病診断における機械学習の有用性の検証。第4回日本腎・血液浄化AI学会学術集会・総会，2024。
- 71) 野田竜之介，市川大介，柴垣有吾。腎臓内科学の多肢選択肢問題におけるGPT-4oの性能検証。第4回日本腎・血液浄化AI学会学術集会・総会，2024。
- 72) ○久道三佳子，信岡祐彦，柴垣有吾，右田王介。かかりつけ医から腎臓専門医に紹介すべき尿定性検査解釈の検討。第71回日本臨床検査医学会学術集会，2024。
- 73) 町田慎治。地域一体型NSTの実現に向けて：腎臓ケア・サポートセンターの取り組み。第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2025。
- 74) 柴垣有吾。CKDの集学的治療：SGLT2阻害薬と腎リハ。第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会，2025。
- 75) 篠田和伸，佐々木雅英，塚田光，西智弘，中澤龍斗，谷澤雅彦，菊地栄次。リンパ囊腫開窓術後に非損傷性尿管閉塞により無尿となった1例。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 76) 酒井雅史，緒方聖友，藤田陽子，櫻井裕子，河原崎宏雄，篠田和伸，谷澤雅彦。腎移植後に日常生活を著しく障害した起立性低血圧の1例。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 77) 湯浅千晶，麻生芽亜，白井佳那，緒方聖友，佐々木秀郎，篠田和伸，柴垣有吾，谷澤雅彦。血液透析を要する急性腎障害（AKI）を繰り返す腎移植患者の一例。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 78) 河原崎宏雄，緒方聖友，中澤龍斗，篠田和伸，柴垣有吾，櫻井裕子，谷澤雅彦。両腎結石を有するドナーの腎提供後の長期経過の1例。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 79) 谷澤雅彦。生体腎ドナーへのリスク・プロテクト・コネクト。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 80) 緒方聖友。高齢生体腎ドナーの妥当性を再考する。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 81) 杉山彩，田中真純，斉藤由美子，柴垣有吾，谷澤雅彦，緒方聖友，篠田和伸。若年で腎提供を選択する方の背景を考慮した意思決定支援。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 82) 清水嵩，篠田和伸，松原圭輔，西智弘，谷澤雅彦，水野隆一，柴垣有吾，菊地栄次。腎移植後長期経過観察中に急激に骨転移を来した嚢胞性腎癌の1例。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 83) 友清桜子，篠田和伸，櫻井裕子，緒方聖友，谷澤雅彦，森田伸也，菊地栄次。中枢性PTLD寛解7年目に二次腎移植を施行した症例。第58回日本臨床腎移植学会，2025。
- 84) 白井佳那，緒方聖友，田中真純，櫻井裕子，篠田和伸，柴垣有吾，谷澤雅彦。生体腎移植ドナーにおける腎提供後の悪性腫瘍発生に関する調査。第58回日本臨床腎移植学会，2025。

- 85) 緒方聖友, 河原崎宏雄, 櫻井裕子, 白井小百合, 中澤龍斗, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 結石を有する提供腎の移植後長期経過の一例. 第 58 回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 86) 黒須智彦, 中村祐太, 鈴木幹広, 加納麻弓子, 横田健一, 曾根正勝. 胃全摘術後の食後高血糖に対して CGM で α -GI 間の効果の差異を確認できた糖尿病の 1 例. 第 62 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2025.
- 87) 河原崎宏雄, 櫻田勉, 本多佑, 西本雅俊, 三宅広将, 菱川彰人, 殿村駿, 内田大介, 小島茂樹, 祖父江理, 星野純一, 山縣邦弘. 血液透析患者における運動療法の効果について: システムチックレビューとメタ解析の報告. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 88) 井上一步, 星野誠子, 片山きみえ, 浅野純子, 大畑敬一, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 老化促進モデルマウスを用いた加齢腎に対する習慣的走運動の効果. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 89) 町田慎治, 飯沼雅央, 山城菜那, 卜部あやの, 柴田みち, 今井直彦. 当院における腎臓ケア・サポートセンターの役割と腎臓内科×整形外科のコマネジメント連携. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 90) 谷澤雅彦, 小口英世, 高上紀之, 落合晋太郎, 緒方聖友, 寺下真帆. 腎臓リハビリテーションガイドライン 改訂のポイント: 腎移植期. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 91) 谷澤雅彦, 祖父江理, 西脇宏樹, 松沢良太, 土田陽平, 小崎恵生, 星野純一, 山縣邦弘. 透析時運動指導等実態調査から見えてきた今後の課題. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 92) 櫻田勉, 山田将平. 腹膜透析患者の身体活動と運動について. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 93) 倉田麻衣子, 江副幸, 東山恵, 神志那萌子, 小嶋のぞみ, 櫻井絵里香, 青木奈緒, 西澤肇, 平木幸治, 韓蔚, 山田将平, 櫻田勉, 浜村麻希, 柴垣有吾. 当院における慢性腎臓病教育外来の取り組み. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 94) 濱田悠佑, 五十嵐義浩, 土田善之, 大川修, 富永直人, 吉田徹, 藤谷茂樹. 当院での集中治療における CE の関わり方の変貌. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 95) 高上紀之, 落合晋太郎, 谷澤雅彦, 祖父江理, 星野純一, 小口英世. CQ「腎移植患者に運動療法は推奨されるか?」. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 96) 谷澤雅彦, 小口英世, 祖父江理. 腎移植患者における腎臓リハビリテーション~オーバービューと 2018 の振り返り~. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 97) 緒方聖友, 谷澤雅彦. CQ「腎移植患者に栄養療法は推奨されるか?」. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 98) 西澤肇, 平木幸治, 田島広太, 堀田千晴, 井澤和大, 櫻田勉, 柴垣有吾. 80 歳以上の高齢保存期 CKD 患者に対する在宅ベースでの 6 ヶ月間の運動指導の効果. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 99) 田島広太, 平木幸治, 西澤肇, 堀田千晴, 白井小百合. 当院の慢性腎臓病教育外来における理学療法士の関わり. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 100) 櫻田勉. 患者中心の腹膜透析の実践~運動療法を含めて~. 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 101) 井上一步, 星野誠子, 片山きみえ, 浅野純子, 赤木崇将, 大畑敬一, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 老化促進モデルマウスを用いた加齢腎に対する習慣的走運動の効果. 第 130 回日本解剖学会・第 102 回日本生理学会・第 98 回日本薬理学会 合同大会, 2025.
- 102) 吉田圭佑, 小島茂樹, 櫻田勉, 宮本雅仁. 表在化上腕動脈仮性瘤感染に対して瘤切除, 上腕動脈結紮および局所感染管理が奏功した一例. 第 22 回日本インターベンショナルネフロロジー学会学術集会, 2025.

- 103) Ikeda Masato, Ogawa Kyohei, Shirai Izumi, Ohshiro Kentaro, Maruyama Yukio, Yokoo Takashi, Tanno Yudo, Terawaki Hiroyuki, Sakurada Tsutomu, Yoshikawa Kazuhiro, Inoue Hironobu, Higuchi Chieko, Kaneko Tomohiro, Nogaki Fumiaki, Ueda Atsushi, Maeda Yoshitaka. Upward-directed exit-site of swan-neck catheter and "Easy-to-disinfect the backside area of exit-site" may prevent PD Complications. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.

② 国際学会

- 1) Yoshida Keisuke, Kojima Shigeki, Sakurada Tsutomu. Severe symptomatic hypocalcemia and reversible heart Failure after treatment of osteoporosis with denosumab in a peritoneal dialysis patient: A case report. International Society for Peritoneal Dialysis(ISPD), 2024.
- 2) Sakurada Tsutomu, Kojima Shigeki, Kohatsu Kaori, Yamada Shohei, Yoshida Keisuke, Shibagaki Yugo. Indications for and outcomes of 21 cases of secondary embedding of a peritoneal dialysis catheter. International Society for Peritoneal Dialysis(ISPD), 2024.
- 3) Kojima Shigeki, Kohatsu Kaori, Yoshida Keisuke, Sakurada Tsutomu, Tomosugi Naohisa. Relationship between iron-based oral phosphate binders and erythropoiesis in peritoneal dialysis patients. International Society for Peritoneal Dialysis(ISPD) 2024 Congress, 2024.
- 4) Yuasa Chiaki, Kojima Shigeki, Sakurada Tsutomu. Encapsulating peritoneal sclerosis caused by multiple episodes of peritonitis during short-term peritoneal dialysis: A case report. International Society for Peritoneal Dialysis(ISPD), 2024.
- 5) Shirai Kana, Murata-Hasegawa Marie, Ogata Masatomo, Miyauchi Takamasa, Shinoda Kazunobu, Shibagaki Yugo, Yazawa Masahiko. Late-onset post-transplant lymphoproliferative disorders presenting with sudden massive abdominal ascites effusion: A case report. American Society of Nephrology, Kidney week 2024, 2024.
- 6) Ogata Masatomo, Miyauchi Takamasa, Osako Kiyomi, Imai Naohiko, Sakurai Yuko, Shinoda Kazunobu, Shibagaki Yugo, Yazawa Masahiko. Relationship between new-onset proteinuria and remnant kidney hypertrophy and/or pre-donated kidney volumes. American Society of Nephrology, Kidney week 2024, 2024.

③ その他

- 1) 櫻田勉. PD カテーテル挿入トレーニングは良好なアウトカムをもたらす. 湘南 APES CAMP, 2024.
- 2) 山田将平. 透析医を悩ます「透析関連低血圧と心臓弁膜症」. 透析×TAVI 地域連携セミナー, 2024.
- 3) 小島茂樹. 聖マリアンナ医科大学法人 3 施設における PD 診療の病診連携～現状と展望～. バクスター WEB セミナー ～地域で支えるおうち透析～, 2024.
- 4) 櫻田勉. 多職種連携によるチーム医療の実際～教育入院の実践とその効果～. 今こそ考える CKD 対策セミナー, 2024.
- 5) 櫻田勉. 当院における CKD 教育入院の効果～多施設共同研究の結果を含めて～. 第 5 回 CKD 教育入院発表会, 2024.
- 6) 野田竜之介. 医療界の AI 革命～ヒトと AI の調和がもたらす医療現場のミライ. 第 29 回腎不全の医療ネットワークを考える会, 2024.
- 7) 喜多洋平, 小山哲平, 牧野内龍一郎, 町田慎治, 白井小百合, 今井直彦. 廃用性浮腫に伴う大量滲出液により血液透析に至った一例. 第 106 回 神奈川腎研究会総会・研究集会, 2024.
- 8) 櫻田勉. CKD 診療における多職種介入の実際と効果. 小松市医師会・能美市医師会・加賀市医師会学術講演会, 2024.
- 9) 市川大介. 高血圧ガイドラインのポイントと ARNI の使いどころ. 第 41 回川崎多摩地区腎高血圧セミナー, 2024.
- 10) 谷澤雅彦. 生体腎ドナーへの生涯にわたる関与. 第 39 回腎移植・血管外科研究会, 2024.

- 11) 櫻田勉. 「これからの腹膜透析管理について」～非専門医との地域連携を含めて～. 西毛腹膜透析 WEB セミナー, 2024.
- 12) 櫻田勉. 今こそ考える多職種連携による CKD 診療. 川崎市医師会腎不全対策部会学術講演会, 2024.
- 13) 緒方聖友. 生体腎ドナーの術前腎体積および術後腎肥大と新規蛋白尿出現の関連. 第 9 回腎移植内科研究会, 2024.
- 14) 谷澤雅彦. 基本の生体腎ドナー基準と腎提供後ドナーの現状より基準を再考する. 第 9 回腎移植内科研究会, 2024.
- 15) 酒井雅史. 高度蛋白尿の鑑別に Point of Care Ultrasound (POCUS) が有用であった高度心嚢水貯留に伴う腎鬱血の 1 例. 第 93 回内科合同勉強会, 2024.
- 16) 谷澤雅彦. 地域で診る CKD 診療～最新ガイドラインと SGLT2 阻害薬の役割～. CKD Premium Webinar, 2024.
- 17) 櫻田勉. PD 関連感染症の予防と治療～当院の地域連携を含めて～. 第 4 回 PD 地域連携セミナー in 世田谷, 2024.
- 18) 森久保悟. 患者の気持ちと家族の形～生前グリーフケアからみた CKM～. 第 3 回 CKM を考える会, 2024.
- 19) 市川大介. 一次性ネフローゼ症候群の病気の理解と治療、療養のポイント. 保土ヶ谷区難病医療講演会, 2024.
- 20) 櫻田勉. CKD 診療のトピックス～多職種連携の効果を含めて～. CKD 治療 Update Seminar, 2024.
- 21) 櫻田勉. 慢性腎臓病透析予防指導管理料について. 第 4 回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会, 2024.
- 22) 櫻田勉. 今こそ求められる CKD 診療における多職種介入. 第 14 回腎疾患談話会, 2024.
- 23) 北野史也, 白井小百合, 小山哲平, 町田慎治, 今井直彦, 市川大介, 長宗我部基弘, 小池淳樹. 胸部大動脈瘤術後に発症したびまん性結節性病変を伴う FSGS の一例. 第 115 回東京腎生検カンファレンス, 2024.
- 24) 柴垣有吾. SGLT2 阻害薬の糖尿病性腎臓病における立ち位置を考える. SGLT2 inhibitor seminar in kanagawa, 2024.
- 25) 櫻田勉. CKD 診療ガイドライン改定のポイントと多職種介入の重要性について. Meet the Expert, 2024.
- 26) 谷澤雅彦, 緒方聖友, 櫻井裕子, 田中真純. 腎移植に関する基本的知識. 第 17 回日本 CKD チーム医療研究会, 2024.
- 27) 小嶋のぞみ, 清水朋子, 東山恵, 櫻井絵里香, 平木幸治, 西澤肇, 神志那萌子, 青木菜緒, 櫻田勉. 当院における慢性腎臓教育外来の取り組み～外来での腎不全治療食の提供～. 第 17 回日本 CKD チーム医療研究会, 2024.
- 28) 櫻田勉. CKD 診療における多職種連携の効果～CKD 教育入院と腎代替療法説明外来を中心に～. 第 17 回日本 CKD チーム医療研究会, 2024.
- 29) 早川しずか, 伊東崇仁, 栗原雅代, 長島真弓, 東山恵, 櫻田勉, 田村功一. 神奈川県腎臓病療養指導士の会の設立と今後の活動. 第 17 回日本 CKD チーム医療研究会, 2024.
- 30) 北野史也. 当院での周産期 TMA を疑った症例. 妊娠と腎臓にまつわる研究会, 2024.
- 31) 松田拓也. 難治性後天性 TTP に対してカプラシマブ・リツキシマブが投与が奏功した一例. これからの TTP 診療を考える会, 2024.
- 32) 谷澤雅彦. 慢性腎臓病治療における SGLT2 阻害薬の可能性. ジェンディアンズ全国 WEB 講演会, 2024.
- 33) 櫻田勉. 高齢者の PD を再考する. 福岡腹膜透析カンファレンス, 2024.
- 34) 谷澤雅彦. 地域で見る CKD 診療～SGLT2 阻害薬の立ち位置～. CKD Expert Seminar, 2024.
- 35) 湯浅千晶. PD 維持期の管理. テルモ PD Basic Seminar, 2024.
- 36) 櫻田勉. 腹膜透析の新たな展開～臨床工学技士の参画に対する期待～. 東京都臨床工学技士会 学術委員会 代謝専門部会 Web セミナー 腹膜透析領域の基礎とこれから, 2024.
- 37) 櫻田勉. 慢性腎臓病患者に対する多職種介入～神奈川県腎臓病療養指導士の会の設立の経緯を含めて～. Forxiga National Broadcast Symposium, 2024.
- 38) 谷澤雅彦. 腎移植における電解質・酸塩基平衡異常. 初学者のための腎移植セミナー, 2024.
- 39) 酒井雅史. 高齢末期 CKD 患者における不動と高カルシウム血症に関する検討. 第 22 回 Yokohama Parathyroid & Bone Forum, 2024.

- 40) 山田将平. 腎臓内科専門医がミル高尿酸血症治療. 各診療科で考える高尿酸血症 WEB セミナー, 2024.
- 41) 谷澤雅彦. 地域で見る CKD 診療~SGLT2 阻害薬の立ち位置~. ジャディアンス講演会 地域連携を心腎連関から捉える, 2024.
- 42) 山田将平. 腹膜透析における患者教育~個別化医療により患者中心の未来を目指して. テルモ PD セミナー 慢性腎臓病の患者教育-人生の希望を見出す医療者の視点-, 2024.
- 43) 白井小百合. 当科の CKD 患者への取り組み. 横浜市旭区 CKDsymposium2024, 2024.
- 44) 谷澤雅彦. 透析療法以外の腎代替療法~腎移植と CKM~. 宮前区医師会学術講演会, 2024.
- 45) 山田将平. 地域連携から主体的な腎代替療法選択を目指して. 宮前区医師会学術講演会, 2024.
- 46) 櫻田勉. 在宅透析に関するトピックス. 第 49 回浅間腎不全懇話会, 2024.
- 47) 櫻田勉. 高齢者の PD を再考する. 呉 PD セミナー, 2024.
- 48) 柴垣有吾. 正 AG 性代謝性アシドーシスを診る. 滋賀 水・電解質 Forum, 2024.
- 49) 谷澤雅彦. 10 年後の腎移植の世界~備えあれば憂いなし~. 第 34 回初学者のための腎臓病教室, 2024.
- 50) 奥山恵美子. 腎移植患者の感染症. 第 34 回初学者のための腎臓病教室, 2024.
- 51) 櫻田勉. 高齢腹膜透析患者の管理. KOBE PD セミナー2025, 2025.
- 52) 市川大介. 腎障害を伴う ANCA 関連血管炎:エビデンスと臨床的実践. AAV Nephrologists Meeting 2025 JAN, 2025.
- 53) 柴垣有吾. CKD の診かた. 公益財団法人ときわ会 常盤病院 院内講演会, 2025.
- 54) 山田将平. 腹膜透析診療における empowerment. テルモ腹膜透析 Dr セミナー - For Next Generation -, 2025.
- 55) 谷澤雅彦. 昨今の腎不全医療を取り巻く状況. "Advances in CKD-MBD" Web Seminar, 2025.
- 56) 櫻田勉. 高齢腹膜透析患者の管理. 第 33 回東海腹膜透析研究会, 2025.
- 57) 松田拓也. 難治性後天性 TTP に対してカプラシズマブ・リツキシマブ投与が奏功した一例. TTP Clinical Webinar, 2025.
- 58) 櫻田勉. 当院における腎代替療法説明外来の実際とその効果. 導入期加算 3 施設による双方向研修, 2025.
- 59) 市川大介. GLP-1 受容体作動薬の腎への影響とエビデンス. GLP-1 Update Seminar, 2025.
- 60) 柴垣有吾. 腎前性 AKI を考える. Nephrology Forum in MIKAWA, 2025.
- 61) 櫻田勉. 高齢腹膜透析患者の管理. 腹膜透析ミーティング in 大分, 2025.
- 62) 櫻田勉. 高齢腹膜透析患者を診る~在宅医療とのコラボレーション~. PalliativePD を考える, 2025.
- 63) 林滉一郎, 安藤涼太, 志村隼, 櫻井絵里香, 大川修, 白須智子, 東山恵, 田中真純, 湯浅千晶, 吉田圭佑, 山田将平, 小島茂樹, 柴垣有吾, 櫻田勉. 当院における自動腹膜灌流装置を使用した FastPET 検査の現状と課題. 第 36 回神奈川県 CAPD 研究会, 2025.
- 64) 齋藤大暉, 白井佳那, 山田将平, 田邊淳, 小波津香織, 小島茂樹, 柴垣有吾, 櫻田勉. 糖尿病性ケトアシドーシスを呈した PD+HD 併用患者の 1 例. 第 36 回神奈川県 CAPD 研究会, 2025.
- 65) 山田将平, 鈴木幹広, 湯浅千晶, 小島茂樹, 柴垣有吾, 櫻田勉. Myco bacterium abscessus によるカテーテル関連感染症に対し, 瘻孔切除術と出口部変更術によりカテーテルを温存し得た 1 例. 第 36 回神奈川県 CAPD 研究会, 2025.
- 66) 富士原朋美, 湯浅穂乃花, 阿部由美子, 高橋雅子, 小山哲平, 牧野内龍一郎, 町田慎治, 白井小百合. 腹膜透析患者の指導方法を再考して. 第 36 回神奈川県 CAPD 研究会, 2025.
- 67) 柴垣有吾. 腎代替療法の選択 Shared Decision Making. 第 36 回神奈川県 CAPD 研究会, 2025.
- 68) 柴垣有吾. CKD 管理における患者報告アウトカム(PRO):フォゼベル錠の意義も含めて. 第 42 回沖縄県人工透析研究会, 2025.
- 69) 櫻田勉. 腹膜透析患者の導入期管理. 腹膜透析基礎セミナー, 2025.

		和 文	英 文
著 書		12	
論 文	原著	5	20
	解説又は総説	22	4
	症例報告	3	7
	その他	3	9
学会発表	国内学会	102	1
	国際学会		6
	その他	69	

代謝・内分泌内科学

著書

- 1) 方波見卓行. 原発性アルドステロン症診療マニュアル 2024; (改訂第4):1-236.
- 2) 方波見卓行、山本雄太郎. 手術の効果判断 原発性アルドステロン症診療マニュアル 2024;9 章(改訂第4):160-162.
- 3) 曾根正勝. 特殊な病態での診断と治療(コルチゾール同時産生の場合) 原発性アルドステロン症診療マニュアル 2024;7 章(改訂第4):200-201.
- 4) 方波見卓行、中川朋子. 今後解決すべき課題(治療面) 原発性アルドステロン症診療マニュアル 2024;9 章(改訂第4):228-230.
- 5) 方波見卓行、酒井健輔. 日本内分泌学会診療ガイドライン 原発性アルドステロン症診療マニュアル 2024;9 章(改訂第4):54-59.
- 6) 方波見卓行. 副腎性クッシング症候群 内分泌疾患診療 実践ガイドブック 2024;:111-117.
- 7) 曾根正勝. 原発性アルドステロン症の温故知新 医学のあゆみ 特集 内分泌疾患の温故知新 日本内分泌学会創設 100 周年を目前にして 2024;9(290):740-743.
- 8) 曾根正勝. 生活習慣病治療の最前線 ③糖尿病 スーパードクターに教わる予防と治療 2025 2024;:40-41.
- 9) 方波見卓行. 低カリウム血症 外来診療のための糖尿病・内分泌疾患ベストプラクティス 2024;:189-197.
- 10) 横田健一 曾根正勝. 原発性アルドステロン症 外来診療のための糖尿病・内分泌疾患ベストプラクティス 2024;:258-267.
- 11) 曾根正勝. 高血圧 外来診療のための糖尿病・内分泌疾患ベストプラクティス 2024;:44-59.
- 12) 曾根 正勝. 糖尿病患者の降圧療法のコツ 外来診療のための糖尿病・内分泌疾患ベストプラクティス 2024;:60-62.
- 13) 方波見卓行. アジソン病、急性副腎不全(副腎クリーゼ) 今日の治療指針 2025 2025;:780-781.
- 14) 曾根正勝. 原発性アルドステロン症 今日の治療指針 2025 2025;:781-782.
- 15) 方波見卓行. 褐色細胞腫 パラガングリオーマ 今日の診断指針第9版 2025;:1098-1099.
- 16) 柳澤慶香. 周産期医療 ②妊産婦—糖尿病合併妊娠と妊娠糖尿病 病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 2025; (改訂第8版):306-309.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 中川 朋子, 永井 義夫, 川名部 新, 佐々木 要輔, 山道 玄, 谷口 千津子, 児嶋 裕香, 田中 逸, 曾根 正勝. 日本人妊婦の耐糖能異常と妊娠前 BMI・体組成との関連について. 糖尿病, 2025;68(2):31-39.

② 総説又は症例解説

- 1) 柳澤慶香. 移行期医療との連携 糖尿病. 周産期医学, 2024;54(4):427-431.
- 2) 横田健一. 最近尿量が多く口渇感から水もよく飲みます. 患者さんからよく尋ねられる内科診療のクエスチョン, 2024;133(4):1028-1031.
- 3) 中村 祐太. 糖尿病の栄養管理 “double burden of malnutrition”における食事療法の個別化を考える. Hospitalist, 2024;11(3):789-795.
- 4) 柳澤 慶香. 糖尿病合併妊娠における糖尿病網膜症の進行. 日本糖尿病眼学会誌, 2024;28:29-32.
- 5) 柳澤慶香. 糖尿病を有する女性のプレコンセプションケア. 糖尿病と妊娠, 2024;24(1):S18-S20.
- 6) 柳澤慶香. 糖代謝異常合併妊娠でのインスリン使用. ドクターサロン, 2024;68(10):581-584.

③ 症例報告

- 1) 川名部 新, 中川 朋子, 内山 修太朗, 中村 祐太, 月山 秀一, 横田 健一, 曾根 正勝. 免疫関連有害事象の早期診断のため尿糖自己測定が有用であったニボルマブによる1型糖尿病の1例. 糖尿病, 2024;67(4):173-180.
- 2) 内山 修太朗, 佐田 幸由, 村橋 登, 佐々木 要輔, 曾根 正勝, 田中 逸. 2型糖尿病患者における骨密度と体組成の関連性の検討. 日本内分泌学会雑誌, 2024;100 巻(Update):3-4.
- 3) 山本雄太郎, 方波見卓行, 池田七海, 中西 亨, 松田央郎, 本田美紗, 志村和浩, 本間桂子, 曾根正勝, 長谷川奉延. 急性心筋梗塞による心肺停止を契機に発見された17 α 水酸化酵素欠損症(17 α -OHD)の一例. ACTH RELATED PEPTIDES, 2025;35:10-12.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yuki Ishikawa, Yuto Yamazaki, Yuta Tezuka, Kei Omata, Yoshikiyo Ono, Kazuaki Tokodai, Fumiyoshi Fujishima, Shin Kawanabe, Takuyuki Katabami, Akira Ikeya, Miho Yamashita, Yutaka Oki, Hiroshi Nanjo, Fumitoshi Satoh, Akihiro Ito, Michiaki Unno, Takashi Kamei, Hironobu Sasano, Takashi Suzuki. Histopathological analysis of tumor microenvironment in adrenocortical carcinoma: Possible effects of in situ disorganized glucocorticoid production on tumor immunity. The Journal of steroid biochemistry and molecular biology, 2024; : Doi: 10.1016-jsbmb.2024.106462.
- 2) Hisato Nagano, Naoaki Mizuno, Hideyuki Sato, Eiji Mizutani, Ayaka Yanagida, Mayuko Kano, Mariko Kasai, Hiromi Yamamoto, Motoo Watanabe, Fabian Suchy, Hideki Masaki, Hiromitsu Nakauchi. Skin graft with dermis and appendages generated in vivo by cell competition. Nature Communications, 2024;15(1):3366.
- 3) Eriko Nakano, Kosuke Mukai, Atsunori Fukuhara, Michio Otsuki, Ichiro Shimomura, Takamasa Ichijo, Mika Tsuiki, Norio Wada, Takashi Yoneda, Yoshiyu Takeda, Kenji Oki, Tetsuya Yamada, Yoshihiro Ogawa, Daisuke Yabe, Miki Kakutani, Masakatsu Sone, Takuyuki Katabami, Akiyo Tanabe, Mitsuhide Naruse. Primary aldosteronism patients with previous cardiovascular and cerebrovascular events have high aldosterone responsiveness to ACTH stimulation. Endocrine Journal, 2024;71(5):489-497.
- 4) Yutaro Yamamoto, Ren Matsuba, Tomoyuki Nagasaka, Sachi Shimizu, Kensuke Sakai, Masakatsu Sone, Takuyuki Katabami. Age and sex are excellent predictors of bone complications in patients with type 2 diabetes with no history of osteoporotic fracture or treatment for osteoporosis. Journal of International Medical Research, 2024;52(5):DOI-10.1177/03000605241246743.
- 5) Sachiko Tsukamoto-Kawashima, Kaori Ikeda, Masakatsu Sone, Masahito Ogura, Emi Okamura, Aki Kondo, Yoko Ueba, Nobuya Inagaki. An exploratory study of factors in disordered eating behavior in diabetes self-management in Japan. Journal of diabetes investigation, 2024;15(7):874-88.
- 6) Hiroki Kobayashi, Yoshihiro Nakamura, Masanori Abe, Toshifumi Nakamura, Yoichi Nozato, Shoichiro Izawa, Miki Kakutani, Takuyuki Katabami, Norio Wada, Katsutoshi Takahashi, Takashi Yoneda, Ryuji Okamoto 11, Masanori Murakami, Shintaro Okamura, Mitsuhide Naruse, Kenichi Yokota, Masakatsu Sone. Prevalence of unilateral hyperaldosteronism in primary aldosteronism: impact of a novel chemiluminescent immunoassay for measuring plasma aldosterone in Japan. Hypertension Research, 2024;47(11):3035-3044.
- 7) Takeshi Oyanagi, Shin Kawanabe, Hidekazu Tsukiyama, Ami Nishine, Yuta Nakamura, Tomoko Nakagawa, Mayuko Kanou, Juri Kubota, Shingo Tsunemi, Kenichi Yokota, Masakatsu Sone. The Effects of Imeglimin on Muscle Strength in Patients with Type 2 Diabetes: A Prospective Cohort Study. Diabetes therapy, 2024;15(11):

2323-2336.

- 8) Naoki Fujiwara, Tatsuya Haze, Hiromichi Wakui, Kouichi Tamura, Mika Tsuiki, Kohei Kamemura, Daisuke Taura, Takamasa Ichijo, Yutaka Takahashi, Minemori Watanabe, Hiroki Kobayashi, Toshifumi Nakamura, Shoichiro Izawa, Norio Wada, Tetsuya Yamada, Kenichi Yokota, Mitsuhide Naruse, Masakatsu Sone. Differences in target organ damage between captopril challenge test-defined definitive-positive and borderline-range groups among patients with primary aldosteronism. Hypertension research, 2024; : DOI-10.1038/s41440-024-01943-w..
- 9) Yui Kubo, Masakatsu Sone, Takuyuki Katabami, Shoichiro Izawa, Takamasa Ichijo, Mika Tsuiki, Shintaro Okamura, Takanobu Yoshimoto, Michio Otsuki, Yoshiyu Takeda, Tomoko Suzuki, Mitsuhide Naruse, Akiyo Tanabe. Predictor of Steroid Replacement Duration after Removal of Cortisol-producing Adenoma. Internal Medicine, 2024; : Doi-10.2169.

② 総説又は症例解説

- 1) Mayuko Kano. Parathyroid Gland Generation from Pluripotent Stem Cells. Endocrinology and Metabolism, 2024;39(4) : 552-558.

③ 症例報告

- 1) Jun Nishinarita, Tomoya Tsuchida, Hirotochi Fujii, Yoshiyuki Ohira. Pseudogout Localized to the Pubic Symphysis. Intern Med Advance Publication, 2024; : DOI-10.2169/internalmedicine.3825-24.
- 2) Yoshiaki Hishida, Kazuki Hashimoto, Ryota Mochizuki, Hiroki Yasuda, Tomoyuki Nagasaka, Yuki Deguchi, Yoshiya Sugiura, Kenichi Yokota, Nobuyuki Ohike, Masakatsu Sone. Novel ultrasound-guided adrenal venous sampling in iodine contrast intolerant patients: two case reports. Eur J Endocrinol, 2025;192(3) : K21-K25.

学会発表

① 国内学会

- 1) 中川朋子, 永井義夫, 川名部新, 佐々木要輔, 山道玄, 谷口千津子, 児嶋裕香, 田中逸, 曾根正勝. 一般病院における日本人妊婦の耐糖能異常と妊娠前 BMI・体組成との関連. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024.
- 2) 三原祥平, 山本雄太郎, 酒井健輔, 内山修太郎, 徳門佳乃, 曾根正勝, 方波見卓行. インスリノーマの診療背景と検討. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024.
- 3) 柳澤慶香. 糖尿病と女性 糖尿病を有する女性のプレコンセプションケア (Womens' s health with diabetes Preconception care for women with diabetes. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024.
- 4) 中村祐太, 小林慎二郎, 中原一有, 菱田吉明, 曾根正勝. 膝疾患における血糖マネジメント指標の変化と術後の推移についての検討. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2024.
- 5) 横田 健一. ミネラルコルチコイド受容体活性の調節機構～CASZ1, LSD-1 の役割. 高血圧フォーラム 2024, 2024.
- 6) 山本雄太郎, 長坂智裕, 松葉怜, 曾根正勝, 方波見卓行. Cushing 症候群に対してオシロドロスタットを使用した 7 症例. 第 96 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 7) 和田典男, 三次有奈, 山本浩一, 角谷美樹, 立木美香, 横田健一, 成瀬光栄, 曾根正勝,. コルチゾール自律分泌を伴う原発性アルドステロン症における局在判定法の検討. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 8) 岡本健太郎, 田浦大輔, 藤田晴香, 曾根正勝, 原田範雄, 稲垣暢也. ヒト iPS 細胞を用いた副腎皮質の発生分化に関わる未知の制御因子に関する検討. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 9) 加納麻弓子. 発生工学を用いた多能性幹細胞からの副甲状腺再生. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.

- 10) 白井大介, 早川望, 小柳壮史, 加納麻弓子, 月山秀一, 中澤龍斗, 曾根正勝, 菊地栄次. Enfortumab vedotin 投与によりコントロール不良な高血糖をきたした尿路上皮癌の一例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 11) 菱田吉明, 横田健一, 望月亮太, 加納麻弓子, 月山秀一, 中川朋子, 中村祐太, 柳澤慶香, 曾根正勝. 被災を契機に発症し KISS1R 遺伝子ヘテロ接合性変異が同定された成人発症の男性特発性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症の一例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 12) 横田健一, 城理絵, 柴田洋孝, 栗原勲, 小林佐紀子, 伊藤裕, 曾根正勝. ミネラルコルチコイド受容体関連高血圧のメカニズム: 糖尿病における O-GlcNAc 修飾の役割. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 13) 横田健一. 高齢者・超高齢者の副腎疾患の特徴を理解する. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 14) 中川朋子, 酒井健輔, 山本雄太郎, 曾根正勝, 市川靖史, 宮田辰徳, 木村伯子, 田辺晶代, 方波見卓行. ¹⁷⁷Lu-DOTATATE 治療に移行した CVD 耐性、MIBG 陰性、SSTR2 陽性の転移性腹部パラガングリオーマの 1 例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 15) 加納麻弓子, 水谷英二, 長坂智裕, 須賀栄隆, 曾根正勝. 動物体内環境を利用する多能性幹細胞からの副腎作出. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 16) 中村祐太, 小林慎二郎, 中原一有, 菱田吉明, 曾根正勝. 膵疾患における血糖マネジメント指標の変化と術後の推移についての検討. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 17) 伊澤正一郎, 松本和久, 門脇佳名子, 中村俊文, 方波見卓行, 高橋克敏, 横田健一, 成瀬光栄, 曾根 正勝. CLEIA 法による血中アルドステロン濃度(PAC)を用いた原発性アルドステロン症(PA)スクリーニングの検証. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 18) 小林慎二郎, 中原一有, 梅本久美子, 野呂瀬朋子, 中村祐太, 佐々木信幸, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 大池信之, 砂川優, 立石敬介, 大坪毅人. 当院における”胆道・膵臓病センター”の設置から現在までのと今後の課題. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 19) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術における早期回復のための術前栄養・運動療法必要性. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 20) 中村祐太, 小林慎二郎, 中原一有, 菱田吉明, 曾根正勝. 代謝・内分泌領域からみた膵切除の留意点ー糖尿病とビタミン D を中心にー. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 21) 伊佐早健司, 黄世捷, 中村祐太, 清水高弘, 山野嘉久. Google Classroom を活用したデュアルカンファレンスの実践 : ICT の”導入”から”統合”へ. 第 56 回日本医学教育学会大会, 2024.
- 22) 中村祐太, 中村幸嗣, 伊佐早健司, 黄世捷, 前畑忠輝, 古田繁行. 多職種評価の妥当性・信頼性の向上と評価者の心理的安全性の向上: 認定評価者養成講習の実践報告. 第 56 回日本医学教育学会大会, 2024.
- 23) 奥脇瑠根, 加納麻弓子, 中川朋子, 長坂智裕, 中村祐太, 小柳壮史, 横田健一, 竹村弘, 曾根正勝. Hypervirulent *Klebsiella pneumoniae* (hvKP) による肝膿瘍・内因性眼内炎を来した 2 型糖尿病の 1 例. 第 698 回日本内科学会関東地方会, 2024.
- 24) 徳門 佳乃, 方波見 卓行, 山本 雄太郎, 酒井 健輔, 月山 秀一, 三原 祥平, 内山 修太郎, 関口 善吉, 中澤 龍斗, 長宗我部 基弘, 曾根 正勝, 木村 伯子. 長期観察中の孤発性 von Hippel Lindau 病 2 型 A の一例. 第 25 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 25) 中村祐太, 曾根正勝. デュルバルマブによる甲状腺機能低下症発症後, セルペルカチニブによる T3 抑制を合併した原発性肺腺癌の 1 例. 第 25 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 26) 西川徹, 伊藤一希, 在原卓, 喜多島美奈, 中野万理, 菱田吉明, 中川朋子, 曾根正勝, 津川浩一郎. 甲状腺手術後出血の

対応～パセドウ病術後遅発性後出血の症例を中心に～. 第 67 回日本甲状腺学会学術集会, 2024.

- 27) 常見真吾, 方波見卓行, 月山秀一, 酒井健輔, 窪田珠理, 三原祥平, 龍 加那子, 瀧澤祐子, 松本和興, 関口善吉, 有泉 泰, 長宗我部基弘, 山崎有人, 鈴木 貴, 曾根正勝, 笹野公伸. 経時的増大を観察し得た後腹膜原発悪性リンパ腫の一例. 第 28 回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 2024.
- 28) 西川徹, 中川朋子, 印牧義英, 後藤由香, 曾根正勝, 福田護, 津川浩一郎. 頸部超音波検査と頸部単純 MRI 検査を併用し術前から診断できた副甲状腺がんの 1 例. 第 52 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2024.
- 29) 鈴木智子, 柳沢慶香, 水主川純, 馬場園哲也. 糖尿病合併妊婦から生まれた児の出生時体重と関連する臨床的因子に関する研究. 第 40 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2024.
- 30) 長村杏奈, 安田麻里絵, 柳澤慶香, 和栗雅子, 荒田尚子. 糖尿病を持つ女性に対するプレコンセプションケアの情報提供の現状. 第 40 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 2024.
- 31) 方波見卓行. 副腎皮質癌診療の ABC. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 2024.
- 32) 豊福伸幸, 菱田吉明, 和田誠, 加納麻弓子, 中村祐太, 中川朋子, 浅井志高, 横田健一, 柳澤慶香, 迫田凌太, 牧野利明, 曾根正勝. グリチルレチン酸含有湿布を乱用した低 K 血症の診断に難渋した 1 例. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 2024.
- 33) 和田誠, 菱田吉明, 加納麻弓子, 中村祐太, 中川朋子, 浅井志高, 横田健一, 柳澤慶香, 曾根正勝. 高度肥満に対する肥満減量手術で内分泌機能異常の改善をみた 1 例. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 2024.
- 34) 横田健一. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療 update. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 2024.
- 35) 常見真吾, 山本雄太郎, 三原祥平, 竹本彩夏, 月山秀一, 酒井健輔, 窪田珠理, 松本和興, 龍 加那子, 曾根正勝, 方波見卓行. インスリノーマ古典的診断指標のカットオフ変更による負担軽減策. 第 34 回臨床内分泌代謝 Update, 2024.
- 36) 曾根正勝. 腸管ホルモンである GIP の生理的役割と薬理作用についての解釈. 第 28 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 2024.
- 37) 曾根正勝. アルドステロン測定法変更に伴う原発性アルドステロン症診療の課題. 第 28 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 2024.
- 38) 横田健一. CASZ1 は MR の新規転写抑制因子であり、高血圧や原発性アルドステロン症の発症に関与する. 第 28 回日本心血管内分泌代謝学会学術総会, 2024.
- 39) 柳澤慶香. 糖尿病合併妊娠の管理 update. 第 59 回糖尿病学の進歩, 2025.
- 40) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術における早期回復のための多職種による術前栄養・運動療法の必要性. 第 14 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会, 2025.
- 41) 黒須智彦, 中村祐太, 鈴木幹広, 加納麻弓子, 横田健一, 曾根正勝. 胃全摘術後の食後高血糖に対して CGM で α -GI 間の効果の差異を確認できた糖尿病の 1 例. 第 62 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2025.
- 42) 龍加那子, 月山秀一, 酒井健輔, 常見真吾, 窪田珠理, 三原祥平, 林南帆, 木内善太郎, 曾根正勝, 方波見卓行. セマグルチドが有用と考えられる Alstrom 症候群 (AS) の 1 例. 第 62 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2025.
- 43) 清水紗智, 太田明雄, 小藤梢, 竹本彩夏, 望月亮太, 曾根正勝. 右足腓胝感染を契機に下腿の筋層内膿瘍と深部静脈血栓症をきたした 2 型糖尿病の 1 例. 第 62 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2025.
- 44) 村橋登, 浅井志高, 中村祐太, 小柳壮史, 内山修太郎, 林南帆, 曾根正勝, 横田健一. SAP 療法中にインスリンのゲル化が誘因として考えられた DKA を発症した 1 型糖尿病の一例. 第 62 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2025.
- 45) 望月亮太, 小藤梢, 竹本彩夏, 清水紗智, 太田明雄, 曾根正勝. 尿路感染症を契機に背部皮下膿瘍と敗血症性肺塞栓症を来した 2 型糖尿病の一例. 第 62 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2025.

- 46) 久保ゆい, 曾根正勝, 方波見卓行, 伊澤正一郎, 一城貴政, 立木美香, 大月道夫, 武田仁勇, 成瀬光栄, 田辺晶代. コルチゾール産生腫摘出後のステロイド補充療法期間の予測因子についての検討. 第32回日本ステロイドホルモン学会学術集会, 2025.
- 47) 曾根正勝. 「アルドステロン測定法変更に伴う原発性アルドステロン症診療の課題」. 第32回日本ステロイドホルモン学会学術集会, 2025.
- 48) 酒井健輔, 方波見卓行, 浅井志高, 曾根正勝, 伊澤正一郎, 立木美香, 成瀬光栄, 田辺晶代. 近年の本邦における副腎性クッシング症候群の臨床像と関連合併症. 第32回日本ステロイドホルモン学会学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) 加納麻弓子. 発生工学を応用した副甲状腺再生. 第24回日本再生医療学会総会, 2025.
- 2) Ayaka Takemoto, Yoshio Nagai, Shin Kawanabe, Tomoko Nakagawa, Kaho Matsumoto, Junichi Hasagawa, Nao Suzuki, Yasushi Tanaka, Masakatsu Sone. Patients with gestational diabetes mellitus may be treated in both early and late pregnancy, especially in patients with pre-pregnancy overweight: A cross-sectional study in Japan. the DPSG annual meeting 2024, 2024.
- 3) Tomoko Nakagawa, Yoshio Nagai, Yasushi Tanaka, Masakatsu Sone. A study of the relationship between body composition and glucose intolerance in Japanese pregnant women. the DPSG annual meeting 2024, 2024.

③ その他

- 1) 中村祐太. 糖尿病と足の痛み/しびれ-見逃されがちな末梢神経障害-. 第191都筑区内科医会, 2024.
- 2) 曾根正勝. 「ミネラルコルチコイドによる臓器障害から見た 糖尿病合併症におけるMR拮抗薬への期待」. 小諸北佐久薬剤師会障害教育セミナー, 2024.
- 3) 戸兵周一. 実地医家から考える糖尿病性腎症の新たな治療戦略. 小諸北佐久薬剤師会障害教育セミナー, 2024.
- 4) 内山修太郎, 林南帆, 松本和興, 浅井志高, 曾根正勝. 検診で指摘され、経過観察中に転移を認めた褐色細胞腫/パラガングリオーマの一例. 第42回川崎市医師会医学会, 2025.
- 5) 中川朋子. 「2型糖尿病・肥満症治療: GLP-1 受容体作動薬を活用した包括的アプローチ」. 第260回都筑区医師会学術講演会, 2025.
- 6) 長坂智裕, 方波見卓行, 山本雄太郎, 酒井健輔, 月山秀一, 常見真吾, 曾根正勝. Cushing 症候群に対するオシロドロスタット 長期投与時の有効性と安全性. 第36回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		16	
論 文	原著	1	9
	解説又は総説	6	1
	症例報告	3	2
	その他		
学会発表	国内学会	48	
	国際学会	1	2
	その他	6	

脳神経内科学

著書

- 1) 櫻井謙三. NMOSD におけるステロイド 脳神経内科クリニカルアップデート 2024;:207-211.
- 2) 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) 実践シェアード・ディシジョンメイキング 2024; (第2版):218-224.
- 3) 秋山久尚. 進行性核上麻痺 眼科診療ガイド 2024; (2):608-609.
- 4) 秋山久尚. 垂直 (上下) 注視麻痺 眼科診療ガイド 2024; (2):610.
- 5) 秋山久尚. Parinaud 症候群 眼科診療ガイド 2024; (2):610.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 正高佑志, 梅村二葉, 三木直子, 秋野公造, 赤星栄志, 三上礼子, 山野嘉久, 太組一朗. カンナビノイド製品はどのように使われているのか 国内患者会調査結果の概要. 日本統合医療学会雑誌, 2025;17:1-19.

② 総説又は症例解説

- 1) 櫻井謙三. NMOSD におけるステロイド. 脳神経内科クリニカルアップデート, 2024;:207-211.
- 2) 眞木二葉, 山野嘉久. 経頭蓋 MR ガイド下集束超音波治療の実践. 神経治療学, 2024;41(2):85-89.
- 3) 山野嘉久. 難病領域におけるレジストリ活用の動向 ～難病プラットフォームについて～. 神経治療学, 2024;41(3):277-279.
- 4) 秋山久尚. 眼科から他科へ紹介すべき神経眼科疾患: 脳神経内科の立場から. 眼科 2024 年 11 月号臨時増刊号 眼科外来診療, 2024;66(11):1441-1447.
- 5) 山野嘉久. 希少疾患における遠隔医療 ～HTLV-1 関連脊髄症(HAM)などを例に～. 神経治療学, 2024;41(4):504-507.
- 6) 萩原悠太. 経口腔 M モード超音波による筋萎縮性側索硬化症患者における舌線維束性収縮の評価. 神経超音波医学, 2024;37(2):61-63.
- 7) 秋山久尚. 片頭痛急性期治療. Current Therapy, 2025;43(1):19-25.
- 8) 萩原悠太. Microvascular flow imaging を用いた経口腔頸動脈超音波. Neurosonology, 2025;37(3):133-137.
- 9) 八木下尚子, 山野嘉久. 新規 HTLV-1 感染カニクイザルモデルを用いた HAM の発症予防法の開発. オペリスク, 2025;30(1):16-20.
- 10) 櫻井謙三. 神経免疫疾患における治療の進歩. Pharma Medica, 2025;42(1):31-35.
- 11) 山野嘉久. リアルワールドデータ・エビデンスを活用した研究推進に向けて ―アカデミアが貢献する難病プラットフォームを含めた基盤の整備―. 神経治療学, 2025;42(1):29-32.

③ 症例報告

- 1) 赤松伸太郎, 水上平祐, 木村暁夫, 下畑享良, 白石眞, 山野嘉久. 繰り返す呼吸不全を認めた IgLON5 抗体関連疾患の 1 例. 臨床神経学, 2024;65(3):218-223.

④ その他

- 1) 山野嘉久. 神経難病におけるリアルワールドデータ活用. NEURO LOGICA, 2024; (3):12.
- 2) 伊佐早健司. 学校でのてんかん対応について. 学校保健, 2024; (367):8-9.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ono Y, Tadokoro K, Yunoki T, Yamashita T, Sato D, Sato H, Akamatsu S, Mizukami H, Ohta Y, Yamano Y, Kimura A, Takayoshi S. Anti-IgLON5 disease as a differential diagnosis of multiple system atrophy. Parkinsonism and related disorders, 2024;124 : 106992.
- 2) Mizukami H, Shiraishi M, Hino S, Kaburagi M, Matsumoto H, Hagiwara Y, Yamano Y.. Utility of Combining Transcranial Sonography and MIBG Myo-2 cardiac Scintigraphy to Evaluate Substantia Nigra in Patients 3 with Parkinson's Disease. Brain sciences, 2024;14(6) : 524.
- 3) Sakurai K, Takao N, Nakano Y, Imai T, Isahaya K, Yamano Y. Exploring Digital Biomarkers Using Smartphones for Fatigue Assessment in Patients with Multiple Sclerosis. Clinical and Experimental Neuroimmunology, 2024;15(4) : 164-168.
- 4) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5) : 571-581.
- 5) Sato Tomoo, Nagai Masahiro, Watanabe Osamu, Misu Tatsuro, Takenouchi Norihiro, Ohkubo Ryuichi, Ishihara Satoshi, Tsuboi Yoshio, Katsuno Masahisa, Nakagawa Masanori, Matsushita Takuya, Aso Yasuhiro, Matsuura Eiji, Tokashiki Takashi, Mukaino Akihiro, Adachi Hiroaki, Nakanishi Kaoru, Yamaguchi Yusuke, Yamaguchi Saaya, Yamano Yoshihisa.. Multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled phase 3 study of mogamulizumab with open-label extension study in a minimum number of patients with human T-cell leukemia virus type-1-associated myelopathy. Journal of neurology, 2024;271(6) : 3471-3485.
- 6) Kuwabara S, Kusunoki S, Kuwahara M, Yamano Y, Nishida Y, Ishida H, Kasuya T, Kupperman E, Lin Q, Frick G, Misawa S. Efficacy and Safety of Eculizumab in Guillain-Barré Syndrome : A Phase3, Multicenter, Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Clinical Trial. Journal of the peripheral nervous system, 2024;29(3) : 339-349.
- 7) Yoshie T, Ueda T, Hasegawa Y, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Ayabe J, Akiyama T, Yamamoto D, Mori K, Kagami H, Ito H, Onodera H, Kaga Y, Ohtsubo H, Tatsuno K, Usuki N, Takaishi S, Yamano Y, and the K-NET Registry Investigators. Endovascular Thrombectomy versus Intravenous Alteplase for Distal Vessel Occlusions: A Propensity Score-Matched Analysis. Stroke : vascular and interventional neurology, 2024;4(5) : 1.
- 8) Sagara Yasuko, Nakamura Hitomi, Sagara Yasuhiro, Shitsuta Etsuko, Uchimaru Kaoru, Yamano Yoshihisa, Watanabe Toshiki, Miura Kiyonori, Matsuzaki Koji.. Plasma vitamin D levels correlated the pathogenesis of human T-cell leukemia virus type 1-associated diseases. Journal of medical virology, 2024;96(9) : e29898.
- 9) Takaishi S, Ueda T, Usuki N, Tatsuno K, Yoshie T, Yamano Y. Age-related differences in diffusion-weighted imaging lesion volume and reversal in patients with successful recanalization after mechanical thrombectomy. Journal of neurointerventional surgery, 2024;0 : 1-7.
- 10) Morikawa D, Fujitani S, Shirahige T, Hagiwara Y, Morisawa K, Yoshida T. Complex Interplay of COVID-19 ARDS with Guillain-Barré Syndrome and Cerebral Infarction: A Case Study. The American Journal of Case Reports,

- 11) Ohori S, Numabe H, Mitsushashi S, Tsuchida N, Uchiyama Y, Koshimizu E, Hamanaka K, Misawa K, Miyatake S, Mizuguchi T, Fujita A, Matsumoto N. Complex chromosomal 6q rearrangements revealed by combined long-molecule genomics technologies. *Genomics*, 2024;116(5) : 110894.
- 12) Sagara Y, Nakamura H, Sagara Y, Shitsuta E, Uchimaru K, Yamano Y, Watanabe T, Miura K, Matsuzaki K. Plasma vitamin D levels are correlated with the pathogenesis of human T-cell leukemia virus type 1-associated diseases. *Journal of medical virology*, 2024;96(9) : DOI-10.1002/jmv.29898..
- 13) Mogamiya T, Ohshima Y, Takashima H, Matsushima S, Watanabe T, Mori M, Hagiwara Y, Onodera H.. Poor oral status at stroke onset negatively affects activities of daily living at discharge: A propensity-score analysis. *Clinical Nutrition ESPEN*, 2024;64(2024) : 237-243.
- 14) Akamatsu S, Mitsushashi S, Soga K, Mizukami H, Shiraishi M, Frith MC, Yamano Y.. Targeted nanopore sequencing using the Flongle device to identify mitochondrial DNA variants. *Scientific Reports*, 2024;14(1) : 25161.
- 15) Sato Tomoo ,Yagishita Naoko , Araya Natsumi, Nakashima Makoto, Horibe Erika, Takahashi Katsunori, Kunitomo Yasuo, Nawa Yukino, Hamaguchi Isao, Yamano Yoshihisa.. Diagnostic Value of Anti-HTLV-1-Antibody Quantification in Cerebrospinal Fluid for HTLV-1-Associated Myelopathy. *Viruses*, 2024;16(10) : 1581.
- 16) Ko Riyoko, Takahashi Katsunori, Kunitomo Yasuo, Tanabe Kenichiro, Yagishita Naoko, Yamauchi Junji, Araya Natsumi, Nakashima Makoto, Horibe Erika, Shimizu Takahiro, Sato Tomoo, Yamano Yoshihisa.. Performance evaluation of CXCL10 ELISA "cosmic" kit to measure CXCL10 in cerebrospinal fluid of patients with HTLV - 1 - associated myelopathy. *Clinical & experimental neuroimmunology*, 2024; : 1-7.
- 17) Izumida Y, Omura T, Fujiwara M, Nukaya S, Yoneyama A, Shinichiro Y, Noguchi R, Nakayama S, Muraoka W, Okuno Y, Miyashita S, Ishihara Y, Moriwaki Y, Otani R, Adachi J, Tanabe K, Yamano Y, Takai Y, Honjo M. Patient-Centric Approach to Personalized Electronic Medical Records via QR code in Japan. *Interactive Journal of Medical Research*, 2024;13 : e57332.
- 18) Shiraishi M, Mikami K, Kamo H, Okuma Y, Tsunemi T, Fujimoto K, Kamo T, Yokota Y, Nogawa S, Osada T, Seki M, Nagayama H, Hatano T, Nakajima H, Suzuki K, Yamamoto T, Yamano Y, Hattori N, Iijima M. The effect of subjective postural vertical on forward flexed posture in Parkinson's disease. *Parkinsonism & related disorders*, 2024; : 129:107102.
- 19) Asigbee Theodore Worlanyo, Nakamura-Hoshi Midori, Kuse, Nozomi, Ishii Hiroshi, Ishikawa Koichi, Kawana-Tachikawa Ai, Horibe Erika, Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa, Uchimaru Kaoru, Matano Tetsuro.. Virus-host immune interaction in HTLV-1 carriers. *Microbiology Spectrum*, 2025;13(3) : e0250724.
- 20) Da Silva SJ, Cabral-Castro MJ, Faria LC, Rosadas C, de Araújo MFL, Dutra ACS, Yamano Y, Taylor G, Puccioni-Sohler M. CXCL-10 in Cerebrospinal Fluid Detects Neuroinflammation in HTLV-1-Associated Myelopathy with High Accuracy. *Viruses*, 2025;17(1) : 89.
- 21) Jimbo Koji, Nojima Masanori, Toriuchi Keiko, Yamagishi Makoto, Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa, Uchimaru Kaoru, Nannya Yasuhito.. Long-term kinetics of proviral load in HTLV-1 carriers: defining risk for the development of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Biomarker research*, 2025;13(1) : 34.
- 22) Fuji Shigeo, Tokunaga Masahito, Utsunomiya Atae, Makiyama Junya, Suehiro Youko, Koh Ki-Ryang, Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa, Uchimaru Kaoru.. Improving outcome prediction in indolent ATL by subdividing

intermediate risk into low-and high-intermediate groups. *Annals of hematology*, 2025;104 : 2429-2436.

- 23) Hagiwara U, Ito H, Fukano T, Shimizu T, Uchida M, Yamano Y. Utility of carotid ultrasound using microvascular flow imaging for detecting in-stent plaque protrusion after carotid artery stenting. *Clinical neurology and neurosurgery*, 2025;(251) : 108844.
- 24) Writing Committee for the PERSIST Collaborators; Khan F, Yogendrakumar V, Lun R, Ganesh A, Barber PA, Lioutas VA, Vinding NE, Algra A, Weimar C, Ögren J, Edwards JD, Swartz RH, Ois A, Giralt-Steinhauer E, Khanevski AN, Leng X, Tian X, Leung TW, Park HK, Bae HJ, Kamouchi M, Ago T, Verburgt E, Verhoeven J, de Leeuw FE, Berghout BP, Ikram MK, Kostev K, Whiteley W, Uehara T, Minematsu K, Ildstad F, Fandler-Höfler S, Aarnio K, von Sarnowski B, Foschi M, Jing J, Baik M, Kim YD, Spampinato MD, Hasegawa Y, Perera K, Purroy F, Dutta D, Yang X, Lippert J, Myers L, Bravata DM, Santos M, Coveney S, Garcia-Esperon C, Levi CR, Lorenzetti DL, Vatanpour S, Wang Y, Albers GW, Lavalley P, Amarenco P, Coutts SB, Hill MD. Long-Term Risk of Stroke After Transient Ischemic Attack or Minor Stroke: A Systematic Review and Meta-Analysis. *JAMA*, 2025; : in press.
- 25) Sugata Kenji, Mitsuyoshi Takatori, Omnia Reda, Tan Benjy Jek Yang, Tokunaga Masahito, Sato Tomoo, Ueda Mitsuharu, Yamano Yoshihisa, Utsunomiya Atae, Satou Yorifumi.. Effect of Viral antigen mismatch affects antiviral T-cell response and may impair immunotherapeutic efficacy against adult T-cell leukemia/lymphoma. *The Journal of infectious diseases*, 2025;231(3) : 816-821.

② 総説又は症例解説

- 1) Shoji H, Yamano Y. The history of the Japanese Society for Neuro-infectious Diseases: Foundation, objectives, and legacy. *Intractable & rare diseases research*, 2024;13(2) : 129-132.
- 2) Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa.. Human T-cell leukemia virus type 1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis and multiple sclerosis: Viral strategies and their implications. *Clinical & Experimental Neuroimmunology*, 2025;16(2) : 149-160.

③ 症例報告

- 1) Kaburagi K, Hagiwara Y, Tachikawa K, Miyake N, Akiyama H, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Yamano Y, Shimizu T, Mitsuhashi S.. A novel NODAL variant in a young embolic stroke patient with visceral heterotaxy. *BMC Neurology*, 2024;24(1) : 119.
- 2) Imai T, Mitsuhashi S, Isahaya K, Shibata S, Kawai Y, Omae Y, Yamano Y. Wilson disease (novel ATP7B variants) with concomitant FLNC-related cardiomyopathy. *Human genome variation*, 2024;11(1) : 34.
- 3) Iijima N, Sakurai K, Ko R, Isahaya K, Yamano Y. Successful Treatment with Plasmapheresis of Severe Bickerstaff Brainstem Encephalitis with High Cerebrospinal Fluid CXCL-10 Levels Following COVID-19 Infection: A Case Report. *Clinical & experimental neuroimmunology*, 2024;16(1) : 30-34.
- 4) Akiyama H, Hasegawa Y, Yamano Y. Successful treatment with traditional Japanese medicine (kampo medicine) Yokukansan as a migraine prophylactic drug: A case report. *Medicine (Baltimore)*, 2024;103(30) : e39072.
- 5) Kitano Fumiya, Marui Yuhji, Sakurai Kenzo, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu, Kojima Shigeki. Use of the superficialized brachial artery as vascular access for a patient with myasthenia gravis with a frequent need for plasmapheresis: a case report. *Internal Medicine*, 2024;63(16) : 2307-2310.
- 6) Kawaguchi K, Onodera H, Ueda T, Takkaishi S, Usuki N, Tatsuno K, Kaburagi K, Murata H. A case of cavernous sinus fistula caused by ruptured spontaneous aneurysm on persistent primitive trigeminal artery. *NMC Case*

学会発表

① 国内学会

- 1) 山本良史, 上村直哉, 三宅茂太, 天野悠, 甘利和光, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 田中章景, 城倉健. 脳底動脈閉塞に対する contact aspiration は機能転帰良好に寄与する: KNET 研究サブ解析. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 2) 櫻井謙三. みえないものを可視化する ～MS におけるデジタルバイオマーカーの可能性～. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 3) 三橋里美. 脊髄関連疾患のゲノム解析. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 4) 宮内元樹, 萩原悠太. めまいと失神を頸部血管エコーを用いて病態生理から考える. 日本超音波医学会第 97 回学術集会, 2024.
- 5) 萩原悠太. 経口腔頸動脈超音波検査. 日本超音波医学会第 97 回学術集会, 2024.
- 6) 白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 大熊泰之, 常深泰司, 横田優樹, 藤本健一, 長田高志, 関守信, 波多野琢, 野川茂, 永山 寛, 中嶋秀人, 鈴木圭輔, 山元敏正, 山野嘉久, 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病における主幹的垂直位を用いた前屈姿勢の予後予測と薬物投与状況. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 7) 秋山久尚, 山野嘉久. Long COVID headache の臨床的特徴の検討. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 8) 中林豊彦, 山野嘉久, 秋山久尚, 清水高弘, 伊佐早健司, 鈴木祐, 鬼頭あや, 大嶋祐紀, 小野順也, 角田由美子, 栃本しのぶ, 山下雄輔. SCU 摂食嚥下・経管栄養プロトコルの導入. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 9) 萩原悠太. 新たな角度からアプローチ! 一歩先の頭頸部血管エコー. 日本超音波医学会第 97 回学術集会, 2024.
- 10) 萩原悠太. 経口腔頸動脈超音波検査ライブデモンストレーション. 日本超音波学会第 97 回学術集会, 2024.
- 11) 佐々木うらら, 菊池崇之, 柴田宗一郎, 太刀川慶史, 水上平祐, 三橋里美, 山野嘉久. パーキンソニズムを呈する SCA6 のロングリード・シークエンス解析. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 12) 溝口希生, 伊佐早健司, 加賀保行, 星野俊, 鈴木祐, 深野崇之, 清水高弘, 秋山久尚, 山野 嘉久. 電子カルテテキストデータ解析による院内発症脳梗塞予測の探索的研究. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 13) 秋山久尚. 「片頭痛の病態は三叉神経血管説に矛盾しない」No の立場. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 14) 伊佐早健司, 櫻井謙三, 今井健, 日野栄絵, 鍋木真弓, 太刀川慶史, 高桑由希子, 川畑仁人, 山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症による末梢神経障害症例の診断遅延要因. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 15) 櫻井謙三. Next to MG 診療 ～目指すべき新世界がみえた!～. 第 244 回日本神経学会九州地方会, 2024.
- 16) 櫻井謙三. 難治性 MG に対する最新のトピックスと補体 C5 阻害薬. 第 115 回日本神経学会中国・四国地方会 第 32 回日本神経学会中国・四国地区生涯教育講演会, 2024.
- 17) 榛沢和彦, 三橋里美, 中島孝. 深層学習による HITS 波形予測の可能性について. JAN&Embolus 2024, 2024.
- 18) 榛沢和彦, 三橋里美, 中島孝. 心血管病外来患者の頸動脈 HITS 検査結果. JAN&Embolus 2024, 2024.
- 19) 市川剛大, 清水高弘, 萩原悠太, 深野崇之, 三橋里美, 秋山久尚, 山野嘉久. 両側椎骨動脈起始部閉塞を伴った Vertebral artery stump syndrome の一例. JAN&Embolus 2024, 2024.
- 20) 富谷美香, 秋元耕, 眞木二葉, 高橋良英. 心房細動カテーテルアブレーション後の内頸動脈血流速度の変化とそのタイミング. JAN&Embolus 2024, 2024.
- 21) 秋山久尚, 田邊康宏, 星野俊, 深野崇之, 柴田宗一郎, 清水高弘, 山野嘉久, 栗田慎吾, 明石嘉浩. 経皮的卵円孔開存閉

鎖術の有効性と安全性. JAN&Embolus 2024, 2024.

- 22) 伊佐早健司, 加藤高志郎, 小野晴香, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一朗, 山野嘉久. 著明な精神症状を呈した抗 NMDA 受容体脳炎の女性例. 第 18 回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 2024.
- 23) 堺結希, 角田由美子, 小橋章人, 岡本邦彦, 伊澤優, 小森初美, 大木玲奈, 宮田空夢, 大川菜々子, 北木杏奈, 中村美結, 白石眞, 鷹尾直誠, 山野嘉久. パーキンソン病患者の起立性低血圧に対する離床にむけた看護師主導による対応. 第 18 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 2024.
- 24) 伊佐早健司, 黄世捷, 中村祐太, 清水高弘, 山野嘉久. Google Classroom を活用したデュアルカンファレンスの実践 : ICT の”導入”から”統合”へ. 第 56 回日本医学教育学会大会, 2024.
- 25) 辰野健太郎, 鎗木圭, 柴田宗一郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 内田将司, 高石智, 伊藤英道, 植田敏浩. 機械的血栓回収療法にて回収された塞栓子から左房粘液腫を疑い, 治療が奏効した症例. 第 5 回日本脳神経内科血管治療研究会, 2024.
- 26) 白石眞. パーキンソン病に対するデバイス補助療法について. 第 29 回日本難病看護学会学術集会, 2024.
- 27) 櫻井謙三. 視神経脊髄炎関連疾患患者と向き合う ～治療から次のステージへ～. 第 29 回日本難病看護学会学術集会, 2024.
- 28) 金子航, 眞木二葉, 鎗木真弓, 日野栄絵, 山根貴裕, 金子淳太郎, 長谷川泰弘. 橋本病を合併した A 型胃炎によるビタミン B12 欠乏性 neuropathy を呈した 61 歳女性例. 第 250 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2024.
- 29) 川澤貴幸, 山野嘉久, 清水高弘, 伊佐早健司, 高梨世子. 脊髄の長大病変を来し、診断に苦慮した脊髄硬膜動脈瘤の一例. 第 250 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2024.
- 30) 太組一朗, 正高佑志, 岸泰宏, 松本俊彦, 山野嘉久, 山本仁, 平良万有実, 鰐淵昌彦, 川上浩司, 秋田定伯, 三上礼子, 長田優香, 饒波正博, 野崎千尋, 秋野公造. カンナビノイドの医療監視. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 31) 赤松伸太郎. YES-Japan 企画 多職種エキスパートと学ぶ：明日から役立つ実践てんかん診療. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 32) 伊佐早健司, 日野栄絵, 鎗木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一朗, 須賀裕樹, 山野嘉久. 発症後 4 ヶ月の血液浄化療法で効果を認めた cNORSE の 19 歳男性例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 33) 赤松伸太郎, 伊佐早健司, 日野栄絵, 鎗木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 松森隆史, 太組一朗, 高橋幸利, 山野嘉久. 痙攣重積、認知症にて発症したラスムッセン症候群の 63 歳男性例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 34) 山徳雅人, 萩原悠太, 長谷川大輔, 桑島規夫, 上倉緑, 山野嘉久, 佐々木信幸. 今日からできる治療と仕事の両立支援. 第 13 回日本認知症予防学会学術集会, 2024.
- 35) 伊佐早健司, 櫻井謙三, 今井健, 日野栄絵, 鎗木真弓, 太刀川慶史, 高桑由希子, 川畑仁人, 山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症による末梢神経障害症例の診断遅延要因に関する解析. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 36) 芦川有美, 櫻井謙三, 鎗木圭, 大島久美, 佐野文明, 山野嘉久. 視神経脊髄炎スペクトラム障害に対してサトラリズマブ導入後に成人 T 細胞性白血病を発症した一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 37) 高梨世子, 今井健, 櫻井謙三, 山野嘉久. 美容外科手術後に重症筋無力症様の症状を呈したヒトアジュバント病の一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 38) 蛭田興明, 小林泰之, 八木下尚子, 佐藤知雄, 鷹尾直誠, 白石眞, 秋山久尚, 秋場正博, 山野嘉久. 眼底 OCT データを活用した機械学習モデルによる HAM の診断補助への可能性. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 39) 山野嘉久. HAM 診療におけるバイオマーカーの最新トピックス. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 40) 今岡陽一郎, 櫻井謙三, 小嶺友香利, 中野瑤子, 今井健, 山野嘉久. COVID-19mRA ワクチン後の難治性神経根炎に対してリツキシマブが奏効した Sjögren 症候群合併の一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.

- 41) 萩原悠太. 特殊な手法の超音波で頸動脈病変を露わにする. 日本超音波医学会 第36回関東甲信越地方会学術集会, 2024.
- 42) 櫻井謙三, 鐺木圭, 中野瑤子, 山野嘉久. 多発性硬化症患者の「見えない症状」に対する Personal Health Records (PHRs) を用いた評価の試み. 第36回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 43) 渡邊充, 櫻井謙三, 鶴沢頭之, 高橋正紀, 鈴木重明, 奥田昌樹, Benjamin Yungher, 山本尚功, 矢島利高, 槍澤公明, 村井弘之. ラズリズマブの全身型重症筋無力症に関する特定使用成績調査. 第36回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 44) 赤松伸太郎, 伊佐早健司, 高梨世子, 日野栄絵, 川澤貴幸, 櫻井博品, 土屋敦史, 西野一三, 山野嘉久. 首下がり、体幹部優位の筋力低下を認め、免疫グロブリン大量療法が奏効したシェーグレン症候群合併筋炎の一例. 第36回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 45) 大木玲奈, 櫻井謙三, 鐺木圭, 山野嘉久, 小橋彰人. 重症筋無力症患者に対する看護師介入方法の検討ー主観的 QOL に関する実態調査からー. 第36回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 46) 秋山久尚. 頭痛診察における遠隔医療（オンライン診療）. 日本神経学会 第8回特別教育研修会, 2024.
- 47) 尾堀佐知子, 小野結佳, 荻原真帆, 朱丞華, 小澤南, 三橋里美, 三宅紀子, 右田王介, 山野嘉久. A case of CDKL5 deficiency disorder diagnosed by whole genome sequencing. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024.
- 48) 櫻井謙三. ヒフデュラで切り開く MG 治療の未来. 第28回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2024.
- 49) 秋山久尚. 帯状疱疹ウイルスによる脳血管障害. 第28回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2024.
- 50) 菊池崇之, 福武滋, 田川朝子. 来院時の髄液所見が正常だった肺炎球菌性髄膜炎の38歳女性例. 第28回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2024.
- 51) 山野嘉久. HTLV-1 の病態と感染予防. 第28回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2024.
- 52) 櫻井謙三. 分子標的治療薬時代における免疫性神経疾患に対するアフェレンシスの位置づけ. 第45回日本アフェレンシス学会学術大会, 2024.
- 53) 伊佐早健司, 櫻井謙三, 今井健, 鐺木圭, 高梨世子, 赤松伸太郎, 廣瀬文吾, 津田笑子, 山内理香, 阿部達哉, 柳澤俊之, 今井富裕, 山野嘉久. 単繊維筋電図導入のピットフォールを考える. 第54回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.
- 54) 宮田潤, 山梨啓友, 野中文陽, 有馬和彦, 玉井慎美, 柳原克紀, 吉浦孝一郎, 青柳潔, 川上純, 山野嘉久, 前田隆浩. HTLV-1 感染と薬物療法を要する甲状腺疾患との関連の検討: Nagasaki Islands Study. 日本臨床疫学会 第7回年次学術大会, 2024.
- 55) 櫻井謙三. NMOSD 診療の新時代 ～そしてその先へ～. 第42回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 56) 堀部恵梨佳, 相良康子, 佐藤知雄, 八木下尚子, 内丸薫, 渡邊俊樹, 山野嘉久. JSPFAD レジストリにおける症例・検体登録数の現状. 第10回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 57) 相良康子, 中村仁美, 志津田恵津子, 相良康弘, 内丸薫, 山野嘉久, 渡邊俊樹, 三浦清徳, 松崎浩史. 血中ビタミン D レベルと HTLV-1 関連疾患発症の関係. 第10回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 58) 三上恭平, 白石眞, 吉本光成, 加茂力. パーキンソン病患者の体幹側屈姿勢に対する骨盤の側方変位の影響. 第42回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 59) 伊佐早健司, 日野栄絵, 今井健, 荒賀崇, 太刀川慶史, 櫻井謙三, 山野嘉久. 慢性炎症性脱髄性多発神経根炎 (CIDP) に対するシクロフォスファミドパルス療法の検討. 第42回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 60) 櫻井謙三, 鐺木圭, 鷹尾直誠, 中野瑤子, 今井健, 伊佐早健司, 山野嘉久. NMOSD における分子標的薬の変薬に関する調査. 第42回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 61) 山野嘉久. 希少難病のドラッグラグ・ドラッグロスの解決に資する基盤を目指して ～難病プラットフォームについて～. 第42回日本神経治療学会学術集会, 2024.

- 62) 佐藤知雄. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) のバイオマーカー開発: CXCL10 を中心に. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 63) 神保光児, 野島正寛, 島内恵子, 山岸誠, 山野嘉久, 内丸薫, 南谷泰仁. HTLV-1 キャリアの長期プロウイルス量動態モデルを用いた ATL 発症危険度の推定. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 64) 菅田 謙治、タン ジェックヤン、新村 光輝、高鳥 光徳、徳永 雅仁、中島 誠、佐藤 知雄、植田 光晴、宇都宮 與、山野 嘉久、佐藤 賢文.. HAM 患者脳脊髄液での特異的 CD8T 細胞の遺伝子発現と TCR avidity の解析. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 65) 荒谷聡子、佐藤知雄、中島誠、新谷奈津美、八木下尚子、MartinFrith、三橋里美、山野嘉久.. ロングリードシーケンサーを用いた包括的 HTLV-1 プロウイルスゲノム解析法の構築. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 66) 山野嘉久. HAM の病態理解に基づく新たな治療薬の展望. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 67) 菅田謙治, ラマン アキヌール, 新村光輝, 上野孝治, 山野嘉久, 田中勇悦, 徳永雅仁, 宇都宮與, 大隈和, 小野昌弘, 佐藤賢文. HTLV-1 潜伏感染を規定するプロウイルス内サイレンサー領域の同定. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 68) 秋山久尚, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 清水高弘, 山野嘉久. 塞栓源不明脳梗塞におけるウェアラブル心電計測定システム hitoe の有用性について. 第 42 回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 69) 宮田潤, 山梨啓友, 野中文陽, 有馬和彦, 玉井慎美, 嵩義則, 林田直美, 柳原克紀, 吉浦孝一郎, 北岡隆, 青柳潔, 川上純, 山野嘉久, 前田隆浩. HTLV-1 キャリアにおけるチアマゾール内服とぶどう膜炎との関連: Nagasaki Islands Study. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 70) 新谷奈津美、山岸誠、中島誠、荒谷聡子、堀部恵梨佳、八木下尚子、内丸薫、佐藤知雄、山野嘉久.. HAM 神経障害因子 RGMa の HTLV-1 による発現制御機構の解析. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 71) 佐藤知雄. HTLV-1 キャリア診療ガイドライン. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 72) 中島誠、荒谷聡子、菅田謙治、新谷奈津美、八木下尚子、佐藤知雄、佐藤賢文、山野嘉久.. HAM 患者脳脊髄液細胞のシングルセルトランスクリプトームによる感染細胞特異的分子標的の探索. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 73) 中嶋伸介, 竹之内徳博, 日野正基, 山野嘉久, 山岸誠, 上野孝治, 大高時文, 内丸薫, 藤澤順一, 大隅和. 末梢血の CD4⁺ T 細胞に発現する TFR は HAM の疾患活動マーカーである. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 74) 秋山久尚. 片頭痛における漢方薬治療の有効性. 第 32 回日本脳神経漢方医学会学術集会, 2024.
- 75) 高石智, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 臼杵乃理子, 辰野健太郎, 深野崇之, 伊藤英道, 内田将司. 急性期再開通療法における肺炎死亡例と脳卒中死亡例の拌啓因子の比較: K-NET 登録研究サブ解析. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 76) 久代裕一郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 高石智, 小野寺英孝, 伊藤英道, 村田英俊. 脳血栓回収療法日におけるデバイスの選択と転機について: K-NET 登録研究サブ解析. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 77) 辰野健太郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 伊藤英道, 高石智. K-NET Registry データを用いた血栓回収療法の転帰予測モデルの作成. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 78) 内田将司, 伊藤英道, 久代裕一郎, 高石智, 臼杵乃理子, 深野崇之, 辰野健太郎, 植田敏浩, 村田英俊. 当院における脳腫瘍塞栓術 -デバイスの進歩と主義の変革-. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 79) 内田将司, 伊藤英道, 久代裕一郎, 高石智, 臼杵乃理子, 深野崇之, 辰野健太郎, 植田敏浩, 村田英俊. 腫瘍塞栓術 塞栓物質と手技の変革. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 80) 鈴木あゆみ, 秋山久尚, 花岡黎, 鍋木圭, 櫻井謙三, 山野嘉久. Primary position upbeat nystagmus を認めた wernicke 脳症の 1 例. 第 62 回日本神経眼科学会総会, 2024.

- 81) 秋山久尚, 鷹尾直誠, 白石眞, 山野嘉久, 蛭田興明, 八木下尚子, 小林泰之. 片頭痛患者における光干渉断層系 (OCT) を用いた網膜厚の検討. 第 62 回日本神経眼科学会総会, 2024.
- 82) 秋山久尚. 差明を来す神経疾患の病態と治療. 第 62 回日本神経眼科学会総会, 2024.
- 83) 山野嘉久. HAM ならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂. HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2025.
- 84) 山野嘉久. HAM・HTLV-1 陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出. HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2025.
- 85) 山口こと葉, 鐺木圭, 市川剛大, 赤松伸太郎, 柴田宗一郎, 伊佐早健司, 櫻井謙三, 山野嘉久. 全脊髄にわたる後索優位の長大病変を呈した 72 歳男性例. 第 252 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2025.
- 86) 犬諒子, 三輪佳織, 古賀政利, 薬師寺祐介, 田中寛大, 吉村壮平, 佐々木真理, 工藤與亮, 塩澤真之, 井手俊宏, 岡田 靖, 長谷川泰弘, 寺崎修司, 猪原匡史, 平野照之, 豊田一則. 抗血栓療法における脳表ヘモジペリン沈着と虚血および出血リスクの関連. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 87) 山本良央, 上村直哉, 天野悠, 甘利和光, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 寺田友昭, 城倉健. 発症時間不明例に対する t-PA 投与の効果と安全性 —K-NET レジストリを用いた傾向スコアマッチング解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 88) 辰野健太郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳主幹動脈閉塞における血栓回収療法の転帰予測モデルの開発と年齢の影響の分析: K-NET Registry サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 89) 秋山久尚, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 清水高弘, 山野嘉久, 田邊康宏, 栗田真吾, 明石嘉浩. 血管内視鏡を用いた経皮的卵円孔開存閉鎖術の有効性と術後抗血栓薬の中止時期の検討. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 90) 菊野宗明, 上野祐司, 立石洋平, 栗城綾子, 土井尻遼介, 清水高弘, 竹川英宏, 金丸晃大, 島田佳明, 山口枝里子, 古賀政利, 神谷雄己, 猪原匡史, 辻野彰, 平田幸一, 長谷川泰弘, 相澤仁志, 赫寛雄, 服部信孝, 卜部貴夫. Atherogenic dyslipidemia は潜因性脳梗塞における大動脈複合粥腫に関連する: CHALLENGE ESUS/CS Registry. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 91) 臼杵乃理子, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 辰野健太郎, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 血栓回収療法時代における tPA 静注単独療法の治療成績: K-NET registry サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 92) 内田将司, 伊藤英道, 久代裕一郎, 高石智, 臼杵乃理子, 深野崇之, 辰野健太郎, 植田敏浩, 村田英俊. 出血発症 eloquent area AVM に対する塞栓術の検討-selective 誘発テスト. 第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 93) 永沼秀崇, 清水高弘, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 三橋里美, 日野栄絵, 星野俊, 栗田千尋, 秋山久尚, 山野嘉久. 当院における脳静脈血栓症の臨床的特徴に関する後方視的解析. 第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 94) 高梨世子, 秋山久尚, 鈴木あゆみ, 小野晴香, 今岡陽一郎, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 清水高弘, 山野嘉久. 潜在性心房細動の検出に対するウェアラブル心電計測定システム hitoe の有用性/装着性についての検討. 第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 95) 山口こと葉, 高石智, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 清水高弘, 秋山久尚, 山野嘉久. 急性期脳梗塞における病院受診遅延に関連する因子の検討. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.

- 96) 上村直哉, 天野悠, 山本良央, 甘利和光, 大塩恒太郎, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純, 田中章景, 城倉健. 穿刺-ガイディング留置とガイディング留置-再開通時間が血栓回収療法転帰に与える影響: K-NET サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 97) 伊佐早健司, 加賀保行, 清水高弘, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 辰野健太郎, 植田敏浩, 秋山久尚, 山野嘉久. 電子カルテ抽出入院時情報による院内発症脳梗塞発症予測. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 98) 小野晴香, 辰野健太郎, 清水高弘, 矢崎想来, 久代裕一郎, 鎗木圭, 柴田宗一郎, 深野崇之, 高石智, 臼杵乃理子, 秋山久尚, 山野嘉久. 機械的血栓回収療法を組み合わせた的確な治療が奏功した若年者脳静脈洞血栓症の 2 例. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 99) 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務浩, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳血栓回収療法の初期画像診断として CT と MRI はどちらが有用か: K-NET 登録研究サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 100) 久代裕一郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳血栓回収療法における治療手技の選択と転帰について: K-NET 登録研究サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 101) 植田敏浩, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃理子, 深野崇之, 伊藤英道, 内田将司, 久代裕一郎, 村田英俊, 山野嘉久. 症候性頭蓋内動脈狭窄症に対する PTA/stenting の治療成績と再狭窄に関連する因子の検討. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 102) 高石智, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 辰野健太郎, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳主幹動脈閉塞に対する脳血栓回収療法における死亡関連因子の検討: 肺炎死と脳卒中死の比較. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 103) 赤松伸太郎, 秋山久尚, 辰野健太郎, 深野崇之, 高石智, 臼杵乃理子, 清水高弘, 山野嘉久. 抗血小板薬使用の脳出血急性期における Max-ICH score の有用性について. 第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 104) Akamatsu S, Isahaya K, Hino S, Kaburagi M, Ko R, Kanazawa T, Matsumori T, Takumi I, Takahashi Y, Yamano Y. A case of Rasmussen encephalopathy developed by convulsion and dementia. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 105) 小澤南, 右田王介, 荻原真帆, 山野嘉久, 三宅紀子, 清水直樹. A case with neurodorsaloid lipofuscinosis type 8 that was difficult to diagnose despite multiple genetic tests. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.

② 国際学会

- 1) 山野嘉久. レトロウイルスによる脊髄の慢性炎症性疾患: HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態解明に基づく創薬への挑戦. International Conference on Immunity and Cognition: integration of multidisciplinary approaches in Neuroscience, Endocrinology, Metabolic biology and Osteoimmunology (IC2NEMO), 2025.
- 2) Mitsuhashi S, Ichikawa T, Hoshino M, Suzuki Y, Fukano T, Shimizu T, Akiyama H, Hanzawa K, Yamano Y. Point-of-care-testing of pharmacogenetic variants using a portable nanopore sequencer. European Society of Human Genetics 2024, 2024.
- 3) Sugata K, Tan BJY, Takanori M, Hossain MB, Rajib SA, Reda O, Tokunaga M, Nomura T, Masuda T, Nakashima M, Sato T, Ueda M, Utsunomiya A, Yamano Y, Satou Y. Integrated single cell analysis of HTLV-1 specific CD8 T cells in peripheral blood and cerebrospinal fluid from HAM/TSP patients. HTLV conference 2024, 2024.
- 4) Araya N, Yamagishi M, Nakashima M, Asahara N, Kiyohara K, Aratani S, Yagishita N, Sato T, Uchimaru K, Yamano Y. Virus-induced RGMa is a key mediator of Neuronal Damage and Therapeutic Target in HAM. HTLV conference 2024, 2024.

- 5) Sato T, Saito M, Yamano Y. ATL risk assessment using RAISING, a novel clonality analysis method for HTLV-1-infected cells. HTLV conference 2024, 2024.
- 6) Tachikawa K, Shimizu T, Imai T, Ko R, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Frith MC, Yamano Y, Mitsuhashi S. Cost-Effective Cas9-Mediated Targeted Sequencing of Spinocerebellar Ataxia Repeat Expansions. The European Human Genetics Conference 2024, 2024.
- 7) Rahman A, Sugata K, Niimura K, Monde K, Ueno T, Rajib SA, Sakhor W, Belal MH, Sithi SN, Jahan MI, Yamano Y, Tanaka Y, Tokunaga M, Utsunomiya A, Okuma K, Ono M, Satou Y. Intragenic silencer of HTLV-1 play a key role in retroviral latency by recruiting cellular transcription factors, RUNX1, GATA3 and ETS1. HTLV conference 2024, 2024.
- 8) Nakashima M, Nagai K, Takao N, Araya N, Kuze Y, Suzuki Y, Uchimaru K, Yamagishi M, Yamano Y. Integrated multi-omics analyses to explore a novel inflammatory-inducing factor in HAM/TSP. HTLV conference 2024, 2024.
- 9) Shiraishi M, Mikami K, Kamo H, Okuma Y, Tsunemi T, Fujimoto K, Kamo T, Yokota Y, Nogawa S, Osada T, Seki M, Nagayama H, Hatano T, Nakajima H, Suzuki K, Yamamoto T, Yamano Y, Hattori N, Iijima M. The effect of subjective postural vertical on forward flexed posture in Parkinson's disease. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders 2024, 2024.
- 10) Ueda Toshihiro, Takeuchi Masataka, Morimoto Masafumi, Tsuboi Yoshifumi, Yamamoto Ryoo, Kaku Shogo, Onodera Hidetaka, Tatsuno Kentaro, Takaishi Satoshi, Yamano Yoshihisa, the K-NET registry investigators. Characteristics and outcome of endovascular treatment for intracranial atherosclerotic occlusion: comparison with cardiogenic cerebral embolism in the K-NET registry. 17th World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN) Congress, 2024.
- 11) Sakurai K, Kaburagi K, Ko R, Nakano Y, Isahaya K, Yamano Y. Evaluation of "Invisible Symptoms" in Multiple Sclerosis Patients Using Personal Health Records (PHRs): A Pilot Study. 16th Congress of the Pan-Asian Committee for Treatment and Research in Multiple Sclerosis(PACTRIMS), 2024.
- 12) Tatsuno K, Ueda T, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Onodera H, Takaishi S, Usuki N, Hasegawa Y, Yamano Y. Development of an Outcome Prediction Model for Mechanical Thrombectomy in Large Vessel Occlusion and Analysis of the Impact of Age: A Subanalysis of the K-NET Registry. International Stroke Conference 2025, 2025.
- 13) Ueda Toshihiro, Takeuchi Masataka, Morimoto Masafumi, Tsuboi Yoshifumi, Yamamoto Ryoo, Kaku Shogo, Ito Hidemichi, Onodera Hidetaka, Tatsuno Kentaro, Takaishi Satoshi, Usuki Noriko, Murata Hidetoshi, Yamano Yoshihisa, the K-NET registry investigators. Comparative utility of CT and MRI in initial imaging for mechanical thrombectomy in patients with large vessel occlusion: sub-analysis of the K-NET registry in Japan. International Stroke Conference 2025, 2025.

③ その他

- 1) 秋山久尚. 脳神経内科医が考えるオンデキサの臨床的有用性. ondexxya Expert seminar, 2024.
- 2) 秋山久尚. 片頭痛急性期治療薬の新たな選択肢 ～どうする？レイボアの使い方～. REYVOW Area Web-Seminar, 2024.
- 3) 植田敏浩. K-NET 登録研究：事務局からの報告. 第7回神奈川脳血栓回収療法セミナー：KSNET2023, 2024.
- 4) 櫻井謙三. MG 治療戦略 2024～リスティーゴでどう変わる？. MG 治療セミナーin 北海道, 2024.
- 5) 秋山久尚. 攻めの片頭痛治療を極める！. Migraine Web Conference, 2024.

- 6) 櫻井謙三. MGにおける分子標的薬の使い分け ～ジルビスクの立ち位置と使用経験～. これからのMG治療を考える会, 2024.
- 7) 石井誠也. IL-6 阻害の有用性. Neurology Active Conference, 2024.
- 8) 秋山久尚. 脳卒中予防の観点から抗血栓療法の適正使用を再考する. ブレインハートセミナーin 川崎, 2024.
- 9) 秋山久尚. 片頭痛を斬る ～”頭痛からの解放”の方程式 AJOVY～. The 4th Specialist Forum in Kanagawa, 2024.
- 10) 櫻井謙三. 速習! 10分で掴むケーススタディセミナー ①. 希少疾患領域セミナー, 2024.
- 11) 櫻井謙三. 私のMS診療 2024 ～over or undertreatment～. 栃木MS診療連携ネットワークセミナー, 2024.
- 12) 櫻井謙三. 私のMS診療 ～あくまで主役は患者人生～. 阪神Neuroimmunology expert, 2024.
- 13) 櫻井謙三. 誰でも遭遇しうる重症筋無力症のいろは 重症筋無力症を見逃すな!. Dr.'s Prime Academia, 2024.
- 14) 櫻井謙三. これからの片頭痛治療をDesignする ～CGRP関連製剤を中心に～. Migraine Expert Seminar, 2024.
- 15) 秋山久尚. 片頭痛を斬る ～”頭痛からの解放”の方程式AJOVY～. Migraine Expert Seminar, 2024.
- 16) 櫻井謙三. 視神経炎早期診断の意義 ～眼科医が脳を守る～. 視神経炎医療連携講演会 in 青森, 2024.
- 17) 櫻井謙三. NMOSDガイドラインを読み解く ～目指すべき目標はどこ?～. NMOSD Seminar in 東三河, 2024.
- 18) 白石眞. ヴィアレブ®配合持続皮下注を適切に導入・継続するために. ヴィアレブ®Internet Live Seminar, 2024.
- 19) 櫻井謙三. 速習! 10分で掴むケーススタディセミナー②. 希少疾患領域セミナー, 2024.
- 20) 白石眞. DAT(device aided therapy)の使い分けについて. 千葉県柏市aPD講演会, 2024.
- 21) 櫻井謙三. タイサブリ症例から考える診療ガイドラインのポイント. MS One Summit, 2024.
- 22) 櫻井謙三. 分子標的薬中心のNMOSD診療 ～光と影を考える～. 茨城NMOSDセミナー, 2024.
- 23) 櫻井謙三. NMOSDガイドラインを読み解く ～目指すべき目標はどこ?～. Chugai Neuroscience Seminar in 西三河, 2024.
- 24) 辰野健太郎. 門外不出!?診断・治療が後手になったが患者に助けられたくも膜下出血の一例. 第1回 Medico`s HIRATA Neurologist Conference, 2024.
- 25) 櫻井謙三. ウィフガード/ヒフデュラの臨床経験. gMG Forum, 2024.
- 26) 櫻井謙三. MM5 mgの先へ～Stop the wave. MG エキスパートセミナー, 2024.
- 27) 山野嘉久. HAMと水平感染. 令和6年度 第1回HTLV-1三浦班会議, 2024.
- 28) 堀部 恵梨佳、渡邊俊樹、山野嘉久. JSPFADにおけるHTLV-1水平感染疑い例の解析. 令和6年度 第1回HTLV-1三浦班会議, 2024.
- 29) 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1の基礎知識Q&A HTLV-1キャリア診療ガイドライン2024別冊. 令和6年度 第1回HTLV-1三浦班会議, 2024.
- 30) 櫻井謙三. 最新のMG治療戦略. 第3回京阪若手神経免疫塾, 2024.
- 31) 櫻井謙三. MS診療の課題に向き合う. Innovating in MS Together Summit: Time is Brain, 2024.
- 32) 櫻井謙三. 分子標的薬中心のNMOSD診療 ～光と影を考える～. 信州NMOSD Web講演会, 2024.
- 33) 櫻井謙三. Beyond to Biologics ～目指すべき新世界がみえた!～. MG診療 Up Date Seminar, 2024.
- 34) 櫻井謙三. 抗FcRn製剤を用いた私のgMG治療. UCB社内研修会, 2024.
- 35) 山野嘉久. HAMに対する新たな治療法開発. ゲノム情報を基盤としたHTLV-1感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究2024年度第1回班会議, 2024.
- 36) 秋山久尚. 抗CGRP関連抗体製剤による片頭痛治療ロードマップ ～導入から卒業まで～. 第3回兵庫頭痛セミナー, 2024.
- 37) 鈴木あゆみ. 無疹性水痘帯状疱疹ウイルス髄膜脳炎の1例. 第93回内科合同勉強会, 2024.

- 38) 秋山久尚. いまからの人生を変える片頭痛予防療法 Emgality!. 神経疾患を考える会 ～てんかん・片頭痛～, 2024.
- 39) 櫻井謙三. NMOSD の初期治療 ～あなたの選択が患者を救う～. 若手脳神経内科の Skill Up Seminar, 2024.
- 40) 山野嘉久, 田中勇悦, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 中島誠, 堀部恵梨佳. 抗 HTLV-1 ヒトモノクローナル抗体の開発と臨床プロトコル作成に資する研究. 令和 6 年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 「経胎盤感染予防に資する次世代抗 HTLV-1 抗体医薬製剤開発研究」 令和 6 年度 第 1 回 水上班 研究班会議, 2024.
- 41) 山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識とキャリア妊産婦・患者への支援. 令和 6 年度山梨県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2024.
- 42) 萩原悠太. パーキンソン病の就労と慢性便秘症. 川崎市北部 慢性便秘症治療セミナー, 2024.
- 43) 櫻井謙三. TYS 早期治療介入と他 DMD より TYS 変薬した High Active2 例. TYS Forum 2024, 2024.
- 44) 白石眞. パーキンソン病は消化器疾患でもある!. Amitiza Monthly Lunch Seminar, 2024.
- 45) 櫻井謙三. Next to MG 診察 ～目指すべき新世界がみえた!～. gMG Expert Lecture in 中四国, 2024.
- 46) 櫻井謙三. NMOSD、その先へ ～分子標的薬がもたらすもの～. NMOSD Special Seminar, 2024.
- 47) 萩原悠太. 神経難病治療と就労の両立を目指す ～両立支援外来の重要性～. 多発性硬化症の両立支援を考える会, 2024.
- 48) 櫻井謙三. NMOSD、その先へ ～分子標的薬がもたらすもの～. B cell therapy seminar, 2024.
- 49) 櫻井謙三. 臨床医視線の MS 診察 ～できること、できないこと～. MS Expert Clinical Conference, 2024.
- 50) 櫻井謙三. シン MG 診察 ～使って分かったジルピスクとリステイーゴ～. リステイーゴ・ジルピスク発売講演会 in Aichi, 2024.
- 51) 萩原悠太. ～日常診療における頸動脈エコーの活用術～ 超音波専門医による実機でのライブセミナー. 開業医のための楽々頸動脈エコーセミナー, 2024.
- 52) 萩原悠太. 頸動脈エコーハンズオン講習会. 開業医のための楽々頸動脈エコーセミナー, 2024.
- 53) 白石眞. パーキンソン病の姿勢異常へのアプローチ. 神経科学と脳神経内科の未来に向かって from 首都圏, 2024.
- 54) 櫻井謙三. 重症筋無力症治療の新たな選択肢 ～抗 FcRn 抗体 リステイーゴ～. Recent advances in neurology, 2024.
- 55) 櫻井謙三. 高体重例でのウィフガードからの切り替え経験と、オンライン診療を活用した在宅自己投与導入例. gMC×FcRn ヒフデュラ®の gMG への使用経験, 2024.
- 56) 鷹尾直誠. PD を含む神経変性疾患関連. パーキンソン病診療 WEB セミナー, 2024.
- 57) 櫻井謙三. MG 治療の今 ～分子標的薬を使いこなす～. 神経免疫とてんかん WEB セミナー, 2024.
- 58) 櫻井謙三. 多発性硬化症のいろは. Dr's Academia, 2024.
- 59) 櫻井謙三. 視神経炎をどのように診断・治療するか? ～眼科医と脳神経内科医のコラボレーション～. Medixpost, 2024.
- 60) 櫻井謙三. NMOSD は大航海時代へ ～ひとつなぎの大秘宝を目指して～. 神経免疫疾患 Meet The Expert for Young, 2024.
- 61) 眞木二葉. ウエアリングオフ発症早期の運動症状に対する治療を考える ～L-dopa 治療の次の一手は?～. パーキンソン病治療カンファレンス ～運動症状に対する治療を考える～, 2024.
- 62) 櫻井謙三. NMOSD は大航海時代へ ～ひとつなぎの大秘宝を目指して～. 神経免疫疾患がよくわかる Web セミナー, 2024.
- 63) 櫻井謙三. NMOSD 診療 2024～昨日の常識が非常識に～. NMOSD Seminar in Shizuoka, 2024.
- 64) 櫻井謙三. 分子標的薬の使い分け 「リステイーゴ」「ジルピスク」への期待. つながる「声」 MG Web Seminar, 2024.
- 65) 櫻井謙三. 分子標的薬中心の NMOSD 診療 ～光と影を考える～. NMOSD PREMIUM WORKSHOP, 2024.
- 66) 高石智. 血栓回収のスタンダードと応用テクニック: High volume center 各施設の取り組み. 第 8 回神奈川脳血栓回収療法セミナー (KSNET2024), 2024.

- 67) 清水高弘. 脳血栓回収療法の川崎市の現状について. 第8回神奈川脳血栓回収療法セミナー (KSNET2024), 2024.
- 68) 辰野健太郎. 文献レビュー. 第8回神奈川脳血栓回収療法セミナー (KSNET2024), 2024.
- 69) 櫻井謙三. 再発0の表裏. NMOSD Webセミナー in 宮城, 2024.
- 70) 櫻井謙三. 補体抑制の臨床的意義 ～抗C5製剤の立ち位置を再考する～. 補体C5セミナーNiigata, 2024.
- 71) 櫻井謙三. N-MOMentum試験を紐解く. UPLIZNA SEMINAR, 2024.
- 72) 辰野健太郎. 当院でのM1治療戦略. Treatment strategies from the REACT AIS registry, 2024.
- 73) 宮内元樹, 萩原悠太. IMT・プラークだけではない頸動脈エコー評価. 日本超音波医学会 第36回関東甲信越地方会学術集会, 2024.
- 74) 秋山久尚. 片頭痛を斬る ～“頭痛からの解放”の方程式～. 地域でみまもる頭痛診療 up-date, 2024.
- 75) 鍋木圭. NMOSDにおける安全対策. Neurology Active Conference, 2024.
- 76) 櫻井謙三. MG治療最前線 ～リステイーゴを使いこなせ～. つながる「声」 MG Web Seminar, 2024.
- 77) 秋山久尚. この先に求められる片頭痛治療とは?! . Migraine Expert Web Conference, 2024.
- 78) 櫻井謙三. 聖マリアンナ医科大学におけるヒフデュラの臨床経験 ～ヒフデュラの可能性と在宅自己投与の導入例～. MG Forum, 2024.
- 79) 櫻井謙三. T2T4MG: Therapeutic inertiaをなくす. MG Premium Worksashop, 2024.
- 80) 櫻井謙三. NMOSD治療学 ～分子標的薬をどう使う?～. 若手脳神経内科医のためのNMOSDセミナー ～最新知見と臨床応用～, 2024.
- 81) 櫻井謙三. MG診療最前線 ～ジルビスクをつかいこなせ～. つながる「声」MG Web seminar, 2024.
- 82) 秋山久尚. 攻めの片頭痛予防療法を極める!. Migraine WEB Conference, 2024.
- 83) 櫻井謙三. NMOSD、その先へ ～分子標的薬がもたらすもの～. NMOSD ハイブリッドSeminar, 2024.
- 84) 櫻井謙三. 補体抑制の臨床的意義 ～抗C5製剤の立ち位置を再考する～. Neurology Conference, 2024.
- 85) 櫻井謙三. NMOSDは新時代へ ～オンライン診療は役立つか?～. NMOSD Hybrid Seminar In Tokachi, 2024.
- 86) 白石眞. パーキンソン病における姿勢異常、歩行障害について. Parkinson's Disease Meet the Expert Rasagiline Online Seminar, 2024.
- 87) 山野嘉久. 医師主導治験による医療イノベーションへの挑戦. 愛媛大学講義, 2024.
- 88) 白石眞. パーキンソン病患者のためのデバイス治療と病診連携の実践. 東葛南部医療圏aPD講演会, 2024.
- 89) 櫻井謙三. NMOSD治療戦略2024 ～サトラリズマブの守備位置は?～. NMOSD Webセミナー, 2024.
- 90) 秋山久尚. いまからの人生を変える片頭痛発症抑制療法 Emgality!. 茨城県頭痛ネットワーク講演会, 2024.
- 91) 鍋木圭. Satralizumab→Ravulizumab→Satralizumabの変遷を経験したNMOSD例. 関東 young neurologist seminar, 2024.
- 92) 櫻井謙三. NMOSD治療戦略2024 ～患者ニーズを意識して～. NMOSD Seminar 2024 in KAGAWA, 2024.
- 93) 櫻井謙三. 分子標的薬中心のNMOSD診療 ～光と影を考える～. 神経免疫セミナーNMOSD治療の実績, 2024.
- 94) 鍋木圭. 当院におけるジルビスクの使用経験. 重症筋無力症セミナー, 2024.
- 95) 櫻井謙三. MG治療におけるリステイーゴ®の使い方. 重症筋無力症セミナー, 2024.
- 96) 白石眞. パーキンソン病における姿勢異常の予測. 第8回 みなと・品川 神経セミナー, 2024.
- 97) 櫻井謙三. MS診療2025へ ～MS患者はどこを目指す?～. 岐阜西部神経免疫疾患勉強会, 2024.
- 98) 櫻井謙三. 分子標的薬導入はスタート地点 ～抗補体療法がもたらすもの～. Clinical MG Meeting ～MG治療における抗補体療法を考える～, 2024.
- 99) 櫻井謙三. 重症筋無力症の今 ～臨床医としてやるべきこと～. KYOWA KIRIN Neurology onlineセミナー, 2024.

- 100) 櫻井謙三. gMG 関連講演. Neurology Front Line Seminar, 2024.
- 101) 櫻井謙三. NMOSD 治療戦略 2024 の先へ. Shizuoka Neurology Seminar, 2024.
- 102) 白石眞. パーキンソン病の包括的治療に向けた院内連携とデバイス活用. 千葉県北部 aPD 講演会, 2024.
- 103) 櫻井謙三. とりあえず High Efficacy Therapy ～Yes or No～. 第 2 回神経免疫診療のリアルを若手と語る会, 2024.
- 104) 櫻井謙三. MM-5 mg の先へ ～Stop the wave～. Neurology Premium Seminar for MG, 2024.
- 105) 櫻井謙三. NMOSD 患者の未来を斬り開く ～サトラリズムマブを使いこなせ～. Neuroimmunology Collaboration meeting in MIE, 2024.
- 106) 櫻井謙三. 実臨床の現場から ～全国症例報告集～. C5 阻害剤「ジルビスク」特別月間フォーラム, 2024.
- 107) 山野嘉久. HAM の病態解明に基づく治療薬開発の可能性. ゲノム情報を基盤とした HTLV-1 感染症の病態形成機序の解明及び 発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究」 2024 年度第 2 回班会議, 2024.
- 108) 櫻井謙三. NMOSD の実診療～エンスプリングがもたらすもの～. NMOSD Meeting in GUNMA, 2024.
- 109) 櫻井謙三. 周術期を見据えた重症筋無力症治療の最適化. Medii Lecture, 2024.
- 110) 櫻井謙三. 補体抑制の臨床的意義 ～抗 C5 製剤の立ち位置を再考する～. Neurology Premium Seminar for NMOSD, 2024.
- 111) 中島誠, 永井香帆, 鷹尾直誠, 新谷奈津美, 久世裕太, 佐藤知雄, 鈴木穰, 内丸薫, 山岸誠, 山野嘉久. HAM におけるクロマチン構造異常を介した炎症促進機序の解明と分子標的治療法の開発. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 112) 鈴木佳子, 久世裕太, 儀武黎, 神保光児, 南谷泰仁, 鈴木穰, 山野嘉久, 内丸薫, 山岸誠. HTLV-1 感染者のゲノム異常の実態評価と ATL 発症リスク因子の検討. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 113) 佐藤賢文, 菅田謙治, 新村光輝, ベンジー タン ジェック ヤン, 中島誠, 佐藤知雄, 山野嘉久. HAM 患者脳脊髄液のシングルセル解析による HAM 病態解明研究. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 114) 三澤園子, 猪野毛朝飛, 水地智基, 浮田翔子, 佐藤泰憲, 小池春樹, 山野嘉久. POEMS 症候群の全国調査とレジストリ構築:リアルタイムなエビデンス創出とガイドラインへの反映. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 115) 佐藤知雄, 高梨世子, 高橋克典, 國友康夫, 田辺健一郎, 八木下尚子, 新谷奈津美, 中島誠, 堀部恵梨佳, 清水高弘, 山野嘉久. HAM 患者髄液における CXCL10 ELISA キットの性能評価. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 116) 櫻井謙三. MG 治療戦略 2025～近未来が現実～. Neurology Seminar in 静岡, 2025.
- 117) 秋山久尚. 塞栓源不明脳梗塞の診断を減らす新たな手法. 城南 Neuro Imaging セミナー, 2025.
- 118) 櫻井謙三. NMOSD 治療戦略 2025 ～再発ゼロ、補体病として考察する～. ユルトミリス® TV symposium, 2025.
- 119) 白石眞. 認知症診療における医療連携 ～当院の取り組みを含めて～. 2025 年神奈川県内科医学会 新春学術講演会, 2025.
- 120) 櫻井謙三. 聖マリアンナ医科大学におけるヒフデュラの臨床経験 ～ヒフデュラの可能性と在宅自己投与の導入例～. Efgartigimod Users Meeting, 2025.
- 121) 清水高弘. 急性期治療薬の最新のエビデンス ～ACUTE-PRAS からの知見～. Area Expert Salon ～脳卒中の急性期を考える～, 2025.
- 122) 櫻井謙三. NMOSD その先へ ～分子標的薬がもたらすもの. CNS セミナー in 山梨, 2025.

- 123) 櫻井謙三. MS 診療を一步先へ. Tokai Young Talent Meeting, 2025.
- 124) 山野嘉久. HAM と水平感染. 令和 6 年度第 2 回 HTLV-1 三浦班会議, 2025.
- 125) 堀部恵梨佳, 山野嘉久. JSPFAD における水平感染のリスク評価. 令和 6 年度第 2 回 HTLV-1 三浦班会議, 2025.
- 126) 山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和 6 年度 神奈川県性と健康の相談支援者研修, 2025.
- 127) 櫻井謙三. gMG に対するヒフデュラの臨床経験と在宅自己投与の導入例. 神経免疫セミナー -ヒフデュラの臨床経験/在宅治療への移行, 2025.
- 128) 伊佐早健司. CIDP に対するヒフデュラの有用性と期待. 神経免疫セミナー -ヒフデュラの臨床経験/在宅治療への移行, 2025.
- 129) 山野嘉久. 患者レジストリ研究による臨床情報解析. 令和 6 年度難治性疾患実用化研究事業 診療に直結するエビデンス創出研究分野 「患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究」 第三回班会議, 2025.
- 130) 山野嘉久, 田中勇悦. 抗 HTLV-1 ヒトモノクローナル抗体の開発と臨床プロトコル作成に資する研究. 令和 6 年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 「経胎盤感染予防に資する次世代抗 HTLV-1 抗体医薬製剤開発研究」 令和 6 年度 第 2 回 水上班 研究班会議, 2025.
- 131) 櫻井謙三. NMOSD 治療におけるユプリズナの位置づけ -安全性プロファイルと利便性から考える-. NMOSD SEMINAR in 関東, 2025.
- 132) 櫻井謙三. MG 治療戦略 2025 ～夢世界が現実～. これからの MG 診療を考える会, 2025.
- 133) 櫻井謙三. MG 治療戦略 2025 ～近未来が現実～. MG&Epilepsy Seminar, 2025.
- 134) 櫻井謙三. 2025 年の NMOSD 診療 ～さらなる先を目指して～. NMOSD Hybrid Seminar, 2025.
- 135) 櫻井謙三. MS の実臨床 2025 ～私はこうして治療する～. MSNC -Metro Special Neurologist Conference-, 2025.
- 136) 日向涼, 伊佐早健司, 日野栄絵, 鍋木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一郎, 山野嘉久. 発症後 4 ヶ月の免疫療法の強化で効果を認めた Cryptogenic New-Onset Refractory Status Epilepticus(cNORSE)の 19 歳男性例. 聖マリアンナ医科大学医学会第 87 回学術集会, 2025.
- 137) 櫻井謙三. 2025 年の NMOSD 診療 ～さらなる先を目指して～. 神経疾患セミナー, 2025.
- 138) 山野嘉久. 研究の全体像について. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.
- 139) 佐藤知雄. HAM 診療ガイドライン改訂版について. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.
- 140) 中島誠, 永澤慧, 吉田眞理, 今村聖実, 久保田学, 中村勝, 八木下尚子, 小池淳樹, 松田文彦, 鈴木穰, 山野嘉久. 空間遺伝子発現解析法に基づく HAM の神経障害機序の解析. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.
- 141) 櫻井謙三. NMOSD 診療 2025 ～声から深さを～. 「問診」で変わる脳神経内科診療, 2025.
- 142) 櫻井謙三. ジルビスクを武装せよ!. 明日からの MG 診療を考える Web セミナー, 2025.
- 143) 櫻井謙三. MS の診断と評価 ～できること・できないこと～. Clinical Conference ～MS とその類似疾患へのアプローチ～, 2025.
- 144) 白石眞. 認知症診療のパラダイムシフト. 脳とこころの科学を語る会, 2025.
- 145) 櫻井謙三. ヒフデュラで切り開く未来地図. Neurology Update web seminar, 2025.
- 146) 櫻井謙三. 重症筋無力症、将来を見据えた診療の実際. 日本血液製剤機構社内勉強会, 2025.
- 147) 櫻井謙三. MG 治療を次のステージへ: ヒフデュラが切り拓く在宅自己投与. 神経免疫セミナー -ヒフデュラの臨床経験/在宅治療への移行-, 2025.
- 148) 伊佐早健司. CIDP 治療の新時代: ヒフデュラの有用性と導入経験. 神経免疫セミナー -ヒフデュラの臨床経験/在宅治療への移行-, 2025.
- 149) 櫻井謙三. 聖マリアンナ医科大学病院の Bio スイッチデータ. 中外製薬社内勉強会, 2025.

- 150) 櫻井謙三. FeRn 製剤と C5 阻害薬の二刀流 ～ドライバーもアイアンも使いこなせ～. つながる重症筋無力症セミナー in 鹿児島, 2025.
- 151) 櫻井謙三. 重症筋無力症 abc ジルビスク®を用いた治療戦略. 明日の MG を考える, 2025.
- 152) 秋山久尚. いまからの人生を変える 片頭痛発症抑制療法 Engality!. 片頭痛治療 Web 講演会, 2025.
- 153) 櫻井謙三. NMOSD 治療の新たなフェーズ. NMOSD SEMINAR 再発予防の先を見据えて, 2025.
- 154) 櫻井謙三. 都市部でのオンライン診療 ～当院での状況から考察する～. 遠隔診療勉強会, 2025.
- 155) 白石眞. パーキンソン病の診断、治療の最前線 ～実例と文献から学ぶ～. 神経変性疾患 (ALS・PD) 診療 WEB セミナー, 2025.

		和 文	英 文
著 書		5	
論 文	原著	1	25
	解説又は総説	11	2
	症例報告	1	6
	その他	2	
学会発表	国内学会	103	2
	国際学会	1	12
	その他	155	

血液・腫瘍内科学

著書

- 1) 安井 寛 他. II-2 初診時検査 多発性骨髄腫の診断指針 2024 第6版 2024;:8-11.
- 2) 安井 寛, 今井浩三. フェリチン 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:139.
- 3) 今井浩三, 安井 寛. 血清アミロイドA蛋白【SAA】, α 1-酸性糖蛋白【AAG】《 α 1-アシドグリコプロテイン [α 1-AG]》, APR スコア 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:655.
- 4) 安井 寛, 今井浩三. NCC-ST-439, ヘモベキシン 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:658-659.
- 5) 今井浩三, 安井 寛. 組織ポリペプチド抗原 [TPA], 塩基性フェトプロテイン [BFP], CA19-9 (糖鎖抗原 19-9), DU-PAN-2・SPan-1 抗原, アポリポ蛋白 A2 アイソフォーム [APOA2 アイソフォーム] 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:664-668.
- 6) 安井 寛, 今井浩三. サイトケラチン 19 フラグメント《シフラ 21-1 [CYFRA21-1]》 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:671.
- 7) 安井 寛. ヒト精巣上体蛋白 4 [HE-4], CA125 (糖鎖抗原 125), TFPI2 (組織因子経路インヒビター2)《PP5 (胎盤蛋白質 5)》, シアリル Tn 抗原 [STN], CA72-4 (糖鎖抗原 72-4), ヒトパピローマウイルス DNA [HPV-DNA]《HPV 核酸検出》 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:681-686.
- 8) 安井 寛, 今井浩三. γ -Sm. (γ -セミノプロテイン) 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:693-694.
- 9) 安井 寛. サイトケラチン 18 フラグメント [CK-18F] 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:700.
- 10) 今井浩三, 安井 寛. SCC 抗原《扁平上皮癌関連抗原》, 神経特異エノラーゼ [NSE], CA15-3 (糖鎖抗原 15-3), BCA225, エストロゲンレセプター, プログステロンレセプター 臨床検査データブック 2025-2026 2025;:674-679.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 新井文子. ヒト難治性疾患の病因としての Epstein-Barr ウイルス. BIO Clinica, 2024;39(10) : 812-813.
- 2) 玉井勇人. EB ウイルスと造血器腫瘍. BIO Clinica, 2024;39(10) : 19-24.
- 3) 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病. NEUROINFECTION, 2024;29(1) : 8-13.
- 4) 上村 悠, 新井文子. 成人 Epstein-Barr ウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症に対する造血幹細胞移植. 血液内科, 2025;90(3) : 351-355.

② その他

- 1) 安井 寛, 渡邊俊樹. HTLV-1 バイオリソースの収集と提供支援. 生体の科学 (増大号) 特集「学術研究支援の最先端」, 2024;75(5) : 504-505.
- 2) 安井 寛. One Point Advice M 蛋白症・蛋白分画検査の勧め. 内科総合誌 Medical Practice, 2025;42(1) : 142.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Motomura Y, Yoshifuji K, Tachibana T, Takase H, Arai A, Tanaka K, Okada K, Nogami A, Umezawa Y, Sakashita C, Yamamoto M, Mori T, Nagao T, . Clinical factors for central nervous system progression and survival in primary vitreoretinal lymphoma. Br J Haematol, 2024;204(4) : 1279-1287.

- 2) Tomomasa D, Tanita K, Hiruma Y, Hoshino A, Kudo K, Azumi S, Shiota M, Yamaoka M, Eguchi K, Ishimura M, Tanaka Y, Iwatsuki K, Okuno K, Hama A, Sakamoto KI, Taga T, Goto K, Ota H, Ichiki A, Kanda K, Miyamura T, Endo S, Ohnishi H, Sasahara Y, Arai A, Fournier B, Imadome KI, Morio T, Latour S, Kanegane H. Highly sensitive detection of Epstein-Barr virus-infected cells by EBER flow FISH. *Int J Hematol*, 2024;doi:10.1007/s12185-024-024-03786--0.Epub ahead of print..
- 3) Kikuchi J, Hori M, Osada N, Matsuoka S, Suzuki A, Kakugawa S, Yasui H, Harada T, Tenshin H, Abe M, Nakasone H, Furukawa Y. Soluble SLAMF7 is generated by alternative splicing in multiple myeloma cells. *Haematologica*, 2024;doi:10.3324/(haematol.2024) : 285368.-Epub ahead of print.PMID:38867588..
- 4) Sagara Y, Nakamura H, Sagara Y, Shitsuta E, Uchimar K, Yamano Y, Watanabe T, Miura K, Matsuzaki K. Plasma vitamin D levels are correlated with the pathogenesis of human T-cell leukemia virus type 1-associated diseases. *Journal of medical virology*, 2024;96(9) : DOI-10.1002/jmv.29898..
- 5) Kamoi K, Uchimar K, Nannya Y, Tojo A, Watanabe T, Ohno-Matsui K. Sexual transmission of HTLV-1 resulting in uveitis with short-term latency and low proviral load. *Journal of medical virology*, 2024;96(10) : DOI-10.1002/jmv.70000.
- 6) Uemura Y, Yamamoto M, Ishimura M, Kanegane H, Sawada A, Hirakawa A, Imadome K, Yoshimori M, Nagata M, Yamamoto K, Shimizu N, Koike R, Arai A. JAK1/2 inhibitor ruxolitinib for the treatment of systemic chronic active Epstein-Barr virus disease: a phase 2 study. *Blood Neoplasia*, 2025;2(1) : 1-9 ISSN 2950-3280, doi.org/10.1016/j.bneo.2024.10053.
- 7) Osada N, Kikuchi J, Matsuoka S, Yasui H, Ikeda S, Takahashi N, Furukawa Y, Nakasone H. c-Fos confers stem-cell like features to multiple myeloma cells in a bone marrow microenvironment. *Cells*, 2025;14(7) : 474-https://doi.org/10.3390/cells14070474.
- 8) Yan W, Shi X, Zhao Y, Liu X, Jia X, Gao L, Yuan J, Liao A, Yasui H, Wang X, Wang X, Zhang R, Wang H. Microbiota-reprogrammed 1 phosphatidylcholine inactivates cytotoxic CD8 T cells through UFMylation via exosomal SerpinB9 in multiple myeloma. *Nat Commun*, 2025;16(1) : 2863-doi: 10.1038/s41467-025-57966-5..

学会発表

① 国内学会

- 1) 伏屋愛加, 西尾美和子, 山本正英, 森 毅彦, 平川晃弘, 佐々木誠治, 小池竜司, 新井文子. 全身性慢性活動性 EB ウイルス病成人例の臨床像と予後因子の解明 ～レジストリデータを用いた後方視的解析～. 第 121 回日本内科学会総会・講演会, 2024.
- 2) 内田三四郎, 大島久美, 鈴木 黎, 伏屋愛加, 上村 悠, 加藤雅之, 安井 寛, 佐野文明, 富田直人, 新井文子. 当院血液内科患者 152 名に対して投与したエバシエルド（チキサゲビマブ/シルガビマブ）の使用経験. 第 121 回日本内科学会総会・講演会, 2024.
- 3) 新井文子. 慢性活動性 Epstein-Barr Virus 病～病態解明と治療薬開発へのチャレンジ～. 第 127 回日本小児科学会学術集会, 2024.
- 4) 上村 悠, 安井 寛, 鈴木 黎, 伏屋愛加, 鈴木義則, 内田三四郎, 加藤雅之, 大島久美, 佐野文明, 富田直人, 新井文子. ドラツムマブ併用療法が有効であった I gMk 型変形質細胞白血病. 第 49 回日本骨髓腫学会学術集会, 2024.
- 5) 松岡紗恵, 長田直希, 小山裕雄, 吉田 稔, 梅原崇史, 渡邊千鶴, 安井 寛, 池田 翔, 仲宗根秀樹, 菊池次郎, 古川雄祐. t(4;14)陽性多発性骨髓腫に対する第一世代 MMSET 阻害剤の創出. 第 49 回日本骨髓腫学会学術集会, 2024.

- 6) 長田直希, 菊池次郎, 松岡紗恵, 安井 寛, 池田 翔, 高橋直人, 仲宗根秀樹, 古川雄祐. AP1 ファミリー転写因子は多剤耐性獲得を介して予後を悪化させる. 第 49 回日本骨髄腫学会学術集会, 2024.
- 7) 安井 寛, 平野啓二, 越智清純, 小林麻子, 李 麗華, 水守 理, 高橋拓也, アルテメンコ マルガリータ, 野田尚孝, 貞任大地, 原口京子, 今井浩三, 土岐典子, 柳田匡俊, 石垣知寛. CAR 濃縮の定量測定を用いた CAR-T 細胞の新しい免疫機能的評価の試み. 第 28 回日本がん免疫学会総会・第 37 回日本バイオセラピー学会学術集会総会合同大会, 2024.
- 8) 吉森真由美, 西尾美和子, 吉岡耕太郎, 前川友璃, 原 倫太郎, 横田隆徳, 鍋島竜介, 新井文子. EB ウイルス陽性 T/NK 細胞リンパ増殖性疾患に対するウイルス性由来マイクロ RNA を標的とした核酸医薬の効果. 日本核酸医薬学会第 9 回年会, 2024.
- 9) 脇坂朱遥, 鈴木 黎, 伏屋愛加, 上村 悠, 鈴木義則, 加藤雅之, 大島久美, 佐野文明, 富田直人, 新井文子. 化学療法開始 12 週後に消化管穿孔を来したびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫. 第 21 回日本血液学会関東甲信越地方会, 2024.
- 10) 安井 寛, 平野啓二, 越智清純, 小林麻子, 李 麗華, 水守 理, 高橋拓也, アルテメンコ マルガリータ, 野田尚孝, 貞任大地, 原口京子, 今井浩三, 土岐典子, 柳田匡俊, 石垣知寛. 新規 CAR-T 細胞機能評価法の構築. 第 83 回日本癌学会学術総会, 2024.
- 11) 芦川有美, 櫻井謙三, 楠木圭, 大島久美, 佐野文明, 山野嘉久. 視神経脊髄炎スペクトラム障害に対してサトラリズマブ導入後に成人 T 細胞性白血病を発症した一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 12) 松岡紗恵, 長田直希, 池田翔, 高橋直人, 安井 寛, 古川雄祐, 菊池次郎, 仲宗根秀樹. SETD7 は t(11;14) 陽性多発性骨髄腫に対する新たな治療標的分子となる. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 13) 菊池次郎, 長田直希, 松岡紗恵, 太田智美, 増田喬子, 風間啓敬, 白井丙五郎, Meloni Marco, Chiron Marielle, 安井 寛, 仲宗根秀樹, 古川雄祐. 1q 増幅陽性骨髄腫細胞において FOXM1 はイサツキシマブによる直接的細胞死の標的分子である. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 14) 石垣知寛, 平野啓二, 土岐典子, 柳田匡俊, 安井 寛. 分子イメージングサイトメトリーを用いた CAR-T 細胞の免疫反応性評価法の確立. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 15) 長田直希, 松岡紗恵, 池田翔, 高橋直人, 安井 寛, 古川雄祐, 菊池次郎, 仲宗根秀樹. LINC00887 は HDAC3 との結合を介して多発性骨髄腫細胞の薬剤耐性を誘導する. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 16) 勝屋弘雄, Belal MD Hossain, 前田綾, Benjy Tan, Jec Yang, 徳永雅仁, 渡邊俊樹, 内丸薫, 宇都宮與, 木村晋也. HTLV-1-ヒトゲノムのキメラトランスクリプトはウイルスが組み込まれた宿主遺伝子発現を亢進する. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 17) 吉森真由美, 西尾美和子, 吉岡耕太郎, 前川友璃, 原倫太郎, 横田隆徳, 鍋島竜介, 新井文子. EBV 由来マイクロ RNA を標的とした核酸医薬の EBV 関連 T/NK リンパ増殖性疾患に対する効果. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 18) 福田笑夏, 吉森真由美, 南川愛莉, 水谷咲, 新井文子, 西尾美和子. 慢性活動性 EB ウイルス病患者由来 iPS 細胞から分化誘導した単球の特性解析. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 19) 西尾美和子, 緒方勇亮, 吉森真由美, 伏屋愛加, 大橋彩香, 須田互, 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病 (sCAEBV) における腸内細菌叢のメタゲノム解析. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 20) 大橋晃太, 山田真弓, 神山祐太郎, 大島久美, 新井文子. 在宅輸血対応クリニックとの診診連携による、地域での輸血実施体制の構築に関する検討. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.
- 21) 堀江良一, 渡邊真理子, 長尾和右, 大津真, 宮崎浩二, 渡邊俊樹. CD30 による Hodgkin リンパ腫と成人 T 細胞白血病/リンパ腫における多核細胞形成と染色体不安定化. 第 86 回日本血液学会学術集会, 2024.

- 22) 田部亜季、高橋良明、由井杏奈、中木戸誠、那須智博、内丸薫、立川愛、俣野哲朗、水上拓郎、渡邊俊樹、津本浩平、中野和民. 成人T細胞白血病/リンパ腫(ATL)を標的とする抗CADM1抗体薬物複合体の開発. 第86回日本血液学会学術集会, 2024.
- 23) 上村 悠, 西尾美和子, 下牧瑠那, 吉森真由美, 大橋彩香, 伏屋愛加, 宮部斉重, 新井文子. 全身性慢性活動性EBウイルス病の診断と治療効果判定におけるCXCL10の意義. 第86回日本血液学会学術集会, 2024.
- 24) 大島久美, 大橋晃太, 齋賀真言, 加藤雅之, 富田直人, 佐野文明, 新井文子. 血液疾患患者に関する大学病院と在宅医療との連携. 第86回日本血液学会学術集会, 2024.
- 25) 堀部恵梨佳、相良康子、佐藤知雄、八木下尚子、内丸薫、渡邊俊樹、山野嘉久.. JSPFAD レジストリにおける症例・検体登録数の現状. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 26) 相良康子, 中村仁美, 志津田恵津子, 相良康弘, 内丸薫, 山野嘉久, 渡邊俊樹, 三浦清徳, 松崎浩史. 血中ビタミンDレベルとHTLV-1関連疾患発症の関係. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 27) 渡邊俊樹. A viral clonality evenness score to identify HTLV-1 asymptomatic carriers at high risk of progression to ATL. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 28) 堀江良一、渡邊真理子、菅原章公、野口吉彦、岩月正人、廣瀬友靖、砂塚敏明、古田玲子、宮崎浩二、渡邊俊樹. 成人T細胞白血病/リンパ腫に対するNF- κ B阻害薬の開発と展開. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 29) 安井 寛, 平野啓二, 小林麻子, 李 麗華, 高橋拓也, アルテメンコ マルガリータ, 野田尚孝, 貞任大地, 原口京子, 新井文子, 今井浩三, 土岐典子, 柳田匡俊, 石垣知寛. CAR分子の局在変化の解析に基づくCAR-T細胞の新規免疫機能評価法. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.
- 30) 原口京子, 黒澤修兵, 石橋小百合, 河合英由子, 渡邊 玲, 本間柚乃香, 石和田萌笑, 飯村稜子, 西村加世, 貞任大地, 成島清美, 西村美佐子, 庄子美咲, 鈴木里菜, 佐久間香枝, 松田真一朗, 八木 悠, 金政佑典, 遠矢 嵩, 名島悠峰, 清水啓明, 平野啓二, 石垣知寛, 柳田匡俊, 安井 寛, 原田結花, 下山 達, 土岐典子, 奥山美樹. 治療後18ヶ月以上生存したリンパ腫患者のフローサイトメトリー検査によるCAR-T細胞の長期追跡. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.
- 31) 福家和貴, 大島久美, 佐野文明, 加藤 葵, 細貝 茜, 内田三四郎, 加藤雅之, 安井 寛, 渡邊俊樹, 玉井勇人, 富田直人, 新井文子, 藤谷茂樹, 本館敦子. 造血幹細胞移植医療における診療看護師(NP)の役割. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.
- 32) 佐野文明, 大島久美, 加藤雅之, 安井 寛, 渡邊俊樹, 玉井勇人, 富田直人, 新井文子. 予後不良急性骨髄性白血病に対するvenetoclaxとazacitidine併用療法後の同種造血幹細胞移植の検討. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.
- 33) 安井 寛, 大島久美, 佐野文明, 伏屋愛加, 上村 悠, 大西威一郎, 山本浩平, 小池淳樹, 新井文子. 慢性活動性EBウイルス病に対する同種造血幹細胞移植後に発症したEBV陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.
- 34) 加藤 葵, 大島久美, 佐野文明, 福家和貴, 細貝 茜, 内田三四郎, 加藤雅之, 安井 寛, 渡邊俊樹, 玉井勇人, 富田直人, 新井文子, 藤谷茂樹, 本館敦子. 造血幹細胞移植医療における院内迅速対応システムと診療看護師の役割. 第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2025.
- 35) 城野 遼, 玉井勇人, 脇坂朱遥, 加藤雅之, 大島久美, 安井 寛, 佐野文明, 渡邊俊樹, 富田直人, 新井文子. AZA+VEN療法が奏功したt(11;12)(p15;q13)染色体異常をもつ急性骨髄性白血病. 第22回日本血液学会関東甲信越地方会, 2025.
- 36) 新井文子. 慢性活動性EBウイルス病態解明 日本の研究最前線から (Virus-associated lymphoid malignancies in Asian

countries). 第86回日本血液学会学術集会, 2024.

- 37) 新井文子. Elucidating the Pathogenesis of Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease: from the Front Line of the Latest Research in Japan. 第86回日本血液学会学術集会, 2024.

② 国際学会

- 1) Iha H, Irwani Binti Sabri S, Saffree Jeffree M, Farnace K, Hamaguchi I, Watanabe T, Drakeley C-J, Ahmed K. Evidence of HTLV-1 infection through serological survey in remote areas of the northern region of Sabah state, Borneo Island, Malaysia. HTLV CONFERENCE 2024, 2024.
- 2) Tanabe A, Takahashi Y, Yui A, Nakakido M, Nasu T, Uchimar K, Ishii H, Kawana-Tachikawa A, Matano T, Watanabe T, Tsumoto K, Nakano K. Development of an antibody-drug conjugate(ADC) targeting CADM1 in adult T-cell leukemia/lymphoma cells. HTLV CONFERENCE 2024, 2024.
- 3) Karpe S, Artesi M, Wayet J, Durkin K, Uchimar K, Makiyama J, Iwanaga M, Utsunomiya A, Koliijn M, Langerak A-W, Marcais A, Hermine O, Burny A, Watanabe T, Georges M, Van den Broeke A. A viral clonality evenness score to identify HTLV-1 asymptomatic carriers at high risk of progression to ATL. HTLV CONFERENCE 2024, 2024.
- 4) Fuseya A, Nishio M, Yamamoto M, Uemura Y, Tanaka T, Umezawa Y, Oshima K, Sano F, Mori T, Sasaki M, Hirakawa A, Koike R, Yasui H, Imadome K, Ohga S, Arai A. Clinical Features and Prognostic Factors of Adult Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease: A Retrospective Analysis Using Japanese Registry Data. 29th European Hematology Association, 2024.
- 5) Yasui H, Fuseya A, Nishio M, Yamamoto M, Uemura Y, Tanaka K, Umezawa Y, Oshima K, Sano F, Mori T, Sasaki M, Hirakawa A, Koike R, Imadome K, Ohga S, Arai A. Clinical features and prognostic factors of adult systemic chronic active Epstein-Barr virus disease: A retrospective analysis using Japanese registry data. The International Symposium on EBV & KSHV, RELATED AGENTS & DISEASES-3rd Joint Meeting, 2024.
- 6) Matsuoka S, Osada N, Kubota H, Kikuzato K, Koyama H, Sonoda T, Idei A, Yoshida M, Kikuchi M, Umehara T, Watanabe C, Honma T, Yasui H, Ikeda S, Takahashi N, Nakasone H, Kikuchi J, Furukawa Y. Discovery of a novel class MMSET inhibitor with specificity for t(4;14)-positive multiple myeloma. International Myeloma Society 21st Annual Meeting, 2024.
- 7) Tanabe A, Takahashi Y, Yui A, Nakakido M, Nasu T, Uchimar K, Ishii H, Kawana-Tachikawa A, Matano T, Mizukami T, Watanabe T, Tsumoto K, Nakano K. Development of an antibody-drug conjugate(eADC) targeting CADM1 in adult T-cell leukemia/lymphoma cells. The 3rd France-Japan Symposium on HIV/AIDS & Infectious Disease Basic and Translational Research, 2024.
- 8) Nishio M, Yoshimori M, Yoshioka K, Maekawa Y, Hara R, Yokota T, Nabeshima R, Arai A. Functional Analysis of EBV-Derived microRNAs in Systemic Chronic Active EBV Disease Using Novel Antisense Oligonucleotides. The 66th ASH Annual Meeting and Exposition, 2024.
- 9) Tanabe A, Takahashi Y, Yui A, Nakakido M, Nasu T, Uemura-Kamata A, Tezuka K, Uchimar K, Utsunomiya A, Matano T, Mizukami T, Watanabe T, Tsumoto K, Nakano K. Development of an antibody-drug conjugate targeting CADM1 in adult T-cell leukemia/lymphoma cells. The 66th ASH Annual Meeting and Exposition, 2024.
- 10) Uemura Y, Nishio M, Shimomaki R, Yoshimori M, Ohashi A, Fuseya A, Miyabe Yoshishige, Arai A. The potential of plasma CXCL10 as a biomarker that reflects pathogenesis and prognosis in systemic chronic active EBV disease. The 66th ASH Annual Meeting and Exposition, 2024.

- 11) Yasui H, Hirano K, Kobayashi A, Li L, Takahashi T, Artemenko M, Noda N, Sadato D, Haraguchi K, Arai A, Imai K, Doki N, Yanagida M, Ishigaki T. Novel method to evaluate the quantitative immune functionality of CAR T-Cells to analyze the localization change of CAR molecules. The 66th ASH Annual Meeting and Exposition, 2024.
 - 12) Yasui H. Introduction to the International Cutting-edge Information of CAR-T Therapy. Forum on the Progress of CAR-T cell Diagnosis and Treatment in Shengjing Hospital, 2025.
 - 13) Yasui H, Fuseya A, Yamamoto M, Nishio M, Uemura Y, Ishikawa A, Wakisaka S, Tanaka K, Umezawa Y, Oshima K, Sano F, Mori T, Sasaki M, Hirakawa A, Koike R, Imadome K-I, Ohga S, Arai A. Clinical Features and Prognostic Factors of Adult Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease: A Retrospective Analysis Using Japanese Registry Data. The 2025 Korean Society of Hematology (KSH) International Conference & 66th Annual Meeting, 2025.
- ③ その他
- 1) 堀部 恵梨佳、渡邊俊樹、山野嘉久. JSPFADにおける HTLV-1 水平感染疑い例の解析. 令和6年度 第1回 HTLV-1 三浦班会議, 2024.
 - 2) 石川歩璃, 安井 寛, 大島久美, 佐野文明, 伏屋愛加, 上村 悠, 大西威一郎, 山本浩平, 新井文子. 慢性活動性EBウイルス病に対する同種末梢血幹細胞移植後に発症したEBV陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫. 第33回EBウイルス感染症研究会, 2025.
 - 3) 渡邊俊樹. HTLV-1に関する普及啓発活動の現状と国内外での感染予防の取り組み. 2025年長崎県HTLV-1母子感染防止に関する講演会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		10	
論 文	原著		8
	解説又は総 説	4	
	症例報告		
	その他	2	
学会発表	国内学会	35	2
	国際学会		13
	その他	3	

リウマチ・膠原病・アレルギー内科学

著書

- 1) 森雅亮. IV 章 疾患別の最新診療指針 F. 小児膠原病 総論関節リウマチ治療実践 バイブル改訂第3版 2024;:---.
- 2) 鈴木翔太郎. 7. 担がん患者の関節リウマチ あなたも名医！ピンチを乗り切る関節リウマチ診療 2024;(91):148-155.
- 3) 森雅亮. 若年性特発性関節炎. /特集: 子どもの皮膚診療を極めるために 小児科診療 2024;1(87. 春増刊号):199-205.
- 4) 森雅亮. リウマチ・膠原病薬 新小児薬用量 改訂第10版 2024;:192-205.
- 5) 森雅亮. 第12章リウマチ性疾患. 概説. リウマチ性疾患総論. 最新ガイドライン準拠 小児科診療・治療指針. 改訂第3版. 2024;:419-420.
- 6) 高桑由希子. CQ1 全身型若年性突発性関節炎 (MAS 非発症時) に対して、グルココルチコイドは有用か
CQ2 全身性若年性突発性関節炎 (MAS 非発症時) に対して、メチルプレドニゾロンパルス療法は有用か 日本リウマチ学会
若年性突発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 年版 2025;:158-162.
- 7) 山崎和子. 全身型若年性突発性関節炎 (MAS 非発症時) に対して、IL-1 阻害薬 (カナキヌマブ、アナキンラ、リロナセプト) は有用か 日本リウマチ学会 若年性突発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 年版 2025;:171-175.
- 8) 森雅亮. 日本リウマチ学会 若年性突発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 刊行によせて 日本リウマチ学会 若年性突発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 年版 2025;: iv-iv.
- 9) 森雅亮. 日本リウマチ学会 若年性突発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 年版 2025;(第1):2-264.
- 10) 元永裕生. 若年性突発性関節炎の病態生理 日本リウマチ学会 若年性突発性関節炎診療ガイドライン 2024-25 年版 2025;:32-39.
- 11) 川畑仁人. 混合性結合組織病 今日の診断指針 第9版 2025;(9):1200-1201.
- 12) 鈴木豪. NOTE2 B型肝炎再燃のリスク評価 内科レジデント 実践マニュアル 第12版
経時的流れに応じた適切な治療 2025;(12版):484-484.
- 13) 鈴木豪. 33 膠原病、リウマチ性疾患 内科レジデント 実践マニュアル第12版
経時的流れに応じた適切な治療 2025;(12版):351-360.
- 14) 川畑仁人. 皮膚硬化および石灰化病変 膠原病診療実践バイブル 2025;:157-160.

学術論文[和文]

- ① 原著
 - 1) 福田知雄, 山上啓子, 川畑仁人, 鈴木勇三, 佐々木善浩, 宮城敬, Iris Jacobs, John-Philip Lawo, Fiona Glassman, 赤真秀人, 秀道広, 大澤勲. 日本人患者を対象とした遺伝性血管性浮腫発作の予防に対する C1-インヒビター皮下投与の有効性、薬物動態および安全性: 第3相試験結果(二次出版). 新薬と臨床, 2024;73: 307-333.
 - 2) 田中 敏博(JA 静岡厚生連静岡厚生病院 小児科), 荒木 かほる[福岡], 岡田 雅彦, 金兼 弘和, 多屋 馨子, 塚原 宏一, 長森 恒久, 羽田 敦子, 宮田 一平, 山田 全毅, 橋本 浩一, 和田 泰三, 片寄 雅彦, 神野 俊介, 亀井 聡信, 清水 博之, 新庄 正宜, 西村 直子, 森 雅亮. 感染症診断のための核酸検査に関するアンケート調査. 小児感染免疫, 2024;36(2): 183-194.
- ② 総説又は症例解説
 - 1) 森 雅亮. 自己抗体検査. リウマチ性疾患に関連する自己抗体. 3) SLE と抗 dsDNA 抗体 抗 Sm 抗体 抗リボゾーム抗体など. 小児内科 「小児臨床検査 2024」, 2024;56: 確認中.

- 2) 鈴木翔太郎. 【“D2TRA”アップ・トゥ・デート ピンチを乗り切る関節リウマチ診療】(第3章)難治性関節リウマチに挑む 担がん患者の関節リウマチ. jmed mook, 2024;(91):148-155.
 - 3) 森 雅亮. 【川崎病-最近の進歩】生物学的製剤(インフリキシマブ, アナキンラを中心に). カレントセラピー, 2024;42(4):328-333.
 - 4) 川畑仁人. SLE 関連自己抗体. リウマチ科, 2024;71(4):345-351.
 - 5) 鈴木翔太郎. 患者さんからよく尋ねられる内科診療の Question 第5章 リウマチ・膠原病. 内科, 2024;133(4):770-773.
 - 6) 森 雅亮. 【子どもの皮膚診療を極めるために】皮膚症状が診断に重要な全身性疾患 若年性特発性関節炎. 小児科診療, 2024;87:199-205.
 - 7) 森 雅亮. 小児の炎症性筋疾患. 脳と発達, 2024;56(4):295-300.
 - 8) 川畑仁人. 免疫疾患治療における新たな潮流. アレルギーの臨床, 2024;43(8):605.
 - 9) 永渕裕子. 顕微鏡的多発血管炎の最新治療. 難病と在宅ケア, 2024;30(6):32-35.
 - 10) 川畑仁人. 膠原病治療における免疫抑制薬の現状と展望. 別冊・医学のあゆみ 膠原病のすべて, 2025;2:44-50.
- ③ その他
- 1) 川畑仁人. 関節リウマチ患者さんのライフステージを考えた診療を目指して. 会報かながわ, 2024;(138):6-8.
 - 2) 永渕裕子. あなたの悩みを専門医にきく 医療相談より 生物学的製剤の開始時期と開始前検査について、生物学的製剤の変更について. 機関紙 流, 2024;(383):38-43.
 - 3) 森雅亮, 川畑仁人. 内科と小児科の融合. Pharma Medica, 2024;41(2):134-137.
 - 4) 永渕裕子. 神奈川県支部の皆様へ No.9. 全国膠原病友の会神奈川県支部会報, 2024;:3-5.
 - 5) 川畑仁人. 膠原病診療の新たな潮流. Pharma Medica, 2025;42(1):7-11.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yamazaki S, Shimizu M, Yakabe A, Inage E, Jimbo K, Suzuki M, Miyaoka F, Kaneko S, Irabu H, Shimbo A, Ohtomo Y, Mori M, Morio T, Shimizu T. Successful treatment with tofacitinib for anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive juvenile dermatomyositis: case reports and review of the literature. Immunological Medicine, 2024;47(2):110-117.
- 2) Miyamoto T, Izawa K, Masui S, Yamazaki A, Yamasaki Y, Matsubayashi T, Shiraki M, Ohnishi H, Yasumura J, Kawabe T, Miyamae T, Matsubara T, Arakawa N, Ishige T, Takizawa T, Shimbo A, Shimizu M, Kimura N, Maeda Y, Maruyama Y, Shigemura T, Furuta J, Sato S, Tanaka H, Izumikawa M, Yamamura M, Hasegawa T, Kaneko H, Nakagishi Y, Nakano N, Iida Y, Nakamura T, Wakiguchi H, Hoshina T, Kawai T, Murakami K, Akizuki S, Morinobu A, Ohmura K, Eguchi K, Sonoda M, Ishimura M, Furuno K, Kashiwado M, Mori M, Kawahata K, Hayama K, Shimoyama K, Sasaki N, Ito T, Umebayashi H, Omori T, Nakamichi S, Dohmoto T, Hasegawa Y, Kawashima H, Watanabe S, Taguchi Y, Nakaseko H, Iwata N, Kohno H, Ando T, Ito Y, Kataoka Y, Saeki T, Kaneko U, Murase A, Hattori S, Nozawa T, Nishimura K, Nakano R, Watanabe M, Yashiro M, Nakamura T, Komai T, Kato K, Honda Y, Hiejima E, Yonezawa A, Bessho K, Okada S, Ohara O, Takita J, Yasumi T, Nishikomori R: Japan CAPS Working Group. Clinical Characteristics of Cryopyrin-Associated Periodic Syndrome and Long-Term Real-World Efficacy and Tolerability of Canakinumab in Japan: Results of a Nationwide Survey. Arthritis and rheumatology(Hoboken,N.J.), 2024;76(6):949-962.

- 3) Fusama M, Nakahara H, Gregg M, Kuroe Y, Urata Y, Kawahata K, Kawahito Y, Kojima M, Sugihara T, Hashimoto M, Miyamae T, Murashima A, Mori M, Yajima N, Matsui T. Challenges faced by nurses engaged in rheumatology care in Japan. *Modern Rheumatology*, 2024;34(4) : 711-719.
- 4) Mori M. Overview of the Treatment Goal, the Method of Evaluating Disease Activity/Physical Function, Activities of Daily Living, and Traditional Care for Systemic or Articular Juvenile Idiopathic Arthritis in Japan. *Children (Basel)*, 2024;11(8) : 952-952.
- 5) H A Uchida, Y Nakaoka, T Sugihara, H Yoshifuji, Y Maejima, Y Watanabe, H Nagafuchi, T Okazaki, Y Komagata, Y Tanaka, E Amiya, T Atsumi, K Tanemoto, T Takeuchi, T Naniwa, A Komatsuda, H Dobashi, K Amano, N Ogawa, Y Murakawa, H Hasegawa T Hayashi, Y Arimura, M Isobe, M Harigai for Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for Intractable Vasculitis (JPVAS). Clinical characteristics and treatment outcomes of patients with newly diagnosed Takayasu Arteritis in Japan during the first 2 years of treatment: a nationwide, retrospective cohort study. *Circulation Journal*, 2024; : PMID: 39261026-DOI: 10.1253/circj.CJ-24-0178.
- 6) Mori M, Nakayama Y, Nishimata S, Yokoyama T, Matsuoka R, Hatori R, Shimizu M, Arai K, Etani Y, Sogo T, Ishizu T, Nii M, Nakashima R, Shimizu T. Efficacy and Safety of Long-Term Administration of Esomeprazole in Japanese Pediatric Patients Aged 1-14 Years with Chronic Gastric Acid-Related Disease. *Pediatr Gastroenterol Hepatol Nutr.*, 2024;(5) : 274-285.
- 7) Nakayama Y, Nagata W, Takeuchi Y, Fukui S, Fujita Y, Hosokawa Y, Ueno M, Ono K, Sumitomo S, Tabuchi Y, Nakanishi Y, Saito S, Ikeuchi H, Kawamori K, Sofue H, Doi G, Minami R, Hirota T, Minegishi K, Maeshima K, Motoyama R, Nakamura S, Suzuki S, Nishioka N, Wada TT, Onishi A, Nishimura K, Watanabe R, Yanai R, Kida T, Nishiwaki H, Yajima N, Kaneko Y, Tanaka E, Kawahito Y, Harigai M. Systematic review and meta-analysis for the 2024 update of the Japan College of Rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis. *Modern Rheumatology*, 2024;34(6) : 1079-1094.
- 8) Domachowske J, Hamrén UW, Banu I, Baronio R, Basavaraju B, Koen A, Leach A, Mankad VS, Pannaraj PS, Soler-Palacin P, Takas T, Mori M, Villafana T MUSIC Study Group. Safety and Pharmacokinetics of Nirsevimab in Immunocompromised Children. *Pediatrics*, 2024;154(4) : e2024066508.
- 9) Miyaoka F, Hatano M, Hayashi Y, Kaneko S, Shimbo A, Irabu H, Akutsu Y, Segawa Y, Mori M, Shimizu M. Atlantoaxial arthritis is more common in polyarticular JIA as compared to systemic onset JIA-Retrospective study. *International Journal of Rheumatic Diseases*, 2024;(11) : e15396.
- 10) Mori M, Ito Y, Ishiwada N, Ito K, Shinjoh M, Tsugawa T, Funaki T, Furuichi M, Hoshino T, Miyairi I, Kondo T, Hinoki A, Wada M, Okada K, Korematsu S, Tanuma N, Hasegawa H, Hosoi K, Yoshizaki K, Ishige M. Risks and Prevention of Severe Respiratory Syncytial Virus Infection among Infants and Children with Pulmonary Hypoplasia, Airway Stenosis, Congenital Esophageal Atresia, Inborn Errors of Metabolism, or Neuromuscular Diseases in Japan. *Journal of Infection and Chemotherapy*, 2024;31(3) : 102588.
- 11) Fusama M, Nakahara H, Miyamae T, Mori M, Urata Y, Kawahata K, Kawahito Y, Kojima M, Sugihara T, Hashimoto M, Murashima A, Yajima N, Matsui T. Challenges nurses face in providing care for patients with juvenile idiopathic arthritis. *Modern Rheumatology*, 2024;35(1) : 185-193.

- 12) Ishikawa T, Nishimura K, Okamoto N, Akamine K, Inoue N, Irabu H, Kato K, Keino H, Kojima M, Kubo H, Maruyama K, Mizuta M, Shabana K, Shimizu M, Sugita Y, Takakuwa Y, Takanashi S, Takase H, Umebayashi H, Umezawa N, Yamanishi S, Yamazaki K, Yashiro M, Yasumi T, Mori M.. Efficacy and safety of tumor necrosis factor inhibitors for systemic juvenile idiopathic arthritis: A systematic review. *Modern Rheumatology*, 2024;35(1) : 174-184.
- 13) Nishimura K, Ishikawa T, Okamoto N, Akamine K, Inoue N, Irabu H, Kato K, Keino H, Kojima M, Kubo H, Maruyama K, Mizuta M, Shabana K, Shimizu M, Sugita Y, Takakuwa Y, Takanashi S, Takase H, Umebayashi H, Umezawa N, Yamanishi S, Yamazaki K, Yashiro M, Yasumi T, Mori M. Efficacy and safety of abatacept for systemic juvenile idiopathic arthritis: a systematic review. *Modern Rheumatology*, 2024;35(1) : 167-173.
- 14) Akutsu Y, Ota M, Itamiya T, Mori M, Morio T, Yamamoto K, Okamura T, Fujio K.. Effect of Epstein-Barr Virus infection on gene regulation in immune cells of patients with Immune-Mediated Diseases. *Journal of autoimmunity*, 2025; : 150:103355.
- 15) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Ishibashi Yuki, Kawahata Kimito, Kunishima Hiroyuki, Tsuchida Tomoya, Takemura Hiromu, Minoura Ayu, Takita Mumon, Fujitani Shigeki. 90-Day outcomes in patients with severe COVID-19 pneumonia treated with invasive mechanical ventilation. *Journal of Infection Chemotherapy*, 2025;31(2) : 102529.
- 16) Yokogawa N, Sakai R, Matsushita M, Shimizu M, Inoue Y, Inoue E, Yamaji K, Mori M, Miyamae T. Delayed global standardization and prefectural disparities in systematic lupus erythematosus treatment in Japan: a nationwide study using the National Database of Health Insurance Claims and Specific Health Checkups of Japan. *Mod Rheumatol.*, 2025;35(2) : 294-299.
- 17) Inoue Y, Sakai R, Inoue E, Mitsunaga K, Shimizu M, Sugihara T, Matsushita M, Yamaji K, Mori M, Shimojo N, Miyamae T.. Nationwide epidemiological survey of juvenile idiopathic arthritis during transition to young adulthood in Japan using the National Database of Designated Incurable Diseases of Japan. *Modern Rheumatology*, 2025;35(2) : 359-365.
- 18) Miyamae T, Manabe Y, Sugihara T, Umezawa N, Yoshifuji H, Tamura N, Abe Y, Furuta S, Nagafuchi H, Ishizaki J, Nakano N, Atsumi T, Karino K, Amano K, Kurasawa T, Ito S, Yoshimi R, Ogawa N, Banno S, Naniwa T, Ito S, Hara A, Hirahara S, Uchida HA, Onishi Y, Murakawa Y, Komagata Y, Nakaoka Y, Harigai M. Pregnancy and childbirth in Takayasu arteritis in Japan: A nationwide retrospective study. *Pregnancy and childbirth in Takayasu arteritis in Japan: A nationwide retrospective study. Modern Rheumatology*, 2025;35(2) : 339-344.
- 19) Fusama M, Nakahara H, Urata Y, Kawahata K, Kawahito Y, Kojima M, Sugihara T, Hashimoto M, Miyamae T, Murashima A, Mori M, Yajima N, Matsui T. Challenges nurses face in providing care to older patients with rheumatoid arthritis: A qualitative study. *Modern Rheumatology*, 2025;35(2) : 256-264.
- 20) Sato Masaaki, Nagai Kohei, Sato Toshiyuki, Yoshimoto Ryo, Shibano Yuto, Shibahara Minori, Satokawa Haruka, Anzai Masayuki, Uchida Teisuke, Tsutiya Atsuhiko, Takakuwa Yukiko, Omoteyama Kazuki, Arito Mitsumi, Suematsu Naoya, Ooka Seido, Kawahata Kimito, Kato Tomohiro, Kurokawa S Manae.. Aberrant oxidative modifications of neutrophil myeloperoxidase in anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Journal of Proteomics*, 2025;315 : 105412.
- 21) Nagafuchi H, Ando T, Mizushima M, Ooka S, Kawahata K. Enthesitis in patients with Behçet's disease: A

single-centre retrospective cohort study in Japan. Modern Rheumatology, 2025; : doi: 10.1093/mr/roaf021.

- 22) Matsushita M, Sakai R, Yokogawa N, Shimizu M, Inoue Y, Inoue E, Yamaji K, Mori M, Miyamae T.. Prevalence of systemic lupus erythematosus and age-stratified treatment trends in the Japanese population: a cross-sectional study based on the National Database of Health Insurance Claims. Modern Rheumatology, 2025; : Epub ahead of print.
- 23) Ito Y, Yamagishi T, Ikenoue C, Ishiwada N, Ito K, Iwatani S, Ouchi K, Kawana K, Shimizu H, Shinjoh M, Takeuchi, Tsugawa T, Funaki T, Furuichi M, Hoshino T, Mikamo H, Miyairi I, Moriuchi H, Morioka I, Yamagishi Y, Mori M.. Clinical Practice Guidelines for the Management of Congenital Syphilis in Japan, 2023: Executive Summary. The Pediatric infectious disease journal, 2025;44(3) : e90-e94.

② 症例報告

- 1) Takakuwa Y, Ooka S, Endo N, Nakamura H, Okano T, Miyagaki T, Kadono T, Kawahata K. Long-term follow-up of vasculitis with metal allergy after cerebrovascular coil embolization. Oxford Medical Case Reports, 2025;4 : 208-210.

学会発表

① 国内学会

- 1) 遠藤信幸. 遺伝性血管性浮腫(HAE)に対する発作トリガーとしてのコロナワクチン接種. 第121回日本内科学会総会・講演会, 2024.
- 2) 川崎達也, 大岡正道, 元永祐生, 山崎和子, 宮岡双葉, 高桑由希子, 森雅亮, 遠藤信幸, 石崎克樹, 安藤貴泰, 鈴木翔太郎, 水島万智子, 殿岡久美子, 川上美里, 川畑仁人.. 血清反応陰性関節リウマチにおけるHLA-B7交差反応性抗原の影響について. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 3) 豊福悦史, 山崎和子, 宮岡双葉, 森翔, 吉岡耕平, 大岡正道, 森雅亮, 川畑仁人.. シェーグレン症候群に合併したANCA陽性冠動脈炎の一例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 4) 吉岡耕平, 山崎和子, 宮岡双葉, 松村憲浩, 元永祐生, 森翔, 柏戸桃子, 川崎達也, 豊福悦史, 毛利万理子, 大岡正道, 川畑仁人, 森雅亮.. 関節炎が皮膚症状に先行し、診断まで4年を要した若年性乾癬性関節炎の1例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 5) 永渕裕子, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 安藤貴泰, 殿岡久美子, 高桑由希子, 山崎宜興, 川畑仁人. 後腹膜線維症の疑い症例の転帰. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 6) 房間美恵, 中原英子, 浦田幸朋, 川畑仁人, 川人豊, 小嶋雅代, 杉原毅彦, 橋本求, 宮前多佳子, 村島温子, 森雅亮, 矢嶋宣幸, 松井利浩. 高齢関節リウマチ患者のケアにおいて看護師が直面する課題. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会., 2024.
- 7) 森雅亮. シンポジウム 2 小児リウマチ性疾患の診療指針 update2024:オーバービュー. 小児リウマチ性疾患の診療指針 update2024~国際比較~. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会., 2024.
- 8) 木屋光博, 安藤貴泰, 高桑由希子, 大岡正道, 川畑仁人.. 全身性エリテマトーデスにおけるループス腸炎の鑑別について. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 9) 山崎和子, 豊福悦史, 大岡正道, 櫻井恵一, 水島万智子, 川上美里, 殿岡久美子, 高桑由希子, 遠藤信幸, 吉岡耕平, 森翔, 宮岡双葉, 石崎克樹, 松村憲浩, 元永祐生, 清川智史, 今村充, 飯田春信, 佐々木翔, 山崎宜興, 永渕裕子, 森雅亮, 川畑仁人.. 間質性肺疾患合併抗MDA5抗体陽性特発性炎症性筋疾患の病勢マーカーとしての尿中 $\beta 2$ ミクログロブリン値

と尿中 $\beta 2$ ミクログロブリン/尿中N-アセチルグルコサミダーゼ比. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.

- 10) 椎木拓也, 櫻井恵一, 後藤由多加, 山崎宜興, 川畑仁人. . 当院における全身性エリテマトーデス患者へのベリルマブ使用の実態. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 11) 木村朱門, 櫻井恵一, 後藤由多加, 山崎宜興, 川畑仁人. . 乾癬皮疹と血球性血球貪食症候群を合併したSWEET病の一例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 12) 野口真貴子, 山崎和子, 森翔, 吉岡耕平, 豊福悦史, 元永裕生, 大岡正道, 川畑仁人, 森雅亮. . 移行期若年性特発性関節炎患者におけるウバダシチニブの有用性および安全性の検討. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 13) 斉藤桃子, 大岡正道, 高桑由希子, 川畑仁人. . ベーチェット病における主要有害救急受診イベントについて. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 14) 宮岡双葉, 山崎和子, 森翔, 豊福悦史, 吉岡耕平, 遠藤信幸, 石崎克樹, 安藤貴泰, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 水島万智子, 高桑由希子, 殿岡久美子, 川上美里, 大岡正道, 川畑仁人, 森雅亮. . 難治性筋炎に対してシクロホスファミド静注パルス療法が有効であった抗Ku抗体陽性の小児SLE例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 15) 森翔, 山崎和子, 元永祐生, 鈴木翔太郎, 豊福悦史, 毛利万理子, 吉岡耕平, 大岡正道, 森雅亮, 川畑仁人. . 再燃を繰り返す視神経脊髄炎に合併した混合性結合組織病に対し、リツキシマブが奏功した女児例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 16) 安藤貴泰, 永渕裕子, 田中雄大, 木屋光博, 石崎克樹, 宮岡双葉, 森翔, 豊福悦史, 吉岡耕平, 遠藤信幸, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 水島万智子, 殿岡久美子, 川上美里, 山崎和子, 大岡正道, 森雅亮, 川畑仁人. . 膠原病合併間質性肺炎に対するニンテダニブの有効性と安全性. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 17) 石崎克樹, 櫻井恵一, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 毛利万理子, 遠藤信幸, 安藤貴泰, 森翔, 豊福悦史, 水島万智子, 殿岡久美子, 吉岡耕平, 川上美里, 山崎和子, 高桑由希子, 永渕裕子, 山崎宜興, 今村充, 大岡正道, 森雅亮, 川畑仁人. . 血漿CXCL13の皮膚筋炎活動性バイオマーカーとしての検討. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 18) 遠藤信幸, 大岡正道, 木屋光博, 安藤貴泰, 鈴木翔太郎, 川崎達也, 水島万智子, 殿岡久美子, 川上美里, 高桑由希子, 川畑仁人. . 自己免疫疾患に合併する遺伝性血管性浮腫. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 19) 川上美里, 宮岡双葉, 石崎克樹, 森翔, 遠藤信幸, 安藤貴泰, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 豊福悦史, 水島万智子, 吉岡耕平, 高桑由希子, 殿岡久美子, 山崎和子, 大岡正道, 永渕裕子, 森雅亮, 川畑仁人. . 血清学的に安定し項リン脂質抗体症候群は示唆されずも胎盤梗塞を呈したSLE合併妊婦の一例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 20) 毛利万理子, 今村充, 永渕裕子, 大岡正道, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 石崎克樹, 櫻井恵一, 松村憲浩, 森翔, 遠藤信幸, 安藤貴泰, 吉岡耕平, 水島万智子, 殿岡久美子, 川上美里, 高桑由希子, 山崎和子, 森雅亮, 川畑仁人. . ポリソルベート含有製剤へのアレルギー既往を有するリウマチ性疾患患者における血清ポリソルベート特異的IgEについて. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 21) 中根知美, 櫻井恵一, 後藤由多加, 山崎宜興, 川畑仁人. . 急激に発症した心不全により診断に至った全身性エリテマトーデスの一例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 22) 山田祐介, 柴田朋彦. 腸骨・仙骨腫瘍としてみつかった医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患(OIIA-LPD)を発症した関節リウマチ(RA)症例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 23) 川畑仁人. . 関節リウマチ治療における今後の課題:JAK阻害薬の役割を考える. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.

- 24) 田中良哉, 花見健太郎, 宮崎佑介, 石ヶ坪良明, 岩本太郎, 牛尾一康, 岡野裕, 尾登誠, 川畑仁人, 三枝淳, 中村幸男, 藁田将光, 野崎祐史, 宮本俊明, 山西裕司, 石黒直樹, 熊ノ郷淳, 竹内勤, 當間重人, 藤野善久, 亀田秀人. . 関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 (PROFILE-J) に登録された患者群の患者特性・疾患活動性 (中間集計). 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 25) 宮本啓佑, 石崎克樹, 安藤貴泰, 大岡正道, 川畑仁人. . 体軸性脊椎関節炎における HLA-B7 交差反応性抗原の影響について. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 26) 高桑由希子, 大岡正道, 永渕裕子, 石崎克樹, 川崎達也, 水島万智子, 安藤貴泰, 鈴木翔太郎, 殿岡久美子, 川上美里, 遠藤信幸, 吉岡耕平, 豊福悦史, 森翔, 宮岡双葉, 櫻井恵一, 山崎和子, 森雅亮, 川畑仁人. . 関節リウマチにおける MTX 継続率に対する投与ルートの影響. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 27) 森雅亮. Meet the Expert 14 (移行期医療検討小委員会企画) 本邦で若年性特発性関節炎で使用できる合成抗リウマチ薬と生物学的製剤～成人との違いは?. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会., 2024.
- 28) 田中雄大, 櫻井恵一, 鈴木翔太郎, 安藤貴泰, 水島万智子, 大岡正道, 川畑仁人. 関節リウマチの経過中に全身性エリテマトーデスを合併し、生じた血管炎に対してリツキシマブ併用療法にて改善を見た一例. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 29) 小林恵, 臼田奈美, 山崎宜興, 石崎克樹, 峯岸洋次郎, 山田秀裕. 多職種連携チーム医療のもとでの JAK 阻害薬の安全性に関する検討～続報～. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 30) 永渕裕子, 後藤由多加, 川畑仁人. . 単関節炎の関節リウマチの臨床的特徴とその治療. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 31) 殿岡久美子, 大岡正道, 毛利万理子, 石崎克樹, 安藤貴泰, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 高桑由希子, 川畑仁人. . 再発性多発軟骨炎の活動性の定量的評価. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 32) 奥健志, 山田秀裕, 秋月正史, 出口治子, 井畑淳, 上田敦久, 大野滋, 小幡純一, 角谷拓哉, 川畑仁人, 佐藤慎二, 澤直樹, 須田昭子, 田口博章, 岳野光洋, 萩山裕之, 松井利浩, 山前正臣, 山岡邦宏. . リウマチ・膠原病疾患患者とリウマチ内科医を対象とした各種ワクチン接種の実態調査 (神奈川 study). 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 33) 中下珠緒, 永渕裕子. 両側精巣上体炎で発症した結節性多発動脈炎の一例. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 34) 西島孝治, 山崎和子, 吉岡耕平, 豊福悦史, 毛利万里子, 元永裕生, 森翔, 宮岡双葉, 殿園晃平, 川畑仁人, 森雅亮. . COVID-19 ワクチン接種後に咽頭収縮筋群の付着部炎により、嚥下困難を来した若年性特発性関節炎の二例. 第 13 回東日本小児リウマチ研究会, 2024.
- 35) 伊佐早健司, 櫻井謙三, 今井健, 日野栄絵, 鎗木真弓, 太刀川慶史, 高桑由希子, 川畑仁人, 山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症による末梢神経障害症例の診断遅延要因. 第 65 回日本神経学会学術大会, 2024.
- 36) 大岡正道, 老沼大輔, 峯下昌道. 距離を中心とした紹介状マスタータの分析～covid19 の影響～. 第 26 回日本医療マネジメント学会学術集会, 2024.
- 37) 木屋光博, 殿岡久美子, 大岡正道, 高桑由希子, 川畑仁人. 再発性多発軟骨炎の症状別の骨代謝マーカーに対する影響. 第 9 回日本骨免疫学会, 2024.
- 38) 辻 成佳, 亀田 秀人, 岸本 暢将, 渥美 達也, 大久保 ゆかり, 岡本 奈美, 川上 純, 藤本 学, 宮川 一平, 森 雅亮, 森田 明理, 渡邊 玲, 富田 哲也. 脊椎関節炎および掌蹠膿疱症性骨関節炎・SAPHO 症候群を対象とした新しいレジストリ “SPARKLE-J” における乾癬性関節炎の臨床的特徴について. 日本脊椎関節炎学会第 34 回学術集会, 2024.
- 39) 伊佐早健司, 櫻井謙三, 今井健, 日野栄絵, 鎗木真弓, 太刀川慶史, 高桑由希子, 川畑仁人, 山野嘉久. 好酸球性多発血

管炎性肉芽腫症による末梢神経障害症例の診断遅延要因に関する解析. 第36回日本神経免疫学会学術集会, 2024.

- 40) 鹿野直樹, 松永綾子, 加藤正樹, 千葉清, 森美佳, 長江千愛, 山崎和子, 豊福悦史, 清水直樹. 両側肺血栓塞栓症による心肺停止を契機に診断されたクローン病の一例. 第51回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会, 2024.
- 41) 川畑仁人. 病態および臨床研究から見た JAK 阻害薬の効果と安全性. 第52回日本臨床免疫学会総会, 2024.
- 42) 本吉愛, 荻原真帆, 小野結佳, 小澤南, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 吉岡耕平, 尾堀佐知子, 右田王介, 津川浩一郎. Pathological Evaluation Methods in Contralateral Risk-reduction Mastectomy in Patients with BRCA Positive Breast Cancer. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024.
- 43) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療へD2T-RAを生まないために. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 44) 川畑仁人. sJIAの移行医療とチーム医療. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 45) 吉岡耕平, 山崎和子, 西島孝治, 殿園晃平, 元永裕生, 豊福悦史, 毛利万里子, 宮岡双葉, 森翔, 川畑仁人, 森雅亮. 若年性脊椎関節炎を併発し、ウバダシチニブを使用した難治性高安動脈炎の2症例. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 46) 毛利万里子, 今村充, 鈴木翔太郎, 川崎達也, 石崎克樹, 山崎和子, 豊福悦史, 吉岡耕平, 森雅亮, 川畑仁人. 全身性、多関節型、小関節型若年性特発性関節炎患者の血清における Gasdermin D-C 断端、IL-18 の測定. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 47) 殿園晃平, 山崎和子, 毛利万里子, 豊福悦史, 吉岡耕平, 元永裕生, 西島孝治, 川畑仁人, 森雅亮. 炎症性腸疾患の無症候期疾患活動性評価としての便中カルプロテクチンの有用性. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 48) 山崎和子, 吉岡耕平, 豊福悦史, 川上美里, 松村憲浩, 元永裕生, 毛利万里子, 西島孝治, 殿園晃平, 林祐子, 森翔, 川畑仁人, 森雅亮. リウマチ性疾患の小児・若年成人における COVID-19 の重症度と感染後の原疾患再燃の検討. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 49) 毛利万里子, 山崎和子, 西島孝治, 豊福悦史, 吉岡耕平, 川崎達也, 殿園晃平, 元永裕生, 森雅亮, 川畑仁人. 抗リン脂質抗体症候群を合併した、難治性血球障害の全身性エリテマトーデスにおける治療選択について. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 50) 西島孝治, 山崎和子, 豊福悦史, 吉岡耕平, 毛利万里子, 殿園晃平, 森翔, 川畑仁人, 森雅亮. 頸部筋の筋力低下を認めた抗 NXP2 抗体陽性若年性皮膚筋炎症例と当院における成人例との比較. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 51) 豊福悦史, 山崎和子, 森翔, 宮岡双葉, 毛利万里子, 大岡正道, 森雅亮, 川畑仁人. シクロスポリンが奏効した限局性強皮症例. 第33回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 52) 川畑仁人, 大岡正道, 鈴木祐介, 眞野訓, 甲賀啓介, ベンツ秀城, 上野義信, 赤真秀人, 大澤勲. Garadacimab 第3相 (VANGUARD) 試験での遺伝性血管性浮腫 (HAE) 発作の早期抑制効果. 第73回日本アレルギー学会学術大会, 2024.
- 53) 石川 瑠惟(松戸市立総合医療センター 小児科), 岡田 広, 成瀬 裕紀, 山下 由理子, 森 雅亮, 森 雅人. NLRP12 にヘテロの missense variant を認めた、新生児川崎病の一例. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024.
- 54) 唐渡 諒(昭和大学江東豊洲病院 こどもセンター), 金澤 建, 松橋 一彦, 阿部 祥英, 森 雅亮. 繰り返す発熱・腹痛を契機に診断に至った家族性地中海熱非典型例の一女児例. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024.
- 55) 清水 博之(藤沢市民病院 臨床検査科), 川田 智子, 森 雅亮. 妊娠期梅毒患者および出生児の非トレポネーマ脂質抗体 (RPR) の比較. 第56回日本小児感染症学会総会・学術集会, 2024.

- 56) 田中雄大, 櫻井恵一, 鈴木翔太郎, 殿岡久美子, 大岡正道, 川畑仁人. アザチオプリンにより発熱・ショックおよびサイトカイン過剰をきたしたと考えられた全身性エリテマトーデスの一例. 第39回日本臨床リウマチ学会, 2024.
- 57) 川崎達也, 山崎宜興, 石崎克樹, 吉田秀樹, 白井小百合, 今井洸, 仲門ひかる, 鈴木翔太郎, 川畑仁人. 可逆性後白質脳症症候群を伴い激しい経過をたどり死亡した血栓性微小血管症を合併した全身性エリテマトーデスの一例. 第39回日本臨床リウマチ学会, 2024.
- 58) 高桑由希子, 大岡正道, 木屋光博, 田中雄大, 遠藤信幸, 安藤貴泰, 鈴木翔太郎, 櫻井恵一, 毛利万里子, 殿岡久美子, 川上美里, 山崎和子, 永渕裕子, 川畑仁人. 関節リウマチ治療のメトトレキサートにおける、Shared Decision Making の重要性を再検討する. 第39回日本臨床リウマチ学会, 2024.
- 59) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトのはたす役割を考える～. 第39回日本臨床リウマチ学会 イブニングセミナー1, 2024.
- 60) 木屋光博, 殿岡久美子, 櫻井恵一, 高桑由希子, 大岡正道, 川畑仁人. 再発性多発軟骨炎に対するリツキシマブの有用性. 第39回日本臨床リウマチ学会, 2024.
- 61) 松井隆之, 鈴木翔太郎, 櫻井恵一, 田中雄大, 殿岡晃平, 殿岡久美子, 大岡正道, 川畑仁人. 喉頭腫瘍との鑑別を要した輪状被裂関節炎の関節リウマチの一例. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 2024.
- 62) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトのはたす役割を考える～. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会 アフタヌーンセミナー4, 2024.
- 63) 高桑由希子. 発売11年のエビデンスからトファシニブの安全性を考える. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会ランチョンセミナー, 2024.
- 64) 川畑仁人. 全身性エリテマトーデスの病態に関する最新知見 アニフロルマブの役割を考える. 第34回日本リウマチ学会関東支部学術集会ランチョンセミナー6, 2024.
- 65) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～MTX皮下注射剤のはたす役割を考える～. 第69回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会, 2025.
- 66) 川畑仁人. Overview of autoimmune disease research. 第53回日本免疫学会学術集会, 2024.

② 国際学会

- 1) Kurokawa Manae S, Sato Masaaki, Nagai Kohei, Sato Toshiyuki, Uchida Teisuke, Tsutiya Atsuhiko, Takakuwa Yukiko, Arito Mitsumi, Omoteyama Kazuki, Suematsu Naoya, Ooka Seido, Kawahata Kimito, Kato Tomohiro..
Aberrant oxidation of neutrophil myeloperoxidase in ANCA-associated vasculitis possibly relates to production of MPO-ANCA. 21st International Vasculitis Workshop, 2024.

③ その他

- 1) 森雅亮. 日本の47都道府県におけるRSV流行期間の調査から得られた最新知見/小児感染症COVID-19パンデミックの影響と今後～RSVから乳幼児を適切に守るために～. Scientific Exchange Meeting for RSV Infection, 2024.
- 2) 森雅亮. 抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体 パリビズマブ最新情報 Up-Date. Scientific Exchange Meeting for RSV, 2024.
- 3) 川畑仁人. 関節リウマチ診療におけるアセスメントシートの妥当性及び有用性の検証. Treat to Thrive, 2024.
- 4) 森雅亮. 小児肺炎球菌感染症の現状と新規PCVへの期待. 小児科肺炎球菌ワクチンフォーラムWeb 講演会, 2024.
- 5) 森雅亮. RSウイルス感染による重症化リスク～パリビズマブへの期待～/RSウイルス感染症から児を守る重要性. Pediatric TV Symposium (夜の部), 2024.
- 6) 森雅亮. RSウイルス感染による重症化リスク～パリビズマブへの期待～/RSウイルス感染症から児を守る重要性

- . Pediatric TV Symposium (昼の部), 2024.
- 7) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化. メトジェクト発売 1 周年記念講演会, 2024.
 - 8) 川畑仁人. 全身性エリテマトーデスの病態と治療に関する最新知見～アニフロルマブの役割を考える～. SLE Online Seminar, 2024.
 - 9) 森雅亮. 小児肺炎球菌感染症の現状と新規 PCV への期待. 横浜北部 小児肺炎球菌ワクチン講演会, 2024.
 - 10) 高桑由希子. JAK 阻害剤の使用法安全性マネジメントを中心に. RINVOQ Academy, 2024.
 - 11) 森雅亮. 肺低形成、気道狭窄、先天性食道閉鎖症、先天代謝異常症、神経筋疾患における RS ウイルス感染管理 . Scientific Exchange Meeting for RSV, 2024.
 - 12) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化～メトジェクトのはたす役割を考える～. 関節リウマチ WEB セミナーfrom 新宿, 2024.
 - 13) 高桑由希子. SLE 診療とアニフロルマブ～実臨床経験を踏まえて～. SLE Expert Meeting, 2024.
 - 14) 川畑仁人. PsA の病態と診療に関する最近の話題. Psoriasis Biologics Seminar 2024, 2024.
 - 15) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化～メトジェクトのはたす役割を考える～. メトジェクト適正使用講演会, 2024.
 - 16) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化～メトジェクトのはたす役割を考える～. メトジェクト皮下注適正使用講演会 in 長野-関節リウマチ診療, 2024.
 - 17) 森雅亮. 若年性特発性関節炎 (JIA) 診療の実際～股関節病変を中心に～. 第 63 回日本小児股関節研究会 アフタヌーンセミナー, 2024.
 - 18) 川畑仁人. 患者背景と病態に応じた関節リウマチ治療～ジセレカの臨床的意義を考える～. フィルゴチニブのポテンシャルを考える会 in 札幌, 2024.
 - 19) 櫻井恵一. 全身性エリテマトーデスにおけるステロイド減量戦略とバリムマブの使いどころ. 神奈川県 SLE Discussion Forum, 2024.
 - 20) 森雅亮. RS ウイルス感染症に対する、本邦におけるシナジスの歴史と今後の展望 ～適応追加 5 疾患を含む～. Synagis Expert online Meeting ～シナジス 20 年の軌跡とこれから～, 2024.
 - 21) 高桑由希子. SLE 診療とアニフロルマブ～実臨床経験を踏まえて～. SLE New Generation Expert Meeting, 2024.
 - 22) 川畑仁人. リウマチ性免疫関連有害事象の病態とマネージメント. 第 168 回梶ヶ谷 腎・膠原病研究会, 2024.
 - 23) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化～メトジェクトのはたす役割を考える～. メトジェクトインターネットライブセミナー, 2024.
 - 24) 櫻井恵一. 膠原病合併肺高血圧の診療の充実と循環器内科サポートの重要性. 川崎 PH 診療連携セミナー, 2024.
 - 25) 川畑仁人. 臨床試験とリアルワールドデータからみたオルミエントの有効性と安全性. Frontiers of Olumiant Therapy, 2024.
 - 26) 川畑仁人. I 型 IFN と SLE の病態について. SLE Management Seminar, 2024.
 - 27) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療～D2T-RA を生まないために～. 関節リウマチ治療カンファレンス, 2024.
 - 28) 森 雅亮. RS ウイルス発症抑制に対するベイフォータスの話題提供と適正使用推進. Beyfortus Launch Summit, 2024.
 - 29) 宮岡双葉, 水島万智子, 山崎和子, 遠藤信幸, 森翔, 石崎克樹, 鈴木翔太郎, 豊福悦史, 吉岡耕平, 川上美里, 大岡正道, 森雅亮, 川畑仁人. 視神経脊髄炎を合併した 2 例：全身性エリテマトーデスの 1 例と混合性結合組織病の 1 例 . 第 64 回関東リウマチ研究会, 2024.

- 30) 川畑仁人. 乾癬性関節炎の診断と最新治療
～早期治療の重要性～. 乾癬の早期治療意義を考える会, 2024.
- 31) 森雅亮. 骨粗鬆症治療 における逐次療法について. Kanagawa RA Bone Health Age free Conference 7th, 2024.
- 32) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化～メトジェクトのはたす役割を考える～. 庄内リウマチ
セミナー～MTXの適正使用を考える～, 2024.
- 33) 森雅亮. RS ウイルス発症抑制に対するベイフォータスの話題提供と適正使用推進. Beyfortus Premium Webinar, 2024.
- 34) 川畑仁人. 患者背景と病態に応じた関節リウマチ治療～ジセレカの臨床的意義を考える～. JAK 阻害薬を基礎と臨床から再
考する in 大阪, 2024.
- 35) 川畑仁人. 掌蹠膿疱症と掌蹠膿疱症性骨関節炎の診断と治療. 掌蹠膿疱症連携 Seminar in Kawasaki, 2024.
- 36) 森雅亮. 小児肺炎球菌感染症の現状とパクニユバンスへの期待. 湘南小児科連合懇話会・講演会, 2024.
- 37) 永渕裕子. 血管分科会報告. 令和6年度第1回パーチェット病に関する調査研究・AMED 合同会議, 2024.
- 38) 安藤貴泰. 膠原病合併間質性肺炎に対するニンテダニブの有効性と安全性. Scientific Exchange Meeting in Kanagawa,
2024.
- 39) 森雅亮. RS ウイルス感染症に対する、本邦におけるシナジスの歴史と今後の展望～適応追加 5 疾患を含む～. SYNAGIS
Expert Meeting in Osaka, 2024.
- 40) 森雅亮. 小児肺炎球菌感染症の現状とパクニユバンスへの期待. 静岡県ワクチンセミナー2024, 2024.
- 41) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療
～D2T-RAを生まないために～. 第45回若山臨床RAフォーラム, 2024.
- 42) 森雅亮. 「COVID -19 における神奈川県への対応を未来に活かす～罹患後症状の実態把握調査結果を含めて～. ゴコーバ講
演会 神奈川県 COVID-19 診療 UP-TO-DATE ～これまでの経験を未来に繋げるために～, 2024.
- 43) 川畑仁人. 間質性肺疾患合併 RA および高齢 RA のマネージメント. 今、知りたい！30分でわかるシリーズ！, 2024.
- 44) 川畑仁人. これからの ANCA 関連血管炎治療
～タブネオスから得られた知見を踏まえて～. タブネオスカプセル 発売2周年記念Web講演会 in 神奈川, 2024.
- 45) 川畑仁人. メトトレキサートによる関節リウマチ治療の再考
～最新のガイドライン情報も含めて～. MTX 治療を考える会 From 渋谷, 2024.
- 46) 森雅亮. 小児から成人までのシームレスな自己炎症性疾患の診療を目指して. 第4回群馬自己炎症性疾患研究会, 2024.
- 47) 高桑由希子. ジセレカの有用性
～実臨床下における使用経験をふまえて～. RA治療を考える会 From 長野・東京, 2024.
- 48) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトの果たす役割を考える～. 関節リウマチの新しい治療を考える会 in 新潟, 2024.
- 49) 櫻井恵一. GL からみる JAK の未来. JAK to The Future, 2024.
- 50) 森雅亮. 関節炎型若年性特発性関節炎 (JIA) の最近の知見
～ナノゾラの効果と今後の可能性について～. SS 育成勉強会 (社内研修会), 2024.
- 51) 川畑仁人. 患者背景と病態に応じた関節リウマチ治療
～ジセレカの臨床的意義を考える～. RA Experts Meeting in さいたま, 2024.
- 52) 高桑由希子. メトジェクトの臨床的意義を考える. MTX の使い方を考える会, 2024.
- 53) 森雅亮. 小児肺炎球菌感染症の現状と予防. 小児肺炎球菌ワクチン全国講演会, 2024.

- 54) 川畑仁人. 患者背景と病態に応じた関節リウマチ治療
-オルミエントの臨床的意義を考える-. JAK Explorers Forum ～Beyond T2T を見据えたあくなき探求とパリシチニブへの期待～, 2024.
- 55) 川畑仁人. 診療ガイドライン 2024 から見る関節リウマチ薬物診療
～メトトレキサート治療の最適化～. 栃木リウマチネットワーク講演会, 2024.
- 56) 森雅亮. 移行期若年性特発性関節炎患者のマネジメント. 令和 6 年度関東甲信越地区リウマチの治療とケア教育研修会, 2024.
- 57) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトの果たす役割を考える～. MTX 治療を考える会 in 旭川, 2024.
- 58) 高桑由希子. EGPA の新たな長期治療戦略 ～ステロイドフリー症例～読み解く～. GSK EGPA Advanced Management Web Seminar ～長期予後を見据えは EGPA 治療とメボリズマブの位置づけ～, 2024.
- 59) 川畑仁人. 患者背景と病態に応じた関節リウマチ治療
-オルミエントの臨床的意義を考える-. 第 23 回藤沢リウマチネットワーク学術講演会, 2024.
- 60) 川畑仁人. 関節リウマチの最新の治療戦略
～オゾラリズマブの役割を考える～. Kanagawa RA Communication 2024～, 2024.
- 61) 川畑仁人. 遺伝性血管性浮腫の診断と治療に関する最新知見. 遺伝性血管性浮腫 (HAE) の鑑別診断と最新の治療 ～繰り返す原因不明の浮腫・腹痛を究明する～, 2024.
- 62) 川畑仁人. 乾癬性関節炎セミナー. 乾癬性関節炎セミナー, 2024.
- 63) 川畑仁人. EGPA 治療の最適化に向けて. EGPA advanced management forum in Kanagawa, 2024.
- 64) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトの果たす役割を考える～. Metject Web Seminar, 2024.
- 65) 川畑仁人. 患者背景と病態に応じた関節リウマチ治療
～ジセレカの臨床的意義を考える～. Generai Practitioner, 2024.
- 66) 安藤貴泰. 膠原病関連間質性肺炎に対するニンテダニブの予後予測因子. ILD Collaboration Conference ～早期診断・治療と科科連携～, 2024.
- 67) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
-メトジェクトのはたす役割を考える-. メトジェクト適正使用講演会 -関節リウマチ診療ガイドライン 2024-, 2024.
- 68) 高桑由希子. 実臨床から考える薬剤選択
～ゴリムマブが果たすべき役割とは～. Rheumatology Interactive Meeting, 2024.
- 69) 川畑仁人. 関節リウマチ治療における IL-6 標的治療の有用性と安全性マネージメント. RA One Up Seminar 2024, 2024.
- 70) 川畑仁人. 膠原病に合併する間質性肺疾患の治療戦略. CTD-ILD Expert Seminar, 2024.
- 71) 川畑仁人. 膠原病に合併する間質性肺疾患の治療戦略. CTD-ILD Web Seminar, 2024.
- 72) 川畑仁人. 全身性エリテマトーデス ～病気の理解と治療・日常生活について～. 令和 6 年度青葉区難病医療講演会, 2024.
- 73) 川畑仁人. 社会的寛解を見据えた SLE の Total management. National Scientific Exchange Meeting 2024, 2024.
- 74) 高桑由希子. メトジェクトの臨床的意義と Shared Decision Making の重要性について. メトジェクトランチセミナー, 2024.

- 75) 川畑仁人. 家族性地中海熱診療の現状と課題. 自己炎症性疾患 (s J I A / F M F) セミナー ～小児科と成人かの立場から～, 2024.
- 76) 高桑由希子. RA 治療における病診連携について. 今後の病診連携を考える会～RA 治療において～, 2025.
- 77) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療
～D2T-RA を生まないために～. TNFa 阻害薬による治療を考える会, 2025.
- 78) 高桑由希子. メトジェクトが T2T に与えるインパクト. Talking the essence of MTX, 2025.
- 79) 山崎和子. 遺伝性血管浮腫の内科的管理の留意点と多科連携、地域連携. 遭遇するかもしれない緊急性の高い難病『遺伝性血管性浮腫』2025 最新の診断と治療および多科・施設間連携, 2025.
- 80) 川畑仁人. リウマチ性疾患における移行期医療の実践. 第 27 回 Gold Conference, 2025.
- 81) 高桑由希子. フィルゴニチブの有用性
～実臨床下における有効性と安全性の検証も踏まえて～. Jyseleca Web Seminar for RA, 2025.
- 82) 川畑仁人. 関節リウマチにおかえるメトトレキサート治療の最適化～メトジェクトの果たす役割を考える～. メトジェクトインターネットライブセミナー, 2025.
- 83) 川畑仁人. 関節リウマチの病態と診療における最新の話題. 第 83 回 埼玉リウマチ研究会, 2025.
- 84) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトのはたす役割を考える～. Eisai RA Seminar ～Phase1 から再考する～, 2025.
- 85) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトのはたす役割を考える～. メトジェクト適正使用 WEB セミナー, 2025.
- 86) 高桑由希子. メトトレキサート皮下注射剤の臨床意義を考える. メトジェクト適正使用 WEB セミナー, 2025.
- 87) 鈴木翔太郎. RF で紐解く関節リウマチの新たな治療戦略. RA 治療における TNF を再考する～RF が呈する新たな課題～, 2025.
- 88) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトのはたす役割を考える～. 関節リウマチの Phase I 治療を考える会, 2025.
- 89) 川畑仁人. IL-6 阻害薬の特徴と最適な使用について. Kanagawa IL-6 Expert web Seminar, 2025.
- 90) 川畑仁人. RA/PsA Expert Forum. RA/PsA Expert Forum, 2025.
- 91) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトのはたす役割を考える～. リウマチ治療を考える会 -整形外科と内科の連携-, 2025.
- 92) 高桑由希子. 『EGPA 治療におけるステロイドフリー実現への期待
～好酸球と IL-5 の役割を踏まえて～』. 湘南 EGPA サミット, 2025.
- 93) 川畑仁人. 関節リウマチにおけるメトトレキサート治療の最適化
～メトジェクトのはたす役割を考える～. メトジェクト発売 3 周年講演会 from 信濃町, 2025.
- 94) 川畑仁人. RA 適正使用講演会 in 高知. RA 適正使用講演会 in 高知, 2025.

		和	英
--	--	---	---

		文	文
著 書		14	
論 文	原著	2	23
	解説又は総説	10	
	症例報告		1
	その他	5	
学会発表	国内学会	65	1
	国際学会		1
	その他	94	

神経精神科学

著書

- 1) 安藤久美子, 中澤佳奈子, 佐藤美智子. SPIRITS ワークブック ～パーソナル・リカバリーを支援する～ 2024;:1-280.
- 2) 安藤久美子, 中澤佳奈子, 佐藤美智子. SPIRITS: リカバリーのための性犯罪治療マニュアル ～再犯防止と再出発のための支援スキーム～ 2024;:1-320.
- 3) 小口芳世. 面接・精神療法 日本精神神経学会専門医認定試験問題 解答と解説 第4集 2024;:9-16.
- 4) 小口芳世. 適応反応症 精神科研修ノート 改訂第3版 2024;:413-417.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 小野和哉. 【存在忘却の時代にむけて】弁証法的行動療法の特性. 最新精神医学, 2024;29(3):163-167.
- 2) 勝村恭子、袖長光知穂、古茶大樹. 4) 葉酸欠乏症
症状性・器質性精神障害診療ガイド2024年版
ー精神症状を引き起こす身体疾患、物質・医薬品ー. 精神科治療学, 2024;39(増刊号):70-71.
- 3) 安田 学. 【症状性・器質性精神障害診療ガイド-精神症状を引き起こす身体疾患, 物質・医薬品-(2024年版)】(第1章)全身性疾患 代謝・内分泌疾患 甲状腺機能亢進症. 精神科治療学, 2024;39(増刊号):10-11.

② その他

- 1) 小野和哉. 東洋と西洋の知から精神療法を深める:あるがままとマインドフルネスの一般臨床への活用 弁証法的行動療法の一般臨床での実際. 精神神経学雑誌, 2024;(特別号):S333.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Oguchi Y, Miyake N, Ando K. Barriers to long-acting injectable atypical antipsychotic use in Japan: Insights from a comparative psychiatrist survey. Neuropsychopharmacol Rep, 2024;44(2):417-423.
- 2) Junko Morishita, Manabu Yasuda, Shiro Suda. Help-seeking behavior of male victims of intimate partner violence in Japan. PCN reports : psychiatry and clinical neurosciences, 2024;3(4):e70013.
- 3) Kenji Fuseya, Yu Mimura, Shinichiro Nakajima, Masaru Mimura, Koji Kasanuki, Yoshihiro Noda. A Systematic Review and Meta-Analysis on the Characteristics of Transcranial Magnetic Stimulation Treatment Protocols for Patients with Alzheimer's Disease. Journal of Alzheimer's Disease, 2025;:doi: 10.1177/13872877251325887..

学会発表

① 国内学会

- 1) 安藤久美子. 犯罪精神病理と異常性. 第20日本司法神経医学会大会, 2024.
- 2) 小口芳世. 司法精神医療とスティグマ. 第20回日本司法精神医学会, 2024.
- 3) 神山昌也、袖長光知穂、勝村恭子、古茶大樹. 運転免許試験で「認知症のおそれがある」と指摘されて、当院を単独受診された高齢者の特徴. 第20回日本司法精神医学会大会, 2024.
- 4) 安藤久美子. 触法精神障害者のダブルスティグマにどう対峙すべきか:一般人口を対象とした全国調査からの再考. 第20日本司法神経医学会大会, 2024.

- 5) 安藤久美子. 多職種で学ぶ！日常臨床に活かせる司法精神医学技法. 第 20 日本司法神経医学会大会, 2024.
- 6) 伏屋研二, 樋口遼太郎, 笠貫浩史, 中川敦夫, 古茶大樹. 難治性うつ病の治療最適化を目指して：うつ multimodal アプローチ・プログラムの実践報告 - TMS 編. 第 120 回日本精神神経学会学術総会, 2024.
- 7) 安藤久美子. 支援を拒否するパーソナリティ症事例への育児支援. 第 120 日本精神神経学会学術総会, 2024.
- 8) 安藤久美子. JSPN における Gender Equality の 10 年. 第 120 日本精神神経学会学術総会, 2024.
- 9) 安藤久美子. 少年の精神鑑定：特定少年に焦点をあてて. 第 120 日本精神神経学会学術総会, 2024.
- 10) 小口芳世. 首都圏地域下の措置入院統合失調症患者における持続性抗精神病薬注射製剤（LAI）の使用実態調査. 第 120 回日本精神神経学会オンデマンド限定配信, 2024.
- 11) 石田健祐, 菅原一晃, 樋口遼太郎, 鈴木洋平, 古茶大樹. 意味性認知症、アルツハイマー型認知症と診断された高齢女性 2 症例に対する画像検査アプローチの考察. 第 120 回日本精神神経学会学術総会, 2024.
- 12) 田所正典, 木下英子, 笠貫浩史. 超高齢者における認知機能の検討～STM-COMET と HDS-R を用いて 90 歳代の特徴を他世代と比較した結果から～. 日本老年精神医学会, 2024.
- 13) 塚原さち子, 田所正典, 木下英子, 橋本知明, 袖長光知穂, 笠貫浩史. HDS-R 得点からみた高齢者の健常レベルの認識に関する医師へのアンケート調査
～HDS-R 得点に及ぼす加齢の影響について～. 第 39 回 日本老年精神医学会, 2024.
- 14) 田所正典, 笠貫浩史, 伏屋研二, 工藤弘毅, 古茶大樹. レビー小体型認知症の人物誤認症状にたいする対応の難しさについて～有料老人ホーム入居夫婦の事例～. 日本老年医学会, 2024.
- 15) 塚原さち子, 根本泰明, 島内智子, 小野和哉. 長期化しやすい摂食障害を小規模児童思春期ユニットで短期で治療を行うことは可能か？. 第 65 回日本児童青年精神医学会, 2024.
- 16) 根本泰明, 塚原さち子, 島内智子, 小野和哉. 短期児童思春期精神科入院治療チームで心理士はどのように機能しているのか？. 第 65 回 日本児童青年精神医学会, 2024.
- 17) 小口芳世. 措置入院患者の身体合併症に関する全国 WEB アンケート調査. 第 19 回日本精神科救急学会, 2024.
- 18) 村岡陽, 間野航, 佐々木友理加, 相原茉莉, 森山久美, 三宅誕実. 緩和ケア病棟における精神・心理的支援の現状. 東京精神医学会第 133 回学術集会, 2025.
- 19) 間野航, 村岡陽, 佐々木友理加, 三宅誕実. フラッシュバック様の症状を呈した強迫症の 1 例. 東京精神医学会第 133 回学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) Kazuya Ono. Long-term course of cases of borderline personality disorder with comorbid developmental disorders. The 2024 meeting of the European Society for the Study of Personality Disorders, 2024.
- 2) Kenji Fuseya, Koji Kasanuki, Ryotaro Higuchi, Atsuo Nakagawa, Hiroki Kochi. Case report: multimodal clinical approach with rTMS and CBT in a case of difficult to treat depression. 6th International Brain Stimulation Conference, 2025.

③ その他

- 1) 小口芳世. 外来統合失調症患者に対する維持治療 ～LAI の適剤適処を目指して～. HOPE IN SCHIZOPHRENIA～リカバリーのその先へ～（janssen pro 配信）主催（株）ヤンセンファーマ, 2024.
- 2) 小口芳世. Post-psychotic depression の治療戦略 ～Lurasidone は有効な治療選択肢となり得るのか～. 明日から活かせる精神科診療 Tips（LIVE 配信）主催（株）住友ファーマ, 2024.
- 3) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリ

グ研究研究分担班班会議，2024.

- 4) 安藤久美子. 発達障害について. 「取調べ技術・捜査指揮研修科」教養, 警察大学校, 2024.
- 5) 伏屋研二, 笠貫浩史, 古茶大樹. 聖マリアンナ医科大学病院における治療抵抗性うつ病に対する rTMS 療法の経験. 第 41 回 川崎市医師会医学会, 2024.
- 6) 安藤久美子. 精神医学Ⅰ. 家庭裁判所調査官養成課程, 2024.
- 7) 安藤久美子. こどもの自殺を考える. こどものこころセンター講演会, 2024.
- 8) 安藤久美子. 発達障害について. 「取調べ技術・捜査指揮研修科」教養, 警察大学校, 2024.
- 9) 小口芳世. コロナ後遺症の診療における精神科との連携. コロナ後遺症オンライン研修会 診療における精神科との連携と職場復帰に向けた支援 (Web 開催) 主催: 東京都保健医療局感染症対策部, 2024.
- 10) 安藤久美子. 精神医学Ⅱ, 発達障害. 家庭裁判所調査官養成課程, 2024.
- 11) 島内智子. 大学病院の小規模児童精神科のできるごと/フランスの児童精神科医療システムの紹介. 第 22 回 川崎市の児童精神医療・保健福祉・教育の連携の会 (川崎児相主催), 2024.
- 12) 小口芳世. コロナ禍における抑うつを解剖する. メンタルヘルスセミナー～患者と医療従事者すべての心の健康のために～主催 (株) ヴィアトリス製薬合同会社, 2024.
- 13) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究研究分担班班会議, 2024.
- 14) 島内智子. 摂食障害. 神奈川県精神科専攻医合同 WEB 勉強会, 2024.
- 15) 島内智子. 児童精神科が在宅支援に期待すること～入院診療を担当する児童精神科医の立場から. 在宅支援の現状と展望 親子丸ごと支援～フランス児童相談所職員を迎えて, 2024.
- 16) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究研究分担班班会議, 2024.
- 17) 小口芳世. コロナ禍における睡眠の諸問題. Belsonra COVID-19 Web セミナー主催 (株) MSD, 2024.
- 18) 小口芳世. コロナ後遺症とその周辺の臨床. 慶應義塾大学精神・神経科学教室 精神薬理学研究室研究会, 2024.
- 19) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究研究分担班班会議, 2024.
- 20) 小口芳世. 統合失調症患者に対する薬物治療 ～LAI の適剤適処を目指して～. 統合失調症 薬物治療 HOW TO 若手医師のための統合失調症治療勉強会 Web 開催 (Zoom Webinar) 主催 (株) ヤンセンファーマ株式会社, 2024.
- 21) 小口芳世. 専門医試験のためにここだけはおさえておきたいポイント. 神奈川県精神科専攻医勉強会, 2024.
- 22) 小口芳世. 臨床における不眠症治療 ～睡眠薬戦国時代に備えて～. 第一三共製薬社内研修会 主催 (株) 第一三共製薬株式会社, 2024.
- 23) 小口芳世. LAI の臨床実践を深掘りする ～今さら聞けない LAI の選択のタイミングと活用方法～. HOPE IN SCHIZOPHRENIA Paleiperidone 製剤を使いこなす ～急性期から一貫した治療～Web 開催 (Janssen Pro) 主催 (株) ヤンセンファーマ株式会社, 2024.
- 24) 島内智子, 塚原さち子, 根本泰明, 臼井美子, 小野和哉. 大学病院の小規模児童精神科のできるごと. 第 21 回川崎子どもの心の健康研究会, 2024.
- 25) 島内智子. 児童思春期精神医療サービスの構造を考える～フランスとの比較を通じて. 第 59 回 子どもの心セミナー, 2024.
- 26) 小口芳世. 不眠症治療の最前線 ～睡眠薬戦国時代の到来～. 不眠症治療 WEB セミナー ～睡眠障害からの解放を目指して

～ 主催（株）第一三共製薬株式会社，2024.

- 27) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究研究分担班班会議，2024.
- 28) 小口芳世. 抗うつ薬の適剤適処 ～ボルチオキセチン発売 5 年でわかってきたこと～. Trintellix Web Seminar Web 開催主催（株）武田薬品工業、（株）ルンドベック・ジャパン，2025.
- 29) 小口芳世. 臨床における不眠症治療 ～睡眠薬戦国時代に備えて～. 塩野義製薬社内研修会 主催（株）塩野義製薬株式会社，2025.
- 30) 三宅誕実. 認知症の周辺症状に対する薬物療法. 第 2 回認知症サポートチーム主催研修会，2025.
- 31) 田所正典. 認知症の人のアセスメントの基礎～観察・聴き取りの方法とポイント～. 公認心理師会高齢者部会主催 認知症支援のための神経心理アセスメント研修会，2025.
- 32) 島内智子. 児童思春期精神医療サービスの構造について考える一フランスとの比較を通じて. 高知医療再生機構専門医養成支援事業 高知大学精神科講演会，2025.

		和 文	英 文
著 書		4	
論 文	原著		3
	解説又は総説	3	
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会	19	
	国際学会		2
	その他	32	

小児科学

著書

- 1) 志馬伸朗, 川口敦. 小児の敗血症—研修医からの質問 152— 2024;1(36):1-211.
- 2) 宮本雄策. 熱性けいれん・てんかん 外来医マニュアル 2024;(第5版):858-861.
- 3) 長江千愛. こどものことをもっと知ろう(第63回) 血友病 LiSA 2024;7(31):616-620.
- 4) 勝田友博. こどもの予防接種サポートブック 2024;;1-378.
- 5) 長江千愛. 血液凝固・線溶系検査 血液凝固・線溶・抗凝固検査 フィブリノゲン, フィブリン-フィブリノゲン分解産物, フィブリン分解産物Dダイマー, 可溶性フィブリンモノマー複合体, プロトロンビンフラグメントF1+2, トロンビン・アンチトロンビン複合体 小児内科増刊号 2024;13(56):106-111.
- 6) 松永綾子. 1) 血液ガス、乳酸、ビルビン酸、血中ケトン体分画、遊離脂肪酸 小児内科増刷号 2024;(56):219-224.
- 7) 川口敦, 小田新, 金澤伴幸, 児玉和彦, 庄野健太, 南條浩輝, 野村理, 松島崇浩. Q&A400 こどもの呼吸のコモンなギモンに答える本 2024;;1-356.
- 8) Atsushi Kawaguchi, Marti Pons Odena, Robert J. Graham. Prolonged and Long-Term Mechanical Ventilation in Children 2024;;1-427.
- 9) Tadahito Kato, Atsushi Kawaguchi. Prolonged and Long-Term Mechanical Ventilation in Children with Cardiac Diseases Prolonged and Long-Term Mechanical Ventilation in Children 2024;;163-176.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 堀越裕歩, 山中崇之, 相澤悠太, 中村幸嗣, 荘司貴代, 奥村俊彦, 張慶哲. 小児の COVID-19 ワクチン接種後の遷延する症状の多施設共同研究. 日本小児科学会雑誌, 2024;128(4):569-575.
- 2) 勝田 友博, 天羽 清子, 荒木 かほる, 石和田 稔彦, 大宜見 力, 大城 誠, 神谷 元, 越田 理恵, 清水 直樹, 高野 智子, 津川 毅, 富樫 篤生, 中野 貴司, 西村 直子, 野崎 昌俊, 菱木 はるか, 藤岡 雅司, 保科 隆之, 細矢 光亮, 前田 明彦, 水野 由美, 宮崎 雅仁, 吉川 哲史, 和田 泰三, 岩田 敏, 尾内 一信, 岡田 賢司, 是松 聖悟, 菅 秀, 宮崎 千明, 森内 浩幸, 齋藤 昭彦, 塚原 宏一, 森岡 一郎, 宮入 烈, 多屋 馨子, 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会. 「データベースを用いた国内発症小児 Coronavirus Disease 2019(COVID-19)症例の臨床経過に関する検討」最終報告. 日本小児科学会雑誌, 2024;128(5):777-783.
- 3) 小町 詩織, 大山 玲子, 飛田 睦, 小黒 詩織, 鈴木 真波, 山下 敦己, 伊東 祐順, 長江 千愛, 北東 功. 末梢挿入中心静脈カテーテル感染後に大腿静脈の狭小化を認めた超低出生体重児の一例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2024;34(1):33-34.

② 総説又は症例解説

- 1) 渡邊 康大, 麻生 健太郎. 【完全把握をめざす小児の心疾患】後天性心疾患 乳児特発性僧帽弁腱索断裂. 小児内科, 2024;56(4):671-674.
- 2) 川口敦. 事例でわかる 臨床研究入門(第11回) 交絡因子との付き合い方. 小児科, 2024;65(4):355-363.
- 3) 勝田友博. 小児 COVID-19 の合併症 国内における小児 COVID-19 中等症・重症症例の臨床像. 小児科診療, 2024;87(3):299-303.
- 4) 川口敦. 事例でわかる 臨床研究入門(第12回)(最終回) 臨床研究はどこへ向かうのか. 小児科, 2024;65(5):452-458.
- 5) 中村幸嗣. 小児の敗血症—研修医からの質問 152— 病巣別抗菌薬. 救急・集中治療, 2024;36(1):25-31.

- 6) 鹿野直樹, 松永綾子, 後藤絵里奈, 上野藍, 松井昂哉. 【炎症性腸疾患と類縁疾患】炎症性腸疾患の移行期医療. 小児科, 2024;65(7):682-686.
- 7) 今泉 太一, 山本 俊至. マイクロアレイ染色体検査で明らかになる染色体微細構造異常症候群の診療体制を考える 研究班による実態調査結果. 脳と発達, 2024;56(4):270-272.
- 8) 勝田友博. コロナ流行株の変遷に伴う臨床症状の特徴 小児科領域. インフルエンザ, 2024;25(2):89-93.
- 9) 宮本雄策. 公費補助制度を使いこなす! II 各論 レノックス・ガストー症候群. 小児科診療, 2024;87(8):1075-1079.
- 10) 長江千愛. 【公費補助制度を使いこなす!】血友病(先天性血液凝固因子欠乏症). 小児科診療, 2024;87(8):1041-1046.
- 11) 安藏 慎. 特集 いまさら聞けない成長のキホン 骨の成長・成熟と骨年齢. 小児内科, 2024;56(11):1617-1620.
- 12) 松永綾子. 初診時・救急外来で気づきたい、けどやっぱり気づきにくい、代謝異常症のサイン. 小児科診療, 2025;88(1):77-81.

③ 症例報告

- 1) 大山 玲子, 小町 詩織, 飛田 睦, 小黒 詩織, 鈴木 真波, 伊東 祐順, 北東 功. 当院で経験した分娩外傷による新生児脳梗塞の3例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2024;34(1):7-8.
- 2) 小黒 詩織, 小町 詩織, 鈴木 真波, 伊東 祐順, 北東 功. 胎児期から頭蓋内出血、水頭症を呈した新生児同種免疫性血小板減少症の一例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2024;34(1):3-4.
- 3) 安田真希, 千賀達子, 八谷陽, 安藏慎. 腹部膿瘍を先行合併した日齢6のPanton-Valentine Leukocidin産生MRSAによる乳腺膿瘍の女児例. 外来小児科, 2024;27(2):182-187.
- 4) 木谷 好希, 後藤 海人, 小黒 詩織, 塚原 歩, 古藤 優貴, 本間 瑤子, 新谷 亮, 勝田 友博, 清水 直樹. 気管支喘息として診断・治療されていた夏型過敏性肺炎の学童例. 神奈川医学会雑誌, 2024;51(2):9-13.
- 5) 太田悠佳, 早川潤, 松井亮介, 渡瀬絵里加, 井出彩香, 橋本康司, 宮本雄策, 酒巻雅典, 右田真. COVID-19感染後に発症した思春期重症筋無力症の1男児例. 日本医科大学医学会雑誌, 2024;20(3):216-224.
- 6) 岡村 航, 長田 洋資, 麻生 健太郎, 清水 直樹. 新型コロナウイルス感染症を契機に判明した小児の巨大冠動脈瘤による心筋梗塞. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;:52(2):35-42. doi:10.14963/-stmari.52.35.

④ その他

- 1) 塩原拓実, 有菌翔子, 洲上真希, 齋藤祐貴, 藤川あつ子, 麻生健太郎, 宮寄治. 今月の症例 画像診断 右肺動脈欠損症. 小児科臨床, 2024;77(2):205-207.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Mori Tetsuya, Osumi T, Kada A, Ohki K, Koga Y, Fukano R, Fujita N, Mitsui T, Mori T, Saito AM, Nakazawa A, Kobayashi R, Sekimizu M. Rituximab with standard LMB chemotherapy in pediatric high-risk mature B-cell non-Hodgkin lymphoma: A report from the JPLSG B-NHL14 trial. European Journal of Haematology, 2024;112(4):585-593.
- 2) Shingo Mitsushima, Yuichiro Yahata, Yuuki Tsuchihashi, Chiaki Ikenoue, Munehisa Fukusumi, Shogo Otake, Tomoe Shimada, Takuya Yamagishi, Hajime Kamiya, Yusuke Kobayashi, Hitomi Kurosu, Mai Okuyama, Saeko Morino, Miho Shibamura, Sayaka Takanashi, Taro Kamigaki, Kanako Otani, Manami Nakashita, Hanae Ito, Ayako Miyazaki, Masaya Koshiko, Masanao Harakuni, Megumi Onuma, Hiroko Chiba, Maki Masutani, Natsu Sudani, Yuka Satsuki, Taketoshi Takara, Akira Oka, Tomohiro Katsuta, Naoki Shimizu, Akihiko Saitoh, Tetsuya Sakamoto, Motoi Suzuki, Tomimasa Sunagawa; COVID-19 Fatal Pediatric Cases Database Group. Fatal SARS-CoV-2 Infection among Children, Japan,

January–September 2022. *Emerging infectious diseases*, 2024;30(8) : 1589–1598.

- 3) Mitsushima S, Katsuta T, Shimizu N, et al.. COVID-19 Fatal Pediatric Cases Database Group. Fatal SARS-CoV-2 Infection among Children, Japan, January–September 2022. *Emerging infectious diseases*, 2024;30(8) : 1589–1598.
- 4) Reo Tanoshima, Naoko Inagaki, Manabu Nitta, Soichiro Sue, Sayuri Shimizu, Tatsuya Haze, Kotaro Senuki, Atsushi Kawaguchi, Yusuke Kobayashi, Hideki Oi, Shin Maeda, Yuichiro Yano, Yuji Kumagai, Etsuko Miyagi. Using a Quality Management System and Risk-based Approach in Observational Studies to Obtain Robust Real-World Evidence. *Therapeutic innovation & regulatory science*, 2024;58 : 1006–1013.
- 5) Louis Akiyama, Shinobu Tatsunami, Mieko Akita, Naoki Shimizu. Effectiveness of ultra-/very-high-frequency oscillations combined with helium-oxygen gas mixture in a rabbit model. *Scientific Reports*, 2024; : doi-org/10.1038/s41598-024-77703-0.
- 6) Daisuke Matsubara, Yuri Matsubara, Mamoru Ayusawa, Hiromichi Hamada, Mitsuru Seki, Hiroyuki Yamagishi, Tomohiro Katsuta, Hiroshi Kurosawa, Kazunori Aoki, Naoki Shimizu, Yosikazu Nakamura. Nationwide Survey of Multisystem Inflammatory Syndrome in Children Associated with Coronavirus Disease 2019 in Japan. *Journal of Clinical Immunology*, 2024;45(1) : 45–51.
- 7) Toshiyuki Iwasaki, Toshihiro Kobayashi, Yusaku Miyamoto, Taichi Imaizumi, Shotaro Kaku, Noriko Udagawa, Hitoshi Yamamoto, Naoki Shimizu.. Efficacy and Blood Levels of Lacosamide in Patients with Focal Epilepsy. *Journal of Clinical Medicine*, 2024;19(13) : 6958–6958.
- 8) Aya Saitoh, Hiromi Oku, Tomohiro Katsuta, Hajime Kamiya, Yoichi Ishikawa, Mayumi Takaku, Akihiko Saitoh. Vaccination Education Deficits and Vaccine Hesitancy Among Healthcare Students in Japan: A Cross-Sectional Study. *Vaccines*, 2024; : <https://doi.org/10.3390/-vaccines12121310>.
- 9) Shinya Miura, Nobuaki Michihata, Toshiaki Isogai, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Early predictors of unfavorable outcomes in pediatric acute respiratory failure. *Journal of Intensive Care*, 2024; : <https://jintensivecare.biomedcentral.com/articles/10.1186-/s40560-024-00763-x>.
- 10) Atsushi Kawaguchi, Analía Fernandez, Florent Baudin, Fabrizio Chiusolo, Jan H Lee, Joe Brierley, José Colletti Jr, Karl Reiter, Kyung Won Kim, Yolanda Lopez Fernandez, Martin Kneyber, Marti Pons-Òdena, Natalie Napolitano, Robert J Graham, Tatsuya Kawasaki, Daniel Garros, Gonzalo Garcia Guerra, Philippe Jouvét, for the LongVentKids study group. Prevalence, management, health-care burden, and 90-day outcomes of prolonged mechanical ventilation in the paediatric intensive care unit (LongVentKids): an international, prospective, cross-sectional cohort study. *Lancet Child Adolesc Health*, 2025;(9) : 37–46.

② 総説又は症例解説

- 1) Tatsuya Kin, Hirofumi Noguchi, Atsushi Kawaguchi. Is Donation after Circulatory Determination of Death in Japan Uncontrolled or Controlled?. *OBN Transplantation*, 2024;8(2) : 1–12.
- 2) Miura Shinya, Katsuta Tomohiro, Nakamura Yukitsugu. Predictive biomarker of mortality in children with infectious diseases: a nationwide data analysis. *Frontiers in Pediatrics*, 2024;12 : <https://doi.org/10.3389/-fped.2024.1381310>.
- 3) Jun Takeshita, Atsushi Kawaguchi, Tatsuya Kawasaki, Tadashi Ishihara, Nobuaki Shime. Local Adverse Events Associated with Peripheral Vasoactive Infusion in Children: A Systematic Review with Meta-analysis. *Journal*

of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia, 2024; : <https://doi.org/10.1053/-j.jvca.2024.08.020>.

③ 症例報告

- 1) Masataka Y, Miki N, Akino K, Yamamoto H, Takumi I. Case reports of identical twins with developmental and epileptic encephalopathy with STXB1 gene mutations for whom different CBD supplementations were markedly effective. *Epilepsy & Behavior Reports*, 2024;28 : doi.org/10.1016/j.ebr.2004.100720.
- 2) Shinya Miura, Hideki Ohara, Mai Miyaji, Yoshihiro Igarashi, Shinano Horie, Daigo Ando. Enhancing long-distance medical transport with non-invasive ventilation by linking transport services: A case report. *Pediatric International*, 2025;67(1) : e15867.

学会発表

① 国内学会

- 1) 長江 千愛, 森 美佳, 梅沢 陽太郎, 足利 朋子, 山下 敦己, 清水 直樹, 瀧 正志. 抗FVIIIポリエチレングリコール抗体による incremental recovery の低下に関連した筋肉出血を生じた重症血友病A. 日本小児科学会, 2024.
- 2) 鹿野直樹, 松永綾子, 小町詩織, 佐藤好範, 大竹明, 北東功, 清水直樹. 遅発性OTC欠損症の父娘例. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024.
- 3) 三浦慎也, 道端伸明. 市中発症小児敗血症性ショックの疫学調査—実情に基づいた小児救急医療体制の提唱に向けて—. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024.
- 4) 三浦慎也. 小児感染症におけるバイオマーカーの死亡予測精度. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024.
- 5) 長江千愛. 犬と創る well-being 大学病院における動物介在療法の実践. 日本プライマリ・ケア連合学会学術集会, 2024.
- 6) 小町 詩織, 大山 玲子, 飛田 陸, 小黒 詩織, 鈴木 真波, 山下 敦己, 伊東 祐順, 長江 千愛, 北東 功. 末梢挿入中心静脈カテーテル感染後に大腿静脈の狭小化を認めた超低出生体重児の一例. 日本産婦人科・新生児血液学会, 2024.
- 7) 新井美絵, 安藏慎, 永井晃歩, 井瀧亮, 千賀達子, 石井智弘, 長谷川奉延. 12歳時に低体温を契機に初めて副腎皮質機能低下症と診断された重症心身障害児の1例. 第97回日本内分泌学会学術集会, 2024.
- 8) 稲垣 有佐, 長江 千愛, 山崎 尚也. 診断, 疼痛評価と管理, 止血管理に関するステートメント. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 9) 中尾 綾, 小倉 賢一, 和田 育子, 近澤 悠志, 足利 朋子, 西田 恭治, 後藤 美和, 稲垣 有佐, 牧野 健一郎, 野島 正寛, 瀧 正志, 竹谷 英之, 長江 千愛. 血液凝固異常症QOL調査から見た, COVID-19流行が血友病患者に及ぼした心理的影響. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 10) 長尾 梓(荻窪病院 血液凝固科), 天野 景裕, 澤田 暁宏, 鈴木 伸明, 長江 千愛, 野島 正寛, 藤井 輝久, 河野 美佳, 志村 朋美, 菅尾 宜正, 野上 恵嗣. TSUBASA Study 中間報告 エミシズマブ投与下の運動と出血の関連性, 安全性の評価. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 11) 長江 千愛, エム・ケー・ラスムッセン, ビー・ジー・ベルグ, エー・エスエル・クリスチャンセン, ジェイ・エス・ネアガード, エス・シャー, ジー・テアボルヒ, ティー・スパー. 血友病患者およびその介助者を対象にしたコンシズマブペン型注入器の取り扱いと満足度評価研究. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 12) 嶋 緑倫, 竹谷 英之, 橘川 薫, 瀧 正志, 石黒 精, 長江 千愛, 長尾 梓, 野坂 大輔, 京極 結, 沖 大貴, 岩崎 敬介, 野上 恵嗣. AOZORA 試験3年次中間解析結果 小児血友病A患者におけるエミシズマブの長期安全性及び関節健康. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 13) 長江千愛. Towards Comprehensive Hemophilia Care: Integrating Shared Decision Making 小児科領域における血友病

治療の Shared Decision Making. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.

- 14) 山下 敦己, 梅沢 陽太郎, 森 美佳, 足利 朋子, 長江 千愛, 秋田 美恵子, 鈴木 典子, 山崎 哲, 杉山 誠, 高山 成伸, 瀧 正志. 回収率の低下とアナフィラキシー症状を認めた抗 PEG 抗体陽性の血友病 A 軽症型の一例. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 15) 鈴木 伸明, 野上 恵嗣, 長江 千愛, 長尾 梓, 安藤 昌彦, 鯨塚 八千代, 野坂 大輔, 京極 結, 吉村 朋美, 松下 正. ITI 併用下におけるエミズマブの安全性評価 AKATSUKI Study 48 週中間解析結果. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 16) 近澤 悠志, 足利 朋子, 西田 恭治, 後藤 美和, 稲垣 有佐, 牧野 健一郎, 中尾 綾, 和田 育子, 小島 賢一, 野島 正寛, 瀧 正志, 竹谷 英之, 長江 千愛. 血液凝固異常症 QOL 調査から見えた, 血友病患者における疼痛管理の実態と課題. 日本血栓止血学会学術集会, 2024.
- 17) 長江千愛, 森美佳, 梅沢陽太郎, 足利朋子, 山下敦己, 齋藤祐貴, 藤川あつ子, 瀧正志. 早期血友病性関節症の検出における MRI の有用性. 第 60 回日本小児放射線学会学術集会, 2024.
- 18) 小澤南. 高次医療機関との連携により遅滞なく治療を行えた喘息の一例. 第 433 回 川崎市小児科医会症例検討会, 2024.
- 19) 小澤 南、大出 創、土金清香、小林久志、足利朋子、磯野るり、岩崎俊之、清水直樹. ヒトパレコウイルス 3 型にともなう流行性筋痛症の一例. 神奈川県地方会, 2024.
- 20) 小町詩織, 大山玲子, 飛田睦, 小黒詩織, 鈴木真波, 伊東祐順, 北東功. 同胞面会が両親の児への受け入れのきっかけとなった Down 症候群の一例. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 21) 稲葉 浩, 菊地 茂, 長江 千愛, 野上 恵嗣, 横崎 典哉, 綿引 一成, 寺山 浩美. 遺伝子組換え血液凝固第 IX 因子アルブミン融合タンパク質製剤の活性測定 本邦における凝固一段法および合成基質法を用いたフィールドスタディ. 日本検査血液学会, 2024.
- 22) 萩原真帆、小澤南、堀秀之、右田王介. ムコ多糖症Ⅱ型の児を対象とした在宅酸素補充療法に向けての体制構築の経験. 第 48 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2024.
- 23) 島さほ, 川口敦, 藤谷茂樹. 小児 ICU における遠隔診療モバイルカートを用いた遠隔診療と教育. 日本集中治療学会第 8 回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 24) 小澤南、右田王介、鹿野直樹、松永綾子. 拡大新生児スクリーニングで要精査となった症例における遺伝カウンセリングの困難さ. 第 51 回日本マススクリーニング学会, 2024.
- 25) 原口優海, 松永綾子, 鹿野直樹, 小澤南, 萩原真帆, 田中美砂, 大星渡, 奥山虎之, 右田王介. 新生児スクリーニング要精査のムコ多糖症Ⅰ型新生児に濾紙血でデルマタン硫酸とヘパリン硫酸測定した一例. 第 51 回日本マススクリーニング学会, 2024.
- 26) 太組一朗, 正高佑志, 岸泰宏, 松本俊彦, 山野嘉久, 山本仁, 平良万有実, 鰐淵昌彦, 川上浩司, 秋田定伯, 三上礼子, 長田優香, 饒波正博, 野崎千尋, 秋野公造. カンナビノイドの医療監視. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 27) 岩崎俊之. 焦点てんかん患者におけるラコサミド内服量と最高/最低血中濃度との相関. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 28) 正高佑志, 太組一朗, 山本仁, 秋野公造. CBD サプリメントが著効した STXBP1 遺伝子変異を伴う乳児てんかん性スパズム症候群の双胎例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 29) 大林樹真, 小森学, 鹿野直樹, 川口敦, 清水直樹, 古田繁行. 小児気道チームの集学的治療により気管切開を回避し得た声門下嚢胞の一例. 第 381 回日本小児科学会神奈川県地方会, 2024.
- 30) 鹿野直樹, 松永綾子, 加藤正樹, 千葉清, 森美佳, 長江千愛, 山崎和子, 豊福悦史, 清水直樹. 両側肺血栓塞栓症による心肺停止を契機に診断されたクローン病の一例. 第 51 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会, 2024.

- 31) 荻原真帆、小野結佳、小澤南、松永綾子、尾堀佐知子、宮本雄策、清水直樹、右田王介. The feelings of the family of a child diagnosed with SMA following extended NBS and the limitations of genetic analysis. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.
- 32) 大串健一郎、安藏慎、曾根田瞬、大坪毅人、小池淳樹、古田繁行. 腭神経内分泌腫瘍を合併した Turner 症候群. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会, 2024.
- 33) 小町詩織、松永綾子、荻原真帆、小野結佳、齋藤祐貴、藤川あつ子、右田王介. A Case of Metaphyseal Chondromatosis with D-2-Hydroxyglutaric aciduria in which bone X-ray assisted the diagnosis. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.
- 34) 尾堀佐知子、小野結佳、荻原真帆、朱丞華、小澤南、三橋里美、三宅紀子、右田王介、山野嘉久. A case of CDKL5 deficiency disorder diagnosed by whole genome sequencing. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.
- 35) 鉄原健一、三浦慎也、小林匡、中山祐子、山本洋平. けいれん重積攻略法:これが我々の治療法だ!. 第 31 回小児集中治療ワークショップ, 2024.
- 36) 鹿野直樹、松永綾子、加藤正樹、清水直樹. 潰瘍性大腸炎が疑われたが異なる診断を得た小児期発症炎症性腸疾患の 3 例. 第 15 回日本炎症性腸疾患学会学術集会, 2024.
- 37) 山本英一、石川順一、栗原八千代、富永禎弼、小川優一、高橋英城. 医療機関を主体とした多施設共同研究プラットフォーム:子ども虐待レジストリ (J-Care) 始動に向けて. 日本子ども虐待防止学会第 30 回かがわ大会, 2024.
- 38) 奥野泰史、麻生健太郎、長田洋資、佐々木憲一. 大血管転位症 Mustard 術後のペースメーカー (PM) 不全にリードレス PM を留置した一例. 第 26 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会, 2025.
- 39) 小澤南、右田王介、荻原真帆、山野嘉久、三宅紀子、清水直樹. A case with neurodorsaloid lipofuscinosis type 8 that was difficult to diagnose despite multiple genetic tests. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.

② 国際学会

- 1) Saho Shima, Atsushi Kawaguchi, Yukitsugu Nakamura, Tomohiro Katsuta. CLINICAL FEATURES OF PLASTIC BRONCHITIS ASSOCIATED WITH HUMAN BOCAVIRUS AND INFLUENZA A(H1N1)PDM09 VIRUS IN CHILDREN. 42nd Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases, 2024.
- 2) Saho Shima, Taku Tanaka, Tadahito Kato, Yosuke Osada, Mai Miyaji, Shinya Miura, Ayako Matsunaga, Naoki Shimizu, Atsushi Kawaguchi. Tension Chylothorax with Congenital Thoracic Duct Dysplasia: A Case Report. The 12th World Congress of the World Federation of Pediatric Intensive & Critical Care Societies, 2024.
- 3) Shinya Miura, Tomohiro Katsuta, Yukitsugu Nakamura. PREDICTIVE BIOMARKER OF MORTALITY IN CHILDREN WITH INFECTIOUS DISEASES: A NATIONWIDE DATA ANALYSIS. ESPNIC 2024 (European society for paediatric intensive care, paediatric critical care & neonatal intensive care), 2024.
- 4) Ayako Matsunaga, Kodai Watanabe, Naoki Shimizu. An Infant of Mitochondrial 3-Hydroxy-3-Methylglutaryl-CoA Synthase Deficiency Presented Hypoglycemia. SSIEM Annual Symposium 2024, 2024.
- 5) Atsushi Kawaguchi. What do we know about prolonged ventilation in the PICU?. 6th International Pediatric and Neonatal meeting Barcelona, 2024.
- 6) Takumi I, Yamamoto H, Masataka Y, Akino K.. Cannabis products for wellness, cannabinoid medicine for treatment. Two different approaches but the same goal for patients with intractable epilepsy. The 2024 annual meeting of the American Epilepsy Society, 2024.

③ その他

- 1) 小澤南、右田王介、荻原真帆、松永綾子、宮本雄策、清水直樹. 新生児スクリーニングを契機に当院で経過観察をしている副腎白質ジストロフィー疑いの2症例. 第8回神経代謝病研究会, 2024.
- 2) 長江千愛. 凝固異常症(血友病). 2024年度日本小児血液・がん学会 教育セミナー, 2024.
- 3) 大林樹真, 鹿野直樹, 松永綾子, 田中邦英, 古田繁行. 膵管癒合不全を伴った膵胆管合流異常症の一例. 第39回神奈川県小児肝・消化器疾患研究会, 2024.
- 4) 加藤匡人. 体外循環式心肺蘇生で救命できた広範型肺塞栓症による院外心肺停止の1例. 第9回日本小児循環器集中治療研究会学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書		7	2
論 文	原著	3	10
	解説又は総説	12	3
	症例報告	6	2
	その他	1	
学会発表	国内学会	38	1
	国際学会		6
	その他	4	

新生児

学術論文〔和文〕

① 原著

- 1) 小町 詩織, 大山 玲子, 飛田 睦, 小黒 詩織, 鈴木 真波, 山下 敦己, 伊東 祐順, 長江 千愛, 北東 功. 末梢挿入中心静脈カテーテル感染後に大腿静脈の狭小化を認めた超低出生体重児の一例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2024;34(1) : 33-34.

② 症例報告

- 1) 大山 玲子, 小町 詩織, 飛田 睦, 小黒 詩織, 鈴木 真波, 伊東 祐順, 北東 功. 当院で経験した分娩外傷による新生児脳梗塞の3例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2024;34(1) : 7-8.
- 2) 小黒 詩織, 小町 詩織, 鈴木 真波, 伊東 祐順, 北東 功. 胎児期から頭蓋内出血、水頭症を呈した新生児同種免疫性血小板減少症の一例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2024;34(1) : 3-4.
- 3) 木谷 好希, 後藤 海人, 小黒 詩織, 塚原 歩, 古藤 優貴, 本間 瑤子, 新谷 亮, 勝田 友博, 清水 直樹. 気管支喘息として診断・治療されていた夏型過敏性肺炎の学童例. 神奈川医学会雑誌, 2024;51(2) : 9-13.

学会発表

① 国内学会

- 1) 小町 詩織, 大山 玲子, 飛田 睦, 小黒 詩織, 鈴木 真波, 山下 敦己, 伊東 祐順, 長江 千愛, 北東 功. 末梢挿入中心静脈カテーテル感染後に大腿静脈の狭小化を認めた超低出生体重児の一例. 日本産婦人科・新生児血液学会, 2024.
- 2) 吉高 高士, 佐治 正太, 古谷 菜摘, 中村 健太郎, 西岡 喜美子, 西村 陽子, 鈴木 真波, 近藤 春裕, 岩淵 秀之, 伊東 祐順, 高江 正道, 右田 王介, 北東 功, 鈴木 直. 胎児先天異常の精査で羊水核型異常を認め、両親の染色体検査により児の不均衡型転座が明らかとなった例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 3) 小町 詩織, 大山 玲子, 飛田 睦, 小黒 詩織, 鈴木 真波, 伊東 祐順, 北東 功. 同胞面会が両親の児への受け入れのきっかけとなった Down 症候群の一例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 4) 小町 詩織, 松永 綾子, 荻原 真帆, 小野 結佳, 齋藤 祐貴, 藤川 あつ子, 右田 王介. A Case of Metaphyseal Chondromatosis with D-2-Hydroxyglutaric aciduria in which bone X-ray assisted the diagnosis. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024.
- 5) 松永 綾子, 小町 詩織, 荻原 真帆, 右田 王介. D-2-ヒドロキシグルタル酸尿症と L-2-ヒドロキシグルタル酸尿症における臨床症状の違いについて. 第65回日本先天代謝異常学会学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	1	
	解説又は総説		
	症例報告	3	
	その他		
学会発表	国内学会	5	
	国際学会		
	その他		

小児集中治療

著書

- 1) 志馬伸朗, 川口敦. 小児の敗血症—研修医からの質問 1 5 2— 2024;1(36):1-211.
- 2) 川口敦, 小田新, 金澤伴幸, 児玉和彦, 庄野健太, 南條浩輝, 野村理, 松島崇浩. Q&A400 こどもの呼吸のコモンなギモンに答える本 2024;:1-356.
- 3) Atsushi Kawaguchi, Marti Pons Odena, Robert J. Graham. Prolonged and Long-Term Mechanical Ventilation in Children 2024;:1-427.
- 4) Tadahito Kato, Atsushi Kawaguchi. Prolonged and Long-Term Mechanical Ventilation in Children with Cardiac Diseases Prolonged and Long-Term Mechanical Ventilation in Children 2024;:163-176.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 川口敦. 事例でわかる 臨床研究入門(第11回) 交絡因子との付き合い方. 小児科, 2024;65(4):355-363.
- 2) 川口敦. 事例でわかる 臨床研究入門(第12回)(最終回) 臨床研究はどこへ向かうのか. 小児科, 2024;65(5):452-458.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Reo Tanoshima, Naoko Inagaki, Manabu Nitta, Soichiro Sue, Sayuri Shimizu, Tatsuya Haze, Kotaro Senuki, Atsushi Kawaguchi, Yusuke Kobayashi, Hideki Oi, Shin Maeda, Yuichiro Yano, Yuji Kumagai, Etsuko Miyagi. Using a Quality Management System and Risk-based Approach in Observational Studies to Obtain Robust Real-World Evidence. Therapeutic innovation & regulatory science, 2024;58:1006-1013.
- 2) Shinya Miura, Nobuaki Michihata, Toshiaki Isogai, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Early predictors of unfavorable outcomes in pediatric acute respiratory failure. Journal of Intensive Care, 2024;: <https://jintensivecare.biomedcentral.com/articles/10.1186/s40560-024-00763-x>.
- 3) Atsushi Kawaguchi, Analia Fernandez, Florent Baudin, Fabrizio Chiusolo, Jan H Lee, Joe Brierley, José Colletti Jr, Karl Reiter, Kyung Won Kim, Yolanda Lopez Fernandez, Martin Kneyber, Marti Pons-Òdena, Natalie Napolitano, Robert J Graham, Tatsuya Kawasaki, Daniel Garros, Gonzalo Garcia Guerra, Philippe Juvet, for the LongVentKids study group. Prevalence, management, health-care burden, and 90-day outcomes of prolonged mechanical ventilation in the paediatric intensive care unit (LongVentKids): an international, prospective, cross-sectional cohort study. Lancet Child Adolesc Health, 2025;(9):37-46.

② 総説又は症例解説

- 1) Miura Shinya, Ktsuta Tomohiro, Nakamura Yukitsugu. Predictive biomarker of mortality in children with infectious diseases: a nationwide data analysis. Frontiers in Pediatrics, 2024;12: <https://doi.org/10.3389/fped.2024.1381310>.
- 2) Jun Takeshita, Atsushi Kawaguchi, Tatsuya Kawasaki, Tadashi Ishihara, Nobuaki Shime. Local Adverse Events Associated with Peripheral Vasoactive Infusion in Children: A Systematic Review with Meta-analysis. Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia, 2024;: <https://doi.org/10.1053/-j.jvca.2024.08.020>.

③ 症例報告

- 1) Shinya Miura, Hideki Ohara, Mai Miyaji, Yoshihiro Igarashi, Shinano Horie, Daigo Ando. Enhancing long-distance medical transport with non-invasive ventilation by linking transport services: A case report. *Pediatric International*, 2025;67(1) : e15867.

学会発表

① 国内学会

- 1) 三浦慎也, 道端伸明. 市中発症小児敗血症性ショックの疫学調査—実情に基づいた小児救急医療体制の提唱に向けて—. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024.
- 2) 三浦慎也. 小児感染症におけるバイオマーカーの死亡予測精度. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024.
- 3) 島さほ, 川口敦, 藤谷茂樹. 小児ICUにおける遠隔診療モバイルカートを用いた遠隔診療と教育. 日本集中治療学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 4) 大林樹真, 小森学, 鹿野直樹, 川口敦, 清水直樹, 古田繁行. 小児気道チームの集学的治療により気管切開を回避し得た声門下嚢胞の一例. 第381回日本小児科学会神奈川県地方会, 2024.
- 5) 鉄原健一, 三浦慎也, 小林匡, 中山祐子, 山本洋平. けいれん重積攻略法:これが我々の治療法だ!. 第31回小児集中治療ワークショップ, 2024.
- 6) 奥野泰史, 麻生健太郎, 長田洋資, 佐々木憲一. 大血管転位症 Mustard 術後のペースメーカー (PM) 不全にリードレス PM を留置した一例. 第26回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会, 2025.
- 7) 小森 学, 大林樹真, 古田繁行, 坂本三樹, 川口 敦, 清水直樹. 小児気道チームの取り組み. 第208回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会学術講演会, 2025.

② 国際学会

- 1) Saho Shima, Atsushi Kawaguchi, Yukitsugu Nakamura, Tomohiro Katsuta. CLINICAL FEATURES OF PLASTIC BRONCHITIS ASSOCIATED WITH HUMAN BOCAVIRUS AND INFLUENZA A(H1N1)PDM09 VIRUS IN CHILDREN. 42nd Annual Meeting of the European Society for Paediatric Infectious Diseases, 2024.
- 2) Saho Shima, Taku Tanaka, Tadahito Kato, Yosuke Osada, Mai Miyaji, Shinya Miura, Ayako Matsunaga, Naoki Shimizu, Atsushi Kawaguchi. Tension Chylothorax with Congenital Thoracic Duct Dysplasia: A Case Report. The 12th World Congress of the World Federation of Pediatric Intensive & Critical Care Societies, 2024.
- 3) Shinya Miura, Tomohiro Katsuta, Yukitsugu Nakamura. PREDICTIVE BIOMARKER OF MORTALITY IN CHILDREN WITH INFECTIOUS DISEASES: A NATIONWIDE DATA ANALYSIS. ESPNIC 2024 (European society for paediatric intensive care, paediatric critical care & neonatal intensive care), 2024.
- 4) Atsushi Kawaguchi. What do we know about prolonged ventilation in the PICU?. 6th International Pediatric and Neonatal meeting Barcelona, 2024.

③ その他

- 1) 加藤匡人. 体外循環式心肺蘇生で救命できた広範型肺塞栓症による院外心肺停止の1例. 第9回日本小児循環器集中治療研究会学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書		2	2
論 文	原著		3
	解説又は総説	2	2
	症例報告		1
	その他		
学会発表	国内学会	7	
	国際学会		4
	その他	1	

消化器・一般外科学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 大池信之, 野呂瀬朋子, 角田優子, 杉野隆, 久保秀正, 影山優美子, 蘆田良, 大木克久, 杉浦禎一, 小林慎二郎, 中原一有, 立石敬介. 膵腫瘍の分子多様性～病態の不均一性を紐解く分子病理からみた膵神経内分泌腫瘍の多様性. 胆と膵, 2024;45(7) : 741-748.
- 2) 小泉哲, 大坪毅人. ドレーン排液は、どうみる?～ドレーン管理ははじめの一步～
 - ① ドレーンの分類・目的・留置部位
 - ② ドレーン排液のアセスメント(ドレーン排液観察の基本)
 - ③ 副次的な観察方法
 - ④ 抜去可能になるタイミング・目安
 - ⑤ ドレーンの管理. 消化器ナースング, 2024;30(1) : 10-19.

② 症例報告

- 1) 磯村香介, 井田圭亮, 柴田真知, 土橋篤仁, 小林慎二郎, 小泉哲, 大坪毅人. 急性虫垂炎に起因すると考えられた鼠経ヘルニア非合併の鼠径部皮下膿瘍の1例. 日本腹部救急医学会雑誌, 2024;44(6) : 803-806.

③ その他

- 1) 森本毅, 力石耕介, 牧角良二. 【絶対苦手分野にしない消化管の画像診断】CT colonography (大腸CT) 入門 術前シミュレーション. 臨床画像, 2024;40(11) : 1344-1352.
- 2) 民上真也, 大坪毅人. 施設紹介 聖マリアンナ医科大学病院 新病院. 日本内視鏡外科学会ニュースレター, 2025;49 : 12-12.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Mikami Shinya, Hisatsune Yasuhito, Hiwatari Masaki, Tsukamoto Yoshitsugu, Kimura Sae, Shimada Jin, Enomoto Takeharu, Saji Osamu, Otsubo Takehito. Analysis of Thoracoscopic Enucleation Combined with Esophagoscopy in the Prone Position for Esophageal Submucosal Tumor. JOURNAL OF LAPAROENDOSCOPIC & ADVANCED SURGICAL TECHNIQUES, 2024;34(4) : 354-358.
- 2) Kobayashi Shinjiro, Nakahara Kazunari, Umezawa Saori, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Sato Junya, Tateishi Keisuke, Otsubo Takehito. Elective Cholecystectomy After Endoscopic Gallbladder Stenting for Acute Cholecystitis: A Propensity Score Matching Analysis. Surgical laparoscopy, endoscopy & percutaneous techniques, 2024;34(2) : 171-177.
- 3) Norose Tomoko, Ohike Nobuyuki, Nakaya Daiki, Kamiya Kentaro, Sugiura Yoshiya, Takatsuki Misato, Koizumi Hirota, Okawa Chie, Ohya Aya, Sasaki Miyu, Aoki Ruka, Nakahara Kazunari, Kobayashi Shinjiro, Tateishi Keisuke, Junki Koike. Investigation of the usefulness of a bile duct biopsy and bile cytology using a hyperspectral camera and machine learning. Pathology International, 2024;74(6) : 337-345.
- 4) Ida Keisuke, Kobayashi Shinjiro, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito. Relationship between pancreatic resection volume and post-operative glucose intolerance in distal pancreatectomy : A retrospective study. Indian Journal of gastroenterology: official journal of the Indian Society of Gastroenterology, 2024;

: 1-8.

- 5) Kobayashi Shinjiro, Nakahara Kazunari, Umezawa Saori, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Sato Junya, Tateishi Keisuke, Otsubo Takehito. Benign hepaticocolic strictures after pancreatoduodenectomy. BMC Gastroenterology, 2024;24(1) : 293-293.
- 6) Enomoto Takeharu, Mikami Shinya, Otsubo Takehito, Hiwatari Masaki, Tsukamoto Yoshitsugu, Hisatsune Yasuhito, Shimada Jin, Matsushita Tsunehisa. Retrospective observational cohort study of laparoscopic surgical strategies for gastrointestinal stromal tumors. Updates in Surgery, 2024;76(6) : 2285-2296.
- 7) Nishizawa Hiro, Makizumi Ryouji, Kobayashi Shinjiro, and Otsubo Takehito. Novel Surgical Risk Score for Calculating the Limits of Surgical Invasiveness. Journal of St. Marianna University, 2024;15(2) : 99-108.
- 8) Kimura Sae, Mikami Shinya, Kobayashi Shinjiro, and Otsubo Takehito. Investigation of the Relationship between 4-Step Walking Distance, 6-m Walking Speed, and 5-Times Sit-to-Stand Test in Patients Undergoing Gastrointestinal Surgery. Journal of St. Marianna University, 2024;15(2) : 53-65.
- 9) Kosai-Fujimoto Yukiko, Yoh Tomoaki, Hara Takanobu, Umezawa Saori, Maekawa Aya, Matsuo Yasuko, Ishii Norihiro, Okinaga Hiroko, Endo Itaru, Ohtsuka Masayuki, Eguchi Susumu, Shirabe Ken. It is time for reform: Results from a questionnaire survey on the current status of next generation HBP surgeons in Japan. Journal of Hepato-biliary-pancreatic sciences, 2025;32(1) : 17-25.

② 症例報告

- 1) Enomoto Takeharu, Mikami Shinya, Otsubo Takehito, Tsuda Takashi, Chosokabe Motohiro. Ten-Year Follow-Up After Chemotherapy and Conversion Surgery for Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Positive Stage IV Esophagogastric Junction Cancer With a Pathological Complete Response : A Case Report. Cureus, 2024;16(5) : e60178.
- 2) Mikami Shinya, Kimura Sae, Tsukamoto Yoshitsugu, Hiwatari Masaki, Hisatsune Yasuhito, Fukuoka Asako, Matsushita Tsunehisa, Enomoto Takeharu, Otsubo Takehito. Combined laparoscopic and thoracoscopic repair of adult right-sided Bochdalek hernia with massive liver prolapse: A case report. World Journal of Clinical Cases, 2024;12(14) : 2420-2425.
- 3) Ida Keisuke, Koizumi Satoshi, Tsuchihashi Atsuhito, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito. Hepatocellular carcinoma converted from atezolizumab and bevacizumab combination therapy: a case report. Oxford Medical Case Reports, 2024;12 : 573-575.

学会発表

① 国内学会

- 1) 勝又健太, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 臼井創大, 天野優希, 菊地悠輔, 三重野浩明, 國場幸均, 大坪毅人. 後期高齢者における下部消化管穿孔に対する緊急手術症例での転機に影響する術前因子の検討. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024.
- 2) 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 天野優希, 三重野浩明, 國場幸均, 内藤剛, 大坪毅人. 直腸癌切除術における Tri-staple circular stapler 使用時における縫合不全危険因子の検討. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024.
- 3) 藤塚航陽, 久恒靖人, 土橋篤仁, 井田圭亮, 宮崎恭介, 小泉哲, 大坪毅人. 巨大鼠経ヘルニアに対する治療戦略: 悩まし

い症例の提示。第 22 回日本ヘルニア学会学術集会, 2024.

- 4) 井田圭亮, 小泉哲, 久恒靖人, 大坪毅人. 働き方改革がもたらすヘルニア診療の影響: 大学病院の場合. 第 22 回日本ヘルニア学会学術集会, 2024.
- 5) 亀井奈津子, 岩田啓吾, 岡村隆一郎, 大坪毅人. 後世に残したいダイレククターゲル法. 第 22 回日本ヘルニア学会学術集会, 2024.
- 6) 亀井奈津子, 岩田啓吾, 岡村隆一郎, 大坪毅人. ダイバーシティ時代をむかえて女性外科医のあり方. 第 22 回日本ヘルニア学会学術集会, 2024.
- 7) 亀井奈津子, 岩田啓吾, 岡村隆一郎, 大坪毅人. 鼠経ヘルニア手術における精索脂肪腫の併存頻度. 第 22 回日本ヘルニア学会学術集会, 2024.
- 8) 勝又健太, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 臼井創大, 天野優希, 磯村香介, 三重野浩朗, 國場幸均, 大坪毅人. 腹膜透析に伴う交通性陰嚢水腫および鼠径部ヘルニアに対してヘルニア修復術を施行した 3 例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 9) 鈴木和臣, 増田哲之, 泉家匠, 片山真史, 石井将光, 谷口清章, 四万村司, 朝倉武士, 栗原毅, 吉岡まき, 土居正知, 大坪毅人. 術前診断に難渋した鼠径部脂肪肉腫の 1 切除例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 10) 小林慎二郎. アフタヌーンセミナー
外科医にも環境にも優しいこれからの手術 ～トンプソン開創器を用いた術野展開～. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 11) 磯村香介, 臼井創大, 内藤正規, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 大島隆一, 國場幸均, 大坪毅人. 乳び腹水を伴った小腸軸捻転症に対して腹腔鏡下捻転解除術を施行した 1 例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 12) 梅澤早織, 塚本芳嗣, 民上真也, 樋渡正樹, 久恒靖人, 大坪毅人. 末梢挿入型中心静脈カテーテルが切断された 1 例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 13) 大坪琢磨, 松下恒久, 早川智彬, 本橋直樹, 高城伸平, 田中雄也, 尾崎貴洋, 宮原利行, 角泰廣, 高木正之, 民上真也, 小林慎二郎, 中野浩, 大坪毅人. 腹腔鏡下胃全摘後に脾門部リンパ節再発、脾静脈腫瘍栓に対して、挙上空腸を体腔内でつり上げ、腹腔鏡下腓体部尾部切除を施行した 1 例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 14) 澤田真裕, 浜辺太郎, 柴田真知, 西澤一, 佐々木大祐, 福岡麻子, 朝野隆之, 牧角良二, 大坪毅人. 術前診断し単孔式腹腔鏡下に治療し得た S 状結腸間膜窩ヘルニアの 1 例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 15) 西尾美佐子, 佐々木大祐, 森本毅, 和田慎司, 原武史, 藤川あつ子, 三村秀文, 牧角良二, 大坪毅人. 直腸 (Rb) 部潰瘍穿孔により骨盤内腹膜外腔に大きな膿瘍腔を形成した 1 例. 第 37 回日本腹部放射線学会, 2024.
- 16) 駒井聡太, 松下恒久, 大坪琢磨, 高城伸平, 田中雄也, 尾崎貴洋, 角泰廣, 高木正之, 民上真也, 大坪毅人. 小腸転移により腸重積を起こした食道悪性黒色腫の一例. 第 78 回日本食道学会学術集会, 2024.
- 17) 久恒靖人, 民上真也, 梅澤早織, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 嶋田仁, 榎本武治, 大坪毅人. 血友病 B を合併した進行食道癌患者に対する手術経験. 第 78 回日本食道学会学術集会, 2024.
- 18) 野村基雄, 今村裕, 對馬隆浩, 原浩樹, 三梨桂子, 尾形高士, 民上真也, 倉持英和, 峯真司, 渡邊雅之. 食道胃接合部腺癌 (cT3/T4 もしくは cN+) に対する術前 SOX 療法の第 II 相試験 : ESOX 試験. 第 78 回日本食道学会学術集会, 2024.
- 19) 谷谷信彦, 遠藤格, 熊本宜文, 田中邦哉, 小泉哲, 西澤伸恭, 高橋進一郎, 榎並延太, 山本直人, 三浦文彦. 薬物治療奏効後肝切除に対する外科と内科の考え方: 神奈川内科-外科 HCC 治療連携 meeting アンケート調査より. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.

- 20) 井田圭亮, 小林慎二郎, 薩田祐介, 関根章裕, 五十嵐洋介, 土橋篤仁, 中原一有, 小泉哲, 大坪毅人. Endoscopic Gallbladder Stenting (EGBS) 留置から胆嚢摘出までの期間の関する検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 21) 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 天野優希, 三重野浩明, 内藤剛, 國場幸均, 大坪毅人. 縫合不全を回避するための lip margin を意識した double stapling technique. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 22) 根岸宏行, 内藤正規, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 大島隆一, 國場幸均, 大坪毅人. 回腸人工肛門造設を伴う直腸悪性腫瘍手術後に outlet obstruction をきたした症例の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 23) 大島隆一, 内藤正規, 根岸宏行, 藤塚航陽, 臼井創大, 天野優希, 勝又健太, 國場幸均, 大坪毅人. 90 歳以上の超高齢者大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術の短期および長期成績. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 24) 西澤一, 小林慎二郎, 大坪毅人. 保存的治療後に待機的な憩室切除術を行った十二指腸水平脚憩室炎の 1 例. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 25) 澤田真裕, 小林慎二郎, 西澤一, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. PPPD における Delayed gastric emptying を最小限に予防する Vertical Array Reconstruction (VAR) Technique. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 26) 小林慎二郎, 梅澤早織, 澤田真裕, 西澤一, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 膵液瘻を発生させない膵頭十二指腸切除における膵空腸吻合-COMPRESSED PANcreatic Stump (COMPAS) 吻合-. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 27) 浜辺太郎, 牧角良二, 柴田真知, 佐々木大祐, 福岡麻子, 朝野隆之, 大坪毅人. 80 歳以上の高齢者に対する直腸癌手術症例の検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 28) 塚本芳嗣, 民上真也, 梅澤早織, 樋渡正樹, 久恒靖人, 大坪毅人. 当院における働き方改革とタスクシフト. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 29) 磯村香介, 塚本芳嗣, 民上真也. Recklinghausen 病に合併した多発性小腸 GIST の 1 例. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 30) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 五十嵐洋介, 野呂瀬朋子, 大池信之, 大坪毅人. 当院で経験した膵上皮癌 5 例についての臨床病理学的検討. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 31) 柴田真知, 小林慎二郎, 澤田真裕, 西澤一, 野呂瀬朋子, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大池信之, 大坪毅人. 自己免疫性膵炎の自然経過観察し得た示唆に富む胆嚢癌の 1 例. 第 79 回日本消化器外科学会総会, 2024.
- 32) 井田圭亮, 小林慎二郎, 木村紗衣, 梅澤早織, 関根章裕, 五十嵐洋介, 土橋篤仁, 中原一有, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 尾側膵切除における膵切除位置と術後糖尿病に関する検討. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 33) 中村祐太, 小林慎二郎, 中原一有, 菱田吉明, 曾根正勝. 代謝・内分泌領域からみた膵切除の留意点ー糖尿病とビタミン D を中心にー. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 34) 小林慎二郎, 中原一有, 梅澤早織, 井田圭亮, 五十嵐洋介, 関根章裕, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 外科と内科の肝膵チーム連携による深在性膵損傷に対する治療戦略. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 35) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術における早期回復のための術前栄養・運動療法の必要性. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 36) 小林慎二郎, 中原一有, 梅本久美子, 野呂瀬朋子, 中村祐太, 佐々木信幸, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 大池信之, 砂川優, 立石敬介, 大坪毅人. 当院における”胆道・膵臓病センター”の設置から現在までのと今後の課題. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 37) 木村紗衣, 小林慎二郎, 野呂瀬朋子, 中原一有, 井田圭亮, 関根章裕, 五十嵐洋介, 土橋篤仁, 小泉哲, 大池信之, 立石敬介, 大坪毅人. 術前診断に至らなかった膵 Epidermoid c y s t の 1 例. 第 55 回日本膵臓学会大会, 2024.
- 38) ◎橋本英篤, 渡邊綱正, 鈴木達也, 井田圭亮, 小泉哲, 立石敬介. ABCconversion 肝切除した進行肝細胞癌の 3 例. 日本消

化器病学会関東支部第 380 回例会, 2024.

- 39) 小林慎二郎. 「胆道癌・膵癌治療における 外科の役割と他科連携」. 横須賀外科医会学術講演, 2024.
- 40) 塚本芳嗣, 牧角良二, 木村紗衣, 西澤一, 梅澤早織, 樋渡正樹, 久恒靖人, 浜辺太郎, 民上真也, 大坪毅人. 単一術者による単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の変遷と治療成績—初心者から指導者になるまで—. 11th Reduced Port Surgery Forum in Kazanawa 第 16 回単孔式内視鏡手術研究会 第 26 回 Needlescopic Surgery Meeting, 2024.
- 41) 梅澤早織, 小林慎二郎, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 当院におけるハイリスク症例に対する膵頭十二指腸切除術の周術期管理の工夫と課題. 第 51 回日本膵切研究会, 2024.
- 42) 井田圭亮, 小林慎二郎, 梅澤早織, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 尾側膵切除術における膵液瘻(短期成績)と機能温存(長期成績)に注目した切離部位についての検討. 第 51 回日本膵切研究会, 2024.
- 43) 小林慎二郎, 梅澤早織, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 安全な膵頭十二指腸切除(PD)を目指した手術手技. 第 51 回日本膵切研究会, 2024.
- 44) ◎山崎幸紀, 千葉清, 中村竜士, 杵渕聡志, 福西琢真, 駒ヶ嶺正英, 富本大潤, 谷川和好, 島田勝利, 近田正英, 西巻博, 大原樹, 鈴木直, 牧角良二, 縄田寛. 卵巣癌右外腸骨リンパ節転移により外腸骨静脈浸潤をきたし静脈合併腫瘍切除を行いウシ心膜パッチにて静脈再建を行った一例. 第 31 回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2024.
- 45) 山中聡人, 佐々木大祐, 西澤一, 浜辺太郎, 福岡麻子, 牧角良二, 大坪毅人. 糖尿病性ケトアシドーシスに合併した盲腸壊死の 1 例. 第 873 回外科集談会 (日本臨床外科学会東京支部会), 2024.
- 46) 中原一有, 丹羽はるか, 薩田祐輔, 関根章裕, 五十嵐洋介, 小林慎二郎, 小泉哲, 大坪毅人, 立石敬介. 術後胆管空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的治療. 第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2024.
- 47) 有福厚孝, 小泉哲, 樋渡正樹, 杵渕聡志, 駒ヶ根正英, 松本純一, 大坪毅人. 心臓弁膜症手術時に挿入・留置された脱血用カテーテルにより肝穿孔を生じた 1 例. 第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2024.
- 48) 西澤一, 小泉哲, 塚本芳嗣, 佐々木大祐, 昆祐理, 松本純一, 藤谷茂樹, 大坪毅人. Hybrid ER で蘇生的開腹止血を行った後にダメージコントロール手術と二期的手術を行い救命しえた腸間膜損傷の 1 例. 第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2024.
- 49) 小川敦博, 牧角良二, 福岡麻子, 浜辺太郎, 佐々木大祐, 西澤一, 大坪毅人. 治療に難渋したハルトマン手術後に生じた腹腔内膿瘍の 1 例. 第 45 回神奈川ストーマ研究会, 2024.
- 50) 民上真也. コメンテーター : 4. 食道胃接合部癌の再建法: 日本の標準化はどうする?. 関東腹腔鏡下胃切除研究会, 2024.
- 51) 大串健一郎, 安藏慎, 曾根田瞬, 大坪毅人, 小池淳樹, 古田繁行. 膵神経内分泌腫瘍を合併した Turner 症候群. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会, 2024.
- 52) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 立石敬介, 大坪毅人. 高齢者胆道癌に対する膵頭十二指腸切除のリスクマネージメント. 第 60 回日本胆道学会学術集会, 2024.
- 53) 有福厚孝. Leriche 症候群 を既往にもつ肝細胞癌破裂の 1 例. 第 31 回神奈川肝胆膵外科研究会〜ロマンスカンファ〜, 2024.
- 54) 藤塚航陽, 久恒靖人, 木村紗衣, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 小林慎二郎, 民上真也, 野呂瀬朋子, 渡邊麗子, 大池信之, 大坪毅人. Rindi I 型の胃 Neuroendocrine tumor に対する治療戦略. 第 28 回日本外科病理学会学術集会, 2024.
- 55) 有福厚孝, 小林慎二郎, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 野呂瀬朋子, 大池信之, 中原一有, 大坪毅人. SPACE にて adenocarcinoma が同定され、膵全摘で多彩な病理像が得られた IPMC(Tis) の 1 例. 第 28 回日本外科病理学会学術集会, 2024.

- 56) 柴田真知, 久恒靖人, 民上真也, 木村紗衣, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 大坪毅人. 腹腔鏡下胃全摘術におけるOverlap法を用いた体腔内食道空腸吻合術の術式と成績. 第54回胃外科・術後障害研究会, 2024.
- 57) 西澤一, 浜辺太郎, 佐々木大祐, 福岡麻子, 牧角良二, 大坪毅人. 完全直腸脱の腹腔鏡下直腸吊り上げ術後に再発し腹腔鏡下直腸固定術を施行した一例. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024.
- 58) 根岸宏行, 内藤正規, 澤田真裕, 増田哲之, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 三重野浩明, 中野浩, 大坪毅人. 当院における若年者大腸癌に対する診断と治療. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024.
- 59) 浜辺太郎, 牧角良二, 西澤一, 佐々木大祐, 福岡麻子, 大坪毅人. 当院における若年大腸癌の手術症例の検討. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024.
- 60) 内藤正規, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 天野優希, 増田哲之, 澤田真裕, 中野浩, 大坪毅人. 大学病院・地域中核病院におけるGeneral Surgeonとしての活動. 第86回日本臨床外科学会学術集会, 2024.
- 61) 高城伸平, 松下鈴佳, 駒井聡太, 斎藤萌, 早川智彬, 大坪琢磨, 田中雄也, 相馬奏平, 尾崎貴洋, 松下恒久, 角泰廣, 古畑智久. 当院における腹腔鏡下体腔内吻合の短期成績と手術手技の工夫. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 62) 大島隆一, 四万村司, 臼井創大, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 内藤正規, 朝倉武士, 大坪毅人. 超高齢者(90歳以上)の進行大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術の治療成績. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 63) 福岡麻子, 佐々木大祐, 浜辺太郎, 牧角良二, 大坪毅人. 局所進行大腸癌における術前化学療法, 当院での後方視的検討. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 64) 勝又健太, 内藤正規, 根岸宏行, 臼井創大, 天野優希, 増田哲之, 澤田真裕, 牧角良二, 大坪毅人. 良性疾患による下部消化管穿孔に対する緊急手術症例での後期高齢者における転帰のリスク因子の検討. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 65) 内藤正規, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 天野優希, 増田哲之, 澤田真裕, 中野浩, 大坪毅人. 腹腔鏡下大腸切除術における体腔内腸管切離法による体腔外機能的端々吻合の検討. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 66) 榎本武治, 有木宏宗, 大館知佳, 本鍋田由美子, 福澤知子, 内川隆子, 長田直彦, 安田宏, 明石嘉浩, 大坪毅人. 当院におけるDo not attempt resuscitation(DNAR)の取得並びに多職種での共有について. 第19回医療の質・安全学会学術集会, 2024.
- 67) 有木宏宗, 榎本武治, 大館知佳, 本鍋田由美子, 福澤知子, 内川隆子, 坂上逸孝, 長田尚孝, 安田宏, 明石嘉浩. 転倒・転落と使用薬剤の因果関係の検討. 第19回医療の質・安全学会学術集会, 2024.
- 68) 榎本武治, 森佐和子. ～教育セミナー12～
医療安全・ケアの質の向上にDXで挑む! ベッドサイド情報端末の導入における取り組みと課題. 第19回医療の質・安全学会学術集会, 2024.
- 69) 牧角良二, 福岡麻子, 浜辺太郎, 佐々木大祐, 西澤一, 内藤正規, 四万村司, 大坪毅人. 当院での直腸脱に対する術式選択の妥当性とその治療成績の検討. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 70) 浜辺太郎, 牧角良二, 西澤一, 佐々木大祐, 福岡麻子, 大坪毅人. 直腸NETの外科的切除症例の検討. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 71) 根岸宏行, 内藤正規, 澤田真裕, 増田哲之, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 中野浩, 佐々木大祐, 福岡麻子, 大島隆一, 四万村司, 牧角良二, 大坪毅人. 閉塞性大腸癌に対し大腸ステントを挿入し待機的手術を施行した症例についての治療成績と課題. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.
- 72) 佐々木大祐, 牧角良二, 西澤一, 浜辺太郎, 福岡麻子, 内藤正規, 四万村司, 大坪毅人. 当科における肛門管腺癌9例の症例. 第79回日本大腸肛門病学会学術集会, 2024.

- 73) 鈴木和臣, 谷口清章, 大島隆一, 四万村司, 大坪毅人. 幽門狭窄を伴う CY1P0 進行胃癌に対し化学療法後ロボット支援下幽門側胃切除術を施行した 1 例. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 74) 樋渡正樹, 民上真也, 木村紗衣, 塚本芳嗣, 久恒靖人, 大坪毅人. 胸腔鏡下に切除を行った横隔膜上食道憩室の 1 例. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 75) 大島隆一, 國場幸均, 宮島伸宜, 鈴木佳透. 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術における当院の導入初期成績とそのこだわり. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 76) 松下恒久, 高城伸平, 相馬泰平, 田中雄也, 尾崎貴洋, 角泰廣, 民上真也, 大坪毅人. 食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の工夫. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 77) 天野優希, 内藤正規, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 増田哲之, 三重野浩朗, 中野浩, 大坪毅人. 腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるゼラチン製癒着防止吸収性バリア(テナリーフ R)の使用経験. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 78) 臼井創大, 内藤正規, 増田哲之, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 三重野浩朗, 中野浩, 大坪毅人. S 状結腸腹膜垂を内容とする右大腿ヘルニア嵌頓に対して腹腔鏡補助下に解除した一例. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 79) 木村紗衣, 民上真也, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 久恒靖人, 大坪毅人. 十二指腸 GIST に対して腹腔鏡下十二指腸局所切除術 (腹腔鏡内視鏡合同手術 LECS) を施行した 1 例. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 80) 浜辺太郎, 牧角良二, 西澤一, 佐々木大祐, 福岡麻子, 大坪毅人. 当院における脾彎曲部結腸癌の手術手技とその治療成績. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 81) 四万村司, 大島隆一, 鈴木和臣, 谷口清章, 牧角良二, 大坪毅人. 市中病院における大腸癌に対するロボット支援下手術導入と課題. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 82) 内藤正規, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 天野優希, 増田哲之, 三重野浩朗, 中野浩, 大坪毅人. 腹腔鏡下結腸切除術における体腔内腸管切離・体腔外吻合法による機能的端々吻合の検討. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 83) 根岸宏行, 内藤正規, 増田哲之, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 三重野浩朗, 中野浩, 大坪毅人. Stage II/III 左側閉塞性大腸癌に対し、腹腔鏡手術を施行した症例の治療成績. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 84) 西澤一, 浜辺太郎, 佐々木大祐, 福岡麻子, 牧角良二, 大坪毅人. 単孔式腹腔鏡下手術を施行した S 状結腸間膜窩ヘルニア 4 例の検討. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2024.
- 85) 臼井創大, 小泉哲, 井田圭亮, 大坪毅人. 成人鼠径ヘルニア症例における鼠径部除圧下腹臥位 CT (CT ヘルニアスタディ) を用いたヘルニア門径の推定法に関する検討: 分析的横断研究. 第 15 回神奈川ヘルニア研究会, 2024.
- 86) 久恒靖人, 小泉哲, 大坪毅人. 術式別にみた成人鼠径ヘルニア術後疼痛に関する検討. 第 15 回神奈川ヘルニア研究会, 2024.
- 87) 嶋田仁, 小泉哲, 大坪毅人. ダイレクト・クーゲル法の注意点 手術適応と術中判断. 第 15 回神奈川ヘルニア研究会, 2024.
- 88) 亀井奈津子, 岩田啓吾, 岡村隆一郎, 小泉哲, 大坪毅人. 鼠径部除圧下腹臥位 CT 撮影法(ヘルニアスタディ)の成果. 第 15 回神奈川ヘルニア研究会, 2024.
- 89) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 臍頭十二指腸切除術における早期回復のための多職種による術前栄養・運動療法の必要性. 第 14 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会, 2025.
- 90) 藤塚航陽, 井田圭亮, 小川敦博, 土橋篤仁, 小林慎二郎, 小泉哲, 大坪毅人. 肝腫瘍と術前診断した横隔膜腫瘍の 1 例. 第 162 回神奈川県臨床外科医学会集談会, 2025.
- 91) 有福厚孝, 小泉哲, 梅澤早織, 樋渡正樹, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小林慎二郎, 大坪毅人. 心臓弁膜症手術時に挿入・留置

された脱血用カテーテルにより肝穿孔を生じた1例。第162回神奈川県臨床外科医学会集談会，2025。

- 92) 小川敦博，久恒靖人，樋渡正樹，塚本芳嗣，井田圭亮，小泉哲，民上真也，大坪毅人。S状結腸間膜窩ヘルニアに対して腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した1例。第162回神奈川県臨床外科医学会集談会，2025。
- 93) 石橋佑香，大嶋佑紀，高井はるか，野々宮明子，柴田みち，民上真也，清水朋子。術前 BMI 別に比較した胃癌術後患者の摂取栄養量及び体組成変化と栄養食事指導の効果について。第40回日本栄養治療学会学術集会，2025。
- 94) 清水朋子，石橋佑香，鈴木由希子，大嶋佑紀，野々宮明子，民上真也。胃癌患者における化学療法遂行の上での栄養管理の工夫について。第40回日本栄養治療学会学術集会，2025。
- 95) 相馬未来，鈴木和臣，泉家匠，大島隆一，片山真史，石井将光，谷口清章，四万村司，朝倉武士，民上真也，大坪毅人。幽門狭窄を伴う CY1P0 進行胃癌に対し、化学療法後ロボット支援下幽門側胃切除術を施行した1例。聖マリアンナ医科大学医学部第87回学術集会，2025。
- 96) 大坪毅人。主任教授退任記念講演：医療の質と安全について思うこと。聖マリアンナ医科大学医学部第87回学術集会，2025。
- 97) 樋渡正樹。外傷性横隔膜ヘルニアに胃穿孔を伴った1例。横浜敗血症セミナーXII，2025。
- 98) 原浩樹，福田俊，今村裕，對馬隆浩，尾形高士，野村基雄，三梨桂子，民上真也，倉持英和，峯真司，渡邊雅之。食道胃接合部腺癌（cT3/T4a もしくは cN+）に対する術前 SOX 療法の第 II 相試験：ESOX 試験。第97回日本胃癌学会総会，2025。
- 99) 鈴木和臣，谷口清章，泉家匠，大島隆一，片山真史，石井将光，四万村司，朝倉武士，伊藤俊一，細田圭，大坪毅人。進行胃癌に対する術前化学療法後のロボット手術の成績。第97回日本胃癌学会総会，2025。
- 100) 山口大輝，井田圭亮，小川敦博，梅澤早織，土橋篤仁，小林慎二郎，小泉哲，大坪毅人。急性胆嚢炎と併発した高齢女性の Fitz-Hugh-Curtis 症候群の1例。第875回外科集談会（日本臨床外科学会東京支部会），2025。
- 101) 浜辺太郎，西澤一，佐々木大祐，福岡麻子，牧角良二，大坪毅人。90歳を超える超高齢者における消化器外科領域の緊急手術症例の検討。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 102) 磯村香介，塚本芳嗣，梅澤早織，樋渡正樹，久恒靖人，民上真也，大坪毅人。有鉤義歯誤飲による食道穿孔に対して腹腔鏡下経裂孔の食道異物摘出術を施行した1例。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 103) 小川敦博，井田圭亮，木村紗衣，梅澤早織，土橋篤仁，小林慎二郎，小泉哲，大坪毅人。胆嚢動脈瘤を併存した黄色肉芽腫性胆嚢炎に対して動脈塞栓術後に待機的胆嚢摘出術を施行した1例。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 104) 久恒靖人，木村紗衣，樋渡正樹，塚本芳嗣，民上真也，大坪毅人。S状結腸間膜窩ヘルニア5例の検討。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 105) 柴田真知，木村紗衣，井田圭亮，小川敦博，梅澤早織，土橋篤仁，小林慎二郎，小泉哲，大坪毅人。内視鏡的に摘出した胃内胆石の1例。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 106) 西澤一，浜辺太郎，佐々木大祐，福岡麻子，牧角良二，大坪毅人。NOMI に対し OAM 管理を行い2期的手術で救命し得た一例。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 107) 梅澤早織，小林慎二郎，中原一有，井田圭亮，土橋篤仁，小泉哲，薩田祐輔，関根章裕，五十嵐洋介，立石敬介，大坪毅人。ERCP 後後腹膜穿孔例における対応。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 108) 樋渡正樹，民上真也，塚本芳嗣，久恒靖人，大坪毅人。外傷性横隔膜ヘルニアに胃穿孔を伴った1例。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。
- 109) 井田圭亮，小林慎二郎，中原一有，小川敦博，梅澤早織，土橋篤仁，小泉哲，立石敬介，大坪毅人。急性胆嚢炎の治療戦略：夜間緊急手術の是非に関する検討。第61回日本腹部救急医学会総会，2025。

② 国際学会

- 1) Isomura Kosuke, Usui Sota, Naito Masanori, Amano Yuki, Katsumata Kenta, Negishi Hiroyuki, Oshima Ryuichi, Kokuba Yukihito, Otsubo Takehito. A case of laparoscopic distorsion release for small intestinal axis torsion with chylous ascites. The International College of Surgeons The 69th Annual Congresss of the Japan Section, 2024.
- 2) Nishizawa Hiro, Hamabe Taro, Sasaki Daisuke, Fukuoka Asako, Asano Takayuki, Makizumi Ryouji, Otsubo Takehito. A case of strangulated bowel obstruction due to vaginal dissection after total hestectomy. The International College of Surgeons The 69th Annual Congresss of the Japan Section, 2024.
- 3) Shibata Machi, Kobayashi Shinjiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Norose Tomoko, Oike Nobuyuki, Otsubo Takehito. A case of BR-A pancreatic head cancer that responded well to chemotherapy. The International College of Surgeons The 69th Annual Congresss of the Japan Section, 2024.
- 4) Kimura Sae, Hisatsune Yasuhito, Umezawa Saori, Hiwatari Masaki, Tsukamoto Yoshitsugu, Yanagisawa Nobuyuki, Mikami Shinya, Ohike Nobuyuki, Otsubo Takehito. A case of giant splenic hemangioma reseted under laparoscopy. The International College of Surgeons The 69th Annual Congresss of the Japan Section, 2024.
- 5) Umezawa Saori, Kobayashi Shinjiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito. A Study of Pancreaticoduodenectomy in the Elderly. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024.
- 6) Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito, Kobayashi Shinjiro, Tsuchihashi Atsuhito, Ida Keisuke. Evalusting Intraoperative Portal Pressure Measurement and Interoperative ICG Measurement as Predictors of Post-Hepatectomy Liver Failure. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024.
- 7) Kobayashi Shinjiro, Umezawa Saori, Nishizawa Hiro, Sawada Masahiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito. Prevention and Treatment of Pancratic Fistula in Pancreatoduodenectomy. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024.
- 8) Matsuo Yasuko, Yoh Tomoaki, Hara Takanobu, Kosai-Fujimoto Yukiko, Umezawa Saori, Maekawa Aya, Ishii Norihiro, Okinaga Hiroko, Shibata Ken. Recruitment and Trainging of sustainable HBP surgeons. The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024.
- 9) Ida Keisuke, Kobayashi Shinjiro, Umezawa Saori, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito. A study on the relationship between pancreatic dissection site and postoperative diabetes mellitus in Distal pancreatectomy (DP). The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024.
- 10) Umezawa Saori. Panel Discusion : recruitemt-education Challenges facing HBP surgeons in Korea and Japan a contemporary crisis. Korea-Japan Educational Collaboration Meeting for young HBP surgenos (HBP SURGERY WEEK 2025), 2025.

③ その他

- 1) 木村紗衣, 古田繁行, 森田康太郎, 川口拓哉, 大林樹真, 新開統子, 大坪毅人. 小児臍ヘルニアと成人臍ヘルニアの比較. 第10回日本小児へそ研究会, 2024.
- 2) 大島隆一. Commentator:. 第7回若浜の会 ～オンサイト開催 ビデオクリニック～, 2024.
- 3) 佐々木大祐. パネリスト :. シン・べんぴシリーズ～全科で語り合う便秘症診療～, 2024.
- 4) 民上真也. パネリスト:ディスカッション「周術期鉄欠乏性貧血の目安とその意義について」. 神奈川 IRON DEFICIENCY

ANEMIA WORK SHOP, 2024.

- 5) 内藤正規. パネリスト：ディスカッション「周術期鉄欠乏性貧血の目安とその意義について」. 神奈川 IRON DEFICIENCY ANEMIA WORK SHOP, 2024.
- 6) 小泉哲. 講演 5 : 肝がん ; 外科的治療. 日本肝臓学会 肝がん撲滅運動市民公開講座, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		9
	解説又は総説	2	
	症例報告	1	3
	その他	2	
学会発表	国内学会	109	
	国際学会		10
	その他	6	

心臓血管外科学

著書

- 1) 西巻博, 丸橋孝昭, 片岡祐一. 救急画像診断のキホン I - point of care の視点も含めて - 2025;36:90-96.

学術論文[和文]

① 症例報告

- 1) 尾崎さなみ, 佐藤如雄, 山家充起, 金光陽子, 石橋祐記, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 原田智雄, 明石嘉浩. 劇症型心筋炎による難治性両心不全に対し長期的に両心補助管理を行った1例. Therapeutic Research, 2024;45(7) : 429-433.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Komita-Moriya Midori, Ogawa Yukihiisa, Kotoku Akiyuki, Nawata Shintaro, Kuramochi Kenji, Ogawa Yasuyoshi, Chiba Kiyoshi, Nishimaki Hiroshi, Mimura Hidefumi. Accuracy and utility of vessel analysis using non-contrast CT for planning endovascular aortic repair. Open Journal of Imaging, 2024;14(3) : 96-105.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎縄田寛. 急性循環不全に対する補助循環治療の現状課題と将来. 第52回人工心臓と補助循環懇話会学術集会, 2024.
- 2) ◎駒ヶ嶺正英, 杵渕聡志, 佐藤如雄, 清野雄介, 千葉清, 谷川和好, 縄田寛. 両心補助を必要とした劇症型心筋炎の1例を振り返って(治療戦略の検討). 第52回人工心臓と補助循環懇話会学術集会, 2024.
- 3) 鈴木寛俊. 遺残坐骨動脈瘤に対してステントグラフト(VIABAHN)を用いて治療した一例. 第52回日本血管外科学会学術総会, 2024.
- 4) ◎千葉清. 当科の胸腹部大動脈瘤の手術成績. 第52回日本血管外科学会学術総会, 2024.
- 5) ◎杵渕聡志, 千葉清, 西巻博, 山崎幸紀, 福西琢真, 駒ヶ嶺正英, 富本大潤, 谷川和好, 近田正英, 島田勝利, 縄田寛, 縄田晋太郎. EVAR後の感染性腹部大動脈瘤の治療. 第52回日本血管外科学会学術総会, 2024.
- 6) 北野史也, 小松純, 松田拓也, 吉田圭佑, 緒方聖友, 小島茂樹, 柴垣有吾, 櫻田勉, 杵渕聡志, 千葉清, 西巻博. 上大静脈内に遺残したカフ型カテーテルの断片を経皮的血管内インターベンションで回収をし得た一例. 第69回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 7) ◎縄田寛, 駒ヶ嶺正英, 千葉清, 谷川和好, 富本大潤, 福西琢真, 杵渕聡志, 山崎幸紀, 呉聖人(NP), 當山護剛(NP), 林田牧人(NP), 近田正英, 西巻博, 島田勝利. 重症筋無力症合併・胸腺全摘術後の心臓弁膜症に対し治療に難渋した症例. 第32回神奈川心臓血管外科フォーラム, 2024.
- 8) 吉沢和也, 武市尚也, 笠原西介, 渡邊紗都, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太輝, 坂井健太, 古小高純章, 渡辺敏, 水越慶, 鈴木規雄, 松田央郎, 佐々木信幸, 明石嘉浩, 小林俊也. 待機的心臓外科手術患者における入院関連機能低下の有無と身体機能の推移についての検討. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 9) ◎山崎幸紀, 千葉清, 中村竜士, 杵渕聡志, 福西琢真, 駒ヶ嶺正英, 富本大潤, 谷川和好, 島田勝利, 近田正英, 西巻博, 大原樹, 鈴木直, 牧角良二, 縄田寛. 卵巣癌右外腸骨リンパ節転移により外腸骨静脈浸潤をきたし静脈合併腫瘍切除を行いウシ心膜パッチにて静脈再建を行った一例. 第31回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2024.
- 10) 中村晴美, 長屋文子, 藤井修一, 藤谷茂樹, 縄田寛. 地元創生の第一歩～地域格差・施設格差をなくすには～ ICTを活用

した持続性可能な支援体制を考える．第 60 回日本移植学会総会，2024.

- 11) 藤井修一，松田有香，佐久美哲也，中村晴美，藤谷茂樹，縄田寛．循環補助用心内留置型ポンプカテーテル（Impella）挿入中に脳波検査を行い、脳電氣的無活動（ECI）と判定した 1 例．第 60 回日本移植学会総会，2024.
- 12) ◎縄田寛，中村晴美，駒ヶ嶺正英，藤井修一，藤谷茂樹．移植医療における働き方改革－具体的対応も含めて CSY5-3 遠隔医療システムの活用はメディカルコンサルタント業務の負担を軽減しうる．第 60 回日本移植学会総会，2024.
- 13) 藤谷茂樹，中村晴美，藤井修一，縄田寛．臓器提供支援事業の現状と課題 遠隔診療システムを用いた脳死下臓器提供施設連携体制事業の取り組み．第 60 回日本移植学会総会，2024.
- 14) ◎杵渕聡志，縄田寛，山崎幸紀，中村竜士，福西琢真，駒ヶ嶺正英，富本大潤，千葉清，近田正英，西巻博，島田勝利，NP 呉聖人，NP 富山護剛，NP 林田牧人．当院の成人大血管手術での NO の使用．Kanagawa iNO Summit 2024，2024.
- 15) 有福厚孝，小泉哲，樋渡正樹，杵渕聡志，駒ヶ根正英，松本純一，大坪毅人．心臓弁膜症手術時に挿入・留置された脱血用カテーテルにより肝穿孔を生じた 1 例．第 16 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会，2024.
- 16) 鹿野直樹，松永綾子，加藤正樹，千葉清，森美佳，長江千愛，山崎和子，豊福悦史，清水直樹．両側肺血栓塞栓症による心肺停止を契機に診断されたクローン病の一例．第 51 回日本小児栄養消化器肝臓学会学術集会，2024.
- 17) 藤井修一，中村晴美，縄田寛，藤谷茂樹．遠隔支援を用いた臓器提供施設連携体制事業の取り組み．第 52 回日本救急医学会総会・学術集会，2024.
- 18) 森谷みどり，小川普久，小徳暁生，縄田晋太郎，倉持賢司，小川泰良，千葉清，西巻博，三村秀文．Accuracy and utility of vessel analysis using non-contrast CT for planning endovascular aortic repair．第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2024.
- 19) ◎千葉清．High risk TEVAR の脳保護．第 65 回日本脈管学会学術総会，2024.
- 20) ◎縄田寛，富本大潤，千葉清，駒ヶ嶺正英，福西琢真，杵渕聡志，山崎幸紀，富田真央，近田正英，島田勝利，西巻博，呉聖人(NP)，富山護剛(NP)，林田牧人(NP)．心筋梗塞後心室中隔欠損において冠血行再建は必須か．第 65 回日本脈管学会学術総会，2024.
- 21) ◎千葉清，山崎幸紀，杵渕聡志，福西琢真，駒ヶ嶺正英，谷川和好，西巻博，縄田寛．Shaggy aorta と高度肺気腫を有する弓部大動脈瘤に対する部分的脳灌流を併用した Zone 0 TEVAR．第 65 回日本脈管学会学術総会，2024.
- 22) ◎杵渕聡志，千葉清，山崎幸紀，富田真央，福西琢真，駒ヶ嶺正英，富本大潤，近田正英，西巻博，縄田寛 NP 呉聖人 NP 富山護剛 NP 林田牧人．ペーチェット病既往のため 治療介入を躊躇された重症大動脈弁閉鎖不全症に対して弁置換術を施行した一例．第 196 回胸部外科関東甲信越地方会，2024.
- 23) ◎駒ヶ嶺正英．植込型補助人工心臓管理・実施施設を目指した多職種連携でのチーム構築．第 62 回日本人工臓器学会大会，2024.
- 24) ◎縄田寛．「近未来の標準手術」重症弁膜症疾患への対応．第 35 回関東心臓外科手術手技研究会，2024.
- 25) ◎縄田寛．重症弁膜症疾患への対応．第 35 回関東心臓外科手術手技研究会，2024.
- 26) ◎山崎幸紀，駒ヶ嶺正英，富田真央，杵渕聡志，福西琢真，富本大潤，千葉清，近田正英，西巻博，縄田寛，呉聖人 NP，富山護剛 NP，林田牧人 NP．大動脈破裂を契機に診断に至った大動脈内膜肉腫（Aortic Intimal Sarcoma）の一例．第 37 回心臓血管外科ウインターセミナー学術集会，2025.
- 27) ◎駒ヶ嶺正英．重症筋無力症・拡大胸腺摘出術後の開心術における当科での術式、周術期管理の工夫．第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会，2025.

- 28) ◎縄田寛. 生体弁 SAVR と TAVI のベストミックスを考える. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2025.
- 29) ◎Satoshi Kinebuchi, Daijun Tomimoto, Takuma Fukunishi,
Masahide Komagamine, Yoshiki Yamasaki, Tomita Masahiro,
Masahide Chikada, Hiroshi Nishimaki, Katsutoshi Shimada, Kan Nawata
Sungin Oh(NP), Moritaka Touyama(NP), Makito Hayashida(NP). Three Cases of Stanford Type A Acute Aortic
Dissection
Complicated by Intraoperative Root Dissection and Rupture
Requiring Additional Bentall Procedure. 第 55 回心臓血管外科学会総会, 2025.
- 30) Mabuchi Kei, Tanabe Yasuhiro, Sato Yukio, Izumo Masaki, Ishibashi Yuki, Nawata Kan, Akashi Yoshihiro.
Prognostic factors for cardiogenic shock cases requiring two or more IMPELLAs, result from the J-PVAD
registry. 第 89 回日本循環器学会学術集会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		1
	解説又は総説		
	症例報告	1	
	その他		
学会発表	国内学会	27	3
	国際学会		
	その他		

呼吸器外科学

著書

- 1) 小島宏司, 佐治久. 転移性肺腫瘍 最新ガイドラインに基づく 呼吸器疾患診療指針 2024; (6) : 448-452.
- 2) 佐治久, 本間崇浩. 早期肺癌の手術術式 呼吸器疾患 最新の治療 2025-2026 2025; : 43-48.
- 3) 本間崇浩. III胸部の手術 4. 肺切除術(開胸, 胸腔鏡) a. 総論(体位, 麻酔, Device, 開胸法) b. 上葉切除(左, 右) c. 中葉切除 必修 小児外科手術 2025; : 80-95.

学術論文[和文]

- ① 総説又は症例解説
 - 1) 平泰彦. 今、なぜ、ヘモグロビンなのか?. ICU と CCU, 2024; 48 (7) : 347-353.
 - 2) 佐治久. 早期非小細胞肺癌 (NSCLC) に対するペムプロリズマブの周術期治療 : KEYNOTE-671 試験の日本人サブグループ解析 . Topics from JLCS 2024 (第 65 回日本肺癌学会学術集会), 2025; : 2-3.
- ② その他
 - 1) 佐治久. 梶原ら “ウロキナーゼ供給不足が複雑性肺炎随伴性胸水における胸腔鏡手術に与える影響について” . 気管支学 , 2024; 46 (5) : 261-261.

学術論文[英文]

- ① 原著
 - 1) Homma Takahiro, Saji Hisashi, Shimada Yoshifumi, Tanabe Keitaro, Kojima Koji, Marushima Hideki, Miyazawa Tomoyuki, Kimura Hiroyuki, Sakai Hiroki, Otsubo Kanji, Hatakeyama Takayuki, Tsuchiya Tomoshi. Early chest tube removal within 6 hours after thoracic surgery results in improved postoperative prognosis and no adverse effects. Journal of Thoracic Disease, 2024; 16 (5) : 3096-3106.
 - 2) Kitamura Naoya, Doki Yoshinori, Tanabe Keitaro, Akemoto Yushi, Shimada Yoshifumi, Ojima Toshihiro, Shimoyama Koichiro, Homma Takahiro, Tsuchiya Tomoshi. Predictive factors of early autologous blood pleurodesis for postoperative air leak. Asian cardiovascular & thoracic annals, 2024; 32 (5) : 306-313.
 - 3) Maniwa Tomohiro, Okami Jiro, Miyoshi Tomohiro, Wakabayashi Masashi, Yoshioka Hiroshige, Mima Tatahiro, Endo Makoto, Hattori Aritoshi, Nakagawa Kazuo, Isaka Tetsuya, Isaka Mitsuhiko, Kita Ryosuke, Sekino Yuta, Mitome Noriko, Aokage Keiju, Saji Hisashi, Nakajima Rru, Okada Morihito, Tsuboi Masahiro, Asamura Hisao, Watanabe Shun-ichi. Lymph node dissection in small peripheral lung cancer: Supplemental analysis of JCOG0802/WJOG4607L. The Journal of thoracic and cardiovascular surgery, 2024; 168 (3) : 674-683.
 - 4) Shinozaki Yusuke, Morikawa Kei, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Saji Hisashi, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Ueda Yumi, Suzuki Fumihiko, Matoba Ryo, Mineshita Masamichi. A Prospective Observational Study on Analyzing Lung Cancer Gene Mutation Variant Allele Frequency (VAF) and Its Correlation with Treatment Efficacy. International Journal of Molecular Sciences, 2024; 25 (21) : 11694.
 - 5) Homma Takahiro, Saji Hisashi, Shimada Yoshifumi, Tanabe Keitaro, Kojima Koji, Marushima Hideki, Miyazawa Yomoyuki, Kimura Hiroyuki, Sakai Hiroki, Otsubo Kanji, Hatakeyama Takayuki, Ojima Toshihiro, Tsuchiya Tomoshi, Igai Hitoshi. Surgical outcomes and learning curve of complex versus simple segmentectomy for uniportal video-assisted thoracoscopic surgery: an initial experience of 100 cases of a single experienced

surgeon. Journal of Thoracic Disease, 2024;16(11) : 7961-7371.

- 6) Zhou Zihao, Deng Cheng, Qin Maoyu, Yang Jie, Homma Takahiro, Dong Song. Chest tube provocative clamping in patients having moderate or intense air leaks after lung resection to accelerate recovery. Journal of Thoracic Disease, 2024;16(12) : 8648-8655.
- 7) Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for Thoracic Surgery; Yoshimura Naoki, Sato Yukio, Takeuchi Hiroya, Abe Tomonobu, Endo Shunsuke, Hirata Yasutaka, Ishida Michiko, Iwata Hisashi, Kamei Takashi, Kawaharada Nobuyoshi, Kawamoto Shunsuke, Kohno Kohji, Kumamaru Hiraku, Minatoya Kenji, Motomura Noboru, Nakahara Rie, Okada Morihito, Saji Hisashi, Saito Aya, Tsuchida Masanori, Suzuki Kenji, Takemura Hirofumi, Taketani Tsuyoshi, Toh Yasushi, Tatsuishi Wataru, Yamamoto Hiroyuki, Yasuda Takushi, Watanabe Masayuki, Matsumiya Goro, Sawa Yoshiki, Shimizu Hideyuki, Chida Masayuki.. Thoracic and cardiovascular surgeries in Japan during 2021: Annual report by the Japanese Association for Thoracic Surgery. General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 2025;73(2) : 133-136.
- 8) Nakagawa Kazuo, Watanabe Shun-Ichi, Wakabayashi Masashi, Yotsukura Masaya, Mimae Takahiro, Hattori Aritoshi, Miyoshi Tomohiro, Isaka Mitsuihiro, Endo Makoto, Yoshioka Hiroshige, Tsutani Yasuhiro, Isaka Tetsuya, Maniwa Tomohiro, Nakajima Ryu, Suzuki Kenji, Aokage Keiju, Saji Hisashi, Tsuboi Masahiro, Okada Morihito, Asamura Hisao, Sekino Yuta, Nakamura Kenichi, Fukuda Haruhiko. Risk Factors for Locoregional Relapse After Segmentectomy: Supplementary Analysis of the JCOG0802/WJOG4607L Trial. Journal of Thoracic Oncology, 2025;20(2) : 157-166.

② 総説又は症例解説

- 1) Furuya Naoki, Homma Takahiro, Saji Hisashi. Neoadjuvant dual immuno-combination therapy with anti-PD-1 antibodies is feasible and safe for resectable non-small cell lung cancer. Journal of Thoracic Disease, 2025;17(2) : 528-530.

③ 症例報告

- 1) Li Jijia, Zu Peng, Jakopovic Marko, Legras Antoine, Saji Hisashi, Onodera Ken, Schlachtenberger Georg, Liu Hongxu. A case report of cStage IIIb squamous cell lung carcinoma completely resected after downstaging with neoadjuvant therapy. Journal of Thoracic Disease, 2024;16(5) : 3503-3511.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎平泰彦, 鹿志村剛, 細山明子, 小島宏司. 一酸化炭素(CO)中毒の新しい治療法について. 第38回日本 Shock 学会学術集会, 2024.
- 2) ◎佐藤雄哉, 水澤純基, 片山宏, 土岐祐一郎, 瀧口修司, 黒川幸典, 片井均, 鈴木健司, 佐治久, 青景圭樹, 小林裕明, 有本貴英, 笠松高弘, 佐野武, 伊藤誠二, 福田治彦. JCOG 術後合併症規準 (Clavien-Dindo 分類) の信頼性の検討. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024.
- 3) ◎佐治久. JCOG0804-1211-0802 と CALGB140503 の知見はリアルワールドに翻訳可能か? Suitable な医療を目指して. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024.
- 4) ◎小西泰介, 柴崎郁子, 大久保翔平, 松岡大貴, 廣田章太郎, 横山昌平, 金澤祐太, 手塚雅博, 土屋豪, 斎藤俊輔, 緒方孝治, 三浦聖子, 本間崇浩, 伊藤栄作, 貫戸明子, 福田宏嗣. 外科系クリニカル・クラークシップにおける Mastery

learning を重視したルーブリック評価法運用の経験. 第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024.

- 5) ◎本間崇浩, 伊藤栄作, 小西泰介, 三浦聖子, 貫戸明子, 絹巻暁子, 高桑修, 谷口大介, 鳥居暁子, 西村謙一, 細川幸希, 宮本真豪, 及川沙耶佳, 染谷真紀, 谷昇子, 種村文孝, 木村武司, 磯部真倫, 高見秀樹, 錦織宏. 外科医のバイアスと心理的安全性: 外科教育に潜むピットフォール. 第 124 回日本外科学会定期学術集会, 2024.
- 6) ◎平泰彦, 森澤健一郎, 津久田純平. 心肺蘇生の胸骨圧迫による脳血流モニターとしての近赤外分光法の有用性. 第 35 回日本臨床モニター学会, 2024.
- 7) ◎本間崇浩. ダークサイドからの帰還. 第 97 回日本産業衛生学会, 2024.
- 8) 土手季, 和田慎司, 宮川久弥恵, 塩原拓実, 縄田晋太郎, 橋本一樹, 濱口真吾, 酒井寛貴, 松本純一, 三村秀文. 特発性血気胸による出血性ショックに対して TAE を施行した 1 例. 第 53 回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 9) ◎大坪莞爾, 鮫島譲司, 多田周, 小池悠太郎, 三好智裕, 多根健太, 青景圭樹, 坪井正博. 気管支吻合後内視鏡写真における白苔の定量化と肉芽形成リスクの検討. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 10) ◎酒井寛貴, 畠山高亨, 大坪莞爾, 木村祐之, 宮澤知行, 本間崇浩, 丸島秀樹, 小島宏司, 小池淳樹, 佐治久. Stage III B 左下葉扁平上皮癌に対し、Checkmate816 レジメン導入後、胸腔鏡下左下葉切除にて根治切除し得た 1 例. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 11) ◎本間崇浩, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司, 佐治久. 胸腔鏡安全技術認定制度から考える単孔式手術の現在地と今後. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 12) ◎大坪莞爾, 畠山高亨, 酒井寛貴, 木村祐之, 宮澤知行, 本間崇浩, 小島宏司, 丸島秀樹, 佐治久. ウサギ気道狭窄モデルに対する鼻粘膜由来間葉系幹細胞シート治療. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 13) ◎本間崇浩, 小島宏司, 佐々木宗一郎, 大平猛, 薄田健史, 早川芳弘, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 宮澤知行, 丸島秀樹, 佐治久. プラス帯電性マイクロ・ナノバブルを用いた制癌作用の検討. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 14) ◎宮澤知行, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 本間崇浩, 杉浦善弥, 丸島秀樹, 小島宏司, 小池宏隆, 佐治久. 抗 NMDA 抗体陽性傍腫瘍性辺縁系脳炎を契機に発見された mixed germ cell tumor. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 15) ◎田邊慶太郎, 北出成, 横山稜, 北村直也, 尾嶋紀洋, 下山孝一郎, 土谷智史, 嶋田喜史, 本間崇浩. multi-port VATS と uni-port VATS の肺葉切除術におけるステイプラー使用本数の検討. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 16) ◎三好智裕, 伊藤宏之, 若林将史, 関野雄太, 鈴木健司, 坪井正博, 守屋康充, 吉野一郎, 津谷康大, 佐治久, 岡田守人, 青景圭樹, 福田治彦, 渡辺俊一. すりガラス影優位な末梢型小型肺癌に対する肺部分切除術後に生じる呼吸機能低下のリスク因子. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会, 2024.
- 17) ◎本間崇浩. 単孔式胸腔鏡下気管支形成術のコツとピットフォール. 第 47 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2024.
- 18) ◎本間崇浩, 伊藤栄作, 小西泰介, 三浦聖子, 貫戸明子, 絹巻暁子, 高桑修, 谷口大介, 鳥居暁子, 西村謙一, 細川幸希, 宮本真豪, 及川沙耶佳, 染谷真紀, 谷昇子, 種村文孝, 木村武司, 磯部真倫, 高見秀樹, 錦織宏. 外科教育に潜むバイアスと心理的安全性. 第 56 回日本医学教育学会大会, 2024.
- 19) ◎本間崇浩, 新垣雅人, 田中良太, 中村彰太, 倉島庸. 呼吸器外科医師の志望動機に関する全国多施設アンケート調査研究. 第 11 回 Surgical Education Summit 2024, 2024.
- 20) 中村晃成, 石田光, 和田慎司, 藤川あつ子, 松岡伸, 三村秀文, 本間崇浩, 渡邊麗子. 大量胸水を伴った巨大な神経鞘腫の手術にて、mesothelial proliferative tumor の併発が発覚した一例. 神奈川県放射線医会 第 64 回例会, 2024.
- 21) 石田光, 和田慎司, 藤川あつ子, 松岡伸, 三村秀文, 本間崇浩, 渡邊麗子. 大量胸水を伴った巨大な神経鞘腫の手術にて

、mesothelial tumor の併発が発覚した一例。第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2024。

- 22) ◎馬庭知弘，岡見次郎，三好智裕，若林将史，喜多亮介，関野雄太，三留典子，青景圭樹，佐治久，中嶋隆，岡田守人，坪井正博，淺村尚生，福田治彦，渡辺俊一。末梢小型非小細胞肺癌肺癌に対する区域切除時の至適リンパ節郭清範囲 — JC0G0802/WJ0G4607L 副次的解析一。第 65 回日本肺癌学会学術集会，2024。
- 23) ◎上垣内篤，濱田顕，岡田守人，齊藤朋人，矢島俊樹，佐治久，永島宗晃，黒田耕志，竹中朋祐，伊藤宏之，春木朋広，坪井正博，岡本勇，山本信之，津谷康大。臨床病期 IA3 の肺野末梢充実型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と区域切除のランダム化比較第Ⅲ相試験。第 65 回日本肺癌学会学術集会，2024。
- 24) ◎佐治久，加藤晃史，岡田守人，池田徳彦，高持一矢，杉尾賢二，堀尾芳嗣，田中文啓，西尾渉，武藤哲史，堀之内秀仁，Heather Wakelee，Jonathan Spicer，Lieberman Moishe，Gao Shugeng，韓士栄，森智子，Steven Keller，Xuan Deng，坪井正博。Perioperative pembrolizumab (pembro) for early-stage NSCLC : Japanese subgroup of KEYNOTE-671。第 65 回日本肺癌学会学術集会，2024。
- 25) ◎井貝仁，本間崇浩，松浦奈都美，千葉眞人。uVATS 肺葉切除導入期の周術期成績並びにラーニングカーブの術者間比較 — 3 施設 4 術者間での検討一。第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会，2024。
- 26) ◎本間崇浩。単孔式胸腔鏡手術 Curved device による効果 — 急がば曲がれ一。第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会，2024。
- 27) ◎本間崇浩，大坪莞爾，畠山高亨，酒井寛貴，木村祐之，宮澤知行，丸島秀樹，小島宏司，佐治久。葉間処理を回避した単孔式胸腔鏡下右 S10 区域切除。第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会，2024。
- 28) ◎齋藤菜奈，酒井寛貴，畠山高亨，大坪莞爾，木村祐之，本間崇浩，丸島秀樹，平泰彦，小島宏司，小泉宏隆，豊田名津美，佐治久。Stage2B の右上葉肺門部扁平上皮癌に術前免疫チェックポイント阻害薬導入しスリーブ切除にて根治切除した 1 例。第 196 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2024。
- 29) ◎佐治久。I 期肺癌に対する手術 vs 放射線 : 現状と将来。日本放射線腫瘍学会 第 37 回学術集会，2024。
- 30) ◎本間崇浩。皮膚保護膜形成剤塗布下の対極板貼付は安全？。第 37 回日本内視鏡外科学会，2024。
- 31) ◎本間崇浩。肺の可動性向上で克服する単孔式下葉複雑区域切除術。第 37 回日本内視鏡外科学会，2024。
- 32) ◎井貝仁，本間崇浩，渡邊拓也，須田隆，森川利昭。本邦における単孔式胸腔鏡下肺区域切除の実態調査。第 37 回日本内視鏡外科学会，2024。
- 33) ◎大坪莞爾，木村祐之，丸島秀樹，酒井寛貴，本間崇浩，小島宏司，佐治久。心嚢内血管処理を要した右中葉切除後の異時多発右上葉肺癌の一例。第 200 回日本肺癌学会関東支部学術集会，2024。
- 34) ◎佐治久。非小細胞肺癌周術期 I0 治療の最新情報 — KEYNOTE671 の全て。第 200 回日本肺癌学会関東支部学術集会 コーヒーブレイクセミナー2，2024。
- 35) ◎平泰彦，佐治久，小島宏司，丸島秀樹，本間崇浩。胸腔穿刺・ドレナージにおける安全な方法の提案 — 肋間動脈損傷を合併した 2 症例から —。第 30 回日本病院総合診療医学会，2025。
- 36) ◎大坪莞爾，畠山高亨，酒井寛貴，木村祐之，本間崇浩，丸島秀樹，小島宏司，佐治久。当院におけるニボルマブ併用術前化学療法の経験。第 197 回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会，2025。
- 37) ◎Saji Hisashi. Oncologic Unmet Needs and Needs to Know in Sublobar Resection. 第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会，2024。
- 38) ◎Hatakeyama Takayuki，Kimura Hiroyuki，Otsubo Kanji，Sakai Hiroki，Homma Takahiro，Miyazawa Tomoyuki，Marushima Hideki，Kojima Koji，Saji Hisashi. Anomalous Arterial Supply to the Normal Basal Segment of the Right Lower Lobe: Thoracoscopic Surgery Following Endovascular Vascular Plug Embolization. The 69th Annual

Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2024.

- 39) ◎Otsubo Kanji, Samejima Joji, Tada Makoto, Koike Yutaro, Miyoshi Tomohiro, Tane Kenta, Aokage Keiju, Tsuboi Masahiro. Association between whitish exudate on anastomotic rings and intraluminal granulation formation following bronchial sleeve resection: a retrospective study. The 69th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2024.

② 国際学会

- 1) ◎Tsubokawa Norifumi, Hishida Tomoyuki, Saji Hisashi, Tsutani Yasuhiro, Wakabayashi Masashi, Endo Makoto, Mimae Takahiro, Miyoshi Tomohiro, Isaka Tetsuya, Isaka Mitsuhiro, Hattori Aritoshi, Yoshioka Hiroshige, Nakajima Ryu, Yotsukura Masaya, Maniwa Tomohiro, Sekino Yuta, Fukuda Haruhiko, Aokage Keiju, Watanabe Shun-ichi, Okada Morihito. Quality Comparison of Mediastinal Lymph Node Dissection in Video-assisted Thoracoscopic Surgery versus Open Thoracotomy for Clinical Stage I - II Non-small Cell Lung Cancer. AATS 104TH ANNUAL MEETING, 2024.
- 2) ◎Tsutani Yasuhiro, Okada Morihito, Wakabayashi Masashi, Saji Hisashi, Hattori Aritoshi, Nakajima Ryu, Tsuboi Masahiro, Asamura Hisao, Yoshioka Hiroshige, Miyoshi Tomohiro, Mimae Takahiro, Endo Makoto, Yotsukura Masaya, Isaka Tetsuya, Isaka Mitsuhiro, Maniwa Tomohiro, Nakagawa Kazuo, Suzuki Kenji, Aokage Keiju, Watanabe Shun-ichi, on behalf of the West Japan Oncology Group and Japan Clinical Oncology Group. The Association Between the Incidence of Non-Lung Cancer Death and the Number of Resected Segments and Postoperative Pulmonary Function from the Randomized Phase 3 Trial - JCOG0802/WJOG4607L. AATS 104TH ANNUAL MEETING, 2024.
- 3) ◎Homma Takahiro. Preoperative single-inhaler triple therapy in lung cancer and untreated chronic obstructive pulmonary disease with poor pulmonary function. The 32nd Europea Conference on General Thoracic Surgery (ESTS), 2024.
- 4) ◎Saji Hisashi. Surgical Management of Residual Mass in Germ Cell Tumors After Chemotherapy. The 3rd Annual Meeting of the South East Asian Thoracic Society (SEATS), 2024.
- 5) ◎Saji Hisashi. Role of Surgery in Oligometastatic NSCLC. The 3rd Annual Meeting of the South East Asian Thoracic Society (SEATS), 2024.
- 6) ◎M. C. Garassino, S. Gao, M. Liberman, J. D. Spicer, K. Chen, T. Vanakesa, L. Thiberville, F. Chaves, G. Liu, M. Okada, H. Saji, K. Laktionov, A. Rittmeyer, J. Bosch-Barrera, R. D. Gentzler, A. K. Ganti, E. Jensen, S. M. Keller, A. Samkari, H. Wakelee. Neoadjuvant Pembrolizumab or Placebo Plus Chemotherapy Followed by Adjuvant Pembrolizumab or Placebo for Early -Stage Non-Small-Cell Lung Cancer (NSCLC): Subgroup Analyses of the Phase 3 KEYNOTE-671 Study. The European Society for Medical Oncology Congress 2024 (ESMO 2024), 2024.

③ その他

- 1) ◎佐治久. 現状における区域切除のエビデンスの総特集. 区域切除 Web セミナ, 2024.
- 2) ◎佐治久. 長期生存を目指した EGFR 陽性肺がんの周術期治療戦略. 第 67 回関西胸部外科学会学術集会 ランチョンセミナー 4, 2024.
- 3) ◎佐治久. 肺がん周術期術後補助療法の UP TO DATE ～EGFR-TKI をどう使いこなす?～. 第 195 回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会 ランチョンセミナー, 2024.
- 4) ◎木村祐之. 当院における肺癌周術期治療. 第 4 回 Immuno-oncology Web Seminar ～For Thoracic Surgeon～, 2024.
- 5) ◎本間崇浩. 多面的視野で探る低侵襲治療～単孔式胸腔鏡手術のもたらす未来像～. 周術期治療セミナー, 2024.

- 6) ◎大坪莞爾. 瘢痕性気道狭窄の病態と治療の研究 ～気管支形成後の内視鏡写真における白苔の定量化と動物実験における細胞治療の検討～. KANAGAWA Thoracic Surgery セミナー2024 ～Next Generation Thoracic Surgery in Kanagawa&Shizuoka Seminar～, 2024.
- 7) ◎佐治久. 長期生存を目指した EGFRm 陽性肺がんの周術期治療戦略. AZ 肺がん周術期治療セミナー, 2024.
- 8) ◎岡田守人, 佐治久, 宿谷威仁, 千田雅之(氏名五十音順). これからの周術期肺癌治療. 第7回日本呼吸器外科学会学術セミナー in 2024, 2024.
- 9) ◎佐治久. 周術期肺癌治療の up date. 第7回日本呼吸器外科学会学術セミナー in 2024, 2024.
- 10) ◎小島宏司. 呼吸器外科領域における再生 ～細胞を用いた気漏対策～. CSL 呼吸器外科 WEB セミナー ～呼吸器外科における手技と気漏対策～, 2024.
- 11) ◎桑折令子, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司, 原正壽, 佐治久. 看護師による最適な禁煙指導法の検討と確立 - 当院での経験より. 第13回日本小児禁煙研究会学術集会, 2024.
- 12) ◎佐治久. 周術期 IO の現在と未来. Medical Education ～臨床における周術期 IO の実際～, 2024.
- 13) ◎佐治久. 周術期 IO の治療戦略とその注意点 : 実臨床症例を通じて考える. Medical Education ～臨床における周術期 IO の実際～, 2024.
- 14) ◎本間崇浩. 呼吸器外科医が考える肺がん術前・術後・Ⅲ期治療. Lung Cancer Skill Up Seminar in Shonan, 2024.
- 15) ◎佐治久. 非小細胞肺癌に対する周術期治療の新展開 ～術前・術後の免疫療法としての KEYNOTE-671～. 非小細胞肺癌 WEB 講演会, 2024.
- 16) ◎本間崇浩, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司, 佐治久. 単孔式アプローチは CPAM 手術の忍容性を高める. 第6回単孔式胸腔鏡手術研究会, 2024.
- 17) ◎本間崇浩. 診療科共通! FUSE に基づくエネルギーデバイスの理論. 第25回 LET Seminar, 2024.
- 18) ◎佐治久. 非小細胞肺癌周術期 IO 治療の最新情報 — KEYNOTE671 etc. Lung Cancer Seminar in Hokuriku, 2024.
- 19) ◎佐治久. 非小細胞肺癌に対する周術期治療の新展開 ～術前・術後の免疫療法としての KEYNOTE-671～. Lung Cancer Symposium 2024 in Tokyo -A new era for perioperative NSCLC-, 2024.
- 20) ◎佐治久, 坪井正博, 堀之内秀仁, 石井源一郎. 周術期非小細胞肺癌における最適な治療選択. Lung Cancer Symposium 2024 in Tokyo -A new era for perioperative NSCLC-, 2024.
- 21) ◎佐治久. 非小細胞肺癌に対する周術期治療の新展開 ～術前・術後の免疫療法としての KEYNOTE-671～. Lung Cancer Seminar ～肺癌周術期治療のこれから～, 2024.
- 22) ◎佐治久. 非小細胞肺癌に対する周術期治療の新展開 ～術前・術後の免疫療法としての KEYNOTE-671～. Expert に学ぶ! 周術期肺癌治療最前線, 2025.
- 23) ◎本間崇浩. 呼吸器外科医が行う周術期薬物治療: ADAURA レジメンと POSEIDON レジメンを含めて. Lung Cancer Perioperative Expert Seminar, 2025.
- 24) ◎佐治久. 非小細胞肺癌に対する周術期治療の新展開 ～術前・術後の免疫療法としての KEYNOTE-671～. 桜山 Lung Cancer Web Seminar 2025, 2025.
- 25) ◎佐治久. 非小細胞肺癌に対する周術期治療の新展開 ～術前・術後の免疫療法としての KEYNOTE-671～. Lung Cancer Web Seminar ～肺癌周術期治療を中心に～, 2025.
- 26) ◎本間崇浩. 肺靱帯アプローチによる S9/10 区域切除術と YE モード. 第2回神奈川 VATS 手技セミナー, 2025.
- 27) ◎本間崇浩. 肺癌周術期の薬物療法～IMpower010 を中心に～. 第5回 Immuno-oncology Web Seminar, 2025.
- 28) ◎本間崇浩. POSEIDON レジメン治療に関する共有. 遺伝子変異陰性進行・再発 NSCLC 治療を考える会, 2025.

- 29) ◎本間崇浩. 肺癌周術期における診断と薬物療法の最前線. 臨床と病理を結ぶカンファレンス 2025, 2025.
- 30) ◎佐治久. 長期生存を目指した EGFRm 陽性肺がんの周術期治療戦略. Lung Cancer Surgery セミナー in 高知, 2025.

		和 文	英 文
著 書		3	
論 文	原著		8
	解説又は総説	2	1
	症例報告		1
	その他	1	
学会発表	国内学会	36	3
	国際学会		6
	その他	30	

小児外科学

学術論文[和文]

① 原著

- 1) Kudo Kosuke, Obayashi Juma, Fukumoto Koji, Kitagawa Hiroaki, Furuta Shigeyuki, Koike Junki. Comparative study of biological characteristics between paediatric hepatocellular tumors and adult hepatocellular carcinoma. International Journal of Biomolecules and Biomedicine, 2024;19(3) : 1-5.
- 2) 古田繁行, 工藤公介, 川口拓哉, 田中邦英, 大林樹真. 特集 極・超低出生体重児の治療戦略 気管切開. 小児外科, 2025;57(1) : 35-38.

② 総説又は症例解説

- 1) 三宅啓, 矢本真也, 野村明芳, 大林樹真, 根本悠里, 津久井崇文, 福本弘二. 当院で行っている胎便性腸閉塞に対するガストログラフィン注腸療法. 日本周産期・新生児学会雑誌, 2024;59(4) : 942-944.
- 2) 古田繁行. ヒルシスブルング病. with NEO, 2024;37(5) : 648-652.
- 3) 大林樹真, 新開統子, 川口拓哉, 森田康太郎, 古田繁行. 特集 門脈血行異常に対する治療 up to date 肝外門脈閉塞症の病態. 小児外科, 2024;56(5) : 420-424.
- 4) 大山慧, 古田繁行. 小児腹部敗血症. 救急・集中治療, 2024;36(1) : 129-137.
- 5) 古田繁行. 特集 教科書にない小児外科疾患に最新情報—国内外の文献・ガイドラインから— Peutz-Jeghers 症候群. 小児外科, 2024;56(6) : 589-593.
- 6) 古田繁行. 特集 小児医療者のための虐待の知識 虐待防止対策. 小児外科, 2024;56(11) : 1132-1135.
- 7) 古田繁行. てんかん治療薬の選び方・使い方<1 剤目でうまくいかなかったときに> 腸重積症. 週刊日本医事新報, 2025;5260 : 44-45.

③ 症例報告

- 1) 大谷春菜, 渡邊李彦, 大久保理沙, 栗生耕太, 大林樹真. 複数個が一塊となった円盤状のネオジム磁石による消化管穿通の1例. 日本小児救急医学会雑誌, 2024;23(3) : 352-355.

学会発表

① 国内学会

- 1) 川口皓平, 井上成一郎, 竹内優太, 牟田裕紀, 小高明雄. 染色体異常を合併した腹壁形成異常の外科的加療と予後. 第124回日本外科学会定期学術集会, 2024.
- 2) 大林樹真, 北川博昭, 関保二, 工藤公介. ウサギ胎仔横隔膜ヘルニアモデル作製に向けた取り組み. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 3) 川口皓平, 井上成一郎, 牟田裕紀, 竹内優太, 小高明雄. 新生児 IVWM における終末回腸でチューブ腸瘻造設によって回盲部を温存し得た1例. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 4) 田中邦英, 関保二, 大林樹真, 川口拓哉, 新開統子, 脇坂宗親, 小池淳樹, 古田繁行, Pringle KC, 北川博昭. 下部尿路閉塞に対する経尿膜管治療を目指した羊胎仔尿膜管開存モデルの作成. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 5) 倉光真登香, 古田繁行, 大山慧, 田中邦英, 大林樹真, 川口拓哉, 西谷友里, 森田康太郎, 藤谷茂樹. 小児外科領域における診療看護師 (NP) の役割. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024.

- 6) 新開統子, 森田康太郎, 川口拓哉, 大林樹真, 北川博昭, 古田繁行. 小児外科疾患の慢性病態に対する漢方治療-症状軽減による QOL 向上を目指して -. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 7) 川口拓哉, 古田繁行, 藤川あつ子, 新開統子, 大林樹真, 森田康太郎. 先天性横隔膜ヘルニアにおける胎児 MRI 肺-肝信号比 (LLSIR) の有用性についての検討. 第 61 回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 8) 大林樹真, 森田康太郎, 川口拓哉, 新開統子, 古田繁行. 喉頭気管分離術前画像検査での術後気管軟化症予測因子. 第 60 回日本小児放射線学会学術集会, 2024.
- 9) 塩原拓実, 藤川あつ子, 有菌翔子, 齋藤祐貴, 古田繁行, 三村秀文. 卵巣捻転を膿瘍形成性虫垂炎と CT で誤診した 1 例. 第 60 回日本小児放射線学会学術集会, 2024.
- 10) 古田繁行. 先天性横隔膜ヘルニアの胎児 MRI 肺・肝信号比は予後を反映するか?. 第 60 回日本小児放射線学会学術集会, 2024.
- 11) 川口皓平, 井上成一朗, 牟田裕紀, 竹内優太, 小高明雄. CPAM との術前鑑別に苦慮した胸壁内前腸嚢胞の 1 例. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 12) 大林樹真, 川口拓哉, 新開統子, 古田繁行. 新生児中腸軸捻転における術中 ICG 蛍光法の有用性: 短腸症候群回避の一例. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 13) 大林樹真, 川口拓哉, 古田繁行. 摘出に工夫を要した小児気道異物の 2 例. 第 37 回日本小児救急医学会学術集会, 2024.
- 14) 大林樹真, 小森学, 鹿野直樹, 川口敦, 清水直樹, 古田繁行. 小児気道チームの集学的治療により気管切開を回避し得た声門下嚢胞の一例. 第 381 回日本小児科学会神奈川県地方会, 2024.
- 15) 和田真穂, 大林樹真, 工藤公介, 田中邦英, 古田繁行. サイロ造設による二期的手術で救命し得た左先天性横隔膜ヘルニアの極低出生体重児例. 第 58 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2024.
- 16) 大串健一郎, 安藏慎, 曾根田瞬, 大坪毅人, 小池淳樹, 古田繁行. 膵神経内分泌腫瘍を合併した Turner 症候群. 第 57 回日本小児内分泌学会学術集会, 2024.
- 17) 古田繁行. 大学病院の小児外科医局員へのアンケート結果から読み解く外科教育ニーズについての考察. 第 40 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 2024.
- 18) 大林樹真, 堀江怜央, 小森学, 坂本三樹, 古田繁行. ボールペンのスプリングによる声門異物の一例. 第 382 回日本小児科学会神奈川県地方会 第 66 回小児科分代会, 2024.
- 19) 工藤公介, 田中邦英, 大林樹真, 北川博昭, 野呂瀬朋子, 大池信之, 古田繁行. 複数回の手術で経時的な組織学的変化を観察しえた難治性 nesidioblastosis の一例. 第 66 回日本小児血液・がん学会学術集会, 2024.
- 20) 小森学, 大林樹真, 古田繁行, 坂本三樹, 川口敦, 清水直樹. 小児気道チームの取り組み. 第 208 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会学術講演会, 2025.

② 国際学会

- 1) Kawaguchi Kohei, Inoue Seiichiro, Muta Yuki, Takeuchi Yuta, Odaka Akio. A case of fetal intestinal volvulus without mal-rotation of terminal ileum successfully preserved ileo-cecal region by using the tube ileostomy. The Pacific Association of Pediatric Surgeons 57th Annual Meeting, 2024.
- 2) Obayashi Juma, Furuta Shigeyuki, Fukumoto Koji, Shinkai Toko, Yamoto Shinya, Miyake Hiromu, Nomura Akiyoshi, Sugai Yu, Nemoto Yuri, Kitagawa Hiroaki. Does laboratory data predict midgut volvulus in neonatal patients with malrotation?. The Pacific Association of Pediatric Surgeons 57th Annual Meeting, 2024.
- 3) Tanaka Kunihide, Obayashi Juma, Kawaguchi Takuya, Seki Yasuji, Berry Max, Koike Junki, Furuta Shigeyuki, Pringle KC, Kitagawa Hiroaki. Creating a urachal cyst in the fetal lamb. The Pacific Association of Pediatric

③ その他

- 1) 木村紗衣, 古田繁行, 森田康太郎, 川口拓哉, 大林樹真, 新開純子, 大坪毅人. 小児臍ヘルニアと成人臍ヘルニアの比較. 第10回日本小児へそ研究会, 2024.
- 2) 田中邦英, 中村竜士, 川口拓哉, 大林樹真, 新開純子, 古田繁行. Giant Bulla による緊張性肺嚢胞症の1例. 第161回神奈川県臨床外科医学会集談会, 2024.
- 3) 大林樹真, 鹿野直樹, 松永綾子, 田中邦英, 古田繁行. 膵管癒合不全を伴った膵胆管合流異常症の一例. 第39回神奈川県小児肝・消化器疾患研究会, 2024.
- 4) 倉光真登香, 古田繁行, 田中邦英, 大林樹真, 川口拓哉, 工藤公介. 小児がん患者の継続的な他職種支援に対し、診療看護師 (NP) が関わった1例. 第34回日本小児外科 QOL 研究会, 2024.
- 5) 古田繁行, 田中邦英, 大林樹真, 川口拓哉, 工藤公介, 倉光真登香. 重症痙攣性麻痺が原因の呼吸障害にバクロフェンポンプが有効であった2症例. 第34回日本小児外科 QOL 研究会, 2024.
- 6) 渡邊裕貴, 大林樹真, 川口拓哉, 古田繁行. 食道閉鎖症術後気管軟化症に対して胸骨正中切開による大動脈吊り上げ術が奏功した1例. 第43回日本小児内視鏡・手術手技研究会, 2024.
- 7) 川口皓平, 井上成一朗, 牟田裕紀, 竹内優太, 小高明雄. 腹腔鏡下胃瘻造設術中にタムガイド®の光を観察した2例. 第43回日本小児内視鏡・手術手技研究会, 2024.
- 8) 工藤公介, 田中邦英, 大林樹真, 川口拓哉, 北川博昭, 古田繁行. 脳死移植登録を行った成人期に達した胆道閉鎖症の2例. 第51回日本胆道閉鎖症研究会, 2024.
- 9) 大林樹真, 脇坂宗親, 川口拓哉, 工藤公介, 田中邦英, 古田繁行. Advanced LPEC 法による修復が有効であった小児大腿ヘルニアの一例. 第15回神奈川ヘルニア研究会, 2024.
- 10) 大林樹真. 当院における小児ラリngoマイクロサージェリー. 第1回川崎小児気道フォーラム, 2024.
- 11) 田中邦英, 工藤公介, 川口拓哉, 西谷友里, 大林樹真, 杉浦善弥, 森美佳, 森鉄也, 古田繁行. 先天性中枢性低換気症候群に合併した神経芽腫～生検後経過観察中の1例～. 第72回神奈川小児腫瘍研究会, 2025.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	2	
	解説又は総説	7	
	症例報告	1	
	その他		
学会発表	国内学会	20	
	国際学会		3
	その他	11	

乳腺・内分泌外科学

著書

- 1) 津川浩一郎. 序文 乳房温存オンコプラスティックサージャリーステップアップガイド 2024;:1-1.
- 2) 座波久光, 浅野裕子, 小川朋子, 喜島祐子, 佐武利彦, 津川浩一郎, 富田興一, 藤本浩司 (JOPBS 乳房温存オンコプラスティックサージャリーワーキンググループ). I. 乳房温存オンコプラスティックサージャリーステップアップガイド 乳房温存オンコプラスティックサージャリーステップアップガイド 2024;:3-11.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 山部淳子, 後藤由香, 古谷悠子, 大津理恵, 福田護. 超音波画像における各種乳房組織マーカーの視認性の比較. 乳腺甲状腺超音波医学, 2024;13(3):1-5.
- 2) 洞下由記, 岩端秀之, 古谷菜摘, 中村健太郎, 田雑瑞穂, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 本吉愛, 高江正道, 津川浩一郎, 鈴木直. 乳がん術後内分泌療法後に短期間で生児を得た事例の検証. 日本がん・生殖医療学会誌, 2025;8(1):25-30.

② 症例報告

- 1) 在原卓, 川本久紀, 都築麻紀子, 酒巻香織, 中野万理, 秋山恭子, 福田護, 津川浩一郎. Doxycycline 投与で奏功した肉芽腫性乳腺炎の5例. 乳癌の臨床, 2024;39(5):445-450.
- 2) 長井(瀧下)茉莉子, 小池淳樹, 吉江玲子, 津川浩一郎. 乳房原発の Solitary fibrous tumor (SFT) の1例. 診断病理, 2025;42(1):84-90.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kawamoto Hisanori, Tsugawa Koichiro, Furuya Yuko, Sakamaki Kaori, Kakimoto Sayoko, Kitajina Mina, Takishita Nagai Mariko, Tazo Mizuho, Nakano Hara Mari, Kuroda Takako, Shimo Ayaka, Shimo Arata, Kojima Yasuyuki, Tsuzuki Makiko, Motoyoshi Ai, Haku Ei, Nishikawa Toru, Kanemaki Yoshihide, Mimura Hidefumi, Fukuda Mamoru. Percutaneous ultrasound-guided cryoablation for early-stage primary breast cancer: a follow-up study in Japan. Breast Cancer, 2024;31(4):695-704.
- 2) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5):571-581.
- 3) Seock-Ah Im, Javier Cortes, David W Cescon, Mastura Md Yusof, Hiroji Iwata, Norikazu Masuda, Toshimi Takano, Chiun-Sheng Huang, Chi-Feng Chung, Koichiro Tsugawa, Yeon Hee Park, Koji Matsumoto, Kenichi Inoue, Ava Kwong, Sherene Loi, Wei Fu, Wilbur Pan, Vassiliki Karantza, Hope S Rugo, Peter Schmid. Results from the randomized KEYNOTE-355 study of pembrolizumab plus chemotherapy for Asian patients with advanced TNBC. NPJ Breast Cancer, 2024;10(1):79-doi: 10.1038/s41523-024-00679-7..
- 4) Takano Y, Suzuki J, Nomura K, Fujii G, Zenkoh J, Kawa H, Kuze Y, Kashima Y, Nagasawa S, Nakamura Y, Kojima M, Tsuchihara K, Seki M, Kanai A, Matsubara D, Kohno T, Noguchi M, Nakaya A, Tsuboi M, Ishii G, Suzuki Y, Suzuki A. Spatially resolved gene expression profiling of tumor microenvironment reveals key steps of lung

adenocarcinoma development. Nature Communications, 2024;15(1) : DOI: 10.1038/s41467-024-54671-7.

② 総説又は症例解説

- 1) Nagasawa Sato, Zenkoh Junko, Suzuki Yutaka, Suzuki Ayako. Spatial omics technologies for understanding molecular status associated with cancer progression. Cancer science, 2024;115(10) : 3208-3217.

③ 症例報告

- 1) Ayaka Shimo, Koichiro Tsugawa, Kaori Sakamaki, Mina Kitajima, Mariko Takishita, Mizuho Tazo, Mari Nakano, Takako Kuroda, Ai Motoyoshi, Makiko Tsuzuki, Toru Nishikawa, Hisanori Kawamoto, Masatomo Doi. The rare case of synchronous bilateral breast metastasis from a lung neuroendocrine tumor (small cell lung carcinoma): a case report and literature review. Surgical case reports, 2024;10(1) : 218-225.

学会発表

① 国内学会

- 1) 西川徹, 在原卓, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 中野万理, 兒島良恵, 溝部怜, 佐々木信幸, 津川浩一郎. 甲状腺手術周術期における動物介在療法 (Animal Assisted Therapy, ATT) ～勤務犬の活動～. 第36回日本内分泌外科学会総会, 2024.
- 2) 伊藤一希, 黒田貴子, 山田都, 在原卓, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 本吉愛, 川本久紀, 西川徹, 榎野宣久, 津川浩一郎. チーム医療の実践により死別前に家族ケアを導入した乳癌患者遺族の一例. 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024.
- 3) 黒田貴子, 佐々木美紀, 伊藤一希, 喜多島美奈, 田雑瑞穂, 佐戸綾子, 古川尚美, 東郷淳子, 橋口さおり, 津川浩一郎. 母親の終末期を受け入れられない子供への積極的介入を行なった乳癌患者の一例. 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024.
- 4) 喜多島美奈, 本吉愛, 齋藤栞奈, 伊藤一希, 山田都, 杉山瑠菜, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 柳澤信之, 都築麻紀子, 白英, 西川徹, 川本久紀, 小池淳樹, 津川浩一郎. 乳癌術後経過中に発症し、早期診断治療により救命できた Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy の1例. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 5) 本吉愛, 山田都, 伊藤一希, 杉山瑠菜, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 志茂新, 小島康幸, 西川徹, 都築麻紀子, 白英, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 転移再発乳癌に対する包括的ゲノムプロファイリング (CGP) 検査の現状と課題. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 6) 志茂新, 津川浩一郎. 乳がん患者の骨マネジメントについて. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 7) 川本久紀, 古谷悠子, 酒巻香織, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 志茂彩華, 土屋聖子, 秋山恭子, 吉江玲子, 都築麻紀子, 本吉愛, 白英, 西川徹, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 早期原発性乳癌に対する凍結療法の前向き観察研究. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 8) 長井(瀧下)茉莉子, 小池淳樹, 伊藤一希, 在原卓, 酒巻香織, 喜多島美奈, 垣本紗代子, 中野万理, 田雑瑞穂, 金山益佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 乳癌における c-myc と細胞周期制御タンパク発現の検討. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 9) 中野万理, 小島康幸, 在原卓, 佐々木美紀, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 松尾益佳, 田雑瑞穂, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 都築麻紀子, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 周術期トリプルネガティブ乳癌に対するペムブロリズマブの使用経験. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.

- 10) 河原太, 佐々木美紀, 在原卓, 垣本紗代子, 坂本菜央, 酒巻香織, 喜多島美奈, 田雑瑞穂, 中野万理, 大井涼子, 黒田貴子, 秋山恭子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. マンモグラフィ・超音波検査ともに異常がなかった触知可能な乳房腫瘍 69 例 (うち乳癌症例 3 例) の検討. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 11) 黒田貴子, 佐戸綾子, 古川尚美, 神蔵奈々, 齋藤栞奈, 伊藤一希, 杉山瑠菜, 山田都, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 都築麻紀子, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 「アドバンスケアアプランニング (ACP) 外来」の実績と取り組み. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 12) 在原卓, 川本久紀, 都築麻紀子, 酒巻香織, 中野万理, 秋山恭子, 福田護, 津川浩一郎. ドキシサイクリン投与で奏功した肉芽腫性乳腺炎の 5 例. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 13) 伊藤一希, 川本久紀, 齋藤栞奈, 山田都, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 本吉愛, 西川徹, 志茂新, 小島康幸, 津川浩一郎. 挿入後インプラントの破損によってヒトアジュバント病を呈した二例. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 14) 山田都, 黒田貴子, 津川浩一郎, 福田護, 矢吹由香里, 川本久紀, 西川徹, 本吉愛, 中野万理, 田雑瑞穂, 瀧下茉莉子, 喜多島美奈, 酒巻香織, 金山益佳, 垣本紗代子, 在原卓, 伊藤一希, 杉山瑠菜. Transgender (トランス女性) がホルモン補充療法中に発症したトリプルネガティブ (TN) 男性乳癌の 1 例. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 15) 齋藤栞奈, 田雑瑞穂, 本吉愛, 山田都, 伊藤一希, 杉山瑠菜, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 中野万理, 黒田貴子, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 腋窩リンパ節転移をきたした悪性葉状腫瘍の一例. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 16) 永澤慧, 岩谷胤生, 本吉愛, 瀧下茉莉子, 垣本紗代子, 山内稚佐子, 横江隆道, 綿貫瑠莉奈, 小池淳樹, 長宗我部基弘, 小島康幸, 前田一郎, 大西達也, 太田智彦, 津川浩一郎, 鈴木穰. 多細胞間遺伝子ネットワーク解析による非浸潤性乳管がんの進展過程の原理解明に基づいたリスク層別化の取り組み (～非浸潤性乳管がんの治療精密化を目指して～). 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 17) 酒巻香織, 津川浩一郎, 福田護, 川本久紀, 西川徹, 小島康幸, 本吉愛, 志茂新, 敦賀智子, 黒田貴子, 中野万理, 田雑瑞穂, 瀧下茉莉子, 喜多島美奈, 松尾益佳, 垣本紗代子, 在原卓, 伊藤一希, 山田都, 杉山瑠菜. HER2 陽性で pT1aNOMO 乳癌の術後抗 HER2 療法適応について. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 18) 中野聡子, 垣本紗代子, 高橋紗綾, 鈴木佑奈, 上田彩華, 壬生明美, 生沼利倫. センチネルリンパ節生検の適応拡大と局所再発の検討. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 19) 野木裕子, 荻谷朗子, 志茂彩華, 名倉直美, 関大仁, 成井一隆, 雑賀美穂, 近藤直人, 笹田伸介, 石飛真人, 櫻井照久, 山内智香子, 森弘樹, 枝園忠彦. 術前化学療法後一次乳房再建症例における乳癌関連志望への予後予測因子—日本乳癌学会班研究 (枝園班). 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 20) 志茂彩華, 津川浩一郎, 野木裕子, 荻谷朗子, 名倉直美, 関大仁, 成井一隆, 雑賀美帆, 横井照之, 近藤直人, 笹田伸介, 石飛真人, 山内智香子, 森弘樹, 枝園忠彦. 一次乳房再建における有害事象の危険因子について多施設共同研究 (日本乳癌学会班研究 枝園班). 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 21) 田雑瑞穂, 秋山恭子, 岩瀬美紀, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 白英, 都築麻紀子, 川本久紀, 河原太, 福田護, 津川浩一郎. 当院における乳癌患者の妊孕性温存への取り組み. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 22) 秋田新介, 素輪善弘, 鈴木愛弓, 徳元秀樹, 井上真梨子, 森弘樹, 小宮貴子, 関大仁, 白石知大, 本吉愛, 今村美智子, 富田興一, 窪田吉孝, 藤本浩司, 吉村健佑, 三川信之. Electronic patient reported outcome と治療者入力を統合し

た乳癌術後 QOL データベースの構築. 第 12 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.

- 23) 関大仁, 渡邊法之, 名倉直美, 荻谷朗子, 志茂彩華, 笹田伸介, 植弘奈津恵, 辻和香子, 富田祥一, 突沖貴宏, 山内智香子, 神尾英則, 内田達也, 米田央后, 清水淑子, 白石知大, 今村三希子, 伊坂泰嗣, 奥野潤, 吉田敦. 乳房再建術後放射線治療の有無による術後合併症と HR-QOL の比較 (JOPBS 学会班研究). 第 12 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 24) 本吉愛. 形成外科医にも知ってほしい HER2 陽性乳がん周術期化学療法. 第 12 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 25) 黒田貴子. HR+/HER2-ハイリスク乳癌に対する周術期治療～当院のデータを踏まえて～. 第 12 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 26) 川本久紀, 酒巻香織, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 志茂彩華, 都築麻紀子, 本吉愛, 白英, 西川徹, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 早期原発性乳癌に対する経皮的超音波ガイド下凍結アブレーション-日本における追跡研究. 第 12 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 27) 伊藤一希, 川本久紀, 山田都, 在原卓, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 中野万理, 田雑瑞穂, 黒田貴子, 本吉愛, 西川徹, 津川浩一郎. 挿入後インプラントの破損によってヒトアジュバンド病を呈した二例. 第 12 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 28) 西川徹, 伊藤一希, 在原卓, 喜多島美奈, 中野万理, 菱田吉明, 中川朋子, 曾根正勝, 津川浩一郎. 甲状腺手術後出血の対応～パセドウ病術後遅発性後出血の症例を中心に～. 第 67 回日本甲状腺学会学術集会, 2024.
- 29) 平川麻美, 黒田貴子, 富成智子, 久代裕一郎, 中村千里, 佐戸綾子, 吉岡千恵子, 小林祐子, 橋口さおり. 髄膜癌腫症による頭痛に対して腰椎腹腔シャントが有用であった 1 例. 第 6 回日本緩和医療学会関東・甲信越支部学術大会, 2024.
- 30) 本吉愛, 荻原眞帆, 小野結佳, 小澤南, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 吉岡耕平, 尾堀佐知子, 右田王介, 津川浩一郎. Pathological Evaluation Methods in Contralateral Risk-reduction Mastectomy in Patients with BRCA Positive Breast Cancer. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.
- 31) 酒巻香織, 小池淳樹, 津川浩一郎, 福田護, 川本久紀, 西川徹, 本吉愛, 黒田貴子, 田雑瑞穂, 中野万理. 乳腺粘液癌の神経内分泌分化の判定における INSM1 の有用性についての検討. 第 70 回日本病理学会秋期特別総会, 2024.
- 32) 西川徹, 中川朋子, 印牧義英, 後藤由香, 曾根正勝, 福田護, 津川浩一郎. 頸部超音波検査と頸部単純 MRI 検査を併用し術前から診断できた副甲状腺がんの 1 例. 第 52 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2024.
- 33) 富成智子, 本吉愛, 伊藤一希, 山田都, 在原卓, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 西川徹, 津川浩一郎. 乳腺・内分泌外科における診療看護師 (Nurse Practitioner:NP) の導入. 第 20 回日本乳癌学会関東地方会, 2024.
- 34) 鳥居美鈴, 中野万理, 黒田貴子, 富成智子, 伊藤一希, 山田都, 在原卓, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 鈴木達也, 津川浩一郎. 術後補助療法におけるアベマシクリブによる肝障害を呈した乳癌の一例 ～副作用マネージメントについて～. 第 20 回日本乳癌学会関東地方会, 2024.

② 国際学会

- 1) Ito Ken-ichi, Sugitani Iwao, Onoda Naoyoshi, Hara Hisato, Masaki Chie, Mitsutake Norisato, Takahashi Shunji, Kiyota Naomi, Suganuma Nobuyasu, Tahara Makoto, Yamazaki Tomoko, Kitamura Morimasa, Kinuya Seigo, Hirokawa Mitsuyoshi, Enomoto Keisuke, Kondo Tetsuo, Sakurai Hideyuki, Yoshimura Mana, Zenda Sadamoto, Horie Ichiro, Fukuda Naoki, Nakashima Noriaki, Sato Mami, Horiuchi Kiyomi, Shibata Nobuhiro, Katoh Hiroshi, Fukumori Tatsuya, Tanaka Katsuhiro, Oishi Kazuyuki, Matsumoto Yoshiko, Tsutsui Hidemitsu, Koibuchi Yukio, Hibi Yatsuka, Noda Satoru, Fujii Takaaki, Maeno Kazuma, Shimizu Yasushi, Nishikawa Toru, Fukuhara Takahiro, Kawakita Daisuke, Yamazaki Haruhiko, Ohkawa Keiko, Monobe Hiroko, Uemura Hirokazu, Ito Tokiko.
Multi-institutional registry study of the results of the Oncomine Dx Target Test for advanced thyroid cancer in Japan. 2024 American Thyroid Association Annual Meeting, 2024.

③ その他

- 1) 西川徹. 副甲状腺疾患における頸部単純 MRI 検査の使い方. 第 14 回副甲状腺機能亢進症に対する PT x 研究会学術集会, 2024.
- 2) 田上慶美, 後藤由香, 福田護. DeepLearning を活用した乳房超音波検査支援機能の臨床における検出能の評価. 第 34 回日本乳癌画像研究会, 2025.
- 3) 黒田貴子. 「アドバンスケアプランニング (ACP) 外来」の実績と取り組み. 第 42 回川崎市医師会医学会, 2025.
- 4) 本吉愛. HR 陽性 HER2 陰性早期乳癌の治療戦略～オンコタイプ DX が乳癌診療に与えた影響～. 第 31 回日本乳癌疾患研究会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著	2	4
	解説又は総説		1
	症例報告	2	1
	その他		
学会発表	国内学会	34	
	国際学会		1
	その他	4	

脳神経外科学

著書

- 1) 小野元. XIV 人生の最終段階における医療
⑤心停止後臓器提供 改訂第6版 救急診療指針 下巻 2024;下(6):1434-1435.
- 2) 太組一朗, 新見正則. 大麻由来医薬品はどういう過程を経て、どんな人に人に使えることになったの? 大麻の常識
2024;(1):42-54.
- 3) 飯田悠, 伊藤英道, 清水信行. シチュエーションごとのテクニックを磨く!
7 アクセス困難 ii 橈骨動脈アプローチ 血栓回収法 Technical Tips 2024;(改訂2版):171-176.
- 4) 伊藤英道. 1章 TRNのスタンダードテクニック
II大動脈内でのカテーテル操作の技術
経橈骨動脈治療における左穿刺について 経橈骨動脈脳血管内治療 TRN 超入門 2024;(1):53-55.
- 5) 村田英俊. 脊髄腫瘍 今日の治療指針 2025 2025;67:932-933.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 谷田部かなか, 藤谷博人, 小野寺英孝, 室井良太, 内田将司, 日高岳, 橋本知明, 染村嵩, 井上留美子, 寺脇史子, 足利光平. アンケートを利用した小児における脳振盪および脳振盪様症状に関する調査. 日本臨床スポーツ医学会誌, 2024;32(2):255-263.
- 2) 高砂浩史, 日高岳, 久代裕一郎, 谷原茉莉子, 圓谷研人, 松森隆史, 内田将司, 伊藤英道, 太組一朗, 植田敏浩, 村田英俊. 下垂体・傍鞍部病変の術後管理における予防的水制限の検討. 日本内分泌学会雑誌, 2024;100(Suppl. HPT):4-7.
- 3) 正高佑志, 梅村二葉, 三木直子, 秋野公造, 赤星栄志, 三上礼子, 山野嘉久, 太組一朗. カンナビノイド製品はどのように使われているのか 国内患者会調査結果の概要. 日本統合医療学会雑誌, 2025;17:1-19.

② 総説又は症例解説

- 1) 小野元, 加藤庸子. 将来の日本における心肺停止後臓器提供の在り方ー教育・臨床倫理を中心にー. 日本臨床腎移植学会雑誌 Vol.12(2)2024, 2024;12(2):151-154.

③ その他

- 1) 浅香真衣子, 松本浩, 廣瀬雅宣, 小形厚貴, 藤重瑤子, 平間千絵, アニン祥子, 隈元亜依, 宮本豊一, 長島梧郎, 高野知憲, 國島広之. 血液培養陽性症例を対象とした抗菌薬適正使用支援チームによる介入内容および臨床アウトカウの評価. 日本環境感染症学会誌, 2024;39(4):117-125.
- 2) 太組一朗. 大麻由来医薬品、治験の実態、課題が明らかに. Medical Tribune, 2025;:DOI.
- 3) 松森隆史. ピックアップ海外文献
Early versus delayed cranioplasty after decompressive craniectomy in traumatic brain injury: a multicenter observation study within CENTER-TBI and Net-QuRe. 脳神経外科速報, 2025;35(1):141.
- 4) 佐々木貴夫. ピックアップ海外文献
Balloon angioplasty vs medical management for intracranial artery stenosis: The BASIS randomized clinical trial. 脳神経外科速報, 2025;35(1):140.
- 5) 久代裕一郎. ピックアップ海外文献
Middle meningeal artery embolization for chronic subdual hematoma using N-Butyl cyanoacrylate with a D%W

push technique: a multicentric north american study of 269 patients. 脳神経外科速報, 2025;35(2) : 269.

6) 伊藤英道. ピックアップ海外文献

Transradial versus transfemoral access routes for diagnostic cerebral angiography:a large single-center comparative cost-analysis study. 脳神経外科速報, 2025;35(2) : 268.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Tanaka Kanta, Miwa Kaori ,Koga Masatoshi ,Yoshimura Sohei, Kamiyama Kenji, Yagita Yoshiki, Nagakane Yoshinari, Hoshino Haruhiko, Terasaki Tadashi, Okada Yasushi, Yakushiji Yusuke , Takahashi Shinichi, Ueda Toshihiro, Hasegawa Yasuhiro, Shiozawa Masayuki, Sasaki Makoto,Kudo Kohsuke, Tanaka Jun, Nishihara Masashi,Yamaguchi Yoshitaka, Fujita Kyohei, Honda Yuko, Kawano Hiroyuki, IdeToshihiro, Yoshimoto Takeshi, Ihara Masafumi, Hirano Teruyuki, Toyoda Kazunori, Bleeding with Antithrombotic Therapy 2 Investigators.. Cerebral small vessel disease burden for bleeding risk during antithrombotic therapy: Bleeding with antithrombotic therapy 2 study. Annals of neurology, 2024;95(4) : 774-787.
- 2) Nakamura Hisao, Doi Masatomo, Matsushita Shouichirou, Ode So, Kadoi Takahiro, Tagawa Hiroko, Ucida Masashi, Mimura Hidefumi. Comparison of thallium-201 uptake and retention indices for the evaluation of glioma grading. Journal of St. Marianna University, 2024;15(1) : 1-8.
- 3) Yoshie T, Ueda T, Hasegawa Y, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Ayabe J, Akiyama T, Yamamoto D, Mori K, Kagami H, Ito H, Onodera H, Kaga Y, Ohtsubo H, Tatsuno K, Usuki N, Takaishi S, Yamano Y, and the K-NET Registry Investigators. Endovascular Thrombectomy versus Intravenous Alteplase for Distal Vessel Occlusions: A Propensity Score-Matched Analysis. Stroke : vascular and interventional neurology, 2024;4(5) : 1.
- 4) Junya Aoki, Kentaro Suzuki, Yuki Sakamoto, Yuji Matsumaru, Masataka Takeuchi, Masafumi Morimoto, Ryuzaburo Kanazawa, Yohei Takayama, Yuki Kamiya, Keigo Shigeta, Seiji Okubo, Mikito Hayakawa, Norihiro Ishii, M. Yoriko Koguchi, Tomoji Takigawa, Masato Inoue, Hiromichi Naito, Takahiro Ota, Teruyuki Hirano, , Noriyuki Kato, Toshihiro Ueda, Yasuyuki Iguchi, Kazunori Akaji, Wataro Tsuruta, Kazunori Miki, Shigeru Fujimoto, Tetsuhiro Higashida, Mitsuhiro Iwasaki, Takuya Kanamaru, Tomonari Saito, Takehiro Katano, Akihito Kutsuna, Yasuhiro Nishiyama, Toshiaki Otsuka, Kazumi Kimura, for the SKIP study Investigators.. High plasma BNP concentration associates with clinical outcome after mechanical thrombectomy: Post hoc analysis of SKIP. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, 2024;33(11) : 107943.
- 5) Takaishi S, Ueda T, Usuki N, Tatsuno K, Yoshie T, Yamano Y. Age-related differences in diffusion-weighted imaging lesion volume and reversal in patients with successful recanalization after mechanical thrombectomy. Journal of neurointerventional surgery, 2024;0 : 1-7.

- 6) Kanamori Masayuki, Shibahara Ichiyo, Shimoda Yoshiteru, Akiyama Yukinori, Beppu Takaaki, Ohba Shigeo, Enomoto Toshiyuki, Ono Takahiro, Mitobe Yuta, Hanihara Mitsuto, MineharuYohei, Ishida Joji, Asano Kenichiro, Yoshida Yasuyuki, Natsumeda Manabu, Nomura Sadahiro, Abe Tatsuya, Hajime Yonezawa, Katakura Ryuichi, Shibui Soichiro, Kuroiwa Toshihiko, Suzuki Hiroyoshi, Takei Hidehiro, Matsushita Haruo, Saito Ryuta, Yoshiki Arakawa, Sonoda Yukihiro, Hirose Yuichi, Kumabe Toshihiro, Yamaguchi Takuhiro, Endo Hidenori, Tominaga Teiji. Efficacy and safety of carmustine wafers, followed by radiation, temozolomide, and bevacizumab therapy, for newly diagnosed glioblastoma with maximal resection. *International Journal of Clinical Oncology*, 2024;30 : 51-61.
- 7) Tsuburaya Kento, Matsumori Takashi, Uchida Masashi, Takasuna Hiroshi, Murata Hidetoshi.. Programmable valve with virtual off function is useful for chronic subdural hematoma after ventriculoperitoneal shunt surgery. *Cureus*, 2024;16(12) : e75508.
- 8) Kanno H, Nakahara K, Yamada S, Fujii S, Murata H, Yamamoto T, Hasumi H, Yao M.J. Relationship between ZHX2 Expression and VHL Gene Alteration in VHL-associated and sporadic hemangioblastomas of the central nervous system. *Kidney Cancer VHL*, 2024;11(4) : 39-47.
- 9) Fujiwara G, Okada Y, Suehiro E, Yatsushige H, Hirota S, Hasegawa S, Karibe H, Miyata A, Kawakita K, Haji K, Aihara H, Yokobori S, Inaji M, Maeda T, Onuki T, Oshio K, Komoribayashi N, Suzuki M, Shiomi N. Development of machine-learning model to predict anticoagulant use and type in geriatric traumatic brain injury using coagulation parameters. *Neurologia-medico chirurgica(Tokyo)*, 2025;65(2) : 61-70.
- 10) Hagiwara U, Ito H, Fukano T, Shimizu T, Uchida M, Yamano Y. Utility of carotid ultrasound using microvascular flow imaging for detecting in-stent plaque protrusion after carotid artery stenting. *Clinical neurology and neurosurgery*, 2025;(251) : 108844.

② 症例報告

- 1) Ono H, Kaji T, Morishima H, Nagashima G. A rare case of shunt malfunction due to the needle guard coming off during ventriculoperitoneal shunt surgery. *CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE*, 2024; : DOI:10.7759/cureus.72228.
- 2) Masataka Y, Miki N, Akino K, Yamamoto H, Takumi I. Case reports of identical twins with developmental and epileptic encephalopathy with STXBP1 gene mutations for whom different CBD supplementations were markedly effective. *Epilepsy & Behavior Reports*, 2024;28 : doi.org/10.1016/j.ebr.2004.100720.
- 3) Sase T, Nakamura H, Nakayam H, Hidaka G, Wakatsuki K. Coil embolization and endoscopic hematoma removal for ruptured cerebral aneurysm with intracranial hematoma under local sedation: a case report. *CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE*, 2024; : DOI: 10.7759/cureus.73663.
- 4) Kawaguchi K, Onodera H, Ueda T, Takkaishi S, Usuki N, Tatsuno K, Kaburagi K, Murata H. A case of cavernous sinus fistula caused by ruptured spontaneous aneurysm on persistent primitive trigeminal artery. *NMC Case Report Journal*, 2024;11 : 357-361.
- 5) Matsumori Takashi, Takumi Ichiro, Asahi Takashi, Tatebayashi Kyoko, Murata Hidetoshi.. Lessons from the edge of reactivation:managing herpes simplex virus encephalitis years after initial infection in high-risk neurosurgical patients. *Cureus*, 2025;17(1) : e77883.

- 6) Sase Taigen, Ito Hidemichi,, Wakatsuki Kiyotaka, Nakamura Homare, Murata Hidetoshi.. Left transradial neurointervention using a 3-french simmons guiding sheath for a left carotid approach in patients with an aberrant right subclavian artery: a technical note on a case of preoperative embolization of intracranial meningioma. Cureus, 2025;17((1)): DOI-10.7759.

学会発表

① 国内学会

- 1) 松森隆史. Brainlab Elements を用いた 3 次元可視化技術の活用について. 第 47 回日本脳神経 CI 学会総会, 2024.
- 2) 村田英俊. 脊髄腫瘍の手術: 脳神経外科手技とコンセプトを活用した摘出の工夫. 第 44 回日本脳神経外科コンgress総会, 2024.
- 3) 小野元. 頭部外傷の病態生理と急性期治療: アップデートと課題. 第 44 回日本脳神経外科コンgress総会, 2024.
- 4) 高砂浩史, 久代裕一郎, 圓谷研人, 日高岳, 谷原茉莉子, 松森隆史, 伊藤英道, 村田英俊. 脳室帽状腱膜下シャント術の合併症の検討. 第 52 回日本小児脳神経外科学会, 2024.
- 5) 小野元, 長島梧郎, 梶友紘, 森嶋啓之. 頭髪の引っ張りにより発生した帽状腱膜下血腫の一例. 第 52 回日本小児脳神経外科学会, 2024.
- 6) 村田英俊, 内田将司, 高砂浩史, 伊藤英道, 松森隆史, 久代裕一郎, 日高岳, 圓谷研人, 谷原茉莉子. 脊髄腫瘍手術の現状と再考: 脳と脊髄の外科治療の叡智を活かそう. 第 39 回日本脊髄外科学会, 2024.
- 7) 中村歩希, 工藤忠, 佐瀬泰玄, 中山博文, 小林博雄, 村田英俊. 外傷性椎体骨折に対する BKP の使用経験. 第 39 回日本脊髄外科学会, 2024.
- 8) 太組一朗. 臨床カンナビノイドの新時代 麻向法・食品衛生法・薬機法. 第 7 回日本先制臨床医学会学術大会, 2024.
- 9) 伊藤英道. (ちょっと細かい) TRN のはじめの一歩と Rist による Flow Diverter 治療. 第 33 回脳神経外科手術と機器学会, 2024.
- 10) 伊佐早健司, 加藤高志郎, 小野晴香, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一朗, 山野嘉久. 著明な精神症状を呈した抗 NMDA 受容体脳炎の女性例. 第 18 回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 2024.
- 11) 村田英俊, 内田将司, 高砂浩史, 伊藤英道, 松森隆史, 久代裕一郎, 日高岳, 圓谷研人, 谷原茉莉子. 顔面神経麻痺に対する顔面神経機能再建: 舌下神経-顔面神経吻合術. 第 36 回日本頭蓋底外科学会, 2024.
- 12) 村田英俊. 脳幹部とその近傍腫瘍に対する手術: アプローチと剥離工夫. 第 36 回日本頭蓋底外科学会, 2024.
- 13) 村田英俊, 内田将司, 高砂浩史, 伊藤英道, 松森隆史, 久代裕一郎, 日高岳, 圓谷研人, 谷原茉莉子. 頭蓋底髄膜腫に対する anterior petrosal approach の適応と工夫. 第 36 回日本頭蓋底外科学会, 2024.
- 14) 竹村 弘, 長島 梧郎. 川崎市の地域連携における多施設 JANIS 還元情報分析の試み(第 3 報). 第 39 回日本環境感染学会総会, 2024.
- 15) 長島梧郎. 病院機能評価審査側の立場から. 第 39 回日本環境感染学会総会, 2024.
- 16) 伊藤英道. 脳血管内治療の楽しみ方 -Radialist の苦悩と挑戦-. 第 26 回日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会, 2024.
- 17) 辰野健太郎, 鐙木圭, 柴田宗一郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 内田将司, 高石智, 伊藤英道, 植田敏浩. 機械的血栓回収療法にて回収された塞栓子から左房粘液腫を疑い, 治療が奏効した症例. 第 5 回日本脳神経内科血管治療研究会, 2024.
- 18) 太組一朗, 正高佑志, 岸泰宏, 松本俊彦, 山野嘉久, 山本仁, 平良万有実, 鰐淵昌彦, 川上浩司, 秋田定伯, 三上礼子, 長田優香, 饒波正博, 野崎千尋, 秋野公造. カンナビノイドの医療監視. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.

- 19) 宮崎一輝, 栗田将旭, 森嶋啓之, 小野元, 長島梧郎. 脳室腹腔シャント不全に対して嚢胞脳室腹腔シャントが有用であった Dandy-Walker Syndrome の一例. 第 154 回一般社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会, 2024.
- 20) 塚本慎一郎, 内田将司, 矢崎想来, 横峯祐希, 作山りさ, 佐々木貴夫, 久代裕一郎, 松森隆史, 伊藤英道, 高砂浩史, 太組一朗, 植田敏浩, 村田英俊. 軽微な外傷を契機に症候化した脊髄 Arachnoid Web の一例. 第 154 回一般社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会, 2024.
- 21) 伊佐早健司, 日野栄絵, 鍋木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一朗, 須賀裕樹, 山野嘉久. 発症後 4 ヶ月の血液浄化療法で効果を認めた cNORSE の 19 歳男性例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 22) 松森隆史, 太組一朗, 久代裕一郎, 圓谷研人, 横峯祐希, 佐々木貴夫, 村田英俊. てんかん DBS の初期経験と刺激に関連した精神症状. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 23) 正高佑志, 太組一朗, 山本仁, 秋野公造. CBD サプリメントが著効した STXBPI 遺伝子変異を伴う乳児てんかん性スパズム症候群の双胎例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 24) 赤松伸太郎, 伊佐早健司, 日野栄絵, 鍋木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 松森隆史, 太組一朗, 高橋幸利, 山野嘉久. 痙攣重積・認知症にて発症したラスムッセン症候群の 63 歳男性例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 25) 伊藤英道. ちょっと細かい TRN のはじめの一步. 第 86 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 2024.
- 26) 大塩 恒太郎, 三宅 茂太, 末廣 栄一. 大動脈平滑筋肉腫による内頸動脈閉塞症に対し急性期再開通療法を施行した一例. 第 83 回日本脳神経外科学会学術総会, 2024.
- 27) 大友優太, 土持壮登, 三宅茂太, 大塩恒太郎. 内頸動脈閉塞症に伴う Progressive stroke を来し急性期 STA-MCA bypass を施行した 3 例. 第 83 回日本脳神経外科学会学術総会, 2024.
- 28) 平川麻美, 黒田貴子, 富成智子, 久代裕一郎, 中村千里, 佐戸綾子, 吉岡千恵子, 小林祐子, 橋口さおり. 髄膜癌腫症による頭痛に対して腰椎腹腔シャントが有用であった 1 例. 第 6 回日本緩和医療学会関東・甲信越支部学術大会, 2024.
- 29) 中村歩希, 佐瀬泰玄, 中山博文, 若月聖孝, 日高岳, 村田英俊. 頭蓋内病変や手術後に続発した脊椎硬膜下血腫の 3 例. 第 31 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会, 2024.
- 30) 森嶋啓之, 宮崎一輝, 栗田将旭, 小野元, 長島梧郎, 村田英俊. Persistent primitive hypoglossal artery を伴う内頸動脈狭窄症に対する CAS の工夫. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 31) 大塩恒太郎, 三宅茂太, 末廣栄一. 重症頭部外傷の治療管理標準化に向けた実態調査. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 32) 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 綾部純一, 秋山武和, 山本大輔, 小野寺英孝, 伊藤英道, 村田英俊. 頭蓋内動脈硬化性閉塞に対する再開通療法の現状と今後の課題: K-NET 登録研究サブ解析. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 33) 松森隆史, 太組一朗, 横峯祐希, 佐々木貴夫, 村田英俊. 小児の全身性痙攣に対するパクロフェン髄注療法の効果と課題. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 34) 高砂浩史, 横峯祐希, 矢崎想来, 塚本慎一郎, 作山りさ, 久代裕一郎, 佐々木貴夫, 内田将司, 松森隆史, 伊藤英道, 太組一朗, 植田敏浩, 村田英俊. 下垂体・傍鞍部病変の術後管理における予防的水制限. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 35) 中山博文, 中村歩希, 佐瀬泰玄, 日高岳, 若月聖孝, 村田英俊. 再発症例に注目した慢性硬膜下血腫の MRI と CT 画像所見の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 36) 若月聖孝, 佐瀬泰玄, 日高岳, 中山博文, 中村歩希, 村田英俊. 開頭クリッピング術後に仙椎硬膜下血腫を発症した一例. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.

- 37) 太組一朗. プリオン病の新標準脳神経外科医は何を知っておくべきか?. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 38) 清野奈々恵, 内田将司, 伊藤英道, 本館敦子, 藤谷茂樹, 村田英俊. 急性虚血性脳卒中診療における診療看護師 (NP) の時間短縮効果. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 39) 佐瀬泰玄, 若月聖孝, 日高岳, 中山博文, 中村歩希, 伊藤英道, 村田英俊. Trans-radial neuro-intervention が有用であった血管内手術. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 40) 内田将司, 伊藤英道, 久代裕一郎, 松森隆史, 高砂浩史, 太組一朗, 植田敏浩, 村田英俊. グリオーマと血管内治療の二刀流
-脳血管内治療医が考えるグリオーマ手術戦略-. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 41) 中村歩希, 工藤忠, 佐瀬泰玄, 中山博文, 若月聖孝, 日高岳, 小林博雄, 村田英俊. 外傷性椎体骨折に対する BKP の使用経験. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 42) 村田英俊, 内田将司, 高砂浩史, 伊藤英道, 松森隆史, 久代裕一郎, 佐々木貴夫, 作山りさ, 矢崎想来, 塚本慎一郎, 横峯祐希. 脊髄髄内腫瘍の手術脳と脊髄の外科治療の叡智を活かす. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 43) 伊藤英道, 植田敏浩, 内田将司, 久代裕一郎, 村田英俊. 「左」橈骨動脈アプローチによる頸動脈ステント留置術は新たな治療選択となり得るか?. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 44) 島田歩, 宮崎秀和, 橋本卓也, 長島梧郎. 病院機能評価カルテレビュー審査受信に向けた対策に関する取り組み. 第 62 回全国自治体病院学会, 2024.
- 45) 平田祐吏安, 宮崎秀和, 橋本卓也, 長島梧郎. DNAR 指示の手順見直しに向けた当院の現状調査について. 第 62 回全国自治体病院学会, 2024.
- 46) 長久保瑞紀, 宮崎秀和, 橋本卓也, 長島梧郎. 患者用パス全件見直しの取り組みについて. 第 62 回全国自治体病院学会, 2024.
- 47) 松本愛美, 加藤一徳, 奥瀬千晃, 長島梧郎. 緊急診療以来の分析～紹介患者数増加を目指して～. 第 62 回全国自治体病院学会, 2024.
- 48) 塚本崇仁, 大木明, 長島梧郎, 塚原正祥, 黒崎晃. 自治体病院としての SDGs への取り組み. 第 62 回全国自治体病院学会, 2024.
- 49) 東祐樹, 富永勇輝, 田中拓, 加藤一徳, 蔵光美徳, 長島梧郎, 磯島恭平, 塚本崇仁. 病院救急救命士が市中病院で貢献できること－主に安定した状態の患者の病院間搬送目的に－. 第 62 回全国自治体病院学会, 2024.
- 50) 阿部浩征, 飯田悠, 川崎貴史, 秋本大輔, 三宅茂太, 綾部純一, 増尾修, 大塩恒太郎, 坂田勝巳, 中居康展, 山本哲哉. Onyx TAE での DAVF 完全閉塞のための因子についての検討. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会, 2024.
- 51) 圓谷研人, 飯田悠, 川崎貴史, 秋本大輔, 中居康展, 坂田勝巳, 大塩恒太郎, 増尾修, 綾部純一, 三宅茂太, 山本哲哉. 破裂脳動脈瘤に対するコイル塞栓術において、経橈骨上腕アプローチは血栓塞栓症リスクを低減し得る. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会, 2024.
- 52) 大友優太, 土持壮登, 三宅茂太, 大塩恒太郎. 土持壮登, 三宅茂太, 大塩恒太郎 遺残原始舌下神経動脈を合併した症候性内頸動脈狭窄症に対して頸動脈ステント留置を行った 1 例. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会, 2024.
- 53) 平野智之, 長島梧郎. 院内職員による病院機能評価サーベランスの有用性について－本審査結果による考察－. 題 62 回全国自治体病院学会, 2024.
- 54) 高砂浩史, 横峯祐希, 矢崎想来, 塚本慎一郎, 久代裕一郎, 内田将司, 松森隆史, 伊藤英道, 太組一朗, 植田敏浩, 村田

英俊. 脳室内出血に対する神経内視鏡治療の M&M と安全管理. 第 31 回日本脳神経内視鏡学会, 2024.

- 55) 佐瀬泰玄, 中村歩希, 中山博文, 日高岳, 若月聖孝, 村田英俊. 抗凝固療法中に発症した小脳出血に対する内視鏡的血腫除去術. 第 31 回日本脳神経内視鏡学会, 2024.
- 56) 中村歩希, 工藤忠. 水痘・带状疱疹ウィルス (VZV) 感染に合併した運動麻痺の 2 例. 第 59 回日本脊髄障害医学会, 2024.
- 57) 廣富匡志, 淀谷雄亮, 池田史朗, 丸山絢, 細田智弘, 坂本光男, 中島由紀子, 長島梧郎, 國島広之, 竹村弘, 三崎貴子. 川崎市における過粘稠性肺炎桿菌 (hvKP) 感染症の発生状況と肝膿瘍の発症にかかわるリスク因子に関する研究. 第 92 回神奈川県感染症医学会, 2024.
- 58) 辰野健太郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 伊藤英道, 高石智. K-NET Registry データを用いた血栓回収療法の転帰予測モデルの作成. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 59) 伊藤英道. Rist™ がもたらした最短距離 ～Wrist からの Neurointervention～. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 60) 高石智, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 臼杵乃理子, 辰野健太郎, 深野崇之, 伊藤英道, 内田将司. 急性期再開通療法における肺炎死亡例と脳卒中死亡例の背景因子の比較 : K-NET 登録研究サブ解析. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 61) 佐瀬泰玄, 若月聖孝, 日高岳, 中山博文, 中村歩希, 伊藤英道, 村田英俊. 穿刺経路の変更を要した血管内手術. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 62) 久代裕一郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 高石智, 小野寺英孝, 伊藤英道, 村田英俊. 脳血栓回収療法におけるデバイスの選択と転機について : K-NET 登録研究サブ解析. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 63) 佐瀬泰玄, 伊藤英道, 若月聖孝, 日高岳, 中山博文, 中村歩希, 村田英俊. 当院における trans-radial neuro-intervention の導入. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 64) 伊藤英道, 植田敏浩, 内田将司, 久代裕一郎, 村田英俊. CAS 最前線 - 「左」橈骨動脈アプローチの有用性-. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 65) 作山りさ, 内田将司, 塚本慎一郎, 矢崎想来, 横峯祐希, 久代裕一郎, 佐々木貴夫, 伊藤英道, 植田敏浩, 村田英俊. Abberant right subclavian artery を有する患者に対し left transradial approach にて FD 留置した症例. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 66) 内田将司, 伊藤英道, 久代裕一郎, 高石智, 臼杵乃理子, 深野崇之, 辰野健太郎, 植田敏浩, 村田英俊. 腫瘍塞栓術 塞栓物質と手技の変革. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 67) 森嶋啓之, 宮崎一輝, 栗田将旭, 小野元, 長島梧郎, 村田英俊. Persistent primitive hypoglossal artery を伴う内頸動脈狭窄症に対するステント留置術のフィルタープロテクションの工夫. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 68) 日高岳, 佐瀬泰玄, 若月聖孝, 中山博文, 伊藤英道, 村田英俊. 左上葉肺切除後の肺静脈断端部決戦によって脳塞栓を発症した 1 例. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 69) 内田将司, 伊藤英道, 久代裕一郎, 高石智, 臼杵乃理子, 深野崇之, 辰野健太郎, 植田敏浩, 村田英俊. 当院における脳腫瘍塞栓術 -デバイスの進歩と主義の変革-. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 70) 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 伊藤英道, 内田将司, 村田英俊. 頭蓋内動脈硬化性閉塞に対する再開通療法の手技と治療成績 : K-NET 登録研究サブ解析. 第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2024.
- 71) 太組一朗. 麻向法時代の大麻由来医薬品. 日本臨床薬理学会学術総会, 2024.

- 72) 三木直子, 太組一朗, 正高佑志. 英国の医療大麻制度と英国で処方される非・医薬品カンナビノイド製剤について. 第 45 回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 73) 若月聖孝, 佐瀬泰玄, 日高岳, 中山博文, 中村歩希, 村田英俊. 慢性硬膜下血腫に付随したと思われる非特異的兆候を認めた 3 例. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 関東支部学術集会, 2024.
- 74) 矢崎想来, 伊藤英道, 植田敏浩, 久代裕一郎, 内田将司, 村田英俊. 左遠位橈骨動脈アプローチで治療した脊髄動静脈瘻の 2 例. 一般社団法人 日本脳神経外科学会 関東支部学術集会, 2024.
- 75) 圓谷研人, 大友優太, 今西雄也, 阿部浩征, 中居康展, 大塩恒太郎. Heubner 動脈を feeder とする基底核 AVM に対し、経動脈的塞栓術および開頭摘出術を施行した一例. 第 155 回日本脳神経外科学会 関東支部学術集会, 2024.
- 76) 大塩 恒太郎, 三宅 茂太, 末廣 栄一, 圓谷 研人, 今西 雄也, 阿部 浩征. 重症頭部外傷治療についてのアンケート調査結果報告. 第 48 回日本脳神経外傷学会, 2025.
- 77) 今西雄也, 圓谷研人, 阿部浩之, 大塩恒太郎. 視神経管損傷を伴わない転倒外傷による外傷性視神経損傷の一例. 第 48 回日本脳神経外傷学会, 2025.
- 78) 内藤静, 小野元, 長島悟郎. A 病院の脳神経外科で求められる特定看護師の役割と今後の展望. 第 30 回日本脳神経外科救急学会, 2025.
- 79) 小野元、栗田将旭、宮崎一輝、森嶋啓之、長島悟郎. 硬膜下膿瘍の鑑別に MRI・FLAIR 画像は有用か?. 第 30 回日本脳神経外科救急学会, 2025.
- 80) 松森隆史. てんかん DBS の適応と考え、再評価したケースの検討. 第 48 回日本てんかん外科学会, 2025.
- 81) 松森隆史. てんかん DBS の初期経験 他の DBS と比較してのむずかしさ. 第 64 回日本定位・機能神経外科学会, 2025.
- 82) 小野元、栗田将旭、宮崎一輝、森嶋啓之、長島悟郎. 小児頭部外傷による頭がい骨骨折の特徴と力学的分析. 第 48 回日本脳神経外傷学会, 2025.
- 83) 阿部浩征, 飯田悠, 川崎貴史, 秋本大輔, 三宅茂太, 綾部純一, 増尾修, 大塩恒太郎, 坂田勝巳, 中居康展, 山本哲哉. Onyx TAE での DAVF 完全閉塞のための因子についての検討. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 84) 阿部浩征, 圓谷研人, 今西雄也, 大友優太, 大塩恒太郎. 出血発症頭蓋内 pial AVF に対し、直達術を行った 1 例. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 85) 圓谷研人, 大友優太, 今西雄也, 阿部浩征, 中居康展, 大塩恒太郎. Heubner 動脈を feeder とする基底核 AVM に対し、経動脈的塞栓術および開頭摘出術を施行した一例. 第 50 回脳卒中学会学術集会, 2025.
- 86) 佐瀬泰玄, 伊藤英道, 若月聖孝, 日高岳, 中山博文, 中村歩希, 村田英俊. 当院における Transfemoral approach から transradial approach へのブレイクスルー. 第 6 回 経橈骨動脈脳血管内治療研究会—TRN 研究会 2025—, 2025.
- 87) 伊藤英道. 理屈で納得!! ～TRN with PRIME～. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 88) 臼杵乃理子, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 辰野健太郎, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 血栓回収療法時代における tPA 静注単独療法の治療成績: K-NET registry サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 89) 山本良央, 上村直哉, 天野悠, 甘利和光, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 寺田友昭, 城倉健. 発症時間不明例に対する t-PA 投与の効果と安全性 —K-NET レジストリを用いた傾向スコアマッチング解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 90) 辰野健太郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳主幹動脈閉塞における血栓回収療法の転帰予測モデルの開発と年齢の影響の分析: K-NET Registry サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.

- 91) 日高岳, 佐瀬泰玄, 若月聖孝, 中山博文, 中村歩希, 伊藤英道, 村田英俊. 葉肺切除後の肺静脈断端部血栓によって脳梗塞を発症した2例. 第50回脳卒中学会学術集会, 2025.
- 92) 内田将司, 伊藤英道, 久代裕一郎, 高石智, 臼杵乃理子, 深野崇之, 辰野健太郎, 植田敏浩, 村田英俊. 出血発症 eloquent area AVM に対する塞栓術の検討-selective 誘発テスト-. 第54回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 93) 小野晴香, 辰野健太郎, 清水高弘, 矢崎想来, 久代裕一郎, 鎗木圭, 柴田宗一郎, 深野崇之, 高石智, 臼杵乃理子, 秋山尚久, 山野嘉久. 機械的血栓回収療法を組み合わせた的確な治療が奏功した若年者脳静脈洞血栓症の2例. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 94) 佐瀬泰玄, 中村由貴子, 若月聖孝, 日高岳, 中山博文, 中村歩希, 村田英俊. 特定看護師と共に行うくも膜下出血管理の標準化. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 95) 伊佐早健司, 加賀保行, 清水高弘, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 辰野健太郎, 植田敏浩, 秋山久尚, 山野嘉久. 電子カルテ抽出入院時情報による院内発症脳梗塞発症予測. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 96) 久代裕一郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃里子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳血栓回収療法における治療手技の選択と転帰について: K-NET 登録研究サブ解析. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 97) 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務浩, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃里子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳血栓回収療法の初期画像診断としてCTとMRIはどちらが有用か: K-NET 登録研究サブ解析. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 98) 上村直哉, 天野悠, 山本良央, 甘利和光, 大塩恒太郎, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純, 田中章景, 城倉健. 穿刺-ガイディング留置とガイディング留置-再開通時間が血栓回収療法転帰に与える影響: K-NET サブ解析. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 99) 伊藤英道, 植田敏浩, 内田将司, 久代裕一郎, 村田英俊. 合併症ゼロかつ低侵襲を目指した「左」遠位橈骨動脈アプローチによるCAS. 第50回脳卒中学会学術集会, 2025.
- 100) 植田敏浩, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃里子, 深野崇之, 伊藤英道, 内田将司, 久代裕一郎, 村田英俊, 山野嘉久. 症候性頭蓋内動脈狭窄症に対するPTA/stentingの治療成績と再狭窄に関連する因子の検討. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 101) 高石智, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 辰野健太郎, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳主幹動脈閉塞に対する脳血栓回収療法における死亡関連因子の検討: 肺炎死と脳卒中死の比較. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 102) 矢崎想来, 伊藤英道, 植田敏浩, 久代裕一郎, 内田将司, 村田英俊. 左遠位橈骨動脈アプローチで治療した脊髄動静脈瘻の2例. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 103) 村田英俊, 内田将司, 伊藤英道, 高砂浩史, 松森隆史, 久代裕一郎, 佐々木貴夫, 作山りさ, 矢崎想来, 塚本慎一郎, 横峯祐希, 清野奈々恵. 脳幹部海綿状血管奇形に対する摘出の工夫と長期成績. 第54回日本脳卒中の脳外科学会学術集会, 2025.
- 104) 居積晃希, 藤本佳久, 佐久間絢, 上村恵理, 藤井修一, 内田将司, 伊藤英道, 村田英俊, 藤谷茂樹. くも膜下出血後のクラゼンタンに伴う輸液管理が左室流出路狭窄によって困難であった症例. 第52回日本集中治療医学会学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) Ito Hidemichi, Uchida Masashi, Kushiro Yuichiro, Ueda Toshihiro, Murata Hidetoshi.. Left transradial neurointerventions using a 6-french simmons guiding sheath: a radial-first center case series and experiences with the interchange technique. 17th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology., 2024.
- 2) Ueda Toshihiro, Takeuch Masataka, Morimoto Masafumi, Tsuboi Yoshifumi, Yamamoto Ryoo, Kaku Shogo, Onodera Hidetaka, Tatsuno Kentaro, Takaishi Satoshi, Yamano Yoshihisa, the K-NET registry investigators. Characteristics and outcome of endovascular treatment for intracranial atherosclerotic occlusion: comparison with cardiogenic cerebral embolism in the K-NET registry. 17th World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN) Congress, 2024.
- 3) 内田将司. IVR for cerebral aneurysm. CAANS VASCULAR WORK SHOP, 2024.
- 4) 内田将司. IVR for cerebral aneurysm. The 5th CAANS CONGRESS, 2024.
- 5) Takumi I, Yamamoto H, Masataka Y, Akino K.. Cannabis products for wellness, cannabinoid medicine for treatment. Two different approaches but the same goal for patients with intractable epilepsy. The 2024 annual meeting of the American Epilepsy Society, 2024.
- 6) Tatsuno K, Ueda T, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Onodera H, Takaishi S, Usuki N, Hasegawa Y, Yamano Y. Development of an Outcome Prediction Model for Mechanical Thrombectomy in Large Vessel Occlusion and Analysis of the Impact of Age: A Subanalysis of the K-NET Registry. International Stroke Conference 2025, 2025.
- 7) Ueda Toshihiro, Takeuchi Masataka, Morimoto Masafumi, Tsuboi Yoshifumi, Yamamoto Ryoo, Kaku Shogo, Ito Hidemichi, Onodera Hidetaka, Tatsuno Kentaro, Takaishi Satoshi, Usuki Noriko, Murata Hidetoshi, Yamano Yoshihisa, the K-NET registry investigators. Comparative utility of CT and MRI in initial imaging for mechanical thrombectomy in patients with large vessel occlusion: sub-analysis of the K-NET registry in Japan. International Stroke Conference 2025, 2025.

③ その他

- 1) 梶友紘. 脳卒中の急性期治療について. 川崎市北部医療連携講演会, 2024.
- 2) 梶友紘. 脳動脈瘤クリッピング術およびバイパス術における工夫. 第3回青森脳神経外科講演会, 2024.
- 3) 内田将司. Solitaire™ X と REACT の実力. Medtronic WEB Seminar, 2024.
- 4) 佐瀬泰玄. SAH 周術期管理の標準化への準備. Spasm Forum In Kanagawa, 2024.
- 5) 大塩恒太郎. クラゾセンタンの使用経験と水分管理における意識改革の必要性. Spasm Forum in KANAGAWA, 2024.
- 6) 村田英俊. 脳と脊髄の手術の往来: 互いのメリットを活かそう. 第43回東部脳神経外科フォーラム, 2024.
- 7) 太組一朗. 国際麻薬乱用・不正取引防止デーに考える、日本の大麻由来医薬品の現在と未来. 第126回HGPIセミナー, 2024.
- 8) 内田将司. 当院での AIS 治療戦略. GOLD2024, 2024.
- 9) 大塩恒太郎. Frontal sinus injury. AOCMF, 2024.
- 10) 村田英俊. 脳・神経疾患の疼痛管理の実践 ～脳神経外科医の立場から～. 脳神経外科 step up seminar, 2024.
- 11) 内田将司. フローダイバーター治療の残された課題 ～治療難渋フローダイバーター症例～. Pipeline™ Level Up Seminar, 2024.

- 12) 村田英俊. 脳・神経疾患の疼痛管理の実際 ～脳神経外科医の立場から～. 脳神経外科医のための Web セミナー EPISODE II, 2024.
- 13) 佐瀬泰玄. SAH 周術期管理標準化へ向けた当科の取り組み. SAH Expert Meeting in Yokohama, 2024.
- 14) 太組一朗. てんかん診療と医療連携 一次診療のポイントと紹介患者の選択. Epilepsy Web Seminar, 2024.
- 15) 植田敏浩. 脳梗塞急性期治療の進歩と地域連携について. Brain Heart Conference in Kawasaki, 2024.
- 16) 村田英俊. 脳・神経疾患の疼痛管理の実際
～脳神経外科医の立場から～. ペイン トータルケアセミナー, 2024.
- 17) 太組一朗. チーム医療とサブスペシャリティ
てんかん外科と整容脳神経外科. 秋田のてんかん診療を考える会 2024, 2024.
- 18) 植田敏浩. K-NET 登録研究：事務局からの報告. 第 8 回神奈川脳血栓回収療法セミナー, 2024.
- 19) 大塩恒太郎. Management of Elderly patients for Neuro-ICU. Global Neuro コース - 神経集中治療, 2024.
- 20) 内田将司. グリオーマ症例における血管内治療の有益. 第 45 回 神奈川脳腫瘍フォーラム, 2024.
- 21) 内田将司. 自施設における TRA 症例. Radial Intervention Seminar Tohoku, 2024.
- 22) 内田将司. 脳卒中患者さんがこれまでと変わらない日常を送るために. 世界脳卒中デーに高圧治療を考える, 2024.
- 23) 大塩恒太郎. くも膜下出血後脳血管攣縮治療管理についてクラフセンタン後、当院でのプロトコールと経験症例を振り返る. Spasm Forum in Yokohama, 2024.
- 24) 太組一朗. 難治てんかん患者さんのおつきあい. 第 5 回湘南脳神経内科カンファレンス, 2024.
- 25) 村田英俊. 脳・脊髄・神経疾患の疼痛管理の実際 ～脳神経外科医の立場から～. 神経障害疾患 Web Seminar, 2024.
- 26) 村田英俊. 脳・脊髄・神経疾患の疼痛管理の実際 ～脳神経外科医の立場から～. 脊椎脊髄疾患と疼痛, 2024.
- 27) 村田英俊. 脳・神経疾患の疼痛管理の実際 ～脳神経外科医の立場から～. 脊椎脊髄疾患と疼痛, 2024.
- 28) 太組一朗. てんかん治療の新時代 薬物治療と外科治療. 脳神経外科てんかんセミナー, 2024.
- 29) 植田敏浩. 急性期脳梗塞に対する脳血管内治療の最近のトピックスと抗凝固療法. 脳血管疾患治療 Up to Date, 2024.
- 30) 村田英俊. 脳・神経疾患の疼痛管理の実際～脳神経外科医の立場から～. 脳神経外科医のためのトータルケアセミナー, 2024.
- 31) 内田将司. Lt ICA blister aneurysm の症例. 関東圏 若手小襟検討会, 2024.
- 32) 太組一朗. てんかん患者さんとの易しいお付き合い問診のポイント・紹介のタイミング. 第 95 回横浜市内科学会神経研究会, 2024.
- 33) 太組一朗. 新しく薬事承認された CJD ハイリスク手技手術機器添付文書の 2020 ガイドライン整合性. 令和 6 年度 合同研究報告会, 2025.
- 34) 村田英俊. 脳神経外科医からみる脊髄外科とその意義～神経障害性疼痛の pitfall～. Yokohama Neo Spine Conference, 2025.
- 35) 内田将司. TMZ 維持療法が継続できなかった 2 症例. 第 9 回神奈川若手脳外科医のための脳腫瘍 WEB セミナー, 2025.
- 36) 磯崎潤、内田将司. 脳血管内治療のリアルワールド（治療に難渋した事例から学ぶ）. J-CROSS Web conference, 2025.
- 37) 日高岳. 葉肺切除後の肺静脈断端部血栓によって脳血栓を発症した症例. 第 10 回 神奈川・多摩脳神経集談会, 2025.
- 38) 久代裕一郎. 当院での治療トピック. 第 10 回神奈川・多摩脳神経集談会, 2025.
- 39) 村田英俊. 脳幹部・脊髄病変に対する治療～神経障害性疼痛の pitfall～. 第 24 回神奈川県県央・県西部ブレインネットワーク, 2025.

- 40) 日向涼, 伊佐早健司, 日野栄絵, 鎗木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一郎, 山野嘉久. 発症後 4 ヶ月の免疫療法の強化で効果を認めた Cryptogenic New-Onset Refractory Status Epilepticus(cNORSE)の 19 歳男性例. 聖マリアンナ医科大学医学会第 87 回学術集会, 2025.
- 41) 太組一郎. てんかん患者さんとの付き合いー「自分だってよくなりたい」ー. Epilepsy Area Confernce in 能登, 2025.
- 42) 今西雄也, 圓谷研人, 阿部浩之, 大塩恒太郎. 減圧開頭手術における DuraGen®使用の是非について. DuraGen セミナー, 2025.
- 43) 村田英俊. 脳・脊髄・神経疾患の疼痛管理の実際～脳神経外科医の立場から～. Fuji Spine Conference, 2025.
- 44) 内田将司. 当院でのグリオーマ治療戦略とオプチューンの導入. KANAGAWA Neuro-Oncology Seminar, 2025.

		和 文	英 文
著 書		5	
論 文	原著	3	10
	解説又は総説	1	
	症例報告		6
	その他	6	
学会発表	国内学会	104	
	国際学会		7
	その他	44	

整形外科科学

著書

- 1) 赤澤努. 脊椎手術支援ロボットのMISTへの応用: ロボット支援経皮的椎弓根スクリュー 新OS NEXUS No. 11 最小侵襲脊椎外科 2024; (1):153-159.
- 2) 小野瀬喜道, 寺内昂, 佐藤健太郎, 仁木凜太郎, 仁木久照. 骨盤輪・仙骨骨折 AO/OTA 分類 Type C では 膀胱直腸障害が高率に合併する 関東整形災害外科学会雑誌 2024;55 巻:95-99.
- 3) 嶋田洋平, 大鳥精司. スタートラインの整形外科 基本手技 スタートラインの整形外科 基本手技 2024;1 (1):116-122.
- 4) 北田 真平, 前 隆男, 脇 貴洋, 福岡 史朗, 依光 正則, 金崎 彰三, 吉田 昌弘, 平澤 直之, 坂越 大悟, 神田 章男, 赤石 孝一, 馬場 智規, 鈴鹿 智章, 本間 康弘, 田代 憲, 佐野 圭, 内山 勝文, 高平 尚伸, 福島 健介, 大橋 慶久, 中嶋 隆行, 徳永 真巳, 横尾 賢, 原田 将太, 松下 隆, 前原 孝, 堀江 直行, 分島 智子, 守屋 秀一, 最上 敦彦, 山口 正哉, 二村 謙太郎, 伊藤 雅之, 柳澤 洋平, 生田 拓也, 小笠原 正宣, 高畑 智嗣, 大江 啓介, 福井 友章, 隈部 洋平, 松宮 豊, 黒田 良祐, 宮本 俊之, 靱井 健太, 筑紫 聡. 大腿骨近位部骨折-大腿骨頸部・転子部・転子下骨折の手術手技- 2024; (1):199-207.
- 5) 山崎正志, 高相晶士, 大鳥精司, 赤澤努. 整形外科専門医への minimal requirements 2024; (1):1-615.
- 6) 染村 嵩, 遊道 和雄, 杉下 陽堂, 鈴木 由妃, 藤谷 博人, 熊井 隆智, 寺内 昂, 仁木 久照. 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と骨形成の制御 BIO Clinica 2024;13(39):58-61.
- 7) 原口直樹. 足 整形外科の病態と診察・診断 2024;:116-122.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 染村嵩, 嶋田洋平. 上腕骨近位部骨折に伴う上腕骨頭の下方亜脱臼の発生率について. 肩関節, 2024;48(1):63-66.
- 2) 嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 稲垣健太, 平岡佑, 服部史弥. リバース型人工肩関節の感染に対する持続的局所抗菌薬灌流(CLAP)の有用性. 肩関節, 2024;48(1):232-237.
- 3) 仁木凜太郎, 山本豪明, 尾崎裕亮, 木村聡美, 門松亮明, 仁木久照. 90 歳以上の超高齢者に対する THA の短期成績. 関東整形災害外科学会雑誌, 2024;55(6):207-211.
- 4) 伊藤諒, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットは整形外科専攻医にとって有用なツールとなるか. 関東整形災害外科学会雑誌, 2024;55(6):183-185.

② 総説又は症例解説

- 1) 嶋田洋平, 松木圭介, 高橋憲正, 菅谷啓之. 解剖学のおよびリバース型人工肩関節置換術のスポーツや肉体労働への復帰. 臨床雑誌 整形外科, 2024;75(5):481-486.
- 2) 原口直樹. 内反型変形性足関節症に対する低位脛骨骨切り・踵骨骨切り合併手術. 整形外科 Surgical Technique, 2024;14(4):65-72.
- 3) 嶋田洋平. 整形外科看護 整形外科ナースのための画像の見かた、読み方. 整形外科看護, 2024;29(9):43-51.
- 4) 山本豪明. 人工股関節置換術におけるロボットサージェリー (ROSAH Hip System). 整形外科 Surgical technique, 2024;14(5):620-630.
- 5) 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕. 脊柱変形におけるロボット支援脊椎手術の実際とそのピットフォール対策: Shift and Skive. Journal of Spine Research, 2024;15(11):1251-1258.
- 6) 原口直樹. 足関節手術における下肢全長アライメント. Monthly Book Orthopaedics, 2024;37(13):71-78.

- 7) 原口直樹. 遠位脛腓靭帯断裂の発生機序. 関節外科 基礎と臨床, 2025;44(1) : 17-24.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Okuwaki S, Kotani T, Sunami T, Sakuma T, Iijima Y, Okuyama K, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S, Yamazaki M.. Associated factors and effects of coronal vertebral wedging angle in thoracic adolescent idiopathic scoliosis. Associated factors and effects of coronal vertebral wedging angle in thoracic adolescent idiopathic scoliosis., 2024;29(3) : 704-710.
- 2) Maemichi T, Matsumoto M, Tsutsui T, Ichikawa S, Okunuki T, Tanaka H, Kumai T. Functional Morphologic Changes of the Heel Fat Pad and Plantar Fascia in Patients With Heel Pain During Weightbearing and Nonweightbearing. Foot & Ankle Orthopaedics, 2024;9(2) : 1-10.
- 3) Eguchi Y, Suzuki N, Orita S, Inage K, Narita M, Shiga Y, Inoue M, Toshi N, Tokeshi S, Okuyama K, Ohyama S, Maki S, Aoki Y, Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, Akazawa T, Koda M, Takahashi H, Ohtori S.. Short-term clinical and radiographic evaluation of patients treated with expandable and static interbody spacers following lumbar lateral interbody fusion. World Neurosurgery, 2024;185 : e1144-e1152.
- 4) Tokeshi S, Eguchi Y, Sakai T, Yoneyama M, Watanabe A, Aoki Y, Sato M, Orita S, Suzuki M, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Toshi N, Okuyama K, Ohyama S, Suzuki N, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, Akazawa T, Takahashi H, Ohtori S.. A novel simultaneous three-dimensional volumetric morphological imaging and T2-mapping method, multi-interleaved X-prepared turbo-spin echo with intuitive relaxometry provides more accurate quantification of cervical spinal nerves. Journal of Clinical Neuroscience, 2024;125 : 97-103.
- 5) Akazawa T, Torii Y, Ueno J, Umehara T, Iinuma M, Yoshida A, Tomochika K, Ohtori S, Niki H.. Safety of robotic-assisted screw placement for spine surgery: experience from the initial 125 cases. Journal of Orthopaedic Science, 2024;29(4) : 933-938.
- 6) Suzuki K, Kumai T, Ichikawa S, Maemichi T, Okunuki T, Shimpo T, Akiyama Y, Mitsui H, Niki H. Dynamic Balance and Muscle Activity in Lifesavers: A Study on Intrinsic and Extrinsic Foot Muscles. Cureus, 2024;16(8) : e67756.
- 7) Ichikawa S, Kumai T, Akiyama Y, Okunuki T, Maemichi T, Matsumoto M, Liu Z, Yamaguchi R, Mitsui H, Suzuki K, Niki H. Relationship between Dynamic Balance and Physical Characteristics and Functions in Elite Lifesaving Athletes. Journal of Functional Morphology and Kinesiology, 2024;9(3) : 134.
- 8) Okuyama K, Inage K, Kim G, Mukaihata T, Tajiri I, Shiga Y, Inoue M, Eguchi Y, Suzuki-Narita M, Otagiri T, Tsuchiya R, Hishiya T, Arai T, Toshi N, Tokeshi S, Tashiro S, Ohyama S, Suzuki N, Furuya T, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, Aoki Y, Kotani T, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S, Orita S.. Bone union-promoting effect of romosozumab in an ovariectomized rat posterolateral lumbar fusion model. Journal of Orthopaedic Research, 2024;42(8) : 1831-1840.
- 9) Toshihiro Maemichi, Shota Ichikawa, Tsukasa Kumai. Effect of training in a sandy environment on foot morphology and function. Journal of Bodywork & Movement Therapies, 2024;40 : 1657-1663.
- 10) Ozaki Y, Yamamoto T, Kimura S, Kasai T, Niki R, Niki H. Accuracy of Cup Placement Angle, Leg Lengthening, and Offset Measurement Using an AR-Based Portable Navigation System: Validation in Supine and Lateral Decubitus Positions for Total Hip Arthroplasty. Medicina, 2024;60(10) : 1721-1721.

- 11) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Shu Somemura, Masahiro Takemoto, Kazuo Yudoh, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya. Pain Candidate Genes 5-HTTLPR and COMT Affect Anxiety and Mood in Japanese Ballet Dancers: A Cross-Sectional and Longitudinal Study. *Sports*, 2024;12(11) : 293; e1-e12.
- 12) Masahiro Iinuma, Tsutomu Akazawa, Yoshiaki Torii, Jun Ueno, Atsuhiko Yoshida, Ken Tomochika, Takahiro Hideshima, Naoki Haraguchi, Hisateru Niki. Impact of nutritional status in patients with metastatic spinal tumors who underwent palliative surgery. *Journal of Orthopaedic Science*, 2024;S0949-2658(24) : 0200-8.
- 13) Rie Komatsu, Ryoji Fujii, Toru Ogasawara, Yuki Suzuki-Takahashi, Sandy Chen, Yodo Sugishita, Hisateru Niki, Kazuo Yudoh. CDK6-Dependent, CDK4-Independent Synovial Hyperplasia in Arthritic Mice and Tumor Necrosis Factor- α -Induced Proliferation of Synovial Fibroblasts. *International journal of molecular medicine*, 2025;26(3) : 1151.
- 14) Satoshi Kishiro, Kenji Uehara, Naoki Minakawa, Mahiro Ono, Takaaki Kudo, Takashi Kotani, Takanori Kumai, Hiroyuki Onuma, Tsutomu Akazawa, Hisateru Niki. Subchondral insufficiency fractures of the medial tibial condyle are associated with medial meniscus extrusion: A retrospective observational study. *Journal of Orthopaedic Science*, 2025;30(2) : 333-338.

② 症例報告

- 1) Somemura S, Shimada Y, Kano Y, Terauchi K, Niki H. Posterior Dislocation of the Sternoclavicular Joint in a Patient With Hemophilia: A Case Report. *Cureus*, 2024;16(5) : 1-8.
- 2) Terauchi K, Shimada Y, Kano Y, Somemura S, Arai T, Murakami K, Kakizaki J, Niki H. Masquelet technique for reconstruction of a large osteomyelitis defect following open fracture of the radius: A pediatric case report. *JOS Case Reports*, 2024;(3) : 127-130.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近頭, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットを用いた 166 症例におけるスクリーンの正確性. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.
- 2) ◎赤澤努. 脊椎疾患の疼痛管理とロボット支援手術. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.
- 3) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近頭, 秀島貴博, 原口直樹, 仁木久照. 転移性脊椎腫瘍の姑息手術例における栄養指標の重要性. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.
- 4) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 仁木久照. Seronegative RA を併存した足関節 OA に人工距骨併用人工足関節置換術を施行した 1 例. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 5) ◎飯沼雅央, 古矢丈雄, 鈴木亨暢, 加藤仁志, 角谷賢一朗, 富永博之, 石原昌幸, 名越慈人, 船山徹, 井上泰一, 飯村拓哉, 中嶋秀明, 竹上徳彦, 大鳥精司, 仁木久照, 井上玄. 予後予測スコアは転移性脊椎腫瘍に対する手術症例での予後を反映しているか? -JASA 多施設共同研究-. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.
- 6) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近頭, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボット手術中に時間を要した不具合—レジストレーションとボーンマウントの 2 つに注目して—. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.
- 7) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近頭, 秀島貴博, 大鳥精司, 仁木久照. 思春期特発性側弯症におけるロボット支援手術後の放射線学的および患者報告アウトカム: 傾向スコアマッチングを使用したナビゲーションとの比較. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.

- 8) ◎秀島貴博, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 成人脊柱変形手術におけるスクリー
ー正確性の進化: ナビゲーションからロボティクスへの転換. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.
- 9) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 原口直樹, 仁木久照. 転移性脊椎腫瘍に対する
姑息手術症例の術前栄養状態は予後予測スコアの点数と相関する. 第 53 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2024.
- 10) ◎寺内昂, 村上賢一, 加納洋輔, 新井猛, 仁木久照. 橈骨遠位端骨折に伴う感染性偽関節に対し Masquelet 法と橈骨舟状骨
月状骨間固定で治療し得た 2 例. 第 67 回日本手外科学会学術集会, 2024.
- 11) ◎加納洋輔, 染村嵩, 嶋田洋平, 寺内昂, 新井猛, 仁木久照. 長時間手術は橈骨遠位端骨折後の pre-CRPS 発症リスクが高
い. 第 67 回日本手外科学会学術集会, 2024.
- 12) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 人工距骨併用人工足
関節置換術は高度内反型変形性足関節症にも有効である. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 13) ◎尾崎裕亮, 山本豪明, 木村聡美, 仁木久照. 透視下で行う新しいロボット支援 THA「ROSA Hip システム」のカップ設置精
度と脚延長量・オフセット変化量の評価. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 14) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 原口直樹, 仁木久照. 転移性脊椎腫瘍に対する
姑息手術症例の術前栄養状態は, 予後予測スコアの代用となりえるか?. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 15) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 熊井隆智, 大沼弘幸, 仁木久照. Mechanical alignment 法による
Robotic-assisted TKA と conventional TKA の臨床成績. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 16) ◎大橋優子, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. CT の椎体 Hounsfield unit 値は骨粗鬆
症治療の指標となる一腰椎後方椎体間固定術症例での解析一. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 17) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 熊井隆智, 大沼弘幸, 仁木久照. Mechanical alignment 法による
Robotic-assisted TKA と conventional TKA での術前後 CPAK 分類変化と正確性の比較検討. 第 97 回日本整形外科学会学術総
会, 2024.
- 18) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 稲垣健太, 平岡祐, 服部史弥, 仁木久照. リバース型人工肩関節置換術の感染に対す
る持続的局所抗菌薬灌流(CLAP)の有用性. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 19) ◎染村嵩, 嶋田洋平, 見上豪, 加納洋輔, 寺内昂, 仁木久照. 上腕骨近位部骨折に伴う上腕骨頭の下方亜脱臼の発生率の
調査. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 20) ◎伊藤諒, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. ロボット支援脊椎手術におけ
るナビゲート型高速回転ドリルの有用性. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 21) ◎仁木凜太郎, 小野瀬喜道, 鳥居良昭, 上野純, 遠藤渉, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 救命できない壊死性筋膜炎の要
因-救命救急センターにおける過去 15 年間の救命例と死亡例の比較-. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 22) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 人工距骨併用人工足
関節置換術が末期足関節 OA の後足部アライメントに与える変化. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 23) ◎山本豪明, 仁木久照. キアリ骨盤骨切り術の適応と実際. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 24) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 市川翔太, 秋山唯, 仁木久照. 外反母趾に対する Lapidus 変法の治療成績〜外側趾症状を有する重
度外反母趾へのアプローチ〜. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 25) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 市川翔太, 秋山唯, 仁木久照. 足関節不安定症および変形性足関節症へ進行しないための保存療
法. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 26) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 小谷俊明, 南昌平, 大鳥精司, 仁木久照. 思春
期特発性側弯症手術療法の現状と未来. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.

- 27) ◎原口直樹. 後果骨折の病態と治療. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 28) ◎赤澤努, 小谷俊明, 佐久間毅, 飯島靖, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照, 大鳥精司, 南昌平. 術後長期経過した思春期特発性側弯症患者における椎間板変性: 手術後 40 年の MRI 評価. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 29) ◎佐藤健太郎, 小野瀬喜道, 秀島貴博, 仁木久照. 統合 ER 体制による整形外科医の働き方改革と現状. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 30) ◎原口直樹. 足関節果部骨折治療のアップデート: 脛腓骨靱帯結合損傷と後果骨折. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 31) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 市川翔太, 秋山唯, 仁木久照. 外側趾障害を伴う外反母趾角 50 度以上の超重度外反母趾に対する CMOS 術後の短期成績. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 32) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットを用いた経皮的スクリューの成績 - イメージガイドを用いた従来法との比較 -. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 33) ◎友近顕, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 秀島貴博, 仁木久照. ロボティクスがもたらす脊椎手術の安全性: 脊椎手術支援ロボットと患者適合型ガイドによる CBT スクリュー挿入の比較. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 34) ◎小野瀬喜道, 秋山唯, 三井寛之, 秀島貴博, 佐藤健太郎, 仁木久照. 当院における足関節果部開放骨折の治療成績. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 35) ◎山本豪明, 尾崎裕亮, 葛西亨, 木村聡美, 仁木久照. ROSA Hip システムのタブレット端末による側臥位 THA での脚延長量とオフセット計測機能の検証. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 36) ◎仁木凜太郎, 小野瀬喜道, 鳥居良昭, 上野純, 遠藤渉, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 救肢困難な壊死性筋膜炎の要因-救命救急センターにおける過去 15 年間のデブリメント例と四肢切断例の比較-. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 37) ◎秀島貴博, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. ナビゲーションからロボティクスへ-成人脊柱変形手術におけるスクリューの正確性はどうか?-. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 38) ◎吉田篤弘, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 友近 顕, 秀島貴博, 仁木久照. 脊椎感染症の補助診断ツール= α -デフェンシンラテラルフロー検査の特徴と注意点=. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 39) ◎吉田篤弘, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 友近顕, 秀島貴博, 伊藤諒, 仁木凜太郎, 仁木久照. CT-to-fluoro workflow によるロボット支援脊柱変形手術のスクリュー挿入時間, レジストレーション時間, 放射線照射時間. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 40) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 166 例における脊椎手術支援ロボット使用時のスクリュー逸脱要因. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 41) ◎仁木久照. リ ウマチ足の外科手術の変遷. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 42) ◎市川翔太, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 仁木久照. Lisfranc 関節脱臼骨折に対する靱帯再建術の治療成績 - 損傷タイプ (Myerson 分類, Kaar 分類) からみた足部アーチの検討 -. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 43) ◎鈴木開, 熊井司, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 牧佑平, 原口直樹, 仁木久照. ライフセイバーと健常成人におけるバランス能力と足部筋活動の比較. 第 97 回日本整形外科学会学術総会, 2024.
- 44) ◎加藤雅彦, 山本豪明, 尾崎裕亮, 木村聡美, 廣瀬景子, 仁木久照. 大腿骨転移性骨腫瘍による切迫骨折に対する姑息的髄内釘手術の治療成績. 第 713 回関東整形災害外科学会月例会, 2024.
- 45) ◎仁木凜太郎, 小野瀬喜道, 寺内昂, 秋山唯, 佐藤健太郎, 仁木久照. 非観血的脱臼整復が可能であった Bosworth 型足関

節脱臼骨折の一例. 第 50 回日本骨折治療学会学術集会, 2024.

- 46) ◎小野瀬喜道, 寺内昂, 秋山唯, 佐藤健太郎, 仁木凜太郎, 仁木久照. 足関節開放骨折における骨折型と開放創の局在. 第 50 回日本骨折治療学会学術集会, 2024.
- 47) ◎佐藤健太郎, 小野瀬喜道, 寺内昂, 仁木凜太郎, 仁木久照. 単一インプラントで治療した大腿骨複合骨折の 4 例. 第 50 回日本骨折治療学会学術集会, 2024.
- 48) ◎寺内昂, 小野瀬喜道, 村上賢一, 仁木久照. 小児掌側転位型橈骨遠位端骨折に対し遠位スクリューを用いない掌側ロッキングプレート固定を行った 3 例. 第 50 回日本骨折治療学会学術集会, 2024.
- 49) ◎仁木凜太郎, 秋山唯, 三井寛之, 小野瀬喜道, 軽辺朋子, 市川翔太, 橘川薫, 野呂瀬朋子, 大池信之, 仁木久照. 足舟状骨に発生した骨巨細胞腫の 1 例. 第 57 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024.
- 50) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 人工距骨併用人工足関節置換術は高度内反型変形性足関節症にも有効である. 第 52 回日本関節病学会, 2024.
- 51) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 市川翔太, 秋山唯, 仁木久照. SAFE-Q を用いた超重度外反母趾に対する CMOS 術後の短期成績. 第 52 回日本関節病学会, 2024.
- 52) ◎土田京太, 植原健二, 木城智, 小谷貴史, 熊井隆智, 仁木久照. ROSA Knee を計測ツールとして使用した内反型変形性膝関節症に対する TKA 時の後内側処理によって得られる伸展ギャップ開大量. 第 52 回日本関節病学会, 2024.
- 53) ◎市川翔太, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 鈴木開, 仁木久照. Lisfranc 関節損傷に対する靱帯再建術後の足部アーチの検討. 第 52 回日本関節病学会, 2024.
- 54) ◎軽辺朋子, 秋山唯, 三井寛之, 市川翔太, 鈴木開, 仁木久照. 外反母趾手術による足部の変化が靴へ与える影響. 第 38 回日本靴医学会学術集会, 2024.
- 55) ◎熊井隆智, 植原健二, 木城智, 小谷貴史, 土田京太, 仁木久照. 複数回の膝蓋腱再断裂に対し自家腱と人工靱帯でのハイブリッド再建をした 1 例. 日本スポーツ整形外科学会 2024, 2024.
- 56) ◎市川翔太, 熊井司, 松本正知, 前道俊宏, 秋山唯, 三井寛之, 鈴木開, 仁木久照. 足部機能がライフセービングに与える影響. 日本スポーツ整形外科学会 2024, 2024.
- 57) ◎鈴木開, 熊井司, 前道俊宏, 三井寛之, 秋山唯, 市川翔太, 仁木久照. ライフセーバーの動的バランス能力と足部筋筋活動の比較: 足部外在筋について. 日本スポーツ整形外科学会 2024, 2024.
- 58) ◎鈴木開, 熊井司, 前道俊宏, 三井寛之, 秋山唯, 市川翔太, 仁木久照. ライフセーバーの動的バランス能力と足部筋筋活動の比較: 足部内在筋について. 日本スポーツ整形外科学会 2024, 2024.
- 59) 見上豪, 嶋田洋平, 寺内昂, 染村嵩, 加納洋輔, 仁木久照. 思春期に発生した陳旧性上腕骨小結節裂離骨折の一例. 関東整形災害外科学会 第 714 回月例会, 2024.
- 60) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 原口直樹, 仁木久照. 脊椎固定術の周術期栄養状態の評価-脊椎固定術の周術期は 90%が栄養障害を呈し、35%以上が重度栄養障害を呈する-. 第 33 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2024.
- 61) ◎吉田篤弘, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 腰部脊柱管狭窄症における、手術支援ロボット手術と従来法との手術成績の比較. 第 33 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2024.
- 62) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボット使用下経皮的スクリュー挿入手技の手術成績. 第 33 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2024.
- 63) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットと患者適合型 3D ガイドを用いた CBT 法の比較. 第 33 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2024.

- 64) ◎高嶋笑鈴, 飯沼雅央, 原口直樹, 武居功, 有本竜也, 秀島貴博, 仁木久照. 第1腰椎椎体骨折に対する後方矯正固定術後に肝機能障害を生じた一例. 第73回東日本整形災害外科学会, 2024.
- 65) ◎山本豪明, 尾崎裕亮, 木村聡美, 仁木久照. 高齢者の大腿骨頸部骨折に対してセメントレスシステムを使用する際の注意点. 第73回東日本整形災害外科学会, 2024.
- 66) ◎嶋田洋平, 染村嵩, 見上豪, 加納洋輔, 寺内昂, 仁木久照. 当院における肩鎖関節脱臼の治療方法-関節鏡下烏口鎖骨靱帯+肩鎖靱帯再建術の併用-. 第182回神奈川整形災害外科研究会, 2024.
- 67) ◎寺内昂, 遊道和雄, 染村嵩, 熊井隆智, 仁木久照. 反復的メカニカルストレスに応答する軟骨細胞の細胞エネルギー代謝の変化と軟骨変性との関連. 第39回日本整形外科基礎学術集会, 2024.
- 68) ◎原口直樹, 仁木久照, Robert Armiger. 発生機序からみた足関節後果骨折の治療. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 69) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 変形性足関節症とロコモティブシンドローム. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 70) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 市川翔太, 鈴木開, 秋山唯, 仁木久照. 外反母趾の治療により足幅は改善する ~外反母趾角と足幅の関係~. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 71) ◎熊井隆智, 遊道和雄, 植原健二, 木城智, 寺内昂, 小谷貴史, 染村嵩, 土田京太, 仁木久照. 細胞分化・増殖因子と抗生物質を含有した人工骨-軟骨複合バイオマテリアルの軟骨および軟骨下骨組織の再生能の基礎的解析. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 72) ◎木村聡美, 山本豪明, 尾崎裕亮, 仁木久照. 人工股関節全置換術においてAR技術を使用した簡易ナビゲーションの使用は術中透視の放射線線量と照射時間を減少させる. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 73) ◎有本竜也, 原口直樹, 大野真弘, 小山亮太, 飯沼雅央, 武居功, 軽辺朋子, 三井寛之, 秋山唯, 仁木久照, 木村裕介. 人工足関節置換術における術中の後脛骨動脈損傷に関するセーフゾーンの放射線学的検討. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 74) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 熊井隆智, 土田京太, 仁木久照. 大腿骨遠位矢状断面のCutting errorを減少させるTKA手術手技(ステップカット法)の検討. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 75) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 人工距骨併用人工足関節置換術は高度内反型変形性足関節症にも有効である(第2報). 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 76) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 人工距骨併用人工足関節置換術の治療成績-X線学的病期分類(3b・4期)からみた比較-. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 77) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. PCFDのバイオメカニクス. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 78) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 稲垣健太, 平岡佑, 服部史弥, 仁木久照. リバース型人工肩関節に対する持続的局所抗菌薬灌流(CLAP)の有用性. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 79) ◎鈴木開, 熊井司, 前道俊宏, 三井寛之, 秋山唯, 市川翔太, 仁木久照. ライフセーバーの動的バランス能力と足部筋筋活動の比較: 足部外在筋について. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 80) 小松梨恵, 藤井亮爾, 小笠原徹, チェンサンディ, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 仁木久照, 遊道和雄. TNF α 誘導性滑膜線維芽細胞増殖およびコラーゲン誘導性関節炎マウスにおけるCDK4/6の機能解析. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 81) 藤井亮爾, 小松梨恵, 小笠原徹, チェンサンディ, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 仁木久照, 遊道和雄. TNF α 誘導性関節リウマチ滑膜線維芽細胞増殖およびコラーゲン誘導性関節炎におけるCDK6阻害剤の効果. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会

, 2024.

- 82) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットを用いた経皮的スクリュウの逸脱. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 83) ◎市川翔太, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 鈴木開, 仁木久照. Lisfranc 関節脱臼骨折に対する靱帯再建術の治療成績-早期荷重を目指した後療法の検討-. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 84) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 上條秀樹, 稲垣健太, 平岡佑, 大鳥精司, 仁木久照. 新鮮凍結屍体を用いたL'Episcopo 法併用のリバーズ型人工肩関節置換術における安定性の検討. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 85) ◎鈴木開, 熊井司, 前道俊宏, 三井寛之, 秋山唯, 市川翔太, 仁木久照. ライフセーバーの動的バランス能力と足部筋活動の比較: 足部内在筋について. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 86) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 原口直樹, 仁木久照. 脊椎固定術における周術期の栄養状態 脊椎固定術の9割以上が栄養不良を生じる. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 87) ◎植原健二, 熊井隆智, 小谷貴史, 土田京太, 木城智, 大沼弘幸, 仁木久照. 膝関節加齢性疾患における膝窩筋の役割の検討. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 88) ◎染村嵩, 遊道和雄, 竹本昌紘, 熊井隆智, 寺内昂, 仁木久照. 反復的メカニカルストレスに応答する細胞エネルギー代謝調整因子・ミトコンドリア機能の変化と骨芽細胞活性の誘導. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 89) ◎市川翔太, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 鈴木開, 仁木久照. Lisfranc 関節脱臼骨折に対する靱帯再建術の治療成績-損傷タイプ(Myerson 分類, Kaar 分類)からみた足部アーチの検討-. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 90) ◎佐藤健太郎, 小野瀬喜道, 仁木久照. 当院における夜間救急患者に対する整形外科医負担軽減の取り組み. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 91) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 市川翔太, 鈴木開, 秋山唯, 仁木久照. 外側趾障害を伴った超重度外反母趾に対してCMOSは有用である. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 92) ◎吉田篤弘, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 脊椎感染症における α -デフェンシンラテラルフロー検査の利用法—抗菌薬投与と起炎菌別特徴—. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 93) ◎尾崎裕亮, 山本豪明, 木村聡美, 仁木久照. 透視下で行う新しいロボット手術支援THA「ROSA Hip システム」のカップ設置精度と脚延長量・オフセット変化量計測の評価. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 94) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットを用いた経皮的スクリュウ手術の成績—イメージガイドを用いた従来法との比較-. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 95) ◎山本豪明, 尾崎裕亮, 木村聡美, 仁木久照. 高齢者の大腿骨頸部骨折に対してDual Mobility Cupを用いた人工股関節全置換術の短期成績. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 96) ◎赤澤努, 井上玄, 大下優介, 福田健太郎, 齋藤亘, 酒井大輔, 飯沼雅央, 松山大輔, 大田光俊, 仁木久照. 腰椎疾患に関連した慢性疼痛患者に対するトラマドール塩酸塩速放部付徐放錠の安全性と忍容性. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 97) ◎山本豪明, 高島将, 前田昭彦, 伊藤浩, 高木理彰, 佐々木幹. 本邦における大腿骨頸部骨折に対するG7 Dual Mobility Systemを用いた人工股関節全置換術の短期成績-多施設共同研究-. 第51回日本股関節学会学術集会, 2024.
- 98) ◎染村嵩, 嶋田洋平, 見上豪, 加納洋輔, 寺内昂, 仁木久照. リバーズ型人工関節の可動域予測におけるMy Shoulderの精度. 第51回日本肩関節学会学術集会, 2024.
- 99) 見上豪, 嶋田洋平, 寺内昂, 染村嵩, 加納洋輔, 仁木久照. ChatGPT-4を用いたリバーズ型人工肩関節置換術患者の適切な

医療情報取得の可能性. 第 51 回 日本肩関節学会学術集会, 2024.

- 100) ◎谷口優樹, 稲見聡, 齊藤敏樹, 齋藤亘, 高橋真治, 中村直行, 野原亜也斗, 藤本陽, 宮城正行, 山口徹, 赤澤努. 立位・歩行困難な側弯症症例の治療実態調査 ー神経原性・難治性側弯症委員会報告ー. 第 58 回日本側弯症学会学術集会, 2024.
- 101) ◎飯島靖, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤努, 水谷雅哉, 南昌平, 大鳥精司. 成人脊柱変形患者における正中弓状靱帯 overlap の危険因子に関する検討. 第 58 回日本側弯症学会学術集会, 2024.
- 102) ◎加藤木丈英, 赤澤努, 小谷俊明, 奥村太朗, 飯島靖, 佐久間毅, 南昌平. 術後 40 年以上が経過した思春期特発性側弯症患者の運動能力と脊椎バランスの関係. 第 58 回日本側弯症学会学術集会, 2024.
- 103) ◎坂下孝太郎, 小谷俊明, 朝田智之, 佐久間毅, 飯島靖, 小方陽介, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 6 か月時点で 18 時間以上の装具装着達成に関する因子の検討. 第 58 回日本側弯症学会学術集会, 2024.
- 104) ◎坂下孝太郎, 朝田智之, 小谷俊明, 佐久間毅, 飯島靖, 小方陽介, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 思春期特発性側弯症の装具治療の指標 ー装具遵守を含めた装具内矯正率による進行予測の解析ー. 第 58 回日本側弯症学会学術集会, 2024.
- 105) ◎小方陽介, 小谷俊明, 大山秀平, 佐久間毅, 飯島靖, 奥脇駿, 坂下孝太郎, 角南貴大, 水谷雅哉, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 男子思春期特発性側弯症カーブ進行の自然経過-単施設 199 例の後ろ向き縦断コホート研究-. 第 58 回日本側弯症学会学術集会, 2024.
- 106) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 市川翔太, 鈴木開, 秋山唯, 仁木久照. 母趾内転筋腱温存による MTP 関節固定術は第 1 中足骨の骨切りを要せずに M1M2 角を矯正する. 第 49 回日本足の外科学会学術集会, 2024.
- 107) ◎原口直樹. 低位脛骨骨切り術 ーその適応・限界・対応策ー. 第 49 回日本足の外科学会学術集会, 2024.
- 108) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 人工距骨併用人工足関節置換術は高度内反型変形性足関節症にも有効である. 第 49 回日本足の外科学会学術集会, 2024.
- 109) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 鈴木開, 仁木凜太郎, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 変形性足関節症の保存療法へ装具療法を中心に. 第 49 回日本足の外科学会学術集会, 2024.
- 110) ◎市川翔太, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 鈴木開, 仁木久照. Lisfranc 関節脱臼骨折に対する靱帯再建術の治療成績 損傷タイプ (Myerson 分類, Kaar 分類) からみた足部アーチの検討. 第 49 回日本足の外科学会学術集会, 2024.
- 111) ◎有本竜也, 原口直樹, 武居功, 飯沼雅央, 市川翔太, 軽辺朋子, 三井寛之, 仁木久照, 儀武正樹, 古澤達也. 術前の扁平足の程度は Lapidus 変法の術後再発率に影響を与えるか. 第 49 回日本足の外科学会学術集会, 2024.
- 112) ◎鈴木開, 熊井司, 前道俊宏, 三井寛之, 秋山唯, 市川翔太, 仁木久照. ライフセーバーと健常成人におけるバランス能力と足部筋活動の比較. 第 49 回日本足の外科学会学術集会, 2024.
- 113) ◎鈴木英一, 勝谷洋文, 木下大輔, 佐藤健太郎, 納響, 豊見山瑛人, 築場廉, 田中涼太郎, 村上航平, 立石智彦. 女子フットサル選手の外側半月板損傷に施行した鏡視下 all inside 縫合術後の疼痛遷延のため縫合糸アンカーを抜去し復帰した一例. 第 35 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2024.
- 114) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 原口直樹, 仁木久照. 側方侵入腰椎椎体間固定術 (LLIF) に側臥位 PPS を併用した Single position surgery における Screw 逸脱減少の試み. 第 27 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会, 2024.
- 115) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 熊井隆智, 土田京太, 大沼弘幸, 仁木久照. 手術支援ロボットを用いた TKA におけるトラッカーピン刺入による合併症の解剖学的検討. 第 2 回日本膝関節学会, 2024.

- 116) ◎土田京太, 植原健二, 木城智, 熊井隆智, 小谷貴史, 大沼弘幸, 杉浦善弥, 小泉宏隆, 仁木久照. 膝窩筋腱周囲に発生した腱滑膜巨細胞腫に対して腱鞘内視鏡を併用した1例. 第2回日本膝関節学会, 2024.
- 117) ◎門松亮明, 小谷貴史, 植原健二, 木城智, 熊井隆智, 土田京太, 仁木久照. Robotic-assisted TKAの術後合併症報告. 第2回日本膝関節学会, 2024.
- 118) ◎熊井隆智, 植原健二, 木城智, 小谷貴史, 土田京太, 大沼弘幸, 仁木久照. TKA手術支援ロボットROSAのラーニングカーブ. 第2回日本膝関節学会, 2024.
- 119) ◎金子瑛久, 大沼弘幸, 小泉英樹, 岩田英明, 木村聡美, 仁木久照. 変形性膝関節症を伴う膝蓋骨骨折に対して観血的整復固定術と人工膝関節置換術を一期的に施行した一例. 関東整形災害外科学会 月例会 第716回整形外科集談会 東京地方会演題, 2025.
- 120) 山本豪明, 尾崎裕亮, 木村聡美, 仁木久照. CASツールを使用する人工股関節手術 一進化と深化、そして真価一. 第17回ロボット外科学会学術集会, 2025.
- 121) 町田慎治, 飯沼雅央, 山城菜那, 卜部あやの, 柴田みち, 今井直彦. 当院における腎臓ケア・サポートセンターの役割と腎臓内科×整形外科のコマネジメント連携. 第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2025.
- 122) ◎寺内昂, 見上豪, 加納洋輔, 染村嵩, 嶋田洋平, 仁木久照. 上肢絞扼性神経障害に対する保存治療の基本, 適切な手術時期について. 第65回関東整形災害外科学会, 2025.
- 123) ◎飯沼雅央, 原口直樹, 有本竜也, 秀島貴博, 赤澤努, 仁木久照. 脊椎手術周術期の栄養状態: プレアルブミンを用いた検証. 第65回関東整形災害外科学会, 2025.
- 124) ◎鈴木開, 三井寛之, 市川翔太, 軽辺朋子, 原口直樹, 仁木久照. 左足関節固定術・右人工足関節置換術を施行した両側変形性足関節症の1例. 第65回関東整形災害外科学会, 2025.
- 125) ◎小泉祥太郎, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 嚥下障害を主訴とする頸椎前縦靱帯骨化症に対する骨搔把術の経験. 第65回関東整形災害外科学会, 2025.
- 126) ◎土田京太, 植原健二, 熊井隆智, 小谷貴史, 木城智, 仁木久照. 膝窩筋腱周囲に発生した腱滑膜巨細胞腫に対して腱鏡を併用した1例. 第65回関東整形災害外科学会, 2025.
- 127) ◎山口智則, 山本豪明, 尾崎裕亮, 木村聡美, 仁木久照. 慈大式人工股関節全置換術後にCupが骨盤内に迷入し、外腸骨動脈の保護と再置換術を要した1例. 第65回関東整形災害外科学会, 2025.
- 128) 吉田 篤弘, 赤澤 努, 鳥居 良昭, 上野 純, 飯沼 雅央, 友近 顕, 秀島 貴博, 仁木 久照. 脊椎手術支援ロボットを用いたスクリュウ逸脱の形態. 第19回CAOS学会, 2025.
- 129) 山本豪明, 尾崎裕亮, 木村聡美, 仁木久照. ROSA Hip システムのタブレット端末を用いた側臥位 THAにおける脚延長およびオフセット変化量の計測精度に関する検討. 第19回日本CAOS学会, 2025.
- 130) ◎Kenji Uehara, Takanori Kumai, Takashi Kotani, Kyota Tsuchida, Satoshi Kishiro, Hisateru Niki. Short-term results of high tibial osteotomy combined with medial meniscotibial ligament capsulodesis. 第2回日本膝関節学会, 2024.

② 国際学会

- 1) ◎Naoki Haraguchi. Supramalleolar Osteotomy in Conjunction with Progressive Collapsing Foot Deformity Reconstruction for PCFD IE. International Federation of Foot and Ankle Societies (IFFAS 2024), 2024.
- 2) ◎Shu Somemura, Yohei Shimada, Yosuke Kano, Koh Terauchi, Hisateru Niki. Incidence for inferior subluxation of the humeral head associated with proximal humerus fractures. 11th Academic Congress of Asian Shoulder and Elbow Association (ACASEA), 2024.

- 3) ◎Yohei Shimada, Nobuyasu Ochiai, Hisateru Niki. Efficacy of Continuous local antibiotic perfusion procedure for reverse shoulder arthroplasty. Academic Congress of asian shoulder and elbow association, 2024.

③ その他

- 1) ◎仁木久照. 知っておきたい足の外科の基礎と臨床の最前線. 第1回(189回)大分県整形外科・臨床整形外科医会, 2024.
- 2) ◎植原健二, 熊井隆智, 小谷貴史, 土田京太, 木城智, 仁木久照. 内側半月板変性損傷に対する内側脛骨半月靱帯 capsulodesis 併用脛骨近位骨切り術の短期成績. 第3回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会, 2024.
- 3) ◎仁木久照. 知っておきたい足の外科の基礎と臨床の最前線. 第51回整形外科アップデートセミナー, 2024.
- 4) ◎小野瀬喜道, 仁木久照. 外傷診療チーム発足による大腿骨近位部骨折手術待機時間の短縮. 第181回神奈川整形災害外科研究会, 2024.
- 5) ◎廣瀬景子, 尾崎裕亮, 山本豪明, 加藤雅彦, 木村聡美, 仁木久照. 巨大な Herniation pit を伴う大腿骨インピンジメントに対して人工骨移植と鏡視下股関節唇形成術を行った1例. 第181回神奈川整形災害外科研究会, 2024.
- 6) ◎原口直樹. 下肢機能軸から見た足関節症の関節温存手術. 第122回山形整形外科セミナー, 2024.
- 7) ◎原口直樹. 変形性足関節症に対する骨切り術のすべて. 第1回北関東Foot and Ankle Forum, 2024.
- 8) ◎赤澤努. 神経障害性疼痛治療と脊椎ロボット手術～技術を繋ぐ未来への革新～. 地域で取り組む! 痛みのwebセミナー, 2024.
- 9) ◎赤澤努. 脊椎疾患治療 UP-TO-DATE～慢性疼痛治療薬と最新ロボット手術～. 第13回さがみ運動器疾患研究会, 2024.
- 10) ◎仁木久照. 診療ガイドライン 2024 からみたりウマチ足の最新治療: 神経障害性疼痛などの慢性疼痛への対応. 名古屋整形外科セミナー, 2024.
- 11) ◎原口直樹. 足関節果部骨折の病態・評価と治療の実際. 第22回 OMU 整形勤務医会, 2024.
- 12) ◎金子瑛久, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 腹痛を初発症状としたサルモネラ菌による小児化膿性脊椎炎の1例. 第182回神奈川整形災害外科研究会, 2024.
- 13) ◎原口直樹. 変形性足関節症に対する関節温存手術. 名古屋整形外科セミナー, 2025.
- 14) ◎熊井隆智, 植原健二, 木城智, 小谷貴史, 土田京太, 竹本昌紘, 仁木久照. 腰痛を主訴に受診した中高年大腿四頭筋拘縮症の1例. 第183回神奈川整形災害外科研究会, 2025.
- 15) ◎吉田篤弘, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 友近顕, 仁木久照. 当院における骨粗鬆性椎体骨折に対する手術治療の戦略. 第183回神奈川整形災害外科研究会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		7	
論 文	原著	4	14
	解説又は総説	7	
	症例報告		2
	その他		
学会発表	国内学会	129	1
	国際学会		3
	その他	15	

形成外科学

学術論文〔和文〕

① 原著

- 1) 望月靖史, 梶川明義, 鍋島諒大, 浅井凜太郎. 乳腺全摘に引き続く乳房再建用組織拡張器留置術における胸郭を基準とした位置決定法. *Oncoplastic Breast Surgery*, 2024;9(2) : 36-43.

② 総説又は症例解説

- 1) 梶川明義. 臍ヘルニアの手術療法 ―先天性臍ヘルニアおよび臍部病変に対する臍形成法―. *形成外科*, 2024;67(11) : 1174-1182.

③ 症例報告

- 1) 田邊雅祥. アズレン軟膏頻回塗布が再発防止に貢献したと考えられた陰唇癒着症の一例. *聖マリアンナ医科大学雑誌*, 2024;52(1) : 1-6.
- 2) 杉本同, 関征央, 宮野竜太郎, 友近真世, 沖野照仁, 大沼舞, 相原正記, 梶川明義. 低形成耳珠の修正を兼ねた副耳切除術の5例. *形成外科*, 2025;68(1) : 104-109.
- 3) 梶川明義. IV. 手術編 再建方法 2. [8] LD Flap.美しく仕上げる 乳癌手術・乳房再建術のコツ, 2025; : 169-173.

学会発表

① 国内学会

- 1) 梶川明義, 望月靖史, 宮野竜太郎, 友近真世, 鍋島諒大, 沖野照仁, 浅井凜太郎, 海野芙美香. 自家組織による乳房再建の新しい選択―Transformer 広背筋皮弁―. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会, 2024.
- 2) 宮野竜太郎, 望月靖史, 友近真世, 沖野照仁, 海野芙美香, 遠藤春夏, 佐々木絵里香, 梶川明義. 広背筋弁・深下腹壁動脈穿通枝皮弁での一次一期乳房再建後の乳房下溝線位置の比較. 第67回日本形成外科学会総会・学術集会, 2024.
- 3) 梶川明義. ATK パッドの効果と使用経験. 第44回日本静脈学会総会, 2024.
- 4) 岩本承豪, 大沼舞, 渡邊真美, 藤沢里紗, 梶川明義. 劇症型溶連菌感染症により上眼瞼壊死に至った1例. 第16回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2024.
- 5) 宮野竜太郎, 鍋島諒大, 梶川明義. Twin Birds Transformer (TBT) 広背筋皮弁法の創部瘢痕に対する工夫. 第16回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2024.
- 6) 梶川明義. 乳がん患者の術後QOL向上を目指して―新しい乳房再建法とエクオール活用―. 第15回関東産婦人科乳腺医学会, 2024.
- 7) 加藤実怜, 望月靖史, 宮野竜太郎, 友近真世, 沖野照仁, 鍋島諒大, 海野芙美香, 梶川明義. Transformer 広背筋皮弁による新しい乳房再建 : Tear Drop Transformer LD 皮弁. 第12回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 8) 宮野竜太郎, 望月靖史, 友近真世, 沖野照仁, 鍋島諒大, 海野芙美香, 浅井凜太郎, 梶川明義. 二期乳房再建におけるティッシュ・エキスパンダー留置中の放射線治療の影響と対応について. 第12回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 9) 白石知大. 整容性・安全性を考慮した人口物乳房再建. 第12回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
- 10) 関征央¹, 今井洋文¹, 辛川領¹, 矢野智之¹, 浅井凜太郎², 友近真世², 梶川明義²

¹) がん研究会有明病院 形成外科, ²) 聖マリアンナ医科大学 形成外科. 筋ポンプ作用を利用した dynamic-LVA : 上肢リンパ浮腫治療を変える圧迫不要率と予後. 第12回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.

- 11) 藤沢里紗, 望月靖史, 宮野竜太郎, 友近真世, 沖野照仁, 海野芙美香, 清水文華, 岡田孝司, 國府田聖, 梶川明義. ICG 検査を用いた Transformer 広背筋皮弁の血行に関する検討. 第 12 回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2024.
 - 12) 浅井凜太郎, 白石知大, 梶川明義. 下咽頭癌化学放射線療法後の咽頭瘻、頸部膿瘍に対して咽喉食摘と再建を行った 1 例. 関東形成外科学会 第 308 回東京地方会, 2024.
 - 13) 望月靖史 1, 梶川明義 2, 西田翔平 3, 渡部将伍 3, 小山明彦 3
 1 川崎市立多摩病院形成外科
 2 聖マリアンナ医科大学形成外科
 3 福島県立医科大学形成外科. 高度側弯を伴う高度漏斗胸に対する胸骨挙上術の一例. 関東形成外科学会 第 308 回東京地方会, 2024.
 - 14) 海野芙美香, 梶川明義, 宮野竜太郎, 白石知大, 友近真世, 鍋島諒大, 望月靖史, 沖野照仁, 加藤実怜. Transformer 広背筋皮弁による新しい乳房再建—Tear Drop Transformer LD 皮弁—. 関東形成外科学会 第 308 回東京地方会, 2024.
 - 15) 藤沢里紗 1, 岩本承豪 1, 高田女里 1, 梶川明義 2
 1 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 形成外科
 2 聖マリアンナ医科大学 形成外科. 劇症型溶連菌感染症により上眼瞼が壊死し兎眼に至った 1 例. 関東形成外科学会 第 308 回東京地方会, 2024.
 - 16) 佐々木絵里香, 宮野竜太郎, 友近真世, 梶川 明義. 耳輪部完全切断に対し耳介軟骨移植と局所皮弁を用いて再建した一例. 関東形成外科学会 第 308 回東京地方会, 2024.
 - 17) 宮野竜太郎, 梶川明義, 鍋島諒大, 海野芙美香, 浅井凜太郎, 遠藤春夏, 杉本同, 白石知大. Peach Style Transformer 広背筋皮弁の有効な transform pattern. 第 30 回日本形成外科手術手技学会, 2025.
 - 18) 梶川明義, 宮野竜太郎, 望月靖史, 鍋島諒大, 海野芙美香, 白石知大. Transformer 広背筋皮弁の種々の変形パターン. 第 30 回日本形成外科手術手技学会, 2025.
- ② その他
- 1) 梶川明義. 「患者の QOL 改善のための私の形成外科手術手技開発史～より安全に&より美しく」. 第 74 回文月会, 2024.
 - 2) 梶川明義. 「乳がんサバイバーの新しい選択—Transformer 広背筋皮弁による新しい乳房再建&異常知覚のコントローラー」. がんサバイバー講演会 ～乳房再建～, 2024.
 - 3) 梶川明義. 私の目指す安全で美しい乳房再建 —Transformer 広背筋皮弁法—. 聖マリアンナ医科大学医学会第 87 回学術集会, 2025.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	1	
	解説又は総説	1	
	症例報告	3	
	その他		
学会発表	国内学会	18	
	国際学会		
	その他	3	

皮膚科学

学術論文[英文]

① 症例報告

- 1) Takakuwa Y, Ooka S, Endo N, Nakamura H, Okano T, Miyagaki T, Kadono T, Kawahata K. Long-term follow-up of vasculitis with metal allergy after cerebrovascular coil embolization. Oxford Medical Case Reports, 2025;4 : 208-210.

学会発表

① 国内学会

- 1) 石橋祐記, 渡部秀憲, 中島香緒里, 望月俊彦, 川越康仁, 田邊康宏, 明石嘉浩, 門野岳史. 生物学的製剤による全身療法中の乾癬患者における冠動脈 CT を用いた精密診断(FFRet)の有用性. 第 39 回日本乾癬学会学術大会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		1
	その他		
学会発表	国内学会	1	
	国際学会		
	その他		

腎泌尿器外科学

著書

- 1) 菊地栄次. 膀胱腫瘍 今日の治療指針(2025年度版) 2025;:1193-1194.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 関口善吉, 篠田和伸, 松村かおり, 佐藤好嗣, 薄場渉, 菊地栄次. サージカルグローブを使用した単孔式腹腔鏡下尿膜管摘除術. 日本泌尿器科学会雑誌, 2024;115(2):72-79.
- 2) 篠田和伸, 山田昌由, 藤田直也, 堀田記世彦, 三浦健一郎, 寺西淳一, 田崎正行, 小松智徳, 宮内勇貴, 望月保志, 中川健, 江川裕人. 小児腎移植患者に発症した抗体関連型拒絶反応治療におけるIVIgを投与した症例の全国調査. 移植, 2024;59(1):27-35.
- 3) 西智弘, 佐々木雅英, 中澤龍斗, 塚田光, 白井大介, 奥座直利, 菊地栄次. Expanded Prostate Cancer Index Compsiteを用いた鏡視下小切開前立腺全摘除術後の性機能に関する前向き観察研究. 日本性機能学会雑誌, 2024;39(3):229-236.
- 4) 山田龍治, 早川望, 菊地栄次. 膀胱癌に対する開腹膀胱全摘除術における周術期静脈血栓塞栓症の検討. 日本泌尿器科学会雑誌, 2025;116(1):1-9.
- 5) 小林綾子, 櫻井裕子, 前田幹広, 有木宏宗, 柴垣有吾, 篠田和伸, 坂上逸孝. 腎移植レシピエントにおけるタクロリムストラフ血中濃度とAUCの関係性に与えるプロトンポンプ阻害薬の影響. 医療薬学, 2025;51(2):55-64.

② 総説又は症例解説

- 1) 早川望, 菊地栄次. 【Urological Pharmacotherapy これ一冊でパーフェクト!! 泌尿器科薬物療法2024】筋層浸潤性膀胱癌, 転移癌 エンホルツマブベドチン. 泌尿器外科, 2024;37(特別号):87-89.
- 2) 早川望, 菊地栄次. 【人生100年時代の老年泌尿器科診療】悪性腫瘍 高齢者における尿路上皮癌診療. 臨床泌尿器科, 2024;78(5):292-296.
- 3) 早川望, 菊地栄次. 【薬の使い方がすぐわかる 泌尿器科処方ガイド】腫瘍 標準治療 転移性尿路上皮癌. 臨床泌尿器科, 2024;78(4):180-183.
- 4) 早川望, 菊地栄次. 【泌尿器診断・治療の技術革新】腎盂・尿管癌 診断から治療まで up to date. 映像情報 Medical, 2024;56(9):1346-1354.
- 5) 早川望, 菊地栄次. 【最新の血尿診断】血尿精査における尿細胞診の意義. 日本医師会雑誌, 2024;153(6):609-612.
- 6) 水野隆一, 菊地栄次. 【臨床腎・泌尿器癌(上)-基礎・臨床研究の進歩-】腎癌の治療 薬物療法 非淡明型腎細胞癌に対する薬物療法. 日本臨床, 2024;82(増刊8):367-372.
- 7) 早川望, 菊地栄次. 【臨床腎・泌尿器癌(中)-基礎・臨床研究の進歩-】膀胱癌の治療 薬物療法 来るべき新規薬物療法. 日本臨床, 2024;82(増刊9):318-322.
- 8) 早川望, 菊地栄次. 【臨床腎・泌尿器癌(下)-基礎・臨床研究の進歩-】腎盂尿管癌の治療 薬物療法 エンホルツマブベドチン. 日本臨床, 2024;82(増刊10):98-102.
- 9) 早川望, 菊地栄次. 【腎疾患の診断と治療 最前線】泌尿器疾患(診断と治療) 膀胱癌. 腎と透析, 2024;97(増刊):424-428.
- 10) 水野隆一, 菊地栄次. 【知ってますか? ED診療の最前線】EDの病態, 検査 EDの疫学とリスクファクター. 臨床泌尿器科, 2024;78(13):1010-1014.
- 11) 早川望, 菊地栄次. 【膀胱癌治療, 時代の変化に乗り遅れるな!】EV302試験, 徹底解説. 泌尿器外科, 2025;38(1):41-45.

- 12) 早川望, 菊地栄次. 特集／泌尿器腫瘍の最新の診断と治療 尿路上皮がんの治療 尿路上皮がんに対する全身薬物治療. 臨床と研究, 2025;102(2) : 67-71.

③ 症例報告

- 1) 井崎裕都, 緒方聖友, 大迫希代美, 櫻井裕子, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 生体腎移植後早期に再発したループス腎炎に対し Belimumab を投与した1例. 日本臨床腎移植学会雑誌, 2024;12(2) : 238-241.

④ その他

- 1) 菊地栄次, 川合 剛人, 田岡 利宜也. 進行性・転移性尿路上皮癌の新展開 治療を選べる時代へ. 泌尿器外科, 2025;38(1) : 1-10.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Omura Minami, Kosaka Takeo, Kobayashi Hiroaki, Shigeta Keisuke, Matsumoto Kazuhiro, Hara Satoshi, Kikuchi Eiji, Mikami Shuji, Saya Hideyuki, Sato Yasufumi, Oya Mototsugu. Vasohibin-1 expression can predict pathological complete remission of advanced bladder cancer with neoadjuvant chemotherapy. Annals of Surgical Oncology, 2024;31(5) : 2951-2958.
- 2) Ogata Masatomo, Osako Kiyomi, Terashita Maho, Miyauchi Takamasa, Sakurai Yuko, Shinoda Kazunobu, Sasaki Hideo, Shibagaki Yugo, Yazawa Masahiko. Consequences of kidney donation by age in Japanese living kidney donors: a single-center study. Clinical and Experimental Nephrology, 2024;28(7) : 664-673.
- 3) Kikuchi Eiji, Hayakawa Nozomi, Nakayama Masashi, Uno Masahiro, Nakatsu Hiroomi, Kitagawa Chiyoe, Miyake Hideaki, Yamada Takeshi, Fujita Kazutoshi, Shimoyama Hideaki, Nishihara Kiyooki, Kobayashi Mizuki, Nakamura Motonobu, Fujimoto Kiyohide, Sano Takeshi, Nishiyama Naotaka, Ito Takayuki, Kajita Masahiro, Kobayashi Takashi, Kitamura Hiroshi. J-AVENUE: A retrospective, real-world study evaluating patient characteristics and outcomes in patients with advanced urothelial carcinoma treated with avelumab first-line maintenance therapy in Japan. International Journal of Urology, 2024;31(8) : 859-867.
- 4) Fletcher Sean A, Pallauf Maximilian, Watts Emelia K, Lombardo Kara A, Campbell Jack A, Rezaee Michael E, Rouprêt Morgan, Boorjian Stephen A, Potretzke Aaron M, Roshandel M Reza, Ploussard Guillaume, Djaladat Hooman, Ghoreifi Alireza, Mari Andrea, Campi Riccardo, Khene Zine-Eddine, Raman Jay D, Kikuchi Eiji, Rink Michael, Abdollah Firas, Boormans Joost L, Fujita Kazutoshi, D'Andrea David, Soria Francesco, Breda Alberto, Hoffman-Censits Jean, McConkey David J, Shariat Shahrokh F, Pradere Benjamin, Singla Nirmish. Oncologic outcomes in patients with residual upper tract urothelial carcinoma following neoadjuvant chemotherapy. European Urology Oncology, 2024;7(5) : 1061-1068.
- 5) Hayakawa Nozomi, Mizuno Ryuichi, Tanaka Tomoki, Shiraishi Yutaka, Matsumoto Kazuhiro, Kosaka Takeo, Kikuchi Eiji, Oya Mototsugu. Comparing the efficacy of tadalafil and tamsulosin for managing erectile dysfunction and lower urinary tract symptoms in prostate brachytherapy patients: a prospective study. Prostate International, 2024;12(4) : 231-237.
- 6) Yasui Takahiro, Kikuchi Eiji, Yamamoto Hiroyuki, Ishii Daisuke, Mizuno Ryuichi, Hatakeyama Shingo, Kobayashi Takashi, Uchida Junji, Takahashi Masayuki, Sakamoto Shinichi, Morizane Shuichi, Kamoto Toshiyuki, Eto Masatoshi. Annual record on the number of general urological surgeries registered in the National Clinical Database system between April 2018 and December 2021 in Japan. International Journal of Urology, 2024;31(11)

: 1256-1262.

- 7) Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji, Kaneko Go, Yamashita Ryo, Ikarashi Daiki, Endo Yuki, Usui Kimitsugu, Obara Wataru, Oyama Masafumi, Kondo Yukihiro. Association between response to enfortumab vedotin and peripheral neuropathy in urothelial carcinoma patients: a multicenter retrospective study. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 2024;54(11) : 1194-1200.
- 8) Katayama Satoshi, Pradere Benjamin, Grossman Nico C, Potretzke Aaron M, Boorjian Stephen A, Ghoreifi Alireza, Daneshmand Siamak, Djaladat Hooman, Sfakianos John P, Mari Andrea, Khene Zine-Eddine, D'andrea David, Hayakawa Nozomi, Fujita Kazutoshi, Heindenreich Axel, Raman Jay D, Roumiguié Mathieu, Abdollah Firas, Breda Alberto, Fontana Matteo, Rouprêt Morgan, Margulis Vitaly, Karakiewicz Pierre I, Araki Motoo, Nasu Yasutomo, Shariat Shahrokh F. Clinical significance of tumor location for ureteroscopic tumor grading in upper tract urothelial carcinoma. *Journal of Endourology*, 2024;38(11) : 1156-1163.
- 9) Ono Masanori, Takai Yasushi, Harada Miyuki, Horie Akihito, Dai Yidan, Kikuchi Eiji, Miyachi Mitsuru, Yamamoto Tetsuya, Fujii Nobuharu, Kajiyama Hiroaki, Manabe Atsushi, Yasuoka Toshiaki, Katsuragi Shinji, Mekaru Keiko, Maezawa Tadashi, Horage Yuki, Kataoka Shinsuke, Nakayama Robert, Nakajima Eguchi Takako, Kimura Fuminori, Shimizu Chikako, Sugimoto Kohei, Takae Seido, Yumura Yasushi, Nishi Hirotaka, Furui Tatsuro, Morishige Ken-Ichirou, Watanabe Chie, Osuga Yutaka, Suzuki Nao. Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey. *International Journal of Clinical Oncology*, 2024;29(12) : 1959-1966.
- 10) Kikuchi Eiji, Yamamoto Hiroyuki, Yasui Takahiro, Hatakeyama Shingo, Mizuno Ryuichi, Sakamoto Shinichi, Mizuno Kentaro, Morizane Shuichi, Hayakawa Nozomi, Kobayashi Takashi, Kamoto Toshiyuki, Eto Masatoshi. The first detailed annual record on the National Clinical Database Urology Division in Japan: A report on five surgical procedures. *International Journal of Urology*, 2024;31(12) : 1344-1355.
- 11) Tsujimura Akira, Fukuhara Shinichiro, Chiba Koji, Yoshizawa Tsuyoshi, Tomoe Hikaru, Shirai Masato, Kimura Kazunori, Kikuchi Eiji, Maeda Eri, Sato Yoshikazu, Nagai Atsushi, Nagao Koichi, Sasaki Haruaki. Erectile function and sexual activity are declining in the younger generation: results from a national survey in Japan. *The World Journal of Men's Health*, 2025;43(1) : 239-248.
- 12) Yamashita Ryo, Sugino Takashi, Notsu Akifumi, Ito Kana, Sakura Yuma, Shinsaka Hideo, Matsuzaki Masato, Niwakawa Masashi, Kikuchi Eiji. Clinical outcome of BCG treatment for patients with urothelial carcinoma of the prostatic urethra: Implications for early cystectomy. *World Journal of Urology*, 2025;43(1) : 71.
- 13) Yajima Shugo, Hata Shinro, Masumori Naoya, Matsuoka Yoh, Sawada Atsuro, Miki Jun, Tambo Mitsuhiro, Kobayashi Yasuyuki, Matsuda Ayumu, Nakane Keita, Kobayashi Takashi, Tanaka Hajime, Yamaguchi Noriya, Kaneko Go, Miller Russell, Seto Takehiro, Ito Hiroaki, Kikuchi Eiji. Patient preferences for post-radical cystectomy treatment in muscle-invasive bladder cancer: A discrete choice experiment in Japan. *International Journal of Urology*, 2025;32(6) : 688-697.

② 総説又は症例解説

- 1) Powles Thomas, Valderrama P. Begoña, Gupta Shilpa, Bedke Jens, Kikuchi Eiji, Hoffman-Censits Jean, Iyer Gopa, Vulsteke Christof, Park Se Hoon, Shin Sang Joon, Castellano Daniel, Fornarini Giuseppe, Li Jian-Ri, Gümüş Mahmut, Mar Nataliya, Lorient Yohann, Fléchon Aude, Duran Ignacio, Drakaki Alexandra, Narayanan Sujata, Yu Xuesong, Gorla Seema, Moreno Blanca Homet, Van der Heijden S. Michiel. A study to learn how well enfortumab vedotin (EV) with pembrolizumab works and how safe it is in people with advanced urothelial cancer: a plain language summary of the EV-302/KEYNOTE-A39 study. *Future Oncology*, 2025;21(7) : 749-764.

③ 症例報告

- 1) Matsubara Keisuke, Hayakawa Nozomi, Aida Koichiro, Koike Junki, Kikuchi Eiji. Renal pelvic plasmacytoid subtype urothelial carcinoma accompanied with solitary mammary metastasis. *International Cancer Conference Journal*, 2024;13(3) : 296-300.
- 2) Kitano Fumiya, Marui Yuhji, Sakurai Kenzo, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu, Kojima Shigeki. Use of the superficialized brachial artery as vascular access for a patient with myasthenia gravis with a frequent need for plasmapheresis: a case report. *Internal Medicine*, 2024;63(16) : 2307-2310.
- 3) Tsukada Hikaru, Hayakawa Nozomi, Aida Koichiro, Wada Shinji, Morimoto Tsuyoshi, Doi Masatomo, Mimura Hidefumi, Koike Junki, Kikuchi Eiji. Small renal cell carcinoma accompanied by extensive inferior vena cava tumor thrombus diagnosed by percutaneous transvenous biopsy. *IJU Case Reports*, 2024;7(2) : 91-94.
- 4) Matsubara Keisuke, Hayakawa Nozomi, Kubota Yohei, Ohike Nobuyuki, Sunakawa Yu, Koike Junki, Kikuchi Eiji. A case of multiple bone metastases during the course of non-invasive bladder and prostate cancer. *IJU Case Reports*, 2025;8(2) : 158-161.

④ その他

- 1) Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji. Editorial comment to "The clinical impact of ureteroscopy for upper tract urothelial carcinoma: A multicenter study". *International Journal of Urology*, 2024;31(4) : 402-403.
- 2) Omura Minami, Kosaka Takeo, Kobayashi Hiroaki, Shigeta Keisuke, Matsumoto Kazuhiro, Hara Satoshi, Kikuchi Eiji, Mikami Shuji, Saya Hideyuki, Sato Yasufumi, Oya Mototsugu. ASO author reflections: Vasohibin-1 as a biomarker for chemotherapeutic response in patients with advanced bladder cancer. *Annals of Surgical Oncology*, 2024;31(6) : 3914-3915.
- 3) Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji. Editorial comment on "Effectiveness of adjuvant chemotherapy for patients who undergo radical cystectomy without neoadjuvant chemotherapy: A retrospective cohort study of 115 advanced bladder cancer patients with pathological lymph node classification". *International Journal of Urology*, 2024;31(7) : 793-794.
- 4) Wada Shinji, Osawa Reo, Dote Minoru, Hayakawa Nozomi, Maruki Saeko, Mimura Hidefumi. Percutaneous core needle biopsy of a renal pelvic mass via nephrostomy access. *Journal of Vascular and Interventional Radiology*, 2024;35(11) : 1723-1725.
- 5) Kikuchi Eiji, Hayakawa Nozomi. Editorial Comment to "Efficacy and safety of dose-dense gemcitabine plus cisplatin as neoadjuvant chemotherapy for muscle-invasive bladder cancer". *International Journal Urology*, 2024;31(10) : 1106.

学会発表

① 国内学会

- 1) Mizuno Ryuichi, Yamamoto Hiroyuki, Takahashi Masayuki, Kobayashi Takashi, Hatakeyama Shingo, Sakamoto Shinichi, Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji, Yasui Takahiro, Kamoto Toshiyuki. Cancer Clinical Research: Significance and Generation of Real-World Data, Including Utilization of National Clinical Database (NCD). 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 2) Tsukada Hikaru, Hayakawa Nozomi, Aoki Naoto, Nishi Tomohiro, Aida Koichiro, Nakazawa Ryuto, Shinoda Kazunobu, Kikuchi Eiji. Two metastatic urothelial carcinoma cases of drug-induced interstitial lung disease associated with enfortumab vedotin. 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 3) Nagata Masayoshi, Kikuchi Eiji, Kambe Anzu, Sato Masashi, Ogi Mie, Morita Makiko, Kajita Masahiro, Nishiyama Hiroyuki. Avelumab maintenance therapy in patients with curatively unresectable urothelial carcinoma in Japan: third interim analysis of post-marketing surveillance. 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 4) 菊地栄次. Against mUC, なぜ EV なのか?. 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 5) 菊地栄次. 腎盂・尿管癌治療のすべて. 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 6) 早川望. NCD 症例登録に関する説明会:現状と課題. 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 7) Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji. Future prospects of anticancer therapy for distant metastases after primary surgery. 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 8) Yoza Naoto, Nakazawa Ryuto, Sasaki Masahide, Shirai Daisuke, Aoki Naoto, Nishi Tomohiro, Aida Koichiro, Hayakawa Nozomi, Shinoda Kazunobu, Kikuchi Eiji. Correlation between apparent diffusion coefficient values in prostate biopsy sections and cancer detection rate in PI-RADS category 3 lesions. 第 111 回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 9) 早川望, 松原圭輔, 小池淳樹, 菊地栄次. トリプルネガティブ乳癌との鑑別を要した腎盂癌の孤立乳房転移の一例. 第 36 回日本内分泌外科学会総会, 2024.
- 10) 和田慎司, 大澤怜央, 土手季, 早川望, 成木佐瑛子, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文. 腎臓経由で腎盂病変の針生検を施行した 1 例. 第 53 回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 11) 鈴木和臣, 増田哲之, 泉家匠, 片山真史, 石井将光, 谷口清章, 四万村司, 朝倉武士, 栗原毅, 吉岡まき, 土居正知, 大坪毅人. 術前診断に難渋した鼠径部脂肪肉腫の 1 切除例. 第 49 回日本外科連合学会学術集会, 2024.
- 12) 白井大介, 早川望, 小柳壮史, 加納麻弓子, 月山秀一, 中澤龍斗, 曾根正勝, 菊地栄次. Enfortumab vedotin 投与によりコントロール不良な高血糖をきたした尿路上皮癌の一例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 13) 副島彩加, 高木亮, 松田拓也, 韓蔚, 渡邊詩香, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 抗癌薬投与後の低 Na 血症と体液量過剰を伴う急性腎障害に対して限外濾過ではなく血液透析を選択した 1 例. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会, 2024.
- 14) 中澤龍斗, 菊地栄次. 両側尿管結石を認めた ACTH 非依存性 Cushing 症候群の小児の一例. 第 97 回日本内分泌学会学術総会, 2024.
- 15) 松原圭輔, 早川望, 久保田洋平, 大池信之, 砂川優, 小池淳樹, 菊地栄次. A case of multiple bone metastases during the course of non-invasive bladder and prostate cancer. 第 33 回日本がん転移学会学術集会・総会, 2024.
- 16) 緒方聖友, 寺下真帆, 大原希代美, 今井直彦, 宮内隆政, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 生体腎ドナーの術前腎体積および術後腎肥大と新規蛋白尿出現の関連. 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024.
- 17) 早川望, 菊地栄次. 腎盂・尿管癌のケーススタディ -診断から周術期治療の選択まで-. 第 11 回泌尿器画像診断・治療技

術研究会, 2024.

- 18) 菊地栄次. たかが TURBT、されど TURBT. 第 31 回日本排尿機能学会, 2024.
- 19) 早川望, 菊地栄次. 間歇的自己導尿の長期施行症例に発生し急速に進行した膀胱癌の一例. 第 31 回日本排尿機能学会, 2024.
- 20) 篠田和伸. 移植臓器機械灌流保存技術の保険収載に向けて一保険診療委員の立場から. 第 60 回日本移植学会総会, 2024.
- 21) 塚田光, 早川望, 水野隆一, 篠田和伸, 中澤龍斗, 相田紘一郎, 西智弘, 岩田鉄平, 與座直利, 白井大介, 森本勇樹, 松原圭輔, 清水嵩, 佐々木雅英, 菊地栄次. ペムプロリズマブ治療後エンフォルツマブ ベドチン投与中に運動感覚ニューロパチーを呈した尿管癌の 1 例. 第 69 回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 2024.
- 22) 早川望. NDC 事業 update 2024 現状と課題. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会, 2024.
- 23) 菊地栄次. 変革する UTUC 薬物療法、その核心に迫る. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会, 2024.
- 24) 白井雅人, 菊地栄次, 木村和哲, 佐々木春明, 佐藤嘉一, 千葉公嗣, 巴ひかる, 永井敦, 永尾光一, 中島耕一, 福原慎一郎, 前田理恵, 吉澤剛, 辻村晃. 早漏の危険因子に関する検討 -インターネットを介した男性性機能障害の全国実態調査より-. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会, 2024.
- 25) 水野隆一. NDC 事業 update 2024 年次報告, radical/partial nephrectomy. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会, 2024.
- 26) 菊地栄次. 転移性尿路上皮癌治療の update “IO の魅力に迫る”. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 27) 水野隆一, 田中伸之, 相田紘一郎, 早川望, 菊地栄次, 大家基嗣. 進行性腎細胞癌に対するカボザンチニブレジメン使用症例の臨床的検討. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 28) 菊地栄次, 永田政義, 伊藤泰斗, 佐藤聖士, 大木美栄, 森田真規子, 梶田昌裕, 西山博之. Final analysis of postmarketing surveillance (PMS) for the safety and effectiveness of avelumab maintenance therapy in patients (pts) with curatively unresectable urothelial carcinoma (UC) in Japan. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 29) 菊地栄次. 転移性尿路上皮癌治療の update “EV の新展開”. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 30) 進藤哲哉, 矢嶋習吾, 松岡陽, 羽田真郎, 三木淳, 小林泰之, 澤田篤郎, 松田歩, 中根慶太, 多武保光宏, 山口徳也, 小林恭, 佐藤真由子, 伊藤寛明, 菊地栄次. Patient preferences of treatment for the patients suffering from muscle-invasive urothelial carcinoma of bladder following radical cystectomy in Japan (SNUGGLE) . 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 31) 早川望. NDC 事業 update 2024 現状と課題. 第 76 回西日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 32) 水野隆一. NDC 事業 update 2024 年次報告, radical/partial nephrectomy. 第 76 回西日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 33) 篠田和伸. 移植臓器機械灌流保存技術の保険収載を目指して一診療報酬改定提案におけるロジックとは. 第 50 回日本臓器保存生物医学会学術集会, 2024.
- 34) 森本勇樹, 相田紘一郎, 佐々木雅英, 清水嵩, 松原圭輔, 白井大介, 塚田光, 與座直利, 岩田鉄平, 西智弘, 早川望, 中澤龍斗, 篠田和伸, 水野隆一, 菊地栄次. メタルステントが尿路外へ迷入した一例. 第 101 回神奈川県泌尿器科医会, 2024.
- 35) 水野隆一. NDC 事業 update 2024 年次報告, radical/partial nephrectomy. 第 74 回日本泌尿器科学会中部総会, 2024.
- 36) 早川望. NDC 事業 update 2024 現状と課題. 第 74 回日本泌尿器科学会中部総会, 2024.
- 37) 関口善吉, 篠田和伸, 佐藤好嗣, 松村かおり, 友清桜子, 菊地栄次. サージカルグローブを使用した単孔式尿管摘除術. 第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2024.
- 38) 相田紘一郎, 松原圭輔, 白井大介, 岩田鉄平, 青木直人, 早川望, 中澤龍斗, 篠田和伸, 水野隆一, 菊地栄次. 当院での高齢者の PDD-TURBT における血圧低下の検討. 第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2024.

- 39) 松村かおり, 関口善吉, 佐藤好嗣, 友清桜子, 菊地栄次. 当院における前立腺インプラント埋め込み尿道吊り上げ術(PUL)導入の初期治療成績. 第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2024.
- 40) 栗原毅, 吉岡まき, 相田紘一郎, 安達裕之. 当院における軟性尿管鏡故障に関する因子の検討. 第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2024.
- 41) 早川望, 水野隆一, 菊地栄次, 大家基嗣. ホルモン未治療かつ小線源療法を行った前立腺癌症例におけるタダラフィルの勃起機能に対する検討. 第32回日本性機能学会西部総会, 2025.
- 42) 湯浅千晶, 麻生芽亜, 白井佳那, 緒方聖友, 佐々木秀郎, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 血液透析を要する急性腎障害(AKI)を繰り返す腎移植患者の一例. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 43) 篠田和伸, 佐々木雅英, 塚田光, 西智弘, 中澤龍斗, 谷澤雅彦, 菊地栄次. リンパ囊腫開窓術後に非損傷性尿管閉塞により無尿となった1例. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 44) 河原崎宏雄, 緒方聖友, 中澤龍斗, 篠田和伸, 柴垣有吾, 櫻井裕子, 谷澤雅彦. 両腎結石を有するドナーの腎提供後の長期経過の1例. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 45) 酒井雅史, 緒方聖友, 藤田陽子, 櫻井裕子, 河原崎宏雄, 篠田和伸, 谷澤雅彦. 腎移植後に日常生活を著しく障害した起立性低血圧の1例. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 46) 清水嵩, 篠田和伸, 松原圭輔, 西智弘, 谷澤雅彦, 水野隆一, 柴垣有吾, 菊地栄次. 腎移植後長期経過観察中に急激に骨転移を来した嚢胞性腎癌の1例. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 47) 白井佳那, 緒方聖友, 田中真純, 櫻井裕子, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 生体腎移植ドナーにおける腎提供後の悪性腫瘍発生に関する調査. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 48) 杉山彩, 田中真純, 斉藤由美子, 柴垣有吾, 谷澤雅彦, 緒方聖友, 篠田和伸. 若年で腎提供を選択する方の背景を考慮した意思決定支援. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 49) 友清桜子, 篠田和伸, 櫻井裕子, 緒方聖友, 谷澤雅彦, 森田伸也, 菊地栄次. 中枢性PTLD寛解7年目に二次腎移植を施行した症例. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 50) 緒方聖友, 河原崎宏雄, 櫻井裕子, 白井小百合, 中澤龍斗, 篠田和伸, 柴垣有吾, 谷澤雅彦. 結石を有する提供腎の移植後長期経過の一例. 第58回日本臨床腎移植学会, 2025.
- 51) 早川望, 水野隆一, 菊地栄次, 大家基嗣. 前立腺小線源療法後の排尿および勃起機能に対するタダラフィルタムスロシンの比較-ランダム化比較試験. 第34回日本性機能学会東部総会, 2025.
- 52) 白井大介, 中澤龍斗, 佐々木雅英, 清水嵩, 松原圭輔, 森本勇樹, 塚田光, 與座直利, 岩田鉄平, 西智弘, 相田紘一郎, 早川望, 篠田和伸, 水野隆一, 菊地栄次. 非観血的治療で対処し得た小児の複雑深在性腎損傷の1例. 第70回日本泌尿器外科学会神奈川地方会, 2025.
- 53) 栗原毅, 山田龍治, 吉岡まき. 当院におけるディスプレイサブル軟性尿管鏡WiScopeの初期経験. 第70回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 2025.
- 54) 小野政徳, 高井泰, 原田美由紀, 堀江昭史, 戴易丹, 菊地栄次, 宮地充, 山本哲哉, 藤井伸治, 梶山広明, 真部淳, 安岡稔晃, 桂木真司, 銘苅桂子, 前沢忠志, 洞下由記, 片岡伸介, 中山ロバート, 中島貴子, 木村文則, 清水千佳子, 杉本公平, 高江正道, 湯村寧, 西洋孝, 古井辰郎, 森重健一郎, 渡邊知映, 大須賀譲, 鈴木直. 妊孕性温存に要する患者支払い額に関する全国調査. 第15回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 55) Kikuchi E, van der Heijden M, Pérez-Valderrama B, Gupta S, Bedke J, Shin SJ, Li J-R, Guo J, Danchaivijitr P, Kanesvaran R, Park SH, Su W-P, Kandori S, Bae WK, Wong A, Lu Y-T, Yu X, Shetty A, Bavle A, Powles T. Enfortumab vedotin + pembrolizumab vs chemotherapy in advanced urothelial carcinoma: Pan-Asian subgroup in

EV-302 study. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.

- 56) Kitamura H, Kobayashi T, Shirotake S, Ikeda M, Yonemori K, Naito S, Fujita K, Hayakawa N, Miyake H, Miura N, Negishi T, Yatsuda J, Kobayashi M, Nishiyama N, Taoka R, Furukawa J, Kambe A, Shono M, Kimura G, Kikuchi E. Real-world analysis of avelumab first-line maintenance for advanced urothelial carcinoma in Japan by start date. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) Powles T, Perez Valderrama B, Gupta S, Bedke J, Kikuchi E, Hoffman Censits J, Iyer G, Vulsteke C, Park S.H, Shin S.J, Castellano Gauna D, Fornarini G, Li J.R, Gumus M Mar N, Narayanan S, Yu X, Gorla S, Homet Moreno B, Van der Heijden MS. Enfortumab vedotin and pembrolizumab (EV+P) versus chemotherapy (chemo) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (la/mUC): Results from the global phase 3 EV-302/KEYNOTE-A39 study. The 39th Annual European Association of Urology Congress, 2024.
- 2) Pallauf M, Fletcher SA, Rezaee M, Roupret M, Boorjian SA, Potretzke AM, Djaladat H, Ghoreifi A, Soria F, Mari A, Campi R, Khene Z-E, Kikuchi E, Rink M, Fujita K, D'Andrea D, Boormans JL, Ploussard G, Breda A, Abdollah F, Raman JD, Shariat SF, Pradere B, Singla N. Oncologic outcomes in patients with variant histologies of upper tract urothelial cancer: Results from an international multicenter cohort. The 39th Annual European Association of Urology Congress, 2024.
- 3) Maximilian Pallauf, Sean A. Fletcher, Michael Rezaee, Morgan Rouprêt, Stephen A. Boorjian, Aaron M. Potretzke, Hooman Djaladat, Alireza Ghoreifi, Francesco Soria, Andrea Mari, Riccardo Campi, Zine-Eddine Khene, Eiji Kikuchi, Michael Rink, Kazutoshi Fujita, David D'Andrea, Joost L. Boormans, Guillaume Ploussard, Alberto Breda, Firas Abdollah, Jay D. Raman, Shahrokh F. Shariat, Benjamin Pradere, Nirmish Singla. Oncologic outcomes in patients with variant histologies of upper tract urothelial cancer: Results from an international multicenter cohort. The 119 American Urological Association Annual Meeting, 2024.
- 4) van Der Heijden Michiel S., Gupta Shilpa, Bedke Jens, Valderrama Begoña P., Kikuchi Eiji, Iyer Gopa, Lorient Johann, Dawson Nancy A., Hoffman-Censits Jean H., Mar Nataliya, Sridhar Srikala S., Maroto-Rey Pablo, Shin Sang J., Yu Evan Y., Duran Ignacio, Birrenkott Matthew, Yu Xuesong, Shetty Aditya, Bavle Abhishek A., Powles Thomas. Enfortumab vedotin (EV) with pembrolizumab (P) versus chemotherapy (chemo) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (la/mUC): Analysis of the cisplatin (cis)-ineligible population from EV-302/KEYNOTE-A39. 2024 American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, 2024.
- 5) Bedke Jens, Van Der Heijden Michiel S., Powles Thomas, Valderrama Begoña P., Kikuchi Eiji, Iyer Gopa, Vulsteke Christof, Swami Umang, Castellano Daniel, Sarwar Naveed, Drakaki Alexandra, Hoffman-Censits Jean H., Arafat Waddah, Andabekov Timur, Li Jian-Ri, Lu Yi-Tsung, Yu Xuesong, Shetty Aditya, Moreno Blanca Homet, Gupta Shilpa. Enfortumab vedotin (EV) with pembrolizumab (P) versus chemotherapy (chemo) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (la/mUC): Analysis of cisplatin (cis)-eligible population from EV-302/KEYNOTE-A39. 2024 American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, 2024.

- 6) Gupta Shilpa, Loriot Yohan, Van Der Heijden Michiel Simon, Bedke Jens, Valderrama Begoña Pérez, Kikuchi Eiji, Flechon Aude, Petrylak Daniel P., De Santis Maria, Galsky Matt D., Lee Jae-Lyun, Swami Umang, Sridhar Srikala S., De Giorgi Ugo, Wright Phoebe, Lu Yi-Tsung, Guan Xuesong, Dillon Ryan, Moreno Blanca Homet, Powles Thomas. Patient-reported outcomes (PROs) from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab (EV+P) versus platinum-based chemotherapy (PBC) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer (la/mUC). 2024 American Society of Clinical Oncology Annual Meeting, 2024.
- 7) Gupta S, Loriot Y, van der Heijden M, Bedke J, Valderrama BP, Kikuchi E, Fléchon A, Petrylak DP, De Santis M, Galsky M, Lee JL, Swami U, Sridhar SS, Giorgi UD, Wright P, Lu Y, Guan X, Dillon R, Moreno BH, Powles T. Patient-reported outcomes from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab versus chemotherapy in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer. 50th Annual Meeting of Korean Cancer Association, 2024.
- 8) Naseem A, Loriot Y, van der Heijden M, Bedke J, Valderrama BP, Kikuchi E, Fléchon A, Petrylak DP, De Santis M, Galsky M, Lee JL, Swami U, Sridhar SS, Giorgi UD, Wright P, Lu Y-T, Guan X, Dillon R, Moreno BH, Powles T. Patient-reported outcomes from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab versus platinum-based chemotherapy in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer. ANZUP 2024 Annual Scientific Meeting, 2024.
- 9) Kikuchi E, Gupta S, Loriot Y, van der Heijden M, Bedke J, Valderrama BP, Fléchon A, Petrylak DP, De Santis M, Galsky M, Lee JL, Swami U, Sridhar SS, Giorgi UD, Wright P, Lu Y, Guan X, Dillon R, Moreno BH, Powles T. Patient-reported outcomes (PROs) from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab (EV+P) versus platinum-based chemotherapy (PBC) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer (la/mUC). 2024 American Society of Clinical Oncology Breakthrough, 2024.
- 10) Kikuchi E, Gupta S, Loriot Y, van der Heijden M, Bedke J, Valderrama BP, Fléchon A, Petrylak DP, De Santis M, Galsky M, Lee JL, Swami U, Sridhar SS, Giorgi UD, Wright P, Lu Y, Guan X, Dillon R, Moreno BH, Powles T. Patient-reported outcomes from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab versus platinum-based chemotherapy in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer. ASCO Breakthrough Meeting 2024, 2024.
- 11) Kikuchi Eiji, Nagata Masayoshi, Ito Taito, Sato Masashi, Ogi Mie, Morita Makiko, Kajita Masahiro, Nishiyama Hiroyuki. Primary analysis of post-marketing surveillance (PMS) data for avelumab maintenance therapy in patients (pts) with curatively unresectable urothelial carcinoma (UC) in Japan. European Society for Medical Oncology (ESMO) Congress 2024, 2024.
- 12) Powles T, van der Heijden MS, Gupta S, Valderrama BP, Galsky MD, Bedke J, Kikuchi E, Hoffman-censits J, Maroto Rey JP, Vulsteke C, Iyer G, Swami U, Shin SJ, Rodriguez-Vida A, Wozniak M, Homet Moreno B, Lu J, Yu C, Hogdal L, Loriot Y. EV-302: Exploratory analysis of nectin-4 expression and response to 1L enfortumab vedotin (EV) + pembrolizumab (P) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer (la/mUC). European Society For Medical Oncology (ESMO) Congress 2024, 2024.
- 13) Gupta S, Loriot Y, van der Heijden MS, Bedke J, Valderrama BP, Kikuchi E, Flechon A, Petrylak DP, De Santis M, Galsky MD, Lee J-L, Swami U, Sridhar SS, De Giorgi U, Wright P, Lu Y-T, Guan X, Dillon R, Moreno BH, Powles T. Patient-reported outcomes from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab

versus platinum-based chemotherapy in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer. 31st Annual Meeting of the Chinese Urological Association, 2024.

- 14) Powles T, van der Heijden M, Gupta S, Valderrama BP, Galsky MD, Bedke J, Kikuchi E, Hoffman-Censits J, Maroto Rey JP, Vulsteke C, Iyer G, Swami U, Shin SJ, Rodriguez-Vida A, Wozniak M, Moreno BH, Lu Y-T, Yu X, Hogdal L, Lorient Y. EV-302: Exploratory analysis of nectin-4 expression and response to first-line enfortumab vedotin + pembrolizumab in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer. 17th Annual Meeting of Korean Society of Medical Oncology, 2024.
- 15) Bedke J, Gupta S, Lorient Y, van der Heijden M, Valderrama BP, Kikuchi E, Fléchon A, Petrylak D, De Santis M, Galsky M, Lee JL, Swami U, Sridhar SS, De Giorgi U, Wright P, Lu Y-T, Guan X, Dillon R, Homet Moreno B, Powles T. Enfortumab vedotin plus pembrolizumab (ev+p) versus platinum-based chemotherapy (pbc) in patients (pts) with previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer (la/mUc): patient-reported outcomes (pros) from the randomized, phase 3 trial ev-302. 76th Annual Congress of the Deutschen Gesellschaft für Urologie, 2024.
- 16) Powles T, van der Heijden M, Gupta S, Valderrama BP, Galsky MD, Bedke J, Kikuchi E, Hoffman-Censits J, Maroto Rey JP, Vulsteke C, Iyer G, Swami U, Shin SJ, Rodriguez-Vida A, Wozniak M, Moreno BH, Lu Y-T, Yu X, Hogdal L, Lorient Y. EV-302: Exploratory analysis of nectin-4 expression and response to first-line enfortumab vedotin + pembrolizumab in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer. Chinese Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2024, 2024.
- 17) Gupta S, Lorient Y, van der Heijden MS, Bedke J, Valderrama BP, Kikuchi E, Flechon A, Petrylak DP, De Santis M, Galsky MD, Lee J-L, Swami U, Sridhar SS, De Giorgi U, Wright P, Lu Y-T, Guan X, Dillon R, Moreno BH, Powles T. Patient-reported outcomes (PROs) from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab (EV+P) versus platinum-based chemotherapy (PBC) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer (la/mUC). 2024 Annual Meeting of the German, Austrian and Swiss Societies for Hematology and Medical Oncology, 2024.
- 18) Ogata Masatomo, Miyauchi Takamasa, Osako Kiyomi, Imai Naohiko, Sakurai Yuko, Shinoda Kazunobu, Shibagaki Yugo, Yazawa Masahiko. Relationship between new-onset proteinuria and remnant kidney hypertrophy and/or pre-donated kidney volumes. American Society of Nephrology, Kidney week 2024, 2024.
- 19) Shirai Kana, Murata-Hasegawa Marie, Ogata Masatomo, Miyauchi Takamasa, Shinoda Kazunobu, Shibagaki Yugo, Yazawa Masahiko. Late-onset post-transplant lymphoproliferative disorders presenting with sudden massive abdominal ascites effusion: A case report. American Society of Nephrology, Kidney week 2024, 2024.
- 20) Gupta S, Lorient Y, van der Heijden MS, Bedke J, Valderrama BP, Kikuchi E, Flechon A, Petrylak DP, De Santis M, Galsky MD, Lee J-L, Swami U, Sridhar SS, De Giorgi U, Wright P, Lu Y-T, Guan X, Dillon R, Moreno BH, Powles T. Patient-reported outcomes (PROs) from a randomized, phase 3 trial of enfortumab vedotin plus pembrolizumab (EV+P) versus platinum-based chemotherapy (PBC) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial cancer (la/mUC). XXVI Italian Association of Medical Oncology National Congress, 2024.
- 21) Ono M, Harada M, Horie A, Dai Y, Horiguchi I, Kikuchi E, Kimura F, Koizumi T, Komeya M, Mizunuma N, Oseto K, Ota K, Shimizu C, Sugimoto K, Takae S, Takeuchi E, Nishi H, Yumura Y, Furui T, Takai Y, Morishige K, Watanabe C, Osuga Y, Suzuki N. Effect of a web-based fertility preservation training program for medical professionals

in Japan. 8th World Congress of the International Society for Fertility Preservation, 2024.

- 22) Nagata Masayoshi, Kikuchi Eiji, Ito Taito, Sato Masashi, Morita Makiko, Kajita Masahiro, Nishiyama Hiroyuki. Avelumab maintenance therapy in older patients with advanced urothelial carcinoma in Japan: Subgroup analyses of data from post-marketing surveillance by age group. European Society for Medical Oncology (ESMO) Asia Congress 2024, 2024.
- 23) Hayakawa Nozomi, Kaneko Go, Ikarashi Daiki, Endo Yuki, Sakura Yuma, Yamashita Ryo, Obara Wataru, Kondo Yukihiro, Kikuchi Eiji. The role of organ-specific response to enfortumab vedotin on survival in advanced urothelial carcinoma patients: A Japanese multicenter retrospective study. European Society for Medical Oncology (ESMO) Asia Congress 2024, 2024.
- 24) Kikuchi E, van der Heijden MS, Valderrama BP, Gupta S, Bedke J, Shin SJ, Li J, Guo J, Danchaivijitr P, Kanesvaran R, Park SH, Su W, Kandori S, Bae WK, Wong A, Lu Y-T, Yu X, Shetty A, Bavle A, Powles T. Enfortumab vedotin plus pembrolizumab (EV+P) vs chemotherapy (Chemo) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (la/mUC): Pan-Asian subgroup analysis from EV-302/KEYNOTE-A39. European Society for Medical Oncology (ESMO) Asia Congress 2024, 2024.
- 25) Kitamura Hiroshi, Kobayashi Takashi, Kimura Go, Ikeda Masaomi, Yonemori Kan, Kawamura Norihiko, Fujihara Atsuko, Abe Takashige, Shimizu Fumitaka, Fujimoto Kiyohide, Nakagawa Tohru, Hatakeyama Shingo, Murakami Kaoru, Nishihara Kiyooki, Ikarashi Daiki, Masumori Naoya, Kambe Anzu, Shono Michihiro, Shirotake Suguru, Kikuchi Eiji. Real-world effectiveness and treatment (tx) patterns in patients (pts) with locally advanced/metastatic urothelial carcinoma (la/mUC) receiving avelumab first-line maintenance (1LM) in Japan: Results from the JAVEMACS chart review study. 2025 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Genitourinary Cancers Symposium, 2025.
- 26) Endo Yuki, Kondo Yukihiro, Sakura Yuma, Kaneko Go, Hayakawa Nozomi, Ikarashi Daiki, Yamashita Ryo, Shirotake Suguru, Obara Wataru, Kikuchi Eiji. Impact of relative dose intensity on efficacy of enfortumab vedotin monotherapy in platinum and ICI resistant metastatic urothelial carcinoma: A multi-institutional real-world analysis. 2025 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Genitourinary Cancers Symposium, 2025.
- 27) Powles T, van der Heijden M, Loriot Y, Bedke J, Valderrama B, Iyer G, Kikuchi E, Hoffman-Censits J, Vulsteke C, Drakaki A, Rausch S, Arafat W, Park SH, Swami U, Li J-R, Gorla S, Moreno BH, Yu X, Lu Y-T, Gupta S. EV-302: Updated analysis from the phase 3 global study of enfortumab vedotin in combination with pembrolizumab (EV+P) vs chemotherapy (chemo) in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (la/mUC). 2025 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Genitourinary Cancers Symposium, 2025.
- 28) Nagata Masayoshi, Kikuchi Eiji, Ito Taito, Sato Masashi, Ogi Mie, Morita Makiko, Kajita Masahiro, Nishiyama Hiroyuki. Avelumab maintenance therapy in patients (pts) with advanced urothelial carcinoma (UC) in Japan: Subgroup analyses by prior chemotherapy regimen from post-marketing surveillance (PMS). 2025 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Genitourinary Cancers Symposium, 2025.

- 29) Kobayashi Takashi, Kitamura Hiroshi, Furukawa Yuka, Kambe Anzu, Shono Michihiro, Ito Takayuki, Kikuchi Eiji. Evaluation of avelumab first-line (1L) maintenance therapy and subsequent treatment (tx) in patients (pts) with locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (la/mUC) using a large claims database in Japan: JAVEMACS-D. 2025 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Genitourinary Cancers Symposium, 2025.
- 30) Afferi L, Grossmann NC, Gallioli A, Cannoletta D, Moschini M, Soria F, Juvet T, Potretzke A, Djaladat H, Kikuchi E, Mari A, Khene Z, Raman JD, Sfakianos JP, Boormans JL, Antonelli A, Abdollah F, Ploussard G, Boorjian SA, Shariat SF, Heidenreich A, Mattei A, Breda A, Pradere B. Oncological outcomes of open versus minimally invasive nephroureterectomy for locally advanced upper tract urothelial carcinoma. The 40th Annual European Association of Urology Congress, 2025.
- 31) Kikuchi Eiji. A new era in the evolving landscape of first-line treatment for locally advanced and/or metastatic urothelial carcinoma Focusing on EV+Pembrolizumab. The 23rd Korean Urological Oncology Society (KUOS) Multidisciplinary Conference, 2025.
- ③ その他
- 1) 菊地栄次. 尿路上皮癌、診療アルゴリズムのポイント解説. 第23回 泌尿器細胞診 (別府)カンファレンス in 神戸, 2025.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	5	13
	解説又は総説	12	1
	症例報告	1	4
	その他	1	5
学会発表	国内学会	56	
	国際学会		31
	その他	1	

産婦人科学

著書

- 1) 小田原圭, 鈴木直 (荒田尚子, 三戸麻子, 岡崎有香). 各論 7 慢性疾患 がん治療中, がんサバイバー プレコンセプションケア 2024; (1):265-267.
- 2) 佐治正太, 長谷川潤一. 3. 多胎妊娠の診断と管理 妊娠中後期 臍帯・胎盤の評価 多胎妊娠妊娠・分娩・新生児管理のすべて 2024; (2):96-101.
- 3) 大原樹. CQ27 進行子宮体がんに対して腹腔鏡手術 (ロボット支援手術を含む) は勧められるか? 産婦人科内視鏡手術ガイドライン 2024 2024;:173-174.
- 4) 近藤春裕. 子宮鏡手術 総論 解説 BQ9 子宮腔病変の検索方法は? BQ10 子宮鏡手術の検索方法は? BQ11 合併症の予防法は? BQ12 術後の子宮腔癒着予防に対して、セカンドルック子宮鏡は有用か? BQ13 手術機器の違いによる手術成績の差は? BQ14 着床不全症例における子宮鏡検査の意義は? 産婦人科内視鏡手術ガイドライン 2024 2024;:200-209.
- 5) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024; (2):24-24.
- 6) 高江正道, 小林秀幸, 黄海鵬. 骨軟部 生殖 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024; (2):378-415.
- 7) 太田邦明, 楠原淳子, 洞下由記. 脳 生殖 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024; (2):514-537.
- 8) 北島道夫, 泉玄太郎, 杉下陽堂. 女性生殖器 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024; (2):92-152.
- 9) 高江正道. 早発卵巣不全症例に対する調節卵巣刺激 教えて! 不妊治療の排卵誘発 ビジュアルガイド 2024;:110-111.
- 10) 高江正道, 鈴木直. ボローニャ基準 教えて! 不妊治療の排卵誘発 ビジュアルガイド 2024;:30.
- 11) 高江正道. ポセイドン基準 教えて! 不妊治療の排卵誘発 ビジュアルガイド 2024;:31.
- 12) 高江正道, 鈴木直. 早発卵巣不全 産科婦人科疾患最新の治療 2025-2027 2025; (1):143-144.
- 13) 鈴木直. 第一章抗がん薬の副作用と治療 18 性機能不全 がん化学療法副作用対策ハンドブック 第4版 2025;:250-255.
- 14) 大原樹, 鈴木直. 第5章 疾患の理解 C 臓器別疾患 1 外陰の疾患 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:103-107.
- 15) 大原樹, 鈴木直. 第5章 疾患の理解 C 臓器別疾患 2 膣の疾患 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:107-112.
- 16) 鈴木直. 第5章 疾患の理解 C 臓器別疾患 3 子宮の疾患 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:112-134.
- 17) 鈴木直. 第5章 疾患の理解 C 臓器別疾患 4 卵管の疾患 1 炎症, 2 悪性腫瘍 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:134-135.
- 18) 鈴木直. 第5章 疾患の理解 C 臓器別疾患 5 卵巣の疾患 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:138-146.
- 19) 鈴木直. 第5章 疾患の理解 C 臓器別疾患 6 骨盤内炎症性疾患 (PID) 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:146-147.
- 20) 鈴木直. 第2章 女性生殖器の構造と機能 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:20-35.
- 21) 鈴木直. 第3章 症状とその病態生理 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:38-43.
- 22) 鈴木直. 第5章 疾患の理解 A 本章で学ぶ女性生殖器疾患 女性生殖器 成人看護学 9 2025;:96-98.
- 23) 原田美由紀, 鈴木直. 『小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024 年 12 月改訂 第2版』の概要 腫瘍内科 第35巻 第2号 2025;:191-195.
- 24) Tomohiko Ohata, Hiroji Iwata, Nao Suzuki. Clinical Ethical Issues regarding Hereditary Breast Cancer and ovarian Cancer syndrome and the Preimplantation Genetic test for a Monogenic/Single-Gene Defect in Japan Practical Guide to Hereditary Breast and Ovarian Cancer III 2024;:77-83.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 白石絵莉子, 上田和, 笠原佑太, 永吉陽子, 岸裕司, 鈴木直, 岡本愛光. 樋口式横切割法を応用した単孔式腹腔鏡手術にて卵巣組織凍結を行った2例. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌, 2024;40(1):184-188.
- 2) 八幡将喜, 安藤歩, 北村卓也, 山本紗希, 木内千尋, 原田賢, 田村みどり, 近藤春裕, 高江正道, 戸澤晃子, 鈴木直. OHVIRA 症候群 (Obstructed Hemivagina and Ipsilateral Renal Anomaly Syndrome) の周産期管理の1例. 神奈川産科婦人科学会誌, 2024;61(1):20-23.
- 3) 洞下由記, 岩端秀之, 古谷菜摘, 中村健太郎, 田雜瑞穂, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 本吉愛, 高江正道, 津川浩一郎, 鈴木直. 乳がん術後内分泌療法後に短期間で生児を得た事例の検証. 日本がん・生殖医療学会誌, 2025;8(1):25-30.
- 4) 北村卓也, 安藤歩, 原田賢, 木内千尋, 八幡将喜, 山本紗希, 飯田智博, 高江正道, 戸澤晃子, 田村みどり, 鈴木直. 稀少部位に発生した異所性妊娠の3例. 神奈川産科婦人科学会誌, 2025;61(2):172-176.

② 総説又は症例解説

- 1) 鈴木直. がん・生殖医療と周産期医療の連携に関する課題. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 2024;59(4):440-442.
- 2) 中村健太郎, 鈴木直. がん・生殖医療 男性患者の妊孕性温存編. 母性衛生, 2024;65(1):170-177.
- 3) 中村健太郎, 鈴木直. がん・生殖医療 女性患者の妊孕性温存編. 母性衛生, 2024;65(2):348-356.
- 4) 佐治正太, 高江正道, 鈴木直. 臍帯下垂(臍帯脱出への進行)が疑われる. ペリネイタルケア, 2024;43(10):65-69.
- 5) 古谷菜摘. 胎盤・羊水観察時のポイント. 産科と婦人科, 2024;78(10):894-899.
- 6) 中村健太郎, 鈴木直. がん・生殖医療 小児患者の妊孕性温存編. 母性衛生, 2025;65(4):720-726.
- 7) 原田美由紀, 鈴木直. 『小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024 年 12 月改訂第 2 版』の概要. 腫瘍内科, 2025;35(2):191-195.

③ その他

- 1) 鈴木玲子, 鈴木直. 米国イエール大学における2年4カ月の研究留学報告. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024;52(1):15-18.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yukiko Takekawa, Kouhei Sugimoto, Kiyoko Masaki, Tomoe Koizumi, Hirofumi Mori, Eriko Shiraishi, Tadashi Maezawa, Shinji Tanigaki, Chiaki Shirai, Nao Suzuki. Differences Between Cancer Survivors and Healthy Subjects in Factors that Facilitate and Obstruct the Use of the Foster Parent System and Special Adoption System: A Nationwide Cross-Sectional Study in Japan. Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, 2024;13(3):534-540.
- 2) Kentaro Nakamura, Yukayo Terashita, Atsushi Manabe, Nao Suzuki. Survey of Transitional Care Between Pediatrics and Obstetrics/Gynecology in Japan. Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, 2024;13(3):523-533.
- 3) Seido Takae, Miyuki Harada, Kentaro Nakamura, Sayako Furuyama, Masanori Ono, Yutaka Osuga, Nao Suzuki. Reproductive outcomes of embryo cryopreservation and transfer at the start-up phase of fertility preservation in Japan. Reproductive Medicine and Biology, 2024;23(1):DOI-10.1002/rmb2.12581.

- 4) Mikio Mikami, Kazuhiro Tanabe, Tadashi Imanishi, Masae Ikeda, Takeshi Hirasawa, Miwa Yasaka, Hiroko Machida, Hiroshi Yoshida, Masanori Hasegawa, Muneaki Shimada, Tomoyasu Kato, Shoichi Kitamura, Hisamori Kato, Takuma Fujii, Yoichi Kobayashi, Nao Suzuki, Kyoko Tanaka, Isao Murakami, Tomoko Katahira, Chihiro Hayashi, Koji Matsuo. Comprehensive serum glycopeptide spectra analysis to identify early-stage epithelial ovarian cancer. *Scientific Reports*, 2024;14(1) : DOI-10.1038/s41598-024-70228-6.
- 5) Kosei Hasegawa, Shunji Takahashi, Kimio Ushijima, Masao Okadome, Kan Yonemori, Harushige Yokota, Ignace Vergote, Bradley J. Monk, Krishnansu S. Tewari, Keiichi Fujiwara, Jingjin Li, Shaheda Jamil, Anne Paccaly, Kazuhiro Takehara, Tomoka Usami, Yoichi Aoki, Nao Suzuki, Yoichi Kobayashi, Yoshio Yoshida, Hidemichi Watari, Frank Seebach, Israel Lowy, Melissa Mathias, Matthew G. Fury, Ana Oaknin. Cemiplimab monotherapy in Japanese patients with recurrent or metastatic cervical cancer. *Cancer Medicine*, 2024;13(18) : DOI-10.1002/cam4.70236..
- 6) Claus Y Andersen, Jacques Donnez, Erik Ernst, Debbie Gook, Antonio Pellicer, Michael Von Wolff, Nao Suzuki, Christophe Roux, Marie-Madeleine Dolmans. Ovarian tissue cryopreservation in breast cancer patients: glass half empty or glass half full?. *Reproductive biomedicine online*, 2024; : DOI-10.1016/j.rbmo.2024.104442..
- 7) Hiroyuki Tomari, Osamu Okitsu, Satoshi Mizuno, Akiko Yabuuchi, Tadashi Okimura, Hiroyuki Kikuchi, Sayako Furuyama, Ken Taniguchi, Isao Tamura, Kuniaki Ota, Yusuke Fukuda, Yuki Horage, Nao Suzuki. Nationwide Survey on the Status of Oncofertility in Japan and Involvement of Embryologists in the Practice of Fertility Preservation. *Journal of Adolescent and Young Adult Oncology*, 2025;14(2) : 172-179.
- 8) Yoichi Kobayashi, Mikiko Asai-Sato, Shiho Kuji, Hitomi Sakai, Ken Yamaguchi, Nao Suzuki, Yoshio Yoshida. Awareness and attitude toward cardio-oncology among Japanese gynecologic oncologists in managing patients with endometrial cancer: The Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG) questionnaire surveys. *The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*, 2025;51(2) : DOI-10.1111/jog.16225.
- 9) Mikiko Asai-Sato, Toshifumi Takahashi, Kuniaki Ota, Hiromi Komiya, Takeshi Iwasa, Soichi Ogishima, Nao Suzuki. Attitudes toward subsequent primary cancer prevention among survivors of childhood, adolescent, and young adult (CAYA) cancer in Japan: Results of a comprehensive questionnaire survey on long-term women's health after CAYA cancer. *Journal of gynaecologic oncology*, 2025;36(2) : DOI-10.3802/jgo.2025.36.e29..

② 総説又は症例解説

- 1) Seido Takae, Miyuki Harada, Kentaro Nakamura, Sayako Furuyama, Masanori Ono, Yutaka Osuga, Nao Suzuki. Survey on the implementation status and reproductive outcomes of oocyte and ovarian tissue cryopreservation in Japan: Historical comparison with nationwide surveys. *The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research*, 2024;50(4) : 709-718.
- 2) Kanako Yoshida, Tomoko Hashimoto, Tomoe Koizumi, Nao Suzuki. Psychosocial experiences regarding potential fertility loss and pregnancy failure after treatment in cancer survivors of reproductive age to identify psychosocial care needs: a systematic review. *Supportive care in cancer : official journal of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer*, 2024;32(6) : 337-DOI:10.1007/s00520-024-08544-w..
- 3) Kaoru Kagawa, Yuko Yoshikawa, Tomoe Koizumi, Nao Suzuki. Psychological Aspects of and Support for Survivors Attempting to Conceive During or After Cancer Treatments. *Journal of Adolescent and Young Adult Oncology*, 2024;14(2) : 129-136.

- 4) Mohd Faizal Ahmad , Marjanu Hikmah Elias, Norazilah Mat Jin, Muhammad Azrai Abu, Saiful Effendi Syafruddin, Ani Amelia Zainuddin, Nao Suzuki, Abdul Kadir Abdul Karim. Oocytes Quality Assessment-The Current Insight: A Systematic Review. Biology, 2024;13(12) : 978.

③ その他

- 1) Eiji Nishio, Ken Ishitani, Takahide Arimoto, Toshio Igarashi, Tetsuya Ishikawa, Akira Iwase, Mariko Ogawa, Nobuaki Ozawa, Hiroaki Kajiyama, Kaoru Kawasaki , Risa Kudo, Jun Kumakiri, Hiroko Komura, Kan Komai, Seiya Sato, Koichi Shinohara, Toshifumi Takahashi, Kyoko Tanaka, Kyoko Tanebe, Masashi Deguchi, Akiko Tozawa-Ono, Akitoshi Nakashima, Mikiya Nakatsuka, Satoshi Hayakawa, Tetsuya Hirata, Rie Fukuhara, Yasuka Miyakuni, Hiroaki Miyazaki, Tohru Morisada, Yoshimitsu Kuwabara, Masataka Takenaka, Makio Shozu, Mayumi Sugiura-Ogasawara, Tsugio Maeda, Yoshihito Yokoyama, Takuma Fujii. Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2024;2024(Apr 16.) : DOI-10.1111/jog.15950.
- 2) Masamitsu Nakamura, Akihiko Sekizawa, Junichi Hasegawa, Maternal Death Exploratory Committee in Japan. Response to Letter to "Relationship between maternal mortality and ritodrine hydrochloride as a tocolytic agent in Japan". The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2024; : DOI-10.1111/jog.15999.

学会発表

① 国内学会

- 1) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療に関する最新の話題と今後の課題. 第 80 回九州・沖縄生殖医学会, 2024.
- 2) 長谷川潤一. Gentle C-Section という選択 ～Power of Drapes～. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 3) 澤口隆太郎, 中村健太郎, 岩端秀之, 今井悠, 津田千春, 近藤春裕, 高江正道, 戸澤晃子, 鈴木直. 子宮を温存し得た子宮内異所性妊娠の三症例. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 4) 吉川純弥, 久慈志保, 劉環壬, 石井雅人, 飯田瀬里香, 今井悠, 竹内淳, 高江正道, 大原樹, 近藤春裕, 戸澤晃子, 鈴木直. 免疫チェックポイント阻害剤投与に伴う免疫関連有害事象の発症率と傾向. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 5) 田村みどり, 安藤歩, 平間千尋, 原田賢, 高江正道, 戸澤晃子, 鈴木直. 妊婦・術前の自己血貯血の有用性の検討. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 6) 小林未央, 北原慈和, 杉下陽堂, 大須賀智子, 北島道夫, 河村和弘, 浅田義正, 岩瀬明. 多機関共同研究による卵巣予備能低下症例の不妊治療成績. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 7) 田丸俊輔, 入山高行, 西 洋孝, 近藤英治, 佐村修, 長谷川潤一, 桑田知之, 桂木真司, 小松篤史, 平田善康, 亀井良政, 石渡勇. 小型モバイル分娩監視装置での在宅モニタリングを併用したハイリスク妊娠管理の実現可能性調査. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 8) 山口宗影, 相良昭仁, 牧野真太郎, 松永茂剛, 田中博明, 長谷川潤一, 池田智明, 近藤英治. 産科出血における分娩後動脈性子宮出血 (PRACE) の臨床像の解析. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 9) 戸澤晃子. わが国における実現可能な子宮頸がん検診への HPV 導入について (日本婦人科腫瘍学会 WG 委員). 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.

- 10) 松敬介, 村越毅, 中田雅彦, 早田英二郎, 長谷川潤一, 関沢明彦, 新垣達也, 二井理文, 田中博明, 池田智明, 石渡勇, 桂木真司. 本邦の妊産婦の悪性腫瘍による死亡症例の分娩経緯に関する検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 11) 石塚文平. 女性内分泌環境と乳腺. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 12) 八幡将喜, 安藤歩, 北村卓也, 山本紗希, 平間千尋, 原田賢, 田村みどり, 近藤春裕, 高江正道, 戸澤晃子, 鈴木直. 当院で周産期管理をした OHVIRA 症候群の1例. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 13) 上川篤志, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 微小残存病変 (MRD) マウスモデルを用いた卵巣移植実現可能性の検証. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 14) 森田明里, 中村健太郎, 澤口隆太郎, 本間千夏, 岩端秀之, 西村陽子, 近藤春裕, 高江正道, 鈴木直. 新規乳癌治療に応じて管理した妊娠期乳癌の一例. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 15) 長谷川潤一. 産科危機的出血による妊産婦死亡の増加傾向の要因分析. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 16) 金森玲, 高江正道, 伊藤薫, 中村健太郎, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 戸澤晃子, 鈴木直. 効果的な卵巣組織移植を志向した移植手技に関する基礎的検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 17) 杉下陽堂. プラセンタ製剤における新しい基礎研究. 第33回日本プラセンタ学会, 2024.
- 18) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の今後. 第33回日本プラセンタ学会, 2024.
- 19) 澤田紫乃. 外科的閉経後のプラセンタ療法. 第33回日本プラセンタ学会, 2024.
- 20) 高江正道, 鈴木直. HBOC に関わる生殖医療の最新情報. 第4回日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 (JOHBOC) 学術総会, 2024.
- 21) 宮川久弥恵, 西尾美佐子, 近藤春裕, 和田慎司, 濱口真吾, 橋本一樹, 三村秀文, 今井悠, 鈴木直. マイクロスフィアを用いた子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術の安全性、有効性について. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 22) 叶谷杏子, 伊藤滉一郎, 高江正道, 鈴木直, 塚田孝祐. 光干渉断層計を用いて可視化した卵巣組織内卵胞の機械学習による自動検出. 第63回日本生体医工学会大会, 2024.
- 23) 町田弘子, 三上幹男, 吉田浩, 加藤一喜, 遠藤真一, 鈴木直, 竹内淳, 宮城悦子, 水島大一. 神奈川4大学における子宮体癌手術の現状とロボット手術の課題. 第12回日本婦人科ロボット手術学会, 2024.
- 24) 高江正道, 鈴木直. 抗加齢・少子化対策としての医学的適応による妊孕性温存療法. 第24回日本抗加齢医学会総会, 2024.
- 25) 鈴木直. がん・生殖医療の歴史的背景と基礎知識. 第29回日本緩和医療学会学術大会・第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会, 2024.
- 26) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の実践ーがんとの共生を目指して. 第164回日本医学会シンポジウム, 2024.
- 27) 八幡将喜, 田村みどり, 安藤歩, 原田賢, 高江正道, 鈴木直. Antithrombin resistance 合併患者の周産期管理の工夫. 第147回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2024.
- 28) 河津理, 佐治正太, 古谷菜摘, 西村陽子, 吉田高士, 八幡将喜, 中村健太郎, 西岡美喜子, 洞下由記, 近藤春裕, 高江正道, 鈴木直. 無痛分娩時に気脳症を合併した一例. 第147回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2024.
- 29) 白石絵莉子, 鈴木直, 杉本公平. がん治療医への里親・養子縁組認識アンケート調査報告ー妊孕性が低下した方への情報提供についてー. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 30) 吉高高士, 佐治正太, 古谷菜摘, 中村健太郎, 西岡喜美子, 西村陽子, 鈴木真波, 近藤春裕, 岩淵秀之, 伊東祐順, 高江正道, 右田王介, 北東功, 鈴木直. 胎児先天異常の精査で羊水核型異常を認め、両親の染色体検査により児の不均衡型転座が明らかとなった例. 第60回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.

- 31) 谷垣伸治, 小林千絵, 島田智子, 宋吉和, 杉本公平, 白石絵莉子, 白井千晶, 前沢忠志, 森洋文, 鈴木直. プレコンセプション・ケアにおける里親・養子縁組制度. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 32) 古谷菜摘, 吉田高士, 佐治正太, 中村健太郎, 岩端秀之, 近藤春裕, 西村陽子, 高江正道, 鈴木直. 当院における前置癒着胎盤に対する二期的手術の有用性の検討. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 33) 吉田高士, 佐治正太, 古谷菜摘, 中村健太郎, 西岡喜美子, 西村陽子, 鈴木真波, 近藤春裕, 岩端秀之, 伊東祐順, 高江正道, 右田王介, 北東功, 鈴木直. 胎児先天異常の精査で羊水核型異常を認め, 両親の染色体検査により児の不均衡型転座が明らかとなった例. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.
- 34) 劉環壬, 大原樹, 石井雅人, 飯田瀬里香, 今井悠, 金森玲, 遠藤拓, 竹内淳, 近藤春裕, 久慈志保, 戸澤晃子, 鈴木直. 原発性腹膜癌に対してペバシズマブ併用化学療法中に心室内血栓および心不全を起こした一例. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 35) 石井雅人, 竹内淳, 劉環壬, 飯田瀬里香, 今井悠, 金森玲, 細沼信示, 久慈志保, 大原樹, 戸澤晃子, 鈴木直. 当院におけるプラチナ感受性再発卵巣癌患者に対するニラパリブの安全性と有効性の検証. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 36) 近藤春裕. ハンズオンセミナー 子宮鏡の進歩と婦人科腫瘍への応用: 未来への展望. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 37) 紙谷菜津子, 水島大一, 矢坂美和, 三上幹男, 久慈志保, 鈴木直, 阿部翠, 加藤一喜. 神奈川四大学病院における再発子宮頸癌に対するセブプリマブの経験. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 38) 遠藤真一, 町田弘子, 竹内淳, 水島大一, 加藤一喜, 鈴木直, 宮城悦子, 三上幹男. 子宮体癌新 FIGO2023 病期分類の妥当性に対する検討. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 39) 渡邊麗子, 久慈志保, 成木佐瑛子, 瀬尾夏美, 島田直樹, 石井雅人, 今井悠, 竹内淳, 大原樹, 戸澤晃子, 鈴木直, 小池淳樹. 非典型的な経過を辿る難治性子宮体癌の 1 例. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 40) 竹内淳, 長宗我部基弘, 大原樹, 劉環壬, 石井雅人, 飯田瀬里香, 今井悠, 金森玲, 細沼信示, 近藤春裕, 大熊克彰, 久慈志保, 戸澤晃子, 小池淳樹, 鈴木直. 当院における子宮体癌 FIGO2023 病期分類 IA3 期の妥当性に関する検証. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2024.
- 41) 宮澤優介, 佐治正太, 西村陽子, 河津理, 八幡将喜, 古谷菜摘, 中村健太郎, 西岡美喜子, 岩端秀之, 近藤春裕, 津田千春, 五十嵐豪, 高江正道, 鈴木直. 妊娠中に多発肝細胞癌を疑った一例. 第 442 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 42) 洞下由記, 岩端秀之, 古谷菜摘, 中村健太郎, 鈴木由妃, 西岡美喜子, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. がん・生殖医療における妊孕性温存療法の臨床成績. 第 42 回日本受精着床学会総会・学術集会, 2024.
- 43) 金森玲, 中村健太郎, 鈴木由妃, 洞下由記, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 卵巣移植に関する最新知見～効果的な卵巣移植を目指して～. 第 42 回日本受精着床学会総会・学術集会, 2024.
- 44) 鈴木直. 生まれくるこどものための医療(生殖・周産期)に関わる生命倫理の話題. 第 42 回日本受精着床学会総会・学術集会, 2024.
- 45) 高江正道. 乳がん患者における妊孕性温存療法の現状. 第 15 回 関東産婦人科乳腺医学会, 2024.
- 46) 原田賢, 吉川純弥, 澤口隆太郎, 安藤歩, 高江正道, 田村みどり, 鈴木直. 子宮頸部円錐切除術後の繰り返す頸管無力症に対して第二子妊娠時の対応に苦慮した一例. 第 46 回日本母体胎児医学会学術集会, 2024.
- 47) 佐治正太, 長谷川潤一, 高江正道, 鈴木直. 正常発育であったが臍帯過捻転による Fetal Vascular Malperfusion の病理像を呈した 1 例. 第 46 回日本母体胎児医学会学術集会, 2024.

- 48) 佐治正太. 付属物超音波のコツ. 第 46 回日本母体胎児医学会学術集会, 2024.
- 49) ◎山崎幸紀, 千葉清, 中村竜士, 杵渕聡志, 福西琢真, 駒ヶ嶺正英, 富本大潤, 谷川和好, 島田勝利, 近田正英, 西巻博, 大原樹, 鈴木直, 牧角良二, 縄田寛. 卵巣癌右外腸骨リンパ節転移により外腸骨静脈浸潤をきたし静脈合併腫瘍切除を行いウシ心膜パッチにて静脈再建を行った一例. 第 31 回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2024.
- 50) 田村みどり. 卵巣上体嚢胞の腹腔鏡手術例の検討. 第 64 回日本産科婦人科内視鏡学会, 2024.
- 51) 善方美帆, 石井雅人, 金森玲, 大原樹, 瀬川有実, 宮澤千夏, 今井悠, 竹内淳, 近藤春裕, 久慈志保, 高江正道, 鈴木直. 異所性妊娠を疑われたが審査腹腔鏡にて臨床的侵入奇胎と診断した一例. 第 443 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 52) 田村萌香, 吉田高士, 河津理, 佐治正太, 八幡将喜, 古谷菜摘, 中村健太郎, 西岡美喜子, 岩端秀之, 西村陽子, 近藤春裕, 高江正道, 鈴木直. 産褥期に発症した急性門脈血栓症の一例. 第 443 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 53) 洞下由記, 古谷菜摘, 中村健太郎, 鈴木由妃, 西岡美喜子, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. がん・生殖医療における妊孕性温存療法の臨床成績. 第 443 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 54) 吉田高士, 吉川純弥, 劉璟壬, 河津理, 佐治正太, 八幡将喜, 古谷菜摘, 中村健太郎, 岩端秀之, 西岡美喜子, 西村陽子, 近藤春裕, 高江正道, 鈴木直. 出生児の診断を契機に判明した母体筋強直性ジストロフィーの一例. 第 443 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 55) 吉川純弥, 田村みどり, 澤口隆太郎, 原田賢, 安藤歩, 高江正道, 鈴木直. 危機的出血を呈した子宮型羊水塞栓症と考えられた一例. 第 443 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 56) 中山夏音, 瀬川愛実, 宮澤千夏, 石井雅人, 今井悠, 金森玲, 竹内淳, 西尾美佐子, 和田慎司, 久慈志保, 大原樹, 渡邊麗子, 三村秀文, 小池淳樹, 鈴木直. 当院で経験した診断に苦慮する性索間質性卵巣腫瘍の 2 例. JSAWI 2024, 2024.
- 57) 宮澤千夏, 瀬川有実, 石井雅人, 今井悠, 金森玲, 竹内淳, 西尾美佐子, 和田慎司, 久慈志保, 大原樹, 渡邊麗子, 小泉宏隆, 三村秀文, 小池淳樹, 鈴木直. 診断に苦慮した子宮頸部胃型 HPV 非依存性腺癌の 1 例. JSAWI 2024, 2024.
- 58) 瀬川有実, 上野嘉子, 伊藤寛朗. 症例 2 : 52 歳、足根骨骨折を契機に発見された卵巣腫瘍の一例. JSAWI 2024, 2024.
- 59) 中村健太郎, 高江正道, 古谷菜摘, 鈴木由妃, 岩端秀之, 西岡美喜子, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. PPOS 法を用いた調節卵巣刺激下の Random start 法ならびにレトロゾール併用による採卵成績の検討. 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2024.
- 60) 宮澤千夏, 中村健太郎, 高江正道, 古谷菜摘, 鈴木由妃, 西岡美喜子, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. 乳幼児期悪性疾患女児における妊孕性温存の試み. 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2024.
- 61) 久慈志保, 洞下由記, 高江正道, 澤田紫乃, 金森玲, 今井悠, 竹内淳, 大原樹, 鈴木直. がんサバイバーに対する当科の取り組みと、産婦人科が関わるべき問題を考える. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 62) 鈴木直. 本邦のがん・生殖医療における着床前遺伝学的検査の課題. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 63) 久慈志保, 鈴木直. 小児・AYA 世代がんの多職種連携による包括ケア～理解すべきアピアランスケア～ アピアランスケアの実情と今後の展望 全国調査と院内調査の結果から考えること. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 64) 近藤春裕. ハンズオンセミナー開催による子宮鏡の普及と教育. 第 39 回日本女性医学学会学術集会, 2024.
- 65) 今井悠, 近藤春裕, 森田明里, 高江正道, 津田千春, 鈴木直. 症候性子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術の効果および症状改善度の検討. 第 39 回日本女性医学学会学術集会, 2024.
- 66) 瀬川有実, 佐治正太, 宮澤千夏, 吉田高士, 河津理, 八幡将喜, 石井雅人, 古谷菜摘, 中村健太郎, 西村陽子, 洞下由記, 久慈志保, 大原樹, 近藤春裕, 高江正道, 鈴木直. 乳腺炎から蜂窩織炎を伴った授乳期劇症型 A 群 β 溶血性連鎖球菌感染症の一例. 第 391 回四水会, 2024.

- 67) 鈴木直. AYA 世代乳がん冠者のプレコンセプションケアについて. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024.
- 68) 鈴木直. AYA 世代乳癌患者のプレコンセプションケアについて—がん・生殖医療が関わる今後の課題. 第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 2024.
- 69) 山谷佳子, 猪口浩伸, 鈴木直. がん治療時に妊孕性の低下・喪失の危機を体験した女性がん患者のニーズ. 第 22 回日本生殖心理学会・学術集会, 2025.
- 70) 近藤春裕. 子宮鏡だけではない婦人科手術での電気メスの広がり. 第 8 回日本子宮鏡研究会学術講演会 ランチョンセミナー4, 2025.
- 71) 小野政徳, 高井泰, 原田美由紀, 堀江昭史, 戴易丹, 菊地栄次, 宮地充, 山本哲哉, 藤井伸治, 梶山広明, 真部淳, 安岡稔晃, 桂木真司, 銘苅桂子, 前沢忠志, 洞下由記, 片岡伸介, 中山ロバート, 中島貴子, 木村文則, 清水千佳子, 杉本公平, 高江正道, 湯村寧, 西洋孝, 古井辰郎, 森重健一郎, 渡邊知映, 大須賀譲, 鈴木直. 妊孕性温存に要する患者支払い額に関する全国調査. 第 15 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 72) 浦田 陽子, 原田 美由紀, 河井 孝夫, 眞田 裕子, 金田 悠太郎, 高井 泰, 大須賀 穰, 鈴木 直. 日本がん・生殖医療登録システム(JOFR)の登録データを用いた 43 歳以上の男性における妊孕性温存療法の実態と上限年齢についての考察(会議録). 第 15 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 73) 洞下由記, 葉山智工, 中村健太郎, 黒田晋之介, 竹島徹平, 村瀬真理子, 高江正道, 榊原秀也, 湯村寧, 酒井リカ, 宮城悦子, 鈴木直. 神奈川県のがん妊孕性温存地域ネットワーク(KanaOF-Net)における妊孕性温存医療の実績. 第 15 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 74) 上田成美, 洞下由記, 山谷佳子, 古谷菜摘, 中村健太郎, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 妊孕性温存療法によって妊娠出産した造血幹細胞移植を要する造血器疾患の 2 例. 第 15 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 75) 鈴木直. 1895 年から現在に続く卵巣組織凍結・卵巣組織移植に関する話題—がんサバイバーシップ向上を志向して. 第 15 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 76) 上川篤志, 杉下陽堂, 中村健太郎, 鈴木由妃, 洞下由記, 高江正道, 鈴木直. 卵巣微小残存病変(MRD) 白血病モデルマウスを用いた MRD 評価法の確立. 第 15 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 77) 瀬川有実, 佐治正太, 宮澤千夏, 八幡将喜, 平野晶大, 古谷菜摘, 中村健太郎, 岩端秀之, 西村陽子, 洞下由記, 久慈志保, 津田千春, 大原樹, 近藤春裕, 五十嵐豪, 高江正道, 鈴木直. 蜂窩織炎を伴う乳腺炎を呈した授乳期劇症型 A 群 β 溶血性連鎖球菌感染症の一例. 第 444 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2025.
- 78) 鈴木直. 「日本癌治療学会・小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン」2024 年改訂版の要点. ぎふがん・生殖医療ネットワークシンポジウム, 2025.
- 79) Masato Ishii, Jun Takeuchi, Tamami Ryu, Serika Iida, Haruka Imai, Hiraku Endou, Shiho Kuji, Tatsuru Ohara, Seido Takae, Akiko Tozawa, Nao Suzuki. Prognostic Analysis of Lymph Node Metastasis in Cervical Cancer Surgery. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 80) Tamami Ryu, Jun Takeuchi, Masato Ishii, Serika Iida, Haruka Imai, Hiraku Endo Shiho Kuji, Tatsuru Ohara, Akiko Tozawa-Ono, Nao Suzuki. Safety and Efficacy of Olaparib in Patients with Platinum-Recurrent Ovarian Cancer. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 81) Jun Takeuchi, Shiho Kuji, Tamami Ryu, Masato Ishii, Serika Iida, Haruka Imai, Tatsuru Ohara, Seido Takae, Akiko Tozawa Ono, Nao Suzuki. Report on Treatment Outcomes of Elderly Patients with Cervical Cancer in Our Hospital. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.

- 82) Reiko Suzuki, Yuki Horage, Hideyuki Iwahata, Kaoru Ito, Kentaro Nakamura, Yuki Suzuki, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. Current Status of and Issues with Fertility Preservation in Oncofertility Therapy. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 83) Seido Takae, Miyuki Harada, Kentaro Nakamura, Masanori Ono, Yutaka Osuga, Nao Suzuki. Survey on the reproductive outcomes of oocyte and ovarian tissue cryopreservation in Japan. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 84) Shota Saji, Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya, Nao Suzuki. Ultrasound Doppler findings in fetal vascular malperfusion due to umbilical cord abnormalities. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 85) Haruhiro Kondo. A Master's Perspective on Hysteroscopy in Women's Health. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 86) Shota Saji, Masaki Yahata, Yoko Nishimura, Chinatsu Miyazawa, Arimi Segawa, Natsumi Furuya, Haruhiro Kondo, Seido Takae, Nao Suzuki. Pitfalls in the Diagnosis of Great Vessels. The 4th Annual Congress of Japan Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology (JSUOG), 2025.

② 国際学会

- 1) Jun Takeuchi. Trends and outcomes of minimally invasive surgery for endometrial cancer in kanagawa academic institutions: a retrospective observational study. the 39th Annual Meeting of the Korean Society of Gynecologic Oncology (KSGO 2024), 2024.
- 2) Jun Takeuchi, Shiho Kuji, Masato Ishii, Haruka Imai, Tasturu Ohara, Akiko Tozawa-Ono, Nao Suzuki. Palliative Treatment of Intestinal Obstruction in Patients with Advanced or Recurrent Gynecological Cancer. 第69回国際外科学会日本部会総会, 2024.
- 3) Nao Suzuki. Fertility Recent topics on ovarian tissue vitrification and ovarian issue transplantation for CAYA cancer patients. Annual Scientific Meeting of Indonesian Society of Obstetricians and Gynecologists XXVII East Nusa Tenggara 2024, 2024.
- 4) Shiho Kuji. A new marker, insulinoma-associated protein 1 (INSM1), for high-grade neuroendocrine carcinoma of the uterine cervix. AOGIN2024, 2024.
- 5) Nao Suzuki. When And How to Do Ovarian Cortex Cryopreservation for Fertility Preservation. XXVII Annual Scientific Meeting Of the Indonesian Obstetric & Gynecological Association, 2024.
- 6) Nao Suzuki. Fertility
Recent topics on ovarian tissue vitrification and ovarian issue transplantation for CAYA cancer patients. Annual Scientific Meeting of Indonesian Society of Obstetricians and Gynecologists XXVII East Nusa Tenggara 2024, 2024.
- 7) Nao Suzuki. Fertility preservation for Cancer in Adolescent and Young Adult (CAYA). XXVII Annual Scientific Meeting Of the Indonesian Obstetric & Gynecological Association, 2024.
- 8) Nao Suzuki. Fertility Preservation For Breast Cancer Patients. Interdisciplinary Lecture on Fertility Health Preservation Breast Tumor Session, 2024.
- 9) Seido Takae. Fertility Preservation Future Medicine. The 9th Indonesian Fertility and Endocrinology Association Biennial Scientific Meeting (HIFERI IX), 2024.
- 10) Seido Takae. Transplantation Techniques of Ovarium. The 9th Indonesian Fertility and Endocrinology

Association Biennial Scientific Meeting (HIFERI IX), 2024.

- 11) Seido Takae. Ovarian Tissue Transplantation, Current State and Future Possibilities. The 9th Indonesian Fertility and Endocrinology Association Biennial Scientific Meeting (HIFERI IX), 2024.
- 12) Nao Suzuki. Recent Situation on Oncofertility in Japan. Ovarian Tissue Cryopreservation Workshop, 2024.
- 13) Seido Takae. Latest findings on ovarian tissue transplantation. Ovarian Tissue Cryopreservation Workshop, 2024.
- 14) Nao Suzuki. Our Research results on ovarian tissue freezing (vitrification) - 2006 to 2024. Ovarian Tissue Cryopreservation Workshop, 2024.
- 15) Nao Suzuki. Current topics on ovarian tissue cryopreservation and transplantation Issues in GYN oncology. 2024 International Congress on Gynecology in Taiwan, 2024.
- 16) Shiho Kuji, Keiko Nozawa, Shoko Toma, Harue Arao, Shigeru Imoto, Hiroaki Kajiyama, Atsuko Kitano, Yasuhiro Kodera, Ryuta Saito, Rika Sakai, Akinobu Taketomi, Robert Nakayama, Eiso Hiyama, Manabu Futamura, Motohiro Matsui, Masahito Yonemura, Mototsugu Oya, Nao Suzuki. Fact-finding survey of gynecologic oncologist on appearance care for cancer patients in Japan. IGCS 2024 Annual Meeting, 2024.
- 17) Nao Suzuki. Fertility Sparing in Patients With Cervical Cancer. 2024 Annual Global Meeting (IGCS 2024), 2024.
- 18) Nao Suzuki, Chiemi Toyama, Honami Kobayashi, Yumiko Nakano. IVM and Oocyte Vitrification Workshop B. ISFP2024, 2024.
- 19) Nao Suzuki, Yodo Sugishita, Yuki Suzuki-Takahashi, Sayako Furuyama. Ovarian Tissue Vitrification Workshop A. ISFP2024, 2024.
- 20) Nao Suzuki. My 18-year journey with ovarian tissue cryopreservation - from an oncologist's point of view. ISFP2024, 2024.
- 21) Yodo Sugishita. Ovarian tissue cryopreservation by vitrification system. ISFP2024, 2024.
- 22) Masato Yoshihara, Tingyan Shi, Navamol Lekskul, Angela Cho, Ragu Shanmuganathan, Biswajit Dash, Shohei Iyoshi, Emiri Miyamoto, Motoki Takenaka, Kensuke Sakai, Shiho Kuji, Kousuke Shigematsu, Motohiro Chosokabe, Hiroaki Kajiyama, Nao Suzuki. The real-world practice of fertility preservation for patients with epithelial ovarian cancer in Asian countries. Asian Society of Gynecologic Oncology 2024, 2024.
- 23) Siew-Fei Ngu, Motoki Takenaka,
Allen Tan, Pinyada Panyavaranant,
Kensuke Sakai, Kosuke Shigematsu,
Shiho Kuji, Masato Yoshihara, yoshihara.masato,
Nao Suzuki,. Fertility Preservation Practices in Cervical Cancer in Asia. Asian Society of Gynecologic Oncology 2024, 2024.
- 24) Nao Suzuki. Fertility-sparing surgery and fertility preservation for patients with borderline ovarian tumors (ASGO STF-FP on Gynecologic Oncology): what is difference?. ASGO 2024, 2024.
- 25) Seido Takae. Challenges on Fertility Preservation Education on CAYA (Children, Adolescent and Young Adults). Workshop and Seminar Committee Fertility Preservation in Clinical Setting: A Multidisciplinary Approach Fertility Preservation in Clinical Setting: A Multidisciplinary Approach, 2024.

- 26) Seido Takae. Live Demo 1: ovarian tissue preservation. Workshop and Seminar Committee Fertility Preservation in Clinical Setting: A Multidisciplinary Approach Fertility Preservation in Clinical Setting: A Multidisciplinary Approach, 2024.
 - 27) Seido Takae. Why should ovaries be preserved. Workshop and Seminar Committee Fertility Preservation in Clinical Setting: A Multidisciplinary Approach Fertility Preservation in Clinical Setting: A Multidisciplinary Approach, 2024.
 - 28) Nalini Mahajan, Budi Wiweko, Seido Takae. Panel discussion: Investigation of each society for fertility preservation in developing countries. Workshop and Seminar Committee Fertility Preservation in Clinical Setting: A Multidisciplinary Approach, 2024.
 - 29) Nao Suzuki. Nineteen Years of Experience in Oncofertility: From Fundamentals to Clinical Practice, Including Psychosocial Initiatives. GR Cancer Research Lectures Institute Gustave Roussy, 2025.
- ③ その他
- 1) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん医療の充実-がん・生殖医療の役割は?. 湘南藤沢徳洲会オンコロジー委員会 AYA 世代がん診療支援における妊孕性温存について理解を深める, 2024.
 - 2) 鈴木直. 本邦における小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題-がんとの共生を目指して. 令和 6 年度奈良県立医科大学公開講座第 51 回「くらしと医学」, 2024.
 - 3) 鈴木直. 本邦における小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題-がんとの共生を目指して. 奈良県立医科大学公開講座, 2024.
 - 4) 久慈志保. irAE 対策チームボードに関して. 東海大学医学部附属病院がんセンターボード, 2024.
 - 5) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の実際. HBOC Online Seminar in OSAKA, 2024.
 - 6) 大原樹. これまでの婦人科手術を振り返って～指導に当たる先生方にお伝えしたいこと～. 婦人科手術手技スキルアップセミナー～助力力を磨く～, 2024.
 - 7) 瀬川有実, 金森玲, 宮澤千夏, 今井悠, 竹内淳, 近藤春裕, 久慈志保, 大原樹, 高江正道, 鈴木直. 腹腔鏡下広汎子宮全摘術後に閉鎖動脈に発生した仮性動脈瘤により腹腔内出血をきたした一例. 第 390 回四水会, 2024.
 - 8) 鈴木直. 本邦における小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題-がんとの共生を目指して. 令和 6 年度岩手医科大学産婦人科学教室同門会・総会・学術講演会, 2024.
 - 9) 鈴木直. ご存知ですか? 子宮頸がんのこと 予防と治療についての最新情報. セントラルクリニック世田谷連携医師 特別公開セミナー, 2024.
 - 10) 鈴木直. 子宮頸がんを予防する. 荏原製作所女性向けセミナー, 2024.
 - 11) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存に関する最新の話. 第 65 回川崎市薬剤師会 Web 講演会, 2024.
 - 12) 洞下由記. 妊孕性温存の最近の動向 聖マリアンナ医大での症例と経験を交えて. 第 12 回 iOFnet 多職種ネットワークシンポジウム, 2024.
 - 13) 高江正道. 妊孕性温存療法の現状と課題. 鎌倉妊孕性温存 Expert Seminar, 2024.
 - 14) 大原樹. 今後の子宮体癌の治療戦略. Endometrical Cancer Seminar in Kanagawa, 2024.
 - 15) 鈴木直. 子宮頸がんを予防する一将来の自分のために. 川崎市病院協会市民公開講座, 2024.
 - 16) 鈴木直. 生まれてくるこどものための医療（生殖・周産期）に係る生命倫理の話題. 第 169 回 福岡産婦人科学会, 2024.
 - 17) 高江正道. 妊娠関連 TMA の予後改善に向けて. 妊娠と腎臓にまつわる研究会, 2024.
 - 18) 久慈志保. 進行再発子宮体癌の最新の話-様々な視点から近未来の治療を考える-. 明日の子宮体癌治療を考える会, 2024.

- 19) 久慈志保. 治療を目指した卵巣がん治療戦略. リンパーマジック !! Ovarian Cancer Seminar, 2024.
- 20) 高江正道. 分娩管理モニターについて. 第 42 回産科看護研修会, 2024.
- 21) 久慈志保, 武永智, 宮澤千夏, 瀬川有実, 石井雅人, 今井悠, 金森玲, 竹内淳, 大原樹, 鈴木直. 婦人科がん化学療法中における患者の主観的評価 (PRO-CTCAE) と医師による客観的評価 (NCI-CTCAE) の前向き調査研究: 結果とその後の臨床活用. 第 2 回婦人科がんサポーターケア研究会, 2024.
- 22) 澤田紫乃. 「骨粗鬆症を知ろう」. 「骨粗鬆症を知ろう」&「骨密度測定会」, 2024.
- 23) 久慈志保. 「進行/再発子宮体がん治療に関する最新トピックス」～今後の展望を含めて～. Endometrical Cancer symposium 2024 in Saitama 子宮体癌の薬物療法, 2024.
- 24) 高江正道. 女性における妊孕性温存療法の現状と未来. Kansai Cervical and Ovarian cancer Gynecologic seminar, 2024.
- 25) 鈴木直. 生まれてくるこどものための医療に関わる生命倫理の話題. 第 10 回日本不育症学会認定講習会, 2024.
- 26) 洞下由記. がん治療に伴う妊孕性温存療法の実際. 血液がん妊孕性温存セミナー, 2024.
- 27) 久慈志保. 進行・再発子宮体がん治療に関する」最新トピックス. Endometrical Cancer Seminar, 2024.
- 28) 大原樹. 子宮体癌におけるがん遺伝子パネル検査の現状. Endometrical Cancer SeminarEndo, 2024.
- 29) 鈴木直. がん患者の妊孕性温存について学ぼう!. 2024 年度 がん相談センター機能強化研修会, 2025.
- 30) 鈴木直. がん・生殖医療の現状とその後の課題 (妊娠期がん含む) について. 妊娠期がんシンポジウム 2025, 2025.
- 31) 鈴木直. 妊孕性温存療法の現状、そして将来 妊孕性温存療法研究推進事業と助成金制度の必要性について～治療の推進とがん患者の未来のために～. がん患者の妊孕性温存について学ぼう!, 2025.
- 32) 竹内淳. 症例ごとに考える治療戦略. 子宮体癌における複合免疫療法を学ぶ会, 2025.
- 33) 鈴木直. がん・生殖医療に関する最近の話題. 第 39 回札幌冬季がんセミナー, 2025.
- 34) 久慈志保. 日本癌治療学会医師会員におけるアピアランスケアに対する意識と現状. 第 1 回日本癌治療学会アピアランスケア WEB 講演会, 2025.
- 35) 鈴木直. 領域を拡大する生殖医療
がん・生殖医療. 第 39 回日本女性心身医学会, 2025.
- 36) 鈴木直. 生まれてくるこどものための医療 (生殖・周産期) に係る生命倫理の話題. 令和 6 年度岐阜県医師会母体保護法指定医師研修会, 2025.
- 37) 鈴木直. 産婦人科学講座の現状～がん・生殖医療の研究を通して. 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学講座, 2025.
- 38) 久慈志保. 卵巣がん治療の最近の動向～上皮性卵巣癌を中心に～. 第 3 回千葉県がん専門・認定薬剤師講習会, 2025.
- 39) 鈴木直. 婦人科がん患者に対する貧血治療と ESMO ガイドライン. 第 35 回鈴木・産婦セミナー, 2025.
- 40) 鈴木直. がん・生殖医療の現状と課題. がん・生殖医療専門心理士研修会, 2025.
- 41) 久慈志保. 進行/再発子宮体がん治療に関する最新トピックス～SDM/Time Toxicity 等を考える重要性～. 婦人科癌 Web Seminar, 2025.
- 42) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存療法研究推進事業がかかえる次の課題. 第 2 回がん研 Gene Awareness 市民公開シンポジウム, 2025.
- 43) 久慈志保. 進行・再発子宮体癌治療を考える～様々な視点から, SDM, QOL, Timetoxicity～. Endometrical Cancer Web Seminar in 多摩, 2025.
- 44) 久慈志保. 今後の進行・再発子宮体癌治療を考える～新たな視点から, SDM, QOL, Timetoxicity～. LENVIMA 子宮体がん WEB 講演会, 2025.

- 45) 笹川輔, 竹内淳. 妊孕性温存希望の初期逡巡子宮頸癌広汎子宮頸部摘出術 vs 円錐切除+骨盤リンパ節郭清. 第6回婦人科癌Web講演会, 2025.
- 46) 明石英彦, 鈴木美保, 石井雅人, 吉田高士. 妊孕性温存希望の初期逡巡子宮頸癌広汎子宮頸部摘出術 vs 円錐切除+骨盤リンパ節郭清. 第6回婦人科癌Web講演会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		23	1
論 文	原著	4	9
	解説又は総説	7	4
	症例報告		
	その他	1	2
学会発表	国内学会	78	8
	国際学会		29
	その他	46	

産科

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ono Masanori, Takai Yasushi, Harada Miyuki, Horie Akihito, Dai Yidan, Kikuchi Eiji, Miyachi Mitsuru, Yamamoto Tetsuya, Fujii Nobuharu, Kajiyama Hiroaki, Manabe Atsushi, Yasuoka Toshiaki, Katsuragi Shinji, Mekaru Keiko, Maezawa Tadashi, Horage Yuki, Kataoka Shinsuke, Nakayama Robert, Nakajima Eguchi Takako, Kimura Fuminori, Shimizu Chikako, Sugimoto Kohei, Takae Seido, Yumura Yasushi, Nishi Hirotaka, Furui Tatsuro, Morishige Ken-Ichirou, Watanabe Chie, Osuga Yutaka, Suzuki Nao. Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey. International Journal of Clinical Oncology, 2024;29(12) : 1959-1966.
- 2) Manabu Ogoyama, Junichi Hasegawa, Satsuki Hirono, Kenji Horie, Hirotada Suzuki, Hironori Takahashi. Management strategy and experience of vasa previa in perinatal centers: A nationwide survey in Japan. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2024;51(1) : e16189.
- 3) Masatomo Doi , Junki Koike , Nao Suzuki , Junichi Hasegawa. Coagulation and fibrinolytic system of umbilical venous blood in hyper-coiled umbilical cord: A single center cohort study. Placenta, 2025;162 : 9-13.

学会発表

① 国内学会

- 1) 吉高高士、佐治正太、古谷菜摘、中村健太郎、西岡喜美子、西村陽子、鈴木真波、近藤春裕、岩淵秀之、伊東祐順、高江正道、右田王介、北東功、鈴木直. 胎児先天異常の精査で羊水核型異常を認め、両親の染色体検査により児の不均衡型転座が明らかとなった例. 第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		3
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	1	
	国際学会		
	その他		

婦人科

学術論文[英文]

① 原著

1) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5) : 571-581.

2) Ono Masanori, Takai Yasushi, Harada Miyuki, Horie Akihito, Dai Yidan, Kikuchi Eiji, Miyachi Mitsuru, Yamamoto Tetsuya, Fujii Nobuharu, Kajiya Hiroaki, Manabe Atsushi, Yasuoka Toshiaki, Katsuragi Shinji, Mekaru Keiko, Maezawa Tadashi, Horage Yuki, Kataoka Shinsuke, Nakayama Robert, Nakajima Eguchi Takako, Kimura Fuminori, Shimizu Chikako, Sugimoto Kohei, Takae Seido, Yumura Yasushi, Nishi Hirotaka, Furui Tatsuro, Morishige Ken-Ichirou, Watanabe Chie, Osuga Yutaka, Suzuki Nao. Out-of-pocket fertility preservation expenses: data from a Japanese nationwide multicenter survey. International Journal of Clinical Oncology, 2024;29(12) : 1959-1966.

学会発表

① 国内学会

1) 吉高 高士、佐治 正太、古谷 菜摘、中村 健太郎、西岡 喜美子、西村 陽子、鈴木 真波、近藤 春裕、岩淵 秀之、伊東 祐順、高江 正道、右田 王介、北東 功、鈴木 直。胎児先天異常の精査で羊水核型異常を認め、両親の染色体検査により児の不均衡型転座が明らかとなった例。第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会，2024。

2) 洲上 真希，西尾 美佐子，森本 毅，藤川 あつ子，三村 秀文，近藤 春裕，大原 樹，渡邊 麗子，小泉 宏隆。卵巣子宮内膜症性嚢胞と S 状結腸深部子宮内膜症との瘻孔により膿瘍を形成した一例。第 462 回日本医学放射線学会関東地方会定期大会，2024。

② 国際学会

1) Ono M, Harada M, Horie A, Dai Y, Horiguchi I, Kikuchi E, Kimura F, Koizumi T, Komeya M, Mizunuma N, Oseto K, Ota K, Shimizu C, Sugimoto K, Takae S, Takeuchi E, Nishi H, Yumura Y, Furui T, Takai Y, Morishige K, Watanabe C, Osuga Y, Suzuki N. Effect of a web-based fertility preservation training program for medical professionals in Japan. 8th World Congress of the International Society for Fertility Preservation, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	
	国際学会		1
	その他		

眼科学

著書

- 1) 畑真由美. 14. 斜視・弱視・ロービジョン ③上下斜視・回旋斜視・A-V 型斜視 ④交代性上斜位 眼科診療ガイド第2版 2024;:582-585.
- 2) 松澤亜紀子. 屈折矯正法 コンタクトレンズのフィッティングと定期検査 (1) ハードコンタクトレンズ 眼科診療エクスプレス 7 最新 屈折異常と視力矯正マニュアル 2025;7:196-201.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 渡邊昂大, 内山直人, 河越龍方. 発症初期にプロゾーン現象を示し診断に苦慮した梅毒性ぶどう膜炎の1例. 眼科臨床紀要, 2025;18(1):25-30.

② 総説又は症例解説

- 1) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー4. コンタクトレンズの湿潤性、洗浄、消毒および涙液との相互作用 (後編). あたらしい眼科, 2024;41(4):417-418.
- 2) 土至田宏, 松澤亜紀子. コンタクトレンズセミナー5. コンタクトレンズの素材やデザインによる眼の解剖学的・生理学的影響. あたらしい眼科, 2024;41(5):547-548.
- 3) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー6. コンタクトレンズの光学設計 (前編). あたらしい眼科, 2024;41(6):683-684.
- 4) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー7. コンタクトレンズの光学設計 (後編). あたらしい眼科, 2024;41(7):815-816.
- 5) 土至田宏, 松澤亜紀子. コンタクトレンズセミナー8. オルソケラトロジー (1). あたらしい眼科, 2024;41(8):965-966.
- 6) 土至田宏, 松澤亜紀子. コンタクトレンズセミナー9. オルソケラトロジー (2). あたらしい眼科, 2024;41(9):1097-1098.
- 7) 土至田宏, 松澤亜紀子. コンタクトレンズセミナー10. オルソケラトロジー (3). あたらしい眼科, 2024;41(10):1221-1222.
- 8) 徳田直人. 屈折矯正術後眼の緑内障治療. 眼科手術, 2024;37(4):468-473.
- 9) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー11. 強膜レンズ (1). あたらしい眼科, 2024;41(11):1331-1332.
- 10) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー12. 強膜レンズ (2). あたらしい眼科, 2024;41(12):1443-1444.
- 11) 畑真由美. IX 二重にみえる・まぶたの異常 QA2 後天性斜視の原因は. あたらしい眼科 知っておきたい眼科鑑別診断 Q&A, 2024;41:232-237.
- 12) 松澤亜紀子. 老視や近見作業と上手につきあう. 眼科グラフィック, 2024;13(6):679-684.
- 13) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー 13. 医療用コンタクトレンズ (1). あたらしい眼科, 2025;42(1):79-80.
- 14) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー 14. 医療用コンタクトレンズ (2). あたらしい眼科, 2025;42(2):221-222.
- 15) 松澤亜紀子, 土至田宏. コンタクトレンズセミナー 15. 医療用コンタクトレンズ (3). あたらしい眼科, 2025;43(3):341-342.

- 16) 松澤亜紀子. カラーコンタクトレンズと角膜. 日本コンタクトレンズ学会誌, 2025;67(1) : 17-20.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Nitta K, Tokuda N/total member 47. Efficacy and safety of first-line or second-line selective laser trabeculoplasty for normal-tension glaucoma:a multicentre cohort study. *BMJ Open Ophthalmology*, 2024; : doi:-10.1136/bmjophth-2023-001563.
- 2) Otsubo M, Sase K, Tsukahara C, Fujita N, Arizono I, Tokuda N, Kitaoka Y.. Axonal protection by combination of ripasudil and brimonidine with upregulation of p-AMPK in TNF-induced optic nerve degeneration. *International Ophthalmology*, 2024; : doi.org-10.1007/s10792-024-03095-9.
- 3) Tomioka M, Murakami T, Okamoto F, Kinoshita T, Shinomiya K, Nishi T, Jujo T, Obata S, Tsukitome H, Ogura S, Ueda K, Ishii R, Oshika T.. Five-year visual outcome of treatment for retinopathy of prematurity in infants weighing less than 500 g at birth: A multicenter cohort study from J-CREST. *Retina*, 2024;44(4) : 652-658.
- 4) Sugihara Y, Takemura Y, Yamada Y, Morioka M, Gozawa M, Kato K, Hirano T, Murao F, Shimizu M, Kusuhashi S, Murakami T, Takenaka Y, Okabe N, Jujo T, Terasaki H, Nagasato D, Zhenyu Dong, Yoshida S, Ogura S, Yasuda K, Ishigooka G, Sawada O, Higashijima F, Inatani M. Characterization of the visually impaired patients with diabetes mellitus in Japan. *Journal of Diabetes Investigation*, 2024;15(7) : 882-891.
- 5) Yoshimura A, Ishikawa H, Uchida K, Takesue Y, Mori J, Kinoshita T, Morikawa S, Okamoto F, Sawada T, Ohji M, Kanda T, Takeuchi M, Miki A, Kusuhashi S, Ueda T, Ogata N, Sugimoto M, Kondo M, Yoshida S, Ogata T, Kimura K, Mitamura Y, Jujo T, Takagi H, Terasaki H, Sakamoto T, Sugisawa T, Komuku-Yamamoto Y, and Gomi F. Risk Factors for Legak Blindness in 237 Japanese Patients with Exogenous Endophthalmitis: A Multicenter Cohort Study from J-CREST. *OCULAR IMMUNOLOGY AND INFLAMMATION*, 2024;32(7) : 1133-1141.
- 6) Jujo T, Siono A, Sato K, Sekine R, Uchiyama N, Kakehashi K, Endo A, Arakawa A, Shinkai Y, Kitaoka Y. RETINAL MIGRATION AND SURGICAL OUTCOME AFTER HEMI-TEMPORAL INTERNAL LIMITING MEMBRANE PEELING VERSUS CONVENTIONAL PEELING FOR MACULAR HOLE
A Multicenter, Randomized, Controlled Trial. *Retina*, 2024;44(10) : 1793-1799.
- 7) Kominamai A, Tomita S, Kato A, Ono K, Takeuchi M, Imazeki M, Terasaki H, Yamamoto Y, Jujo T, Wakuta M, Matsubara H, Mitamura Y, Kondo M, Kimura K, Takagi H, Gomi F, Sakamoto T and Yasukawa T on behalf of Japan Clinical Retina Study (J-CREST) Group. Factors Affecting Visual Acuity After Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy in Neovascular Age-Related Macular Degeneration: A Multicenter Study in Japan. *Journal of Clinical Medicine*, 2024; : doi.org-10.3390/jcm13206244.
- 8) Shimura M, Hirano T, Tsuki E, Takamura Y, Morizane Y, Akiyama K, Yamamoto K, Hikichi T, Kato T, Kinoshita T, Kusuhashi S, Yoshida S, Sakamoto S, Kimura K, Sugimoto M, Kida T, Mitamura Y, Takatsuna Y, Washio N, Osaka R, Ueda T, Minamoto A, Kogo J, Okamoto F, Enaida H, Sakanishi Y, Nagaoka T, Gomi F, Sasaki M, Terasaki H, Iwase T, Tatsumi T, Nishi K, Shinoda K, Ueda S, Ueda-Consolvo T, Nakashizuka H, Murata T, Kitano S, Sakamoto T, J-CREST STREAT-DME2Study Group. Alteration of treatment choices and the visual prognosis for diabetic macular edema in the era of anti-VEGF drugs: Analysis of the STREAT-DME2 study. *Retina*, 2024; : doi:-10.1097/IAE.0000000000004301..

- 9) Akai R, Inoue R, Kogo J, Fukushima M, Kato T, Hayashi A, Iwase T. Clinical Characteristics and Surgical Outcomes of the Full-thickness Macular Hole Without Focal Vitreomacular Traction: A Multicenter Retrospective Study. Retina, 2024; : doi:-10.1097/IAE.0000000000004357.
- 10) Ishikawa H, Uchida K, Terasaki H, Sakamoto T, Kakinoki M, Ohji M, Jujo T, Takagi H, Mitamura Y, Yamada Y, Takamura Y, Sugimoto M, Kondo M, Yoshida S, Fukuyama H & Gomi F.. Cystoid macular oedema after flanged intraocular lens scleral fixation using the Yamane technique: a multicentre cohort study. Scientific Reports, 2025; : doi:-org/10.1038/s41598-025-85370-y.
- 11) Kogo J, Yoneda K, Iwase T. Novel technique for macular hole-associated retinal detachment with inverted internal limiting membrane flap technique under perfluorocarbon liquid. Retina, 2025; : DOI:10.1097/IAE0000000000004465.

② 総説又は症例解説

- 1) Toshida H, Matsuzawa A, Koh S, Hori Y.. History of Lens Care Products in Japan: Insights From Advertisements in the Journal of the Japan Contact Lens Society for 65 Years. Eye & Contact Lens, 2024;50(12) : 522-526.

学会発表

① 国内学会

- 1) ○富田修平, 加藤亜紀, 竹内大, 今関雅也, 寺崎寛人, 山本有貴, 重城達哉, 湧田真紀子, 松原央, 三田村佳典, 近藤峰生, 木村和博, 高木均, 五味文, 坂本泰二, 安川力. 滲出型加齢黄斑変性抗 VEGF 治療の視力転帰に関連する眼底所見: J-CREST 多施設共同研究. 第 128 回日本眼科学会総会, 2024.
- 2) ○今関雅也, 安川力, 寺崎寛人, 山本有貴, 重城達哉, 湧田真紀子, 松原央, 三田村佳典, 加藤亜紀, 近藤峰生, 木村和博, 高木均, 五味文, 坂本泰二, 竹内大. 滲出型加齢黄斑変性の抗 VEGF 治療離脱因子の解析: J-CREST 多施設共同研究. 第 128 回日本眼科学会総会, 2024.
- 3) ○佐藤圭司, 大山文弘, 木住野源一郎, 石川恵理, 戸田和重, 田中裕一郎, 小沢忠彦. 角膜浮腫を契機に発見された TINU の 1 例. 第 128 回日本眼科学会総会, 2024.
- 4) 徳田直人. 隅角アップデート. 第 128 回日本眼科学会総会 (サブスペシャリティーサンデー), 2024.
- 5) ○今野貴文, 徳田直人, 遠藤誠子, 吉村雅弘, 山田雄介, 豊田泰大, 塚本彩香, 北岡康史. ゴニオスコープ GS-1 による緑内障術後の隅角観察の有用性. 第 16 回神奈川眼科学会, 2024.
- 6) ○正木雄麻, 重城達哉, 藤田直輝, 有菌生吹, 吉村雅弘, 梯滉太, 北岡康史. 当院における外傷性黄斑円孔の自然閉鎖例と手術加療例の比較検討. 第 16 回神奈川眼科学会, 2024.
- 7) 重城達哉. 当院における糖尿病網膜症治療. 第 15 回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム, 2024.
- 8) 後藤聡. 毎月第 2 第 4 水曜日午後は涙道外来です!. 第 15 回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム, 2024.
- 9) 徳田直人. 進化する MIGS (低侵襲緑内障手術). 第 15 回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム, 2024.
- 10) 松澤亜紀子. 明日から役立つ MGD 診療. 第 15 回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム, 2024.
- 11) ○佐藤圭司, 後関利明, 石川恵里, 飯田貴絵, 田中裕一郎, 小沢忠彦. 左上直筋単筋障害で斜視手術施行した甲状腺眼症の 1 例. 第 80 回日本弱視斜視学会総会 第 49 回日本小児眼科学会総会 合同学会, 2024.
- 12) 佐藤圭司. 眼軸長測定装置 ARGOS による ICL 術後 vault 予測式の構築およびその精度の検討. 第 39 回 JSCRS 学術総会, 2024.
- 13) 洲之内千尋, 松澤亜紀子, 原雄将, 林孝彦 山上聡. 急性水腫に対し治療用コンタクトレンズを使用した 2 症例. 第 66 回日本コンタクトレンズ学会, 2024.

- 14) 松澤亜紀子. あらためて遠近両用ソフトコンタクトレンズ処方を見直そう！シニア世代に合う遠近両用ソフトコンタクトレンズを知ろう！. 第66回日本コンタクトレンズ学会（基礎講座2）, 2024.
- 15) 後藤 聡. 涙道内視鏡を活用した涙小管閉塞治療. 第12回日本涙道・涙液学会総会, 2024.
- 16) ○正木雄麻, 重城達哉, 佐藤圭司, 関根伶生, 北岡康史. 眼内レンズ固定術後逆瞳孔ブロック発症のリスク因子に関する検討. 第63回日本白内障学会総会 第50回水晶体研究会, 2024.
- 17) 徳田直人. クロスオーバー緑内障患者の白内障手術. 第63回日本白内障学会総会 第50回水晶体研究会（スイーツセミナー）, 2024.
- 18) ○鯨塚友子, 松澤亜紀子, 波呂栄子, 安部好美, 杉山智亜希, 海老原紘子, 上杉康雄, 中川志帆, 林泰博. 円錐角膜とFuchs 角膜内皮ジストロフィーを合併した白内障の1症例. 第60回日本眼光学学会総会, 2024.
- 19) ○藤田直輝, 佐瀬佳奈, 塚原千広, 大坪瑞季, 有菌生吹, 北岡康史. 高眼圧モデルラットにおけるペマフィブラートの内服による神経保護効果. 第44回日本眼薬理学会, 2024.
- 20) ○北岡康史, 塚原千広, 藤田直輝, 佐瀬佳奈. Nicotinamide riboside による網膜及び視神経の Sirt1 とリン酸 AMPK. 第44回日本眼薬理学会, 2024.
- 21) ○遠藤誠子, 徳田直人, 吉村雅弘, 山田雄介, 豊田泰大, 塚本彩香, 金成真由, 北岡康史. プリザーフロマイクロシャントの術後6ヵ月成績. 第35回日本緑内障学会, 2024.
- 22) ○佐瀬佳奈, 塚原千広, 藤田直輝, 大坪瑞季, 有菌生吹, 北岡康史. TNF 誘発視神経障害モデルにおける Tat-Beclin1 D11 の軸索保護作用. 第35回日本緑内障学会, 2024.
- 23) ○北岡康史, 有菌生吹, 藤田直輝, 塚原千広, 徳田直人, 佐瀬佳奈. 視神経における nicotinamide riboside と mTOR 経路. 第35回日本緑内障学会, 2024.
- 24) 徳田直人. 緑内障治療用インプラント挿入時（プレートのあるもの）アメード緑内障バルブ. 第35回日本緑内障学会（教育セミナー）, 2024.
- 25) ○松澤亜紀子, 土至田宏, 二宮さゆり, 月山純子, 東原尚代, 重安千花, 糸井素啓. 知っておきたいコンタクトレンズの役に立つお話 その3. 第78回日本臨床眼科学会（インストラクションコース）, 2024.
- 26) 北岡康史. 緑内障薬の使い分けと副作用. 第78回日本臨床眼科学会（モーニングセミナー23）, 2024.
- 27) 重城達哉. Glia における内境界膜剥離. 第63回日本網膜硝子体学会総会, 2024.
- 28) 関根伶生. EMR の中心窩網膜感度. 第63回日本網膜硝子体学会総会, 2024.
- 29) 北岡康史. 緑内障点眼薬副作用に対する治療戦略. 第21回湘南眼科倶楽部, 2025.
- 30) ○山田恵子, 後藤聡, 塚本彩香, 藤田直輝, 北岡康史, 後藤英樹. 急性涙囊炎後の視力低下. 第48回日本眼科手術学会学術総会, 2025.
- 31) ○鈴木規裕, 徳田直人, 吉村雅弘, 山田雄介, 豊田泰大, 塚本彩香, 北岡康史. プリザーフロ®マイクロシャントの術中術後合併症について. 第48回日本眼科手術学会学術総会, 2025.
- 32) 後藤聡. 涙囊鼻腔吻合術のトラブルシューティング（鼻外法）. 第48回日本眼科手術学会学術総会（シンポジウム）, 2025.
- 33) 徳田直人. 血管新生緑内障の治療としてのトラベクレクトミー. 第48回日本眼科手術学会学術総会（担当校企画）, 2025.
- 34) 後藤聡. 涙道内視鏡手術 手術手技のコツ. 第48回日本眼科手術学会学術総会（教育セミナー）, 2025.
- 35) 徳田直人. 線維柱帯切開術（眼外法）. 第48回日本眼科手術学会学術総会（教育セミナー）, 2025.
- 36) 後藤聡. 逆境に強い涙道内視鏡. 第48回日本眼科手術学会学術総会（担当校企画）, 2025.
- 37) ○高橋晃太, 中川志帆, 寺本謙典, 渡邊昂大, 四方田涼, 荒川明, 北岡康史. 眼球突出から発見され甲状腺眼症との鑑別

を要した 1 g G4 関連眼疾患の一例. 第 36 回日本眼瞼義眼床手術学会, 2025.

38) 重城達哉. 病院紹介. 第 1 回川崎市北部眼科病診連携の会, 2025.

39) 三石拓実. 当院におけるスタージ・ウェーバー症候群続発緑内障に対する治療について. 第 17 回神奈川クロスオーバーシンポジウム, 2025.

② その他

- 1) 北岡康史. NMOSD 症例提示. 眼科×脳神経内科 合同カンファレンス, 2024.
- 2) 松澤亜紀子. レンズケアで解消! CL トラブル. 札幌市コンタクトレンズケア勉強会, 2024.
- 3) 荒川明. バイオシミラーの現状と展望 -ラニビズマブ BS と関連して-. 第 3 回川崎網膜硝子体カンファレンス, 2024.
- 4) 藤田直輝. MRI をもちいた脳イメージングによる網膜視覚系研究. 第 9 回 AGTS の会 (Advanced Glaucoma Treatment in Sendai), 2024.
- 5) 松澤亜紀子. コンタクトレンズ処方とレンズケア. 函館エリアセミナー 函館市コンタクトレンズケア勉強会 2024, 2024.
- 6) 松澤亜紀子. 9 月 10 日「コンタクトレンズの日」メディアセミナーについて. メディアセミナー「コンタクトレンズ使用コンプライアンス強化月間」, 2024.
- 7) 徳田直人. リパシジル関連点眼薬の上手な使い方. Kawasaki Glaucoma Conference, 2024.
- 8) 関根伶生. 当院における硝子体出血に対する手術. 第 10 回聖マリアンナ眼科シンポジウム, 2024.
- 9) 佐瀬佳奈. 当院におけるマイクロフックロトミーの中長期成績. 第 10 回聖マリアンナ眼科シンポジウム, 2024.
- 10) 荒川明. 当院における抗 VEGF 治療の現状 -特にラニビズマブのバイオシミラーについて-. 第 10 回聖マリアンナ眼科シンポジウム, 2024.
- 11) 土至田宏, 澤充, 金井淳, 佐々木香る, 柳井亮二, 松澤亜紀子. コンタクトレンズの医療情報. 日本コンタクトレンズ協会 コンタクトレンズ営業所 管理者継続的研修会, 2024.
- 12) 松澤亜紀子. コンタクトレンズの知っているようで知らない話. 第 7 回 SENJU Ophthalmic seminar in 松江, 2024.
- 13) 松澤亜紀子. レンズケアの現状～今必要なコンタクトケアとは?. 第 2 回大宮眼科医会学術講演会, 2024.
- 14) 北岡康史. Keep the visual field--眼圧下降以外の側面から. KEEP THE VISUAL FIELD in 熊本, 2024.
- 15) 有菌生吹. 高眼圧モデルラットにおける NR 内服による p-AMPK 上昇を介した軸索保護効果. 第 6 回 Translational Research Conference for Neuroprotection, 2024.
- 16) 松澤亜紀子. コンタクトレンズ診療のススメ. 第 17 回広島臨床眼科セミナー, 2024.
- 17) 藤田直輝. AMD を取り巻く地域特性～病診で”繋ぐ”眼科診療 cycle～. Regional Eye care Seminar～Sustainable な眼科診療を考える～, 2024.
- 18) 松澤亜紀子. レンズケアの現状～今必要なコンタクトレンズケアとは?. 大阪コンタクトレンズケアセミナー, 2024.
- 19) 徳田直人. 日常診療におけるグラナテックの上手な使い方. グラアルファ Web カンファレンス, 2025.
- 20) 徳田直人, 笠原正行, 谷野富彦, 谷原秀信. 主流出路を活用する薬剤の使い方. ROCK Symposium 2025 in Kanagawa, 2025.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著	1	11
	解説又は総説	16	1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	39	
	国際学会		
	その他	20	

耳鼻咽喉科学

著書

- 1) 小森 学. 真珠腫性中耳炎 最新ガイドライン準拠 小児科診断・治療指針 2024; (3):1075-1076.
- 2) 伊藤友祐, 小森 学. めまい 最新ガイドライン準拠 小児科診断・治療指針 2024; (3):1081-1082.
- 3) 小森 学. 中耳真珠腫 プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 6
耳鼻咽喉科医のための診療ガイドライン活用マニュアル 2024; (1):21-25.
- 4) 肥塚 泉. 良性発作性頭位めまい症 (BPPV) に有効な治療法は存在するのか。救急対応のエビデンスをぎゅっとまとめました 2024; :333-334.
- 5) 小森 学. 滲出性中耳炎 今日の治療指針 2025 2025; :1556-1557.
- 6) 小森 学. 耳痛 今日の診断指針 2025; (9):199-201.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 肥塚 泉. 12 めまい治療薬. Pocket Drugs 2024, 2024; : 103-103.
- 2) 大坂和士, 三輪 徹, 瀬尾 徹, 前谷俊樹, 金丸眞一. 内耳出血例の平衡機能検査所見の推移. 耳鼻咽喉科臨床, 2024;117 : 25-32.
- 3) 肥塚 泉. 新規めまい疾患. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2025;97 (1) : 72-81.

② 総説又は症例解説

- 1) 小森 学. 新生児・乳児の感覚に寄り添う
I. 感覚器の発生と発達 聴覚の発達. 小児科診療, 2024;31 (4) : 411-416.
- 2) 小森 学. 小耳症・先天性外耳道閉鎖症. 日本医事新報, 2024;5217 : 48-49.
- 3) 横山菜悠, 小森学. 外耳道・鼻腔異物摘出術. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2024;96 (6) : 440-443.
- 4) 中村 学. カンファレンスルーム(CASE27) めまいを主訴に来院した嚥下性失神. Equilibrium Research, 2024;83 (4) : 235-237.
- 5) 小森 学. COVID-19 後の診療の工夫と心のケア 【各論】 COVID-19 後の新たな診療 味覚障害. JOHNS, 2024;40 (8) : 841-843.
- 6) 小森 学. 第一線のエキスパートが教える耳科・鼻科における術前プランニングと手術テクニック
内リンパ嚢開放術. ENTONI, 2024;302 : 75-82.
- 7) 大平真也, 小森 学. 【TEES を学ぶ】 TEES に必要な機器とその準備. JOHNS, 2024;40 (12) : 1467-1471.
- 8) 城倉 健, 瀬尾 徹. 専門医に学ぶめまいの診かた. アニムス, 2025;30 (1) : 3-10.
- 9) 小森学. II. 主要疾患に対する専門診療 ①新生児期
喉頭軟弱症・声門下狭窄. 小児科診療, 2025;88 (3) : 317-321.
- 10) 横山菜悠, 小森 学. 小児耳鼻咽喉科疾患のすべて ファーストタッチから専門診療へ
喉頭軟弱症・声門下狭窄. 小児科診療, 2025;88 (3) : 317-321.
- 11) 瀬尾 徹. BPPV に対する手術治療. 日本医事新報, 2025;5266 : 50-50.
- 12) 瀬尾 徹. めまい診療ポイント解説. 日本医事新報, 2025;5264 : 11-36.

③ 症例報告

- 1) 青海 瑞穂, 瀬尾 徹, 菅原 一晃, 釧持 新, 小池 遥介, 四戸 達也, 肥塚 泉, 小森 学. めまいを主訴とした反復音暴露による限局性恐怖症例. *Equilibrium Research*, 2024;83 : 88-93.
- 2) 春日井 滋, 久保 祐介, 小森 学. 診断まで時間を要した喉頭結核症例. *JOHNS*, 2024;40(9) : 1089-1092.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Noriaki Takeda, Go Sato, Kazuniri Matsuda, Juichi Ito, Koichi Omori, Yatsuji Ito, Tadashi Kitahara, Izumi Koizuka, Hideo Shojaku, Mamoru Suzuki, Katsumi Doi, Toshihisa Murofushi, Hiroshi Yamashita. Effects of high-dose betahistine on intractable dizziness in patients with uncompensated unilateral vestibulopathy. *Auris Nasus Larynx*, 2024;51(2024) : 401-405.
- 2) Mochizuki, Fumihiro; Ito, Yusuke; Sasano, Yoshiyuki; Williams, Erin; Hoffer, Michael E.; Komori, Manabu; Koizuka, Izumi. Comparing Video Head Impulse Testing in Patients With Acute Vestibular Dysfunction. *otology and neurotology open*, 2024;4(2) : e2.
- 3) Koizumi T, Seo T, Saito K, Fujita H, Kitahara T. Gray - tone appearances on 4 - hour delayed gadolinium - enhanced magnetic resonance imaging indicate severe inner ear pathology and symptoms in sudden sensorineural hearing loss. *Laryngoscope Investigative Otolaryngology*, 2024;9(4) : e1295.
- 4) Ishii M, Tanaka H, Asai R, Kanai Y, Kato Y, Ito Y, Mochizuki F, Yoneyama M, Ishiyama G, Ishiyama A.. New non-contrast MRI of endolymphatic hydrops in Ménière's disease considering inversion time. *Laryngoscope investigative otolaryngology*, 2024;9(4) : e1314.
- 5) Kenmochi M, Ochi K, Kinoshita H, Kasugai S, Nakamura M, Komori M. Effect of lidocaine on salicylate-induced tinnitus in guinea pigs: A focus on the auditory cortex. *PLoSone*, 2024;19(8) : e0306607.
- 6) Fumihiro Mochizuki , Manabu Komori , Jun Shimizu , Yoshiyuki Sasano , Yusuke Ito , Michael E Hoffer , Yoshishige Miyabe , Izumi Koizuka. Microbial alpha diversity in the intestine negatively correlated with disease duration in patients with Meniere's disease. *Scientific Reports*, 2024;30(14) : :31893.
- 7) Baba A, Kurihara S, Matsushima S, Ogino N, Yamauchi H, Kusada S, Tatedo S, Kubomae S, Nakazawa T, Takahashi M, Sakurai Y, Motegi M, Komori M, Yamamoto K, Yamamoto Y, Kojima H, Ojiri H.. Predicting Mastoid Extension and Complications such as Labyrinthine Fistula and Dural Exposure in Middle Ear Cholesteatoma Using Lesion Size and Detectability on Non-echo-planar Diffusion-weighted MR Imaging. *Magnetic Resonance in Medical Sciences*, 2025; : Epub.

② 総説又は症例解説

- 1) Manabu Komori. Update on pediatric tracheostomy. *Auris, nasus, larynx*, 2024;51(3) : 429-432.

③ 症例報告

- 1) Yoshiyuki Sasano, Fumihiro Mochizuki, Manabu Komori. A Pediatric Case of Cogan's Syndrome With Internal Otitis. *CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE*, 2024;16(8) : e66742.
- 2) Nayu Yokoyama, Yoshiyuki Sasano, Shinya Ohira, Fumihiro Mochizuki, Manabu Komori. A Three-Year Follow-Up of a Patient With Large Vestibular Aqueduct Syndrome Who Underwent Bilateral Endolymphatic Duct Blockage Surgery. *CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE*, 2024;16(10) : e70827.

- 3) Shinya Ohira, Manabu Komori. A Case of Bilateral Idiopathic Temporal Cerebrospinal Fluid Leakage With Multiple Fistulas in the Middle and Posterior Cranial Fossae Closed Using the Transmastoid Approach. CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE, 2024;16(10) : e70742.
- 4) Yoshiyuki Sasano, Yuichiro Yaguchi, Izumi Koizuka, Manabu Komori. Experience With Transcanal Endoscopic Ear Surgery and Preoperative Imaging in the Case of Persistent Stapedial Artery. CUREUS JOURNAL OF MEDICAL SCIENCE, 2024; : e73337.

学会発表

① 国内学会

- 1) 小森 学, 大平真也. ダイバーシティ推進委員会企画「躍動する弟子は良い師匠から-伸ばして広がるダイバーシティー-」. 第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会, 2024.
- 2) 小森 学. イブニング教育セミナー6
当たり前を見直そう! 鼻吸引の重要性. 第127回日本小児科学会学術集会, 2024.
- 3) 釧持睦, 越智健太郎, 木下裕継, 春日井滋, 中村学, 小森学. キニンによるモルモット聴皮質 dorsocaudal 領域への影響—single unit activity での検討—. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024.
- 4) 小森 学. 耳、聞こえてまっか!
難聴は認知症の最大のリスクです. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会 市民公開講座, 2024.
- 5) 釧持 新, 瀬尾 徹, 小池遥介, 青海瑞穂, 四戸達也, 肥塚 泉, 小森 学. レルモワイエ症候群の1例—発症機序に関する考察—. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会, 2024.
- 6) 釧持 新 瀬尾 徹 小池 遥介 青海 瑞穂 四戸 達也 肥塚 泉 小森 学. レルモワイエ症候群の1例—発症機序に関する考察—. 第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024.
- 7) 久保佑介, 深澤雅彦, 岩武桜子, 藤井正文, 春日井滋, 小森学. 当院における咽喉頭食道全摘術・遊離空腸再建術の検討. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024.
- 8) 深澤雅彦, 岩武桜子, 藤井正文, 久保佑介, 春日井滋, 小森学. 当科における喉頭全摘術後咽頭瘻の検討. 第48回日本頭頸部癌学会総会, 2024.
- 9) 春日井 滋, 深澤 雅彦, 藤井 正文, 久保 祐介, 小森 学. 当科における下咽頭癌の治療成績. 第48回日本頭頸部癌学会, 2024.
- 10) 落合 晴希, 小森 学, 中澤 宝, 金子 弘昌. 中耳炎患者の術式を予測する機械学習モデルの構築. 第6回日本メディカル AI 学会学術集会, 2024.
- 11) 佐藤千紗, 土屋朱璃, 小森 学. 乳幼児への家庭での効果的な鼻吸引方法の検討. 第19回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2024.
- 12) 久保佑介. 動画で見る嚥下内視鏡検査の実際. 第34回神奈川嚥下研究会・第9回神奈川嚥下機能評価セミナー, 2024.
- 13) 小森 学. 聞き取りづらさを感じて受診した
患者さんに対する診療について. 日耳鼻神奈川県地方部会及び神奈川県耳鼻咽喉科医会合同学術集会, 2024.
- 14) 瀬尾徹, 久保佑介, 青海瑞穂, 長谷川達大, 肥塚泉, 小森学. 内リンパ水腫を伴わないメニエール病の1例. 第207回日本耳鼻咽喉科神奈川県地方部会学術講演会, 2024.

- 15) 織茂杏奈、瀬尾 徹、長谷川達大、青海瑞穂、久保佑介、肥塚 泉、小森 学. 内リンパ水腫を伴わないメニエール病の一例. . 第 207 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会学術講演会, 2024.
- 16) 横山菜悠、堀江怜央、岩武桜子、藤井正文、深澤雅彦、春日井滋、小森学. 喉頭サルコイドーシスの 1 例. 第 207 回神奈川県地方会, 2024.
- 17) 大林樹真、小森学、鹿野直樹、川口敦、清水直樹、古田繁行. 小児気道チームの集学的治療により気管切開を回避し得た声門下嚢胞の一例. 第 381 回日本小児科学会神奈川県地方会, 2024.
- 18) 小森 学. パネルディスカッション 1 耳科手術 術前評価のポイント
局所所見からみえてくる術前評価のポイント. 第 34 回日本耳科学会総会・学術講演会, 2024.
- 19) 大塚 岳、納富充雄、小森 学. 側頭骨骨折における骨折形態と破壊機序. 第 34 回日本耳科学会総会・学術講演会, 2024.
- 20) 瀬尾 徹. 患者に寄り添う耳科診療—日常診療における工夫—. 第 34 回日本耳科学会総会・学術講演会, 2024.
- 21) 大平真也、小森学. 内リンパ嚢開放術により聴力改善を期待できる症例の特徴. 第 34 回日本耳科学会総会・学術講演会, 2024.
- 22) 堀江怜央、春日井滋、小森学. 診断に難渋した喉頭サルコイドーシスの 1 例. 第 75 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2024.
- 23) 小泉敏三、瀬尾 徹、齋藤和也、北原 紘. 突発性難聴におけるガドリニウム遅延造影 MRI の所見～PPI と PEI の解析～. 第 34 回日本耳科学会, 2024.
- 24) 瀬尾 徹. ここまでわかる平衡機能検査 VEMP(前庭誘発筋電位検査). 第 83 回日本めまい平衡医学会, 2024.
- 25) 織茂杏奈、瀬尾 徹、長谷川 達大、青海 瑞穂、久保 佑介、肥塚 泉、小森 学. 内リンパ水腫を伴わないメニエール病の一例. 第 83 回日本めまい平衡医学会, 2024.
- 26) 持田 峻、小川 恭生、瀬尾 徹、塚原 清彰. 繰り返すめまい症状に対し内リンパ嚢開放術を施行した内リンパ嚢嚢胞の一例. 第 83 回日本めまい平衡医学会, 2024.
- 27) 瀬尾 徹、織茂 杏奈、長谷川 達大、青海 瑞穂、久保 佑介、肥塚 泉、小森 学. フロセミド負荷 VEMP による内リンパ水腫の評価 内耳造影 MRI との比較. 第 83 回日本めまい平衡医学会, 2024.
- 28) 釧持 新、瀬尾 徹、肥塚 泉、小森 学. 両側後半規管低形成の 1 例. 第 83 回日本めまい平衡医学会, 2024.
- 29) 肥塚 泉. 内耳の加齢. 第 83 回日本めまい平衡医学会総会, 2024.
- 30) 釧持新 瀬尾徹 肥塚泉 小森守. 両側後半規管奇形の 1 例. 第 83 回日本めまい平衡医学会総会, 2024.
- 31) 大林樹真、堀江怜央、小森学、坂本三樹、古田繁行. ボールペンのスプリングによる声門異物の一例. 第 382 回日本小児科学会神奈川県地方会 第 66 回小児科分代会, 2024.
- 32) 深澤雅彦 (演者), 岩武桜子, 藤井正文, 望月文博, 春日井滋, 小森学. 当科で施行した頭頸部領域における針生検についての検討. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会, 2025.
- 33) 小森 学. 新しい骨導インプラント「Osia」による伝音・混合性難聴治療. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2025.
- 34) 大平真也、小森学. 当院における埋込型骨導補聴器 15 例 22 耳の検討. 第 34 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2025.
- 35) 堀江怜央、望月文博、横山菜悠、春日井滋、小森学. 長期気管切開後に内視鏡治療と CPAP 導入でカニューレ抜去可能となった 1 例. 第 37 回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2025.
- 36) 横山菜悠、堀江怜央、春日井滋、小森学. 喉頭粘膜焼灼により気管切開を回避した超低出生体重児の喉頭浮腫. 第 37 回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2025.

- 37) 春日井 滋、堀江 怜央、横山 菜悠、小森 学. 当科における進行下咽頭癌の放射線治療成績. 第 37 回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 2025.
- 38) 田中 宏奈、村上 綱亮、小河原 隼、森田 翔、赤羽 邦彬、北島 悠紀、山田 善宥、大平 真也、小森 学. 当科における耳管ピン手術
18 症例の治療成績. 第 208 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 神奈川県地方部会学術講演会, 2025.
- 39) 小森 学、大林樹真、古田繁行、坂本三樹、川口 敦、清水直樹. 小児気道チームの取り組み. 第 208 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会学術講演会, 2025.
- 40) 高野 頌、晝間 清、西本寛志、小森 学. 内臓逆位を伴った甲状腺癌の 1 例. 第 208 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会学術講演会, 2025.
- 41) Tatsuhiko Hasegawa, Manabu Nakamura, Manabu Komori. Investigation of the usefulness of auricular biopsy for relapsing polychondritis. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2024.
- 42) Akari Tsuchiya, Chisa Sato, Manabu Komori. Investigate effective home nasal aspiration for infants. 第 125 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科総会・学術集会, 2024.

② 国際学会

- 1) Aomi M, Seo T, Koizuka I, Komori M.. The Attempt to Measure Vestibular Evoked Myogenic Potentials Using Amplitude-Modulated Sound Stimuli. XXXII Bárány Society meeting, 2024.
- 2) Kemmochi A, Seo T, Aomi M, Miyamoto Y, Koizuka I, Komori M.. Effect of head position on cervical vestibular evoked myogenic potential. XXXII Bárány Society meeting, 2024.
- 3) Seo T, Koizuka I, Komori M.. Utricular dysfunction has more impact on body sway than saccular dysfunction. XXXII Bárány Society meeting, 2024.
- 4) Shinya Ohira, Manabu Komori. A case of bilateral idiopathic otologic cerebrospinal fluid leak with two or more fistulas in the middle and posterior cranial fossa, which were closed by transmastoid technique. 34th Politzer Society Meeting 2024, 2024.
- 5) Hirona Tanaka, Sinya Ohira, Manabu Komori. Characteristics of cases in which hearing improvement can be expected with endolymphatic sac surgery. 34th Politzer Society Meeting 2024, 2024.
- 6) Seo T. Isolated otolith dysfunction - difference in body sway between saccular and utricular dysfunction. 8th East Asian Symposium on Otology, 2024.
- 7) Aomi M, Seo T, Koizuka I, Komori M. The Attempt to Measure Vestibular Evoked Myogenic Potentials Using Amplitude-Modulated Sound Stimuli. 48th ARO Annual MidWinter Meeting, 2025.

③ その他

- 1) 小森 学. 人工聴覚器の使い分け-Baha を中心に-. 人工聴覚器講演会, 2024.
- 2) 小森 学. ミニレクチャー4: 花粉症. 第 18 回 JHospitalist Network seminar ジェネラリストのためのアレルギー update, 2024.
- 3) 小森 学. 難聴の未来を拓く-人工聴覚器の革新-. 第 26 回北和耳鼻咽喉科病診連携講習会, 2024.
- 4) 小森 学. 古くて新しい扁桃摘出術. 掌蹠膿疱症連携 Seminar in Kawasaki, 2024.
- 5) 小森 学. 眠れぬ夜に終止符を: 乳幼児の鼻吸引と扁桃摘出の新常識. 第 22 回こども ENT ミーティング, 2024.
- 6) 大平真也. アルポート症候群. 第 15 回難聴遺伝子の研究会, 2024.
- 7) 小森 学. 手術の精度を高めよう!-耳科手術機器の Tips-. 第 25 回耳鼻咽喉科・頭頸部外科医療支援システム研究会

, 2024.

- 8) 小森 学. 小児の睡眠 Up To Date -最新の扁桃手術とアレルギー性鼻炎対策-. 第1回川崎小児気道フォーラム, 2024.
- 9) 小森 学. 子どもの鼻と睡眠の秘密-健やかな成長のために-. こどものこころと体をまもる会, 2025.
- 10) 小森 学. 好酸球がつなぐ耳と鼻～難治性炎症性疾患へのアプローチ～. Mepoloziumab CRSwNP Conference in KAWASAKI, 2025.
- 11) 釧持睦・小森学. 当院で経験した骨固定型補聴器. 第11回青葉区医師会 学術集談会・特別講演, 2025.

		和 文	英 文
著 書		6	
論 文	原著	3	7
	解説又は総説	12	1
	症例報告	2	4
	その他		
学会発表	国内学会	40	2
	国際学会		7
	その他	11	

放射線診断・I V R学

著書

- 1) 和田慎司, 三村秀文. IV非血管系 IVR C.硬化療法 静脈奇形に対する硬化療法 IVR マニュアル 第3版 2024;:337-339.
- 2) 藤川あつ子, 宮川実木子, 宮寄治. 1章 肝臓 4) 小児の肝病変 1-17 小児肝腫瘍 この所見をみたらどう考える?肝胆膵鑑別診断のKey Point 2025;:110-116.
- 3) 八木橋国博. 典型例の画像診断 中皮腫取り扱い規約 2025;(2):14-15.
- 4) 和田慎司. 第Ⅶ章 急性腹症の検査③ 画像検査 急性腹症診療ガイドライン 2025 第2版 2025;(2):113-132.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 佐々木 信幸, 山徳 雅人, 土田 知也, 佐藤 寛之, 山口 慶一郎. [二次出版] 倦怠感と認知機能障害を伴う新型コロナウイルス感染後遺症に対する反復性経頭蓋磁気刺激の効果. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2024;61(9):887-895.

② 総説又は症例解説

- 1) 道下由紀子, 宮寄治. 食道閉鎖症の胎児 MRI 診断. 小児科, 2025;66(2):164-171.
- 2) 橋本一樹, 縄田晋太郎, 和田慎司, 西尾美佐子, 濱口真吾, 三村秀文. 緩和 IVR 骨転移に対する IVR (TAE/TACE, PVP). 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌, 2025;39(3):197-203.

③ その他

- 1) 塩原拓実, 有菌翔子, 洲上真希, 齋藤祐貴, 藤川あつ子, 麻生健太郎, 宮寄治. 今月の症例 画像診断 右肺動脈欠損症. 小児科臨床, 2024;77(2):205-207.
- 2) 濱口真吾. 【トリプルコアキシャル〜どう組む? どう使う?〜】トリプルコアキシャルシステム使用の現状. Rad Fan, 2024;22(6):39-42.
- 3) 森本毅. CT の経時差分を用いた骨転移診断支援の使用経験. 月刊インナービジョン, 2024;39(6付録):6-7.
- 4) 和田慎司. 画像検査を使いこなす-放射線科医からの贈り物 Non-vascular intervention. 日本医師会雑誌, 2024;153(特別号(1)):S99-S100.
- 5) 中村尚生. 【画像検査を使いこなす-放射線科医からの贈り物】(第Ⅱ部) 症候学に応じた画像検査の選択 中枢神経 痙攣. 日本医師会雑誌, 2024;153(特別1):S107-S109.
- 6) 西尾美佐子, 三村秀文. 【骨粗鬆症 内科医に求められる骨粗鬆症診療】骨粗鬆症患者の発見・鑑別・診療科間の連携をめぐる話題 椎体骨折に対する骨セメント治療適応症例と普及状況. Medical Practice, 2024;41(7):1050-1053.
- 7) 洲上真希, 藤川あつ子. 【必携小児外科レジデントマニュアル(1)】胸部単純写真読影. 小児外科, 2024;56(8):767-775.
- 8) 藤川あつ子. 【General Radiologist に贈る、押さえておきたい小児疾患 58】(2章) 頭頸部領域 小児の副鼻腔粘膜肥厚は副鼻腔炎なのか?. 画像診断, 2024;44(11):A40-A41.
- 9) 藤川あつ子. 【General Radiologist に贈る、押さえておきたい小児疾患 58】(2章) 頭頸部領域 特徴的な点状高エコーを含む前頸三角や甲状腺の低エコー腫瘍. 画像診断, 2024;44(11):A38-A39.
- 10) 藤川あつ子. 【General Radiologist に贈る、押さえておきたい小児疾患 58】(2章) 頭頸部領域 後咽頭間隙の浮腫. 画像診断, 2024;44(11):A36-A37.

- 11) 藤川あつ子. 【General Radiologist に贈る、押さえておきたい小児疾患 58】(2 章) 頭頸部領域 前頸部の嚢胞性病変. 画像診断, 2024;44(11) : A34-A35.
- 12) 藤川あつ子. 【General Radiologist に贈る、押さえておきたい小児疾患 58】(2 章) 頭頸部領域 空気混入を伴う新生児の頸部嚢胞性腫瘍. 画像診断, 2024;44(11) : A32-A33.
- 13) 洲上淳也, 藤川あつ子. 急性腹症. 臨床画像, 2024;40(10) : 1206-1213.
- 14) 森本毅, 力石耕介, 牧角良二. 【絶対苦手分野にしない消化管の画像診断】CT colonography (大腸 CT) 入門 術前シミュレーション. 臨床画像, 2024;40(11) : 1344-1352.
- 15) 小林雄介, 濱口真吾. 疾病編 III 腹部 21 腹部大動脈瘤破裂. 救急・集中治療, 2025;36(6) : 1174-1178.
- 16) 中村晃成. Similar but Different 画像診断報告書 (第 12 回) 類円形の腓尾部結節! 鑑別方法は・・?. 日本医事新報, 2025; (5266) : 1-2.
- 17) 和田慎司, 小林雄介, 三村秀文. 低流速型脈管奇形の硬化療法. 臨床画像, 2025;41(4) : 469-475.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kawamoto Hisanori, Tsugawa Koichiro, Furuya Yuko, Sakamaki Kaori, Kakimoto Sayoko, Kitajina Mina, Takishita Nagai Mariko, Tazo Mizuho, Nakano Hara Mari, Kuroda Takako, Shimo Ayaka, Shimo Arata, Kojima Yasuyuki, Tsuzuki Makiko, Motoyoshi Ai, Haku Ei, Nishikawa Toru, Kanemaki Yoshihide, Mimura Hidefumi, Fukuda Mamoru. Percutaneous ultrasound-guided cryoablation for early-stage primary breast cancer: a follow-up study in Japan. Breast Cancer, 2024;31(4) : 695-704.
- 2) Wada Shinji, Hamaguchi Shingo, Hashimoto Kazuki, Nawata Shintaro, Matsuoka Shin, Mimura Hidefumi. Selective angiographic evaluation in patients with simple-type pulmonary arteriovenous malformations treated with vascular plug. CardioVascular and Interventional Radiology, 2024;47(8) : 1101-1108.
- 3) Nakamura Hisao, Doi Masatomo, Matsushita Shouichirou, Ode So, Kadoi Takahiro, Tagawa Hiroko, Ucida Masashi, Mimura Hidefumi. Comparison of thallium-201 uptake and retention indices for the evaluation of glioma grading. Journal of St. Marianna University, 2024;15(1) : 1-8.
- 4) Hashimoto Kazuki, Nawata Shintaro, Wada Shinji, Hamaguchi Shingo, Tanabe Kenichiro, Mimura Hidefumi. Assessment of the deformation rate of venous diameter during internal jugular vein puncture using a newly developed thin-tip three-dimensional needle. Journal of vascular access, 2024; : DOI-10.1177/11297298241260904..
- 5) Komita-Moriya Midori, Ogawa Yukihiisa, Kotoku Akiyuki, Nawata Shintaro, Kuramochi Kenji, Ogawa Yasuyoshi, Chiba Kiyoshi, Nishimaki Hiroshi, Mimura Hidefumi. Accuracy and utility of vessel analysis using non-contrast CT for planning endovascular aortic repair. Open Journal of Imaging, 2024;14(3) : 96-105.
- 6) Hashimoto Kazuki, Haraguchi Takafumi, Nawata Shintaro, Wada Shinji, Hamaguchi Shingo, Nishio Misako, Mimura Hidefumi. Creation of a prediction model of local tumor recurrence after a successful conventional transcatheter arterial chemoembolization using cone-beam computed tomography based-radiomics. CardioVascular and Interventional Radiology, 2024;47(11) : 1495-1505.
- 7) Ito Junji, Yamashiro Tsuneo, Hayato Tomita, Heianna Joichi, Murayama Sadayuki, Nishie Akihiro. Cervical CT angiography : The advantage of Ultra-High-Resolution CT versus conventional HRCT. Cancers, 2024;16(22) : 3866.

- 8) Tagawa Hiroko, Matsuoka Shin, Julia Hamasaki, Yoshida Satoshi, Osawa Reo, Mimura Hidefumi. Quantitative computed tomography analyses of hypothyroidism induced by PD-1 and PD-L1 inhibitors. Journal of St. Marianna University, 2024;15(2) : 31-43.
- 9) Michishita Yukiko, Matsuoka Shin, Yagihashi Kunihiro, Mimura Hidefumi. Relationship between CT Findings and Pulmonary Hypertension in Mixed Connective Tissue Disease. Open journal of medical imaging, 2024;14(4) : 145-157.
- 10) Kanemaki Yoshihide, Yamada Takayuki, Mimura Hidefumi. Whole-body magnetic resonance imaging is associated with survival time in metastatic breast cancer. The St. Marianna Medica Journal, 2025;16(1) : 1-11.
- 11) Yamamoto Y., Haraguchi T., Matsuda K., Okazaki Y., Kimoto S., Tanji N., Matsumoto A., Kobayashi Y., Mimura H., Hiraki T.. Prediction of Prostate Cancer Grades Using Radiomic Features. Acta Medica Okayama, 2025;79(1) : 21-30.

② 症例報告

- 1) Tsukada Hikaru, Hayakawa Nozomi, Aida Koichiro, Wada Shinji, Morimoto Tsuyoshi, Doi Masatomo, Mimura Hidefumi, Koike Junki, Kikuchi Eiji. Small renal cell carcinoma accompanied by extensive inferior vena cava tumor thrombus diagnosed by percutaneous transvenous biopsy. IJU Case Reports, 2024;7(2) : 91-94.
- 2) Dote Minoru, Hamaguchi Shingo, Arizono Shoko, Cho Songhyon, Wada Shinji, Nawata Shintaro, Hashimoto Kazuki, Mimura Hidefumi. A case of emergency stent graft placement for subclavian artery injury during ventriculoperitoneal shunt placement. Radiology Case Reports, 2024;20(3) : 1574-1577.
- 3) Takakuwa Y, Ooka S, Endo N, Nakamura H, Okano T, Miyagaki T, Kadono T, Kawahata K. Long-term follow-up of vasculitis with metal allergy after cerebrovascular coil embolization. Oxford Medical Case Reports, 2025;4 : 208-210.

③ その他

- 1) Koyama Yoichi, Nakashima Kazuaki, Orihara Shunichiro, Tsunoda Hiroko, Kimura Fuyo, Uenaka Natsuki, Ban Kanako, Michishita Yukiko, Kanemaki Yoshihide, Kurihara Arisa, Tawaraya Kanae, Taguri Masataka, Ishikawa Takashi, Uematsu Takayoshi. Inter-and intra-observer variability of qualitative visual breast-composition assessment in mammography among Japanese physicians: a first multi-institutional observer performance study in Japan. Breast Cancer, 2024;31(4) : 671-683.
- 2) Wada Shinji, Osawa Reo, Dote Minoru, Hayakawa Nozomi, Maruki Saeko, Mimura Hidefumi. Percutaneous core needle biopsy of a renal pelvic mass via nephrostomy access. Journal of Vascular and Interventional Radiology, 2024;35(11) : 1723-1725.

学会発表

① 国内学会

- 1) 塩原拓実, 藤川あつ子, 有菌翔子, 澁上真希, 齋藤祐貴, 三村秀文. メッケル憩室とその合併症の画像診断. 第 83 回日本医学放射線学会総会, 2024.
- 2) 齋藤祐貴. 小児肝腫瘍の画像診断—肝芽腫を中心に—. 第 83 回日本医学放射線学会総会, 2024.
- 3) 齋藤祐貴, 藤川あつ子, 塩原拓実, 有菌翔子, 澁上真希, 小林大地, 田沼隆夫, 三村秀文. 申請時の気胸の診断におけるノイズ低減を用いたポータブル単純 X 線写真の画質評価. 第 83 回日本医学放射線学会総会, 2024.

- 4) 有菌翔子, 藤川あつ子, 松岡伸, 齋藤祐貴, 塩原拓実, 洲上真希, 田沼隆夫, 小川泰良, 力石耕介, 三村秀文. ノイズリダクション技術を使用した単純X線写真の画質評価: ファントム実験による異物検出能. 第83回日本医学放射線学会総会, 2024.
- 5) 橋本一樹. 研修医セミナー (IVR・治療) 血管系 IVR. 第83回日本医学放射線学会総会, 2024.
- 6) 宮川久弥恵, 西尾美佐子, 近藤春裕, 和田慎司, 濱口真吾, 橋本一樹, 三村秀文, 今井悠, 鈴木直. マイクロスフィアを用いた子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術の安全性、有効性について. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 7) 橋本一樹, 縄田晋太郎, 和田慎司, 西尾美佐子, 濱口真吾, 三村秀文. 3D 針を用いた内頸静脈穿刺時の血管壁変形に関する検討. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 8) 土手季, 和田慎司, 宮川久弥恵, 塩原拓実, 縄田晋太郎, 橋本一樹, 濱口真吾, 酒井寛貴, 松本純一, 三村秀文. 特発性血気胸による出血性ショックに対して TAE を施行した1例. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 9) 蛭間弘光, 八木橋国博, 村田清, 曹聖鉉, 大森淳二, 熊野玲子. 鈍的脾損傷における解剖学的および画像所見に基づく画像診断4分類と治療方針の提案. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 10) 和田慎司, 大澤怜央, 土手季, 早川望, 成木佐瑛子, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文. 腎瘻経路で腎盂病変の針生検を施行した1例. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 11) 濱崎樹里亜, 和田慎司, 村田清, 曹聖鉉, 有菌翔子, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文. 産科危機的出血に対し塞栓を要した1症例. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 12) 若井理可子, 井上政則, 田村全, 塚田実郎, 八木橋国博, 大西真生, 奥山秀平, 陣崎雅弘, 栗原泰之. 右陰囊内の精巣静脈瘤に対して経皮的静脈アプローチにて門脈体循環シャント塞栓術を施行した1例. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 13) 濱口真吾. IVR 医も知っておきたい、腰椎椎間板ヘルニアに対するヘルコニア注入治療の可能性とその展望. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 14) 石井みずほ, 和田慎司, 富田隼人, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文. EUS-HJS 後に生じた仮性動脈瘤に対して TAE を施行した1例. 第53回日本 IVR 学会総会, 2024.
- 15) 曹聖鉉, 久保木想太, 藤川あつ子, 岡村隆徳, 松本純一, 三村秀文. 小児脾損傷における超音波検査の臨床的有用性と治療必要例の特徴評価. 日本超音波医学会第98回学術集会, 2024.
- 16) 斧研洋幸, 岡村隆徳, 久保木想太, 齋藤祐貴, 大池信之. 超音波検査で鑑別が困難であった両側結核性精巣上体炎の1例. 日本超音波医学会第97回学術集会, 2024.
- 17) 川口拓哉, 古田繁行, 藤川あつ子, 新開統子, 大林樹真, 森田康太郎. 先天性横隔膜ヘルニアにおける胎児 MRI 肺-肝信号比 (LLSIR) の有用性についての検討. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 18) 西尾美佐子, 佐々木大佑, 森本毅, 和田慎司, 原武史, 藤川あつ子, 三村秀文, 牧角良二, 大坪毅人. 直腸 (Rb) 部潰瘍穿孔により骨盤内腹膜外腔に大きな膿瘍腔を形成した1例. 第37回日本腹部放射線学会, 2024.
- 19) 有菌翔子, 藤川あつ子, 久保木想太, 岡村隆徳, 齋藤祐貴, 洲上真希, 塩原拓実, 三村秀文. 咽頭後間隙及び扁桃周囲の炎症性病態に対する超音波検査の経験. 第60回日本小児放射線学会学術集会, 2024.
- 20) 長江千愛, 森美佳, 梅沢陽太郎, 足利朋子, 山下敦己, 齋藤祐貴, 藤川あつ子, 瀧正志. 早期血友病性関節症の検出における MRI の有用性. 第60回日本小児放射線学会学術集会, 2024.
- 21) 塩原拓実, 藤川あつ子, 有菌翔子, 齋藤祐貴, 古田繁行, 三村秀文. 卵巣捻転を膿瘍形成性虫垂炎と CT で誤診した1例. 第60回日本小児放射線学会学術集会, 2024.
- 22) 森本毅. 術前大腸 CT 再考. 日本消化管 CT 技術学会第22回学術集会, 2024.
- 23) 小林雄介. 盲腸がん再発による外腸骨動脈腸管瘻に対してステントグラフトを留置し救命できた一例. 第35回関東 IVR 研究会, 2024.

- 24) 土手季, 大森淳二, 村田清, 曹聖鉉, 蛭間弘光, 原武史, 熊野玲子, 八木橋国博. 直腸静脈瘤に対してバルーン閉塞下順行性門脈硬化塞栓術 (BATS) を施行した1例. 第35回関東IVR研究会, 2024.
- 25) 宮川久弥恵, 橋本一樹, 濱口真吾, 西尾美佐子, 富田隼人, 和田慎司, 小林雄介, 三村秀文. 稽留流産、胎児娩出前の産科危機的出血でTAEに難渋した一例. 第35回関東IVR研究会, 2024.
- 26) 後藤由香, 原口貴史, 道下由紀子, 印牧義英. 1.5T MRI装置におけるUltrafastダイナミック乳房造影MRI検査の有効性の検討. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 27) 川本久紀, 古谷悠子, 酒巻香織, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 志茂彩華, 土屋聖子, 秋山恭子, 吉江玲子, 都築麻紀子, 本吉愛, 白英, 西川徹, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 早期原発性乳癌に対する凍結療法の前向き観察研究. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 28) ◎仁木凜太郎, 秋山唯, 三井寛之, 小野瀬喜道, 軽辺朋子, 市川翔太, 橘川薫, 野呂瀬朋子, 大池信之, 仁木久照. 足舟状骨に発生した骨巨細胞腫の1例. 第57回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2024.
- 29) 宮森大輔, 西館俊彦, 関根慎一, 藤野紘貴, 矢吹拓, 和田慎司, 山岸俊介, 三原弘, 伊藤公訓. 急性腹症診療ガイドライン改訂公聴会ー鑑別診断ー. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会, 2024.
- 30) 近藤浩史, 亀井誠二, 井上明星, 和田慎司, 渡口真史, 畠二郎, 亀田徹, 刑部恵介, 丸山憲一, 貝田佐知子. 急性腹症診療ガイドライン改訂の検討ー画像ー. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会, 2024.
- 31) 井上祐真, 井上明星, 刑部恵介, 貝田佐知子, 亀井誠二, 亀田徹, 近藤浩史, 関根慎一, 渡口真史, 畠二郎, 丸山憲一, 矢吹拓, 山岸俊介, 山田岳史, 和田慎司, 三原弘. 急性腹症診療ガイドライン改訂ー教育章ー. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会, 2024.
- 32) 川本久紀, 酒巻香織, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 志茂彩華, 都築麻紀子, 本吉愛, 白英, 西川徹, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 早期原発性乳癌に対する経皮的超音波ガイド下凍結アブレーションー日本における追跡研究. 第12回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会, 2024.
- 33) 中村晃成, 石田光, 和田慎司, 藤川あつ子, 松岡伸, 三村秀文, 本間崇浩, 渡邊麗子. 大量胸水を伴った巨大な神経鞘腫の手術にて、mesothelial proliferative tumorの併発が発覚した一例. 神奈川県放射線医会 第64回例会, 2024.
- 34) 中山夏音, 瀬川愛実, 宮澤千夏, 石井雅人, 今井悠, 金森玲, 竹内淳, 西尾美佐子, 和田慎司, 久慈志保, 大原樹, 渡邊麗子, 三村秀文, 小池淳樹, 鈴木直. 当院で経験した診断に苦慮する性索間質性卵巢腫瘍の2例. JSAWI 2024, 2024.
- 35) 宮澤千夏, 瀬川有実, 石井雅人, 今井悠, 金森玲, 竹内淳, 西尾美佐子, 和田慎司, 久慈志保, 大原樹, 渡邊麗子, 小泉宏隆, 三村秀文, 小池淳樹, 鈴木直. 診断に苦慮した子宮頸部胃型HPV非依存性腺癌の1例. JSAWI 2024, 2024.
- 36) 小町詩織, 松永綾子, 荻原眞帆, 小野結佳, 齋藤祐貴, 藤川あつ子, 右田王介. A Case of Metaphyseal Chondromatosis with D-2-Hydroxyglutaric aciduria in which bone X-ray assisted the diagnosis. 日本人類遺伝学会第69回大会, 2024.
- 37) 藤川あつ子. 急性虫垂炎: マネージメントを意識した画像診断、モダリティ、鑑別、ピットフォールについて. 第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.
- 38) 森谷みどり, 小川普久, 小徳暁生, 縄田晋太郎, 倉持賢司, 小川泰良, 千葉清, 西巻博, 三村秀文. Accuracy and utility of vessel analysis using non-contrast CT for planning endovascular aortic repair. 第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.
- 39) 小林大地, 富田隼人, 森本毅, 出口佑樹, 福地博史, 瀧上淳也, 瀧上真希, 小林泰之, 三村秀文. 前立腺MRIにおけるDeep learning reconstructionを用いたT2強調画像の画質評価. 第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.
- 40) 森本毅. 放射線科医が求めるAI読影支援システムーフォローアップCT読影の課題と展望ー. 第60回日本医学放射線学会

秋季臨床大会, 2024.

- 41) 石田光, 和田慎司, 藤川あつ子, 松岡伸, 三村秀文, 本間崇浩, 渡邊麗子. 大量胸水を伴った巨大な神経鞘腫の手術にて、mesothelial tumor の併発が発覚した一例. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.
- 42) 森本毅. 大腸癌術前検査としての大腸 CT. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.
- 43) 中村尚生. 脳症、脳炎（ウイルスを除く）. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.
- 44) 森本毅. 誰一人、大腸癌で亡くならない世界へ. 第 83 回日本公衆衛生学会総会, 2024.
- 45) 西川徹, 中川朋子, 印牧義英, 後藤由香, 曾根正勝, 福田護, 津川浩一郎. 頸部超音波検査と頸部単純 MRI 検査を併用し術前から診断できた副甲状腺がんの 1 例. 第 52 回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会, 2024.
- 46) 渕上真希, 西尾美佐子, 森本毅, 藤川あつ子, 三村秀文, 近藤春裕, 大原樹, 渡邊麗子, 小泉宏隆. 卵巣子宮内膜症性嚢胞と S 状結腸深部子宮内膜症との瘻孔により膿瘍を形成した一例. 第 462 回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 2024.
- 47) 吉田聡, 中村尚生, 齋藤祐貴, 藤川あつ子, 宇田川紀子, 三村秀文. Infantile traumatic brain injury with a biphasic clinical course and late reduced diffusion(TBIRD)の 1 例. 第 462 回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 2024.
- 48) 川本雅美, 山口慶一郎. PSMA-PET/CT 検査にて Gynecomastia（女性化乳房）に集積を認めた一例. 第 102 回 日本核医学会関東甲信越地方会, 2025.
- 49) 山口慶一郎, 高松佑一郎. ¹⁷⁷Lu-oxodotreotide（ルタテラ）と ¹¹¹In-pentetreotide（オクトレオスキャン）の画像比較. 第 102 回 日本核医学会関東甲信越地方会, 2025.
- 50) 濱口真吾. ASAHI Microcatheter 進化 Veloute DM. 第 36 回関東 IVR 研究会, 2025.
- 51) 宮川久弥恵, 蛭間弘光, 土手季, 田川寛子, 大森淳二, 熊野玲子, 八木橋国博. 左後腹膜腫瘍に対し、術前 CT ガイド下マレーキングを行った 1 例. 第 36 回関東 IVR 研究会, 2025.
- 52) 中村晃成. 卵巣動脈瘤に対して経カテーテル動脈塞栓術を施行した一例. 第 36 回関東 IVR 研究会, 2025.
- 53) 中村尚生. 痙攣にまつわる画像診断いろいろ. 第 44 回日本画像医学会学術集会, 2025.
- 54) 和田慎司. 急性腹症診察ガイドライン改訂版. 第 61 回日本腹部救急放射線医学会総会, 2025.
- 55) 石田光, 西尾美佐子, 和田慎司, 森本毅, 松本純一, 三村秀文. 異所性妊娠における造影 CT 所見 'Acorn shell sign'. 第 61 回日本腹部救急医学会総会, 2025.

② 国際学会

- 1) Wada Shinji, Matsumoto Junichi, Dote Minoru, Mimura Hidefumi. Unveiling hidden dangers the quest to identify pseudoaneurysms obscured by metallic mirages. American Society of Emergency Radiology Annual Meeting 2024, 2024.
- 2) Haraguchi T., Hashimoto K., Kobayashi Y., Tomita H., Wada S., Nishio M., Hamaguchi S., Mimura H.. Inaccessible deep liver abscess drainage: The integrated bent and straight needle technique. CIRSE congress, 2024.
- 3) Hashimoto Kazuki. A creation of prediction model of local recurrence after successful c-TACE using radiomics. Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe 2024, 2024.
- 4) Wada Shinji, Hamaguchi Shingo, Hashimoto Kazuki, Mimura Hidefumi. Selective Angiographic Evaluation in Patients with Simple-Type Pulmonary Arteriovenous Malformations Treated with Vascular Plug. Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe Congress 2024, 2024.

- 5) Hara Hidetake, Muraishi Hiroshi, Mizukami Shinya, Maehira Shouta, Todoroki Tatsuya, Mimura Hidefumi.
Photon-counting detector CT techniques for the detection of acute ischemic stroke using virtual monoenergetic images. 24th Asia-Oceania Congress of Medical Physics, 2024.
 - 6) Goto Yuka, Haraguchi Takafumi, Michishita Yukiko, Kanemaki Yoshihide. Investigation of the effectiveness of ultrafast DCE-MRI on a widely used 1.5T-MRI system. The Radiological Society of North America (RSNA) 2024, Scientific Assembly and Annual Meeting, 2024.
- ③ その他
- 1) 齋藤祐貴. 小児整形疾患. 第34回骨軟部放射線診断セミナー, 2024.
 - 2) 和田慎司, 橋本一樹, 濱口真吾. ボリュームの少ない縦隔膿瘍に対するPTEG様ドレナージの1例. 第9回日本穿刺ドレナージ研究会, 2024.
 - 3) 森本毅. 腸管内の所見を整理する. 日本大腸CT専門技師認定機構 主催セミナー, 2024.
 - 4) 小林雄介, 橋本一樹, 和田慎司, 西尾美佐子, 濱口真吾, 三村秀文. 当院における非悪性疾患に対するPTEG造設症例に対する検討. 第13回緩和IVR研究会, 2024.
 - 5) 土手季, 大森淳二, 熊野玲子, 八木橋国博. 術前診断し得たS状結腸腹膜垂の右大腿ヘルニア内陥頓の1例. 神奈川県放射線医会第64回例会, 2024.
 - 6) 加藤絢, 和田慎司, 森本公平, 橋本一樹, 森本毅, 三村秀文. 重複胆嚢に生じた急性胆嚢炎に対し経皮的ドレナージを施行した1例. 第34回日本救急放射線研究会, 2024.
 - 7) 中嶋裕理, 和田慎司, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文. 慢性腎不全を背景とした特発性腎出血に対して緊急塞栓術を施行した症例の検討. 第34回日本救急放射線研究会, 2024.
 - 8) 橋本一樹. 3D針を用いた内頸静脈穿刺時の血管壁変形に関する検討. 第35回 Radiology Seminar, 2025.
 - 9) 宮川久弥恵. 「Was blind, but now I see」ERでの見逃しを防ぐ10の方法. 第35回 Radiology Seminar, 2025.
 - 10) 藤川あつ子. 急性虫垂炎の画像診断: ピットフォールやマネジメントに関連する画像所見について. 第35回 Radiology Seminar, 2025.
 - 11) Michishita Yukiko, Miyazaki Osamu. Pharyngeal dilatation on fetal MRI: A new perspective in prenatal diagnosis of esophageal atresia. The 10th Annual Meeting of the Japanese Society of fetal MRI, 2025.

		和 文	英 文
著 書		4	
論 文	原著	1	11
	解説又は総説	2	
	症例報告		3
	その他	17	2
学会発表	国内学会	55	
	国際学会		6
	その他	10	1

放射線治療学

著書

- 1) 中村直樹, 余宮きのみ, 高木辰哉, 柴田浩行, 篠田裕介, 安部能成, 長谷川友美, 清水麻美子, 菱沼貴生, 宮川瑞代. 放射線治療って, 実際どうなの? 骨転移に対する放射線治療. がん看護 9・10 Vol. 29_No. 5_2024 2024;:497-500.
- 2) 河野博隆, 今西淳悟, 佐藤健二, 小倉浩一, 生田国大, 森岡秀夫, 佐藤千明, 山本麻子, 角谷賢一朗, 由留部崇, 辻本武尊, 武岡由樹, 神田裕太郎, 黒田良祐, 宮本俊之, 中村直樹, 和田武, 山本真由, 近藤浩史, 畠野宏史, 加来拓実, 小林寛. 特集: 見逃さない 間違えない 骨・軟部腫瘍と骨転移
骨転移に対する放射線治療アップデート 関節外科 基礎と臨床 Vol. 43 No. 12 2024;:61-68.
- 3) 永島秀樹, 和佐潤志, 片桐浩久, 落合諒也, 藤井進也, 内藤裕, 元井亨, 小林寛, 今西淳悟, 亀山隆, 橋詰良夫, 高澤英嗣, 上田明希, 奈良江梨子, 中村直樹, 中村和正, 小西憲太, 若林紘平, 朝生智之, 小久保亮, 坂本昌隆, 伊藤慶, 戸川大輔, 出村諭, 加藤仁志, 横川文彬, 清水貴樹, 中西一夫, 渡辺聖也, 内野和也, 射場英明, 杉本桂久, 土方保和, 角谷賢一朗, 由留, 辻本武尊, 神田裕太郎, 黒田良祐, 森下智博, 杉田守礼, 岩崎素之, 大島和也, 古矢丈雄, 志賀康浩, 永島優樹, 武田昂典, 大山秀平, 大島精司, 松本嘉寛, 山本和宏, 藤原正識, 灰本章一, 酒井良忠, 原仁美, 渡邊清正, 篠田裕介, 平畑昌宏, 河野博隆, 馬場一郎, 安藤健樹, 高橋利明, 渡邊純一郎, 川合剛人, 中川徹, 前垣雅哉, 河村浩二, 柴田浩行. 放射線治療に任せられる原発がん 脊椎脊髄ジャーナル第 37 巻 2024;:753-755.
- 4) 中村直樹. 脊髄を圧迫している(エマージェンシー) 骨転移診療
プラクティス&ケースファイル 2025;:10-10.
- 5) 中村直樹. 体動時痛や神経障害性疼痛は放射線治療の得意分野 骨転移診療
プラクティス&ケースファイル 2025;:150-151.
- 6) 中村直樹. 脊髄圧迫に対する放射線治療 骨転移診療
プラクティス&ケースファイル 2025;:152-153.
- 7) 中村直樹. 放射線治療科に相談する 骨転移診療
プラクティス&ケースファイル 2025;:29-29.
- 8) 中村直樹. 痛みの再発に追加照射を検討する 骨転移診療
プラクティス&ケースファイル 2025;:30-30.
- 9) 中村直樹. 放射線治療 骨転移診療
プラクティス&ケースファイル 2025;:77-77.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 与芝茜, 中村直樹, 岡田幸法, 小西秀弥. Quality indicator を用いた緩和的放射線治療の質に関する遡及的研究. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024; : DOI-10.14963/stmari.52.43.
- 2) 与芝茜, 中村直樹, 宮下久之, 岡田幸法, 坂ノ上真梨子, 小西秀弥, 畠山和志. 頭頸部がん放射線治療計画における自動輪郭抽出機能の医師負担軽減への寄与に関する探索. 北海道放射線医学雑誌, 2025; : 9-11.

② 総説又は症例解説

- 1) 与芝茜, 中村直樹, 岡田幸法, 小西秀弥, 坂ノ上真梨子. 有痛性骨転移に対する再照射. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2024; : DOI-10.14963/stmari.52.27.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Okada Yukinori, Zama Tatsuhiko, Itonaga Tomohiro, Mikami Ryuji, Okubo Mitsuru, Sugahara Shinji, Kurooka Masahiko, Nakai Motoki, Abe Koichiro, Yoshimura Mana, Saito Kazuhiro. PET/CT findings and dose distribution during radiotherapy in T1N0M0-T2N0M0 glottic cancer. *Hellenic journal of nuclear medicine*, 2024; : DOI-10.1967/s002449912710.
- 2) Kiso Takeharu, Okada Yukinori, Kawata Satoru, Shichiji Kouta, Okumura Eiichiro, Hatsumi Noritaka, Matsuura Ryohei, Kaminaga Masaki, Kuwano Hikaru, Okumura Erika. Diagnostic accuracy of a novel ultrasound imaging index for knee osteoarthritis: evaluation of sensitivity, specificity, and predictive values. *Journal of clinical ultrasound* : JCU, 2024; : DOI-10.1002/jcu.23691.
- 3) Yamamoto Shinji, Yoshida Nobukiyo, Sakurai Noriko, Ichikawa Atsushi, Takeshita Koji, Okada Yukinori. Differentiation between ulcerative colitis and crohn's disease using abdominal computed tomography in patients with first-time inflammatory bowel disease. *Cureus*, 2024; : DOI-10.7759/cureus.59691.
- 4) Kobayashi Masamitsu, Kako Jun, Iba Arisa, Okuyama Ayako, Ozawa Keiko, Abe Masakazu, Wada Makoto, Akechi Tatsuo, Iihara Hirotoshi, Imamura K Chiyo, Kim Yong-II, Sasaki Hidenori, Satomi Eriko, Takeda Masayuki, Tanaka Ryuhei, Nakajima Eguchi Takako, Nakamura Naoki, Nishimura Junichi, Noda Mayumi, Hayashi Kazumi, Higashi Takahiro, Boku Narikazu, Matsumoto Koji, Matsumoto Yoko, Okita Kenji, Yamamoto Nobuyuki, Aogi Kenjiro, Iino Keiko. Non-pharmacological treatments for anticipatory nausea and vomiting during chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of the clinical practice guidelines for Antiemesis 2023. *International Journal of Clinical Oncology*, 2024; : DOI-10.1007/s10147-024-02536-w.
- 5) Iihara Hirotoshi, Abe Masakazu, Wada Makoto, Iino Keiko, Akechi Tatsuo, Imamura K Chiyo, Okuyama Ayako, Ozawa Keiko, Kim Yong-II, Sasaki Hidenori, Satomi Eriko, Takeda Masayuki, Tanaka Ryuhei, Nakajima Eguchi Takako, Nakamura Naoki, Nishimura Junichi, Noda Mayumi, Hayashi Kazumi, Higashi Takahiro, Boku Narikazu, Matsumoto Koji, Matsumoto Yoko, Kenji Okita, Yamamoto Nobuyuki, Aogi Kenjiro. 2023 Japan Society of clinical oncology clinical practice guidelines update for antiemesis. *International Journal of Clinical Oncology*, 2024; : DOI-10.1007/s10147-024-02535-x.
- 6) Tsukada Yuichiro, Bando Hideaki, Inamori Koji, Wakabayashi Masashi, Togashi Yosuke, Koyama Shohei, Kotani Daisuke, Yuki Satoshi, Komatsu Yoshito, Homma Shigenori, Taketomi Akinobu, Uemura Mamoru, Kato Takeshi, Fukui Makoto, Nakamura Naoki, Kojima Motohiro, Kawachi Hiroshi, Kirsch Richard, Yoshida Tsutomu, Sato Akihiro, Nishikawa Hiroyoshi, Ito Masaaki, Yoshino Takayuki. Three-year outcomes of preoperative chemoradiotherapy plus nivolumab in microsatellite stable and microsatellite instability-high locally advanced rectal cancer. *British journal of cancer*, 2024; : DOI-10.1038/s41416-024-02730-7.
- 7) Uezono Haruka, Onoe Tsuyoshi, Shikama Naoto, Ono Yuka, Hirata Hidenari, Ito Yoshinori, Yasuda Koichi, Imano Nobuki, Kikuchi Koyo, Kashihara Tairo, Kawamoto Terufumi, Nakamura Naoki. Uptake of ultra-hypofractionated radiation therapy following breast-conserving surgery among patients with early-stage breast cancer: a multi-institutional questionnaire survey. *Breast Cancer*, 2024; : DOI-10.1007/s12282-024-01621-2.

- 8) Itonaga Tomohiro, Mikami Ryuji, Zama Tatsuhiko, Okada Yukinori, Kurooka Masahiko, Araki Youichi, Okubo Mitsuru, Sugahara Shinji, Saito Kazuhiro. Impact of diffusion kurtosis imaging as an early prognostic factor following radiotherapy in patients with head and neck squamous cell carcinoma. *International Journal of Radiation Research*, 2024; : DOI-10.61186/ijrr.22.3.59 9.
- 9) Saito Tetsuo, Shikama Naoto, Takahashi Takeo, Nakamura Naoki, Mori Takashi, Nakajima Kaori, Koizumi Masahiko, Sekii Shuhei, Ebara Takeshi, Kiyohara Hiroki, Higuchi Keiko, Yorozu Atsunori, Nishimura Takeshi, Ejima Yasuo, Harada Hideyuki, Araki Norio, Miwa Misako, Yamada Kazunari, Kawamoto Terufumi, Imano Nobuki, Heianna Joichi, Nozaki Miwako, Wada Yuki, Ohkubo Yu, Uchida Nobue, Watanabe Miho, Kosugi Takashi, Miyazawa Kazunari, Yasuda Shigeo, Onishi Hiroshi. Quality of palliative radiotherapy assessed using quality indicators: a multicenter survey. *Journal of Radiation Research*, 2024; : DOI-10.1093/jrr/rrae048..
- 10) Kamisako Atsufumi, Nakai Motoki, Saguchi Toru, Tanaka Taro, Okada Yukinori, Ishida Masanori, Saito Kazuhiro. The usefulness of contrast-enhanced subtraction magnetic resonance imaging for detecting endoleaks after endovascular aortic repair with prophylactic intraoperative sac embolization. *Acta radiologica (Stockholm, Sweden : 1987)*, 2024; : DOI-10.1177/02841851241263987.
- 11) Harada Hideyuki, Shikama Naoto, Notsu Akifumi, Shirato Hiroki, Yamada Kazunari, Uezono Haruka, Koide Yutaro, Kubota Hikaru, Yamazaki Takuya, Ito Kei, Heianna Joichi, Okada Yukinori, Tonari Ayako, Katoh Norio, Wada Hitoshi, Ejima Yasuo, Yoshida Kayo, Kosugi Takashi, Takahashi Shigeo, Komiyama Takafumi, Uchida Nobue, Miwa Misako, Watanabe Miho, Nagakura Hisayasu, Ikeda Hiroko, Saito Tetsuo, Asakawa Isao, Takahashi Takeo, Shigematsu Naoyuki. Multi-institutionalprospectiveobservationalstudyof radiotherapyformetastaticbonetumor. *Journal of Radiation Research*, 2024; : DOI-10.1093/jrr/rrae060.
- 12) Hayashi Toshinobu, Yamamoto Shun, Miyata Yoshiharu, Takeda Masayuki, Takeda Masakazu, Wada Makoto, Iino Keiko, Akechi Tatsuo, Imamura K Chiyo, Okuyama Ayako, Ozawa Keiko, Kim Yong-Il, Hidenori Sasaki, Satomi Eriko, Tanaka Ryuhei, Nakajima Eguchi Takako, Nakamura Naoki, Nishimura Junichi, Noda Mayumi, Hayashi Kazumi, Higashi Takahiro, Boku Narikazu, Matsumoto Koji, Matsumoto Yoko, Okita Kenji, Yamamoto Nobuyuki, Aogi Kenjiro, Iihara Hirotoishi. Defining the clinical benefits of adding a neurokinin-1 receptor antagonist to control chemotherapy-induced nausea and vomiting in moderately emetogenic chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of the clinical practice guidelines for antiemesis 2023 from the Japan society of clinical oncology. *International Journal of Clinical Oncology*, 2024; : DOI-10.1007/s10147-024-02623-y.
- 13) Nakashima Kazuhisa, Yokomizo Ayako, Murakami Michiyasu, Okita Kenji, Wada Makoto, Iino Keiko, Akechi Tatsuo, Iihara Hirotoishi, Imamura K Chiyo, Okuyama Ayako, Ozawa Keiko, Kim Yong-Il, Sasaki Hidenori, Satomi Eriko, Takeda Masayuki, Tanaka Ryuhei, Nakajima Takako Eguchi, Nakamura Naoki, Nishimura Junichi, Noda Mayumi, Hayashi Kazumi, Higashi Takahiro, Boku Narikazu, Matsumoto Koji, Matsumoto Yoko, Yamamoto Nobuyuki, Aogi Kenjiro, Abe Masakazu. Efficacy and safety of dexamethasone sparing for the prevention of nausea and vomiting associated with moderately emetogenic chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023 from Japan Society of Clinical Oncology. *International Journal of Clinical Oncology*, 2024; : DOI-10.1007/s10147-024-02643-8.

- 14) Kita Ryosuke, Ito Kei, Machida Ryunosuke, Sekino Yuta, Nakamura Naoki, Nakajima Yujiro, Saito Tetsuo, Imano Nobuki, Fukuda Haruhiko, Ito Yoshinori, Mizowaki Takashi. Randomized phase III study comparing re-irradiation stereotactic body radiotherapy and conventional radiotherapy for painful spinal metastases: Japan Clinical Oncology Group study JCOG2211 (RESCORE study). Japanese Journal of Clinical Oncology, 2024; : DOI-10.1093/jjco/hyae145.
- 15) Sakurai Takayuki, Saito Tetsuo, Yamaguchi Kohsei, Takamatsu Shigeyuki, Kobayashi Satoshi, Nakamura Naoki, Oya Natsuo. Predicting the survival of patients with painful tumours treated with palliative radiotherapy: a secondary analysis using the 3-variable number-of-risk-factors model. Radiation Oncology, 2024; : DOI-10.1186/s13014-024-02503-9.
- 16) Yokomizo Ayako, Nakashima Kazuhisa, Iba Arisa, Arisa, Okita Kenji, Wada Makoto, Iino Keiko, Akechi Tatsuo, Iihara Hirotoishi, Imamura K Chiyo, Okuyama Ayako, Ozawa Keiko, Kim Yong-Il, Sasaki Hidenori, Satomi Eriko, Takeda Masayuki, Tanaka Ryuhei, Nakajima Eguchi Takakoi, Nakamura Naoki, Nishimura Junichi, Noda Mayumi, Hayashi Kazumi, Higashi Takahiro, Boku Narikazu, Matsumoto Koji, Matsumoto Yoko, Yamamoto Nobuyuki, Aogi Kenjiro, Abe Masakazu. Efficacy and safety of dexamethasone sparing for the prevention of nausea and vomiting associated with highly emetogenic risk antineoplastic agents: a systematic review and meta-analysis of the Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023 from the Japan Society of Clinical Oncology. International Journal of Clinical Oncology, 2024; : DOI:-10.1007/s10147-024-02624-x.
- 17) Nakashima Kazuhisa, Harashima Saki, Kaneko Rena, Tanaka Ryuhei, Abe Masakazu, Wada Makoto, Iino Keiko, Akechi Tatsuo, Iihara Hirotoishi, Imamura Chiyo-K, Okuyama Ayako, Ozawa Keiko, Kim Yong-Il, Satomi Eriko, Takeda Masayuki, Nakajima Takako-Eguchi, Nakamura Naoki, Nishimura Junichi, Noda Mayumi, Hayashi Kazumi, Higashi Takahiro, Boku Narikazu, Matsumoto Koji, Matsumoto Yoko, Okita Kenji, Yamamoto Nobuyuki, Aogi Kenjiro, Sasaki Hidenori. Efficacy and safety of multi-day antiemetic treatment for patients undergoing multi-day chemotherapy: a systematic review of Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023 from Japan Society of Clinical Oncology. International Journal of Clinical Oncology, 2024; : DOI-10.1007/s10147-024-02652-7.
- 18) Murakami Michiyasu, Miyata Yoshiharu, Nakashima Kazuhisa, Abe Masakazu, Nishimura Junichi, Wada Makoto, Iino Keiko, Akechi Tatsuo, Iihara Hirotoishi, Imamura Chiyo-K, Okuyama Ayako, Ozawa Keiko, Kim Yong-Il, Sasaki Hidenori, Satomi Eriko, Takeda Masayuki, Tanaka Ryuhei, Nakamura Naoki, Noda Mayumi, Hayashi Kazumi, Higashi Takahiro, Boku Narikazu, Matsumoto Koji, Matsumoto Yoko, Okita Kenji, Yamamoto Nobuyuki, Aogi Kenjiro, Nakajima Takako-Eguchi. Clinical benefits of adding olanzapine to 5-HT3 receptor antagonist, NK1 receptor antagonist, and dexamethasone for the prevention of nausea and vomiting in highly emetogenic chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of the Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023 from the Japan Society of Clinical Oncology. International Journal of Clinical Oncology, 2024; : DOI-10.1007/s10147-024-02663-4.
- 19) Kawamoto Terufumi, Shikama Naoto, Nakamura Naoki, Mizowaki Takashi. The role of external-beam radiotherapy for differentiated thyroid cancer. Japanese Journal of Clinical Oncology, 2024; : DOI-10.1093/jjco/hyae158.
- 20) Matsumoto Yoshihisa, Uehara Yuko, Mizushima Akio, Kosugi Toshifumi, Sone Miyuki, Nakamura Naoki, Miyashitai Mitsunori, Morita Tatsuya, Yamaguchi Takuhiro, Satomi Eriko. Availability of, Barriers to Performing, and Educational Practices of Interventional Procedures for Refractory Pain in Cancer Patients: A Nationwide

Survey of Designated Cancer Hospitals in Japan. Palliative medicine, 2024; : DOI-10.1089/pmr.2024.0028.

- 21) Saito Tetsuo, Shikama Naoto, Takahashi Takeo, Harada Hideyuki, Nakamura Naoki, Notsu Akifumi, Shirato Hiroki, Yamada Kazunari, Uezono Haruka, Koide Yutaro, Kubota Hikaru, Yamazaki Takuya, Ito Kei, Heianna Joichi, Okada Yukinori, Ayako Tonari, Katoh Norio, Wada Hitoshi, Ejima Yasuo, Yoshida Kayo, Kosugi Takashi, Takahashi Shigeo, Komiyama Takafumi, Uchida Nobue, Miwa Misako, Miho Watanabe, Nagakura Hisayasu, Ikeda Hiroko, Asakawa Isao, Shigematsu Naoyuki. Health Utility of Pain Response Versus Nonresponse to Palliative Radiation Therapy for Symptomatic Bone Metastases: Analyses Based on Real-World Data from 26 Centers. Journal of palliative medicine, 2025; : DOI-10.1089/jpm.2024.0208.
- 22) Utsumi Nobuko, Saito Tetsuo, Shikama Naoto, Takeo Takahashi, Harada Hideyuki, Nakamura Naoki, Ueno Shuichi, Notsu, Akifumi, Shirato Hiroki, Yamada Kazunari, Uezono Haruka, Koide Yutaro, Kubota Hikaru, Yamazaki Takuya, Ito Kei, Heianna Joichi, Okada Yukinori, Katoh Ayako, Tonari Norio, Wada Hitoshi, Ejima Yasuo, Yoshida Kayo, Kosugi Takashi, Takahashi Shigeo, Komiyama Takafumi, Uchida Nobue, Miwa Misako, Watanabe Miho, Nagakura Hisayasu, Ikeda Hiroko, Asakawa Isao, Shigematsu Naoyuki. Quality of life improvement after radiotherapy for bone metastases assessed using real-world data: a secondary analysis of a Nationwide Multicenter Cohort Study. Japanese Journal of Clinical Oncology, 2025; : DOI-10.1093/jjco/hyae150.
- 23) Ito Kei, Naoki Nakamura. Palliative stereotactic body radiotherapy for spinal and non-spinal bone metastases: combining tradition and innovation. International Journal of Clinical Oncology, 2025; : DOI-10.1007/s10147-025-02750-0.
- 24) Saito Tetsuo, Murotani Kenta, Kodaira Takeshi, Shikama Naoto, Ito Yoshinori, Nakamura Naoki, Mizowaki Takashi, Kagami Yoshikazu. Statistical strategies to analyze local control after radiotherapy. Journal of clinical epidemiology, 2025; : DOI-10.1016/j.jclinepi.2025.111758.
- 25) Ito Kei, Nakajima Yujiro, Nakamura Naoki, Ito Yoshinori, Nishio Teiji, Mizowaki Takashi. Contouring compliance and variability of targets and organs at risk in spine stereotactic body Radiotherapy: A 34-Institution study. Radiotherapy and oncology : journal of the European Society for Therapeutic Radiology and Oncology, 2025; : DOI:-10.1016/j.radonc.2025.110877.

学会発表

① 国内学会

- 1) 内海暢子, 齋藤哲雄, 鹿間直人, 高橋健夫, 原田英幸, 中村直樹, 上野周一, 野津昭文, 白土博樹, 茂松直之. 骨転移に対する緩和的放射線治療がもたらすQOL改善について多施設共同前向き観察研究からの検討. 第83回日本医学放射線学会総会, 2024.
- 2) 中村直樹. 腎癌の転移巣に対する緩和照射における高精度照射の役割. 第111回日本泌尿器科学会総会, 2024.
- 3) 中村直樹. 骨転移に対する放射線治療学. 第17回日本緩和医療学会年会, 2024.
- 4) 中村直樹. 放射線治療医の立場からの緩和照射の普及・啓発活動. 第29回日本緩和医療学会学術大会, 2024.
- 5) 荒川さやか, 上原優子, 松本禎久, 小杉寿文, 曾根美雪, 中村直樹, 水嶋章郎, 高橋健夫, 里見絵里子. がん疼痛が緩和しない場合のがん疼痛治療に携わる各専門医の相談の実態について. 第29回日本緩和医療学会学術大会, 2024.
- 6) 中村直樹. 科学的根拠に基づいた緩和的放射線治療. 第29回日本緩和医療学会学術大会, 2024.

- 7) 利安隆史, 中村聡明, 古平毅, 町田龍之介, 中島健雄, 伊藤芳紀, 中村直樹, 石倉聡, 齊藤吉弘, 高橋聡, 太田陽介, 稲田正浩, 村上祐司, 久保亘輝, 関野雄太, 福田治彦, 西村恭昌, 溝脇尚志. T1-2N0-1M0 中咽頭癌に対する強度変調放射線治療 (IMRT) の多施設共同非ランダム化検証的試験 (JCOG1208). 第 48 回日本頭頸部癌学会, 2024.
- 8) 中村直樹. 緩和照射における適切なゴール設定と JCOG2211 誕生秘話. 第 57 回京都放射線腫瘍研究会, 2024.
- 9) 伊藤 慶, 中島 祐二郎, 中村 直樹, 伊藤 芳紀, 西尾禎治, 溝脇 尚志. 脊椎 SBRT における輪郭描出のコンプライアンス : JCOG2211 ダミーラン結果. 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会, 2024.
- 10) 中島 祐二郎, 伊藤 慶, 中村 直樹, 伊藤 芳紀, 西尾禎治, 溝脇 尚志. 脊椎 SBRT における線量分布のコンプライアンス : JCOG2211 ダミーラン結果. 日本放射線腫瘍学会第 37 回学術大会, 2024.
- 11) 中村直樹. 有痛性脊椎転移に対する体幹部定位放射線治療. 第 12 回骨転移フォーラム/第 4 回日本骨転移研究会学術集会, 2025.
- 12) Uezono Haruka, Onoe Tsuyoshi, Shikama Naoto, Ono Yuka, Hirata Hidenari, Ito Yoshinori, Yasuda Koichi, Kikuchi Koyo, Imano Nobuki, Nakamura Naoki. Patients' needs for ultra-hypofractionated whole breast radiation therapy for early-stage breast cancer: a multi-institutional questionnaire survey. 第 83 回日本医学放射線学会総会, 2024.
- 13) 内海暢子, 齋藤哲雄, 鹿間直人, 高橋健夫, 原田英幸, 中村直樹, 上野周一, 野津昭文, 白土博樹, 山田和成, 上園玄, 茂松直之. Evaluation of Quality of Life After Radiotherapy for Bone Metastases Assessed Using Real-World Data: A secondary Analysis of a Nation - Wide Multicenter Cohort Study. 第 9 回日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム, 2024.

② 国際学会

- 1) Nakamura Satoaki, Kodaira Takeshi, Machida Ryunosuke, Nakashima Takeo, Yoshinori Ito, Nakamura Naoki, Ishikura Satoshi, Toshiyasu Takashi, Saito Yoshihiro, Takahashi Satoru, Ota Yosuke, Inada Masahiro, Murakami Yuji, Kubo Nobuteru, Sekino Yuta, Fukuda Haruhiko, Nishimura Yasumasa, Mizowaki Takeshi. A single-arm confirmatory trial of IMRT alone for early-stage oropharyngeal cancer: JCOG1208. ESTRO 2024, 2024.
- 2) Arakawa Sayaka, Kawasaki Naruaki, Ishiki Hiroto, Uehara Yuko, Matsumoto Yoshihisa, Kosugi Toshifumi, Sone Miyuki, Nakamura Naoki, Mizushima Akio, Takahashi Takeo, Satomi Eriko. The current practice of consultation and referral when cancer pain is not relieved : nationwide survey. EAPC 2024, 2024.

③ その他

- 1) 中村直樹. 骨転移に対する緩和照射. 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン, 2024.
- 2) 中村直樹. 骨転移に対する放射線治療. 定例研究会, 2024.
- 3) 中村直樹. 緩和的放射線治療の上手な使い方. 第 3 回放射線治療部会 講演会, 2024.
- 4) 中村直樹. 知っておきたい緩和照射のコツ. 支持・緩和医療セミナー, 2024.
- 5) 中村直樹. 乳癌に対する緩和的放射線治療. 第 70 回河田町乳癌研究会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		9	
論 文	原著	2	25
	解説又は総説	1	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	11	2
	国際学会		2
	その他	5	

麻酔学

著書

- 1) 坂本三樹 長谷川潤一. 第2章 周産期麻酔に必要な産科の知識
2. 妊娠中の母児管理
3. 麻酔科医による分娩前評価 周産期麻酔科学 2024; (1):55-56.
- 2) 井上莊一郎. 47. 術後の疼痛管理 最新主要文献とガイドラインでみる
麻酔科学レビュー2024 2024; (1):274-278.
- 3) 伊東祐美. Part3. 診療の補助行為としてのエコー 経鼻胃管の留置確認 (胃瘻も含む) ポケットエコーで看護力アップ
ポイントオブケア看護エコー 2024; (1):98-104.
- 4) 坂本三樹. 鎮静薬の使用法 循環器内科医のための経食道心エコー 基本的な手技から術中・術前の評価までよくわかる
! 治療方針の決定に役立つ実践マニュアル 2024; (1):19-24.
- 5) 井上莊一郎. 患者自己調節鎮痛法; PCA 麻酔科研修ノート 2024; (4):509-511.
- 6) 井上莊一郎. 術後痛ガイドライン 2025; (1):1-160.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 井上莊一郎. [外科修練医必携 これだけは押さえておきたい外科日常診療の基礎] 周術期管理 高齢者に対する術前
術後管理 疼痛コントロール. 外科, 2024;86(5):436-441.
- 2) 清野雄介, 野村岳志. [周術期医療における POCUS(ポイントオブケア超音波)のエビデンスの課題] 心臓血管麻酔におけ
るポイントオブケア超音波. 麻酔, 2024;73(7):466-476.
- 3) 井上莊一郎. 症例ライブラリー IV-PCA: ピットフォールからのリカバリー
IV-PCA での管理を病棟から断られた. LiSA, 2024;31(9):842-845.
- 4) 清野雄介. [新しい心血管治療に対応した周術期管理] 心血管治療後の集中治療. 麻酔, 2024;73(11):784-795.
- 5) 丹羽康則. 手術医療における AI の活用. 臨床麻酔, 2025;49(臨時増刊):423-431.
- 6) 小幡由美, 井上莊一郎, 池森敦子. 周術期腎障害と腎傷害バイオマーカー. 臨床麻酔, 2025;49(臨時増刊):299-311.

② 症例報告

- 1) 浜辺宏介, 平幸輝, 井上莊一郎. 乳腺外科手術を鎮静下硬膜外麻酔で管理した, 在宅酸素療法中患者 2 症例の麻酔管理. 日
本臨床麻酔学会誌, 2025;45(2):120-125.

③ その他

- 1) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病
院の歩み
なぜ勤務犬を導入したの?. オペナーシング, 2024;39(4):397.
- 2) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病
院の歩み なぜ勤務犬を導入したの?. 透析ケア, 2024;30(4):397.
- 3) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病
院の歩み
きみのおかげ! エピソード I ~小児手術編~. オペナーシング, 2024;39(6):605.

- 4) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病院の歩み
きみのおかげ! エピソードⅠ～小児手術編～. 透析ケア, 2024;30(6) : 597.
- 5) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病院の歩み
きみのおかげ! エピソードⅡ
～成人編～. オペナーシング, 2024;39(8) : 807.
- 6) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病院の歩み
きみのおかげ! エピソードⅡ
～成人編～. 透析ケア, 2024;30(8) : 805.
- 7) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病院の歩み
勤務犬が院内で活動するためには. オペナーシング, 2024;39(10) : 1003.
- 8) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病院の歩み
勤務犬が院内で活動するためには. 透析ケア, 2024;30(10) : 1005.
- 9) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病院の歩み
医療現場と勤務犬のこれから. オペナーシング, 2024;39(12) : 1223.
- 10) 天野江里子, 坂本三樹, 竹田志津代. カンパニオ 2024 きみといっしょなら勤務犬のいる病院 聖マリアンナ医科大学病院の歩み
医療現場と勤務犬のこれから. 透析ケア, 2024;30(12) : 1221.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Sato Nobuo, Matsui Kentaro, Arakida Masako, Akaho Rie, Nishimura Katsuji, Nomura Takeshi. Correlations between clinical insomnia and psychophysiological factors in postoperative patients discharged from the ICU: A cross-sectional study. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports, 2025;40(1) : e70081.

② その他

- 1) Inoue Soichiro, Hamabe Kousuke, Nomura Hirokiyo. Evaluating tracheal intubation ergonomics: practitioner experience and laryngoscope type. Anaesthesia, 2025;80(3) : 335-336.

学会発表

① 国内学会

- 1) 坂本三樹. 食道悪性腫瘍手術前にシャーロック 3CG を用いて挿入した PICC が奇静脈に迷入し術中損傷を来した 1 症例. 第 35 回日本臨床モニター学会総会, 2024.
- 2) 坂本三樹. 当院における PICC チームの構築. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 2024.

- 3) 林田牧人, 小波本直也, 本館教子, 坂本三樹, 井上莊一郎. 診療看護師 PICC 認定制度とタスクシフトへの取り組み. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 2024.
- 4) 浜辺宏介, 平幸輝, 井上莊一郎. 医学生を対象とした, 気管挿管操作の訓練による挿管時間の短縮についての検討. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 2024.
- 5) 佐藤暢夫, 松井健太郎, 荒木田真子, 西村勝治, 野村岳志, 井上莊一郎. 術後の集中治療室入室者における退院半年語の不眠・疲労感・急性ストレス反応およびその関連因子. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 2024.
- 6) 井上莊一郎. 術後疼痛管理チームを興し、継続するために麻酔科医は何をするか. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 2024.
- 7) 升森泰, 井上莊一郎. AI を用いた声帯認証ソフトウェア開発研究. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 2024.
- 8) 小幡由美, 清野雄介, 井上莊一郎. バイオマーカーパネル化による経カテーテル的大動脈弁留置術後急性腎障害における診断精度向上の検討. 日本麻酔科学会第 71 回学術集会, 2024.
- 9) 五十嵐義浩, 吉田司, 中島拓郎, 佐藤尚, 佐藤暢夫, 内藤貴基, 津久田順平, 大川修, 吉田徹, 藤谷茂樹. EIT を用いた四つの特定領域における圧容積ループによる人工呼吸器設定の有用性. 第 46 回日本呼吸療法医学会学術集会, 2024.
- 10) 五十嵐義浩, 堀江史奈乃, 大泉昇平, 永井琴子, 中島礼, 佐藤賢治, 佐藤尚, 大川修, 佐藤暢夫, 藤谷茂樹. チーム医療の現状と課題～臨床工学技士の立場から～. 第 46 回日本呼吸療法医学会学術集会, 2024.
- 11) 藤澤美智子, 神谷敏之, 笹沼直樹, 佐藤暢夫, 五十嵐義浩, 戸部一隆, 花岡正志, 三山麻弓, 宮崎博之, 茂呂悦子, 大塚将秀. 呼吸療法の同志と繋がる場所 ～Joyful Board の紹介～. 第 46 回日本呼吸療法医学会学術集会, 2024.
- 12) 佐藤暢夫. ICU における人工呼吸患者の睡眠障害. 第 46 回日本呼吸療法医学会学術集会, 2024.
- 13) 佐藤暢夫. 集中治療室退室後の睡眠障害. 日本睡眠学会第 48 回定期学術集会, 2024.
- 14) 丹羽康則. 術中に麻酔器の人工換気が停止し緊急対応を要した経験. 日本小児麻酔学会第 29 回大会, 2024.
- 15) 土橋知華, 坂本三樹, 井上莊一郎. CRT-D 留置患者に対して同側乳房切除術を行った症例の周術期管理. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 64 回合同学術集会, 2024.
- 16) 吉村悠, 中川雅史, 井上莊一郎. 甲状腺術後出血時の対応ガイドラインの有用性について. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 64 回合同学術集会, 2024.
- 17) 横溝奈穂子, 坂本三樹, 玉城ゆり子, 井上莊一郎. 甲状腺機能亢進症と高度僧帽弁三尖弁閉鎖不全症心不全による肺高血圧症に対し治療方針と管理に難渋した 1 例. 日本心臓血管麻酔学会第 29 回学術大会, 2024.
- 18) 小幡由美, 清野雄介, 横溝奈穂子, 米田翔太, 坂本三樹, 井上莊一郎. 尿中バイオマーカーによる経カテーテル的大動脈弁留置術後 acute kidney disease (AKD) 予測の検討. 日本心臓血管麻酔学会第 29 回学術大会, 2024.
- 19) 大林樹真, 堀江怜央, 小森学, 坂本三樹, 古田繁行. ボールペンのスプリングによる声門異物の一例. 第 382 回日本小児科学会神奈川県地方会 第 66 回小児科分化会, 2024.
- 20) 橋口芽実, 佐藤祐, 小幡由美, 岡野真子, 升森泰, 井上莊一郎. 長期入院経過となった甲状腺クリーゼ患者における甲状腺全摘の周術期管理経験. 日本臨床麻酔学会第 44 回大会, 2024.
- 21) 清野雄介. 心不全患者の非心臓手術の周術期管理. 日本臨床麻酔学会第 44 回大会, 2024.
- 22) 米澤唯, 坂本三樹, 浜辺宏介, 内藤善介, 横塚牧人, 丹羽康則, 井上莊一郎. 軽症血友病 B 患者に対する胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術の周術期管理. 日本臨床麻酔学会第 44 回大会, 2024.
- 23) 井上莊一郎. 術式別の鎮痛法の考え方. 日本臨床麻酔学会第 44 回大会, 2024.
- 24) 中川雅史, 井上莊一郎. 麻酔科専門医研修プログラム選択に必要な情報公開. 日本臨床麻酔学会第 44 回大会, 2024.
- 25) 吉田洋子, 赤尾圭吾, 加賀田元気, 内田夕喜, 山崎真理子, 菊池美雪, 佐藤綾子, 今井直彦, 丹羽康則, 小林俊也. 当院におけるモニターアラームコントロールチーム (以下 MACT) の活動報告

～有害事象の改善策・再発防止策履行状況から見えてきた課題～. 第 19 回医療の質・安全学会学術集会, 2024.

- 26) 佐藤暢夫. 医療の質・安全学会会員の考えるタスクシフトと医療安全～事前アンケート結果報告～. 第 19 回医療の質・安全学会学術集会, 2024.
- 27) 岡本翔, 丹羽康則, 三橋祥二. 止血困難症例に対するチーム戦略における臨床工学技士の役割. 第 46 回日本手術医学会総会, 2024.
- 28) 浜辺宏介, 井上莊一郎, 佐藤暢夫, 中川雅史. 気管挿管関連時間の比較: 熟練者と初心者、Macintosh 直接喉頭鏡とビデオ喉頭鏡 (McGRATH®) における解析. 第 20 回日本医学シミュレーション学会学術集会, 2025.
- 29) 佐藤暢夫, 浜辺宏介, 中川雅史, 藤谷茂樹, 井上莊一郎. 麻酔科と救急科で分けて開催した困難気道管理セミナー (miniDAM セミナー) の満足度調査—アンケート結果に基づく検討—. 第 20 回日本医学シミュレーション学会学術集会, 2025.
- 30) 升森泰. AI 技術を活用した自動気管挿管装置により今まで救えなかった命を救う創薬・医療関連技術. AMED 新技術説明会, 2025.
- 31) 泉遼太, 浜辺宏介, 加藤篤子, 坂本三樹, 井上莊一郎. 血友病 A 患児に対する斜視手術の周術期管理経験. 神奈川麻酔科医会 第 56 回学術集会, 2025.
- 32) 坂本三樹, 前田恵里. PICC の適応とシャーロック 3CG の有用性—聖マリアンナ医科大学病院認定制度とタスクシフトへの取り組み紹介—. 神奈川麻酔科医会 第 56 回学術集会, 2025.
- 33) 矢崎綾女, 坂本三樹, 吉村悠, 横溝奈穂子, 野村浩清, 浜辺宏介, 井上莊一郎. 新生児後鼻孔閉鎖症における気管挿管困難の 1 例. 神奈川麻酔科医会 第 56 回学術集会, 2025.
- 34) 佐藤暢夫. 成人: 成人困難気道に対する備え～当院における現状と課題～. 神奈川麻酔科医会 第 56 回学術集会, 2025.
- 35) 早川依里, 奥田紘隆, 田原康次郎, 中山知沙香, 井上莊一郎. 経皮的カテーテル心筋焼灼術の麻酔導入後に、ロクロニウム投与による Kounis 症候群を発症した 1 例. 神奈川麻酔科医会 第 56 回学術集会, 2025.
- 36) 清野雄介. 集中治療における血行動態モニタリングの統合的活用法—観の目つよく, 見の目よはく—. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 37) 笹森瞳, 佐藤暢夫, 津久田純平, 吉田徹, 藤谷茂樹. 難治性ショックに対してカルシウム拮抗薬 (CCB) トキシドロームからアプローチして救命できた一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 38) 清野雄介, 野村岳志, 井上莊一郎. 平均血圧の線形回帰分析モデルによる低血圧予測における血圧低下速度の影響. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 39) 小森 学, 大林樹真, 古田繁行, 坂本三樹, 川口 敦, 清水直樹. 小児気道チームの取り組み. 第 208 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会神奈川県地方部会学術講演会, 2025.

② 国際学会

- 1) Sato Nobuo. Perioperative Risk in the Elderly and the Post-Intensive Care Syndrome in Japan: Current Status and Issues. ANESTHESIOLOGY 2024, 2024.

③ その他

- 1) 横塚牧人. 血友病関節炎患者の周術期管理～術前準備と術後疼痛管理～. 第 23 回 Haemostasis 研究会, 2024.
- 2) 井上莊一郎. 神経障害性疼痛の治療. わが町健康長寿を考える, 2024.
- 3) 井上莊一郎. 痛みの治療からみた帯状疱疹ワクチンの重要性. シングリックス 帯状疱疹ワクチンセミナー, 2024.
- 4) 升森泰. AI 技術を活用した自動挿管装置の開発事業. Research Studio 2024 Pitch Event, 2024.

- 5) 米田翔太. Acumen Analytics™を用いた血行動態の評価. 周術期循環フォーラム in 神奈川 2024, 2024.
- 6) 坂本三樹. PICC チームの構築と当院における PICC 認定制度. 第 8 回日本 VAD コンソーシアム研究集会 ハンズオンセミナー, 2025.

		和 文	英 文
著 書		6	
論 文	原著		1
	解説又は総説	6	
	症例報告	1	
	その他	10	1
学会発表	国内学会	39	
	国際学会		1
	その他	6	

救急医学

著書

- 1) 町田慎治. 【ホスピタリストのための栄養療法】(Part 3)入院編:急性期からの栄養療法各論 腎不全における栄養療法 急性腎不全から慢性腎臓病,入院中から外来まで“腎保護”と“ADL 保護”の両立へ Hospitalist(ホスピタリスト) 2024;3(11):693-701.
- 2) 藤谷茂樹, 安宅一晃, 内藤貴基, 飯尾純一郎, 中村京太. RRS 運用サポートブック - 実践ですぐに使える運用のコツ - 2024;:1-248.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 山田万里央, 齋藤浩輝. 【ER スタンダード 敗血症-GL やエビデンスをふまえた実臨床でのアクションとは】抗菌薬の選択 初療医としてのセオリー とり(あえず)メロ(ペネム)を越える!. BeyondER, 2024;2(4):564-571.
- 2) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2024;16(2):317-323.
- 3) 永富彰仁, 佐々木信幸. 【ICU のリハビリテーション診療】ICU 人工呼吸器装着患者におけるリハビリテーション診療. Journal of Clinical Rehabilitation, 2024;33(4):335-343.
- 4) 谷井梨美. 【経過を追って考える 輸液の処方・調整のコツ いつやめる?どう調整する?チェックするポイントとタイミングを押さえて、「何となく」の処方を見直そう】(第2章)病態・疾患ごとの輸液の処方・調整・終了 周術期の輸液. レジデントノート, 2024;26(2):312-320.
- 5) 森川大樹. 【ホスピタリストのための栄養療法】(Part 4)外来編:慢性期の栄養療法 外来栄養療法総論 患者の状況や目的に沿って進めていくために. Hospitalist, 2024;11(3):755-769.
- 6) 栗栖美由希, 吉田稔. 【ホスピタリストのための栄養療法】(Part 1)低栄養・低体重を示す病態の評価・治療 低栄養患者の再栄養で注意すべきリフィーディング症候群 リスク評価に基づいた栄養戦略で予防する. Hospitalist, 2024;11(3):616-621.
- 7) 吉田稔. 疾患・高齢化にひそむ, 低栄養に挑む:栄養療法を通して, 一緒に日本を元気にしません. Hospitalist, 2024;11(3):585-590.
- 8) 川口剛史, 藤谷茂樹. 【最新知見とエビデンスで適切なケアを ここが変わった!COVID-19 流行後の呼吸管理 エキスパートがリアルなギモンに応える Q&A 付き】(Part.3)COVID-19 で培った経験をもとに:これからの呼吸管理のギモンを解消!ケアの質を高める Q&A ウィズコロナ時代の COVID-19 患者対応はどのように変化していくでしょうか(先進的な施設の考えかた、リアルな取り組みを知りたいです). みんなの呼吸器 Respica, 2024;22(3):369-374.
- 9) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2024;16(3):489-495.
- 10) 増田博明, 北野夕佳. 【内科医が知っておくべき ICU・ER での薬の使い方】アレルギー アナフィラキシーへの対応. Medicina, 2024;61(10):1716-1719.
- 11) 谷井梨美. 起動件数が増えない. RRS 運用サポートブック - 実践ですぐに使える運用のコツ -, 2024;:187-195.
- 12) 谷井梨美. 運用例 4 聖マリアンナ医科大学病院. RRS 運用サポートブック - 実践ですぐに使える運用のコツ -, 2024;:158-160.
- 13) 谷井梨美. 測定すべきアウトカム指標. RRS 運用サポートブック - 実践ですぐに使える運用のコツ -, 2024;:137-145.
- 14) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2024;16(4):659-665.

- 15) 佐久間絢, 藤本佳久. 【どうする? PCAS】advanced 脳機能モニタリング 電極数が限られた脳波計 ポイントを押さえた
施行で臨床に有用な情報を. INTENSIVIST, 2024;16(4) : 582-584.
- 16) 諸橋優祐, 藤本佳久. 二次性脳損傷を回避する ICU 管理に必要なこと ガイドラインやエビデンスをふまえた管理方法
. INTENSIVIST, 2024;16(4) : 525-526.
- 17) 藤本佳久. DEPARTURE : PCAS プロトコルをどう組み立てるか? その背景にあるものは何か?. INTENSIVIST, 2024;16(4)
: 499-500.
- 18) 田中拓. 【新版 マイナーエマージェンシー いざというとき慌てない!! 針が刺さった、餅がつまった、動物に咬まれた
など慣れない症候に対応するための自分がやるべきこと・専門医へのつなぎ方】(第8章) こんな患者さんが来たら… 家族
がいない!?. レジデントノート, 2024;26(11) : 2107-2111.
- 19) 野村悠. 【新版 マイナーエマージェンシー いざというとき慌てない!! 針が刺さった、餅がつまった、動物に咬まれた
など慣れない症候に対応するための自分がやるべきこと・専門医へのつなぎ方】(第2章) 耳・鼻・口 あごが外れた 顎関
節脱臼. レジデントノート, 2024;26(11) : 1893-1901.
- 20) 宮城朋果, 吉田稔. カンファランスで学ぶ NST 難症例ケーススタディ(第5回) II 度熱傷で入院となり創傷治癒遅滞を呈
した銅・亜鉛欠乏患者に補充方法を工夫した症例. 臨床栄養, 2024;145(5) : 656-660.
- 21) 野村悠. 【輸血のすべて】(Part 3) 特殊な状況での輸血 宗教的理由による輸血拒否 絶対的無輸血か, 相対的無輸血か
まずは施設の方針を決めておく. Hospitalist, 2024;(1) : 176-184.
- 22) 久米敦紀, 津久田純平. 第一線救急医による症例検討セミナー(第133回) はさまれ事案!? そんな装備で大丈夫?. プレホ
スピタル・ケア, 2024;37(6) : 92-97.
- 23) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2025;17(1) : 136-142.
- 24) 谷井梨美, 藤谷茂樹. 集中治療と RapidResponse System. 集中治療医学レビュー, 2025;26 : 306-312.
- 25) 柴橋康平, 菅原誠太郎. 【ER スタンダード 急性腹症-それでも見逃す腹痛のワナ】見逃しがちな血管系の急性腹症 緊
急度の高い疾患をいかに早期認知するか. BeyondER, 2025;2(6) : 878-884.
- 26) 吉田英樹, 藤谷茂樹. 【ポストコロナにおける感染症を取り巻く話題】重症肺炎の研究プラットフォーム REMAP-CAP の目指
すところ. 呼吸器内科, 2025;47(3) : 242-247.
- 27) 森川大樹, 藤谷茂樹. 【離島・へき地における遠隔医療(続編)】離島・へき地を遠隔医療でどう支えるか 実践編”D to
D”. 地域医学, 2025;39(3) : 311-318.
- 28) 藤本佳久, 則末泰博. IV 中枢神経 4 くも膜下出血と遅発性脳虚血の予防と治療. 日本集中治療医学会 専門医テキスト
第4版, 2025; : 250-256.

② 症例報告

- 1) 辻大河, 吉田稔, 内倉淑男, 本多英喜, 岩澤孝昌, 吉田徹, 藤谷茂樹. 迅速 β ヒドロキシ酪酸測定により敗血症を契機と
した飢餓性ケトアシドーシスを診断治療し得た 1 例. 日本救急医学会雑誌, 2024;35(6) : 210-215.
- 2) 尾崎さなみ, 佐藤如雄, 山家充起, 金光陽子, 石橋祐記, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 原田智雄, 明石嘉浩. 劇症型心筋炎によ
る難治性両心不全に対し長期的に両心補助管理を行った 1 例. Therapeutic Research, 2024;45(7) : 429-433.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Nagatomi A, Wakatake H, Masui Y, Fujitani S. Prognostic factors in mobility disability among elderly patients
in the emergency department: A single-center retrospective study. Acute Medicine & Surgery, 2024;11(1) :
DOI-10.1002/ams2.951..

- 2) Takita M, Kawakami D, Yoshida T, Tsukuda J, Fujitani S. Comparison of the Incidence of Post-intensive Care Syndrome (PICS) Between Elderly and Non-elderly Patients: A Subgroup Analysis of the Japan-PICS Study. *Cureus*, 2024;16(5) : DOI-10.7759/cureus.60478..
- 3) Numata K, Tanaka T, Matsumoto J. A Case Study of Non-specialist Disease Management Using Teladoc Health Support: A Case Report. *Cureus*, 2024;16(5) : DOI-10.7759/cureus.60401..
- 4) Sasaki M, Sato H, Uemura Y, Mikami A, Ichihara N, Fujitani S, Kondo M, Doi Y, Morino E, Tokita D, Ohmagari N, Sugiura W, Hirakawa A. How Much More Efficient Are Adaptive Platform Trials Than Multiple Stand-Alone Trials? A Comprehensive Simulation Study for Streamlining Drug Development During a Pandemic. *Clinical Pharmacology and Therapeutics*, 2024;115(6) : 1372-1382.
- 5) Kurita T, Oami T, Tochigi Y, Tomita K, Naito T, Atagi K, Fujitani S, Nakada T; IHER-J collaborators. Machine learning algorithm for predicting 30-day mortality in patients receiving rapid response system activation: A retrospective nationwide cohort study. *Heliyon*, 2024;10(11) : DOI-10.1016/j.heliyon.2024.e32655..
- 6) Tanii R, Hayashi K, Naito T, Zoie Shui-Yee Wong, Yoshida T, Hayashi K, Fujitani S. Impact of dynamic parameter of trends in vital signs on the prediction of serious events in hospitalized patients -a retrospective observational study. *Resuscitation Plus*, 2024;18 : DOI-10.1016/j.resplu.2024.100628..
- 7) Kataoka J, Uchimido R, Santanda T, Nabeshima T, Fujimoto Y, Yasuhiro Norisue Y, Fujitani S. The Urine Output Response to Low-Dose Diuretic Challenge Predicts Tolerance to Negative Fluid Balance in Mechanically Ventilated, Critically Ill Patients. *Cureus*, 2024;16(7) : DOI-10.7759/cureus.65824..
- 8) Ishii J, Nishikimi M, De Bus L, De Waele J, Takaba A, Kuriyama A, Kobayashi A, Tanaka C, Hashi H, Hashimoto H, Nashiki H, Shibata M, Kanamoto M, Inoue M, Hashimoto S, Katayama S, Fujiwara S, Kameda S, Shindo S, Komuro T, Kawagishi T, Kawano Y, Fujita Y, Kida Y, Hara Y, Yoshida H, Fujitani S, Shime N; DIANA study Japanese group. No improvement in mortality among critically ill patients with carbapenems as initial empirical therapy and more detection of multi-drug resistant pathogens associated with longer use: a post hoc analysis of a prospective cohort study. *Microbiology Spectrum*, 2024;12(7) : DOI-10.1128/spectrum.00342-24..
- 9) Kashiwagi S, Kanda N, Yoshida M, Wakimoto Y, Ohbe H, Nakamura K. Effects of early enteral nutrition on persistent inflammation, immunosuppression, and catabolism syndrome in critically ill patients: A claims database study using a propensity score analysis. *Clinical Nutrition*, 2024;43(8) : 1872-1879.
- 10) Morikawa D, Fujitani S, Shirahige T, Hagiwara Y, Morisawa K, Yoshida T. Complex Interplay of COVID-19 ARDS with Guillain-Barré Syndrome and Cerebral Infarction: A Case Study. *The American Journal of Case Reports*, 2024;25 : DOI-10.12659/AJCR.944390..
- 11) Yoshida M, Kanda N, Kashiwagi S, Wakimoto Y, Ohbe H, Nakamura K. Relationship between very early enteral nutrition and persistent inflammation, immunosuppression, and catabolism syndrome in cardiovascular surgery patients: a propensity score-matched study. *The American Journal of Clinical Nutrition*, 2024;120(3) : 610-618.
- 12) Yoshida T, Yoshida M, Masui Y, Naito T, Tsukuda J, Morisawa K, Fujitani S. Effectiveness of Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation for Non-Shockable Out-of-Hospital Cardiac Arrest: An Analysis From the SOS-KANTO 2017 Study. *Cureus*, 2024;16(9) : DOI-10.7759/cureus.69305..

- 13) Yoshida M, Suzuki M, Wakatake H, Kurisu M, Saito H, Ohshima Y, Kaneko M, Fujiwara K, Masui Y, Hayashi K, Fujitani S. Association between Poor Outcomes and Risk of Refeeding Syndrome among Patients Urgently Admitted to the High Dependency Unit: A Single-Center Cohort Study in Japan. *Nutrients*, 2024;16(19) : DOI-10.3390/nu16193287..
- 14) Kawabata K, Nakamura K, Kondo K, Oka N, Ishii A, Idei M, Yamakawa K, Ie K, Yamamoto Y, Nishi K, Hirahata K, Kikuchi R, Yoshida H, Saito H, Goto T, Fujitani S. Efficacy of Donepezil for Fatigue and Psychological Symptoms in Post-COVID-19 Condition: Study Protocol for a Multicenter Randomized, Placebo-controlled, Double-blind Trial. *Annals of Clinical Epidemiology*, 2024;6(4) : 87-96.
- 15) Miyake A, Endo K, Hayashi K, Hirai T, Hara Y, Takano K, Horikawa T, Yoshino K, Sakai M, Kitamura K, Ito S, Imai N, Fujitani S, Suzuki T. Role of aldosterone in various target organ damage in patients with hypertensive emergency: a cross-sectional study. *BMC Nephrology*, 2024;25(1) : DOI-10.1186/s12882-024-03769-7..
- 16) Ohbe H, Yoshida M, Okada K, Inoue T, Yamada K, Nakamura K, Yamamoto R, Nozaki A, Higashibeppu N, Kotani J. Effects of high-fat, low-carbohydrate enteral nutrition in critically ill patients: A systematic review with meta-analysis. *Clinical Nutrition*, 2024;43(10) : 2399-2406.
- 17) Ehara J, Masuda Y, Hayashi K, Norisue Y, Fujitani S. Efficacy of Early Warning Scores as the Prediction Tool for Detecting Patients With Acute Deterioration in a High Dependent Unit. *Cureus*, 2024;16(10) : DOI-10.7759/cureus.71971..
- 18) Wakatake H, Hayashi K, Kurisu M, Yoshida M, Tsutsumi K, Saito H, Nomura Y, Yoshida T, Kitano Y, Masui Y, Fujitani S. Use of an eligibility checklist on arrival of emergency room as a registry system for corneal donation -A 9- year retrospective cohort study. *Acute Medicine & Surgery*, 2024;11(1) : DOI-10.1002/ams2.70014..
- 19) Nakanishi N, Abe Y, Matsuo M, Tampo A, Yamada K, Hatakeyama J, Yoshida M, Yamamoto R, Higashibeppu N, Nakamura K, Kotani J. Effect of intravenous thiamine administration on critically ill patients: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. *Clinical Nutrition*, 2024;43(11) : DOI-10.1016/j.clnu.2024.09.002..
- 20) Saito H, Miike S, Ohno T, Anzai M, Kasai F, Hosoyama A, Takakura T, Tanaka Y, Fujitani S. Transmission of MRSA, ESBL E. coli, and C. difficile within a tertiary care hospital and across surrounding facilities in Japan: a molecular epidemiological study with the PCR-based Open-reading frame typing. *Infection Control & Hospital Epidemiology*, 2024;46(1) : DOI-10.1017/ice.2024.178..
- 21) Numata K, Fujitani S, Funakoshi H, Yoshida M, Nomura Y, Tanii R, Takemura N, Jason Bowman, Joshua R Lakin, Higuchi M, Shan W Liu, Maura Kennedy, James A Tulsy, Thanh H Neville, Ouchi K. Differences in code status practice patterns among emergency clinicians working in Japan and the United States. *Patient Education and Counseling*, 2024;128 : DOI-10.1016/j.pec.2024.108368..
- 22) Saito H. Sepsis in Global Health: Current global strategies to fight against sepsis. *Acute Medicine & Surgery*, 2025;12(1) : DOI-10.1002/ams2.70045..
- 23) Numata K, Abigail E Jones, Melissa A Meeker, Maura Kennedy, Emily Hayden, Ouchi K, Kalpana Shankar, Shan W Liu. An Emergency Department Virtual Observation Unit Fall Prevention Program: A Pilot Acceptability Study. *Cureus*, 2025;17(2) : DOI-10.7759/cureus.78624..

- 24) Hatakeyama J, Nakamura K, Aso S, Kawauchi A, Fujitani S, Oshima T, Kato H, Ota K, Kamiyo H, Asahi T, Muto Y, Hori M, Iba A, Hosozawa M, Iso H. Effects of Long COVID in Patients with Severe Coronavirus Disease 2019 on Long-Term Functional Impairments: A Post Hoc Analysis Focusing on Patients Admitted to the ICU in the COVID-19 Recovery Study II. *Healthcare*, 2025;13(4) : DOI-10.3390/healthcare13040394. .
- 25) Muto Y, Hosozawa M, Hori , Iba A, Maruyama S, Morioka S, Teruya K, Nishida T, Harada T, Yoshida H, Miike S, Kawauchi A, Kato H, Hatakeyama J, Fujitani S, Asahi T, Nakamura K, Sato Y, Oshima T, Nagashima F, Ota K, Fuchigami T, Nosaka N, Kamiyo H, Hattori T, Taniguchi H, Iso H. Post COVID-19 condition in hospitalized survivors after one year of infection during the Alpha- and Delta-variant dominant waves in Japan: COVID-19 Recovery Study II. *Journal of Epidemiology*, 2025; : DOI-10.2188/jea.JE20240179.
- 26) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Ishibashi Yuki, Kawahata Kimito, Kunishima Hiroyuki, Tsuchida Tomoya, Takemura Hiromu, Minoura Ayu, Takita Mumon, Fujitani Shigeki. 90-Day outcomes in patients with severe COVID-19 pneumonia treated with invasive mechanical ventilation. *Journal of Infection Chemotherapy*, 2025;31(2) : 102529.
- 27) Kano K, Yamamoto R, Yoshida M, Sato T, Nishita Y, Ito J, Nagatomo K, Ohbe H, Takahashi K, Kaku M, Sakuramoto H, Nakanishi N, Inoue K, Hatakeyama J, Kasuya H, Hayashi M, Tsunemitsu T, Tatsumi H, Higashibeppu N, Nakamura K. Strategies to Maximize the Benefits of Evidence-Based Enteral Nutrition: A Narrative Review. *Nutrients*, 2025;17(5) : DOI-10.3390/nut17040705. .
- 28) Suganuma S, Kanda N, Yoshida , Miyagi T, Nakamura K. Use of C-Reactive Protein in Global Leadership Initiative on Malnutrition (GLIM) Etiologic Criteria for Critically Ill Patients: A Retrospective Claims Database Study. *Nutrients*, 2025;17(4) : DOI-10.3390/nut17040705. .
- 29) Kato H, Ichihara N, Saito H, Fujitani S, Ota K, Takahashi Y, Harada T, Hattori T, Komeya M, Hosozawa M, Muto Y, Hori M, Iba A, Iso H, Iso H, COVID-19 Recovery Study II Group. Prevalence of erectile dysfunction as long-COVID symptom in hospitalized Japanese patients. *Scientific Reports*, 2025;15(1) : DOI-10.1038/s41598-025-88904-6. .
- 30) Jindai K, Saito H, Morino E, Hase R, Yamato M, Sonoda M, TShibata T, Iiyam T. Hospital Preparedness for Conducting Clinical Research During a Pandemic: A Nationwide Survey Among Designated Medical Institutions for Infectious Diseases. *Health Security*, 2025;23(2) : 82-93.
- 31) Nakamura K, Kondo K, Oka N, Yamakawa K, Kenya Ie, Goto T, Fujitani S. Donepezil for Fatigue and Psychological Symptoms in Post-COVID-19 Condition: A Randomized Clinical Trial. *JAMA Network Open*, 2025;8(3) : DOI-10.1001/jamanetworkopen.2025.0728.
- 32) Nakamura K, Yamamoto R, Higashibeppu N, Yoshida M, Ichimaru S, Takeuchi M, Kotani J. The Japanese Critical Care Nutrition Guideline 2024. *Journal of Intensive Care*, 2025;13(1) : DOI-10.1186/s40560-025-00785-z. .

② 総説又は症例解説

- 1) Kida Keisuke, Toki Shinji, Kanamitsu Yoko, Okuno Taishi. Hospice in heart failure is visible, yet still out of reach for many. *Journal of Cardiac Failure*, 2024;30(6) : 800-802.

③ 症例報告

- 1) Nakazono K, Saito H, Ohkubo A, Onodera H, Wakatake H, Katsuta Y, Tada J, Kunishima H, Matsuzaki T. A higher area under the concentration-time curve/minimum inhibitory concentration target as a potential prognostic factor for vancomycin treatment of methicillin-resistant Staphylococcus aureus meningitis: A case report. IDCases, 2024;37 : DOI-10.1016/j.idcr.2024.e02035..

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎平泰彦, 鹿志村剛, 細山明子, 小島宏司. 一酸化炭素(CO)中毒の新しい治療法について. 第38回日本Shock学会学術集会, 2024.
- 2) 藤谷茂樹. 敗血症治療最前線 敗血症の最前線. 第38回日本Shock学会学術集会, 2024.
- 3) 増田博明, 昆祐理, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 当院におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)を利用した病院前診療での情報共有. 第38回日本外傷学会総会・学術集会, 2024.
- 4) 昆祐理, 松本純一, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 肝被膜下損傷4症例の経過から治療戦略を考える. 第38回日本外傷学会総会・学術集会, 2024.
- 5) 昆祐理, 増田博明, 高倉永治, 松本純一, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 重症外傷患者受け入れに必要な体制づくりと各施設の工夫 Dual room Hybrid ER を用いた多数傷病者訓練. 第38回日本外傷学会総会・学術集会, 2024.
- 6) 藤井修一. SAHの周術期管理の標準化に向けて. Spasm Forum in KANAGAWA, 2024.
- 7) 有山虎男, 昆祐理, 松本純一, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 画像所見から受傷メカニズムがわかるシートベルト損傷の1例. 第38回日本外傷学会総会・学術集会, 2024.
- 8) ◎平泰彦, 森澤健一郎, 津久田純平. 心肺蘇生の胸骨圧迫による脳血流モニターとしての近赤外分光法の有用性. 第35回日本臨床モニター学会, 2024.
- 9) 森澤健一郎. 汗中の乳酸測定による持続的な重症度モニタリングの試み. 第35回日本臨床モニター学会, 2024.
- 10) 土手季, 和田慎司, 宮川久弥恵, 塩原拓実, 縄田晋太郎, 橋本一樹, 濱口真吾, 酒井寛貴, 松本純一, 三村秀文. 特発性血気胸による出血性ショックに対してTAEを施行した1例. 第53回日本IVR学会総会, 2024.
- 11) 昆祐理. 救急医がIVR医に求めていること. 第53回日本IVR学会総会, 2024.
- 12) 曹聖鉉, 久保木想太, 藤川あつ子, 岡村隆徳, 松本純一, 三村秀文. 小児脾損傷における超音波検査の臨床的有用性と治療必要例の特徴評価. 日本超音波医学会第98回学術集会, 2024.
- 13) 倉光真登香, 古田繁行, 大山慧, 田中邦英, 大林樹真, 川口拓哉, 西谷友里, 森田康太郎, 藤谷茂樹. 小児外科領域における診療看護師(NP)の役割. 第61回日本小児外科学会学術集会, 2024.
- 14) 吉田稔, 神田直樹, 柏木静, 大邊寛幸, 中村謙介. 心臓血管外科術後の超早期経腸栄養と免疫学的後遺症との関連: Propensity score matched study. 日本栄養治療学会首都圏支部 第15回支部学術集会, 2024.
- 15) 藤谷茂樹. Rapid Response System(RRS)の呼吸観察の重要性について. 日本麻酔科学会第71回学術集会, 2024.
- 16) 金澤実, 高橋秀明, 見原雄貴, 得平卓也, 吉田良仁, 黒木優一郎, 松本伸行, 立石敬介. 胃静脈瘤に対するバルーン下逆行性経静脈的塞栓術(BRTO)が肝機能に及ぼす影響. 第60回日本肝臓学会総会, 2024.
- 17) 藤谷茂樹. 急性期病棟におけるRRSの有効活用について. 日本集中治療医学会第8回中国・四国支部学術集会, 2024.
- 18) 上村恵理. 若手救急医が見据える災害医療の未来. 第28回日本救急医学会九州地方会, 2024.
- 19) 上村恵理, 村橋志門, 上木智博, 太田黒崇伸, 泉野浩生, 猪熊孝実, 田島吾郎, 山下和範, 田崎修. 災害亜急性期には支援者と受援者間の現場・本部レベルでの密な連携が重要である. 第28回日本救急医学会九州地方会, 2024.

- 20) 永富彰仁, 山徳雅人, 佐々木信幸. 気管切開症例の院内転帰の検討: 単施設後方視評価. 第 61 回日本リハビリテーション医学学会学術集会, 2024.
- 21) 吉田稔. Refeeding 症候群の予防と治療 Uptodate. ACP(米国内科学会)日本支部年次総会・講演会 2024, 2024.
- 22) 沼田賢治. 鼻血(Epilexis) いざ!という時のピンチを切り抜ける方法 ハンズオンセミナー. ACP(米国内科学会)日本支部年次総会・講演会 2024, 2024.
- 23) 松本純一. Was blind, but now I see: 救急画像診断における見逃しを避けるコツ. ACP(米国内科学会)日本支部年次総会・講演会 2024, 2024.
- 24) 北野夕佳, 滝沢美代子. Work Life Balance しゃべり場～仕事もしたい、妊娠出産子育てどうする?! ざっくばらんに情報交換しましょう! 男女とも歓迎. ACP(米国内科学会)日本支部年次総会・講演会 2024, 2024.
- 25) 田北無門, 吉田徹, 森川大樹, 藤谷茂樹. ECMO 撤退の決断に「画像検査」は有用か. 第 46 回日本呼吸療法医学会学術集会, 2024.
- 26) 天野志保, 西山千尋, 江崎麻衣子, 福田俊輔, 竹本聖, 茂見瞭, 梶野超生, 早川晶太, 湯口賢, 諸石耕介, 立木規与秀, 金城昌志, 藤本佳久, 西岡歩美, 右田和寛, 志手優仁, 越智真一, 八木秀男, 安宅一晃, 中平敦士. 免疫チェックポイント阻害薬投与2ヵ月後に発症したサイトカイン放出症候群に対しステロイドパルス療法と IL-6 阻害薬が奏功した1例. 日本集中治療医学会第8回関西支部学術集会, 2024.
- 27) 持田麻矢, 津田泰伸, 齊藤奈穂, 神保大士, 平川智子, 小原秀樹, 佐藤可奈子, 勝亦博基, 藤谷茂樹. RRS 日本スタイルを確立する-RRT, CCOT の有効な形を提案する RRS 成功のための工夫. 第 27 回 日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 28) 谷井梨美, 藤谷茂樹. RRS 日本スタイルを確立する-RRT, CCOT の有効な形を提案する RRS における世界の動向. 第 27 回 日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 29) 井上敦人, 中島拓郎, 柴橋康平, 山田 万里央, 津久田純平, 藤谷茂樹. 再挿管リスクが高い患者において抜管時の Asymmetric HFNC(高流量鼻カニューラ酸素療法) が効果的であった1例. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 30) 五十嵐義浩, 中島拓郎, 津久田純平, 大川 修, 吉田徹, 藤谷茂樹. EIT による肺局所評価と人工呼吸器設定が有用であった1例. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 31) 内藤貴基. Rapid response system を成功させるコツ 医師の立場から. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 32) 吉田稔. 重症患者における栄養療法と電解質・微量元素. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 33) 吉田徹, 木村哲也, 内藤貴基, 森川大樹, 谷井梨美, 津久田純平, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 24-6 ルールを用いた聖マリアンナ modified early warning score 算出・全病棟一覧表
示システムの有用性および汎用. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 34) 櫻井千浪, 谷井梨美, 内藤貴基, 藤谷茂樹. 早期警告スコアによる Rapid Response Team 活動により早期に介入できた院内発症敗血症症例. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 35) 森川大樹, 津久田純平, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 2 度の遠隔指導による迅速なデブリードマンとその後の創部管理が出来たフルニエ壊疽の症例. 日本集中治療医学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 36) 島さほ, 川口敦, 藤谷茂樹. 小児 ICU における遠隔診療モバイルカートを用いた遠隔診療と教育. 日本集中治療学会第8回関東甲信越支部学術集会, 2024.
- 37) 藤本佳久. ニューロモニタリングから脳神経生理を読み解く. 第 36 回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 上智大学生命倫理研究所共催シンポジウム, 2024.

- 38) 藤本佳久. 遠隔脳波判読システムを用いた心停止関連の脳波判読. 第36回日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 上智大学生命倫理研究所共催シンポジウム, 2024.
- 39) 櫻井千浪. Critical care outreach teamによる、Rapid response system 起動の回避について. 第22回 日本臨床医学リスクマネジメント学会・学術集会, 2024.
- 40) 藤谷茂樹. 敗血症におけるプロカルシトニン (PCT) の活用. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会, 2024.
- 41) 井手上龍児, 藤谷茂樹. 明日につなぐ!診療看護師版 Extensivist の実際と展望 日本版 NP である診療看護師 (NP) は Extensivist として医療のスキマにどのようにコミットすべきか. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会, 2024.
- 42) 河村惟, 山徳雅人, 永富彰仁, 手計順, 佐々木信幸. 反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) が著効した認知機能低下を伴う Long-COVID の1例. 第81回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 2024.
- 43) 中村晴美, 長屋文子, 藤井修一, 藤谷茂樹, 縄田寛. 地元創生の第一歩〜地域格差・施設格差をなくすには〜 ICTを活用した持続性可能な支援体制を考える. 第60回日本移植学会総会, 2024.
- 44) 藤井修一. 遠隔医療を用いた脳死判定・臓器提供支援〜知識と技術の共有〜. 第60回日本移植学会総会, 2024.
- 45) 藤井修一, 松田有香, 佐久美哲也, 中村晴美, 藤谷茂樹, 縄田寛. 循環補助用心内留置型ポンプカテーテル (Impella) 挿入中に脳波検査を行い、脳電氣的無活動 (ECI) と判定した1例. 第60回日本移植学会総会, 2024.
- 46) 藤谷茂樹, 中村晴美, 藤井修一, 縄田寛. 臓器提供支援事業の現状と課題 遠隔診療システムを用いた脳死下臓器提供施設連携体制事業の取り組み. 第60回日本移植学会総会, 2024.
- 47) 西澤一, 小泉哲, 塚本芳嗣, 佐々木大祐, 昆祐理, 松本純一, 藤谷茂樹, 大坪毅人. Hybrid ER で蘇生的開腹止血を行った後にダメージコントロール手術と二期的手術を行い救命しえた腸間膜損傷の1例. 第16回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2024.
- 48) 有福厚孝, 小泉哲, 樋渡正樹, 杵渕聡志, 駒ヶ根正英, 松本純一, 大坪毅人. 心臓弁膜症手術時に挿入・留置された脱血用カテーテルにより肝穿孔を生じた1例. 第16回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2024.
- 49) 川口剛史, 津久田純平, 内藤貴基, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 経験の浅い救急医を対象とした重症対応の机上シミュレーショントレーニング. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 50) 北野夕佳, 川口剛史, 吉田英樹, 若竹春明, 榊井良裕, 藤谷茂樹. 救急医のキャリアパス: 臨床教育者 Clinical Educator という選択. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 51) 吉田徹, 田北無門, 前田貴央, 柴橋康平, 山田万里央, 昆祐理, 松本純一, 内藤貴基, 津久田純平, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. ECMO カニューレ管理における出血・感染予防に関する試み. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 52) 木庭茂, 斎藤浩輝, 一原直昭, 藤谷茂樹. 重症市中肺炎に対するステロイド投与の有効性についてのランダム化比較試験: REMAP-CAP. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 53) 北條愛由美, 吉田英樹, 榊井良裕, 北野夕佳, 吉田稔, 堀川武宏, 三池慧, 田原康次郎, 栗栖美由希, 藤谷茂樹. 典型的症状に乏しい経過からジスチグミンによるコリン作動性クリーゼを発症した一例. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 54) 藤井修一, 中村晴美, 縄田寛, 藤谷茂樹. 遠隔支援を用いた臓器提供施設連携体制事業の取り組み. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 55) 吉田稔. 重症患者・緊急入院した患者における refeeding 症候群のリスク評価とマネジメント. 第52回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.

- 56) 藤谷茂樹. 院内急変対応 3 層構造を利用した EWS ダッシュボードの運用について. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 57) 藤本佳久. Multimodal neuromonitoring としての頭部画像. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 58) 野村悠, 平間千絵, 高松由佳, 田中拓, 吉田徹, 藤谷茂樹. 顎関節脱臼における口腔外整復法の検証. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 59) 加藤大明, 横溝真央人, 内倉淑男, 神尾学, 本多英喜. 大量の気道内出血に対して V-VECMO 下での肺葉切除術が奏功した末梢型肺動脈瘤破裂の一例 -症例報告-. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 60) 藤谷茂樹, 吉田英樹, 阿部浩幸. 重症部門システムから生成 AI を用いたサマリ作成. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 61) 吉田徹, 内藤貴基, 森川大樹, 谷井梨美, 津久田純平, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. AI を使用した ICU 重症ダッシュボードシステム・Visensia score index®による ICU 在室期間・死亡予測. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 62) 北野夕佳, 菅原誠太郎, 吉田英樹, 内藤貴基, 津久田純平, 田中拓, 榊井良裕, 藤谷茂樹. 教育・リクルート・研究・臨床・マネジメント どの分野も同等に respect する心理的安全性. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 63) 飯田康, 宮本恭兵, 斎藤浩輝, 一原直昭, 藤谷茂樹. 抗インフルエンザ薬の有効性を評価する国際臨床研究の国内導入への取り組み. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 64) 井上哲也, 山田万里央, 瀬川翔, 北井勇也, 竹村成秀, 光定誠. 下腿打撲、皮下血腫によりコンパートメント症候群類似の病態に陥り減張切開を必要とした膠原病関連血管炎の 1 例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 65) 内藤貴基. エビデンス発信に向けたレジストリの活用. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 66) 藤谷茂樹. 救急現場で困っている血小板減少. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 67) 関勝哉, 森川大樹, 昆祐里, 吉田徹, 松本純一, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 腹部刺創による出血性ショックに対して Hybrid ER System で REBOA 併用下に Damage Control Surgery を行った 1 例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 68) 太原晟, 谷井梨美, 津久田純平, 内藤貴基, 吉田徹, 藤谷茂樹. 治療に難渋したアルコール多飲者の重症低ナトリウム血症の一例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 69) 山田万里央, 井上哲也, 藤谷茂樹. 総蛋白高値の採血結果から、内科外来でのシェーグレン症候群の診断までつなぐことができた 1 例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 70) 吉田徹, 内藤貴基, 森川大樹, 谷井梨美, 津久田純平, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 病床統合と重症ダッシュボードシステムによる集中治療センターの効率的運用. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 71) 安宅一見, 中村京太, 藤谷茂樹. RRS に関する最新のエビデンスー日本集中治療医学会 RRS 運用指針と SCCM のガイドライン. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 72) 末綱隼士, 菅原誠太郎, 藤谷茂樹, 吉田徹, 森澤健一郎, 鷹尾直誠, 櫻井謙三, 山野嘉久. 意識障害を認めず成人で発症した可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎脳症(MERS)の一例. 第 52 回日本救急医学会総会・学術集会, 2024.
- 73) 清野奈々恵, 内田将司, 伊藤英道, 本館敦子, 藤谷茂樹, 村田英俊. 急性虚血性脳卒中診療における診療看護師 (NP) の時間短縮効果. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 83 回学術集会, 2024.
- 74) 吉田英樹. 救急・集中治療領域で抗菌薬を適正使用するために何が必要なのか. 第 71 回日本化学療法学会東日本支部総会・第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 合同学会, 2024.
- 75) 金澤実, 立石敬介, 高橋秀明. 肝臓・消化器領域における新興・再興感染症 当院における過去 27 年間の A 型肝炎症例の疫学的検討. JDDW2024, 2024.
- 76) 森川大樹, 津久田純平, 藤谷茂樹. モバイルデバイスを用いた遠隔支援システム 地域市中病院への支援 (D-D with P or

D-NP). 第 28 回日本遠隔医療学会学術大会, 2024.

- 77) 小波本直也, 藤谷茂樹. 救急・集中治療領域における看護師特定行為とウェアラブルデバイスの活用. 第 66 回神奈川医学会総会・学術大会, 2024.
- 78) 木口めい, 安藤大吾, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 病院救急救命士に求められるスキルとその教育法 現場における実践力の向上. 第 66 回神奈川医学会総会・学術大会, 2024.
- 79) 山田万里央. 神奈川県内多大学連携を活かした救急医育成の新たな試み. 第 66 回神奈川医学会総会・学術大会, 2024.
- 80) 藤原邦康, 若竹春明, 吉田稔, 田上ひとみ, 大嶋佑紀, 川端千壽, 金子まゆみ, 川畑亜加里, 鈴木雅子, 栗栖美由希, 榊井良裕. 救命救急センターに緊急入院した患者における Refeeding 症候群(RFS) リスクと VitB1 の関係 単施設観察研究. 第 28 回日本病態栄養学会年次学術集会, 2025.
- 81) 吉田徹, 田北無門, 藤谷茂樹. 重症患者の感染症管理 (ECMO/循環補助用ポンプカテーテル) ～大口径カニューレの出血・感染予防に関する試み. 第 35 回日本心肺補助学会学術集会, 2025.
- 82) 井上遼大, 井上敦人, 津久田純平, 吉田徹, 藤谷茂樹. マクロライド耐性マイコプラズマ肺炎に伴う重症急性呼吸窮迫症候群の 2 症例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 83) 神田直樹, 吉田稔, 柏木静, 高野隼, 大邊寛幸, 中村謙介. Major surgery 術後の急性腎障害と周術期におけるアミノ酸輸液一大規模データベースを用いた記述疫学研究. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 84) 本郷葉子, 吉田英樹, 津久田純平, 内藤貴基, 吉田徹, 北野夕佳, 阿部浩幸, 北條愛由美. ICU 患者に対する 72 時間以上の経験的広域抗菌薬投与が多剤耐性菌発生に与える影響を評価した後ろ向き観察. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 85) 吉田稔, 仮屋茜, 刘大漫, 上田匠哲, 日高佑紀, 佐野太一, 内倉淑男, 安達晃一, 岩澤孝昌, 布宮伸. 急性期の至適エネルギー投与量を読み解く 重症患者の栄養療法ガイドラインに準拠したプロトコルの実践. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 86) 山澤隼, 渡部弥生, 清野奈々恵, 小船千尋, 本館教子, 内藤貴基, 谷井梨美, 藤谷茂樹. 病棟スタッフと MET の連携による防ぎえた院内心停止の低減への取り組み. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 87) 山田万里央, 松本純一, 藤谷茂樹. 動態 X 線画像の新時代: pDCR を用いた肺動態診断の挑戦と可能性. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 88) 清野奈々恵, 渡部弥生, 谷井梨美, 内藤貴基, 吉田徹, 本館教子, 藤谷茂樹. 診療看護師 (NP) による Rapid Response Team ラウンドの有効性の検討. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 89) 中島拓郎, 津久田純平, 井上敦人, 藤谷茂樹. 化学療法後に複数の合併症を呈した急性骨髄性白血病の患者に対して VV-ECMO を行った一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 90) 柴橋康平, 藤谷茂樹, 井上敦人, 山田万里央, 中島拓郎, 田北無門, 津久田純平, 吉田徹. プロカルシトニン値の解釈に注意が必要であった薬疹を合併した蜂窩織炎の一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 91) 山本有人, 吉田稔. 栄養状態を考慮しリハビリテーションしたことで自宅退院した短腸症候群の一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 92) 早崎夏菜, 石川淳哉, 田北無門, 箕浦安祐, 井上遼大, 三池慧, 榊井良裕, 吉田徹, 藤谷茂樹. 練炭による ARDS の 1 例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 93) 阿部浩幸, 吉田英樹, 藤谷茂樹. 合理的な遠隔 ICU 運営を実現する次世代重症患者管理システムの実践 チームメンバーとしての診療看護師. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.

- 94) 堤健. 集中治療領域における診療看護師(NP)と特定行為研修修了看護師の協働～ICU 内外での活動を通して見えてきたもの～. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 95) 堀川武宏, 川口剛史, 早崎夏菜, 下野谷聡, 吉田英樹, 北野夕佳, 榊井良裕, 吉田徹, 藤谷茂樹. 向精神薬による急性薬物中毒後の喉頭浮腫に、緊急輪状甲状間膜切開を要した一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 96) 笹森暲, 佐藤暢夫, 津久田純平, 吉田徹, 藤谷茂樹. 難治性ショックに対してカルシウム拮抗薬 (CCB) トキシドローームからアプローチして救命できた一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 97) 若竹春明, 堀川武宏, 北野夕佳, 榊井良裕. 1 ヶ月半におよぶ高体温と体温管理に難渋した悪性症候群の 1 例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 98) 谷井梨美. RRS(Rapid Response Systems)に関する最新の知見. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 99) 堤健. 診療看護師とは何なのか～特定行為研修修了者との比較～. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 100) 内藤貴基. “新時代”における集中治療専門薬剤師について考える. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 101) 小船千尋, 内藤貴基, 渡部弥生, 清野奈々恵, 吉田徹, 谷井梨美, 本館教子, 藤谷茂樹. 早期警告スコア (VSI) を活用した RRT 回診が各診療科の RRS および Code Blue 起動率に与える影響. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 102) 濱田悠佑, 五十嵐義浩, 土田善之, 大川修, 富永直人, 吉田徹, 藤谷茂樹. 当院での集中治療における CE の関わり方の変貌. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 103) 藤谷茂樹. 聖マリアンナ医科大学の遠隔 (ICU) 診療の取り組み. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 104) 渡部弥生, 清野奈々恵, 谷井梨美, 内藤貴基, 吉田徹, 本館教子, 藤谷茂樹. EWS ダッシュボードのピン留め機能を使った 3 症例の報告. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 105) 吉田徹, 内藤貴基, 森川大樹, 津久田純平, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 重症度判断 AI (Visensia Safety Index®) を使用した ICU 退室判断. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 106) 五十嵐義浩, 土屋大空, 高倉祥平, 村谷信太郎, 濱田悠佑, 佐藤尚, 山口克司, 大川修, 吉田徹, 藤谷茂樹. EIT を用いた肺の 4 領域での PV ループによる人工呼吸器の設定評価. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 107) 田中健一朗, 金光陽子, 田北無門, 吉田徹, 藤谷茂樹. TAVI 後の血小板減少で解離性大動脈瘤による慢性 DIC が増悪、医原性頸部血腫から気道緊急に至った一例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 108) 藤谷茂樹. 救急現場における血栓性疾患の診断と治療、医療連携. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 109) 吉田稔, 畠山淳司, 野崎歩, 丹保亜希仁, 櫻本秀明, 成田知大, 大邊寛幸, 中西信人, 山田浩平, 山元良, 東別府直紀, 中村謙介, 小谷穰治. もはや無視できなくなってきた重症患者における特定の栄養素. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 110) 石川淳哉, 山田万里央, 仲野海渡, 吉田徹, 藤谷茂樹. 左側から挿入された中心静脈カテーテルの、処置後エックス線写真読影のピットフォール. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 111) 巽博臣, 泉野浩生, 堤理恵, 高谷悠大, 東別府直紀, 吉田稔, 清水義之, 山元良, 中村謙介, 小谷穰治. 栄養アセスメント&モニタリング. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 112) 居積晃希, 藤本佳久, 佐久間絢, 上村恵理, 藤井修一, 内田将司, 伊藤英道, 村田英俊, 藤谷茂樹. くも膜下出血後のクラベセンタンに伴う輸液管理が左室流出路狭窄によって困難であった症例. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 113) 吉田稔, 神田直樹, 柏木静, 菅沼進也, 高野隼, 宮城朋果, 脇本優司, 大邊寛幸, 中村謙介. 急性期の栄養指標として CRP と免疫学的後遺症 (PICS) の提案: リアルワールドデータを用いた検討. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 114) 津久田純平. 遠隔 ICU のフロンティア. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 115) 津久田純平, 吉田英樹, 森川大樹, 内藤貴基, 吉田徹, 藤谷茂樹. 持続可能な遠隔 ICU を追い求めて. 第 52 回日本集中治

療医学会学術集会, 2025.

- 116) 高橋毅史, 藤本佳久, 岡橋友美子, 横田浩, 梶野超生, 竹本聖, 安宅一晃, 中平敦士. 硬膜下膿瘍に伴う脳損傷により脳波で非典型的な evolving 所見を呈したけいれん重積の1例. 第52回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 117) 石田光, 西尾美佐子, 和田慎司, 森本毅, 松本純一, 三村秀文. 異所性妊娠における造影CT所見 'Acorn shell sign'. 第61回日本腹部救急医学会総会, 2025.

② 国際学会

- 1) 吉田英樹. 集中治療医としての耐性菌対策への心得. 第52回日本集中治療医学会学術集会, 2025.
- 2) Kawaguchi T. Tabletop Simulation Training of Critical Cases for Emergency Medicine Residents in a Japanese University Hospital. ICEM2024, 2024.
- 3) Wada Shinji, Matsumoto Junichi, Dote Minoru, Mimura Hidefumi. Unveiling hidden dangers the quest to identify pseudoaneurysms obscured by metallic mirages. American Society of Emergency Radiology Annual Meeting 2024, 2024.
- 4) Naito T, Watanabe Y, Seino N, Tanii R, Sakurai C, Yoshida T, Fujitani S. Evaluation of Nurse Practitioner Round with AI-based Early Warning Score for In-Hospital Cardiac Arrest. 37th ESICM Annual Congress, 2024.
- 5) Tsukuda J. The Impact of CPR Duration on Neurological Outcomes in IHCA Patients Classified by NEWS. SCCM 2025, 2025.
- 6) Yoshida T, Naito T, Tanii R, Tsukuda J, Morikawa D, Morisawa K, Fujitani S. Validation of Rapid Response System Using Artificial Intelligence in a Japanese University Hospital. SCCM 2025, 2025.
- 7) Nakashima T. Venovenous ECMO for a Patient With Acute Myeloid Leukemia Post-Induction Chemotherapy Complications. SCCM 2025, 2025.
- 8) Haraguchi T, Matsumoto J, Kobayashi Y.. Exploring Generative AI and LLMs in Radiology: Enhancing Workflow Efficiency and Diagnostic Support. European Congress of Radiology 2025, 2025.

③ その他

- 1) 三池慧. ICU レジストリーを活用した院内発症敗血症の疫学研究. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
- 2) 渡部弥生, 谷井梨美, 内藤貴基, 清野奈々恵, 本館教子, 藤谷茂樹. マルチセーフティネットで繋ぐ～患者急変を未然に防ぐ、重症患者への早期介入の事例報告. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
- 3) 清野奈々恵, 谷井梨美, 内藤貴基, 渡部弥生, 本館教子, 藤谷茂樹. 院内全体で取り組む院内急変「予防」対応システムを目指して. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
- 4) 森澤健一郎. 自病院における救急医療の課題・問題点. 第12回かわさき救急フォーラム, 2024.
- 5) 吉田徹. 病床統合と重症ダッシュボード*システムによる集中治療センターの効率的運用. 重症ユニット・ケアユニットにおける 早期警戒スコアリングセミナー, 2025.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著		32
	解説又は総説	28	1
	症例報告	2	1
	その他		
学会発表	国内学会	117	
	国際学会	1	7
	その他	5	

臨床腫瘍学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 砂川 優. 腸内細菌と胃癌. 癌と化学療法, 2024;51(6) : 591-596.
- 2) 久保田 洋平、砂川 優. 切除不能な進行・再発胃癌に対する薬物療法の新展開. 癌と化学療法, 2024;51(9) : 896-902.
- 3) 永田祐介、砂川 優. 大腸がんにおける免疫療法と分子標的治療の併用. がん分子標的・免疫治療, 2024;21(1) : 19-25.
- 4) 梅本久美子. 進行もしくは再発膀胱癌における UGT1A1 遺伝子多型とイリノテカンとの関連性. 胆と膵, 2024;45(11) : 1641-1645.
- 5) 永田祐介、砂川 優. FOLFOXIRI 療法. 外科医のための大腸癌薬物療法ガイドブック, 2024; : 84-89.
- 6) 久保田 洋平、伊澤 直樹. 切除可能進行胃癌に対する術前 DOS (Docetaxel+Oxaliplatin+S-1) 療法+手術+S-1 術後補助化学療法 vs. 手術+S-1 術後補助化学療法の第 III 相試験 (PRODIGY 試験) における全生存期間のアップデート. 消化器癌治療の広場, 2024;2024 年 : 12 月.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Arai H, Tsuda T, Sunakawa Y, Shimokawa M, Akiyoshi K, Tokunaga S, Shoji H, Kunieda K, Kotaka M, Matsumoto T, Nagata Y, Mizukami T, Mizuki F, Danenberg KD, Boku N, Nakajima TE.. Switching from FOLFIRI plus cetuximab to FOLFIRI plus bevacizumab based on early tumor shrinkage in RAS wild-type metastatic colorectal cancer: A phase II trial (HYBRID). Cancer Medicine, 2024;13(7) : e7107.
- 2) Marin Ishikawa, Kohei Nakamura, Ryutaro Kawano, Hideyuki Hayashi, Tatsuru Ikeda, Makoto Saito, Yo Niida, Jiichiro Sasaki, Hiroyuki Okuda, Satoshi Ishihara, Masatoshi Yamaguchi, Hideaki Shimada, Takeshi Isobe, Yuki Yuza, Akinobu Yoshimura, Hajime Kuroda, Seigo Yukisawa, Takuya Aoki, Kei Takeshita, Shinichi Ueno, Junichi Nakazawa, Yu Sunakawa, Sachio Nohara, Chihiro Okada, Ko Nishimiya, Shigeki Tanishima, Hiroshi Nishihara. Clinical and Diagnostic Utility of Genomic Profiling for Digestive Cancers: Real-World Evidence from Japan. Cancers, 2024;16(8) : 1504.
- 3) Hara H, Satoh T, Kojima T, Tsushima T, Sunakawa Y, Okada M, Ding N, Wu H, Li L, Yu T, Barnes G, Kato K.. Second-line tislelizumab versus chemotherapy in Japanese patients with advanced or metastatic esophageal squamous cell carcinoma: subgroup analysis from RATIONALE-302. Esophagus, 2024;21(2) : 102-110.
- 4) Hiroko Minatogawa, Naoki Izawa, Takako Eguchi Nakajima. Reply to L. Celio et al. British journal of cancer, 2024;130(12) : 1887-1888.
- 5) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5) : 571-581.
- 6) Yamamoto H, Arai H, Oikawa R, Umamoto K, Takeda H, Mizukami T, Kubota Y, Doi A, Horie Y, Ogura T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y.. The molecular landscape of gastric cancers for novel targeted therapies from real-world genomic profiling. Targeted Oncology, 2024;19(3) : 459-471.

- 7) Matsubara Y, Bando H, Kotani D, Kagawa Y, Harada K, Osumi H, Izawa N, Kawakami T, Boku S, Matsumoto T, Wakabayashi M, Yoshino T. BAYONET trial: A multicenter phase II trial of staged combination with encorafenib + binimetinib + cetuximab following encorafenib + cetuximab in patients with BRAF V600E-mutant metastatic colorectal cancer. *ESMO Gastrointestinal Oncology*, 2024;4 : <https://doi.org/10.1016/j.esmogo.2024.100066>.
- 8) Chikatoshi Katada, Tetsuji Yokoyama, Akinori Watanabe, Hiroki Hara, Takako Yoshii, Hirofumi Fujii, Hironori Yamaguchi, Takako Eguchi Nakajima, Naoki Izawa, Takayuki Ando, Motoo Nomura, Takashi Kojima, Keishi Yamashita, Shogo Kawakami, Hiromichi Ishiyama, Yusuke Inoue, Yasutoshi Sakamoto, Hiroki Sasaki, Hideki Ishikawa, Ayumu Hosokawa, Yasuo Hamamoto, Manabu Muto, Makoto Tahara, Wasaburo Koizumi. Optimizing Organ-Preservation Strategies Through Chemotherapy-Based Selection in Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Results From the CROC Multi-Institutional Phase 2 Clinical Trial. *International journal of radiation oncology, biology, physics*, 2024; : <https://doi.org/10.1016/j.ijrobp.2024.06.019>.
- 9) Hiroshi Imaoka, Keita Sasaki, Ryunosuke Machida, Hiroaki Nagano, Sohei Satoi, Masafumi Ikeda, Satoshi Kobayashi, Taro Yamashita, Takuji Okusaka, Akio Ido, Etsuro Hatano, Haruo Miwa, Masaki Ueno, Kazuhiko Nakao, Satoshi Shimizu, Hidekazu Kuramochi, Ryotaro Sakamori, Hidetaka Tsumura, Naohiro Okano, Kazuhiko Shioji, Hirofumi Shirakawa, Noriyuki Akutsu, Kunihiro Tsuji, Hiroshi Ishii, Kumiko Umemoto, Akinori Asagi, Makoto Ueno and on behalf of the JCOG Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group. Current status of the cost burden of first-line systemic treatment for patients with advanced hepatocellular carcinoma in Japan, 2021-22. *Japanese journal of clinical oncology*, 2024; : doi: 10.1093/jjco/hyae048.
- 10) Yuriko Sasahara, Yuki Takumoto, Kaname Watanabe, Hiroyuki Takeda, Kumiko Umemoto, Yu Sunakawa, Naoki Suzuki, Takashi Yoshioka, Satoshi Kobayashi, Makoto Ueno, Sho Nakamura, Manabu Akazawa and Hiroto Narimatsu. Quality-of-life survey of pancreatic cancer patients: a comparison between general public and physicians. *Frontiers in Health Services*, 2024;4 : 1275496.
- 11) Yoshinori Kagawa, Chaochen Wang, Yongzhe Piao, Long Jin, Yoshinori Tanizawa, Zhihong Cai, Yu Sunakawa. Real-World Evidence of FOLFIRI Combined with Anti-Angiogenesis Inhibitors or Anti-EGFR Antibodies for Patients with Early Recurrence Colorectal Cancer After Adjuvant FOLFOX/CAPOX Therapy: A Japanese Claims Database Study. *Targeted Oncology*, 2024;19(4) : 575-585.
- 12) Osumi H, Shinozaki E, Nakamura Y, Esaki T, Yasui H, Taniguchi H, Satake H, Sunakawa Y, Komatsu Y, Kagawa Y, Denda T, Shiozawa M, Satoh T, Nishina T, Goto M, Takahashi N, Kato T, Bando H, Yamaguchi K, Yoshino T. Clinical features associated with NeoRAS wild-type metastatic colorectal cancer A SCRUM-Japan GOZILA substudy. *nature communications*, 2024;15(1) : 5885.
- 13) Yoshinori Kagawa, Koji Ando, Mamoru Uemura, Jun Watanabe, Koji Oba, Yasunori Emi, Nobuhisa Matsuhashi, Naoki Izawa, Osamu Muto, Tatsuya Kinjo, Ichiro Takemasa, Eiji Oki. Phase II study of long-course chemoradiotherapy followed by consolidation chemotherapy as total neoadjuvant therapy in locally advanced rectal cancer in Japan: ENSEMBLE-2. *Annals of Gastroenterological Surgery*, 2024; : <https://doi.org/10.1002/ags3.12848>.
- 14) Takeda H, Yamamoto H, Oikawa R, Umemoto K, Arai H, Mizukami T, Ogawa K, Uchida Y, Nagata Y, Kubota Y, Doi A, Horie Y, Ogura T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y. Genomic Profiling of Small Intestine Cancers From a Real-World Data Set Identifies Subgroups With Actionable Alterations. *JCO Precision Oncology*, 2024; :

- 15) Yagisawa M, Taniguchi H, Satoh T, Kadowaki S, Sunakawa Y, Nishina T, Komatsu Y, Esaki T, Sakai D, Doi A, Kajiwarra T, Ono H, Asano M, Hirano N, Odegaard J, Fujii S, Nomura S, Bando H, Sato A, Yoshino T, Nakamura Y. Trastuzumab Deruxtecan in Advanced Solid Tumors With Human Epidermal Growth Factor Receptor 2 Amplification Identified by Plasma Cell-Free DNA Testing: A Multicenter, Single-Arm, Phase II Basket Trial. *Journal of Clinical Oncology*, 2024; :1:JC02302626..
- 16) Sunakawa Y, Sakamoto Y, Kawabata R, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Takahashi M, Matsuyama J, Yabusaki H, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Hihara J, Takeno A, Inoue E, Ichikawa W, Fujii M. Tumor Response Predicts Survival Time of Nivolumab Monotherapy for Advanced Gastric Cancer: A Subgroup Analysis of the DELIVER Trial (JACCRO GC-08). *Oncologist*, 2024;29(8) : e997-e1002.
- 17) Iida N, Imai M, Okamoto W, Kato T, Esaki T, Kato K, Komatsu Y, Yuki S, Masuishi T, Nishina T, Ebi H, Taniguchi H, Nonomura N, Sunakawa Y, Shiozawa M, Yamazaki K, Boku S, Bando H, Shiraishi Y, Kobayashi M, Goto H, Sato A, Fujii S, Yoshino T, Nakamura Y.. Novel ERBB2 Variant Potentially Associated with Resistance against Anti-HER2 Monoclonal Antibody-Based Therapy in ERBB2-Amplified Metastatic Colorectal Cancer. *Clinical Cancer Research*, 2024;30(18) : 4167-4178.
- 18) Mitsunaga S, Ikeda M, Nomura S, Morizane C, Todaka A, Yamamoto N, Kamata K, Yanagibashi H, Mizuno N, Kawamoto Y, Gotoh K, Shirakawa H, Okano N, Nomura T, Tanaka K, Takahashi A, Yagi S, Ohta K, Takayama Y, Miwa H, Nagano H, Kojima Y, Hisano T, Tahara M, Sakuma Y, Arai H, Nakamura I, Katayama H, Konishi M, Ueno M.. 5-Fluorouracil metabolic pathway genes predict recurrence risk following adjuvant S-1 therapy: Results of an ancillary analysis from a phase III trial of resected biliary tract cancer (JCOG1202A1). *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences*, 2024;31(12) : 886-896.
- 19) Wang J, Xiu J, Battaglin F, Arai H, Soni S, Zhang W, Goldberg RM, Philip PA, Seeber A, Hwang JJ, Shields AF, Marshall JL, Astaturon I, Liu T, Lockhart AC, Korn WM, Shen L, Lenz HJ. Large-scale analysis of CDH1 mutations defines a distinctive molecular subset with treatment implications in gastric cancer. *NPJ Precision Oncology*, 2024;8(1) : 214.
- 20) Nakamura Y, Ozaki H, Ueno M, Komatsu Y, Yuki S, Esaki T, Taniguchi H, Sunakawa Y, Yamaguchi K, Kato K, Denda T, Nishina T, Takahashi N, Satoh T, Yasui H, Satake H, Oki E, Kato T, Ohta T, Matsuhashi N, Goto M, Okano N, Ohtsubo K, Yamazaki K, Yamashita R, Iida N, Yuasa M, Bando H, Yoshino T. Targeted therapy guided by circulating tumor DNA analysis in advanced gastrointestinal tumors. *nature medicine*, 2024; : doi: 10.1038/s41591-024-03244-8.
- 21) Kentaro Sudo, Yoshiaki Nakamura, Makoto Ueno, Masayuki Furukawa, Nobumasa Mizuno, Yasuyuki Kawamoto, Naohiro Okano, Kumiko Umemoto, Akinori Asagi, Masato Ozaka, Koushiro Ohtsubo, Satoshi Shimizu, Nobuhisa Matsuhashi, Shinji Itoh, Toshihiko Matsumoto, Taroh Satoh, Hiroyuki Okuyama, Masahiro Goto, Hiroko Hasegawa, Yoshiyuki Yamamoto, Justin I Odegaard, Hideaki Bando, Takayuki Yoshino, Masafumi Ikeda, Chigusa Morizane. Clinical utility of BRCA and ATM mutation status in circulating tumour DNA for treatment selection in advanced pancreatic cancer. *British Journal of Cancer*, 2024;131(7) : 1237-1245.

- 22) Arai H, Gandhi N, Battaglin F, Wang J, Algaze S, Jayachandran P, Soni S, Zhang W, Yang Y, Millstein J, Lo JH, Sohal D, Goldberg R, Hall MJ, Scott AJ, Hwang JJ, Lou E, Weinberg BA, Marshall J, Goel S, Xiu J, Korn WM, Lenz HJ.. Role of CD47 gene expression in colorectal cancer: a comprehensive molecular profiling study. *Journal for Immunotherapy of Cancer*, 2024;12(11) : e010326.
- 23) Shiozawa M, Sunakawa Y, Watanabe T, Ota H, Yasui H, Yabuno T, Tei M, Kochi M, Manaka D, Ohori H, Yamaguchi T, Sagawa T, Kotaka M, Kubota Y, Sekikawa T, Nakamura M, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Tsuji A. Modified FOLFOXIRI plus cetuximab versus bevacizumab in RAS wild-type metastatic colorectal cancer: a randomized phase II DEEPER trial. *Nature Communications*, 2024;15(1) : 10217.
- 24) Jun Hamano, Takahiro Higashibata, Takaomi Kessoku, Shinya Kajiura, Mami Hirakawa, Shunsuke Oyamada, Keisuke Ariyoshi, Takeshi Yamada, Yoshiyuki Yamamoto, Yasuyuki Takashima, Kosuke Doki, Masato Homma, Bryan J. Mathis, Tsumugi Jono, Tomoki Ogata, Kosuke Tanaka, Yuki Kasai, Michihiro Iwaki, Akiko Fuyuki, Atsushi Nakajima, Ryuji Hayashi, Takayuki Ando, Naoki Izawa, Yuko Kobayashi, Yoshiki Horie, Tatsuya Morita. Naldemedine for opioid-induced constipation in patients with cancer: A multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial. *Journal of clinical oncology : official journal of the American Society of Clinical Oncology*, 2024;42(35) : 4206-4217.
- 25) Alison M Schram, Koichi Goto, Dong-Wan Kim, Teresa Macarulla, Antoine Hollebecque, Eileen M O'Reilly, Sai-Hong Ignatius Ou, Jordi Rodon, Sun Young Rha, Kazumi Nishino, Michaël Duruisseau, Joon Oh Park, Cindy Neuzillet, Stephen V Liu, Benjamin A Weinberg, James M Cleary, Emiliano Calvo, Kumiko Umemoto, Misako Nagasaka, Christoph Springfield, Tanios Bekaii-Saab, Grainne M O'Kane , Frans Opdam, Kim A Reiss, Andrew K Joe, Ernesto Wasserman, Viktoriya Stalbovska, Jim Ford, Shola Adeyemi, Lokesh Jain, Shekeab Jauhari, Alexander Drilon. Efficacy of Zenocutuzumab in NRG1 Fusion-Positive Cancer. *The New England Journal of Medicine*, 2025;392(6) : 566-576.
- 26) Hiroo Ishida, Yu Sunakawa, Yasuhiro Kodera, Kazuhiro Yoshida, Mitsugu Kochi, Yoshihiro Kakeji, Takeshi Sano, Masahiro Takeuchi, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii. Post-recurrence survival in patients with stage III gastric cancer who received adjuvant chemotherapy; post-hoc analysis of the JACCRO GC-07 study. *European Journal of Cancer*, 2025;219 : 115322.
- 27) Hiroshi Imaoka, Masafumi Ikeda, Satoshi Kobayashi, Akihiro Ohba, Masayuki Ueno , Yuko Suzuki, Hidetaka Tsumura, Nana Kimura, Shinya Kawaguchi, Yasuyuki Kawamoto, Kohei Nakachi, Kunihiro Tsuji, Noritoshi Kobayashi, Reiko Ashida, Naohiro Okano , Kumiko Umemoto, Gou Murohisa, Ayumu Hosokawa, Akinori Asagi, Hiroko Nebiki, Rei Suzuki, Takeshi Terashima, Ryusuke Shibata, Kazuhito Kawata, Toshifumi Doi, Hiroshi Ohyama, Yohei Kitano, Kazuhiko Shioji, Hiroyuki Okuyama, Atsushi Naganuma, Yuji Negoro, Yasunari Sakamoto, Satoshi Shimizu, Chigusa Morizane, Makoto Ueno, Junji Furuse, Hiroaki Nagano. Efficacy of liposomal irinotecan + 5-FU/LV vs. S-1 in gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer: a real-world study using inverse probability of treatment weighting. *Journal of Gastroenterol*, 2025;60(3) : 356-367.
- 28) Okines AFC, Curigliano G, Mizuno N, Oh DY, Rorive A, Soliman H, Takahashi S, Bekaii-Saab T, Burkard ME, Chung KY, Debruyne PR, Fox JR, Gambardella V, Gil-Martin M, Hamilton EP, Monk BJ, Nakamura Y, Nguyen D, O'Malley DM, Olawaiye AB, Pothuri B, Reck M, Sudo K, Sunakawa Y, Van Marcke C, Yu EY, Ramos J, Tan S, Bieda M, Stinchcombe TE, Pohlmann PR.. Tucatinib and trastuzumab in HER2-mutated metastatic breast cancer: a phase 2

basket trial. Nature Medicine, 2025;31(3) : 909-916.

② 総説又は症例解説

- 1) Yamamoto Hiroyuki, Watanabe Yoshiyuki, Arai, Hiroyuki Umamoto Kumiko, Tateishi Keisuke, Sunakawa Yu. Microsatellite instability: A 2024 update. Cancer Science, 2024;115(6) : 1738-1748.

③ 症例報告

- 1) Toshihiro Kobayashi, Ayako Tsuboya, Takashi Ogura, Kensuke Shinohara, Yuka Ito. A Case of Recurrent Gastric Cancer in Which Patient Education by a Pharmacist Helped Recover from Myasthenia Gravis Induced by Nivolumab. 日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 2024;38 : 7-13.
- 2) Matsubara Keisuke, Hayakawa Nozomi, Kubota Yohei, Ohike Nobuyuki, Sunakawa Yu, Koike Junki, Kikuchi Eiji. A case of multiple bone metastases during the course of non-invasive bladder and prostate cancer. IJU Case Reports, 2025;8(2) : 158-161.

学会発表

① 国内学会

- 1) 松原圭輔, 早川望, 久保田洋平, 大池信之, 砂川優, 小池淳樹, 菊地栄次. A case of multiple bone metastases during the course of non-invasive bladder and prostate cancer. 第33回日本がん転移学会学術集会・総会, 2024.
- 2) 永田 祐介, 新井 裕之, 武田 弘幸, 久保田 洋平, 梅本 久美子, 伊澤 直樹, 中村 直樹, 砂川 優. 通過障害を合併した Stage IVB 食道癌に対する治療選択と臨床転帰の評価. 第78回食道学会学術集会, 2024.
- 3) 小川 和起, 新井 裕之, 武田 弘幸, 久保田 洋平, 永田 祐介, 内田 吉保, 牧野 有花, 堀江 良樹, 梅本 久美子, 伊澤 直樹, 砂川 優. 切除不能進行再発大腸癌 (mCRC) における血漿を用いた包括的ゲノムプロファイリング (CGP) の RAS/BRAF 変異別の意義. 第101回大腸癌研究会学術集会, 2024.
- 4) 賀川 義規, 渡邊 純, 伊澤 直樹, 沖 英次. 局所進行下部直腸癌における術前治療の治療成績と展望. 第79回日本消化器外科学会, 2024.
- 5) 小林慎二郎, 中原一有, 梅本久美子, 野呂瀬朋子, 中村祐太, 佐々木信幸, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 大池信之, 砂川優, 立石敬介, 大坪毅人. 当院における”胆道・膵臓病センター”の設置から現在までのと今後の課題. 第55回日本膵臓学会大会, 2024.
- 6) Shinichi Nishina, Hiroyuki Takeda, Ryohei Kawabata, Atsushi Ishiguro, Masazumi Takahashi, Shuhei Suzuki, Takahisa Suzuki, Jin Matsuyama, Yasufumi Otsuki, Yusuke Akamaru, Naoki Takegawa, Takashi Nomura, Yosuke Kito, Masaki Takahashi, Yu Sunakawa. Genomic profile differences between primary and recurrent tumors in recurrent gastric cancer: the Liquid-GEAR Study. 第83回日本癌学会学術総会, 2024.
- 7) 稲垣 千晶, 的場 亮, 飯島 寛, 藪崎 裕, 松山 仁, 高橋 正純, 木藤 陽介, 赤丸 祐介, 石黒 敦, 川端 良平, 坂本 康寛, 井上 永介, 市川 度, 藤井 雅志, 砂川 優. 胃癌患者におけるニボルマブの新規予後予測バイオマーカーとしての血中 OXPHOS 関連遺伝子シグネチャーと SNPs. 第83回日本癌学会学術総会, 2024.
- 8) 山崎 健太郎, 沖 英次, 坂東 英明, 設楽 紘平, 寺島 雅典, 掛地 吉弘, 安藤 幸慈, 賀川 義規, 砂川 優, 佐竹 悠良, 結城 敏志, 大庭 幸治, 吉野 孝之, 大津 敦, 前原 喜彦. ARCAD Asia データベースを活用した解析の実例. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 9) 市川 眞琴, 高橋 威洋, 関川 高志, 井本 清美, 砂川 優, 市川 度. Guradant360 CDx がん遺伝子パネル検査の初期成績 -20 例の経験から-. 第62回日本癌治療学会学術集会, 2024.

- 10) 仁科 慎一, 武田 弘幸, 川端 良平, 石黒 敦, 高橋 正純, 鈴木 修平, 鈴木 崇久, 松山 仁, 大槻 泰史, 赤丸 祐介, 武川 直樹, 野村 尚, 木藤 陽介, 高橋 政樹, 砂川 優. 再発胃癌における原発腫瘍と再発腫瘍のゲノムプロファイルの違い: Liquid-GEAR. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 11) 賀川 義規, 渡邊 純, 安藤 幸滋, 植村 守, 伊澤 直樹, 松橋 延壽, 武藤 理, 江見 泰徳, 金城 達也, 諏訪 雄亮, 西沢 佑次郎, 竹政 伊知朗, 大庭 幸治, 沖 英次. Combined Analysis of ENSEMBLE-1 and ENSEMBLE-2 Phase II studies Evaluating TNT in Local Advanced Rectal Cancer in Japan. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 12) 稲垣 千晶, 傳田 忠道, 小谷 大輔, 井上 永介, 柏田 知美, 三原 良明, 天貝 賢二, 諏訪 雄亮, 太田 高志, 結城 敏志, 塩澤 学, 辻 晃仁, 室 圭, 市川 度, 砂川 優. An Observational Study of BRAF Inhibitor Combination Therapy for BRAF-mutated Metastatic Colorectal Cancer Patients: Real-World Evidence from BEETS Trial (JACCRO CC-18). 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 13) 赤澤 直也, 池永 雅一, 秋山 泰樹, 松浦 正徒, 中村 将人, 佐川 保, 塩澤 学, 太田 博文, 小高 雅人, 大北 仁裕, 砂川 優, 竹内 正弘, 市川 度, 藤井 雅志, 辻 晃仁. Final results of the JACCRO CC-16:ramucirumab plus FOLFIRI for RAS wild-type anti-EGFR antibody refractory metastatic colorectal cancer. 第 62 回日本癌治療学会学術集会, 2024.
- 14) 川上 武志, 佐藤 拓弥, 松永 拓真, 田村 祐子, 佐竹 悠良, 砂川 優, 谷口 浩也. がん領域における遠隔医療・遠隔治験に対する患者・医療従事者の声〜アンケート調査結果より〜. 日本臨床試験学会第 16 回学術集会総会, 2025.
- 15) 古賀 邦林, 井上 永介, 田中 千弘, 工藤 敏啓, 母里 淑子, 木藤 陽介, 勝屋 弘雄, 中村 有貴, 武藤 理, 赤澤 直也, 桑川 陽祐, 中村 路夫, 重安 邦俊, 中村 将人, 佐川 保, 渡邊 龍之, 遠藤 俊吾, 市川 度, 藤井 雅志, 砂川 優. リスク因子を有する BRAF 変異型大腸癌に対するエンコラフェニブ、ビニメチニブ、セツキシマブ併用療法:BEETS 試験 (JACCRO CC-18). 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 16) 永田 祐介, 新井 裕之, 伊澤 直樹, 稲垣 千晶, 菅谷 明德, 平田 賢郎, 對馬 隆浩, 森脇 俊和, 川上 尚人, 原田 和治, 田栗 正隆, 砂川 優. 通過障害合併 Stage IVB 食道癌における免疫チェックポイント阻害薬併用化学療法の実用的第 2 相試験. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 17) 松本 光史, 金村 宙昌, 谷崎 潤子, 舩石 俊樹, 磯部 大地, 児玉 裕章, 清水 俊雄, 砂川 優, 千葉 康敬, 山本 信之, 中川 和彦, 林 秀敏. HER2 遺伝子変異を有する固形癌に対する Mobocertinib+T-DM1 併用療法の安全性と有効性を検討する多施設共同第 Ia/Ib 相バスケッ試験(WJOG16022M:HER2 Sand). 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 18) 梅本 久美子, 中原 一有, 大池 信之, 薩田 祐輔, 関根 章裕, 五十嵐 洋介, 永田 裕介, 久保田 洋平, 武田 弘幸, 堀江 良樹, 新井 裕之, 伊澤 直樹, 開 隼人, 野呂瀬 朋子, 小池 淳樹, 的場 亮, 西塚 哲, 立石 敬介, 砂川 優. 膵癌の細胞診検体を用いたデジタル PCR による KRAS 変異同定の臨床的妥当性の検討. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 19) 武田 弘幸, 川端 良平, 石黒 敦, 仁科 慎一, 高橋 正純, 鈴木 修平, 鈴木 崇久, 松山 仁, 大槻 泰史, 赤丸 祐介, 武川 直樹, 野村 尚, 木藤 陽介, 藪崎 裕, 根来 裕二, 牧山 明資, 中村 将人, 高橋 政樹, 砂川 優. 再発胃癌・胃食道接合部癌における Actionable な遺伝子異常の変化と臨床的特徴. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 20) 佐藤 弘樹, 市川 度, 吉田 和弘, 小寺 泰弘, 掛地 吉弘, 東風 貢, 尾嶋 仁, 藤谷 和正, 檜原 淳, 武者 信行, 石黒 敦, 北沢 将人, 佐野 力, 豊川 貴弘, 木南 伸一, 瀧 雄介, 竹内 正弘, 砂川 優, 藤井 雅志, 佐野 武. Random Survival Forest による Stage III 治癒切除胃癌患者の予後予測-START-2 試験データを用いた後方視的研究-. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 21) 西田 尚弘, 佐藤 太郎, 門脇 重憲, 砂川 優, 仁科 智裕, 小松 嘉人, 江崎 泰斗, 小野 宏美, 浅野 雅俊, 平野 奈美, 藤井 誠志, 野村 尚吾, 吉野 孝之, 中村 能章, 佐藤 暁洋, 八木澤 允貴, 谷口 浩也. 血中遊離 DNA により HER2 遺伝子増幅が認められた固形がんに対するトラスツズマブ デルクステカンの多施設共同臨床第 II 相試験(HERALD/EP0C1806 試験) デ

ータ アップデート. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.

- 22) 砂川 優, 塩澤 学, 東風 貢, 山口 敏史, 三宅 亨, 佐川 保, 岡村 修, 田中 千弘, 松橋 延壽, 若村 邦彦, 吉田 泰一, 村田 幸平, 小高 雅人, 久保田 祐太郎, 関川 高志, 中村 将人, 竹内 正弘, 市川 度, 藤井 雅志, 辻 晃仁. RAS 野生型大腸癌における modified-FOLFOXIRI+セツキシマブ療法の効果予測臨床因子: DEEPER 試験 (JACCRO CC-13). 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 23) 安井 久晃, 武藤 学, 堀松 高博, 船越 太郎, 片岡 滋貴, 中村 路夫, 山田 武史, 陶山 浩一, 武田 弘幸, 多久 佳成, 後藤 知之, 青山 育雄, 桐島 寿彦, 八隅 秀二郎, 津村 剛彦, 尾崎 由直, 馬場 英司, 勝屋 弘雄, 細川 歩, 魚住 龍史. 血液透析中の消化器癌患者に対する FOLFOX 療法の安全性と有効性に関する多施設共同臨床試験. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 24) 安藤 幸滋, 賀川 義規, 渡邊 純, 植村 守, 藤本 禎明, 諏訪 雄亮, 西沢 佑次郎, 松橋 信壽, 伊澤 直樹, 武藤 理, 金城 達也, 三代 雅明, 中村 能章, 坂東 英明, 竹政 伊知朗, 大庭 幸治, 吉野 孝之, 沖 英次. 直腸癌に対する total neoadjuvant therapy の効果を予測するための ctDNA 検査 -ENSEMBLE-2 試験の結果から-. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 25) Yohei Kubota, Shunsuke Ueyama, Takeshi Yamada, Yusuke Amanuma, Mitsuhiro Furuta, Sho Sato, Takahiro Tsushima, Ayako Hata, Kenichiro Tanabe, Yutaro Kubota, Shigenori Kadowaki, Yu Sunakawa.. A phase 2 study of mFOLFOX6 plus nivolumab for untreated advanced esophageal squamous-cell cancer: FLONTALE trial. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 26) 古田 光寛, 岡本 渉, 松本 俊彦, 稲垣 千晶, 松原 裕樹, 日野 佳織, 平田 賢郎, 門脇 重憲, 新井 裕之, 細川 歩, 杉本 直俊, 安井 久晃, 野津 昭文, 室 圭. PROCEED 試験 (CyberOncology®) での CyberOncology® の利便性に関するアンケート調査. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 27) 牛山 心平, 松原 裕樹, 橋本 直佳, 三島 沙織, 門脇 重憲, 岡野 尚弘, 大坪 公士郎, 上野 誠, 大塚 倫之, 砂川 優, 傳田 忠道, 牧山 明資, 江崎 泰斗, 賀川 義規, 高橋 直樹, 朴 将源, 藤澤 孝夫, 中村 能章, 坂東 英明, 吉野 孝之. MONSTAR-SCREEN-2 における組織および血液に基づく遺伝子解析を用いた神経内分泌腫瘍の分子学的特徴. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 28) 小川 和起, 新井 裕之, 牧野 有花, 久保田 洋平, 武田 弘幸, 永田 祐介, 堀江 良樹, 梅本 久美子, 伊澤 直樹, 中村 能章, 吉野 孝之, 砂川 優. 進行性大腸癌に対する RAS/BRAF 変異別の CGP 検査の臨床的意義. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.
- 29) 古賀 邦林, 井上 永介, 田中 千弘, 工藤 敏啓, 母里 淑子, 木藤 陽介, 勝屋 弘雄, 中村 有貴, 武藤 理, 赤澤 直也, 桑川 陽祐, 中村 路夫, 重安 邦俊, 中村 将人, 佐川 保, 渡邊 龍之, 遠藤 俊吾, 市川 度, 藤井 雅志, 砂川 優. リスク因子を有する BRAF 変異型大腸癌に対するエンコラフェニブ、ビニメチニブ、セツキシマブ併用療法: BEETS 試験 (JACCRO CC-18). 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) Akira Ooki, Kei Muro, Kazumi Nishino, Hisato Kawakami, Hitoshi Ojima, Takashi Kojima, Yoshihiro Tanaka, Kazuo Koyanagi, Nozomu Machida, Susumu Eguchi, Koichi Suyama, Yasutaka Watanabe, Naoki Izawa, Katsunori Iijima, Hiroshi Hirai, Michael Jon Chisamore, and Ken Kato. Phase 1b study of futibatinib plus pembrolizumab with or without chemotherapy in patients with esophageal carcinoma: Updated results of antitumor activity. ASCO2024, 2024.

- 2) Daisuke Kotani, Hideaki Bando, Hiroya Taniguchi, Toshiki Masuishi, Taito Esaki, Yu Sunakawa, Yoshito Komatsu, Eiji Shinozaki, Taroh Satoh, Tomohiro Nishina, Yoshiaki Nakamura, Yuichi Mikamoto, Masashi Wakabayashi, Akihiro Sato, Shogo Nomura, Hiromichi Ebi, Takayuki Yoshino. Efficacy and safety of combination therapy with binimetinib, encorafenib, and cetuximab for BRAF non-V600E mutated metastatic colorectal cancer: Results from a phase 2 BIG BANG trial (EPOC1703). ASCO2024, 2024.
- 3) Hiroaki Kanemura, Junko Tanizaki, Koji Matsumoto, Toshiki Masuishi, Taichi Isobe, Hiroaki Kodama, Toshio Shimizu, Yu Sunakawa, Yasutaka Chiba, Nobuyuki Yamamoto, Kazuhiko Nakagawa, Hidetoshi Hayashi. Phase Ia/Ib trial on the safety and efficacy of mobocertinib in combination with T-DM1 for patients with HER2-mutant solid tumors (WJOG16022M). ASCO2024, 2024.
- 4) Koji Ando, Yoshinori Kagawa, Mamoru Uemura, Jun Watanabe, Masaaki Miyo, Yasunori Emi, Nobuhisa Matsuhashi, Naoki Izawa, Osamu Muto, Tatsuya Kinjo, Yujiro Nishizawa, Tsuyoshi Hata, Yusuke Suwa, Takuya Honboh, Jesse Yu Tajima, Yu Sunakawa, Koji Oba, Ichiro Takemasa, Eiji Oki. A multicenter single-arm phase II study examining the efficacy of TNT for locally advanced rectal cancer: ENSEMBLE-2. ASCO2024, 2024.
- 5) Y Kubota, S Ueyama, Y Yamamoto, Y Amanuma, M Furuta, S Sato, T Tsushima, T Moriwaki, K Tanabe, Y Sunakawa. A phase II study of mFOLFOX6 plus nivolumab as initial therapy for patients with advanced esophageal squamous-cell cancer: FLONTALE trial. ESMO-GI 2024, 2024.
- 6) C Inagaki, R Matoba, H Lijuma, J Hihara, H Yasui, N Takegawa, T Suzuki, A Makiyama, H Yabusaki, J Matsuyama, M Takahashi, Y Kito, Y Akamaru, A Ishiguro, R Kawabata, Y Sakamoto, E Inoue, W Ichikawa, M Fujii, Y Sunakawa. Blood-based oxidative phosphorylation-related gene signature and their SNPs as novel prognostic biomarkers for gastric cancer patients treated with nivolumab. ESMO-GI 2024, 2024.
- 7) Y Sunakawa, M Shiozawa, T Kawai, H Ota, H Yasui, M Kochi, D Manaka, H Ohori, M Matsuura, Y Shinohara, M Takeuchi, W Ichikawa, M Fujii, A Tsuji. Modified (m)-FOLFOXIRI plus cetuximab versus bevacizumab for right-sided or BRAF mutant metastatic colorectal cancer (mCRC): Subgroup analysis of the DEEPER trial (JACCRO CC-13). ESMO-GI 2024, 2024.
- 8) Yuma Kamijo, Yusuke Nagata, Hiroshi Suzuki, Hideo Kunimoto, Ayako Seki, Yasushi Sekino, Masahiro Sakon, Hiroyasu Ushimaru, Etsuo Hara. Association of gastric background mucosa status with the efficacy of immune checkpoint inhibitors in patients with unresectable advanced gastric cancer. ESMO-GI 2024, 2024.
- 9) H Takeda, R Kawabata, A Ishiguro, S Nishina, M Takahashi, S Suzuki, T Suzuki, J Matsuyama, Y Otsuki, Y Akamaru, N Takegawa, T Nomura, Y Kito, H Yabusaki, Y Negoro, A Makiyama, M Nakamura, M Takahashi, Y Sunakawa. Genomic profile differences between primary and recurrent tumors in curatively resected gastric cancer: The Liquid-GEAR. ESMO-GI 2024, 2024.
- 10) K Shiraishi, Y Kito, H Shoji, T Yamada, T Tsushima, S Mitani, H Yasui, H Hara, K Shimozaaki, T Esaki, Y Shinohara, T Tsuzuki, S Kajiura, N Izawa, K Murata, K Yoshimura, H Kawakami, S Hironaka, K Yamazaki, K Muro. Impact of age and single heterozygous UGT1A1 on the safety and efficacy of first-line FOLFIRI or FOLFOXIRI in combination with ramucirumab (RAM) for metastatic colorectal cancer (mCRC): subgroup analyses of WJOG9216G (RECAST). ESMO 2024, 2024.

- 11) K. Sugiyama, H. Yasui, M. Nakamura, T. Sagawa, T. Kawai, K. Kataoka, D. Manaka, N. Akazawa, T. Okuno, T. Shimura, M. Shiozawa, Y. Sunakawa, H. Ota, M. Kotaka, H. Okuyama, Y. Okita, M. Takeuchi, W. Ichikawa, M. Fujii, A. Tsuji. Final analysis of the JACCRO CC-16: Ramucirumab plus FOLFIRI for RAS wild-type mCRC refractory to anti-EGFR antibody. ESMO Congress 2024, 2024.
- 12) Yohei Kubota. Insight into co-expression biomarker in gastric cancer. Korean Gastric Cancer Association, 2024.
- 13) Arai H, Yang Y, Milllstein J, Ashouri K, Ou FS, Innocenti F, Battaglin F, Algaze S, Soni S, Zhang Wm Venook AP, Lenz HJ.. The prognostic impact of SLFN11 gene expression in metastatic colorectal cancer (mCRC). ASCO-GI 2025, 2025.
- 14) Hiroki Sato, Wataru Ichikawa, Kazuhiro Yoshida, Yasuhiro Kodera, Yoshihiro Kakeji, Mitsugu Kochi, Masazumi Takahashi, Akinori Takagane, Kiyoshi Ishigure, Masahide Kaji, Narutoshi Nagao, Makoto Yamada, Akiharu Ishiyama, Takanobu Yamada, Norimasa Fukushima, Toshifumi Yamaguchi, Masahiro Takeuchi, Yu Sunakawa, Masashi Fujii, Takeshi Sano. Prediction of relapse-free survival in stage III gastric cancer patients treated with postoperative adjuvant chemotherapy: Random survival forest analysis from the START-2 trial. ASCO-GI 2025, 2025.
- 15) Akinori Kobayashi, Yoshiaki Nakamura, Tadayoshi Hashimoto, Hiroya Taniguchi, Yoshito Komatsu, Taito Esaki, Yu Sunakawa, Kensei Yamaguchi, Takeshi Kato, Manabu Shiozawa, Naoki Takahashi, Takashi Ohta, Tadamichi Denda, Hironaga Satake, Tomohiro Nishina, Hisateru Yasui, Hideaki Bando, Takayuki Yoshino. Association between ctDNA levels, timing of blood collection, and overall survival in metastatic colorectal cancer. ASCO-GI 2025, 2025.
- 16) Tae Won Kim, Timothy Price, Julieta Grasselli, John Strickler, Toshiki Masuishi, Gin Wai Kwok, Suayib Yalcin, Cynthia Obiozor, Emily Chan, Priya Gokani, Yu Sunakawa. A phase 3 study of first-line sotorasib, panitumumab, and FOLFIRI versus FOLFIRI with or without bevacizumab-awwb for patients with KRAS G12C-mutated metastatic colorectal cancer (CodeBreak 301). ASCO-GI 2025, 2025.
- 17) Yu Sunakawa, Eisuke Inoue, Daisuke Kotani, Tadamichi Denda, Chiaki Inagaki, Tomomi Kashiwada, Yosuke Horita, Akinori Sugaya, Yusuke Suwa, Takashi Ohta, Hidekazu Kuramochi, Kotoe Oshima, Manabu Shiozawa, Satoshi Yuki, Akihito Tsuji, Kei Muro, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii. Encorafenib and cetuximab with/without binimetinib therapies for patients with BRAF-mutated metastatic colorectal cancer with prognostic factors: The BEETS trial (JACCRO CC-18). ASCO-GI 2025, 2025.
- 18) Akihito Tsuji, Yu Sunakawa, Manabu Shiozawa, Takashi Kawai, Hirofumi Ota, Hisateru Yasui, Taichi Yabuno, Mitsuyoshi Tei, Mitsugu Kochi, Dai Manaka, Hisatsugu Otori, Tatsuro Yamaguchi, Masato Matsuura, Hiroo Katsuya, Akitaka Makiyama, Masakazu Ikenaga, Masahiro Takeuchi, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii. Final analysis of modified (m)-FOLFOXIRI plus cetuximab versus bevacizumab for RAS wild-type and left-sided metastatic colorectal cancer: The DEEPER trial (JACCRO CC-13). ASCO-GI 2025, 2025.

③ その他

- 1) 梅本 久美子, 中原 一有, 大池 信之, 五十嵐 洋介, 薩田 祐輔, 関根 章裕, 野呂瀬 朋子, 小池 淳樹, 久保田 洋平, 永田 祐介, 武田 弘幸, 堀江 良樹, 新井 裕之, 伊澤 直樹, 立石 敬介, 砂川 優. 膵癌患者における細胞診検体の ddPCR 解析を用いた KRAS 変異測定. 聖マリアンナ医科大学医学会 第 86 回 学術集会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		28
	解説又は総説	6	1
	症例報告		2
	その他		
学会発表	国内学会	10	19
	国際学会		18
	その他	1	

リハビリテーション医学

著書

- 1) 佐々木信幸. 第5章 運動麻痺を推察する リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 2024;(1):102-117.
- 2) 佐々木信幸. 序章 脳画像の評価と医学的妥当性 リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 2024;(1):14-16.
- 3) 山徳雅人. 第7章 嚥下機能の障害 リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 2024;(1):144-151.
- 4) 佐々木信幸. 第1章 脳の構造と働き リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 2024;(1):17-42.
- 5) 佐々木信幸. 第2章 左右大脳の違い リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 2024;(1):43-49.
- 6) 佐々木信幸. 第3章 脳に何が起きたのか リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 2024;(1):50-65.
- 7) 山徳雅人. 第4章 脳画像所見の基礎知識 リハに活かす！機能解剖から学ぶ脳画像の読み方 2024;(1):66-101.
- 8) 山徳雅人, 佐々木信幸. 6.術直後のリハビリテーション診療 B.ドレーンの管理 消化器外科のリハビリテーション医学・医療 2024;(1):122-125.
- 9) 佐々木信幸. 疾患別運動療法⑧慢性呼吸器疾患に対するリハビリテーション治療. 新・運動療法ガイド 2025;(改題改訂第1版):312-321.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 佐々木 信幸, 山徳 雅人, 土田 知也, 佐藤 寛之, 山口 慶一郎. [二次出版] 倦怠感と認知機能障害を伴う新型コロナウイルス感染後遺症に対する反復性経頭蓋磁気刺激の効果. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2024;61(9):887-895.
- 2) 溝部 怜, 佐々木 信幸, 兒島 良恵, 畑中 康志, 西山 駿樹, 大泉 奈々, 溝部 良太, 聖マリアンナ医科大学病院勤務犬委員会. 動物介在療法の介入によりリハビリテーション治療に対する意欲向上を認めた症例. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2025;62(1):85-91.
- 3) 増田景太, 佐々木信幸, 殷祥洙, 秋山雄太, 服部皓大, 村田貴哉. COVID-19 後遺症に対する反復性経頭蓋磁気刺激治療の有効性と認知機能の推移. 日本スティミュレーションセラピー学会誌, 2025;6(1):24-30.

② 総説又は症例解説

- 1) 永富彰仁, 佐々木信幸. 【ICUのリハビリテーション診療】ICU人工呼吸器装着患者におけるリハビリテーション診療. Journal of Clinical Rehabilitation, 2024;33(4):335-343.
- 2) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【腫瘍循環器学-新しい学際領域の最新知見-】外来診療, がんサバイバーシップ 腫瘍循環器リハビリテーション. 日本臨床, 2024;82(増刊2):442-448.
- 3) 佐々木信幸. 【新時代の重症患者におけるリハビリテーション医療】日本版重症患者リハビリテーション診療ガイドライン(J-ReCIP 2023)の概要と今後の展望. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2024;61(6):444-451.
- 4) 山徳雅人, 佐々木信幸. 【誤嚥性肺炎とリハビリテーション】(第2章)「疾病病態別の誤嚥性肺炎予防」 脳血管障害. Journal of Clinical Rehabilitation, 2024;33(7):659-665.
- 5) 佐々木信幸. 【大きく変貌したリハビリテーション医療-超高齢・重複障害に対する医療の切り札】最新情報 COVID-19 後遺症患者へのリハビリテーション医療. 診断と治療, 2024;112(6):767-771.
- 6) 佐々木信幸. 【リハビリテーション科医師に必要な診察・評価手技】注意・遂行機能(TMT, BADS, WCST, CAT-R). JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION, 2024;33(10):1003-1010.

- 7) 佐々木信幸. 【痙縮治療最前線】反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)を用いた痙縮治療の戦略. Journal of Clinical Rehabilitation, 2024;33(13):1240-1246.
- 8) 山徳雅人. 神経難病における両立支援外来の意義. 難病と在宅ケア, 2024;30(8):49-53.
- 9) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【がん学際領域とリハビリテーション医学・医療-多学際領域との協働で奏でる臨床腫瘍学の未来】Cardio-Oncology Rehabilitation(腫瘍循環器リハビリテーション). Journal of Clinical Rehabilitation, 2025;34(2):141-147.
- 10) 佐々木信幸. 地域で支える社会復帰・日常復帰-リハビリテーション診療の重要性- 新型コロナウイルス感染後遺症に対する反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)治療. 兵庫県医師会医学雑誌, 2025;67(2):7-9.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Komatsu T, Hada T, Sasaki N, Kida H, Maku T, Nakada R, Kitagawa T, Sato T, Takatsu H, Sakuta K, Sakai K, Umehara T, Mitsumura H, Abo M, Iguchi Y. Effects and safety of high-frequency rTMS in subacute ischemic stroke patients. Journal of the Neurological Sciences, 2024;462:DOI: 10.1016/j.jns.2024.123069.

学会発表

① 国内学会

- 1) 西川徹, 在原卓, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 中野万理, 兒島良恵, 溝部怜, 佐々木信幸, 津川浩一郎. 甲状腺手術周術期における動物介在療法 (Animal Assisted Therapy、ATT) ～勤務犬の活動～. 第36回日本内分泌外科学会総会, 2024.
- 2) 唐渡弘起, 佐々木信幸. 薬剤抵抗性パーキンソン病のすくみ足に対する反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS) とリハビリテーション治療の効果. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 3) 佐々木信幸, 山徳雅人. 新型コロナウイルス感染後遺症に対する反復性経頭蓋磁気刺激の用量関連効果. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 4) 山徳雅人. 治療と仕事の両立支援～その意義と課題～. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 5) 佐々木信幸, 山徳雅人. 進行性核上性麻痺の歩行障害に対する rTMS の効果. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 6) 佐々木信幸. 生活期リハビリテーションにおける標準コードの作成と今後の展望. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 7) 山徳雅人, 佐々木信幸. ウイルス性下位脳神経障害による嚥下障害における画像的評価の経時的変化. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 8) 山徳雅人. ACTH 単独欠損症のリハビリテーション治療経験. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 9) 永富彰仁, 山徳雅人, 佐々木信幸. 気管切開症例の院内転帰の検討: 単施設後方視評価. 第61回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2024.
- 10) 古小高純章, 赤尾圭吾, 渡辺敏, 笠原西介, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 根本慎司, 桑村雄偉, 山崎太輝, 坂井健太, 木田圭亮, 足利光平, 佐々木信幸, 水越慶, 長田尚彦, 鈴木規雄, 明石嘉浩. 高齢心不全患者における退院後の日常生活困難感は, 退院後の快適歩行速度低下と関連する. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
- 11) 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太輝, 笠原西介, 渡辺敏, 根本慎司, 栗田真吾, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 経皮的僧帽弁クリップ修復術後の運動耐容能の変化に関連する因子. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.

- 12) 坂井健太, 吉沢和也, 笠原西介, 武市尚也, 渡邊紗都, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太暉, 古小高純章, 渡辺敏, 鈴木規雄, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 心不全患者における入院前の日常生活動作の困難感が入院関連能力障害に与える影響. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
 - 13) 吉沢和也, 武市尚也, 笠原西介, 渡邊紗都, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 山崎太暉, 坂井健太, 古小高純章, 渡辺敏, 水越慶, 鈴木規雄, 松田央郎, 佐々木信幸, 明石嘉浩, 小林俊也. 待機的心臓外科手術患者における入院関連機能低下の有無と身体機能の推移についての検討. 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2024.
 - 14) 小林慎二郎, 中原一有, 梅本久美子, 野呂瀬朋子, 中村祐太, 佐々木信幸, 梅澤早織, 井田圭亮, 小泉哲, 大池信之, 砂川優, 立石敬介, 大坪毅人. 当院における”胆道・膵臓病センター”の設置から現在までのと今後の課題. 第55回日本膵臓学会大会, 2024.
 - 15) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術における早期回復のための術前栄養・運動療法の必要性. 第55回日本膵臓学会大会, 2024.
 - 16) 河村惟, 山徳雅人, 永富彰仁, 手計順, 佐々木信幸. 反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)が著効した認知機能低下を伴うLong-COVIDの1例. 第81回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 2024.
 - 17) 佐々木信幸. 脳由来の後遺症を呈す患者の復職に向けて. 第13回日本認知症予防学会学術集会, 2024.
 - 18) 山徳雅人, 萩原悠太, 長谷川大輔, 桑島規夫, 上倉緑, 山野嘉久, 佐々木信幸. 今日からできる治療と仕事の両立支援. 第13回日本認知症予防学会学術集会, 2024.
 - 19) 佐々木信幸. 反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)が変える中枢神経リハビリテーション治療. 第6回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会, 2024.
 - 20) 笠原西介, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 渡辺敏, 鈴木規雄, 木田圭亮, 明石嘉浩, 佐々木信幸. 心不全患者における退院時連続歩行距離の制限は退院後QOL低下の規定因子である. 聖マリアンナ医科大学医学会 第86回学術集会, 2024.
 - 21) 佐々木信幸. 整形外科疾患におけるニューロリハビリテーションの展望. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
 - 22) 佐々木信幸. 反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)のリハビリテーション治療への応用. 第54回日本臨床神経生理学会学術集会, 2024.
 - 23) 佐々木信幸. 急性発症神経筋疾患における呼吸機能障害とリハビリテーション治療. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2024.
 - 24) 河村惟. Long-COVIDの倦怠感に対し頭頂葉rTMSで改善した1例. 第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2024.
 - 25) 梅澤早織, 小林慎二郎, 佐々木信幸, 中村祐太, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 立石敬介, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術における早期回復のための多臓腫による術前栄養・運動療法の必要性. 第14回日本リハビリテーション栄養学会学術集会, 2025.
- ② その他
- 1) 佐々木信幸. 呼吸器疾患に対するリハビリテーション診療. 第1回急性期病棟におけるリハビリテーション診療、栄養管理、口腔管理に係る医師研修会 2024, 2024.
 - 2) 佐々木信幸. 地域での生活を見据えたADLの向上を目指すリハビリ. 看護副師長学習会, 2024.
 - 3) 佐々木信幸. 痙性麻痺に対する多面的アプローチ. GSK 痙縮治療 Conference in 埼玉, 2024.
 - 4) 佐々木信幸. 呼吸器疾患に対するリハビリテーション診療. 第2回急性期病棟におけるリハビリテーション診療、栄養管理、口腔管理に係る医師研修会, 2024.

- 5) 佐々木信幸. 脳をちゃんと理解する. 目で見て分かる WEB セミナー第 2 弾～脳卒中と転倒～, 2024.
- 6) 佐々木信幸. コロナ罹患後症候群のリハビリテーション診療. 第 76 回兵庫県医師会医学会シンポジウム, 2024.
- 7) 佐々木信幸. 新型コロナウイルス感染後遺症に対する反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)治療. 第 14 回認知症イメージング研究会, 2024.
- 8) 佐々木信幸. 神経生理を理解し痙縮を正しく治す. 東海痙縮治療カンファレンス, 2025.
- 9) 佐々木信幸. 痙性麻痺に対する治療連携～rTMS とボツリヌス療法～. 長野県リハビリテーションセミナー, 2025.
- 10) 佐々木信幸. リハビリテーション医学における診療・研究・教育～教室創りと運営～. 第 2 回日本リハビリテーション医学将来構想推進研究会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		9	
論 文	原著	3	1
	解説又は総説	10	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	25	
	国際学会		
	その他	10	

感染症学

著書

- 1) 高野知憲、國島広之. パロキサビル マルボキシル 病棟頻用薬の通信簿 2024;:117-121.
- 2) 國島広之. 無芽胞嫌気性菌感染症 今日の治療指針 2025 年版 2025;:211-212.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 高野 知憲, 工藤 逸美, 松本 麻未, 岡 健太郎, 高橋 志達, 國島 広之. *C. albicans* の増殖, 菌糸形成, バイオフィームおよび上皮細胞接着に対するヒト腔由来乳酸菌の阻害効果. 無菌生物, 2024;52(4):42-44.

② 総説又は症例解説

- 1) 國島広之. 血液・体液暴露予防, 呼吸器感染予防による職業感染制御の重要性. 感染対策 ICT ジャーナル, 2024;19(2):83-87.
- 2) 國島広之. 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 クロストリディオイデス・ディフィシル感染症(CDI). 日本医事新報, 2024;5240:49-50.
- 3) 高野 知憲, 國島 広之. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の最新知見. 理学療法ジャーナル, 2024;58(11):1258-1263.
- 4) 高野 知憲, 國島 広之. コロナ治療薬の積極的使用について. インフルエンザ, 2024;25(3):165-170.
- 5) 高野 知憲, 國島 広之. 【感染拡大防止のためにつねに注意が必要!ICT が推し進める持続可能な CDI 対策】CDI の最新情報. INFECTION CONTROL, 2025;34(1):90-94.

③ 症例報告

- 1) 上原直子, 駒瀬裕子, 國島広之, 奥田知明. 新型コロナウイルス流行下での検査や吸入指導における飛沫飛散状況の検討. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 2024;32(2):257-261.

④ その他

- 1) 浅香真衣子, 松本浩, 廣瀬雅宣, 小形厚貴, 藤重瑠子, 平間千絵, アニン祥子, 隈元亜依, 宮本豊一, 長島梧郎, 高野知憲, 國島広之. 血液培養陽性症例を対象とした抗菌薬適正使用支援チームによる介入内容および臨床アウトカウの評価. 日本環境感染症学会誌, 2024;39(4):117-125.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Cao A, Ueta M, Uchibori M, Murakami M, Kunishima H, Kumar RS, Prommas P, Tomoi H, Gilmour S, Sakamoto H, Hashizume M, Naito W, Yasutaka T, Maruyama-Sakurai K, Miyata H, Nomura S. Trust in governments, public health institutions, and other information sources as determinants of COVID-19 vaccine uptake behavior in Japan. vaccine, 2024;42(17):3684-3692.
- 2) Ueta M, Cao A, Murakami M, Tomoi H, Gilmour S, Maruyama-Sakurai K, Takayama Y, Takebayashi Y, Hashizume M, Kumar RS, Kunishima H, Naito W, Yasutaka T, Kaneko S, Miyata H, Nomura S. Factors influencing parental COVID-19 vaccination willingness for children in Japan. vaccine, 2024;19:doi-100528.

- 3) Tomonori Takano, Yoshiko Nakatani, Akihiro Nagai, Natsuki Izumoto, Yuta Ono, Atsushi Inoue, Hiromu Takemura, Hiroyuki Kunishima. Analysis of COVID-19 nosocomial clusters in an Omicron strain epidemic: importance of patient education on infection control measures. *Infection Prevention in Practice*, 2024;6(4) : 100410-100413.
 - 4) Mineshita Masamichi, Nishine Hiroki, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Ishibashi Yuki, Kawahata Kimito, Kunishima Hiroyuki, Tsuchida Tomoya, Takemura Hiromu, Minoura Ayu, Takita Mumon, Fujitani Shigeki. 90-Day outcomes in patients with severe COVID-19 pneumonia treated with invasive mechanical ventilation. *Journal of Infection Chemotherapy*, 2025;31(2) : 102529.
 - 5) Takada K, Samura M, Igarashi Y, Suzuki A, Ishigo T, Fujii S, Ibe Y, Yoshida H, Tanaka H, Ebihara F, Maruyama T, Hamada Y, Komatsu T, Tomizawa A, Takuma A, Chiba H, Yagi Y, Nishi Y, Enoki Y, Taguchi K, Tanikawa K, Kunishima H, Matsumoto K. Development and validation of a population pharmacokinetic model of vancomycin for patients of advanced age. *Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences*, 2025;11(18) : doi-10.1186/s40780-025-00423-8.
- ② 総説又は症例解説
- 1) Takano T, Aiba H, Kaku M, Kunishima H. Gastroenterological Surgery and Management of *Clostridioides difficile* Infection: A Review. *Journal of Anus, Rectum and Colon*, 2025;9(1) : 25-32.
- ③ 症例報告
- 1) Nakazono K, Saito H, Ohkubo A, Onodera H, Wakatake H, Katsuta Y, Tada J, Kunishima H, Matsuzaki T. A higher area under the concentration-time curve/minimum inhibitory concentration target as a potential prognostic factor for vancomycin treatment of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* meningitis: A case report. *IDCases*, 2024;37 : DOI-10.1016/j.idcr.2024.e02035.
- ④ その他
- 1) Kunishima H, Ichiki K, Ohge H, Sakamoto F, Sato Y, Suzuki H, Nakamura A, Fujimura S, Matsumoto K, Mikamo H, Mizutani T, Morinaga Y, Mori M, Yamagishi Y, Yoshizawa S. Japanese Society for infection prevention and control guide to *Clostridioides difficile* infection prevention and control. *Journal of Infection and Chemotherapy*, 2024;0(8) : 673-715.

学会発表

① 国内学会

- 1) 竹内萌, 高野知憲, 國島広之. ESBL産生菌菌血症における経口抗菌薬へのスイッチと非カルバペネム系抗菌薬への de-escalation に関する検討. 第98回日本感染症学会学術講演会・第72回日本化学療法学会総会 合同学会, 2024.
- 2) 竹村 弘, 越川 拓郎, 大神田 敬, 高野 知憲, 國島 広之. 抗菌薬刺激でバイオフィルムを過剰産生する大腸菌変異株の分離とその機序. 第98回日本感染症学会学術講演会・第72回日本化学療法学会総会合同学会, 2024.
- 3) 高野知憲, 國島広之. 遷延性発熱と VIRSTA スコアにおける感染性心内膜炎の診断に関する検討. MRSA フォーラム 2024, 2024.
- 4) 國島広之. MRSA を含めたブドウ球菌感染症の最近の話題 -臨床-. MRSA フォーラム 2024, 2024.
- 5) 國島広之. 糖尿病治療における針刺し・切創について. 第6回日本在宅医療連合学会大会, 2024.
- 6) 永井 彰大, 中谷 佳子, 伊豆元 なつき, 小野 裕太, 高野 知憲, 國島 広之, 竹村 弘. 動物介在療法における感染制御部の支援. 第39回日本環境感染学会総会, 2024.
- 7) 賀来満夫. COVID-19 総括～4年間の軌跡と感染対策の今後の課題～. 第39回日本環境感染学会総会・学術集会, 2024.

- 8) 國島広之. 感染制御における Environmental stewardship. 第 39 回日本環境感染学会総会・学術集会, 2024.
- 9) 國島広之. 薬剤耐性菌と腸内細菌叢. 第 27 回日本臨床腸内微生物学会総会・学術集会, 2024.
- 10) 高野知憲, 相葉裕幸, 大柳忠智, 賀来満夫, 國島広之. 市中で発症した *Clostridioides difficile* Infection に関する検討. 第 27 回日本臨床腸内微生物学会総会・学術集会, 2024.
- 11) 國島広之. 【微生物マスター】CDI ; 再発例 治療薬の選択と実際、予防は. 第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第 71 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 2024.
- 12) 竹村 弘, 越川拓郎, 大神田敬, 高野知憲, 國島広之, 賀来満夫. バイオフィルム中で抗菌薬により伸長化した大腸菌は生きている. 第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 71 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 2024.
- 13) 國島広之. グラム陰性菌感染症治療を再考するーガイドラインと TAZ/CTLZ の位置づけー. 第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第 71 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 2024.
- 14) 中谷 佳子, 高野 知憲, 永井 彰大, 伊豆元 なつき, 井上 篤, 小野 裕太, 國島 広之, 竹村 弘. 動物介在療法を安全に実施するために感染制御部が支援した実際. 第 92 回神奈川県感染症医学会, 2024.
- 15) 廣富匡志, 淀谷雄亮, 池田史朗, 丸山絢, 細田智弘, 坂本光男, 中島由紀子, 長島梧郎, 國島広之、竹村弘, 三崎貴子. 川崎市における過粘稠性肺炎桿菌(hvKP)感染症の発生状況と肝臓瘍の発症にかかわるリスク因子に関する研究. 第 92 回神奈川県感染症医学会, 2024.
- 16) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 第 63 回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会, 2024.
- 17) 國島広之. CDI 診療/感染対策の最先端. 第 36 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2025.
- 18) 高野 知憲, 相葉 裕幸, 大柳 忠智, 永田 恵理, 黒沢 未希, 竹内 萌, 小野 裕太, 賀来 満夫, 竹村 弘, 國島 広之. *Mycobacterium colombiense* による腋窩リンパ節炎を生じた T 細胞性リンパ腫患者の一例. 第 36 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2025.
- 19) 高野知憲, 國島広之. 便培養検査が診断の決め手となったボツリヌス症の一例. 第 54 回日本嫌気性菌感染症学会総会・学術集会, 2025.

② 国際学会

- 1) tomonori takano, hiroyuki kunishima. Changes in *Staphylococcus aureus* antimicrobial susceptibility during the COVID-19 pandemic. 34th European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases - ECCMID 2024, 2024.
- 2) tomonori takano, hiroyuki kunishima. First case of bacterial meningitis caused by *Bacteroides pyogenes*. 34th European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases - ECCMID 2024, 2024.
- 3) tomonori takano, Koji Haruka, Oyanagi Tadatomo, Kunishima Hiroyuki.. A study of 36 cases in which *Bacteroides pyogenes* was isolated. *Anaerobe* 2024, 2024.
- 4) tomonori takano. Aiba Hiroyuki, Otsubo S, Yamaya M, Yanagisawa H, Kaku Mitsuo, Kunishima Hiroyuki. The clindamycin resistance rates of *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* in Tokyo have not changed since the COVID-19 pandemic. 33rd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy, 2024.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著	1	5
	解説又は総説	5	1
	症例報告	1	1
	その他	1	1
学会発表	国内学会	19	
	国際学会		4
	その他		

緩和医療学

著書

- 1) 橋口さおり. 緩和ケアとがんの痛みの治療 麻酔科学レビュー2024 2024;:284-288.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 橋口さおり, 宮島加耶, 森山久美. 再発・転移をきたした難治性がん患者をチームで支える. 産科と婦人科, 2024;91(11): 1209-1214.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Jun Hamano, Takahiro Higashibata, Takaomi Kessoku, Shinya Kajiura, Mami Hirakawa, Shunsuke Oyamada, Keisuke Ariyoshi, Takeshi Yamada, Yoshiyuki Yamamoto, Yasuyuki Takashima, Kosuke Doki, Masato Homma, Bryan J. Mathis, Tsumugi Jono, Tomoki Ogata, Kosuke Tanaka, Yuki Kasai, Michihiro Iwaki, Akiko Fuyuki, Atsushi Nakajima, Ryuji Hayashi, Takayuki Ando, Naoki Izawa, Yuko Kobayashi, Yoshiki Horie, Tatsuya Morita. Naldemedine for opioid-induced constipation in patients with cancer: A multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled trial. Journal of clinical oncology : official journal of the American Society of Clinical Oncology, 2024;42(35) : 4206-4217.

② 総説又は症例解説

- 1) Mamiya K, Iida H, Iseki M, Yamaguchi S, Yonekura H, Ueno H, Kosugi T, Sasara T, Takao Y, Takasusuki T, Hashiguchi S, Hirakawa N, Sugiyama Y, Yamada K, Yamamoto K. Consensus statement on chronic pain treatment in cancer survivors. Journal of anesthesia, 2024;39 : 161-181.

学会発表

① 国内学会

- 1) 橋口さおり. 合同シンポジウム1〈日本ペインクリニック学会〉がんサバイバーの慢性疼痛への対応 がんサバイバーの慢性疼痛治療: 総論と日本ペインクリニック学会 「がんサバイバーの慢性疼痛治療に関するステートメント」の紹介. 第17回日本緩和医療薬学会年会, 2024.
- 2) 橋口さおり. 専門医・認定医フォーラム【日本緩和医療学会専門医認定委員会、専門医育成・教育委員会】 日本専門医機構サブスペシャリティ領域専門医制度. 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024.
- 3) 森山久美. クモ膜下フェノールブロックにて難治性肛門部痛とともに排便困難とADLが改善した大腸癌仙骨転移の一症例. 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024.
- 4) 伊藤一希, 黒田貴子, 山田都, 在原卓, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 本吉愛, 川本久紀, 西川徹, 榎野宣久, 津川浩一郎. チーム医療の実践により死別前に家族ケアを導入した乳癌患者遺族の一例. 第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024.
- 5) 黒田貴子, 佐々木美紀, 伊藤一希, 喜多島美奈, 田雑瑞穂, 佐戸綾子, 古川尚美, 東郷淳子, 橋口さおり, 津川浩一郎. 母親の終末期を受け入れられない子供への積極的介入を行なった乳癌患者の一例. 第29回日本緩和医療学会学術大会 第

37 回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会, 2024.

- 6) 橋口さおり. がんサバイバーの慢性疼痛管理における薬物療法. 日本ペインクリニック学会第 58 回学術集会, 2024.
- 7) 平川麻美, 黒田貴子, 富成智子, 久代裕一郎, 中村千里, 佐戸綾子, 吉岡千恵子, 小林祐子, 橋口さおり. 髄膜癌腫症による頭痛に対して腰椎腹腔シャントが有用であった 1 例. 第 6 回日本緩和医療学会関東・甲信越支部学術大会, 2024.
- 8) 橋口さおり. 麻酔科医としての死生観-何を大切に生きてきたか-. 日本臨床麻酔学会第 44 回大会, 2024.
- 9) 橋口さおり. がん性疼痛治療の考え方の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-. 日本ペインクリニック学会第 5 回東京・南関東支部学術集会, 2025.

② その他

- 1) 橋口さおり. がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～. 緩和ケアセミナー, 2024.
- 2) 橋口さおり. がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～. 第 43 回こうかんクリニカルカンファレンス, 2024.
- 3) 橋口さおり. がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～. 杉並内科医会学術講演会, 2024.
- 4) 橋口さおり. がん治療医が取り組む疼痛アセスメント基本のキ. ジクトルテープ発売 3 周年記念 Web 講演会, 2024.
- 5) 橋口さおり. がんサバイバーの慢性疼痛治療. 第 10 回両毛地区痛み WEB 研究会 (学術講演会), 2024.
- 6) 橋口さおり. がん疼痛患者のセルフマネジメントをサポートする. ヒドロモルフォン Web セミナー, 2024.
- 7) 橋口さおり. がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～. これからの緩和ケアを考える, 2024.
- 8) 橋口さおり. 痛み治療の考え方の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-. Pain Management Conference, 2024.
- 9) 橋口さおり. がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～. 実臨床における緩和ケア診療を考える会～多職種連携による疼痛マネジメント～, 2024.
- 10) 橋口さおり. オピオイドにみる日本の緩和医療の変遷. 緩和ケア連携セミナー～慶應義塾大学病院緩和ケアセンター 10 年のあゆみ～, 2024.
- 11) 橋口さおり. がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～. 癌治療と疼痛管理 Web, 2024.
- 12) 森山久美. 緩和ケア病棟におけるがん性疼痛治療～薬物療法を中心に～. 第 11 回がん疼痛マネジメント研究会, 2024.
- 13) 橋口さおり. がん性疼痛治療のピットフォール-神経障害の要素まで意識する-. 地域で支える！がん疼痛治療連携セミナー, 2024.
- 14) 橋口さおり. がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～. 緩和医療域薬剤師養成研究会公開講座, 2024.
- 15) 橋口さおり. 痛み治療の考え方の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-. 第 43 回生駒緩和医療研究会, 2024.
- 16) 橋口さおり. がん患者の苦痛にどう対応するか-診断時からサバイバーシップケアまで-. Meet The Expert～がん診断時からの緩和ケア～, 2024.
- 17) 橋口さおり. がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～. Pain Management Web Seminar, 2024.
- 18) 橋口さおり. がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～. Palliative Care Seminar, 2024.
- 19) 橋口さおり. がん性疼痛治療のピットフォール-神経障害の要素まで意識する-. Supportive Care Web Seminar, 2025.
- 20) 橋口さおり. がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～. 第 12 回神奈川西部癌治療研究会, 2025.
- 21) 橋口さおり. がん性疼痛治療の進歩-医療用麻薬の適正使用と OIC 対策-. Pain Relief Forum in KAWASAKI～to improve cancer treatment～, 2025.
- 22) 橋口さおり. がん疼痛治療の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-. 第 22 回埼玉県北部緩和ケア懇話会, 2025.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		1
	解説又は総説	1	1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	9	
	国際学会		
	その他	22	

医学教育研究

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Takeshi Kondo, Takeshi Onoue, Seisyou Kou, Yoshikazu Asada, Masanori Isobe, Hiroshi Nishigori,. Implementing digital transformation in the revision process for Japan's Model Core Curriculum: A qualitative document analysis. Medical Teacher, 2024;46(1) : 53-60.
- 2) Takeshi Onoue, Yoshikazu Asada, Rintaro Imafuku, Seisyou Kou, Hideki Takami, Yuzo Takahashi, Osamu Nomura, Takuya Saiki,. Developing competencies relating to information science and technology in Japanese undergraduate medical education. Medical Teacher, 2024;46(1) : 31-37.
- 3) Saki Muroya, Sachiko Ohde, Takako Morita, Seisyou Kou, Yosuke Homma, Joshua L. Jacobs, Gautam A. Deshpande,. Findings of the Resident Workload using Mobile Application in Japan. The official peer-reviewed and open-access scientific journal of the Japan Medical Association and the Japanese Association of Medical Sciences, 2024; : DOI-10.31662/jmaj.2024-0094.

学会発表

① 国内学会

- 1) 川口 剛史、黄 世捷、黒田 貴子、月山 秀一、古田 繁行. 研修医の360度評価表の見直し：多職種の視点と医師の視点. 第56回医学教育学会大会, 2024.
- 2) 松山 泰, 三原 弘, 菅野 武, 黄 世捷, 鋪野 紀好, 田鎖 愛理, 林 幹雄, 松本 卓子. 国試CBT化を見据えた動画・音声付ICT教材を作成しよう. 第56回医学教育学会大会, 2024.
- 3) 伊佐早 健司、黄 世捷、中村 祐太、清水 高弘、山野 嘉久. Google Classroomを活用したデュアルカンファレンスの実践：ICTの”導入”から”統合”へ. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 4) ○三輪敬蔵、望月篤、東郷建、黄世捷、松澤瞳、佐野政子、星野紀子、信岡祐彦、伊野美幸. 全教職員向け多職種研修の充実に向けた取組について. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 5) 藤川葵、浦野哲哉、安井浩樹、伊野美幸、岡崎史子、松山泰、田口則宏. 医療現場の働き方改革：医師の労働時間管理と医学教育の課題. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 6) 安井浩樹、高橋誠、石原慎、石丸裕康、近藤昭信、磯部真倫、落合甲太、伊野美幸、松島加代子. 研修医OSCEの振り返りと新たな可能性について. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 7) 中村祐太、中村幸嗣、伊佐早健司、黄世捷、前畑忠輝、古田繁行. 多職種評価の妥当性・信頼性の向上と評価者の心理的安全性の向上：認定評価者養成講習の実践報告. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 8) ○望月篤、東郷建、黄世捷、高橋政樹、松本伸行、田嶋ティナ宏子、信岡祐彦、伊野美幸. 改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した新カリキュラム構築への取り組み. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 9) 野呂瀬崇彦、石川さと子、伊野美幸、内山靖、大槻真嗣、加藤博孝、後藤道子、後藤亮平、佐野樹、末松三奈、前野貴美、安井浩樹、吉見憲二、岡美智代、木村聡子、小坂泰子、二瓶映美、樋口倫子、吉野亮子、松本光寛. 職種間理解のための対話的プログラムDMIUを体験してみよう！. 第56回日本医学教育学会大会, 2024.
- 10) 黄世捷. 指導医が知っておきたい医学教育の最新動向. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 11) 黄世捷. シミュレーション教育の未来 進化する技術と医療現場の融合. 第12回日本シミュレーション医療教育学会学術大会, 2024.

② 国際学会

- 1) 黄 世捷. 第 22 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 第 22 回日本臨床腫瘍学会, 2025.

③ その他

- 1) 黄世捷. BESTCare 日常診療に役立つ操作のコツ. 第 23 回臨床研究セミナー (大学院特別講義), 2024.
- 2) 伊野美幸. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ①, 2024.
- 3) 伊野美幸. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ①, 2024.
- 4) 伊野美幸. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ①, 2024.
- 5) 伊野美幸. 初期臨床研修における多様性への理解. 臨床研修センター 責任指導医養成ワークショップ, 2024.
- 6) 伊野美幸. ワークショップとは. 第 8 回一般教養・基礎社会医学系教員のためのカリキュラムプランニングワークショップ, 2024.
- 7) 伊野美幸. 能動的学習. 第 8 回一般教養・基礎社会医学系教員のためのカリキュラムプランニングワークショップ, 2024.
- 8) 伊野美幸. 方略. 第 8 回一般教養・基礎社会医学系教員のためのカリキュラムプランニングワークショップ, 2024.
- 9) 望月篤. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ②, 2024.
- 10) 望月篤. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ②, 2024.
- 11) 望月篤. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ②, 2024.
- 12) 伊野美幸. 指導医のリーダーシップとモチベーション. 第 51 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ, 2024.
- 13) 黄世捷. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ③, 2024.
- 14) 黄世捷. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ③, 2024.
- 15) 伊野美幸. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ③, 2024.
- 16) 伊野美幸. フィードバック技法. 第 34 回青森県医師臨床研修対策協議会 医師臨床研修指導医ワークショップ, 2024.
- 17) 伊野美幸. リーダーシップ・コーチング. 第 34 回青森県医師臨床研修対策協議会 医師臨床研修指導医ワークショップ, 2024.
- 18) 黄世捷. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ④, 2024.
- 19) 黄世捷. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ④, 2024.
- 20) 黄世捷. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ④, 2024.
- 21) 伊野美幸. ワークショップとは. 令和 6 年度 防衛医科大学校医学教育ワークショップ, 2024.
- 22) 伊野美幸. パフォーマンス評価. 令和 6 年度 防衛医科大学校医学教育ワークショップ, 2024.
- 23) 伊野美幸. 最近の医学教育について. 第 102 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海 (三重), 2024.
- 24) 伊野美幸. これからの時代の視点としての DEI (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン ; 多様性・公平性&包括性). 令和 6 年度 学年別保護者懇談会, 2024.
- 25) 望月篤. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑤, 2024.
- 26) 望月篤. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑤, 2024.
- 27) 望月篤. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑤, 2024.
- 28) 伊野美幸. 聖マリアンナ医科大学におけるダイバーシティキャリア支援について～女性医師支援からダイバーシティ&インクルージョンを目指して～. 川崎市医師会 川崎市女性医師の会設立記念講演会, 2024.
- 29) 伊野美幸. アイスブレイクについて. 北里大学病院臨床研修指導医養成ワークショップ, 2024.
- 30) 伊野美幸. 指導医のコーチング. 北里大学病院臨床研修指導医養成ワークショップ, 2024.
- 31) 望月篤. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑥, 2024.

- 32) 望月篤. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑥, 2024.
- 33) 望月篤. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑥, 2024.
- 34) 伊野美幸. JACME2 巡目受審にむけて. 金沢医科大学 医学教育に関するワークショップ, 2024.
- 35) 伊野美幸. アウトカム テーマ決定. 第 179 回臨床研修指導医講習会, 2024.
- 36) 伊野美幸. 最近の医学教育について. 第 179 回臨床研修指導医講習会, 2024.
- 37) 伊野美幸. 指導医のリーダーシップとモチベーション. 第 52 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ, 2024.
- 38) 伊野美幸. アウトカム基盤型カリキュラム (目標). 第 49 回医学教育者のためのワークショップ, 2024.
- 39) 伊野美幸. 総合討論. 第 49 回医学教育者のためのワークショップ, 2024.
- 40) 伊野美幸. メディカルサポートコーチング. 第 23 回 埼玉医科大学病院群 臨床研修指導医講習会, 2024.
- 41) 伊野美幸. 1 分間指導法. 第 23 回 埼玉医科大学病院群 臨床研修指導医講習会, 2024.
- 42) 伊野美幸. フィードバック技法. 2024 年度 多摩病院若手職員研修①, 2024.
- 43) 伊野美幸. コミュニケーション. 2024 年度 多摩病院若手職員研修①, 2024.
- 44) 伊野美幸. メンタリング. 2024 年度 多摩病院若手職員研修①, 2024.
- 45) 黄世捷. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑦, 2024.
- 46) 黄世捷. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑦, 2024.
- 47) 黄世捷. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑦, 2024.
- 48) 伊野美幸. フィードバック技法. 2024 年度 西部病院若手職員研修①, 2024.
- 49) 伊野美幸. メンタリング. 2024 年度 西部病院若手職員研修①, 2024.
- 50) 伊野美幸. コミュニケーション. 2024 年度 西部病院若手職員研修①, 2024.
- 51) 伊野美幸. 職場のメンタルヘルス. 国立文楽劇場 メンタルヘルス講演, 2025.
- 52) 伊野美幸. リーダーシップ・コーチング. 第 35 回青森県医師臨床研修対策協議会 医師臨床研修指導医ワークショップ, 2025.
- 53) 伊野美幸. フィードバック技法. 第 35 回青森県医師臨床研修対策協議会 医師臨床研修指導医ワークショップ, 2025.
- 54) 黄世捷. コーチング. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑧, 2025.
- 55) 黄世捷. リーダーシップ. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑧, 2025.
- 56) 黄世捷. モチベーションマネジメント. 2024 年度 リーダー養成ワークショップ⑧, 2025.
- 57) 伊野美幸. コミュニケーション. 2024 年度 若手職員研修①, 2025.
- 58) 伊野美幸. メンタリング. 2024 年度 若手職員研修①, 2025.
- 59) 伊野美幸. フィードバック技法. 2024 年度 若手職員研修①, 2025.
- 60) 伊野美幸. メンタリング. 2024 年度 若手職員研修①, 2025.
- 61) 伊野美幸. コミュニケーション. 2024 年度 若手職員研修①, 2025.
- 62) 伊野美幸. フィードバック技法. 2024 年度 若手職員研修①, 2025.
- 63) 伊野美幸. 「基礎研究医プログラム」について. AJMC 新たな地域医療構想等に関する連絡会, 2025.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		3
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	11	
	国際学会	1	
	その他	63	

人文・社会科学

学会発表

① その他

- 1) 小田武彦, 渡邊清子, 鈴木和枝, 横山恵也, . 人間性の内側からの刷新を促すもの. 『見よ、それはきわめてよかった
総合的なエコロジーへの招き』出版記念シンポジウム, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会		
	国際学会		
	その他	1	

語学系

学会発表

① 国内学会

- 1) Jeanette Dennisson, Gary Ross. ChatGPT as a Learning Assistant and Simulated Patient. The 27th JASMEE Academic Meeting, 2024.

② 国際学会

- 1) Jeanette Dennisson, Gary Ross. Utilizing ChatGPT for spoken task-based practices. Computer-Assisted Language Learning Japan Association for Language Teaching, 2024.
- 2) Jeanette Dennisson, Gary Ross. Building speaking and listening tasks in ChatGPT with effective prompts. PanSIG, 2024.
- 3) Jeanette Dennisson, Gary Ross. Combining ChatGPT/Gemini with Interactive Speech for Authentic Spoken Language Practice. European Association for Computer-Assisted Language Learning, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会		1
	国際学会		3
	その他		

医学情報学

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Chie Hayakawa, Masahiro Hoshikawa, Johji Imura, Takahiko Ueno, Junki Koike. Verifying a novel bile cytology scoring system. Diagnostic Cytopathology, 2024;52(9) : 485-498.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		1
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会		
	国際学会		
	その他		

医学教育文化部門（医療倫理学）

著書

- 1) 橋口さおり．緩和ケアとがんの痛みの治療 麻酔科学レビュー2024 2024;:284-288.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 橋口さおり，宮島加耶，森山久美．再発・転移をきたした難治性がん患者をチームで支える．産科と婦人科，2024;91(11) : 1209-1214.

学術論文[英文]

① 総説又は症例解説

- 1) Mamiya K, Iida H, Iseki M, Yamaguchi S, Yonekura H, Ueno H, Kosugi T, Sasara T, Takao Y, Takasusuki T, Hashiguchi S, Hirakawa N, Sugiyama Y, Yamada K, Yamamoto K. Consensus statement on chronic pain treatment in cancer survivors. Journal of anesthesia, 2024;39 : 161-181.

学会発表

① 国内学会

- 1) 橋口さおり．合同シンポジウム1〈日本ペインクリニック学会〉がんサバイバーの慢性疼痛への対応 がんサバイバーの慢性疼痛治療：総論と日本ペインクリニック学会 「がんサバイバーの慢性疼痛治療に関するステートメント」の紹介．第17回日本緩和医療薬学会年会，2024.
- 2) 橋口さおり．専門医・認定医フォーラム【日本緩和医療学会専門医認定委員会、専門医育成・教育委員会】 日本専門医機構サブスペシャリティ領域専門医制度．第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会，2024.
- 3) 黒田貴子，佐々木美紀，伊藤一希，喜多島美奈，田雑瑞穂，佐戸綾子，古川尚美，東郷淳子，橋口さおり，津川浩一郎．母親の終末期を受け入れられない子供への積極的介入を行なった乳癌患者の一例．第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会，2024.
- 4) 橋口さおり．がんサバイバーの慢性疼痛管理における薬物療法．日本ペインクリニック学会第58回学術集会，2024.
- 5) 平川麻美，黒田貴子，富成智子，久代裕一郎，中村千里，佐戸綾子，吉岡千恵子，小林祐子，橋口さおり．髄膜癌腫症による頭痛に対して腰椎腹腔シャントが有用であった1例．第6回日本緩和医療学会関東・甲信越支部学術大会，2024.
- 6) 橋口さおり．麻酔科医としての死生観-何を大切に生きてきたか-．日本臨床麻酔学会第44回大会，2024.
- 7) 橋口さおり．がん性疼痛治療の考え方の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-．日本ペインクリニック学会第5回東京・南関東支部学術集会，2025.

② その他

- 1) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．緩和ケアセミナー，2024.
- 2) 橋口さおり．がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～．第43回こうかんクリニカルカンファレンス，2024.
- 3) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．杉並内科医会学術講演会，2024.
- 4) 橋口さおり．がん治療医が取り組む疼痛アセスメント基本のキ．ジクトルテープ発売3周年記念Web講演会，2024.

- 5) 橋口さおり．がんサバイバーの慢性疼痛治療．第10回両毛地区痛みWEB研究会（学術講演会），2024.
- 6) 橋口さおり．がん疼痛患者のセルフマネジメントをサポートする．ヒドロモルフォンWebセミナー，2024.
- 7) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．これからの緩和ケアを考える，2024.
- 8) 橋口さおり．痛み治療の考え方の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-. Pain Management Conference, 2024.
- 9) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．実臨床における緩和ケア診療を考える会～多職種連携による疼痛マネジメント～，2024.
- 10) 橋口さおり．オピオイドにみる日本の緩和医療の変遷．緩和ケア連携セミナー～慶應義塾大学病院緩和ケアセンター10年のあゆみ～，2024.
- 11) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．癌治療と疼痛管理 Web, 2024.
- 12) 橋口さおり．がん性疼痛治療のピットフォール-神経障害の要素まで意識する-. 地域で支える！がん疼痛治療連携セミナー，2024.
- 13) 橋口さおり．がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～．緩和医療域薬剤師養成研究会公開講座，2024.
- 14) 橋口さおり．痛み治療の考え方の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-. 第43回生駒緩和医療研究会，2024.
- 15) 橋口さおり．がん患者の苦痛にどう対応するか-診断時からサバイバーシップケアまで-. Meet The Expert～がん診断時からの緩和ケア～，2024.
- 16) 橋口さおり．がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～．Pain Management Web Seminar, 2024.
- 17) 橋口さおり．がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～．Palliative Care Seminar, 2024.
- 18) 橋口さおり．がん性疼痛治療のピットフォール-神経障害の要素まで意識する-. Supportive Care Web Seminar, 2025.
- 19) 橋口さおり．がん性疼痛治療のピットフォール～神経障害の要素まで意識する～．第12回神奈川西部癌治療研究会，2025.
- 20) 橋口さおり．がん性疼痛治療の進歩-医療用麻薬の適正使用と OIC 対策-. Pain Relief Forum in KAWASAKI～to improve cancer treatment～，2025.
- 21) 橋口さおり．がん疼痛治療の進歩-医療用麻薬を正しく使うために-. 第22回埼玉県北部緩和ケア懇話会，2025.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		
	解説又は総説	1	1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	7	
	国際学会		
	その他	21	

応用分子腫瘍学

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Wenwen Wu, Jing Zhu, Naoe Taira Nihira, Yukiko Togashi, Atsushi Goda, Junki Koike, Kiyoshi Yamaguchi, Yoichi Furukawa, Takuya Tomita, Yasushi Saeki, Yoshikazu Johmura, Makoto Nakanishi, Yasuo Miyoshi, Tomohiko Ohta. Ribosomal S6 kinase (RSK) plays a critical role in DNA damage response via the phosphorylation of histone lysine demethylase KDM4B. Breast cancer research : BCR, 2024;26(1) : 146-146.
- 2) Naoe Taira Nihira, Tomohiro Takeyama, Wenwen Wu, Tomohiko Ohta. The Potential Impact of BI-D1870, a Ribosomal S6 Kinase Inhibitor, on PD-L1 Expression Control. Journal of St. Marianna University, 2024;15(2) : 45-52.
- 3) Naoe T Nihira, Wenwen Wu, Mitsue Hosoi, Yukiko Togashi, Shigeaki Sunada, Yasuo Miyoshi, Yoshio Miki, Tomohiko Ohta. Nuclear PD-L1 triggers tumour-associated inflammation upon DNA damage. EMBO reports, 2025;26 : 635-655.
- 4) Tetsuyo Maeda, Makiko Ono, Tomo Osako, Tomohiro Chiba, Satoko Baba, Asumi Iesato, Yukinori Ozaki, Yuka Inoue, Natsue Uehiro, Yoko Takahashi, Takayuki Kobayashi, Takahiro Kogawa, Tomohiko Ohta, Shigehisa Kitano, Takayuki Ueno, Shinji Ohno. Prognostic Impact of Stimulator of Interferon Genes Expression in Triple Negative Breast Cancer. Cancer Medicine, 2025;14(4) : 1-13.
- 5) Naoe Taira Nihira, Rei Kudo, Tomohiko Ohta. Inflammation and tumor immune escape in response to DNA damage. Seminars in cancer biology, 2025;110 : 36-45.

② 総説又は症例解説

- 1) Zhao Xuejing, Nihira Naoe Taira, Dai Xiangpeng, Liu Zichuan. Editorial: Community series in post-translational modifications of proteins in cancer immunity and immunotherapy, volume III. Frontiers in Immunology, 2024;15 : 01-03.

学会発表

① 国内学会

- 1) 仁平直江. DNA 損傷応答と免疫チェックポイント：研究の最前線. 第4回日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構（JOHBOC）学術総会, 2024.
- 2) 永澤慧, 岩谷胤生, 本吉愛, 瀧下茉莉子, 垣本紗代子, 山内稚佐子, 横江隆道, 綿貫瑠莉奈, 小池淳樹, 長宗我部基弘, 小島康幸, 前田一郎, 大西達也, 太田智彦, 津川浩一郎, 鈴木穰. 多細胞間遺伝子ネットワーク解析による非浸潤性乳管がんの進展過程の原理解明に基づいたリスク層別化の取り組み（～非浸潤性乳管がんの治療精密化を目指して～）. 第32回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 3) 仁平直江. 免疫チェックポイント分子 PD-L1 による cGAS-STING 経路の活性化と炎症の誘導. 第47回日本分子生物学会, 2024.

② 国際学会

- 1) Naoe T Nihira. Nuclear PD-L1 facilitates inflammation mediated by the cGAS-STING pathway in response to DNA damage. 13th AACR-JCA Joint Conference, 2025.

③ その他

- 1) 仁平直江. DNA 損傷による炎症と PD-L1. 第11回 DNA 損傷応答ワークショップ, 2024.
- 2) 仁平直江. PD-L1 による cGAS-STING 経路の活性化と炎症誘導. 2025 年がん関連三学会 Rising Star ネットワーキング, 2025.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		5
	解説又は総説		1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		1
	その他	2	

難治性疾患病態制御学

著書

- 1) 染村 嵩, 遊道 和雄, 杉下 陽堂, 鈴木 由妃, 藤谷 博人, 熊井 隆智, 寺内 昂, 仁木 久照. 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と骨形成の制御 BIO Clinica 2024;13(39):58-61.
- 2) 遊道和雄. 筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群(ME/CFS)と線維筋痛症(FM) 今日の治療指針 2025 年版 2025;;889-890.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Shu Somemura, Masahiro Takemoto, Kazuo Yudoh, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya.. Pain Candidate Genes 5-HTTLPR and COMT Affect Anxiety and Mood in Japanese Ballet Dancers: A Cross-Sectional and Longitudinal Study. Sports, 2024;12(11) : 293; e1-e12.
- 2) Sookhee Pae, Anna S Sedukhina, Runa Sugiyama, Sarah J Atanacio, Tatsuru Ohara, Masato Ishii, Kimino Minagawa, Romaan Akichjev, Fumie Go, Zayan Chandankeri, Zoran M M Janjetic, Eri Sato, Ayako Yamaura, Rei Meguro, K ishore Palanisamy, Ichiro Maeda, Osamu Takeuchi, Nao Suzuki, Kazuo Yudo, J uan A Bernal, Ko Sato. PLK1 overexpression suppresses homologous recombination and confers cellular sensitivity to PARP inhibition. Scientific Reports, 2024;14(1) : 31276.
- 3) Rie Komatsu, Ryoji Fujii, Toru Ogasawara, Yuki Suzuki-Takahashi, Sandy Chen, Yodo Sugishita, Hisateru Niki, Kazuo Yudoh. CDK6-Dependent, CDK4-Independent Synovial Hyperplasia in Arthritic Mice and Tumor Necrosis Factor- α -Induced Proliferation of Synovial Fibroblasts. International journal of molecular medicine, 2025;26(3) : 1151.

② 総説又は症例解説

- 1) Sugishita Y, Suzuki-Takahashi Y, Yudoh K.. Nicotinamide Adenine Dinucleotide (NAD)-Dependent Protein Deacetylase, Sirtuin, as a Biomarker of Healthy Life Expectancy: A Mini-Review. Curr Aging Sci., 2024; : doi: 10.2174/0118746098319674240827104612..

学会発表

① 国内学会

- 1) 宮田龍臣、宮部千恵、宮部斎重、遊道和雄、石黒直子. 血管炎における血清と皮膚の微生物叢の変化. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 2) 小松梨恵、藤井亮、仁木久照、遊道和雄. TNF α 誘導性滑膜線維芽細胞増殖における抗リウマチ薬による R B リン酸化制御の違い. 第 68 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 3) 杉下陽堂、鈴木由妃、杉下陽堂、田中愛美、佐藤淑子、小松梨恵、唐澤里江、藤井亮爾、世古卓也、山下由美子、山下倫明、臼井一茂、遊道和雄. 培養軟骨細胞・滑膜細胞におけるプラセンタ製剤の MMP-13 の産生抑制効果の検討. 第 24 回日本抗加齢医学会総会, 2024.
- 4) 遊道和雄、鈴木由妃、杉下陽堂、田中愛美、佐藤淑子、小松梨恵、唐澤里江、藤井亮爾、世古卓也、山下由美子、山下倫明、臼井一茂、. マグロ肉の継続摂取による長寿遺伝子関連蛋白(sirtuin 2)の発限度の変化：末梢血および口腔粘膜における sirtuin 2 濃度解析. 第 24 回日本抗加齢医学会総会, 2024.

- 5) 鈴木由妃、杉下陽堂、田中愛美、佐藤淑子、小松梨恵、唐澤里江、藤井亮爾、世古卓也、山下由美子、山下倫明、臼井一茂、遊道和雄. マグロ肉の継続摂取による長寿遺伝子関連蛋白 (sirtuin) 発現増強のメカニズム. 第 24 回日本抗加齢医学会総会, 2024.
- 6) 杉下陽堂, 鈴木由妃、遊道和雄. 培養軟骨細胞・滑膜細胞におけるプラセンタ製剤における MMP-13 の生産抑制効果の可能性. 第 26 回日本骨粗鬆症学会, 2024.
- 7) 藤井亮爾, 小松梨恵, 小笠原徹, チェンサンディ, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 仁木久照, 遊道和雄. TNF α 誘導性関節リウマチ滑膜線維芽細胞増殖およびコラーゲン誘導性関節炎における CDK6 阻害剤の効果. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 8) 小松梨恵, 藤井亮爾, 小笠原徹, チェンサンディ, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 仁木久照, 遊道和雄. TNF α 誘導性滑膜線維芽細胞増殖およびコラーゲン誘導性関節炎マウスにおける CDK4/6 の機能解析. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 9) 杉下陽堂, 鈴木由妃、五十嵐豪、遊道和雄. 閉経後関節症、変形性関節症における軟骨破壊を誘導する軟骨基質分解酵素 MMP-13 をプラセンタ製剤が抑制を示す新発見. 第 39 回日本女性医学学会学術集会, 2024.

② 国際学会

- 1) Kazuo Yudoh, Yodo Sugishita, Yuki Suzuki. NAD-dependent deacetylase sirtuin-1 mediates the mechanical stress-induced degeneration of articular cartilage in osteoarthritis: mechanical stress stimulates the expression of osteogenic transcription factor Runx2 via the sirtuin-1 activation in chondrocytes. 2024 OARSI World Congress on Osteoarthritis, 2024.

③ その他

- 1) 遊道和雄. 健康長寿のためのマグロ血合肉の効能. マグロ血合新ネーム発表記念講演会&神奈川県水産技術センター研究発表会, 2024.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著		3
	解説又は総説		1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	9	
	国際学会		1
	その他	1	

難病治療研究センター

著書

- 1) 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) 実践シェアード・ディシジョンメイキング 2024; (第2版):218-224.
- 2) 染村 嵩, 遊道 和雄, 杉下 陽堂, 鈴木 由妃, 藤谷 博人, 熊井 隆智, 寺内 昂, 仁木 久照. 骨芽細胞におけるエネルギー代謝調節因子を介する力学的ストレス応答と骨形成の制御 BIO Clinica 2024;13(39):58-61.
- 3) 北島道夫, 泉玄太郎, 杉下陽堂. 女性生殖器 小児・AYA 世代がん患者等の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2024; (2):92-152.
- 4) 遊道和雄. 筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群 (ME/CFS) と線維筋痛症 (FM) 今日の治療指針 2025 年版 2025;:889-890.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 洞下由記, 岩端秀之, 古谷菜摘, 中村健太郎, 田雜瑞穂, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 本吉愛, 高江正道, 津川浩一郎, 鈴木直. 乳がん術後内分泌療法後に短期間で生児を得た事例の検証. 日本がん・生殖医療学会誌, 2025;8(1):25-30.
- 2) 正高佑志, 梅村二葉, 三木直子, 秋野公造, 赤星栄志, 三上礼子, 山野嘉久, 太組一朗. カンナビノイド製品はどのように使われているのか 国内患者会調査結果の概要. 日本統合医療学会雑誌, 2025;17:1-19.

② 総説又は症例解説

- 1) 眞木二葉, 山野嘉久. 経頭蓋 MR ガイド下集束超音波治療の実際. 神経治療学, 2024;41(2):85-89.
- 2) 山野嘉久. 難病領域におけるレジストリ活用の動向 ～難病プラットフォームについて～. 神経治療学, 2024;41(3):277-279.
- 3) 山野嘉久. 希少疾患における遠隔医療 ～HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) などを例に～. 神経治療学, 2024;41(4):504-507.
- 4) 八木下尚子, 山野嘉久. 新規 HTLV-1 感染カニクイザルモデルを用いた HAM の発症予防法の開発. オペリスク, 2025;30(1):16-20.
- 5) 山野嘉久. リアルワールドデータ・エビデンスを活用した研究推進に向けて ―アカデミアが貢献する難病プラットフォームを含めた基盤の整備―. 神経治療学, 2025;42(1):29-32.

③ 症例報告

- 1) 赤松伸太郎, 水上平祐, 木村暁夫, 下畑享良, 白石真, 山野嘉久. 繰り返す呼吸不全を認めた IgLON5 抗体関連疾患の 1 例. 臨床神経学, 2024;65(3):218-223.

④ その他

- 1) 山野嘉久. 神経難病におけるリアルワールドデータ活用. NEURO LOGICA, 2024; (3):12.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ono Y, Tadokoro K, Yunoki T, Yamashita T, Sato D, Sato H, Akamatsu S, Mizukami H, Ohta Y, Yamano Y, Kimura A, Takayoshi S. Anti-IgLON5 disease as a differential diagnosis of multiple system atrophy. Parkinsonism and related disorders, 2024;124:106992.
- 2) Mizukami H, Shiraishi M, Hino S, Kaburagi M, Matsumoto H, Hagiwara Y, Yamano Y.. Utility of Combining Transcranial Sonography and MIBG Myo-2 cardiac Scintigraphy to Evaluate Substantia Nigra in Patients 3 with Parkinson's Disease. Brain sciences, 2024;14(6):524.

- 3) Sakurai K, Takao N, NakanoY, Imai T, Isahaya K, Yamano Y. Exploring Digital Biomarkers Using Smartphones for Fatigue Assessment in Patients with Multiple Sclerosis. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*, 2024;15(4) : 164-168.
- 4) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. *International journal of clinical oncology*, 2024;29(5) : 571-581.
- 5) Sato Tomoo, Nagai Masahiro, Watanabe Osamu, Misu Tatsuro, Takenouchi Norihiro, Ohkubo Ryuichi, Ishihara Satoshi, Tsuboi Yoshio, Katsuno Masahisa, Nakagawa Masanori, Matsushita Takuya, Aso Yasuhiro, Matsuura Eiji, Tokashiki Takashi, Mukaino Akihiro, Adachi Hiroaki, Nakanishi Kaoru, Yamaguchi Yusuke, Yamaguchi Saaya, Yamano Yoshihisa.. Multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled phase 3 study of mogamulizumab with open-label extension study in a minimum number of patients with human T-cell leukemia virus type-1-associated myelopathy. *Journal of neurology*, 2024;271(6) : 3471-3485.
- 6) Kuwabara S, Kusunoki S, Kuwahara M, Yamano Y, Nishida Y, Ishida H, Kasuya T, Kupperman E, Lin Q, Frick G, Misawa S. Efficacy and Safety of Eculizumab in Guillain-Barré Syndrome : A Phase3, Multicenter, Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Clinical Trial. *Journal of the peripheral nervous system*, 2024;29(3) : 339-349.
- 7) Yoshie T, Ueda T, Hasegawa Y, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Ayabe J, Akiyama T, Yamamoto D, Mori K, Kagami H, Ito H, Onodera H, Kaga Y, Ohtsubo H, Tatsuno K, Usuki N, Takaishi S, Yamano Y, and the K-NET Registry Investigators. Endovascular Thrombectomy versus Intravenous Alteplase for Distal Vessel Occlusions: A Propensity Score-Matched Analysis. *Stroke : vascular and interventional neurology*, 2024;4(5) : 1.
- 8) Sagara Yasuko, Nakamura Hitomi, Sagara Yasuhiro, Shitsuta Etsuko, Uchimaru Kaoru, Yamano Yoshihisa, Watanabe Toshiki, Miura Kiyonori, Matsuzaki Koji.. Plasma vitamin D levels correlated the pathogenesis of human T-cell leukemia virus type 1-associated diseases. *Journal of medical virology*, 2024;96(9) : e29898.
- 9) Takaishi S, Ueda T, Usuki N, Tatsuno K, Yoshie T, Yamano Y. Age-related differences in diffusion-weighted imaging lesion volume and reversal in patients with successful recanalization after mechanical thrombectomy. *Journal of neurointerventional surgery*, 2024;0 : 1-7.
- 10) Hashimoto Kazuki, Nawata Shintaro, Wada Shinji, Hamaguchi Shingo, Tanabe Kenichiro, Mimura Hidefumi. Assessment of the deformation rate of venous diameter during internal jugular vein puncture using a newly developed thin-tip three-dimensional needle. *Journal of vascular access*, 2024; : DOI-10.1177/11297298241260904..
- 11) Yamauchi Junji, Raghavan Divya, Jweeha Duha, Oygen Suayp, Marineci Silviana, Hall Isaac E, Molnar Miklos Z.. Belatacept Versus Tacrolimus for Kidney Transplant Recipients of Deceased Donors With Acute Kidney Injury: US National Database Study. *Transplantation*, 2024;109(4) : 691-700.
- 12) Akamatsu S, Mitsunashi S, Soga K, Mizukami H, Shiraishi M, Frith MC, Yamano Y.. Targeted nanopore sequencing using the Flongle device to identify mitochondrial DNA variants. *Scientific Reports*, 2024;14(1) : 25161.

- 13) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Shu Somemura, Masahiro Takemoto, Kazuo Yudoh, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya.. Pain Candidate Genes 5-HTTLPR and COMT Affect Anxiety and Mood in Japanese Ballet Dancers: A Cross-Sectional and Longitudinal Study. *Sports*, 2024;12(11) : 293; e1-e12.
- 14) Yamauchi Junji, Raghavan Divya, Imlay Hannah, Jweeha Duha, Oygen Suayp, Marineci, Rempert Adam, Hall Isaac, Molnar Miklos Z.. Deceased Organ Donor HTLV Screening Practices Postelimination of Universal Screening in the United States. *Transplant Direct*, 2024;10(10) : e1707.
- 15) Sato Tomoo ,Yagishita Naoko , Araya Natsumi, Nakashima Makoto, Horibe Erika, Takahashi Katsunori, Kunitomo Yasuo, Nawa Yukino, Hamaguchi Isao, Yamano Yoshihisa.. Diagnostic Value of Anti-HTLV-1-Antibody Quantification in Cerebrospinal Fluid for HTLV-1-Associated Myelopathy. *Viruses*, 2024;16(10) : 1581.
- 16) Mizuike Jun, Suzuki Kako, Tosaka Shu, Kuze Yuta, Kobayashi Seiichiro, Nakashima Makoto, Jimbo Koji, Nannya Yasuhito,Suzuki Yutaka, Uchimar Kaoru, Yamagishi Makoto.. Rewired chromatin structure and epigenetic gene dysregulation during HTLV-1 infection to leukemogenesis. *Cancer Science*, 2024;116(2) : 513-523.
- 17) Ko Riyoko, Takahashi Katsunori, Kunitomo Yasuo, Tanabe Kenichiro, Yagishita Naoko, Yamauchi Junji, Araya Natsumi, Nakashima Makoto, Horibe Erika, Shimizu Takahiro, Sato Tomoo, Yamano Yoshihisa.. Performance evaluation of CXCL10 ELISA "cosmic" kit to measure CXCL10 in cerebrospinal fluid of patients with HTLV - 1 - associated myelopathy. *Clinical & experimental neuroimmunology*, 2024; : 1-7.
- 18) Izumida Y, Omura T, Fujiwara M, Nukaya S, Yoneyama A, Shinichiro Y, Noguchi R, Nakayama S, Muraoka W, Okuno Y, Miyashita S, Ishihara Y, Moriwaki Y, Otani R, Adachi J, Tanabe K, Yamano Y, Takai Y, Honjo M. Patient-Centric Approach to Personalized Electronic Medical Records via QR code in Japan. *Interactive Journal of Medical Research*, 2024;13 : e57332.
- 19) Shiraishi M, Mikami K, Kamo H, Okuma Y, Tsunemi T, Fujimoto K, Kamo T, Yokota Y, Nogawa S, Osada T, Seki M, Nagayama H, Hatano T, Nakajima H, Suzuki K, Yamamoto T, Yamano Y, Hattori N, Iijima M. The effect of subjective postural vertical on forward flexed posture in Parkinson's disease. *Parkinsonism & related disorders*, 2024; : 129:107102.
- 20) Sookhee Pae, Anna S Sedukhina, Runa Sugiyama, Sarah J Atanacio, Tatsuru Ohara, Masato Ishii, Kimino Minagawa, Roman Akichjev, Fumie Go, Zayan Chandankeri, Zoran M M Janjetic, Eri Sato, Ayako Yamaura, Rei Meguro, Kishore Palanisamy, Ichiro Maeda, Osamu Takeuchi, Nao Suzuki, Kazuo Yudo, Juan A Bernal, Ko Sato. PLK1 overexpression suppresses homologous recombination and confers cellular sensitivity to PARP inhibition. *Scientific Reports*, 2024;14(1) : 31276.
- 21) Rie Komatsu, Ryoji Fujii, Toru Ogasawara, Yuki Suzuki-Takahashi, Sandy Chen, Yodo Sugishita, Hisateru Niki, Kazuo Yudoh. CDK6-Dependent, CDK4-Independent Synovial Hyperplasia in Arthritic Mice and Tumor Necrosis Factor- α -Induced Proliferation of Synovial Fibroblasts. *International journal of molecular medicine*, 2025;26(3) : 1151.
- 22) Imamura Hiroto, Sakai Nobuyuki, Sakai Chiaki, Hyodo Akio, Ito Yasushi, Matsumaru Yuji, Miyachi Shigeru, Yoshimura Shinichi, Sasaki Makoto, Hirai Toshinori, Kinouchi Hiroyuki, Miyamoto Susumu, Okada Yasushi, Komiyama Masaki, Ogasawara Kuniaki, Toyoda Kazunori, Daimon Takashi, Ezura Masayuki, Nakahara Ichiro, Ishii Akira, Matsumoto Yasushi, Kenichiro Tanabe. Hydrogel coils in intracranial aneurysm treatment: a multicenter, prospective, randomized open-label trial. *Journal of Neurosurgery*, 2025;142(6) : 1803-1809.

- 23) Asigbee Theodore Worlanyo, Nakamura-Hoshi Midori, Kuse, Nozomi, Ishii Hiroshi, Ishikawa Koichi, Kawana-Tachikawa Ai, Horibe Erika, Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa, Uchimaru Kaoru, Matano Tetsuro.. Virus-host immune interaction in HTLV-1 carriers. *Microbiology Spectrum*, 2025;13(3) : e0250724.
- 24) Da Silva SJ, Cabral-Castro MJ, Faria LC, Rosadas C, de Araújo MFL, Dutra ACS, Yamano Y, Taylor G, Puccioni-Sohler M. CXCL-10 in Cerebrospinal Fluid Detects Neuroinflammation in HTLV-1-Associated Myelopathy with High Accuracy. *Viruses*, 2025;17(1) : 89.
- 25) Jimbo Koji, Nojima Masanori, Toriuchi Keiko, Yamagishi Makoto, Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa, Uchimaru Kaoru, Nannya Yasuhiro.. Long-term kinetics of proviral load in HTLV-1 carriers: defining risk for the development of adult T-cell leukemia/lymphoma. *Biomarker research*, 2025;13(1) : 34.
- 26) Fuji Shigeo, Tokunaga Masahito, Utsunomiya Atae, Makiyama Junya, Suehiro Youko, Koh Ki-Ryang, Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa, Uchimaru Kaoru.. Improving outcome prediction in indolent ATL by subdividing intermediate risk into low-and high-intermediate groups. *Annals of hematology*, 2025;104 : 2429-2436.
- 27) Hagiwara U, Ito H, Fukano T, Shimizu T, Uchida M, Yamano Y. Utility of carotid ultrasound using microvascular flow imaging for detecting in-stent plaque protrusion after carotid artery stenting. *Clinical neurology and neurosurgery*, 2025;(251) : 108844.
- 28) Sugata Kenji, Mitsuyoshi Takatori, Omnia Reda, Tan Benjy Jek Yang, Tokunaga Masahito, Sato Tomoo, Ueda Mitsuharu, Yamano Yoshihisa, Utsunomiya Atae, Satou Yorifumi.. Effect of Viral antigen mismatch affects antiviral T-cell response and may impair immunotherapeutic efficacy against adult T-cell leukemia/lymphoma. *The Journal of infectious diseases*, 2025;231(3) : 816-821.
- 29) Yamauchi Junji, Raghavan Divya, Jweeha Duha, Oygen Suayp, Marineci Silviana, Hall, Isaac E, Molnar Miklos Z.. Kidney Transplant Outcomes in Amyloidosis: US National Database Study. *Transplantation*, 2025;109(3) : 536-548.

② 総説又は症例解説

- 1) Shoji H, Yamano Y. The history of the Japanese Society for Neuro-infectious Diseases: Foundation, objectives, and legacy. *Intractable & rare diseases research*, 2024;13(2) : 129-132.
- 2) Sugishita Y, Suzuki-Takahashi Y, Yudoh K.. Nicotinamide Adenine Dinucleotide (NAD)-Dependent Protein Deacetylase, Sirtuin, as a Biomarker of Healthy Life Expectancy: A Mini-Review. *Curr Aging Sci.*, 2024; : doi: 10.2174/0118746098319674240827104612..
- 3) Nakashima Makoto, Yamano Yoshihisa.. Human T-cell leukemia virus type 1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis and multiple sclerosis: Viral strategies and their implications. *Clinical & Experimental Neuroimmunology*, 2025;16(2) : 149-160.

③ 症例報告

- 1) Kaburagi K, Hagiwara Y, Tachikawa K, Miyake N, Akiyama H, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Yamano Y, Shimizu T, Mitsuhashi S.. A novel NODAL variant in a young embolic stroke patient with visceral heterotaxy. *BMC Neurology*, 2024;24(1) : 119.
- 2) Imai T, Mitsuhashi S, Isahaya K, Shibata S, Kawai Y, Omae Y, Yamano Y. Wilson disease (novel ATP7B variants) with concomitant FLNC-related cardiomyopathy. *Human genome variation*, 2024;11(1) : 34.
- 3) Iijima N, Sakurai K, Ko R, Isahaya K, Yamano Y. Successful Treatment with Plasmapheresis of Severe Bickerstaff Brainstem Encephalitis with High Cerebrospinal Fluid CXCL-10 Levels Following COVID-19 Infection:

A Case Report. Clinical & experimental neuroimmunology, 2024;16(1) : 30-34.

- 4) Akiyama H, Hasegawa Y, Yamano Y. Successful treatment with traditional Japanese medicine (kampo medicine) Yokukansan as a migraine prophylactic drug: A case report. Medicine (Baltimore), 2024;103(30) : e39072.

学会発表

① 国内学会

- 1) 小松梨恵、藤井亮、仁木久照、遊道和雄. TNF α 誘導性滑膜線維芽細胞増殖における抗リウマチ薬によるR Bリン酸化制御の違い. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 2) 宮田龍臣、宮部千恵、宮部斎重、遊道和雄、石黒直子. 血管炎における血清と皮膚の微生物叢の変化. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2024.
- 3) 小林未央、北原慈和、杉下陽堂、大須賀智子、北島道夫、河村和弘、浅田義正、岩瀬明. 多機関共同研究による卵巣予備能低下症例の不妊治療成績. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 4) 上川篤志、杉下陽堂、高江正道、鈴木直. 微小残存病変 (MRD) マウスモデルを用いた卵巣移植実現可能性の検証. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 5) 金森玲、高江正道、伊藤薫、中村健太郎、鈴木由妃、岩端秀之、杉下陽堂、洞下由記、戸澤晃子、鈴木直. 効果的な卵巣組織移植を志向した移植手技に関する基礎的検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 6) 宮部千恵. 感染症と血管炎: Is it really idiopathic?. 第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2024.
- 7) 杉下陽堂. プラセンタ製剤における新しい基礎研究. 第33回日本プラセンタ学会, 2024.
- 8) 杉下陽堂、鈴木由妃、杉下陽堂、田中愛美、佐藤淑子、小松梨恵、唐澤里江、藤井亮爾、世古卓也、山下由美子、山下倫明、臼井一茂、遊道和雄. 培養軟骨細胞・滑膜細胞におけるプラセンタ製剤のMMP-13の産生抑制効果の検討. 第24回日本抗加齢医学会総会, 2024.
- 9) 白石眞、三上恭平、加茂晃、大熊泰之、常深泰司、横田優樹、藤本健一、長田高志、関守信、波多野琢、野川茂、永山 寛、中嶋秀人、鈴木圭輔、山元敏正、山野嘉久、服部信孝、飯嶋睦. パーキンソン病における主幹の垂直位を用いた前屈姿勢の予後予測と薬物投与状況. 第65回日本神経学会学術大会, 2024.
- 10) 中林豊彦、山野嘉久、秋山久尚、清水高弘、伊佐早健司、鈴木祐、鬼頭あや、大嶋祐紀、小野順也、角田由美子、栃本しのぶ、山下雄輔. SCU摂食嚥下・経管栄養プロトコルの導入. 第65回日本神経学会学術大会, 2024.
- 11) 秋山久尚、山野嘉久. Long COVID headacheの臨床的特徴の検討. 第65回日本神経学会学術大会, 2024.
- 12) 佐々木うらら、菊池崇之、柴田宗一郎、太刀川慶史、水上平祐、三橋里美、山野嘉久. パーキンソニズムを呈するSCA6のロングリード・シーケンス解析. 第65回日本神経学会学術大会, 2024.
- 13) 伊佐早健司、櫻井謙三、今井健、日野栄絵、鎗木真弓、太刀川慶史、高桑由希子、川畑仁人、山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症による末梢神経障害症例の診断遅延要因. 第65回日本神経学会学術大会, 2024.
- 14) 溝口希生、伊佐早健司、加賀保行、星野俊、鈴木祐、深野崇之、清水高弘、秋山久尚、山野 嘉久. 電子カルテテキストデータ解析による院内発症脳梗塞予測の探索的研究. 第65回日本神経学会学術大会, 2024.
- 15) 鈴木由妃、杉下陽堂、田中愛美、佐藤淑子、小松梨恵、唐澤里江、藤井亮爾、世古卓也、山下由美子、山下倫明、臼井一茂、遊道和雄. マグロ肉の継続摂取による長寿遺伝子関連蛋白 (sirtuin) 発現増強のメカニズム. 第24回日本抗加齢医学会総会, 2024.
- 16) 遊道和雄、鈴木由妃、杉下陽堂、田中愛美、佐藤淑子、小松梨恵、唐澤里江、藤井亮爾、世古卓也、山下由美子、山下倫明、臼井一茂、. マグロ肉の継続摂取による長寿遺伝子関連蛋白 (sirtuin 2) の発限度の変化: 末梢血および口腔粘膜にお

ける sirtuin 2 濃度解析. 第 24 回日本抗加齢医学会総会, 2024.

- 17) 市川剛大, 清水高弘, 萩原悠太, 深野崇之, 三橋里美, 秋山久尚, 山野嘉久. 両側椎骨動脈起始部閉塞を伴った Vertebral artery stump syndrome の一例. JAN&Embolus 2024, 2024.
- 18) 秋山久尚, 田邊康宏, 星野俊, 深野崇之, 柴田宗一郎, 清水高弘, 山野嘉久, 栗田慎吾, 明石嘉浩. 経皮的卵円孔開存閉鎖術の有効性と安全性. JAN&Embolus 2024, 2024.
- 19) 伊佐早健司, 加藤高志郎, 小野晴香, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一朗, 山野嘉久. 著明な精神症状を呈した抗 NMDA 受容体脳炎の女性例. 第 18 回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 2024.
- 20) 堺結希, 角田由美子, 小橋章人, 岡本邦彦, 伊澤優, 小森初美, 大木玲奈, 宮田空夢, 大川菜々子, 北木杏奈, 中村美結, 白石眞, 鷹尾直誠, 山野嘉久. パーキンソン病患者の起立性低血圧に対する離床にむけた看護師主導による対応. 第 18 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2024.
- 21) 洞下由記, 岩端秀之, 古谷菜摘, 中村健太郎, 鈴木由妃, 西岡美喜子, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. がん・生殖医療における妊孕性温存療法の臨床成績. 第 42 回日本受精着床学会総会・学術集会, 2024.
- 22) 金森玲, 中村健太郎, 鈴木由妃, 洞下由記, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 卵巣移植に関する最新知見～効果的な卵巣移植を目指して～. 第 42 回日本受精着床学会総会・学術集会, 2024.
- 23) 金子航, 眞木二葉, 鐺木真弓, 日野栄絵, 山根貴裕, 金子淳太郎, 長谷川泰弘. 橋本病を合併した A 型胃炎によるビタミン B12 欠乏性 neuropathy を呈した 61 歳女性例. 第 250 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2024.
- 24) 川澤貴幸, 山野嘉久, 清水高弘, 伊佐早健司, 高梨世子. 脊髄の長大病変を来し、診断に苦慮した脊髄硬膜動脈瘻の一例. 第 250 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2024.
- 25) 太組一朗, 正高佑志, 岸泰宏, 松本俊彦, 山野嘉久, 山本仁, 平良万有実, 鰐淵昌彦, 川上浩司, 秋田定伯, 三上礼子, 長田優香, 饒波正博, 野崎千尋, 秋野公造. カンナビノイドの医療監視. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 26) 伊佐早健司, 日野栄絵, 鐺木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一朗, 須賀裕樹, 山野嘉久. 発症後 4 ヶ月の血液浄化療法で効果を認めた cNORSE の 19 歳男性例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 27) 赤松伸太郎, 伊佐早健司, 日野栄絵, 鐺木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 松森隆史, 太組一朗, 高橋幸利, 山野嘉久. 痙攣重積、認知症にて発症したラスムッセン症候群の 63 歳男性例. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.
- 28) 堀部 恵梨佳. キャリア・患者・家族の声を活かした HTLV-1 研究領域の取り組み～キャリア診療ガイドラインの作成を中心に～. 第 11 回 ARO 協議会学術集会, 2024.
- 29) 高木佳子, 浅田隆太, 一村昌彦, 岩田香苗, 太田有紀, 菊地佳代子, 今野浩一, 寺田智子, 萩森奈央子, 堀部恵梨佳, 丸本芳雄. つながり対話会～アカデミアのプロジェクトマネジャー (PM) /スタディーマネジャー (StM) のネットワーク構築～. ARO 協議会第 11 回学術集会, 2024.
- 30) 山徳雅人, 萩原悠太, 長谷川大輔, 桑島規夫, 上倉緑, 山野嘉久, 佐々木信幸. 今日からできる治療と仕事の両立支援. 第 13 回日本認知症予防学会学術集会, 2024.
- 31) 洞下由記, 古谷菜摘, 中村健太郎, 鈴木由妃, 西岡美喜子, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. がん・生殖医療における妊孕性温存療法の臨床成績. 第 443 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 32) 今岡陽一朗, 櫻井謙三, 小嶺友香利, 中野瑤子, 今井健, 山野嘉久. COVID-19mRA ワクチン後の難治性神経根炎に対してリツキシマブが奏功した Sjögren 症候群合併の一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 33) 山野嘉久. HAM 診療におけるバイオマーカーの最新トピックス. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 34) 芦川有美, 櫻井謙三, 鐺木圭, 大島久美, 佐野文明, 山野嘉久. 視神経脊髄炎スペクトラム障害に対してサトラリズマブ

導入後に成人 T 細胞性白血病を発症した一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.

- 35) 高梨世子, 今井健, 櫻井謙三, 山野嘉久. 美容外科手術後に重症筋無力症様の症状を呈したヒトアジュバント病の一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 36) 伊佐早健司, 櫻井謙三, 今井健, 日野栄絵, 鎗木真弓, 太刀川慶史, 高桑由希子, 川畑仁人, 山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症による末梢神経障害症例の診断遅延要因に関する解析. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 37) 大木玲奈, 櫻井謙三, 鎗木圭, 山野嘉久, 小橋彰人. 重症筋無力症患者に対する看護師介入方法の検討—主観的 QOL に関する実態調査から—. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 38) 櫻井謙三, 鎗木圭, 中野瑤子, 山野嘉久. 多発性硬化症患者の「見えない症状」に対する Personal Health Records (PHRs) を用いた評価の試み. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 39) 赤松伸太郎, 伊佐早健司, 高梨世子, 日野栄絵, 川澤貴幸, 櫻井博晶, 土屋敦史, 西野一三, 山野嘉久. 首下がり、体幹部優位の筋力低下を認め、免疫グロブリン大量療法が奏効したシェーグレン症候群合併筋炎の一例. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 40) 尾堀佐知子, 小野結佳, 荻原真帆, 朱丞華, 小澤南, 三橋里美, 三宅紀子, 右田王介, 山野嘉久. A case of CDKL5 deficiency disorder diagnosed by whole genome sequencing. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.
- 41) 杉下陽堂, 鈴木由妃, 遊道和雄. 培養軟骨細胞・滑膜細胞におけるブラセンタ製剤における MMP-13 の生産抑制効果の可能性. 第 26 回日本骨粗鬆症学会, 2024.
- 42) 本吉愛, 荻原真帆, 小野結佳, 小澤南, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 吉岡耕平, 尾堀佐知子, 右田王介, 津川浩一郎. Pathological Evaluation Methods in Contralateral Risk-reduction Mastectomy in Patients with BRCA Positive Breast Cancer. 日本人類遺伝学会第 69 回大会, 2024.
- 43) 山野嘉久. HTLV-1 の病態と感染予防. 第 28 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2024.
- 44) 小松梨恵, 藤井亮爾, 小笠原徹, チェンサンディ, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 仁木久照, 遊道和雄. TNF α 誘導性滑膜線維芽細胞増殖およびコラーゲン誘導性関節炎マウスにおける CDK4/6 の機能解析. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 45) 藤井亮爾, 小松梨恵, 小笠原徹, チェンサンディ, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 仁木久照, 遊道和雄. TNF α 誘導性関節リウマチ滑膜線維芽細胞増殖およびコラーゲン誘導性関節炎における CDK6 阻害剤の効果. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2024.
- 46) 中村健太郎, 高江正道, 古谷菜摘, 鈴木由妃, 岩端秀之, 西岡美喜子, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. PPOS 法を用いた調節卵巣刺激下の Random start 法ならびにレトロゾール併用による採卵成績の検討. 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2024.
- 47) 宮澤千夏, 中村健太郎, 高江正道, 古谷菜摘, 鈴木由妃, 西岡美喜子, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. 乳幼児期悪性疾患女児における妊孕性温存の試み. 第 148 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2024.
- 48) 伊佐早健司, 櫻井謙三, 今井健, 鎗木圭, 高梨世子, 赤松伸太郎, 廣瀬文吾, 津田笑子, 山内理香, 阿部達哉, 柳澤俊之, 今井富裕, 山野嘉久. 単繊維筋電図導入のピットフォールを考える. 第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会, 2024.
- 49) 宮田潤, 山梨啓友, 野中文陽, 有馬和彦, 玉井慎美, 柳原克紀, 吉浦孝一郎, 青柳潔, 川上純, 山野嘉久, 前田隆浩. HTLV-1 感染と薬物療法を要する甲状腺疾患との関連の検討: Nagasaki Islands Study. 日本臨床疫学会 第 7 回年次学術大会, 2024.
- 50) 堀部恵梨佳, 相良康子, 佐藤知雄, 八木下尚子, 内丸薫, 渡邊俊樹, 山野嘉久. JSPFAD レジストリにおける症例・検体登録数の現状. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.

- 51) 相良康子, 中村仁美, 志津田恵津子, 相良康弘, 内丸薫, 山野嘉久, 渡邊俊樹, 三浦清徳, 松崎浩史. 血中ビタミンDレベルと HTLV-1 関連疾患発症の関係. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 52) 伊佐早健司, 日野栄絵, 今井健, 荒賀崇, 太刀川慶史, 櫻井謙三, 山野嘉久. 慢性炎症性脱髄性多発神経根炎 (CIDP) に対するシクロフォスファミドパルス療法の検討. 第 42 回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 53) 櫻井謙三, 鎗木圭, 鷹尾直誠, 中野瑤子, 今井健, 伊佐早健司, 山野嘉久. NMOSD における分子標的薬の変薬に関する調査. 第 42 回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 54) 山野嘉久. 希少難病のドラッグラグ・ドラッグロスの解決に資する基盤を目指して ～難病プラットフォームについて～. 第 42 回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 55) 那和雪乃, 金子英恵, 坪野谷真朗, 廣井朋子, 高橋良哉, 佐藤知雄, 松井宏晃. cAMP シグナル伝達経路を介したヒトトリプトファン水酸化酵素 2 (hTPH2) 遺伝子プロモーター活性化の解析. 第 97 回日本生化学会大会, 2024.
- 56) 菅田 謙治、タン ジェックヤン、新村 光輝、高鳥 光徳、徳永 雅仁、中島 誠、佐藤 知雄、植田 光晴、宇都宮 與、山野嘉久、佐藤 賢文. HAM 患者脳脊髄液での特異的 CD8T 細胞の遺伝子発現と TCR avidity の解析. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 57) 菅田謙治, ラマン アキヌール, 新村光輝, 上野孝治, 山野嘉久, 田中勇悦, 徳永雅仁, 宇都宮與, 大隈和, 小野昌弘, 佐藤賢文. HTLV-1 潜伏感染を規定するプロウイルス内サイレンサー領域の同定. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 58) 佐藤知雄. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) のバイオマーカー開発: CXCL10 を中心に. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 59) 山野嘉久. HAM の病理理解に基づく新たな治療薬の展望. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 60) 神保光児, 野島正寛, 鳥内恵子, 山岸誠, 山野嘉久, 内丸薫, 南谷泰仁. HTLV-1 キャリアの長期プロウイルス量動態モデルを用いた ATL 発症危険度の推定. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 61) 荒谷聡子, 佐藤知雄, 中島誠, 新谷奈津美, 八木下尚子, MartinFrith, 三橋里美, 山野嘉久. ロングリードシーケンサーを用いた包括的 HTLV-1 プロウイルスゲノム解析法の構築. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 62) 杉下陽堂, 鈴木由妃, 五十嵐豪, 遊道和雄. 閉経後関節症、変形性関節症における軟骨破壊を誘導する軟骨基質分解酵素 MMP-13 をプラセンタ製剤が抑制を示す新知見. 第 39 回日本女性医学学会学術集会, 2024.
- 63) 秋山久尚, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 清水高弘, 山野嘉久. 塞栓源不明脳梗塞におけるウェアラブル心電計測定システム hitoe の有用性について. 第 42 回日本神経治療学会学術集会, 2024.
- 64) 藤重夫, 宇都宮與, 徳永雅仁, 牧山純也, 末廣陽子, 高起良, 中島誠, 内丸薫. JSPFAD の Indolent-DB データベースを用いた indolent ATL における予後予測因子に関する検討. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 65) 新谷奈津美, 山岸誠, 中島誠, 荒谷聡子, 堀部恵梨佳, 八木下尚子, 内丸薫, 佐藤知雄, 山野嘉久. HAM 神経障害因子 RGMa の HTLV-1 による発現制御機構の解析. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 66) 宮田潤, 山梨啓友, 野中文陽, 有馬和彦, 玉井慎美, 嵩義則, 林田直美, 柳原克紀, 吉浦孝一郎, 北岡隆, 青柳潔, 川上純, 山野嘉久, 前田隆浩. HTLV-1 キャリアにおけるチアマゾール内服とぶどう膜炎との関連: Nagasaki Islands Study. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 67) 中島誠, 荒谷聡子, 菅田謙治, 新谷奈津美, 八木下尚子, 佐藤知雄, 佐藤賢文, 山野嘉久. HAM 患者脳脊髄液細胞のシングルセルトランスクリプトームによる感染細胞特異的分子標的の探索. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 68) 中嶋伸介, 竹之内徳博, 日野正基, 山野嘉久, 山岸誠, 上野孝治, 大高時文, 内丸薫, 藤澤順一, 大隅和. 末梢血の CD4⁺ T 細胞に発現する TFR は HAM の疾患活動マーカーである. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 69) 佐藤知雄. HTLV-1 キャリア診療ガイドライン. 第 10 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2024.
- 70) 鈴木あゆみ, 秋山久尚, 花岡黎, 鎗木圭, 櫻井謙三, 山野嘉久. Primary position upbeat nystagmus を認めた wernicke

脳症の1例. 第62回日本神経眼科学会総会, 2024.

- 71) 秋山久尚, 鷹尾直誠, 白石眞, 山野嘉久, 蛭田興明, 八木下尚子, 小林泰之. 片頭痛患者における光干渉断層系 (OCT) を用いた網膜厚の検討. 第62回日本神経眼科学会総会, 2024.
- 72) 堀部恵梨佳. 医療DXを活用した聖マリアンナ式臨床研究推進の取り組み. 第45回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 73) 廣井朋子, 金子英恵, 大滝正訓, 那和雪乃, 坪野谷真朗, 立浪 忍, 松本直樹, 佐藤知雄. 培養細胞におけるハウスキーピング遺伝子発現量に対する RI 標識化合物の影響(2). 第5回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会 日本放射線安全管理学会第23回学術大会 日本保健物理学会第57回研究発表会, 2024.
- 74) 宮部千恵. 溶連菌抗原投与による新規マウス血管炎モデル. 第6回 血管炎病因病態研究会, 2025.
- 75) 山野嘉久. HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂. HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2025.
- 76) 山野嘉久. HAM・HTLV-1 陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出. HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2025.
- 77) 上川篤志, 杉下陽堂, 中村健太郎, 鈴木由妃, 洞下由記, 高江正道, 鈴木直. 卵巣微小残存病変(MRD) 白血病モデルマウスを用いたMRD評価法の確立. 第15回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 78) 上田成美, 洞下由記, 山谷佳子, 古谷菜摘, 中村健太郎, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 妊孕性温存療法によって妊娠出産した造血幹細胞移植を要する造血器疾患の2例. 第15回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2025.
- 79) 山口こと葉, 鍋木圭, 市川剛大, 赤松伸太郎, 柴田宗一郎, 伊佐早健司, 櫻井謙三, 山野嘉久. 全脊髄にわたる後索優位の長大病変を呈した72歳男性例. 第252回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2025.
- 80) 秋山久尚, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 清水高弘, 山野嘉久, 田邊康宏, 栗田真吾, 明石嘉浩. 血管内視鏡を用いた経皮的卵円孔開存閉鎖術の有効性と術後抗血栓薬の中止時期の検討. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 81) 臼杵乃理子, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 辰野健太郎, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 血栓回収療法時代における tPA 静注単独療法の治療成績: K-NET registry サブ解析. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 82) 辰野健太郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳主幹動脈閉塞における血栓回収療法の転帰予測モデルの開発と年齢の影響の分析: K-NET Registry サブ解析. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 83) 高梨世子, 秋山久尚, 鈴木あゆみ, 小野晴香, 今岡陽一郎, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 清水高弘, 山野嘉久. 潜在性心房細動の検出に対するウェアラブル心電計測定システム hitoe の有用性/装着性についての検討. 第54回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 84) 永沼秀崇, 清水高弘, 柴田宗一郎, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 三橋里美, 日野栄絵, 星野俊, 栗田千尋, 秋山久尚, 山野嘉久. 当院における脳静脈血栓症の臨床的特徴に関する後方視的解析. 第54回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 85) 山口こと葉, 高石智, 辰野健太郎, 深野崇之, 臼杵乃理子, 清水高弘, 秋山久尚, 山野嘉久. 急性期脳梗塞における病院受診遅延に関連する因子の検討. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 86) 小野晴香, 辰野健太郎, 清水高弘, 矢崎想来, 久代裕一郎, 鍋木圭, 柴田宗一郎, 深野崇之, 高石智, 臼杵乃理子, 秋山久尚, 山野嘉久. 機械的血栓回収療法を組み合わせた的確な治療が奏功した若年者脳静脈洞血栓症の2例. 第50回日本脳卒中学会学術集会, 2025.

- 87) 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務浩, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃里子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳血栓回収療法の初期画像診断として CT と MRI はどちらが有用か : K-NET 登録研究サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 88) 久代裕一郎, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃里子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳血栓回収療法における治療手技の選択と転帰について : K-NET 登録研究サブ解析. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 89) 伊佐早健司, 加賀保行, 清水高弘, 深野崇之, 臼杵乃理子, 高石智, 辰野健太郎, 植田敏浩, 秋山久尚, 山野嘉久. 電子カルテ抽出入院時情報による院内発症脳梗塞発症予測. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 90) 植田敏浩, 高石智, 辰野健太郎, 臼杵乃里子, 深野崇之, 伊藤英道, 内田将司, 久代裕一郎, 村田英俊, 山野嘉久. 症候性頭蓋内動脈狭窄症に対する PTA/stenting の治療成績と再狭窄に関連する因子の検討. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 91) 高石智, 植田敏浩, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 山本大輔, 各務宏, 辰野健太郎, 臼杵乃理子, 伊藤英道, 村田英俊, 山野嘉久. 脳主幹動脈閉塞に対する脳血栓回収療法における死亡関連因子の検討 : 肺炎死と脳卒中死の比較. 第 50 回日本脳卒中学会学術集会, 2025.
- 92) 赤松伸太郎, 秋山久尚, 辰野健太郎, 深野崇之, 高石智, 臼杵乃理子, 清水高弘, 山野嘉久. 抗血小板薬使用の脳出血急性期例における Max-ICH score の有用性について. 第 54 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2025.
- 93) Reiko Suzuki, Yuki Horage, Hideyuki Iwahata, Kaoru Ito, Kentaro Nakamura, Yuki Suzuki, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. Current Status of and Issues with Fertility Preservation in Oncofertility Therapy. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
- 94) Akamatsu S, Isahaya K, Hino S, Kaburagi M, Ko R, Kanazawa T, Matsumori T, Takumi I, Takahashi Y, Yamano Y. A case of Rasmussen encephalopathy developed by convulsion and dementia. 第 57 回日本てんかん学会学術集会, 2024.

② 国際学会

- 1) 中島誠. HTLV-1 関連脊髄症におけるクロマチン構造異常を介した炎症促進機序の解明. Metabolic biology and Osteoimmunology (IC2NEMO), 2025.
- 2) 山野嘉久. レトロウイルスによる脊髄の慢性炎症性疾患 : HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態解明に基づく創薬への挑戦. International Conference on Immunity and Cognition: integration of multidisciplinary approaches in Neuroscience, Endocrinology, Metabolic biology and Osteoimmunology (IC2NEMO), 2025.
- 3) Kazuo Yudoh, Yodo Sugishita, Yuki Suzuki. NAD-dependent deacetylase sirtuin-1 mediates the mechanical stress-induced degeneration of articular cartilage in osteoarthritis: mechanical stress stimulates the expression of osteogenic transcription factor Runx2 via the sirtuin-1 activation in chondrocytes. 2024 OARSI World Congress on Osteoarthritis, 2024.
- 4) Mitsuhashi S, Ichikawa T, Hoshino M, Suzuki Y, Fukano T, Shimizu T, Akiyama H, Hanzawa K, Yamano Y. Point-of-care-testing of pharmacogenetic variants using a portable nanopore sequencer. European Society of Human Genetics 2024, 2024.
- 5) Araya N, Yamagishi M, Nakashima M, Asahara N, Kiyohara K, Aratani S, Yagishita N, Sato T, Uchimaru K, Yamano Y. Virus-induced RGMa is a key mediator of Neuronal Damage and Therapeutic Target in HAM. HTLV conference 2024, 2024.
- 6) Sato T, Saito M, Yamano Y. ATL risk assessment using RAISING, a novel clonality analysis method for

HTLV-1-infected cells. HTLV conference 2024, 2024.

- 7) Sugata K, Tan BJY, Takanori M, Hossain MB, Rajib SA, Reda O, Tokunaga M, Nomura T, Masuda T, Nakashima M, Sato T, Ueda M, Utsunomiya A, Yamano Y, Satou Y. Integrated single cell analysis of HTLV-1 specific CD8 T cells in peripheral blood and cerebrospinal fluid from HAM/TSP patients. HTLV conference 2024, 2024.
- 8) Tachikawa K, Shimizu T, Imai T, Ko R, Kawai Y, Omae Y, Tokunaga K, Frith MC, Yamano Y, Mitsuhashi S. Cost-Effective Cas9-Mediated Targeted Sequencing of Spinocerebellar Ataxia Repeat Expansions. The European Human Genetics Conference 2024, 2024.
- 9) Nakashima M, Nagai K, Takao N, Araya N, Kuze Y, Suzuki Y, Uchimaru K, Yamagishi M, Yamano Y. Integrated multi-omics analyses to explore a novel inflammatory-inducing factor in HAM/TSP. HTLV conference 2024, 2024.
- 10) Shiraishi M, Mikami K, Kamo H, Okuma Y, Tsunemi T, Fujimoto K, Kamo T, Yokota Y, Nogawa S, Osada T, Seki M, Nagayama H, Hatano T, Nakajima H, Suzuki K, Yamamoto T, Yamano Y, Hattori N, Iijima M. The effect of subjective postural vertical on forward flexed posture in Parkinson's disease. International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders 2024, 2024.
- 11) Ueda Toshihiro, Takeuchi Masataka, Morimoto Masafumi, Tsuboi Yoshifumi, Yamamoto Ryoo, Kaku Shogo, Onodera Hidetaka, Tatsuno Kentaro, Takaishi Satoshi, Yamano Yoshihisa, the K-NET registry investigators. Characteristics and outcome of endovascular treatment for intracranial atherosclerotic occlusion: comparison with cardiogenic cerebral embolism in the K-NET registry. 17th World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology (WFITN) Congress, 2024.
- 12) Sakurai K, Kaburagi K, Ko R, Nakano Y, Isahaya K, Yamano Y. Evaluation of "Invisible Symptoms" in Multiple Sclerosis Patients Using Personal Health Records (PHRs): A Pilot Study. 16th Congress of the Pan-Asian Committee for Treatment and Research in Multiple Sclerosis(PACTRIMS), 2024.
- 13) Nao Suzuki, Yodo Sugishita, Yuki Suzuki-Takahashi, Sayako Furuyama. Ovarian Tissue Vitrification Workshop A. ISFP2024, 2024.
- 14) Yodo Sugishita. Ovarian tissue cryopreservation by vitrification system. ISFP2024, 2024.
- 15) Tatsuno K, Ueda T, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Onodera H, Takaishi S, Usuki N, Hasegawa Y, Yamano Y. Development of an Outcome Prediction Model for Mechanical Thrombectomy in Large Vessel Occlusion and Analysis of the Impact of Age: A Subanalysis of the K-NET Registry. International Stroke Conference 2025, 2025.
- 16) Ueda Toshihiro, Takeuchi Masataka, Morimoto Masafumi, Tsuboi Yoshifumi, Yamamoto Ryoo, Kaku Shogo, Ito Hidemichi, Onodera Hidetaka, Tatsuno Kentaro, Takaishi Satoshi, Usuki Noriko, Murata Hidetoshi, Yamano Yoshihisa, the K-NET registry investigators. Comparative utility of CT and MRI in initial imaging for mechanical thrombectomy in patients with large vessel occlusion: sub-analysis of the K-NET registry in Japan. International Stroke Conference 2025, 2025.

③ その他

- 1) 堀部 恵梨佳. 電子カルテデータ研究検索システム (CDW)～ 操作と活用方法～. 聖マリアンナ医科大学臨床研究データセンターセミナー, 2024.
- 2) 堀部 恵梨佳、渡邊俊樹、山野嘉久. JSPFAD における HTLV-1 水平感染疑い例の解析. 令和 6 年度 第 1 回 HTLV-1 三浦班会議, 2024.

- 3) 山野嘉久. HAM と水平感染. 令和 6 年度 第 1 回 HTLV-1 三浦班会議, 2024.
- 4) 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識 Q&A HTLV-1 キャリア診療ガイドライン 2024 別冊. 令和 6 年度 第 1 回 HTLV-1 三浦班会議, 2024.
- 5) 山野嘉久. HAM に対する新たな治療法開発. ゲノム情報を基盤とした HTLV-1 感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究 2024 年度第 1 回班会議, 2024.
- 6) 山野嘉久, 田中勇悦, 佐藤知雄, 八木下尚子, 新谷奈津美, 中島誠, 堀部恵梨佳. 抗 HTLV-1 ヒトモノクローナル抗体の開発と臨床プロトコル作成に資する研究. 令和 6 年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「経胎盤感染予防に資する次世代抗 HTLV-1 抗体医薬製剤開発研究」令和 6 年度 第 1 回 水上班 研究班会議, 2024.
- 7) 山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識とキャリア妊産婦・患者への支援. 令和 6 年度山梨県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2024.
- 8) 中島誠. 治療標的シーズが複数あり、その効果を検証するための手段を効率化したい. 令和 6 年度 聖マリアンナ医科大学・明治大学共同研究会, 2024.
- 9) 遊道和雄. 健康長寿のためのマグロ血合肉の効能. マグロ血合新ネーム発表記念講演会&神奈川県水産技術センター研究発表会, 2024.
- 10) 山野嘉久. 医師主導治験による医療イノベーションへの挑戦. 愛媛大学講義, 2024.
- 11) 山野嘉久. HAM の病態解明に基づく治療薬開発の可能性. ゲノム情報を基盤とした HTLV-1 感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究」2024 年度第 2 回班会議, 2024.
- 12) 中島誠. HAM に対する新たな治療法開発. ゲノム情報を基盤とした HTLV-1 感染症の病態形成機序の解明及び発症リスク予知アルゴリズム開発に関する総合的研究 (AMED 山岸班) 2024 年度第 2 回班会議, 2024.
- 13) 三澤園子, 猪野毛朝飛, 水地智基, 浮田翔子, 佐藤泰憲, 小池春樹, 山野嘉久. POEMS 症候群の全国調査とレジストリ構築: リアルタイムなエビデンス創出とガイドラインへの反映. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 14) 佐藤賢文, 菅田謙治, 新村光輝, ベンジー タン ジェック ヤン, 中島誠, 佐藤知雄, 山野嘉久. HAM 患者脳脊髄液のシングルセル解析による HAM 病態解明研究. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 15) 鈴木佳子, 久世裕太, 儀武黎, 神保光児, 南谷泰仁, 鈴木穰, 山野嘉久, 内丸薫, 山岸誠. HTLV-1 感染者のゲノム異常の実態評価と ATL 発症リスク因子の検討. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 16) 中島誠, 永井香帆, 鷹尾直誠, 新谷奈津美, 久世裕太, 佐藤知雄, 鈴木穰, 内丸薫, 山岸誠, 山野嘉久. HAM におけるクロマチン構造異常を介した炎症促進機序の解明と分子標的治療法の開発. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 17) 佐藤知雄, 高梨世子, 高橋克典, 國友康夫, 田辺健一郎, 八木下尚子, 新谷奈津美, 中島誠, 堀部恵梨佳, 清水高弘, 山野嘉久. HAM 患者髄液における CXCL10 ELISA キットの性能評価. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班) AMED 難治性疾患実用化研究班 令和 6 年度合同班会議, 2025.
- 18) 堀部恵梨佳. HTLV-1 キャリアの方等への相談対応について. 岩手県令和 6 年度 HTLV-1 対策医療従事者等研修会, 2025.
- 19) 堀部恵梨佳, 山野嘉久. JSPFAD における水平感染のリスク評価. 令和 6 年度第 2 回 HTLV-1 三浦班会議, 2025.
- 20) 山野嘉久. HAM と水平感染. 令和 6 年度第 2 回 HTLV-1 三浦班会議, 2025.
- 21) 中島誠. 遺伝子発現解析を活用した病態解明に基づく創薬シーズの発掘 ～シングルセル解析から空間的トランスクリプトーム解析まで～. 第 108 回 Marianna Research Council (MRC), 2025.

- 22) 山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和 6 年度 神奈川県性と健康の相談支援者研修, 2025.
- 23) 山野嘉久. 患者レジストリ研究による臨床情報解析. 令和 6 年度難治性疾患実用化研究事業 診療に直結するエビデンス創出研究分野 「患者レジストリを活用した沖縄型神経原性筋萎縮症のエビデンス創出研究」 第三回班会議, 2025.
- 24) 山野嘉久, 田中勇悦. 抗 HTLV-1 ヒトモノクローナル抗体の開発と臨床プロトコル作成に資する研究. 令和 6 年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 「経胎盤感染予防に資する次世代抗 HTLV-1 抗体医薬製剤開発研究」 令和 6 年度 第 2 回 水上班 研究班会議, 2025.
- 25) 中島誠. オミクス融合による病態機序解析. 聖マリアンナ医科大学 第 6 回研究者交流セッション, 2025.
- 26) 日向涼, 伊佐早健司, 日野栄絵, 鏑木真弓, 高梨世子, 川澤貴幸, 赤松伸太郎, 松森隆史, 太組一郎, 山野嘉久. 発症後 4 ヶ月の免疫療法の強化で効果を認めた Cryptogenic New-Onset Refractory Status Epilepticus (cNORSE) の 19 歳男性例. 聖マリアンナ医科大学医学会第 87 回学術集会, 2025.
- 27) 中島誠, 永澤慧, 吉田眞理, 今村聖実, 久保田学, 中村勝, 八木下尚子, 小池淳樹, 松田文彦, 鈴木穰, 山野嘉久. 空間遺伝子発現解析法に基づく HAM の神経障害機序の解析. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.
- 28) 佐藤知雄. HAM 診療ガイドライン改訂版について. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.
- 29) 山野嘉久. 研究の全体像について. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.
- 30) 堀部恵梨佳. JSPFAD における水平感染. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.
- 31) 新谷奈津美. HAM の病態形成におけるグリア細胞の意義. 令和 6 年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.

		和 文	英 文
著 書		4	
論 文	原著	2	29
	解説又は総説	5	3
	症例報告	1	4
	その他	1	
学会発表	国内学会	92	2
	国際学会	2	14
	その他	31	

アイソトープ研究施設

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Imoto Kiyomi, Yamamoto Hiroyuki, Ohkawa Chie, Shimada Naoki, Ikuzawa Ryo, Takeda Hiroyuki, Ohhara Tatsuru, Kojima Yasuyuki, Furuya Naoki, Motoyoshi Ai, Migita Ohsuke, Kuga Asami, Keira Takayuki, Wakamatsu Hirotake, Sato Tomoo, Oike Nobuyuki, Koike Junki, Yamano Yoshihisa, Sunakawa Yu. An approach for improvement of the accuracy of cancer gene panel testing. International journal of clinical oncology, 2024;29(5) : 571-581.
- 2) Sato Tomoo, Nagai Masahiro, Watanabe Osamu, Misu Tatsuro, Takenouchi Norihiro, Ohkubo Ryuichi, Ishihara Satoshi, Tsuboi Yoshio, Katsuno Masahisa, Nakagawa Masanori, Matsushita Takuya, Aso Yasuhiro, Matsuura Eiji, Tokashiki Takashi, Mukaino Akihiro, Adachi Hiroaki, Nakanishi Kaoru, Yamaguchi Yusuke, Yamaguchi Saaya, Yamano Yoshihisa.. Multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled phase 3 study of mogamulizumab with open-label extension study in a minimum number of patients with human T-cell leukemia virus type-1-associated myelopathy. Journal of neurology, 2024;271(6) : 3471-3485.
- 3) Sato Tomoo, Yagishita Naoko, Araya Natsumi, Nakashima Makoto, Horibe Erika, Takahashi Katsunori, Kunitomo Yasuo, Nawa Yukino, Hamaguchi Isao, Yamano Yoshihisa.. Diagnostic Value of Anti-HTLV-1-Antibody Quantification in Cerebrospinal Fluid for HTLV-1-Associated Myelopathy. Viruses, 2024;16(10) : 1581.
- 4) Sugata Kenji, Mitsuyoshi Takatori, Omnia Reda, Tan Benjy Jek Yang, Tokunaga Masahito, Sato Tomoo, Ueda Mitsuharu, Yamano Yoshihisa, Utsunomiya Atae, Satou Yorifumi.. Effect of Viral antigen mismatch affects antiviral T-cell response and may impair immunotherapeutic efficacy against adult T-cell leukemia/lymphoma. The Journal of infectious diseases, 2025;231(3) : 816-821.

学会発表

① 国内学会

- 1) 堀部恵梨佳、相良康子、佐藤知雄、八木下尚子、内丸薫、渡邊俊樹、山野嘉久.. JSPFAD レジストリにおける症例・検体登録数の現状. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 2) 那和雪乃、金子英恵、坪野谷真朗、廣井朋子、高橋良哉、佐藤知雄、松井宏晃. cAMP シグナル伝達経路を介したヒトトリプトファン水酸化酵素 2(hTPH2) 遺伝子プロモーター活性化の解析. 第97回日本生化学会大会, 2024.
- 3) 荒谷聡子、佐藤知雄、中島誠、新谷奈津美、八木下尚子、MartinFrith、三橋里美、山野嘉久.. ロングリードシーケンサーを用いた包括的 HTLV-1 プロウィルスゲノム解析法の構築. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 4) 菅田 謙治、タン ジェックヤン、新村 光輝、高鳥 光徳、徳永 雅仁、中島 誠、佐藤 知雄、植田 光晴、宇都宮 與、山野嘉久、佐藤 賢文.. HAM 患者脳脊髄液での特異的 CD8T 細胞の遺伝子発現と TCR avidity の解析. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 5) 佐藤知雄. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) のバイオマーカー開発 : CXCL10 を中心に. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 6) 新谷奈津美、山岸誠、中島誠、荒谷聡子、堀部恵梨佳、八木下尚子、内丸薫、佐藤知雄、山野嘉久.. HAM 神経障害因子 RGMa の HTLV-1 による発現制御機構の解析. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 7) 佐藤知雄. HTLV-1 キャリア診療ガイドライン. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.
- 8) 中島誠、荒谷聡子、菅田謙治、新谷奈津美、八木下尚子、佐藤知雄、佐藤賢文、山野嘉久.. HAM 患者脳脊髄液細胞のシングルセルトランスクリプトームによる感染細胞特異的分子標的の探索. 第10回日本HTLV-1学会学術集会, 2024.

- 9) 大滝正訓, 廣井朋子, 立浪忍, 小林司, 太田有紀, 武半優子, 木田圭亮, 飯利太朗, 佐藤知雄, 松本直樹. 標識化合物の放射線が遺伝子発現量測定の実験系に寄与する割合 (2). 第5回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会 日本放射線安全管理学会第23回学術大会 日本保健物理学会第57回研究発表会, 2024.
- 10) 廣井朋子, 金子英恵, 大滝正訓, 那和雪乃, 坪野谷真朗, 立浪 忍, 松本直樹, 佐藤知雄. 培養細胞におけるハウスキーピング遺伝子発現量に対する RI 標識化合物の影響 (2). 第5回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会 日本放射線安全管理学会第23回学術大会 日本保健物理学会第57回研究発表会, 2024.

② 国際学会

- 1) Sato T, Saito M, Yamano Y. ATL risk assessment using RAISING, a novel clonality analysis method for HTLV-1-infected cells. HTLV conference 2024, 2024.
- 2) Araya N, Yamagishi M, Nakashima M, Asahara N, Kiyohara K, Aratani S, Yagishita N, Sato T, Uchimaru K, Yamano Y. Virus-induced RGMA is a key mediator of Neuronal Damage and Therapeutic Target in HAM. HTLV conference 2024, 2024.

③ その他

- 1) 佐藤知雄. HAM 診療ガイドライン改訂版について. 令和6年度 HAM 関連研究班合同班会議, 2025.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		4
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	10	
	国際学会		2
	その他	1	

実験動物飼育管理研究施設

学会発表

① 国内学会

- 1) 大滝正訓, 武半優子, 太田有紀, 小林司, 渡辺実, 木田圭亮, 飯利太朗, 松本直樹. 生成 AI を用いたレポート採点の自動化の試み. 第 45 回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.
- 2) 小林司, 大滝正訓, 武半優子, 菅谷紘一, 太田有紀, 木田圭亮, 渡辺実, 飯利太朗, 小野瀬淳一, 阿部尚樹, 松本直樹. ペントバルビタール代替薬による薬物相互作用の薬理学実習の検討. 第 45 回日本臨床薬理学会学術総会, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	
	国際学会		
	その他		

医療情報処理技術応用研究

学術論文[和文]

① その他

- 1) 山下喬之、平原大助、小林泰之. 教育現場での DX 活用の実際と可能性. 理学療法ジャーナル, 2024;2024(特集): 437-442.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yamamoto Y., Haraguchi T., Matsuda K., Okazaki Y., Kimoto S., Tanji N., Matsumoto A., Kobayashi Y., Mimura H., Hiraki T.. Prediction of Prostate Cancer Grades Using Radiomic Features. Acta Medica Okayama, 2025;79(1): 21-30.

② 症例報告

- 1) Haraguchi T., Matsumoto J., Fujitani S.. Portable dynamic radiography in pulmonary thromboembolism with renal impairment. European Heart Journal - Case Reports, 2024;8(9): ytae281.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎原口貴史. 放射線診断医からみた Radiomics 研究. 第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会 第 95 回画像部会, 2024.
- 2) 蛭田興明、小林泰之、八木下尚子、佐藤知雄、鷹尾直誠、白石眞、秋山久尚、秋場正博、山野嘉久. 眼底 OCT データを活用した機械学習モデルによる HAM の診断補助への可能性. 第 36 回日本神経免疫学会学術集会, 2024.
- 3) 秋山久尚、鷹尾直誠、白石眞、山野嘉久、蛭田興明、八木下尚子、小林泰之. 片頭痛患者における光干渉断層系 (OCT) を用いた網膜厚の検討. 第 62 回日本神経眼科学会総会, 2024.
- 4) ◎小林泰之. 「最新医療 AI 入門: あなたも生成 AI を使いこなしませんか」. 第 58 回日本痛風・尿酸核酸学会総会, 2025.

② 国際学会

- 1) Haraguchi T., Hashimoto K., Kobayashi Y., Tomita H., Wada S., Nishio M., Hamaguchi S., Mimura H.. Inaccessible deep liver abscess drainage: The integrated bent and straight needle technique. CIRSE congress, 2024.
- 2) Haraguchi T, Matsumoto J, Kobayashi Y.. Exploring Generative AI and LLMs in Radiology: Enhancing Workflow Efficiency and Diagnostic Support. European Congress of Radiology 2025, 2025.

③ その他

- 1) ◎小林泰之. 次世代医療を支える人材の育成. 第 2 回ハイゼミ研究会, 2024.
- 2) ◎小林泰之. えっ、今時 ChatGPT を使っていない診療放射線技師なんているんですか. 第 50 回 関西 CT 技術シンポジウム, 2024.
- 3) ◎原口貴史, 小林泰之. 放射線科医から見た生成 AI 活用法. m3.com AI LAB ウェビナー, 2024.
- 4) ◎小林泰之. 医療 DX と AI 革新: 放射線科医と診療放射線技師の新たな展望. 横浜南部地区ラジオロジー講演会, 2024.
- 5) ◎小林泰之. 「今時、生成 AI をつかいこなしていない人なんているんですか?」. 医療人 2030 Basic 医療 AI 最新事情 第 1 回, 2024.
- 6) ◎小林泰之. 「えっ、今時、生成 AI をつかいこなしていない放射線科医なんているんですか?」. 第 3 回日本医用画像電子情報・人工知能研究会, 2024.

- 7) ◎小林泰之．今どき生成 AI を毎日使っていない診療放射線技師なんているんですか．． 令和 6 年度 神奈川県診療放射線技術講習会，2024.
- 8) ◎小林泰之．「Revolution CT Apex と SnapShot Freez2.0 で実現する心臓 CT の進化」～より正確で迅速な心疾患診断を目指して～. Revolution CT の潜在能力を引き出す医療現場での活用法，2024.
- 9) ◎小林泰之．「すべてのひとが生成 AI を使いこなす世界を創る：えっ、今時、”生成 AI をつかいこなしてないひと”なんているんですか。」． 第 14 回 AIM 合同研究会，2024.
- 10) ◎小林泰之．『えっ？、今時、ChatGPT を使いこなしていない MR なんているんですか？』．ブラッコ・ジャパン株式会社社内講演，2025.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		1
	解説又は総説		
	症例報告		1
	その他	1	
学会発表	国内学会	4	
	国際学会		2
	その他	10	

先端生体画像情報研究講座

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Hashimoto Kazuki, Haraguchi Takafumi, Nawata Shintaro, Wada Shinji, Hamaguchi Shingo, Nishio Misako, Mimura Hidefumi. Creation of a prediction model of local tumor recurrence after a successful conventional transcatheter arterial chemoembolization using cone-beam computed tomography based-radiomics. CardioVascular and Interventional Radiology, 2024;47(11) : 1495-1505.
- 2) Yamamoto Y., Haraguchi T., Matsuda K., Okazaki Y., Kimoto S., Tanji N., Matsumoto A., Kobayashi Y., Mimura H., Hiraki T.. Prediction of Prostate Cancer Grades Using Radiomic Features. Acta Medica Okayama, 2025;79(1) : 21-30.

② 症例報告

- 1) Haraguchi T., Matsumoto J., Fujitani S.. Portable dynamic radiography in pulmonary thromboembolism with renal impairment. European Heart Journal – Case Reports, 2024;8(9) : ytae281.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎原口貴史. 放射線診断医からみた Radiomics 研究. 第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会 第 95 回画像部会, 2024.
- 2) 後藤由香, 原口貴史, 道下由紀子, 印牧義英. 1.5T MRI 装置における Ultrafast ダイナミック乳房造影 MRI 検査の有効性の検討. 第 32 回日本乳癌学会学術総会, 2024.
- 3) 小林大地, 富田隼人, 森本毅, 出口佑樹, 福地博史, 澁上淳也, 澁上真希, 小林泰之, 三村秀文. 前立腺 MRI における Deep learning reconstruction を用いた T2 強調画像の画質評価. 第 60 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024.

② 国際学会

- 1) Haraguchi T., Hashimoto K., Kobayashi Y., Tomita H., Wada S., Nishio M., Hamaguchi S., Mimura H.. Inaccessible deep liver abscess drainage: The integrated bent and straight needle technique. CIRSE congress, 2024.
- 2) Goto Yuka, Haraguchi Takafumi, Michishita Yukiko, Kanemaki Yoshihide. Investigation of the effectiveness of ultrafast DCE-MRI on a widely used 1.5T-MRI system. The Radiological Society of North America (RSNA) 2024, Scientific Assembly and Annual Meeting, 2024.
- 3) Haraguchi T, Matsumoto J, Kobayashi Y.. Exploring Generative AI and LLMs in Radiology: Enhancing Workflow Efficiency and Diagnostic Support. European Congress of Radiology 2025, 2025.

③ その他

- 1) ◎原口貴史, 小林泰之. 放射線科医から見た生成 AI 活用法. m3.com AI LAB ウェビナー, 2024.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		1
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		3
	その他	1	

周産期発生病態解明学

著書

- 1) 佐治正太, 長谷川潤一. 3. 多胎妊娠の診断と管理 妊娠中後期 臍帯・胎盤の評価 多胎妊娠妊娠・分娩・新生児管理のすべて 2024; (2):96-101.
- 2) 長谷川潤一. 1. 妊娠 10 週までのエコー 産科エコーのみかた、考え方 2024; (1):1-5.
- 3) 長谷川潤一. 第 2 章周産期管理に必要な産科の知識
2. 妊娠中の母児管理
1 妊婦健診 周産期麻酔科学 2024; (1):47-50.
- 4) 長谷川潤一. 第 2 章 周産期麻酔に必要な産科の知識
2. 妊娠中の母児管理
2 胎児診断・出生前診断 周産期麻酔科学 2024; (1):51-56.
- 5) 坂本三樹 長谷川潤一. 第 2 章 周産期麻酔に必要な産科の知識
2. 妊娠中の母児管理
3. 麻酔科医による分娩前評価 周産期麻酔科学 2024; (1):55-56.
- 6) 長谷川潤一. 絨毛膜下血腫 産科婦人科疾患最新の治療 2025-2027 2025; (1):36-38.

学術論文[和文]

- ① 総説又は症例解説
- 1) 長谷川潤一. 妊産婦死亡報告事業・妊産婦重篤合併症報告事業. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 2024;59(4):554-561.
- 2) 長谷川潤一. 産科危機的出血による妊産婦死亡の増加傾向の要因分析. 日本産科婦人科学会雑誌, 2024;76(12):1.

学術論文[英文]

- ① 原著
- 1) Junichi Hasegawa, Akihiko Sekizawa, Hiroaki Tanaka, Shinji Katsuragi, Kayo Tanaka, Masahiko Nakata, Eijiro Hayata, Takeshi Murakoshi, Isamu Ishiwata, Tomoaki Ikeda. Infection route associated with invasive group A streptococcal toxic shock syndrome in maternal deaths: Nationwide analysis of maternal mortalities in Japan. International Journal of Infectious Diseases, 2024;146:107154.
- 2) Junichi Hasegawa, Chika Homma, Shota Saji, Natsumi Furuya, Miki Sakamoto. Effect of epidural analgesia on cervical ripening using dinoprostone vaginal inserts. Journal of Anesthesia, 2024;38:215-221.
- 3) Masamitsu Nakamura, Akihiko Sekizawa, Junichi Hasegawa, Masahiko Nakata, Shinji Katsuragi, Hiroaki Tanaka, Takeshi Murakoshi, Naohiro Kanayama, Isamu Ishiwata, Tomoaki Ikeda, Maternal Death Exploratory Committee in Japan. Relationship between maternal mortality and ritodrine hydrochloride as a tocolytic agent in Japan. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2024;2024(Apr 16):DOI-10.1111/jog.15951.
- 4) Okuyama, A.; Hasegawa, J.;
Seo, K.; Izdebski, T.; Goto, M.;
Sekizawa, A.; Ichizuka, K.. Assessment of Uterine Contraction and Atonic Bleeding during the Third Stage of Labor Using Shear Wave Elastography. Diagnostics, 2024;14:1490.

- 5) Chizuko Aoki-Kamiya, Shinji Katsuragi, Yumi Shiina, Junichi Hasegawa, Jun Yoshimatsu, Akihito Nakai, Isamu Ishiwata, Akihiko Sekizawa, Tomoaki Ikeda. Maternal Death Due to Pulmonary Arterial Hypertension. Circulation Journal, 2024; : 1-6.
- 6) Junichi Hasegawa, Rie Kato, Katsuo Terui, Hiroaki Tanaka, Kayo Tanaka, Toshiyuki Okutomi, Hiroyuki Sumikur, Masamitsu Nakamura, Masahiko Nakata, Takeshi Murakoshi, Akihiko Sekizawa, Akihito Nakai, Isamu Ishiwata, Tomoaki Ikeda. Maternal mortality associated with anaesthetic interventions: nationwide analysis of maternal mortality in Japan from 2010 to 2022. British Journal of Anaesthesia, 2025;doi: 10.1016/j.bja.2024.12.011. Online ahead of print. : 1.
- 7) Manabu Ogoyama, Junichi Hasegawa, Shota Saji, Satsuki Hirono, Kenji Horie, Hirotada Suzuki, Hironori Takahashi. Management strategy and experience of vasa previa in perinatal centers: A nationwide survey in Japan. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2025;51(1) : e16189.
- 8) Shota Saji, Masatomo Doi, Junki Koike, Nao Suzuki Junichi Hasegawa. Coagulation and fibrinolytic system of umbilical venous blood in hyper-coiled umbilical cord: A single center cohort study. Placenta, 2025;162 : 9-13.
- ② 総説又は症例解説
 - 1) Japan Maternal Death Exploratory Committee. Proposals for improving maternal safety (2023 edition): Insights from the analysis of maternal deaths in Japan. Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2025;2025(56) : e16244.
- ③ 症例報告
 - 1) Junichi Hasegawa, Yoko Nishimura, Shota Saji. Ectopic uterine cervical ripening dilator. Journal of Medical Ultrasonics, 2024;51 : 145-146.
- ④ その他
 - 1) Masamitsu Nakamura, Akihiko Sekizawa, Junichi Hasegawa, Maternal Death Exploratory Committee in Japan. Response to Letter to "Relationship between maternal mortality and ritodrine hydrochloride as a tocolytic agent in Japan". The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2024; : DOI-10.1111/jog.15999.

学会発表

- ① 国内学会
 - 1) 長谷川潤一. Gentle C-Section という選択 ～Power of Drapes～. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
 - 2) 松敬介, 村越毅, 中田雅彦, 早田英二郎, 長谷川潤一, 関沢明彦, 新垣達也, 二井理文, 田中博明, 池田智明, 石渡勇, 桂木真司. 本邦の妊産婦の悪性腫瘍による死亡症例の分娩経緯に関する検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
 - 3) 田丸俊輔, 入山高行, 西 洋孝, 近藤英治, 佐村修, 長谷川潤一, 桑田知之, 桂木真司, 小松篤史, 平田善康, 亀井良政, 石渡勇. 小型モバイル分娩監視装置での在宅モニタリングを併用したハイリスク妊娠管理の実現可能性調査. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
 - 4) 山口宗影, 相良昭仁, 牧野真太郎, 松永茂剛, 田中博明, 長谷川潤一, 池田智明, 近藤英治. 産科出血における分娩後動脈性子宮出血 (PRACE) の臨床像の解析. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.
 - 5) 長谷川潤一. 産科危機的出血による妊産婦死亡の増加傾向の要因分析. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.

6) 佐治正太, 長谷川潤一, 高江正道, 鈴木直. 正常発育であったが臍帯過捻転による Fetal Vascular Malperfusion の病理像を呈した 1 例. 第 46 回日本母体胎児医学会学術集会, 2024.

7) Shota Saji, Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya, Nao Suzuki. Ultrasound Doppler findings in fetal vascular malperfusion due to umbilical cord abnormalities. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2024.

② 国際学会

1) Junichi Hasegawa, Koji Hashii, Hiroaki Tanaka, Osamu Samura, Akihiko Sekizawa, Tomoaki Ikeda, Isamu Ishiwata. Recent maternal mortality in Japan and simulation program. FAOPS 2024, 2024.

2) Junichi Hasegawa, Shota Saji, Natsumi Furuya. Accuracy of antenatal ultrasound evaluation of the placental pathologies using SMI. 34th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, 2024.

3) Junichi Hasegawa. Group A Streptococcal Toxic Shock Syndrome. The first International Workshop on Maternal Mortality, 2024.

		和 文	英 文
著 書		6	
論 文	原著		8
	解説又は総説	2	1
	症例報告		1
	その他		1
学会発表	国内学会	6	1
	国際学会		3
	その他		